資料４

世田谷区地域防災計画

［令和7年修正］

案

地区防災計画編

世田谷区防災会議

1　地区防災計画とは

東日本大震災では、地震や津波によって自治体の行政機能が麻痺し、地域住民自身による自助、地域コミュニティにおける共助が重要な役割を果たしました。このような経験を踏まえ、今後、発生が危惧されている首都直下地震等の大規模広域災害に備え、自助・共助の役割が高まっています。

国は、こうした教訓をもとに平成25年の災害対策基本法の改正において、地域コミュニティの防災活動に関する「地区防災計画」制度を創設し、平成26年4月より施行しました。地区防災計画は、区市町村の一定の地区内の居住者等が共同して行う防災訓練、地区居住者等による防災活動に必要な物資及び資材の備蓄、災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援などの防災活動に関する計画としています。

2　区の取組み

区では、平成26年度から4箇年の計画である新実施計画に、「地域防災力の向上」を事業として位置づけ、地区防災計画の策定の支援を目指し、区内のまちづくりセンターの管轄区域を単位とする各地区で防災塾を実施することとしました。防災塾では、町会・自治会をはじめとする様々な地域活動団体の参加を得て、「発災後72時間は地区の力で乗り切る」をスローガンに掲げ、課題の発見、対応策の検討をした上で、防災塾での意見も踏まえて、平成28年度に27地区の地区防災計画として取りまとめ、令和2年度に修正を行いました。

今回の地区防災計画の修正に当たっては、令和3年度以降に実施した防災塾等における計画の検証結果等を反映し、全28地区（用賀・二子玉川地区を分割）の地区防災計画として取りまとめました。

掲載地区一覧

世田谷地域	
池尻・三宿	3
太子堂	33
若林・三軒茶屋	65
上町	101
経堂	131
下馬	161
上馬	193

北沢地域	
梅丘	223
代沢	261
新代田	295
北沢	331
松原	371
松沢	401

玉川地域	
奥沢	445
九品仏	493
等々力	525
上野毛	559
用賀	613
二子玉川	645
深沢	681

砧地域	
祖師谷	713
成城	747
船橋	789
喜多見	827
砧	861

烏山地域	
上北沢	897
上祖師谷	929
烏山	959

池尻・三宿地区防災計画

［令和7年修正］

池尻地区

【池尻・三宿地区防災計画作成団体】　（順不同）

池尻東親会	池尻西町会
池尻南睦会	池尻北自治会
池尻4丁目町会	池尻団地自治会
三宿自治会	三宿北町会
池尻・三宿地区民生・児童委員協議会	日本赤十字池尻分団
三宿小・多聞小・池尻小各 PTA	東京栄養食糧専門学校
世田谷消防団第一分団	世田谷消防署三宿出張所
三宿つくしんぼホーム	小規模多機能ホーム三宿
デイホーム三宿	池尻あんしんすこやかセンター
社会福祉協議会池尻地区事務局	

目 次

1 池尻・三宿地区の特性…… 池尻-1(-6-)
(1)自然特性…… 池尻-1(-6-)
(2)社会特性 …… 池尻-2(-7-)
(3)地域危険度…… 池尻-4(-9-)
(4)被害想定 …… 池尻-5(-10-)
(5)防災資源一覧 …… 池尻-8(-13-)
(6)防災資源マップ …… 池尻-9(-14-)
(7)区民アンケート …… 池尻-10(-15-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ …… 池尻-19(-24-)

3 池尻・三宿地区の課題と取り組み …… 池尻-25(-30-)
(1)自助の取り組みの強化…… 池尻-25(-30-)
(2)住民同士の繋がり・ネットワークづくり …… 池尻-25(-30-)
(3)地区の防災力の強化…… 池尻-25(-30-)
(4)避難所の安全性、運営体制 …… 池尻-26(-31-)
(5)地区特性の把握…… 池尻-26(-31-)

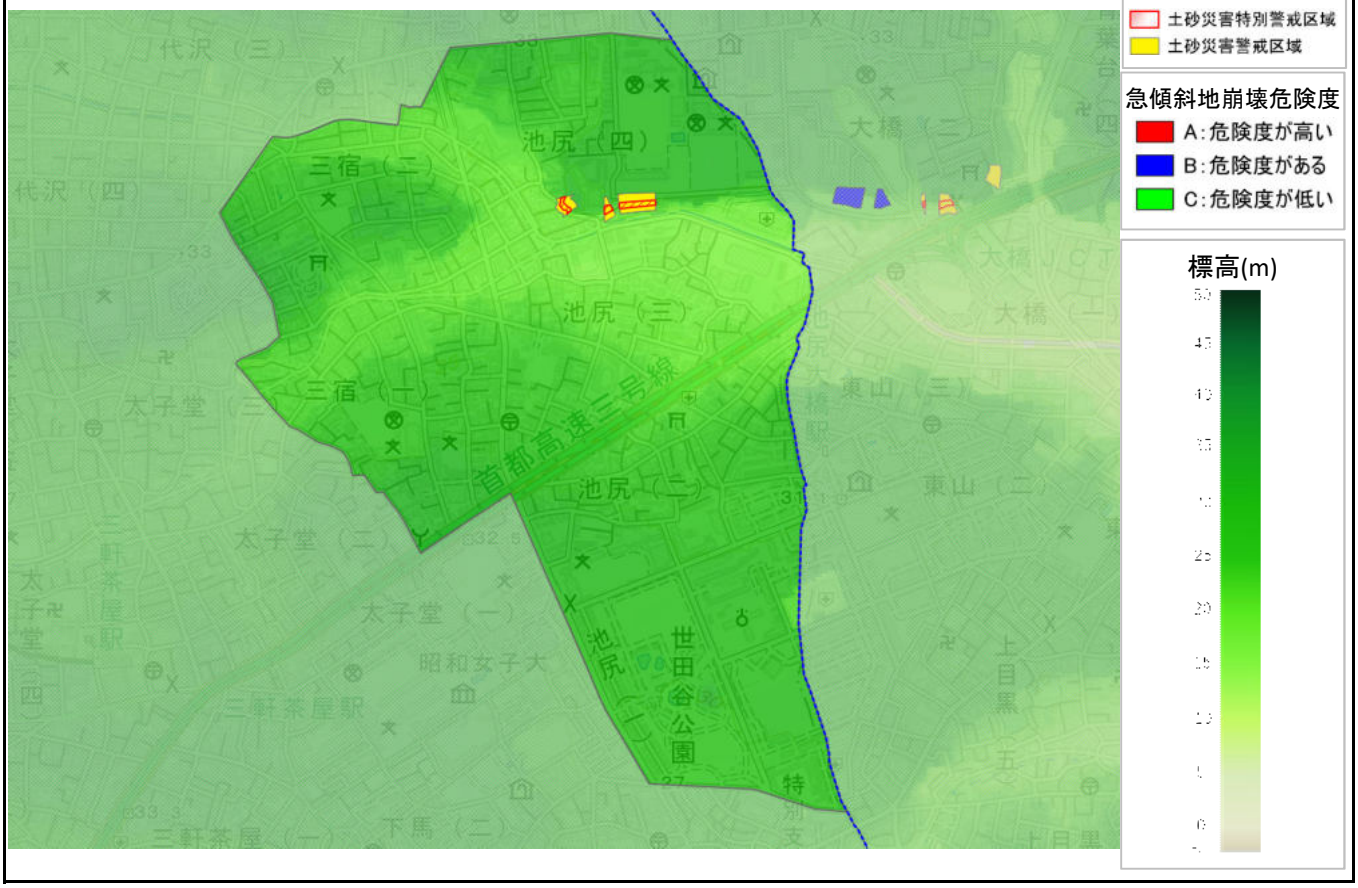
1. 池尻・三宿地区の特性

(1)自然特性

面積	1.19 Km²	最高標高	35.2 m	最低標高	15.9 m

位置

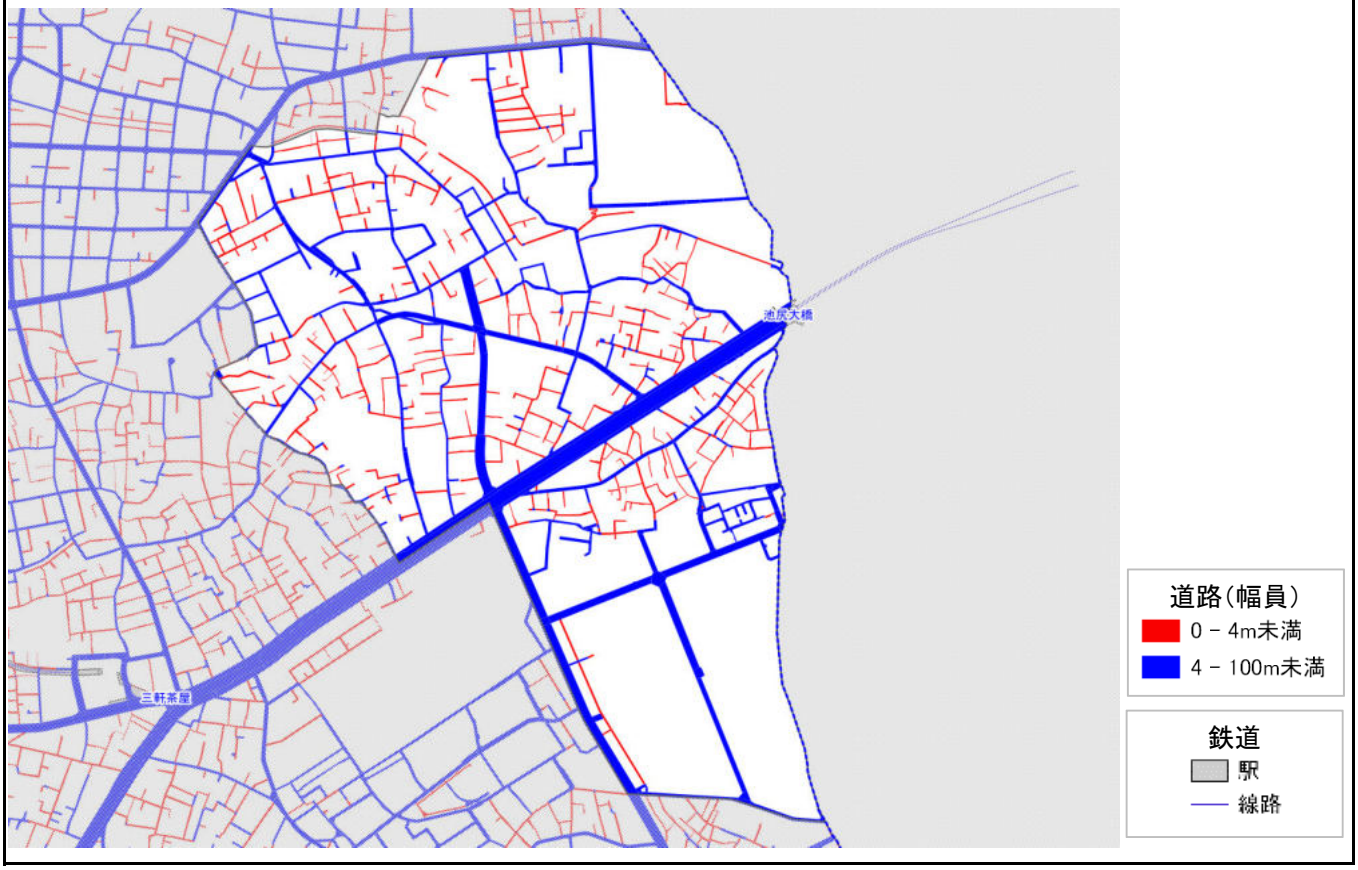
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

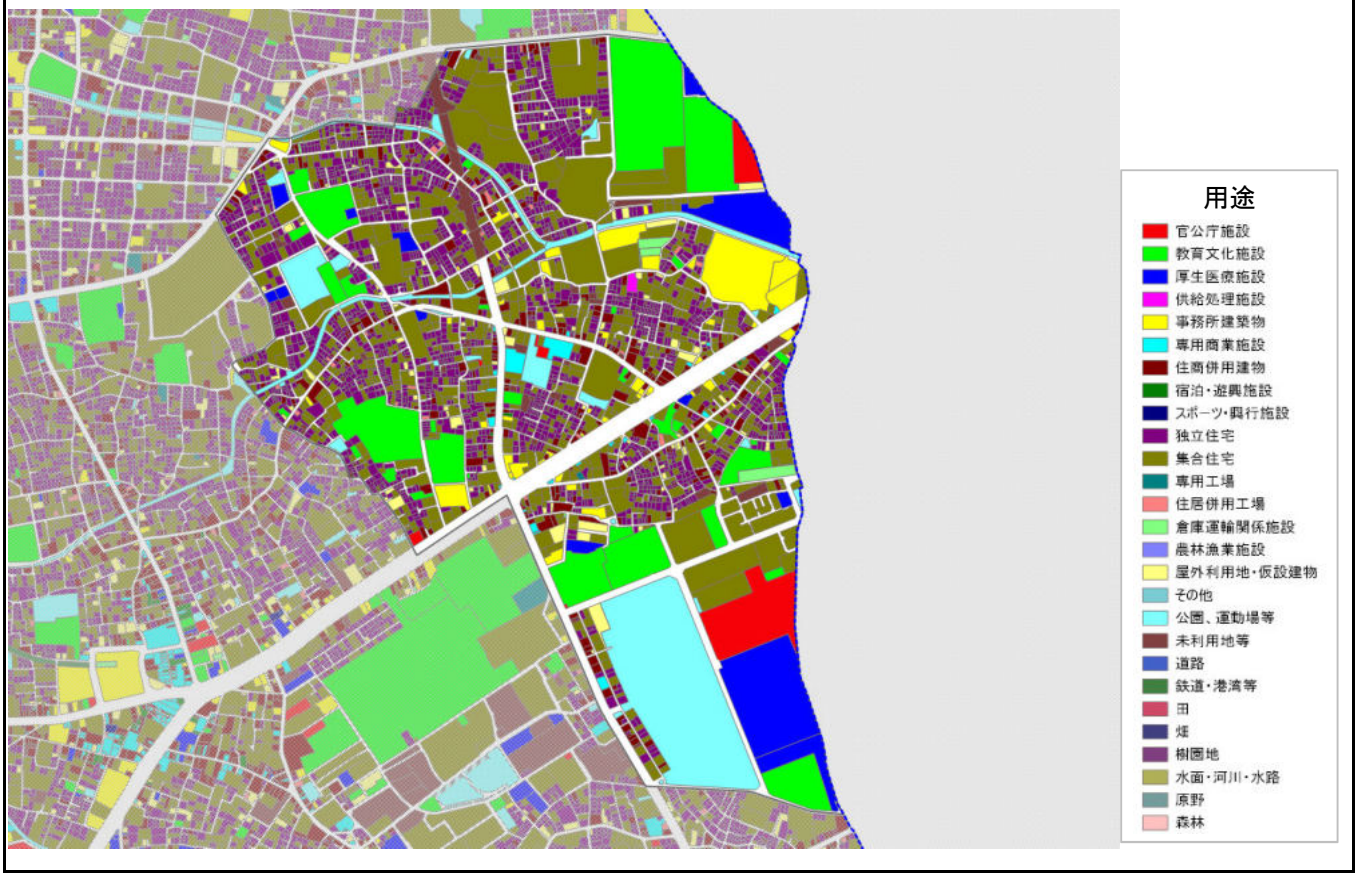
人口	24,269 人	細街路率		45.8 %	
世帯数	14,705 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		45.5 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.65 人	耐火率(建築面積ベース)		80.3 %	
若年層数(15才未満)	2,592 人	土地利用(宅地)		71.6 %	
若年層率(15才未満)	10.7 %	土地利用(宅地以外)		28.4 %	
高齢者数(65才以上)	4,145 人	鉄道駅	東急田園都市線池尻大橋駅		
高齢者率(65才以上)	17.1 %				
昼間の人口	27,266 人	産業	商業	92.3 %	
夜間の人口	24,946 人		工業	7.7 %	
昼夜間人口比	1.09 -		農業	0.0 %	
町会・自治会数	8 -				

道路・公共交通機関



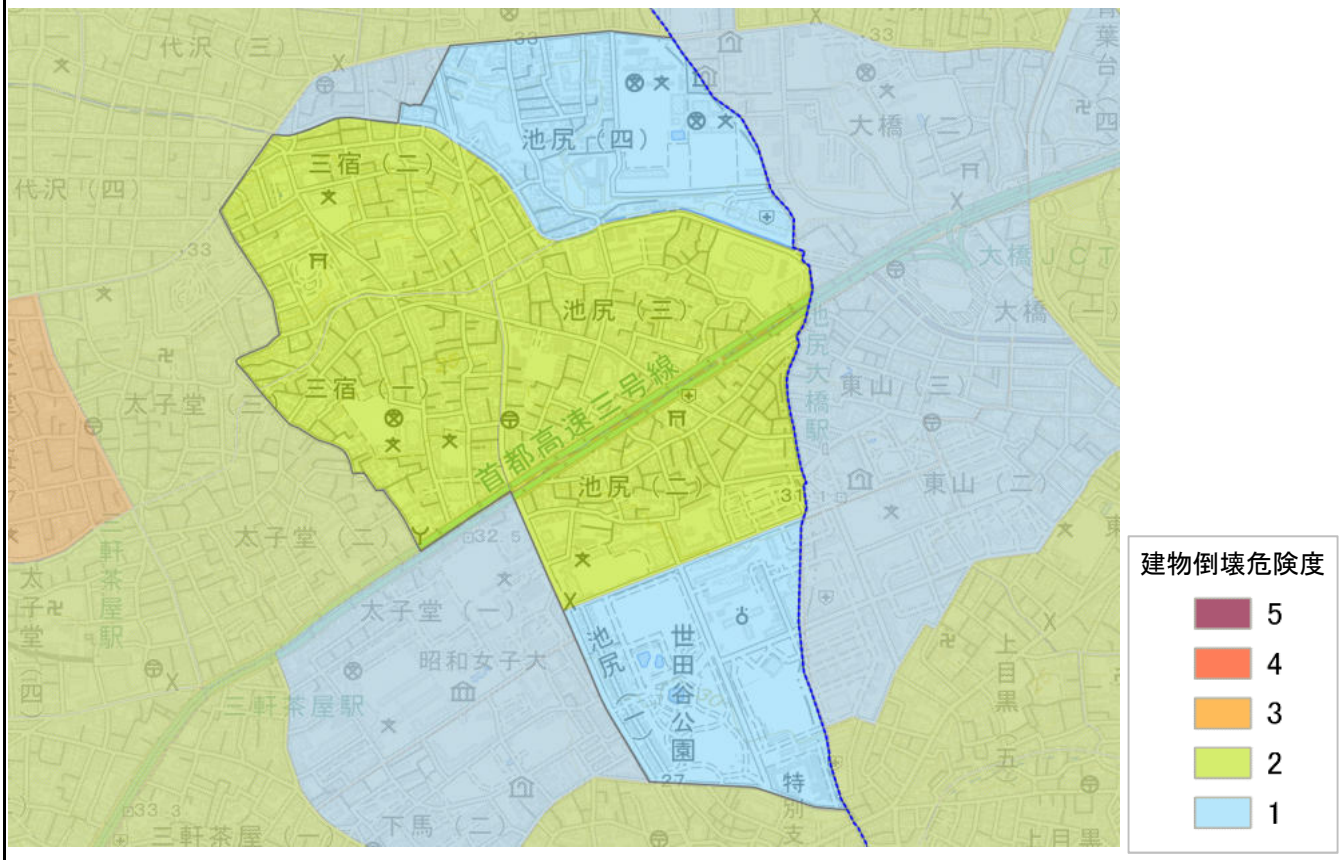
(2)社会特性

産業

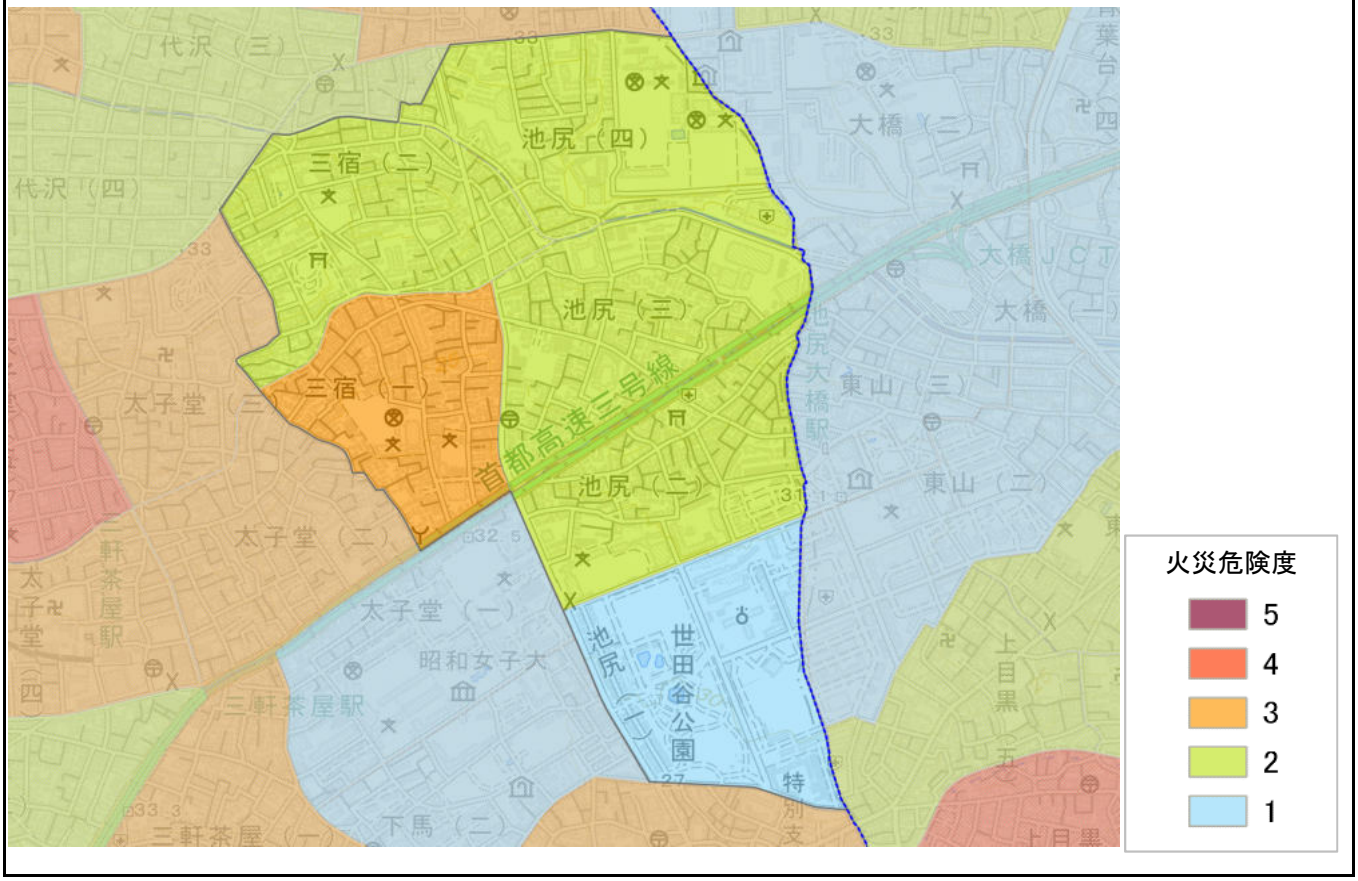

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



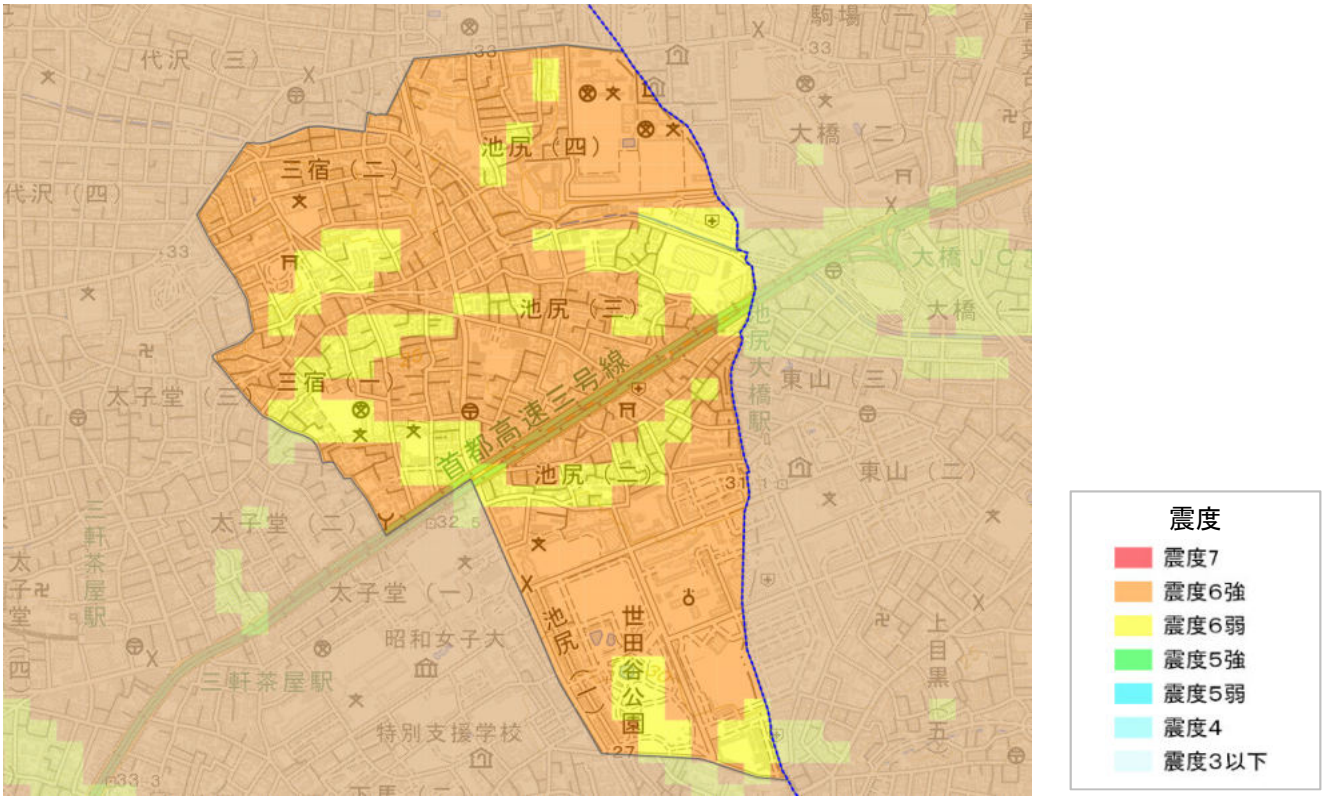
火災危険度



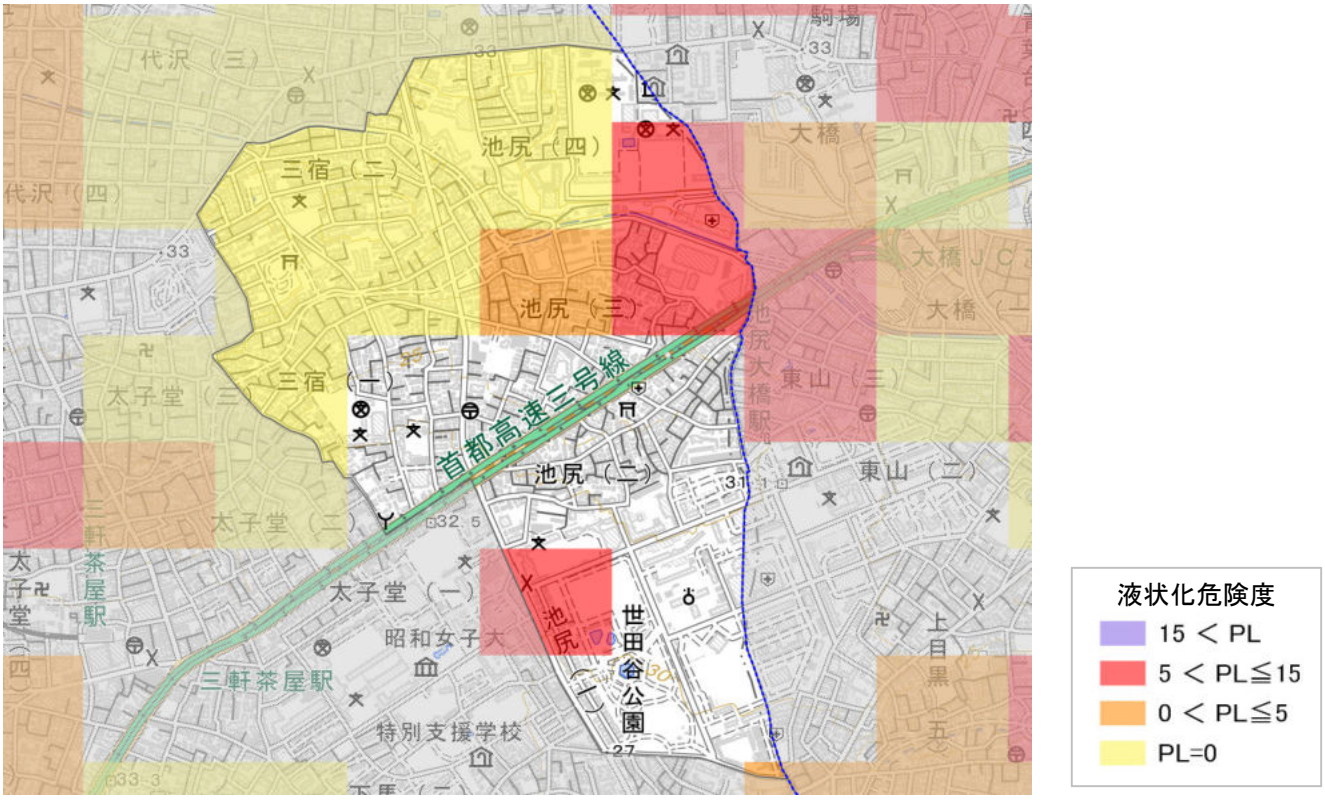
(4)被害想定

全壊棟数	78 棟	死者	13 人
半壊棟数	239 棟	負傷者	145 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	551 棟	うち重傷者	25 人

震度分布

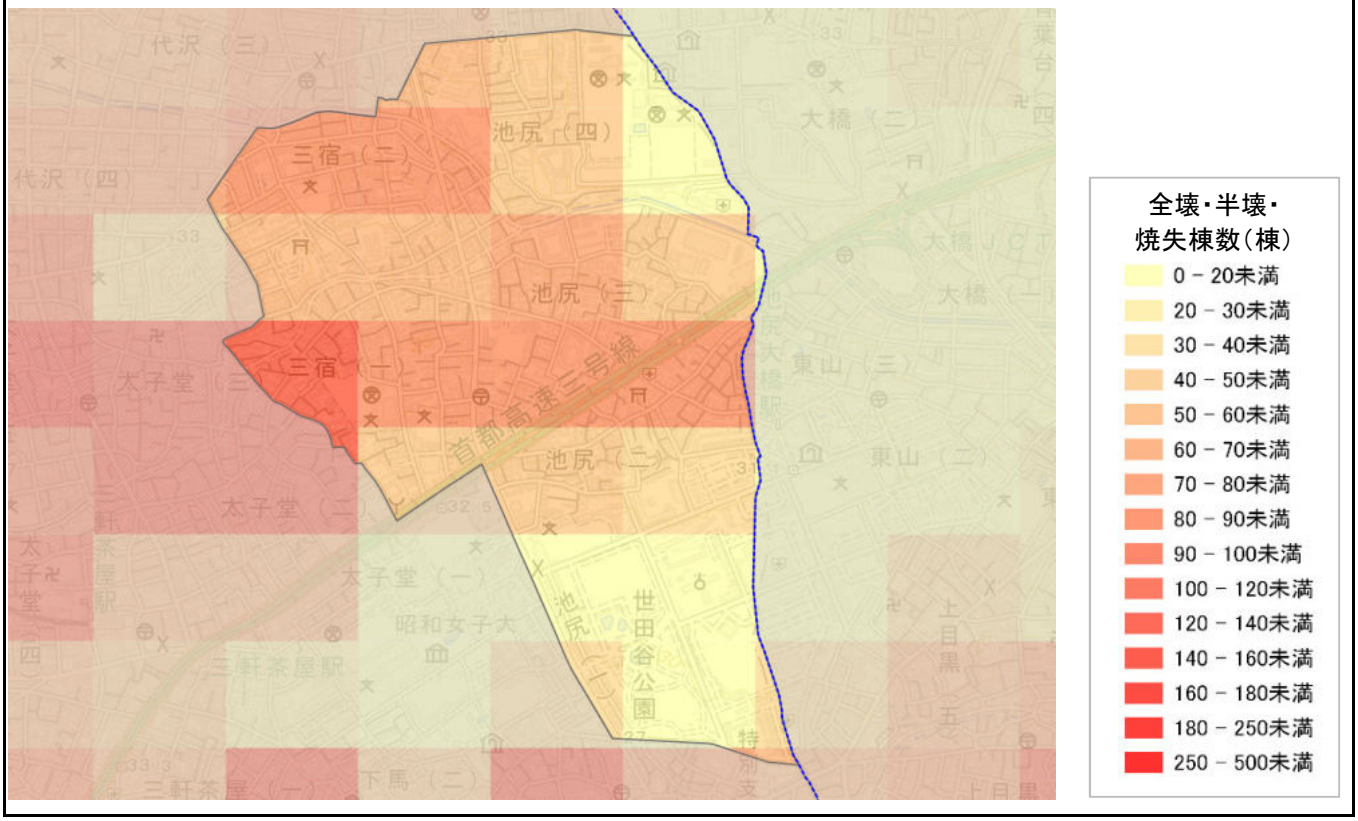


液状化分布



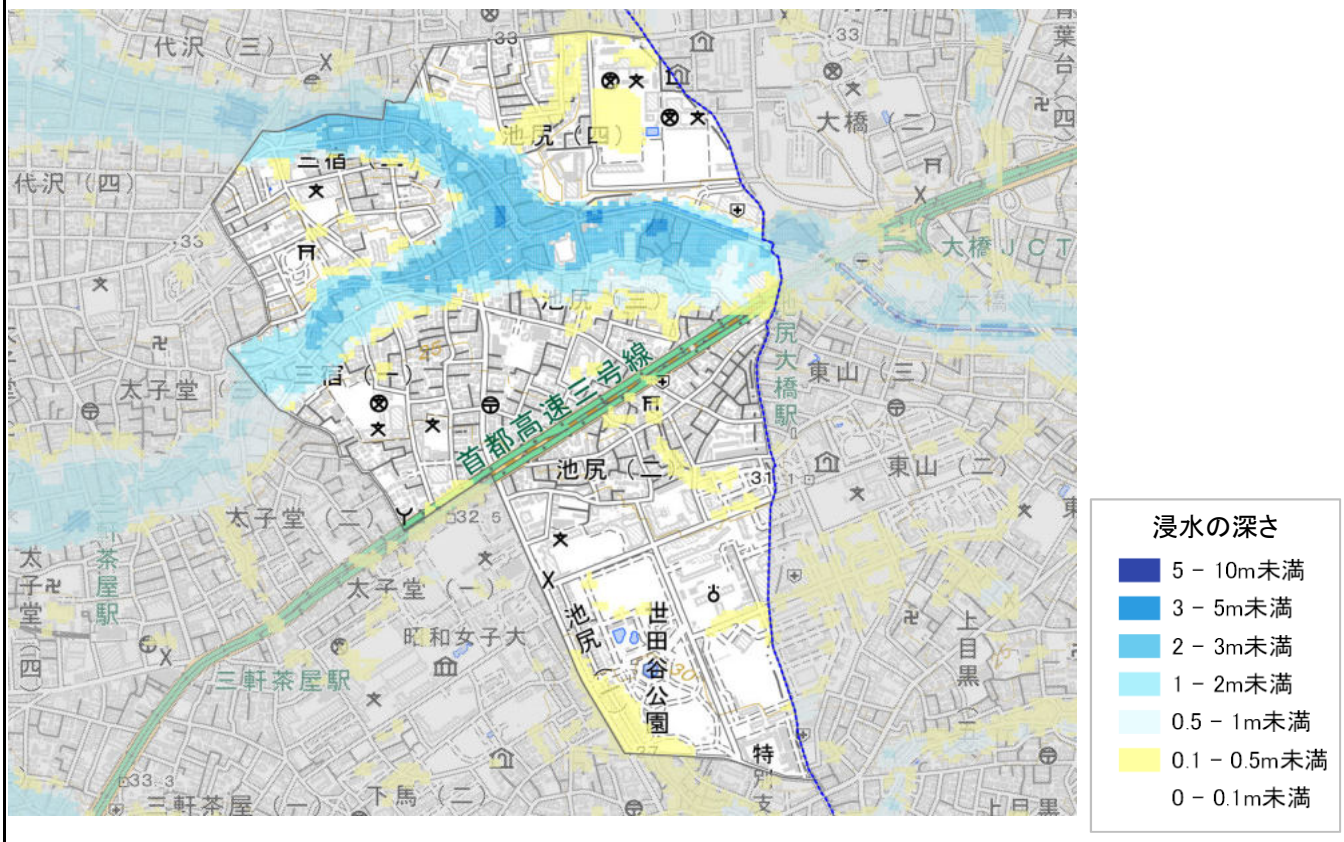
(4)被害想定

被害棟数分布

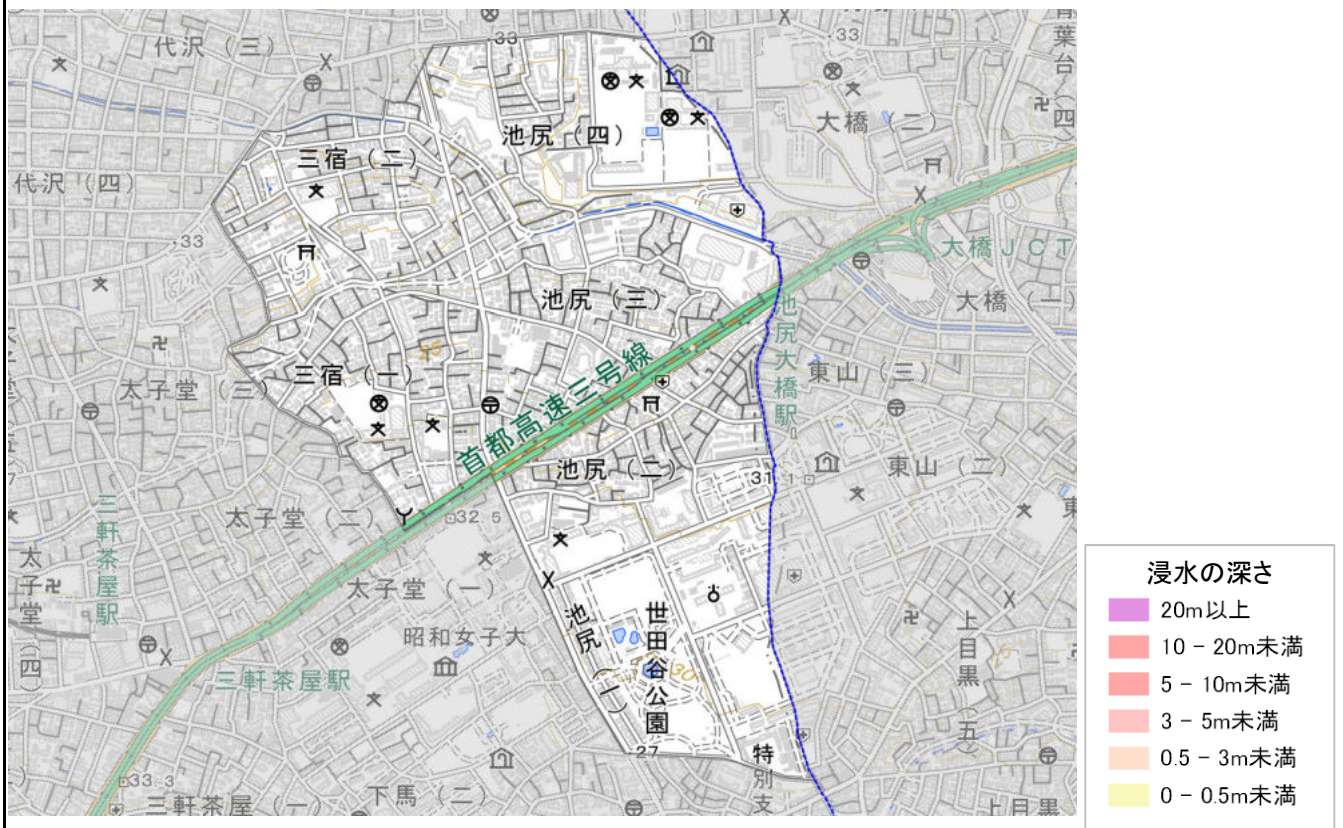


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



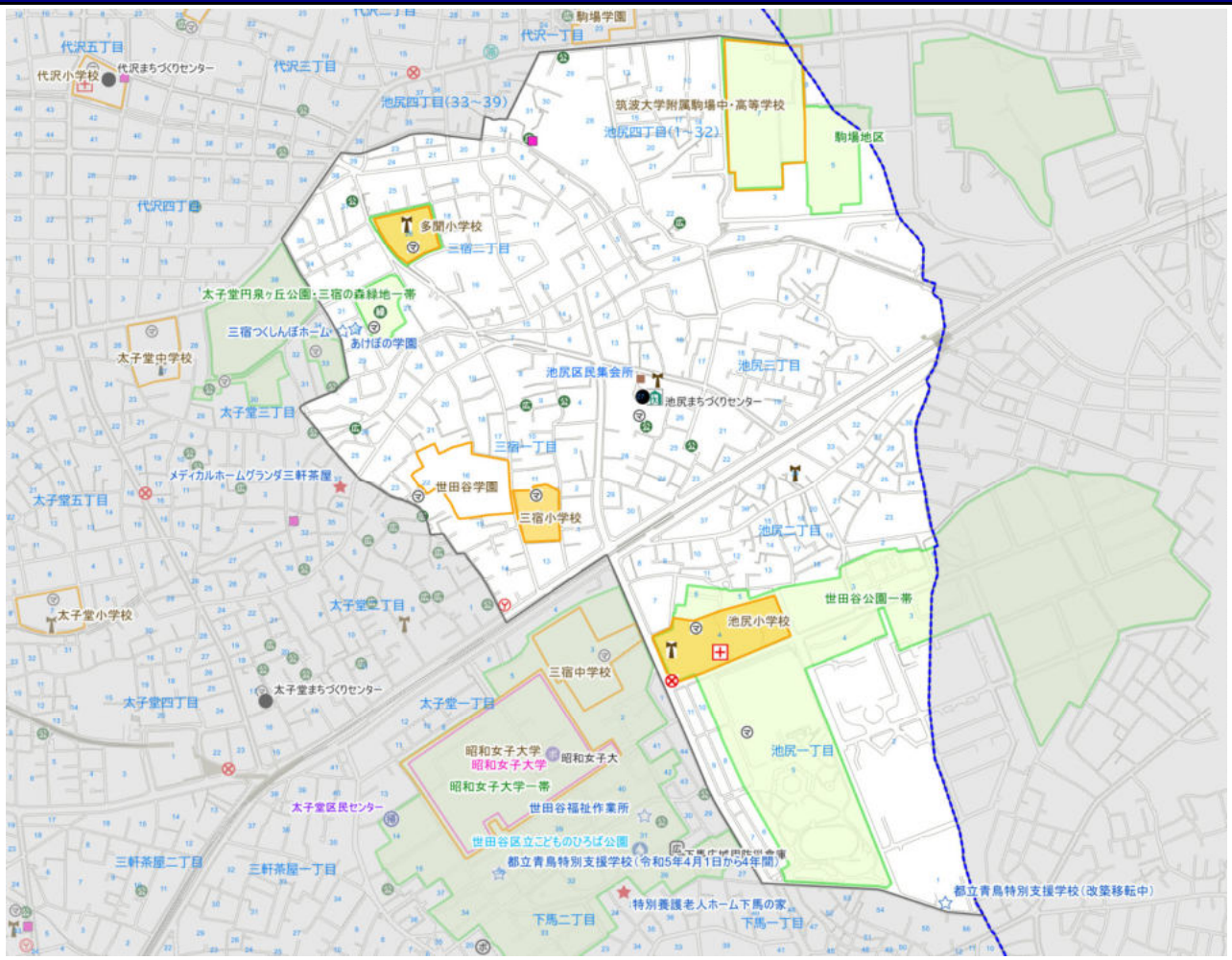
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	駒場地区　世田谷公園一帯　太子堂円泉ヶ丘公園・三宿の森緑地一帯				
一時集合所	マンションニュー池尻中庭　ヤマト運輸前広場　警察官宿舎内空地　三宿の森緑地　三宿小学校　三宿神社　三菱UFJ銀行池尻クラブ前広場　世田谷学園　世田谷公園　多聞小学校　淡島通り公園　池尻3丁目公園　池尻4丁目児童遊園　池尻稲荷神社　池尻住宅内広場　都営池尻団地内5ヶ所　目黒区立東山公園　目黒川緑道				
指定避難所	三宿小学校 多聞小学校 池尻小学校				
予備避難所	世田谷学園　筑波大学附属駒場高等学校　筑波大学附属駒場中学校				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)	都立青鳥特別支援学校(改築のため、令和5年4月1日から4年間の予定で下馬2-38-23へ移転)　三宿つくしんぼホーム　あけぼの学園				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	池尻区民集会所				
土砂災害時避難所	池尻区民集会所				
避難所救護所	池尻小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	7　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	1　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	池尻北広場				
警察署・交番	三宿交番				
消防署・出張所	三宿出張所				

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

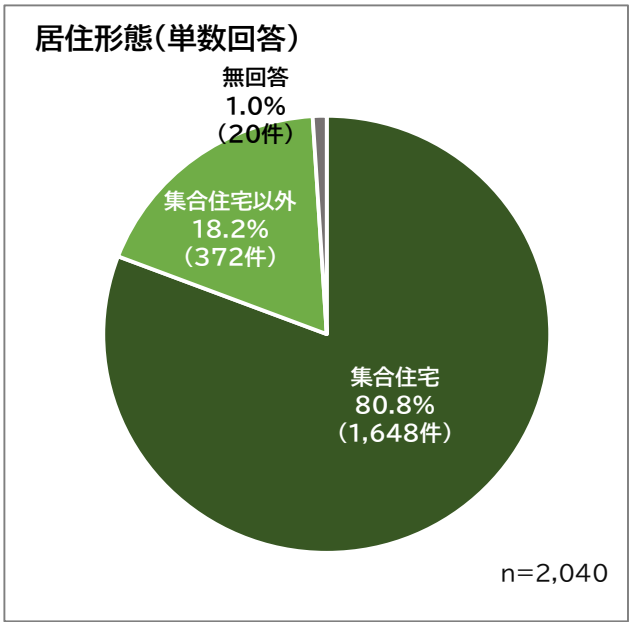
(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

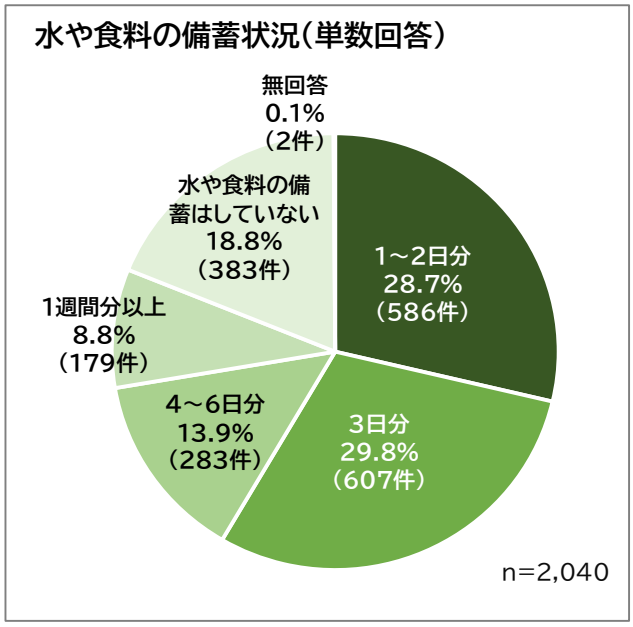
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

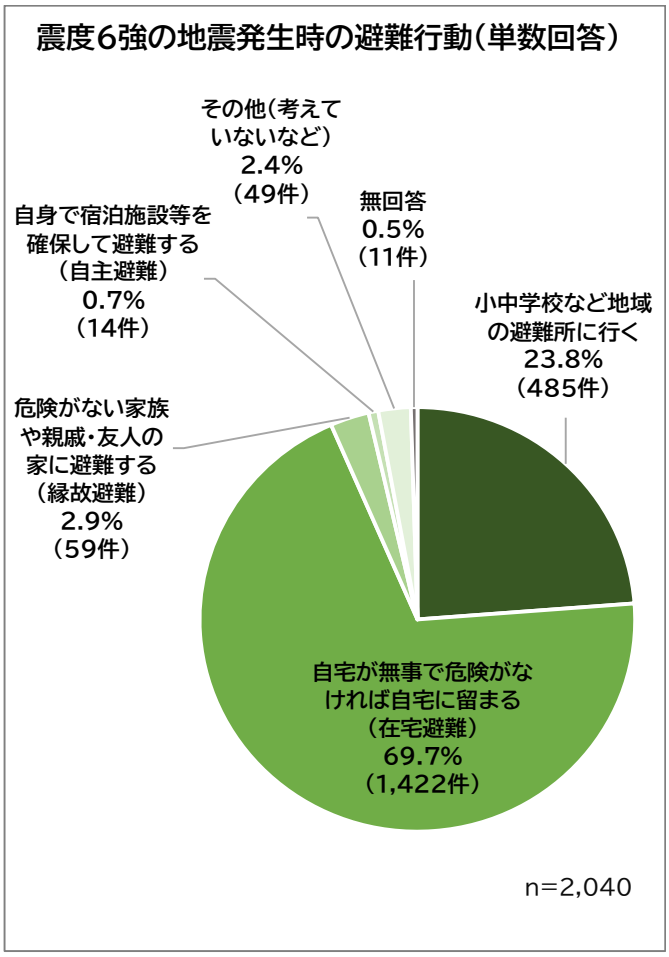


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

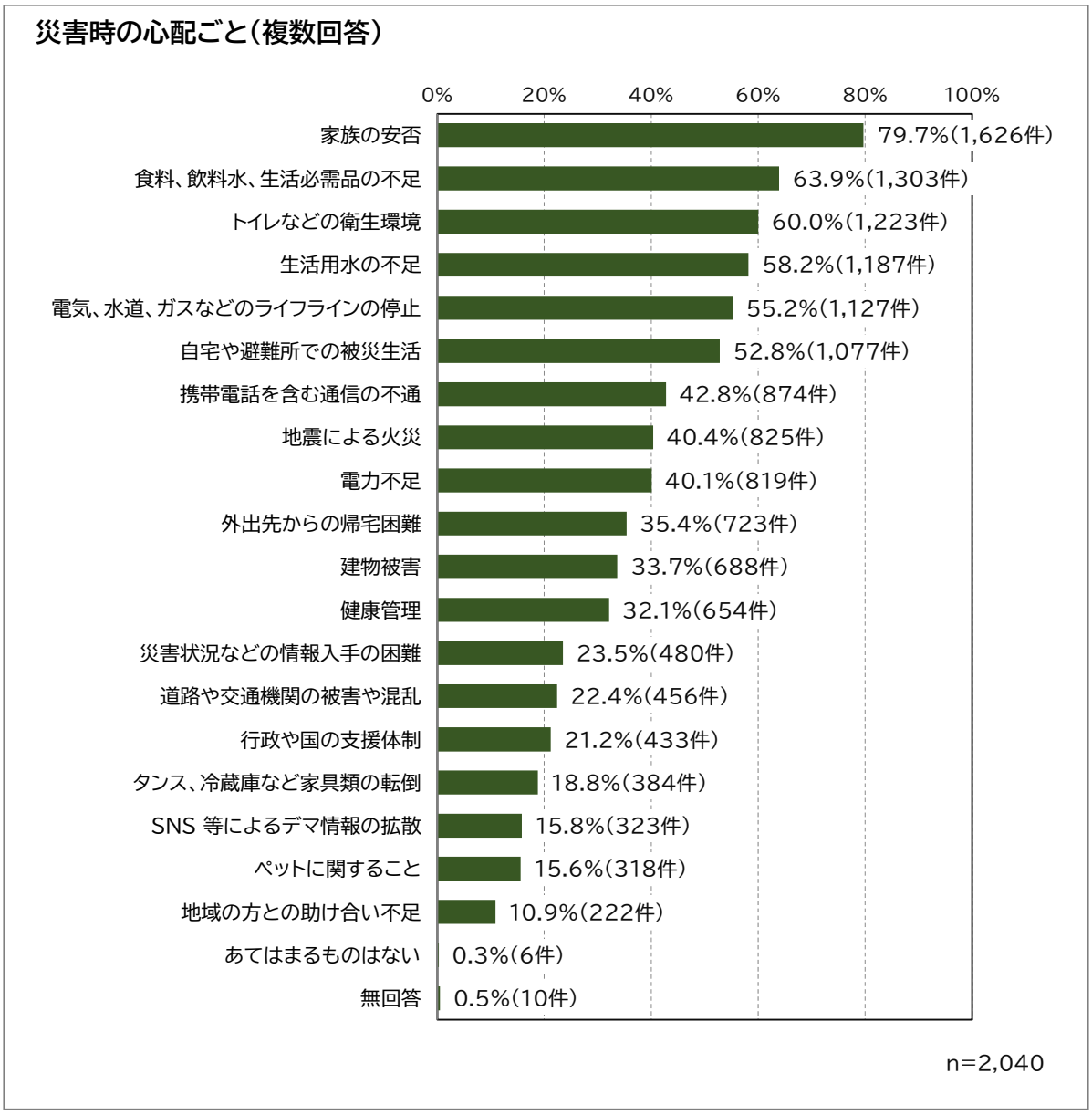


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

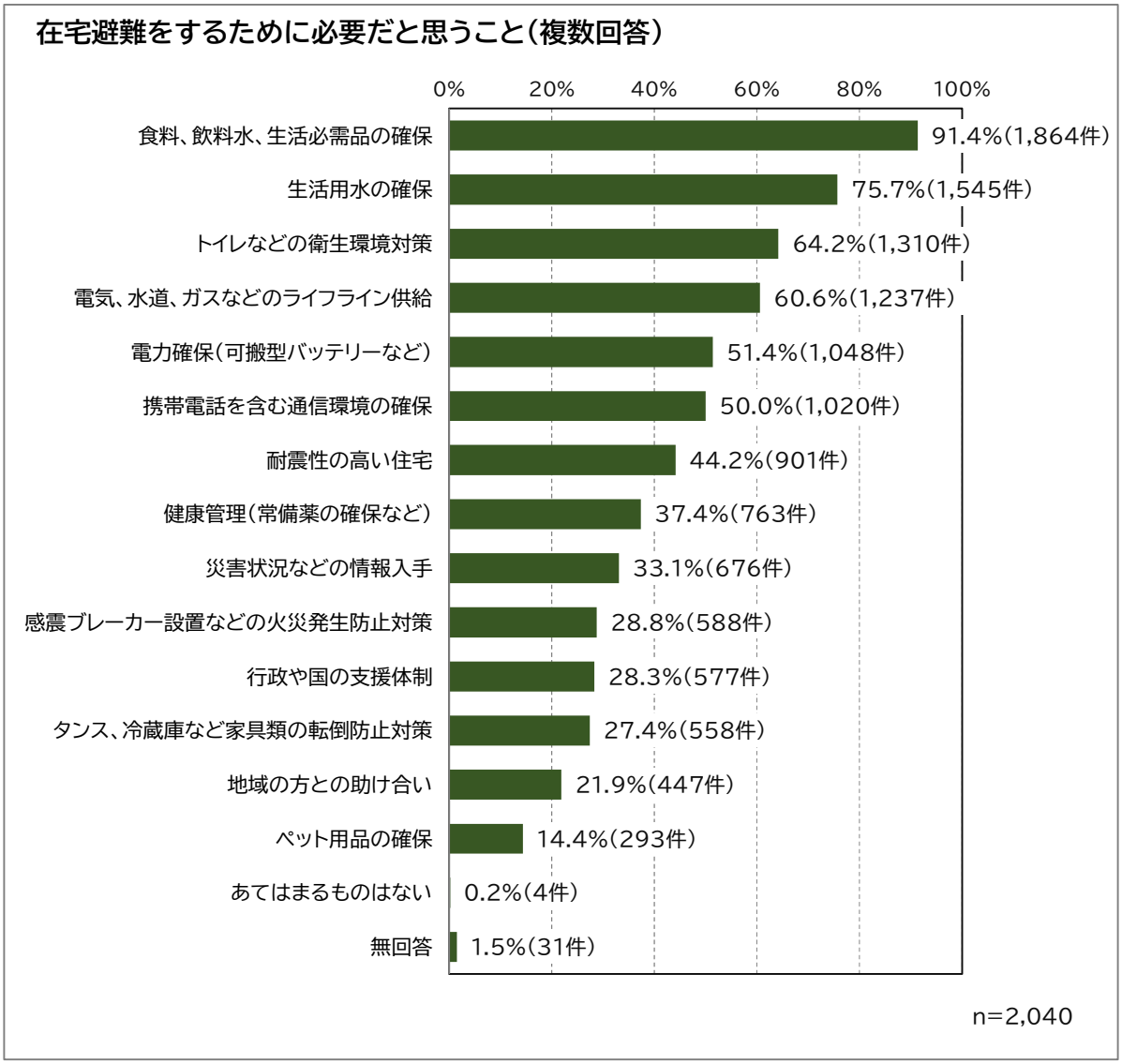


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

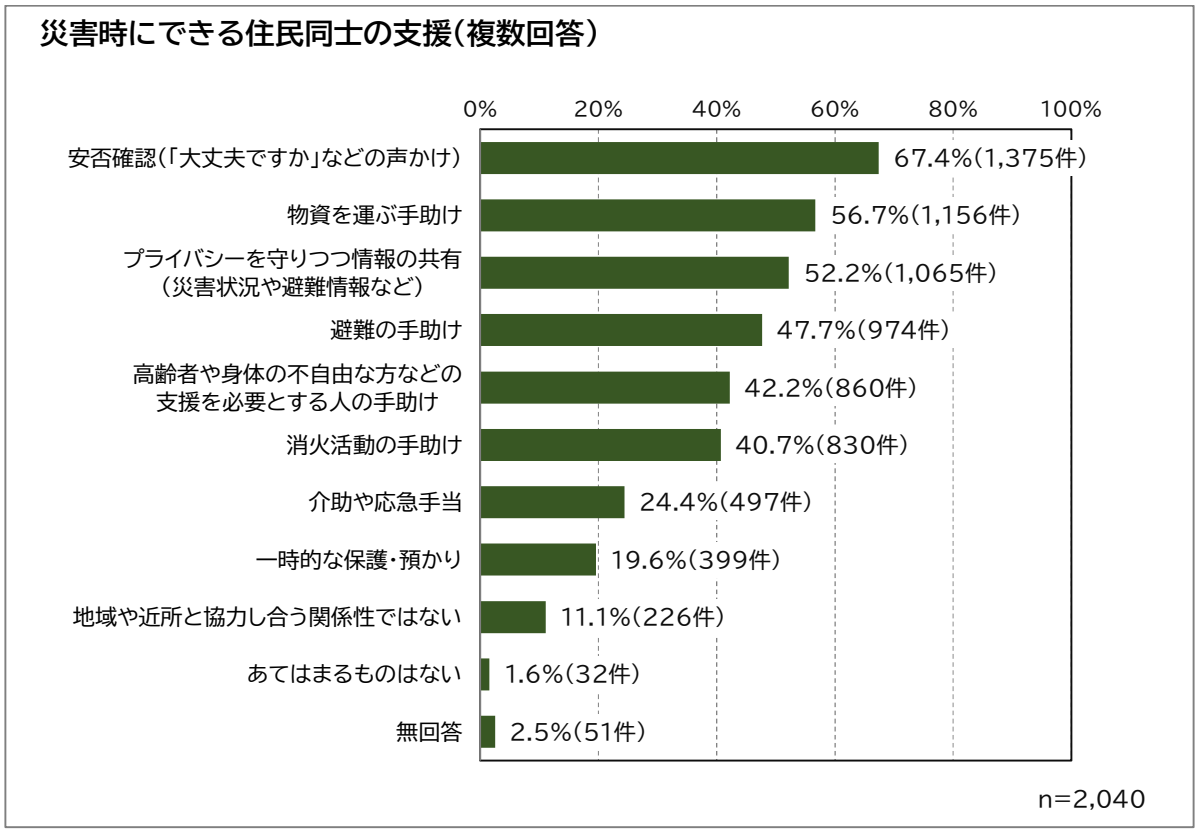


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

単純集計(5/5)

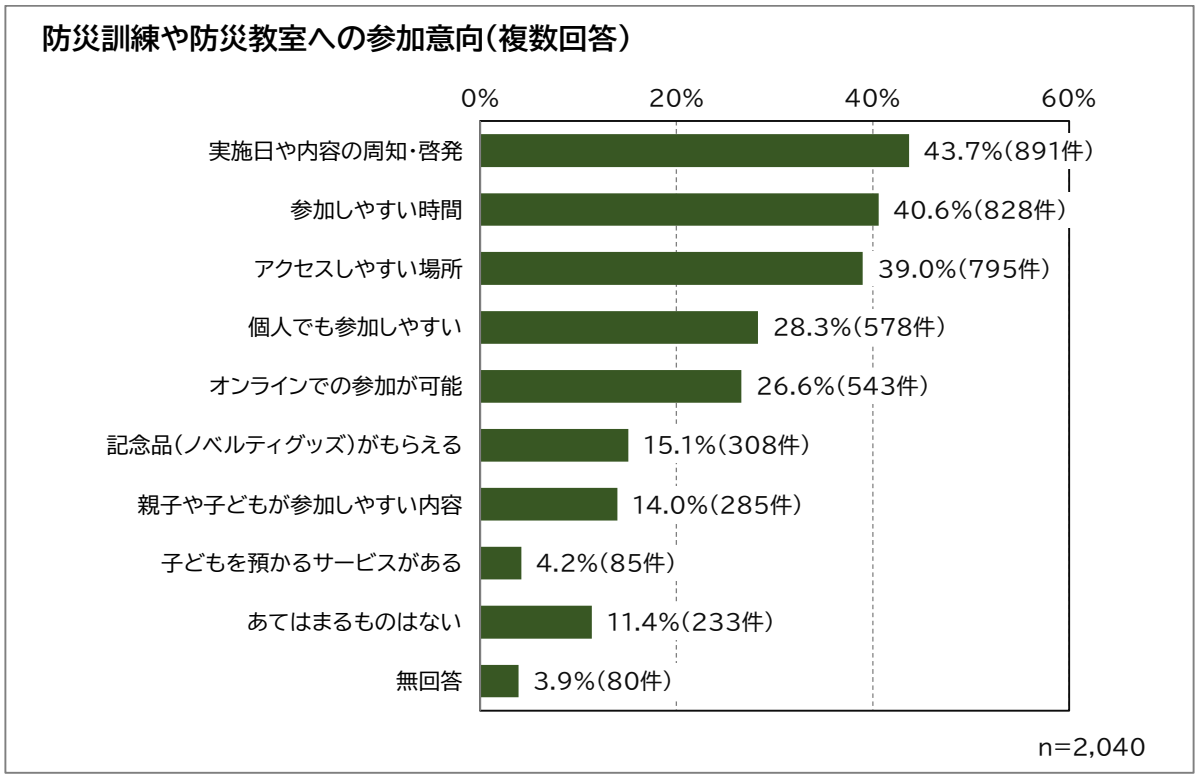
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

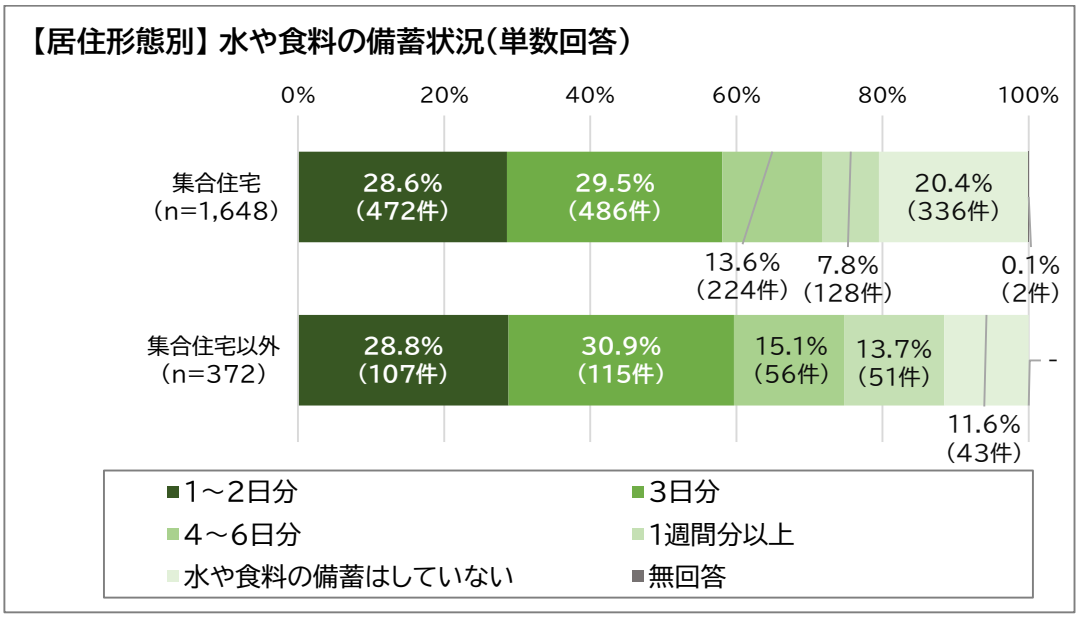


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

クロス集計(1/4)

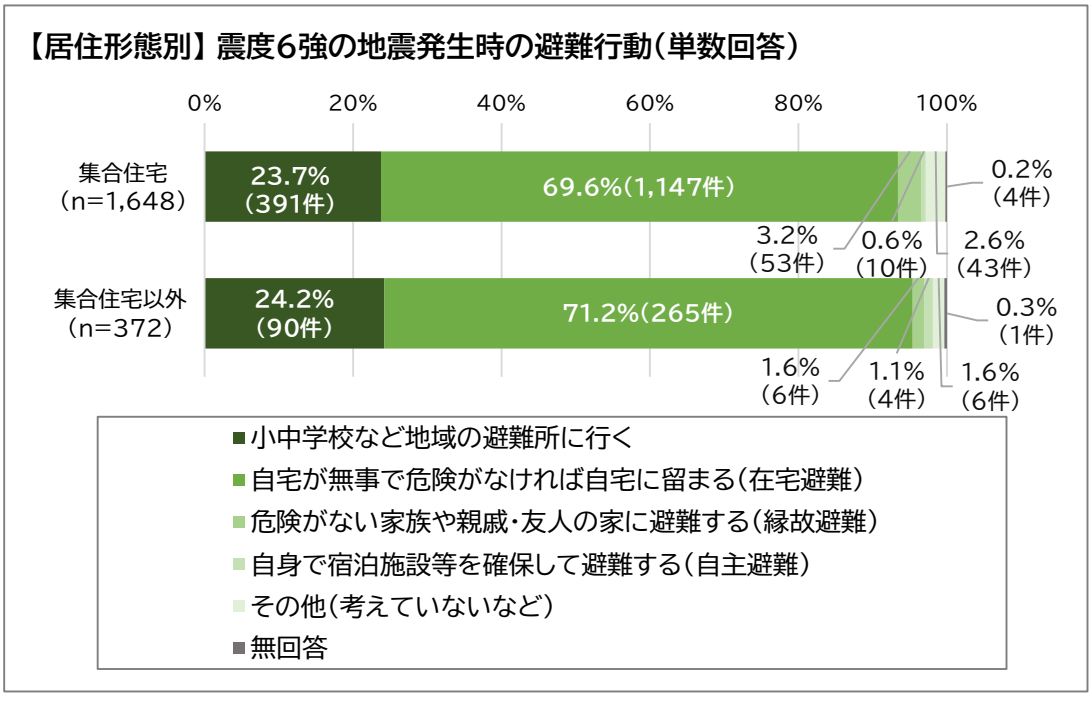
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

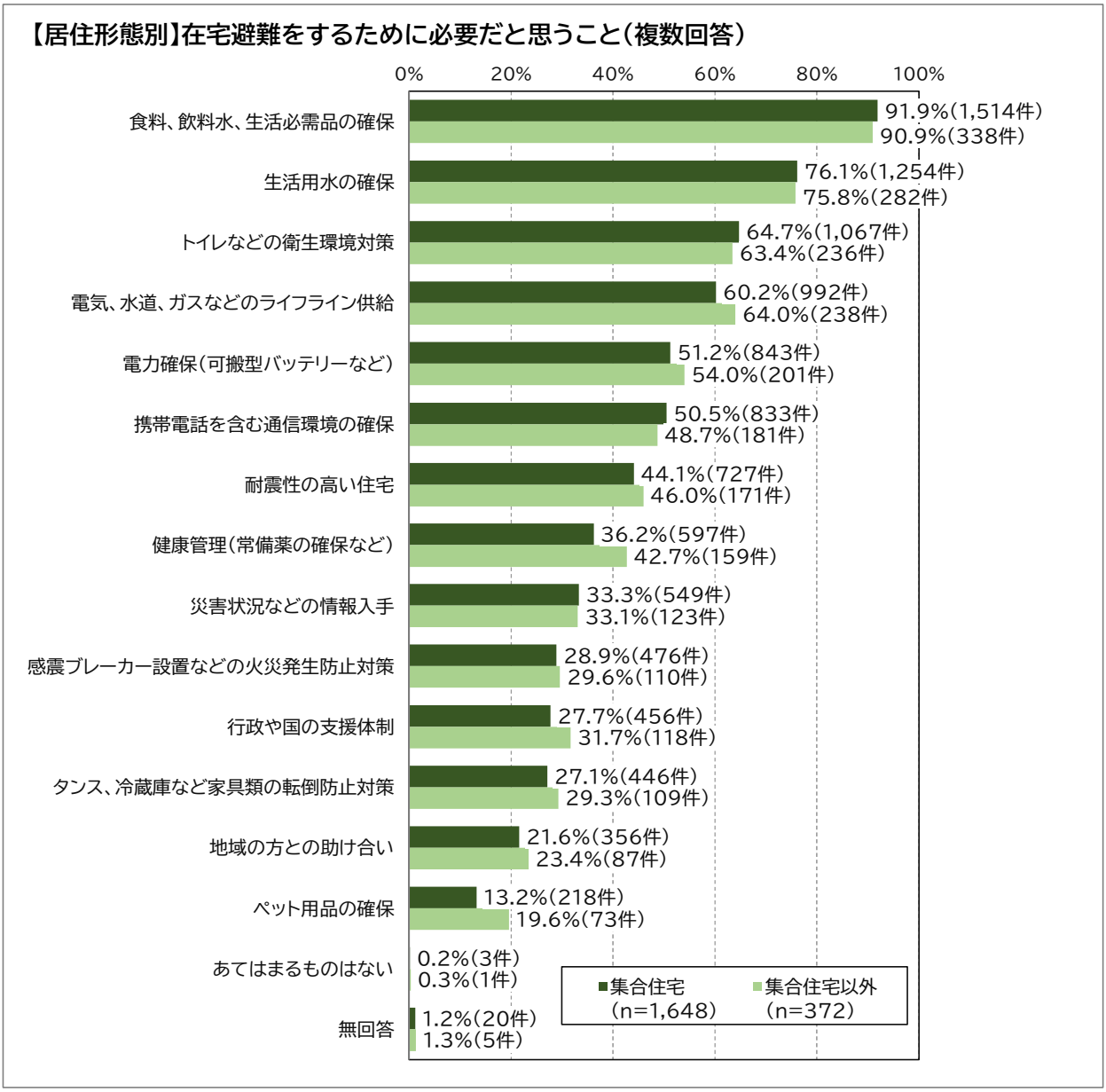
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

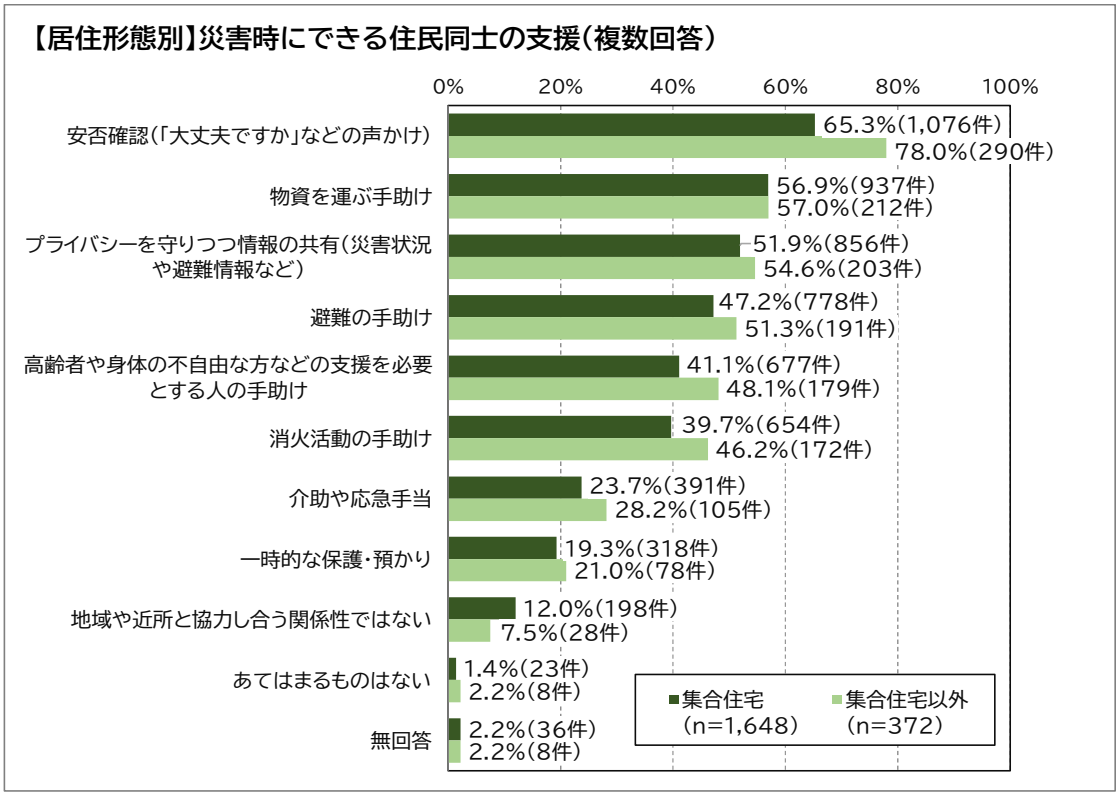


(7)区民アンケート(池尻・三宿地区)

クロス集計(4/4)

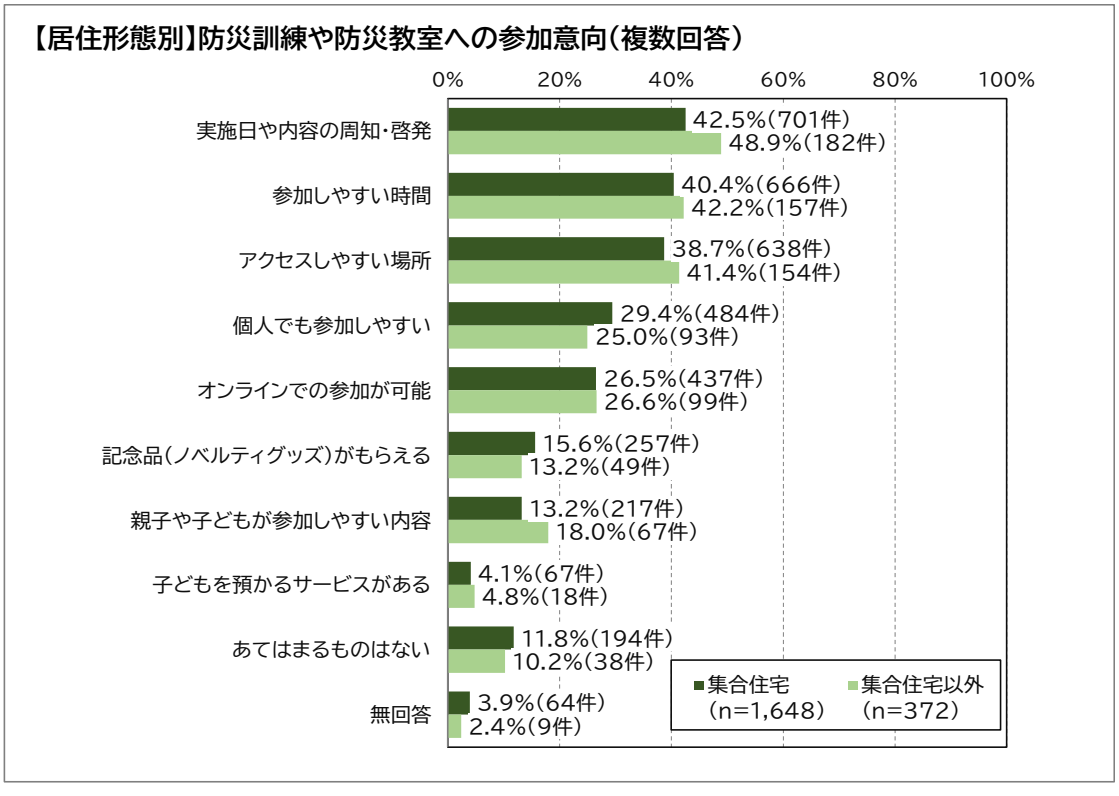
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備									
										スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数）年間	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
池尻東親会			○			○		○				1	町会倉庫				
池尻西町会			○			○		○		1	池尻3-24-7	1	防災倉庫（池尻3丁目公園内）	2	防災倉庫（池尻3丁目公園内）	カンパンスタンドパイプ	防災倉庫（池尻3丁目公園内）
池尻南睦会			○			○		○		2	公務員池尻住宅三宿交番裏	2	D型ポンプ収納庫				
池尻北自治会	8	○		名称無し。役員会の時。	2～3	○		○		1	池尻3-5-11（佐藤会長宅）	1	防災倉庫（池尻3丁目公園内）		町会役員宅		
池尻4丁目町会		○		町会役員会	2	○		○		5	池尻4-23-14 池尻4-12-5 池尻4-32-2 池尻4-27-33 池尻4-29-17	1	池尻4-24-10				
池尻団地自治会	12		○			○		○				1	団地集会所脇	1	各部屋	消火栓	各棟前
三宿自治会		○		三宿自治会防災担当会議	2	○		○		1	えのき公園倉庫	1	たぬき公園倉庫	1		ビニール水消防ホース	
三宿北町会	30	○				○		○		1	三宿神社防災倉庫	1	北沢川緑道、三宿2-8				

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災訓練等の実施				防災訓練等の実施				防災マップ										
			防災訓練		救命救急講習会		その他						掲載情報						
	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓
池尻東親会		○							○				○	○	○	○			○
池尻西町会	○		1	池尻3丁目公園	1	池尻まちづくりセンター			○				○	○	○	○			○
池尻南睦会	○		1	池尻小学校 旧池尻児童館前					○				○	○	○	○			○
池尻北自治会	○		1	池尻まちづくりセンター 池尻3丁目公園		池尻まちづくりセンター	スタンドパイプ	池尻3-5-11周辺	○				○			○			○
池尻4丁目町会	○		1	池尻4-27-33シーアイマンション	1	池尻4-27-33シーアイマンション	備蓄水配布(年1回)	池尻4-29-17 池尻4-27-33 池尻4-8-1 池尻4-10-1	○				○	○	○	○			○
池尻団地自治会	○						不定期に開催	団地内	○										○
三宿自治会	○		2	池尻3丁目公園、三宿小	1	池尻まちづくりセンター	D型ポンプ訓練	たぬき公園	○				○	○	○	○			○
三宿北町会	○		1	区立多聞小学校	1	三宿地区会館			○										○

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災マップ	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定		
	掲載情報	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
	その他												
池尻東親会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	2			○			○					○
池尻西町会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか			2		○			池尻北町会、三宿自治会				○
池尻南睦会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	2			○			○					○
池尻北自治会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	2	○		○			○	池尻西町会、三宿自治会				○
池尻4丁目町会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	1			○			○				○	
池尻団地自治会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	3		1				○			○		
三宿自治会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	1			○	○			池尻西町会、池尻北自治会、三宿小学校、世田谷学園			○	
三宿北町会	医療救護所、AED、公衆電話、ほか	2		2				○					○

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備				
	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立
池尻東親会				○		○					○			○	1		1
池尻西町会	○		町会役員、民生委員による				町会役員による				○			○			1
池尻南睦会				○						○				○	1		1
池尻北自治会				○		○				○				○		1	2
池尻4丁目町会		○				○					○			○	2		
池尻団地自治会				○		○					○			○	2		3
三宿自治会	○									○				○	1		
三宿北町会				○	○	○	役員名簿				○			○	2		

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	救出救助に係る資機材の配備													食糧等の備蓄					
	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水
池尻東親会		1	10	1	1			1		1			町会倉庫		○			50	50
池尻西町会		1	4		1	1									○		72	17	
池尻南睦会	6		多数	3		2	2		2	1			D型ポンプ収納庫		○	おにぎり120	50		
池尻北自治会	1	1	10		1	5			1	1		ヘルメットは役員に配付済	町会倉庫		○		80	50	
池尻4丁目町会		1	12			5									○	300	100	200	2400
池尻団地自治会	3	1	5		1	5	4	2		1	1				○		30		
三宿自治会	1	2	10	1	1	2						テント、タンカー台車x2、防火衣一式、車椅子	たぬき公園		○		400		
三宿北町会	2		20	2	1	10	1				1	懐中電灯、カセットコンロ、ボンベ、ラジオ等	防災倉庫		○				

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	食糧等の備蓄												その他の防災活動
	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用その他食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
池尻東親会	50	150		100		10					町会倉庫		
池尻西町会						3							
池尻南睦会					50	2	2	1			池尻地区防災施設（池尻2-3-43）		
池尻北自治会	60				40	1					町会倉庫	防災訓練の時、訓練参加者に配布。	
池尻4丁目町会					2	1	3				池尻4-29-17、4-8-1、4-27-33、4-10-1		
池尻団地自治会					3		1		5		自治会倉庫		
三宿自治会		100			1	2	1		2		たぬき公園、えのき公園倉庫	三宿自治会管轄住民	
三宿北町会											倉庫	三宿在住者	

3. 池尻・三宿地区の課題と取り組み

課題1　自助の取り組みの強化

■意見

・自宅の耐震化や家具の転倒防止対策がされていない住宅がある。
・防災グッズや非常食などの備蓄ができていない家庭がある。
・災害時の連絡手段、集合する場所などが話し合われていない家庭がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・防災訓練や避難所運営訓練などで防災への対策を呼びかける。
・防災グッズの展示や非常食の試食会などを行い、備蓄を呼びかける。
・防災をテーマにした講演会などを通じて、防災への意識を高める。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・防災訓練などを通して、保存水や非常食、防災グッズの備蓄の必要性を呼びかける。
・住宅の耐震補強、家具の転倒防止について呼びかける。
・火災や地震の際の身の守り方、避難方法などを体験できる防災訓練を実施する。

課題2　住民同士の繋がり・ネットワークづくり

■意見

・集合住宅や町会・自治会未加入者との関係が希薄である。
・若い世代との繋がりが少ない。
・事業所、学校、店舗等との協力関係を築く必要がある。
・町会・自治会や地区を越えた繋がりを作り、連携、情報共有する必要がある。
・日頃から、若い世代とつながることができる場が必要である。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・防災訓練のほか、様々な交流の場を通して、顔と顔が見える関係を広げていく。
・防災訓練やイベント情報などを、区報、SNSなど様々な媒体を使って広報する。
・町会・自治会未加入者や区立小中学校に通う児童・生徒以外にも参加しやすい活動を検討していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・町会、自治会への加入を勧める。
・町会・自治会、学校、PTA、事業所など、各団体が連携する取り組みを行うことで、ネットワークを強化する。

課題3　地区の防災力の強化

■意見

・災害発生時、自分たちでできる防災の取り組みを増やしていく必要がある。
・救命講習会などを受講する人を増やし、人命救助の方法を知る人が増えるとよい。
・火災が発生した際に初期消火できるよう、街路消火器やスタンドパイプの場所を知り、操作方法が分かる人が増えていくとよい。

・D型ポンプやスタンドパイプ、救出救助の道具などがあっても使える人が少ない。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・より多くの人に救命講習会を受講してもらうように呼び掛ける。
・清掃活動やまち歩きなどを通して、街路消火器などの消防設備や防災倉庫の場所などを知ってもらう。
・町会・自治会や集合住宅、事業所や学校で実施する防災訓練をサポートする。
・避難所、給水・消火設備などの防災情報が掲載された「池尻・三宿地区防災マップ」を広く配布する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・町会・自治会、マンション管理組合などで実施する防災訓練を継続的に実施する。

課題4　避難所の安全性、運営体制
■意見
・避難所のルールが確立されていなく不安
・避難所のトイレは汚れると言われているが、安心してトイレが使えるか心配。また、マンホールトイレの設置場所が狭い、暗いなどの状況があり機能するのか疑問。
・今いる委員が避難所を運営していけるか不安

■地区としての今後の取り組みの方向性
・避難所運営委員を確保していく。
・避難所運営訓練の参加者を増やす工夫をする。
・実際、避難所でボランティア活動された人の話を聞ける機会を用意する。
・ファーストアクションカードに沿った避難所開設の確認、避難所運営マニュアルの整備を進める。
・トイレの運営、水、電気の確保など、避難所運営会議で検討を進める。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・各避難所運営委員を中心に、定期的に避難所運営会議を開催し検討を進めるとともに、避難所運営訓練を実施していく。

課題5　地区特性の把握
■意見
・池尻・三宿地区は、国道246号線により南北に分断されている。災害時の避難について、把握する必要がある。
・災害時、渋谷方面から国道246号線を歩く帰宅困難者が想定される。
・土砂災害特別警戒区域のほか、危険が想定される場所を把握する必要がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・災害時を想定した視点でまちを知る訓練やまち歩き等のイベントを実施する。
・防災情報が掲載された「池尻・三宿地区防災マップ」を配布し、地区特性を知ってもらう。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・防災訓練等を通して、危険個所や避難方法などを周知していく。

太子堂地区防災計画

［令和7年修正］

太子堂地区

【太子堂地区防災計画作成団体】　（順不同）

遊びとまち研究会	あんしんすこやかセンター
三軒茶屋銀座商店街振興組合	昭和女子大学
青少年太子堂地区委員会	せたがや災害ボランティアセンター
世田谷消防団第2分団	世田谷ボランティア協会
太子堂一丁目町会	太子堂五丁目町会
太子堂三軒茶屋町会	太子堂下の谷町会
太子堂小学校	太子堂地区ごみ減量リサイクル推進委員会
太子堂地区社会福祉協議会	太子堂地区身近なまちづくり推進協議会
太子堂地区連合町会	太子堂中学校
太子堂2丁目大塚町会	太子堂2、3丁目地区まちづくり協議会
太子堂保育園	太子堂本町会
太子堂ミニコミ紙編集委員会	太子堂4丁目地区まちづくり協議会
太子堂4丁目西山町会	太子堂ワークショップ
中里小学校	なごみ保育園
日赤奉仕団太子堂分団	三宿小学校
民生委員・児童委員協議会	わんぱくクラブ三軒茶屋

目 次

1 太子堂地区の特性…… 太子堂-1(-36-)
(1)自然特性…… 太子堂-1(-36-)
(2)社会特性 ……太子堂-2(-37-)
(3)地域危険度……太子堂-4(-39-)
(4)被害想定 ……太子堂-5(-40-)
(5)防災資源一覧 ……太子堂-8(-43-)
(6)防災資源マップ ……太子堂-9(-44-)
(7)区民アンケート …… 太子堂-10(-45-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～…… 太子堂-19(-54-)

3 太子堂地区の課題と今後の取り組み…… 太子堂-26(-61-)
(1)火災への備え…… 太子堂-26(-61-)
(2)被害状況・安否の確認 …… 太子堂-26(-61-)
(3)避難行動要支援者対策 ……太子堂-27(-62-)
(4)負傷者等の救出・救護 ……太子堂-27(-62-)
(5)物資(水や食料、燃料等)の備え ……太子堂-27(-62-)
(6)避難所の開設 ……太子堂-28(-63-)
(7)地域の連携とコミュニケーション ……太子堂-28(-63-)

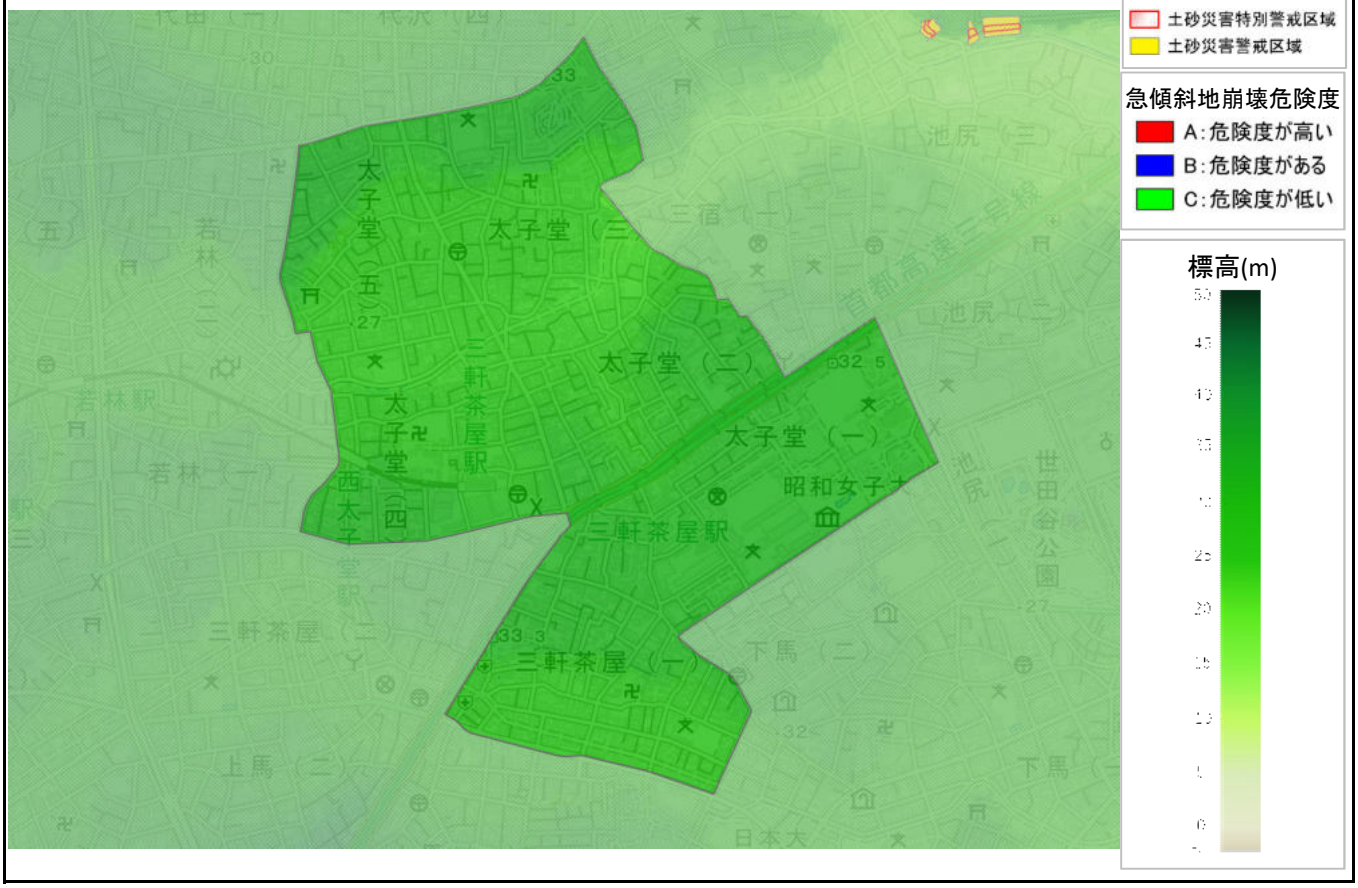
1. 太子堂地区の特性

(1)自然特性

面積	1.05 Km²	最高標高	36.0 m	最低標高	22.9 m

位置

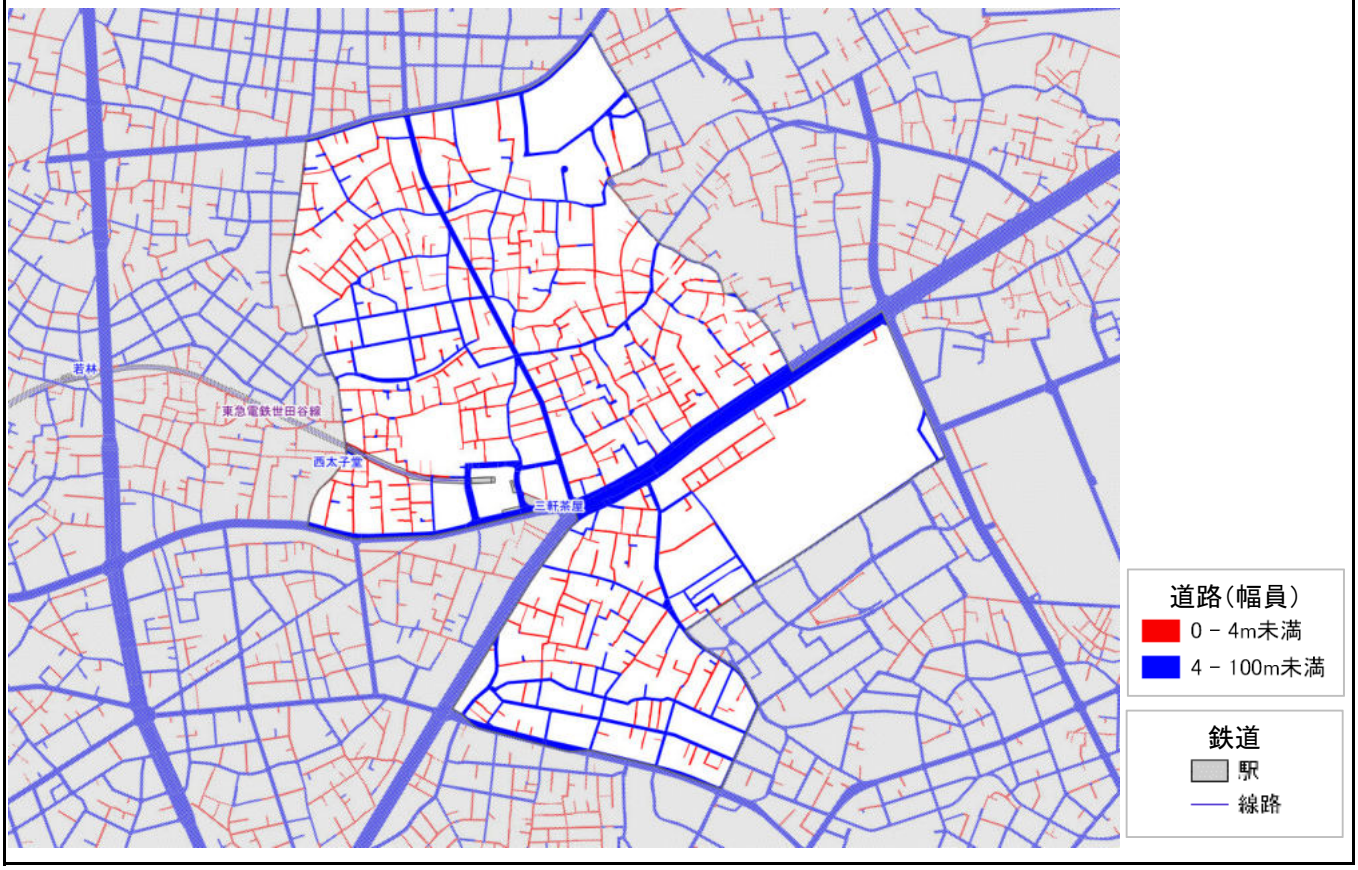
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

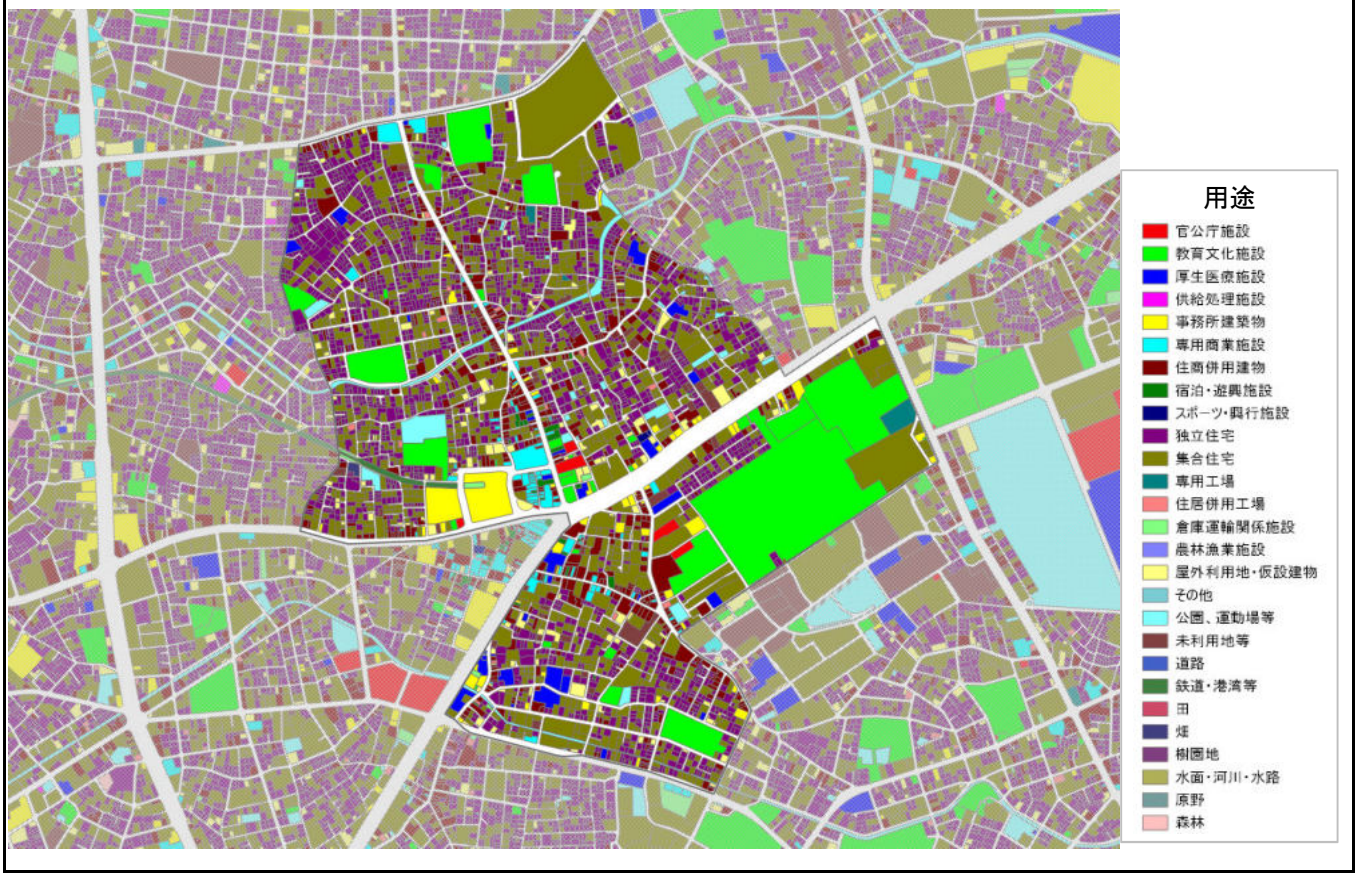
人口	23,827 人	細街路率		54.3 %	
世帯数	15,545 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		120.2 棟/Km²	
1世帯あたり	1.53 人	耐火率(建築面積ベース)		74.9 %	
若年層数(15才未満)	2,058 人	土地利用(宅地)		77.6 %	
若年層率(15才未満)	8.6 %	土地利用(宅地以外)		22.4 %	
高齢者数(65才以上)	4,024 人	鉄道駅	東急田園都市線三軒茶屋駅 東急世田谷線三軒茶屋駅 西太子堂駅		
高齢者率(65才以上)	16.9 %				
昼間の人口	35,990 人	産業	商業	93.3 %	
夜間の人口	25,418 人		工業	6.2 %	
昼夜間人口比	1.42 -		農業	0.4 %	
町会・自治会数	7 -				

道路・公共交通機関



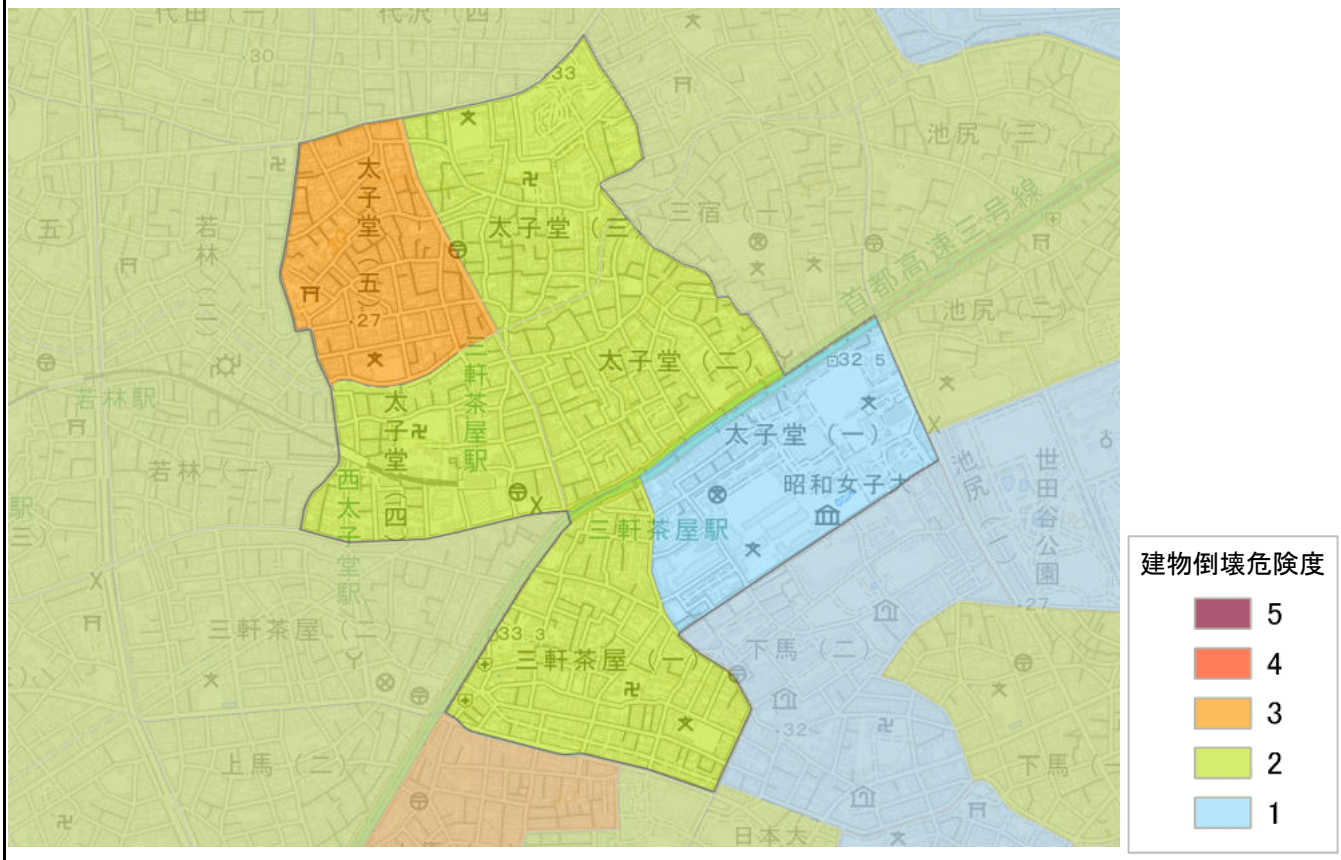
(2)社会特性

産業

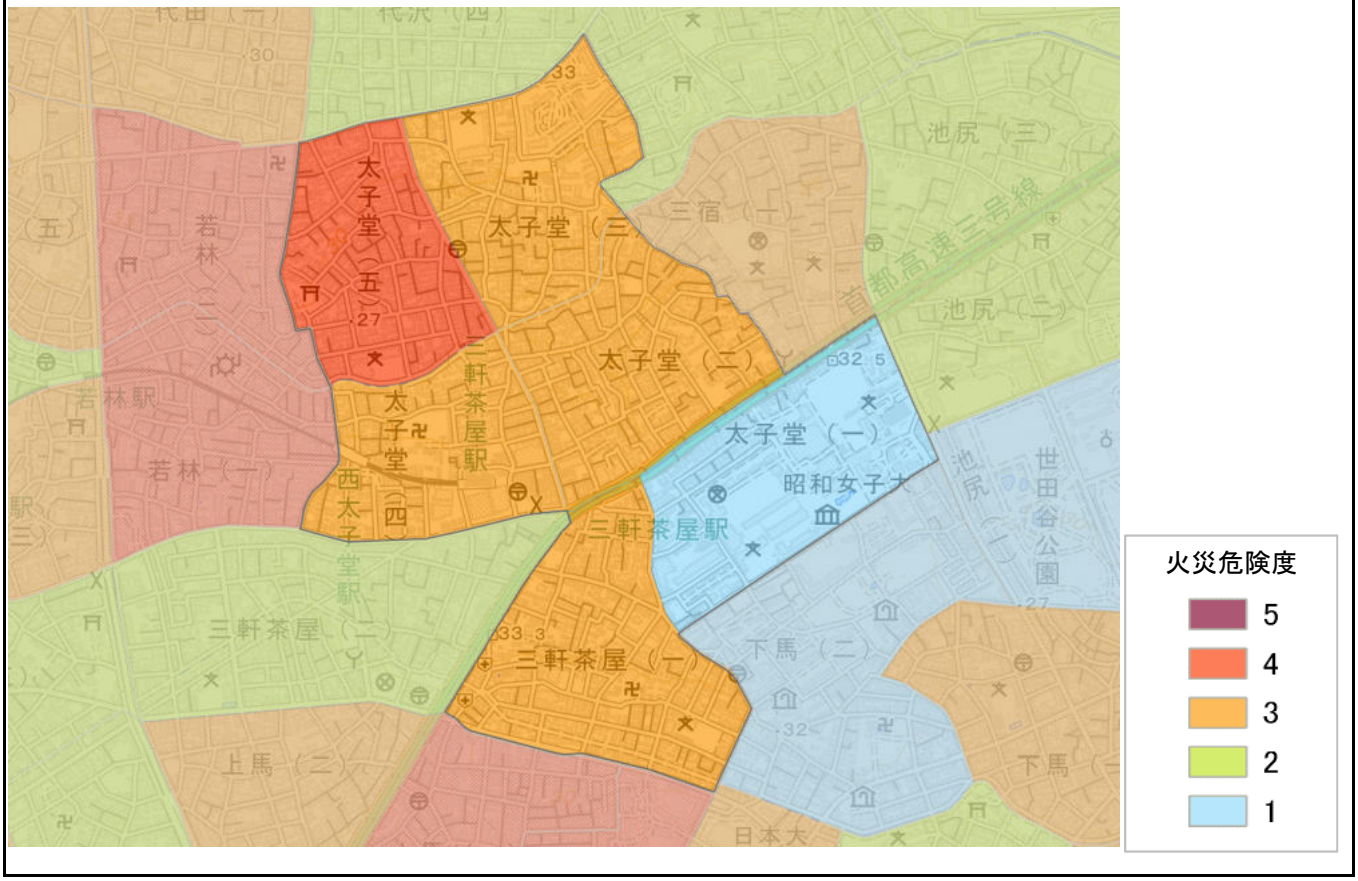

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



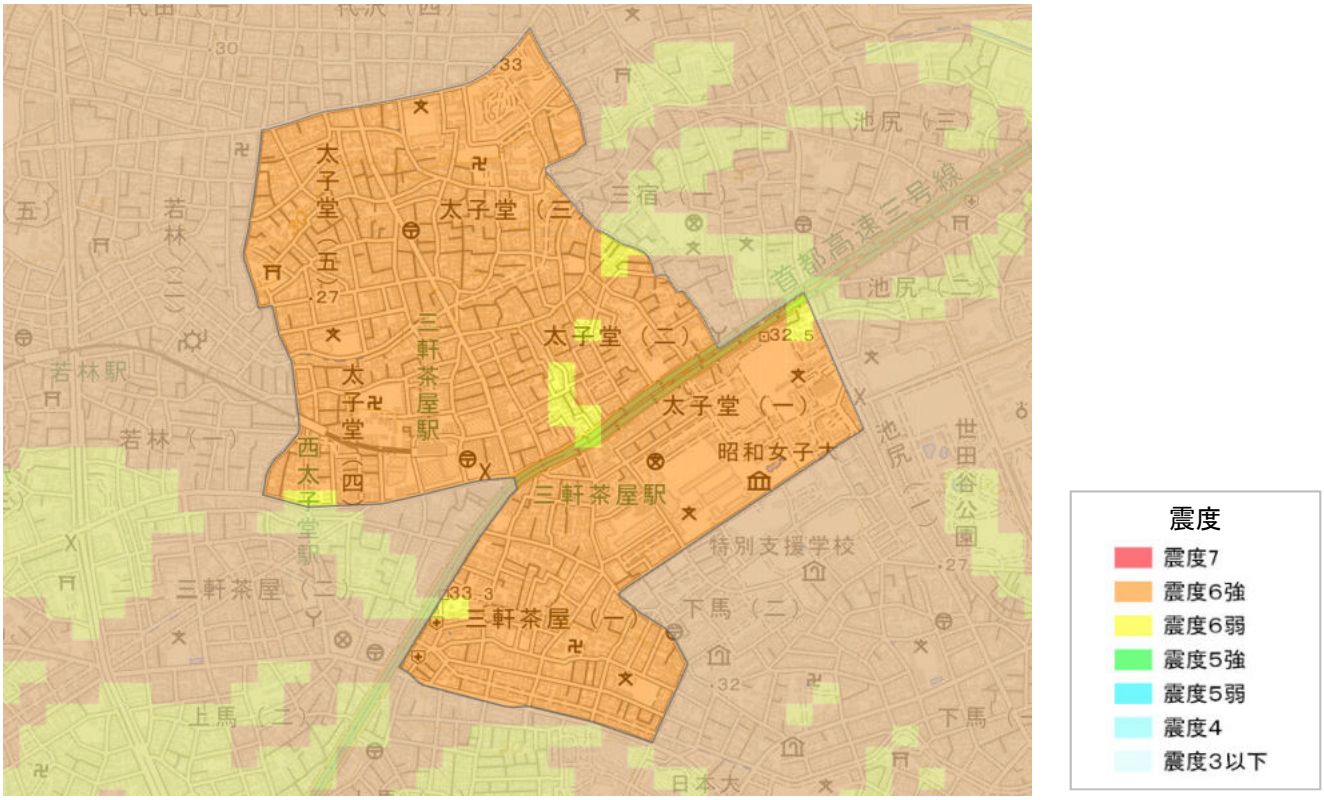
火災危険度



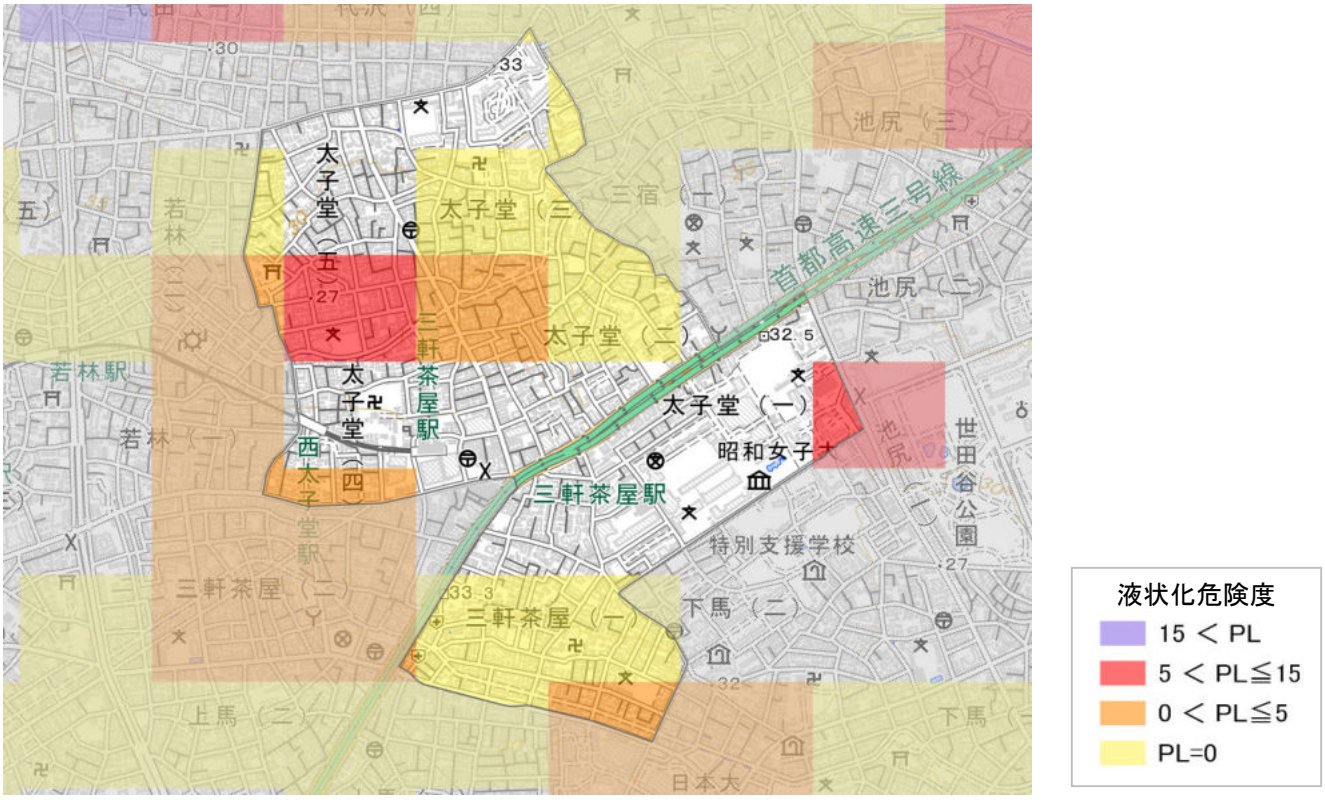
(4)被害想定

全壊棟数	155　棟	死者	17　人
半壊棟数	353　棟	負傷者	186　人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	606　棟	うち重傷者	32　人

震度分布

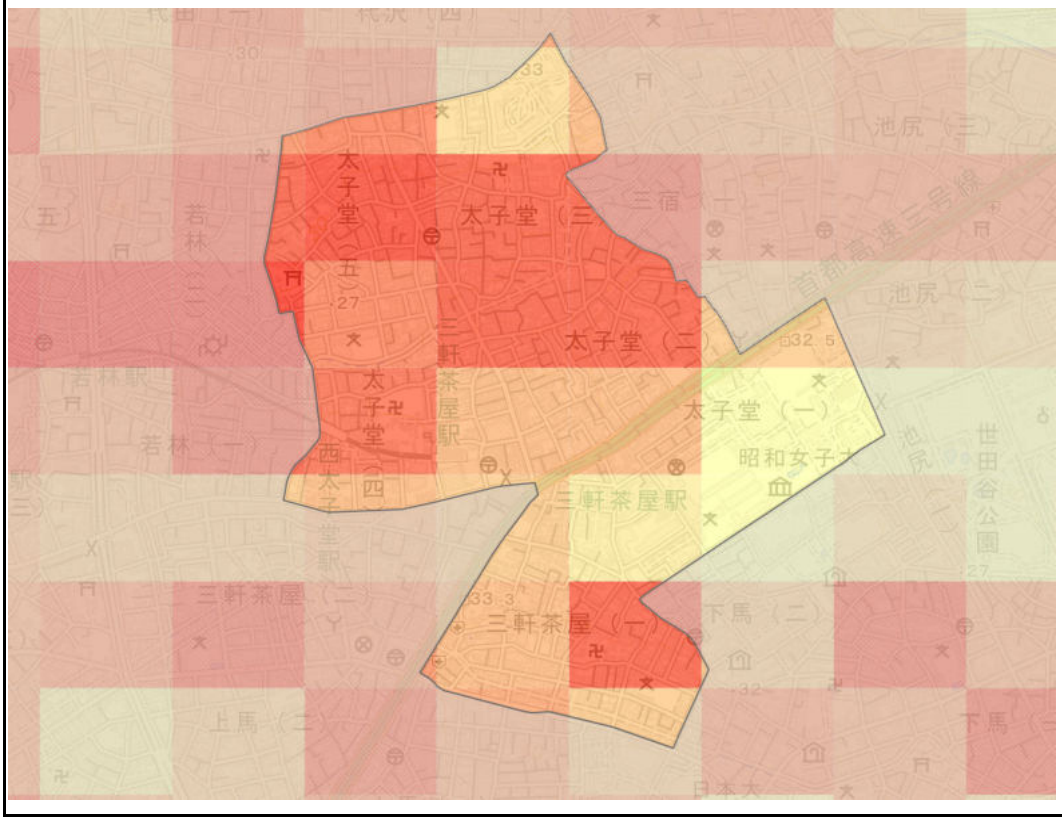


液状化分布



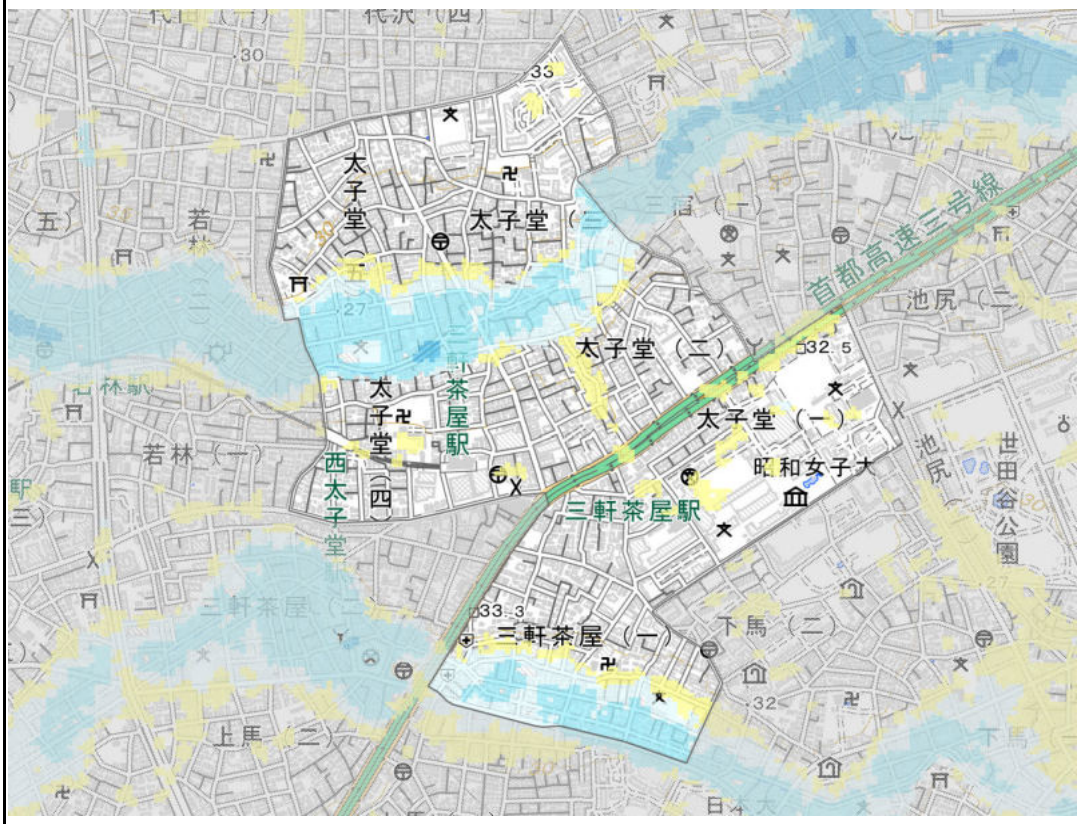
(4)被害想定

被害棟数分布

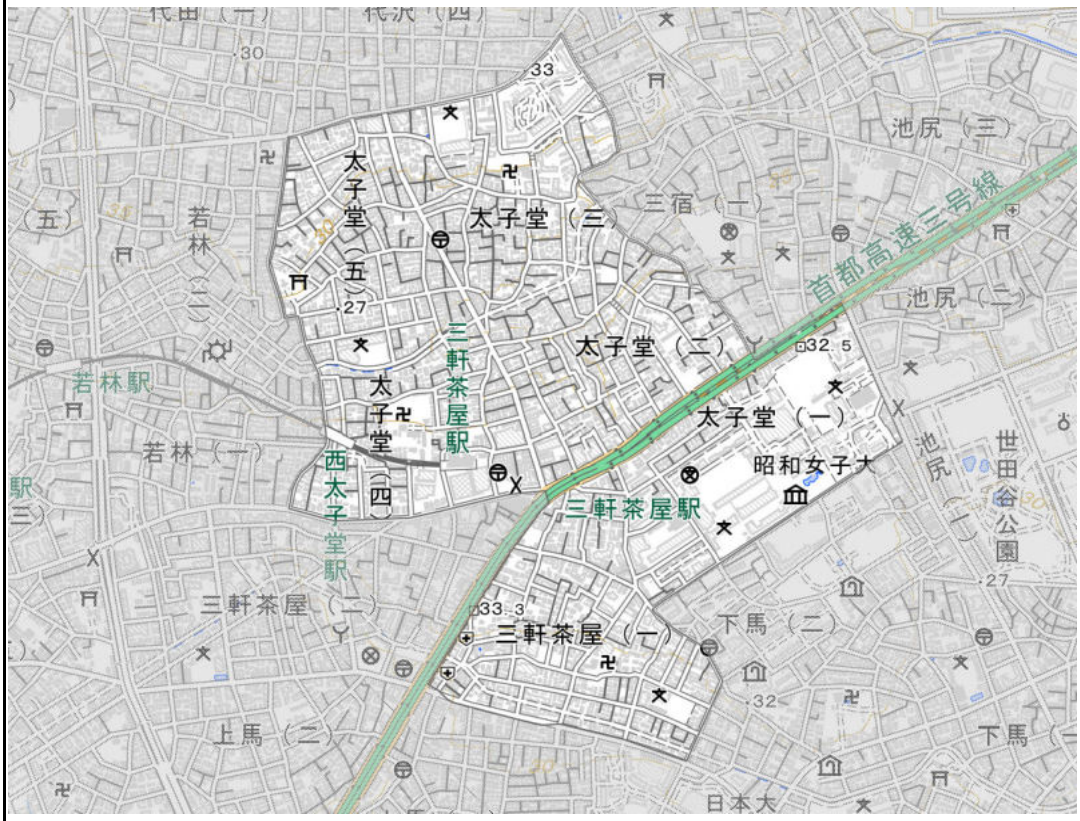


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



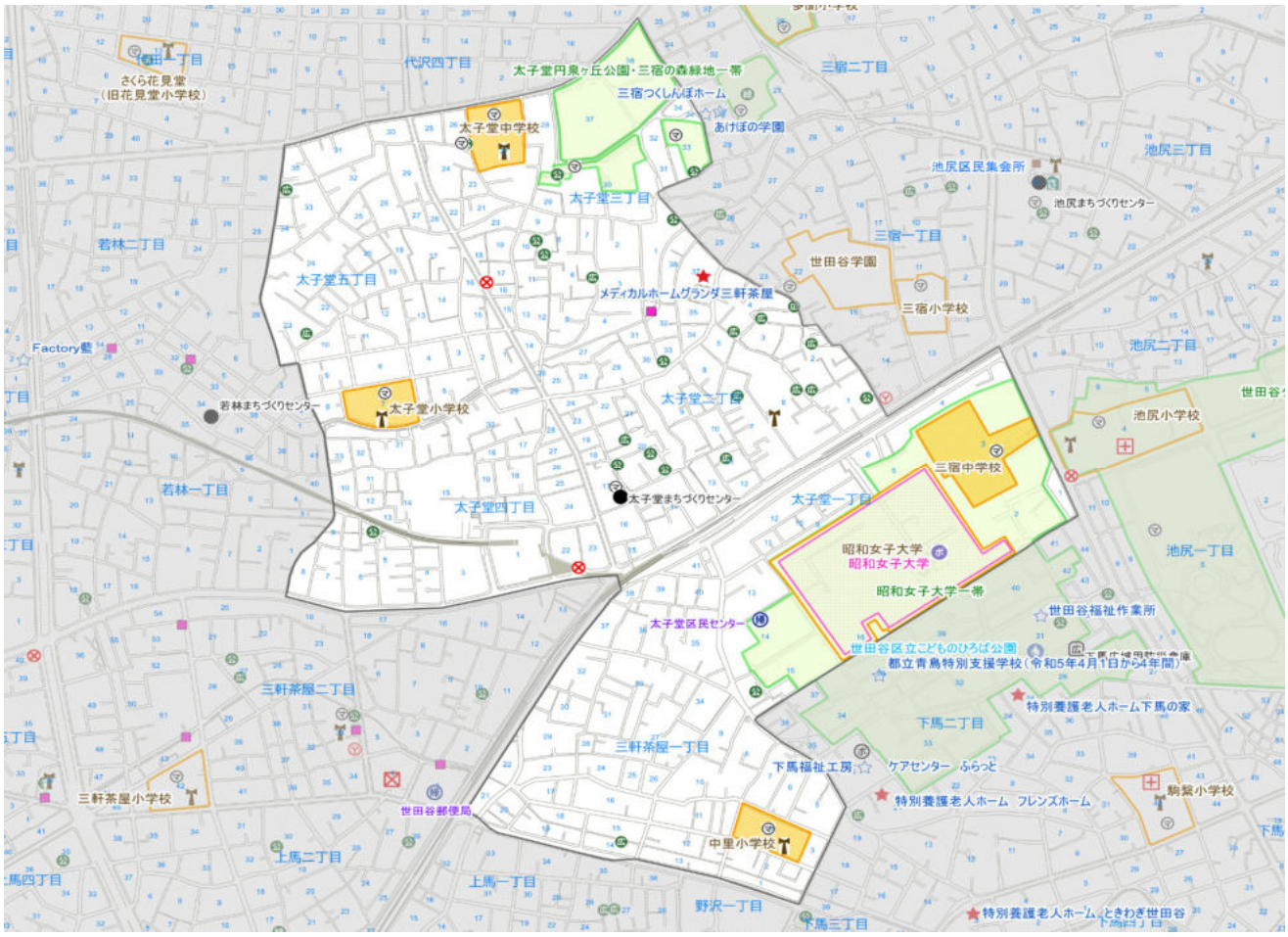
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	昭和女子大学一帯　太子堂円泉ヶ丘公園・三宿の森緑地一帯				
一時集合所	グランドヒルズ三軒茶屋　烏山川緑道(山中橋)　円泉寺　教学院　三軒茶屋ふれあい広場　昭和女子大学　西太子堂公園　太子堂2－11遊び場　太子堂小学校　太子堂中学校　太子堂八幡広場				
指定避難所	三宿中学校 太子堂小学校 太子堂中学校 中里小学校				
予備避難所	昭和女子大学				
福祉避難所(母子)	昭和女子大学				
福祉避難所(高齢者)	メディカルホームグランダ三軒茶屋				
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター	昭和女子大学				
マンホールトイレ	8　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	烏山川緑道(太子堂2の32付近)				
警察署・交番	三軒茶屋交番　太子堂地域安全センター				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

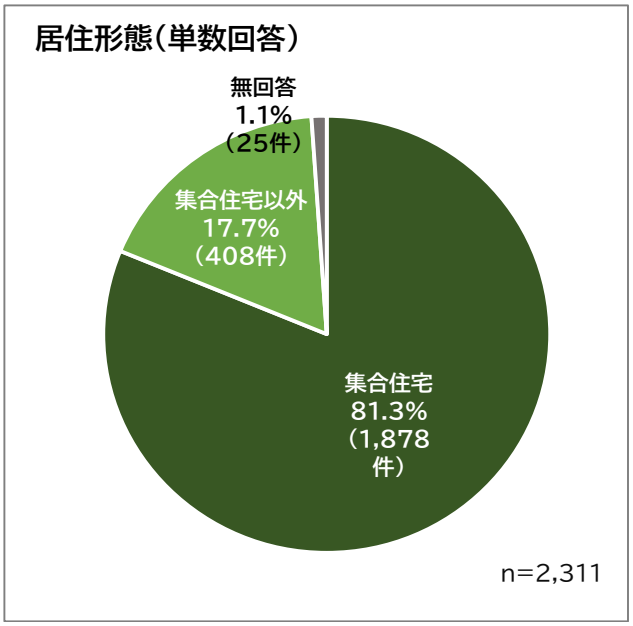
(7)区民アンケート(太子堂地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

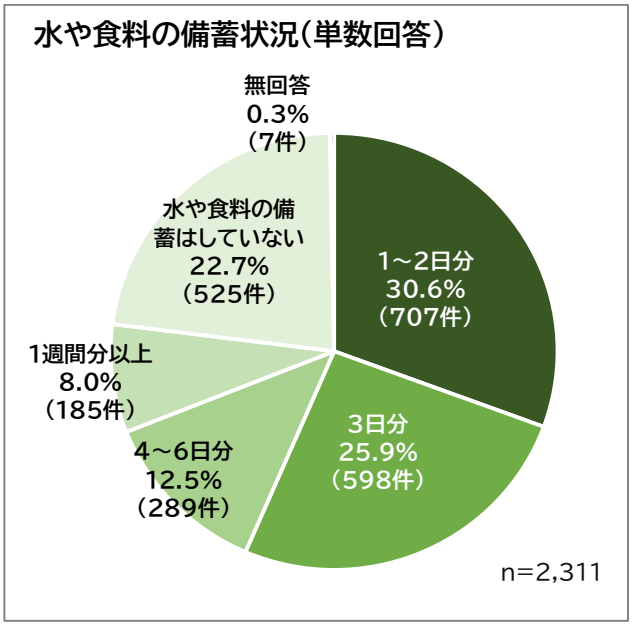
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

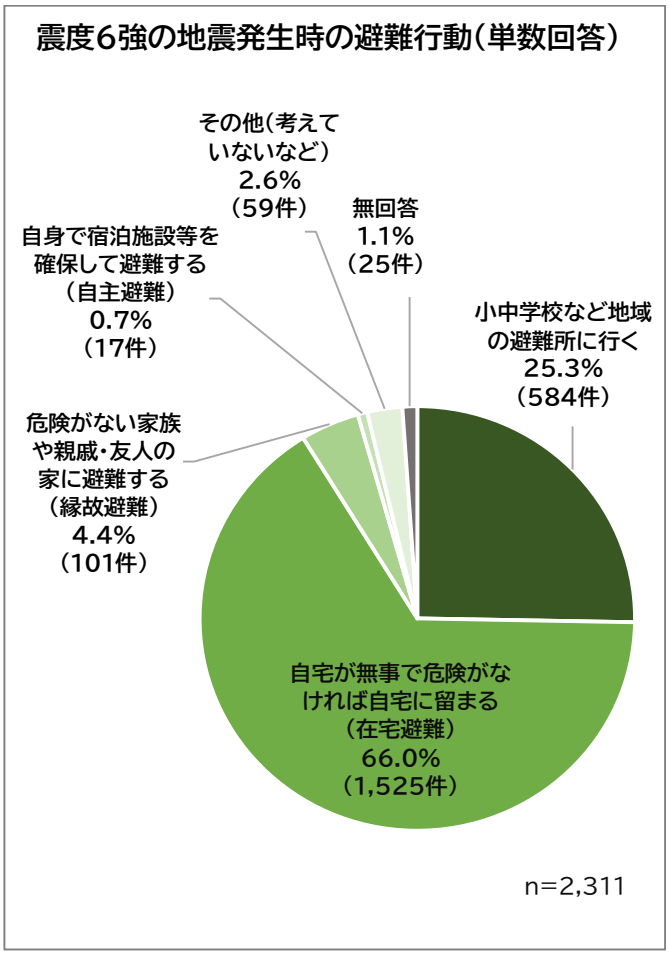


(7)区民アンケート(太子堂地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(太子堂地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

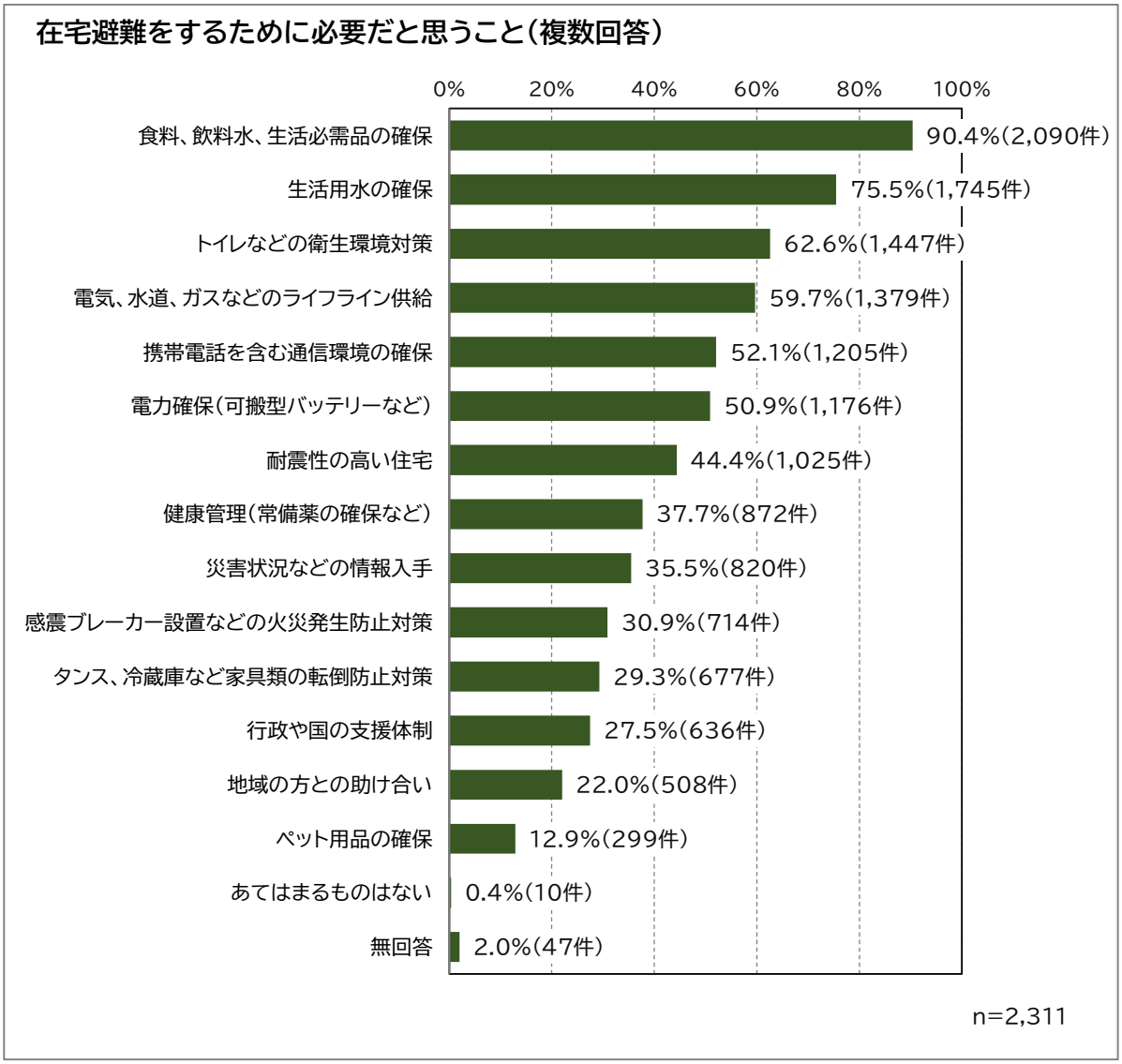
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(太子堂地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

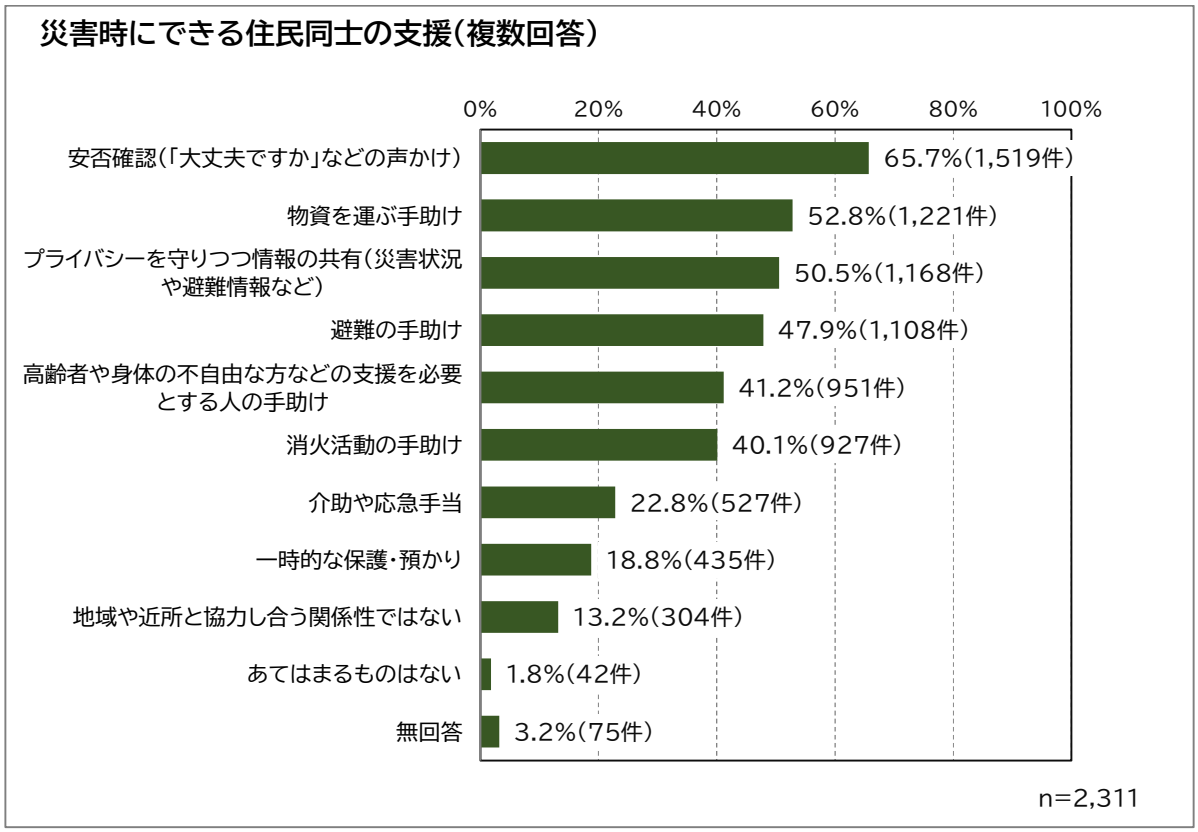


(7)区民アンケート(太子堂地区)

単純集計(5/5)

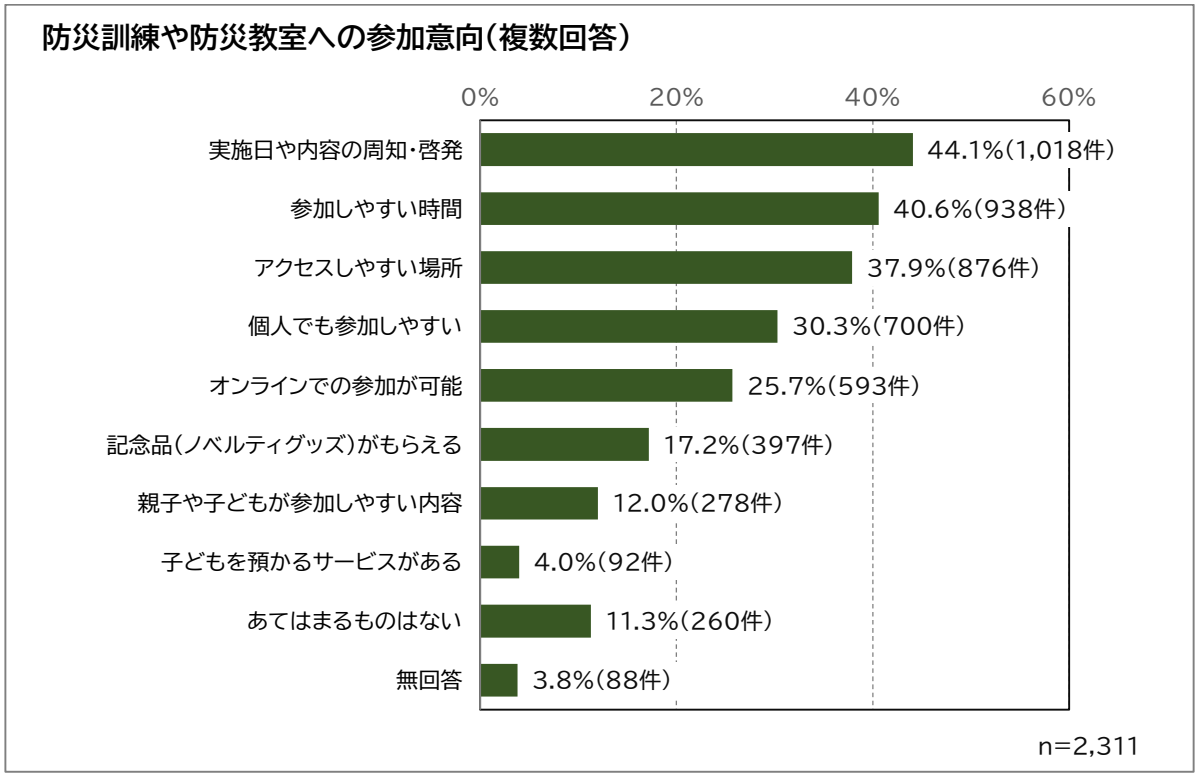
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

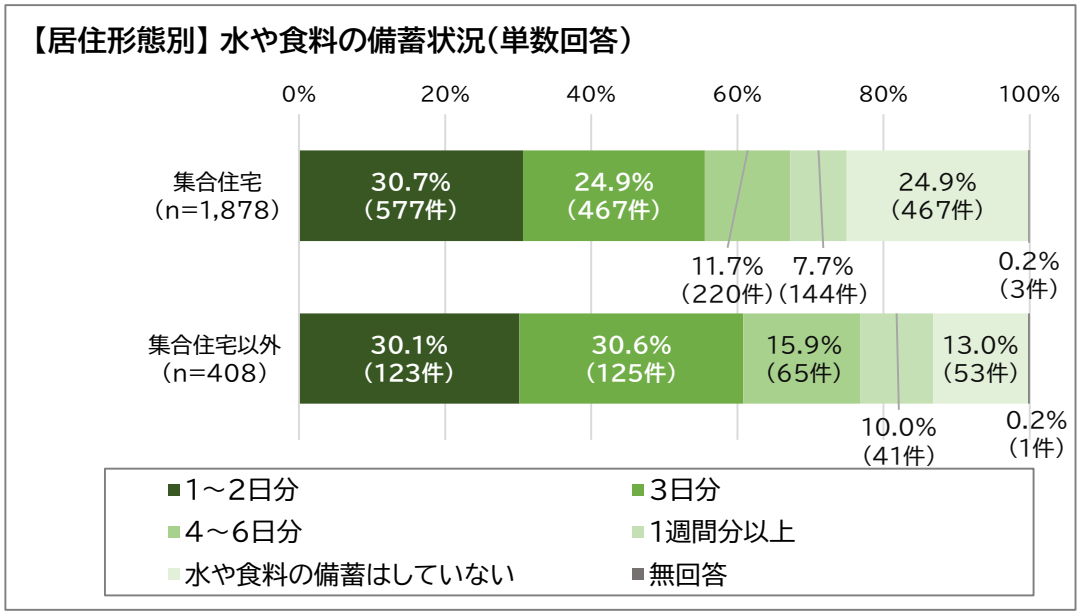


(7)区民アンケート(太子堂地区)

クロス集計(1/4)

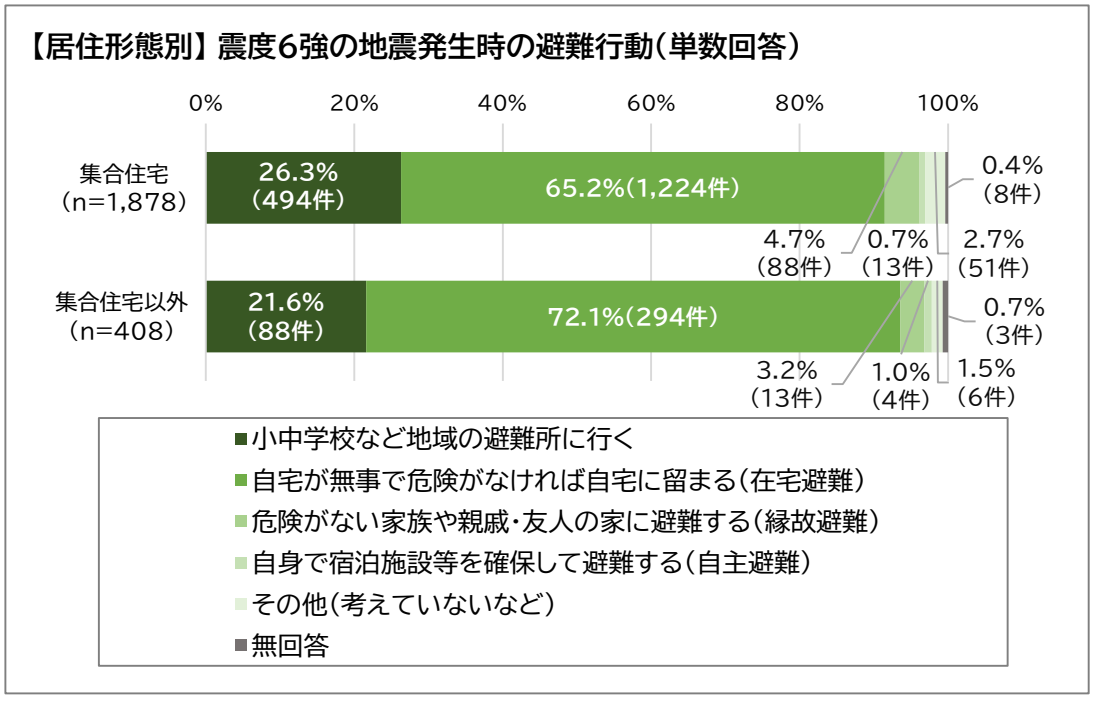
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

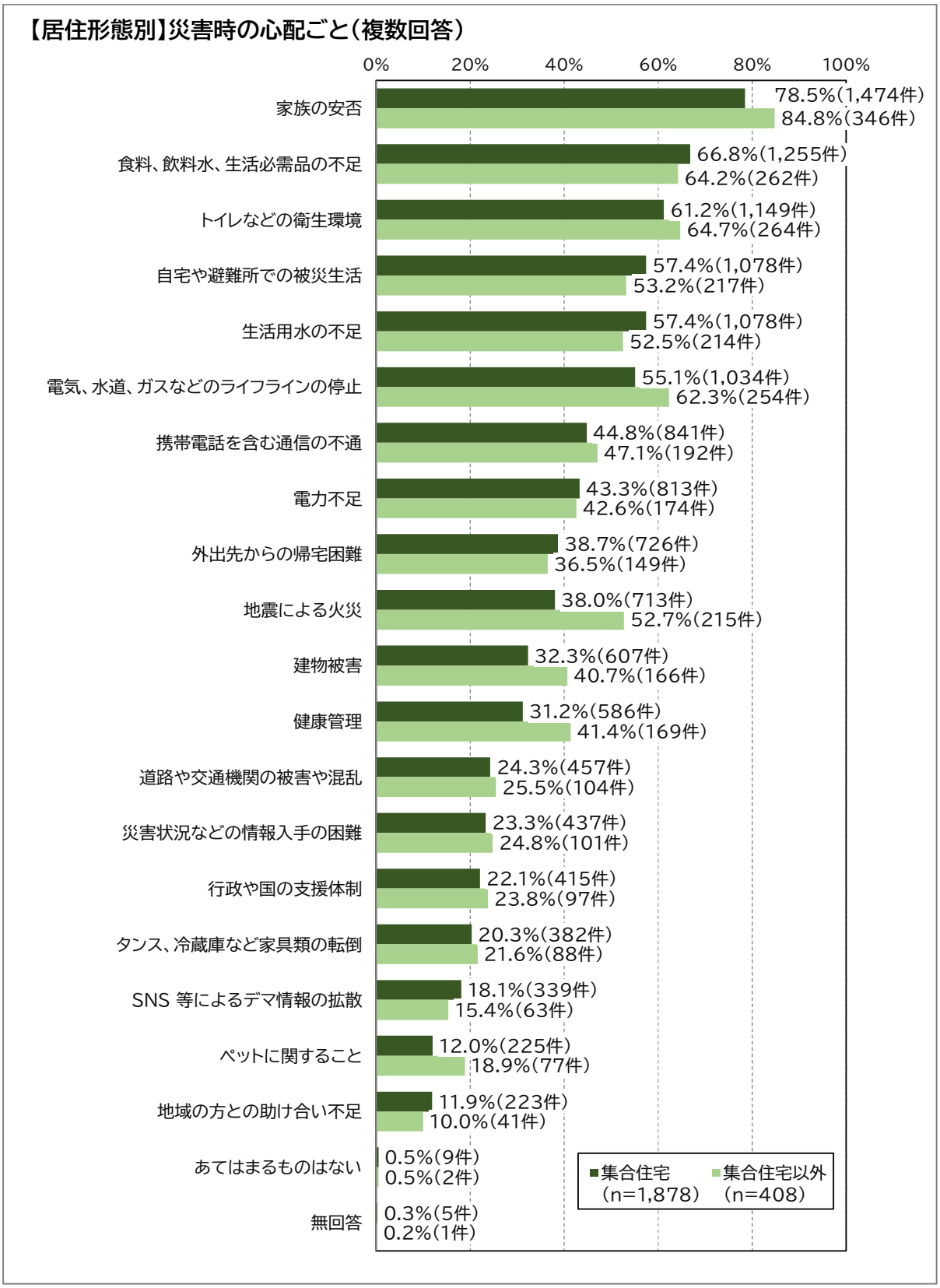


(7)区民アンケート(太子堂地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

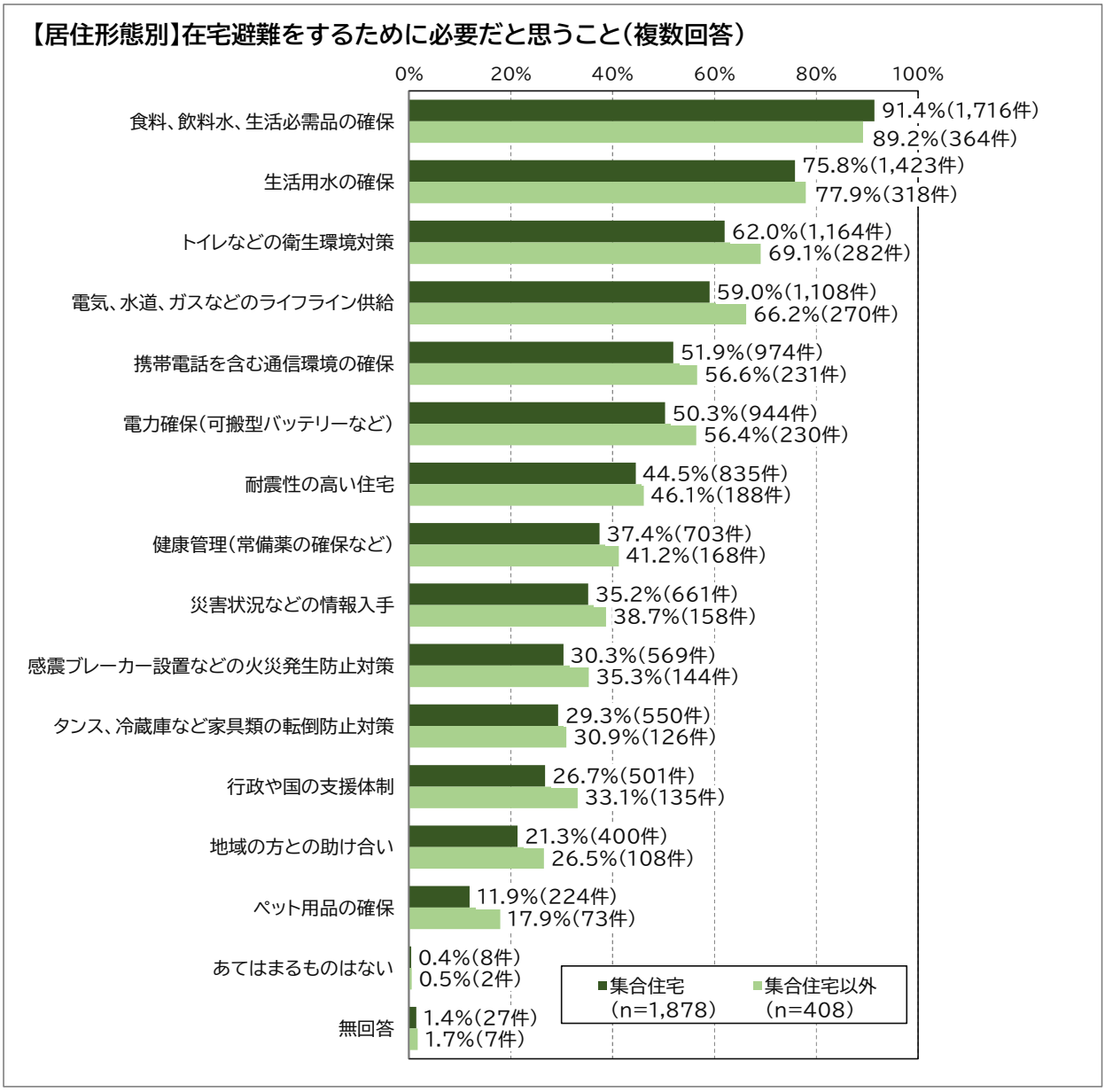


(7)区民アンケート(太子堂地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

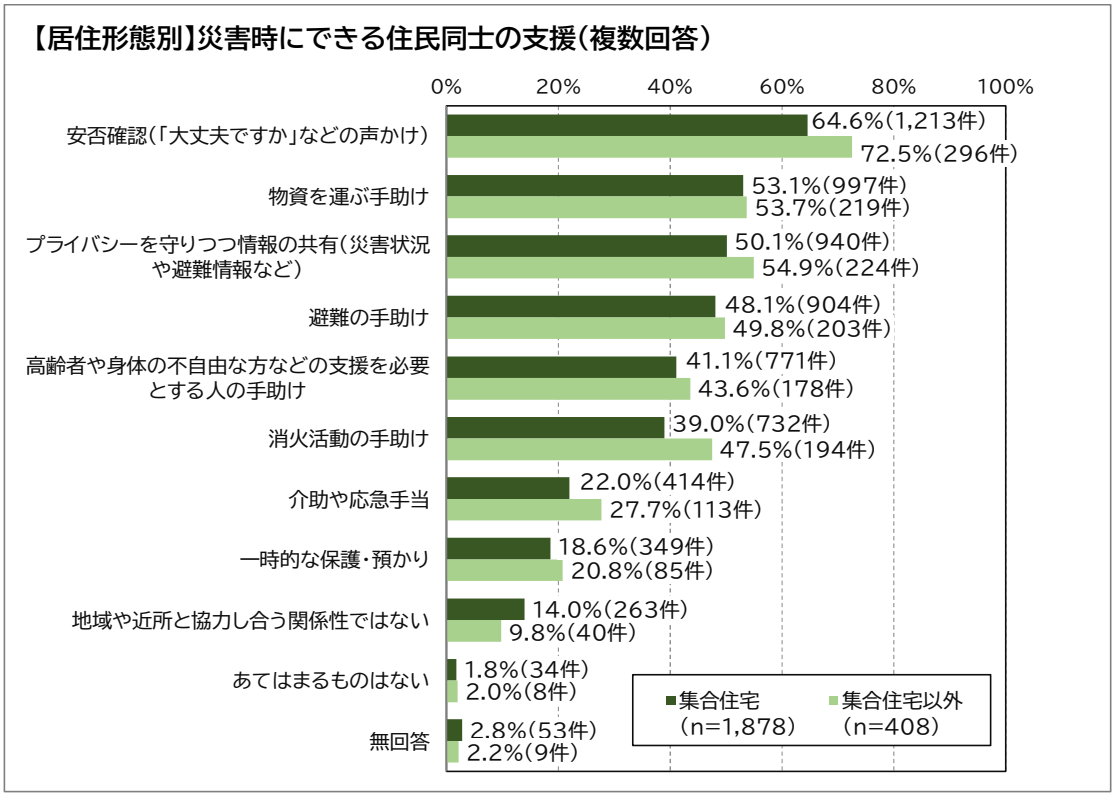


(7)区民アンケート(太子堂地区)

クロス集計(4/4)

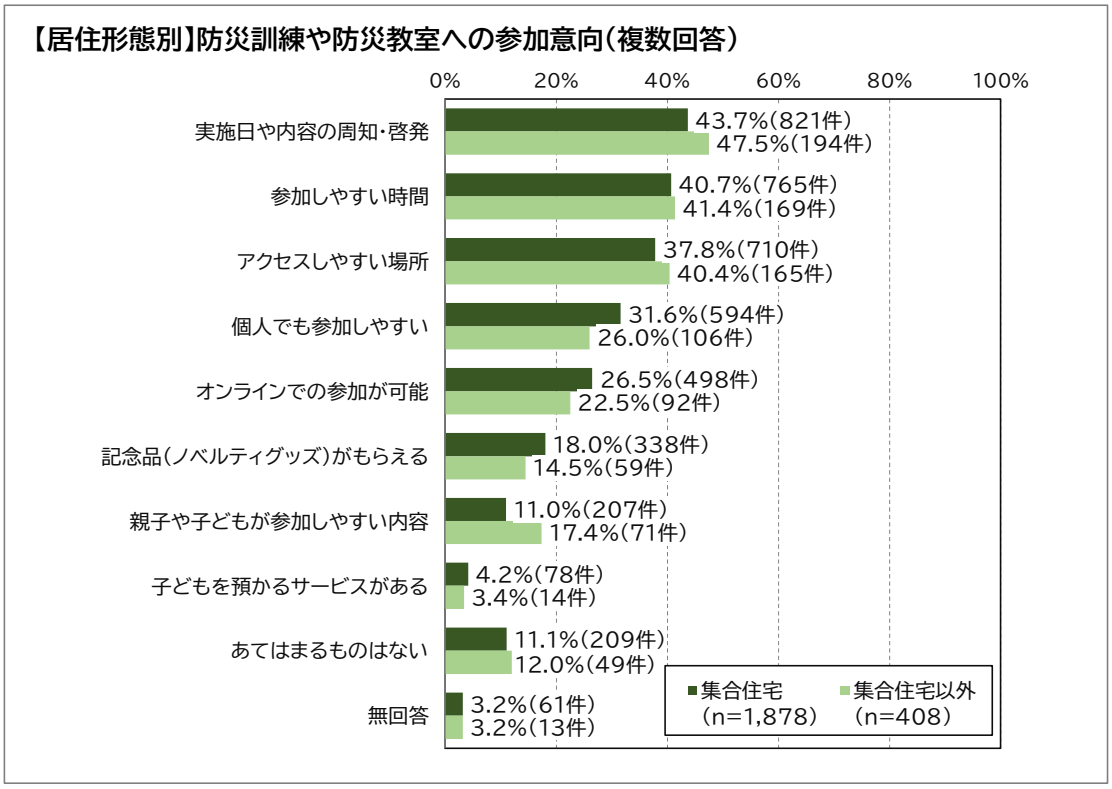
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
太子堂1丁目町会	12	○		防火防災部会	12	○		○		2	太子堂1-8塀、太子堂1－12－8もみの木保育園倉庫
太子堂二丁目大塚町会	6	○		防火防災部会	12	○		○		2	太子堂2-11遊び場広場
太子堂三軒茶屋町会	13	○		防火防災部会	12	○		○		2	トンボひろば公園倉庫
太子堂下の谷町会	7	○		防火防災部会	12	○		○		1	一善橋倉庫
太子堂本町会	7	○		防火防災部会	12	○		○		3	円泉ヶ丘公園、太子堂中学校、さくら広場
太子堂四丁目西山町会	10	○		防火防災部会	12	○		○		3	西太子堂公園倉庫
太子堂五丁目町会	25	○		防火・防災部会	12	○		○		1	5丁目町会クラブ倉庫

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
太子堂1丁目町会	1	太子堂1丁目公園倉庫	20	町会内			○		2	三宿中学校ほか
太子堂二丁目大塚町会	2	すずむし広場倉庫	15	町会内			○		1	太子堂2－11遊び場
太子堂三軒茶屋町会	1	トンボひろば公園倉庫	1	防災倉庫			○		1	太子堂小学校
太子堂下の谷町会	1	一善橋倉庫					○		2	ひょうたん池、太子堂中学校
太子堂本町会	3	円泉ヶ丘公園、太子堂中学校、さくら広場、烏山川緑道					○		2	円泉ヶ丘公園、太子堂中学校
太子堂四丁目西山町会	2	西太子堂公園					○		1	西太子堂公園
太子堂五丁目町会	2	烏山川緑道防災倉庫、5丁目町会クラブ倉庫					○		1	太子堂八幡広場

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ											
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
太子堂1丁目町会							○									
太子堂二丁目大塚町会					○				○	○	○	○	○	○	○	AED
太子堂三軒茶屋町会	1	太子堂小学校	太子堂地区合同防災訓練	太子堂小学校				○								
太子堂下の谷町会			太子堂地区合同防災訓練	太子堂小学校				○								
太子堂本町会			太子堂地区合同防災訓練	太子堂小学校	○				○	○	○	○	○	○	○	
太子堂四丁目西山町会			太子堂地区合同防災訓練	太子堂小学校				○								
太子堂五丁目町会	3年毎	5丁目町会クラブ	サバイバルキャンプ、太子堂地区合同防災訓練	太子堂小学校または太子堂中学校				○								

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策			
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない
太子堂1丁目町会	2		0				○				○					○
太子堂二丁目大塚町会	2		0				○			○			○			
太子堂三軒茶屋町会	1		1				○			○						○
太子堂下の谷町会	0		2		○			下の谷睦会		○			○			
太子堂本町会	1		1				○			○			○	○		
太子堂四丁目西山町会	1		1				○			○			○			
太子堂五丁目町会	1		1				○					○				○

団体名	連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備								
	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット
太子堂1丁目町会			特になし		○					○	1	1		1	2	10	
太子堂二丁目大塚町会	○	○					○			○	2	1	1	2	1	10	1
太子堂三軒茶屋町会		○					○			○	1			3	1	10	1
太子堂下の谷町会		○					○			○	1	0	0	2	1	5	1
太子堂本町会		○					○			○	3		1	2	1	15	1
太子堂四丁目西山町会		○					○			○	1		1		1	10	1
太子堂五丁目町会		○					○			○	2		2	2	1	10	1

団体名	救出救助に係る資機材の配備									食糧等の備蓄							
	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類
太子堂1丁目町会	1	3		1	1	1		台車外	太子堂一丁目公園防災倉庫		○		○		○		○
太子堂二丁目大塚町会									太子堂2－11遊び場倉庫	○				○	○		
太子堂三軒茶屋町会									トンボひろば公園倉庫		○		○		○		
太子堂下の谷町会	1	1		1	1	1	1		一善橋倉庫		○			○	○		
太子堂本町会								台車外	円泉ヶ丘公園、さくら広場、烏山川緑道		○				○	○	○
太子堂四丁目西山町会									西太子堂公園倉庫		○		○				
太子堂五丁目町会	2	4	2			1			5丁目町会クラブ倉庫	○							

団体名	食糧等の備蓄										その他の防災活動
	カセットコンロ	災害用その他食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
太子堂1丁目町会		○	○	○		○		衛生用品	会長宅		研修等に参加
太子堂二丁目大塚町会					○	○			太子堂2－11遊び場倉庫		
太子堂三軒茶屋町会									トンボ広場公園倉庫		
太子堂下の谷町会	○			○	○				一善橋倉庫		
太子堂本町会	○			○	○		○		さくら広場、円泉ヶ丘公園		
太子堂四丁目西山町会				○					西太子堂公園倉庫		
太子堂五丁目町会											

3. 太子堂地区の課題と今後の取り組み

課題1　火災への備え

■意見

- 消火器やスタンドパイプが十分に配備されていない区域があり、使い方を知っている人も少ない。
- 消火栓や防災井戸の場所が周知されていない。使える状態なのかわからない。
- 消火栓の蓋が重く、管理されているかどうかわからない。
- 防火水槽や貯水槽が少ない。
- 町会に加入していない小規模マンションや古い家の状況が不明である。
- 防災訓練の参加者が少ない。
- 平日の夕方に在宅している人が少ない。
- 木造密集地ならではの不安がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 消火器、バケツ等を各家庭で配備するよう周知を行う。
② 地区防災訓練などの機会に初期消火訓練を行うとともに、防災訓練への新規参加者を増やすために、小中学生や保護者など若年層を対象にした防災訓練を実施する。
③ 消火栓や防火水槽等の位置を防災マップに掲載し、周知を行う。
④ 女性消防団や女性防災コーディネーターの増員に努める。
⑤ 電源ブレーカーを落としてから避難する。
⑥ 感震ブレーカーや消火器などは区の防災用品のあっせんの周知を行う。

課題2　被害状況・安否の確認

■意見

- 地区の防災区民組織に若い人が少なく、マンパワーが不足している。
- 車両の火災や混雑、駅から人があふれるなど道路の横断等に支障がある。
- 町会に加入していない人の情報がわからない。
- 住民の中には、支援を拒否する人がいる。
- 住民に高齢者が多く、見回りが難しい。
- 安否確認のための連絡手段が少ない。
- 防災無線放送が聞き取りにくい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 日頃より隣近所で声を掛け合うことや、「顔の見える関係を作る」という視点からイベントを実施していく。
② 民生委員と協力して安否確認する。
③ 地区内の防災マップを作成・配布し、日頃から備えるための材料としてもらう。
④ 身の回りの危険箇所など、よく行くエリアをそれぞれ確認し、話しあうよう防災訓練等で呼びかける。
⑤ 自助・共助の重要性を周知するとともに状況にあった安否確認の方法を模索する。

課題3　避難行動要支援者対策

■意見

- 車椅子やリヤカーなど避難行動要支援者を移動させる手段が少ない。
- 避難行動要支援者の情報が地域で共有されていない。
- 避難行動要支援者の収容施設がない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 日頃から避難行動要支援者の状況を把握し、搬送先を確認する。
② 安否確認カードの普及啓発を図る。

課題4　負傷者等の救出・救護

■意見

- 帰宅困難者で246号線が混雑する。
- 太子堂中学校に避難するには坂がきつい。
- 近隣に医療救護所がない。
- 道路が狭く、救急車が入らない。
- 救出するための道具が少ない。
- 暗さに対する対策が不足している。
- 防災物品を置く場所が少ない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 地域の若い人の協力を得る。
② ランタン等を配備する。
③ 負傷を避けるため、自宅にヘルメットを備えておく。
④ 園児や児童は、保護者が迎えに来るまで待機する。

課題5　物資(水や食料、燃料等)の備え

■意見

- 冬期に暖房の確保が困難である。
- 保育園等で使用していない毛布を借用する。
- 備蓄については、PR方法も検討する。
- 毛布や防寒シートなどは、各自、家庭から持ち込む。
- アンケートから 3 日分以上の水・食料の備蓄をしている人は半数程度にとどまり、全く備蓄をしていない人も 2 割程度であった。
- アンケートでは家族の安否についで、水・食料、トイレに関する不安を感じている人が多かった。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 自助が基本であり、最低限の備蓄は各自で備える。
② 在宅避難に向けて各自で7日分を目安に、水、食料、トイレほか必要なものを備蓄するように、回覧等など周知啓発を行う。
③ 防災マップを用いて応急給水拠点や地域の井戸水提供の家を周知する。
④ 情報取得のためのラジオの重要性や区防災ポータルの活用を周知する。

課題6　避難所の開設

■意見

- 帰宅困難者も来るので、人数把握が難しい。
- 避難所の収容は限定的であり、できるだけ在宅避難をする。
- アンケート結果では4人に1人が「住宅が無事でも避難所を利用する」と回答している。

■地区としての今後の取り組みの方向性

① 避難所運営訓練を通じてイメージトレーニングする。
② 防災の専門家と連携して、課題を明確化していく。
③ 避難所運営訓練を継続して実施する。
④ 在宅避難している人数を把握し、避難所で食事等を受け取れる態勢を構築する。
⑤ 在宅避難の啓発を行う。

課題7　地域の連携とコミュニケーション

■意見

- 医療関係者との協力体制が構築されていない。
- 地区の防災区民組織に若い人が少なく、マンパワーが不足している。（再掲）
- 防災訓練の参加者が少ない。（再掲）

■地区としての今後の取り組みの方向性

① PTAやおやじの会、昭和女子大や日大の学生など若い人の協力を得る。
② 建設団体防災協議会や工務店など建築関係者と連携する。
③ 日頃から商店街と協力する。
④ 消防署との情報共有を進める。
⑤ 関連する地域の団体や学校、消防団、警察、消防、病院との連携方法を模索する。

若林・三軒茶屋地区防災計画

【令和7年修正】

若林地区情報連絡会

目 次

1 若林・三軒茶屋地区の特性……若林-1(-67-)
(1)自然特性 ……若林-1(-67-)
(2)社会特性…… 若林-2(-68-)
(3)地域危険度 …… 若林-4(-70-)
(4)被害想定……若林-5(-71-)
(5)防災資源一覧…… 若林-8(-74-)
(6)防災資源マップ…… 若林-9(-75-)
(7)区民アンケート……若林-10(-76-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ ……若林-19(-85-)

3 若林・三軒茶屋地区の課題と取組み …… 若林-24(-90-)
(1)若林・三軒茶屋地区の概況 …… 若林-24(-90-)
(2)地区防災計画策定時(平成28年)から現在までの取組み 若林-28(-94-)
(3)令和3年以降見出された課題…… 若林-28(-94-)
(4)今後の取組み方針…… 若林-32(-98-)

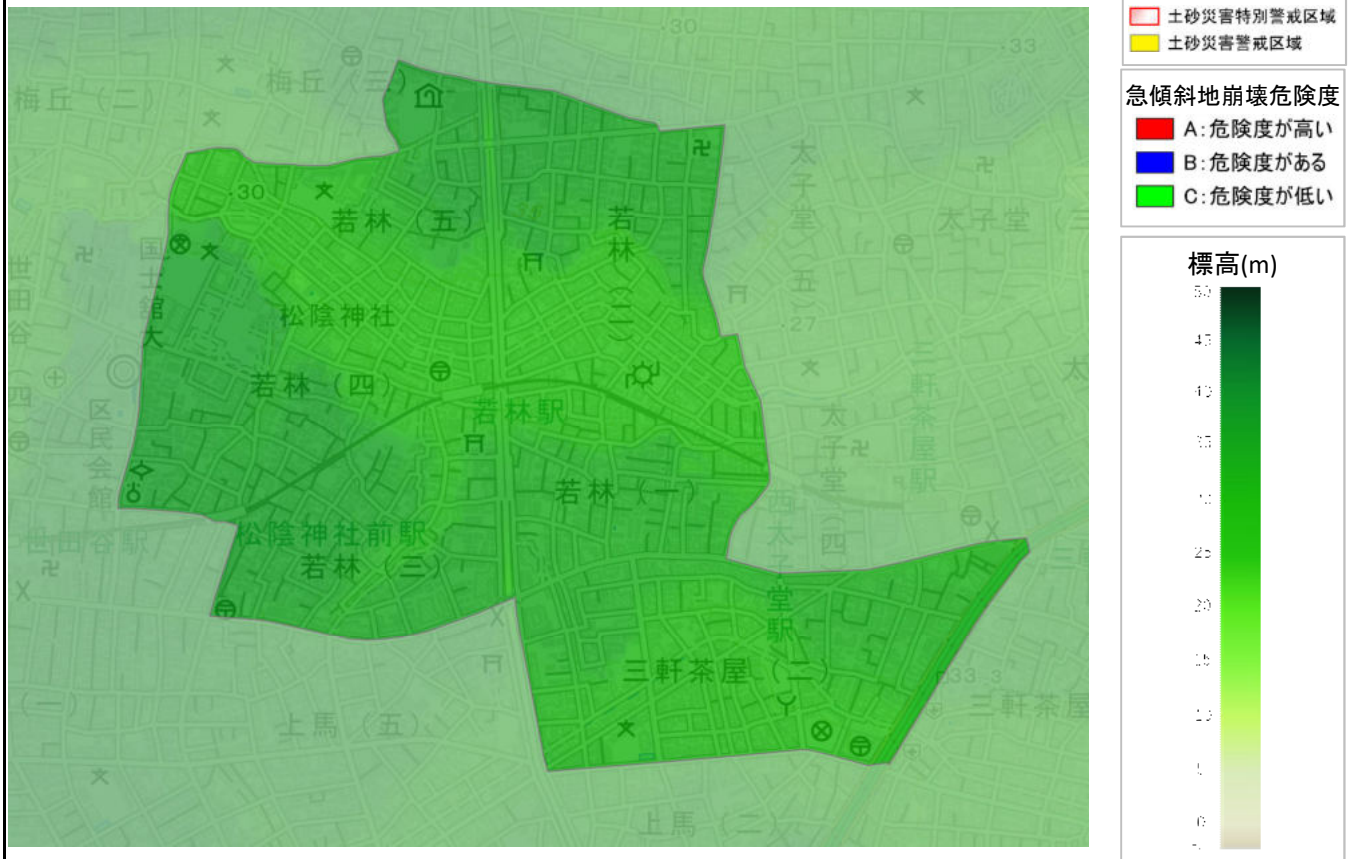
1. 若林・三軒茶屋地区の特性

(1)自然特性

面積	1.17　Km²	最高標高	38.4　m	最低標高	25.4　m

位置

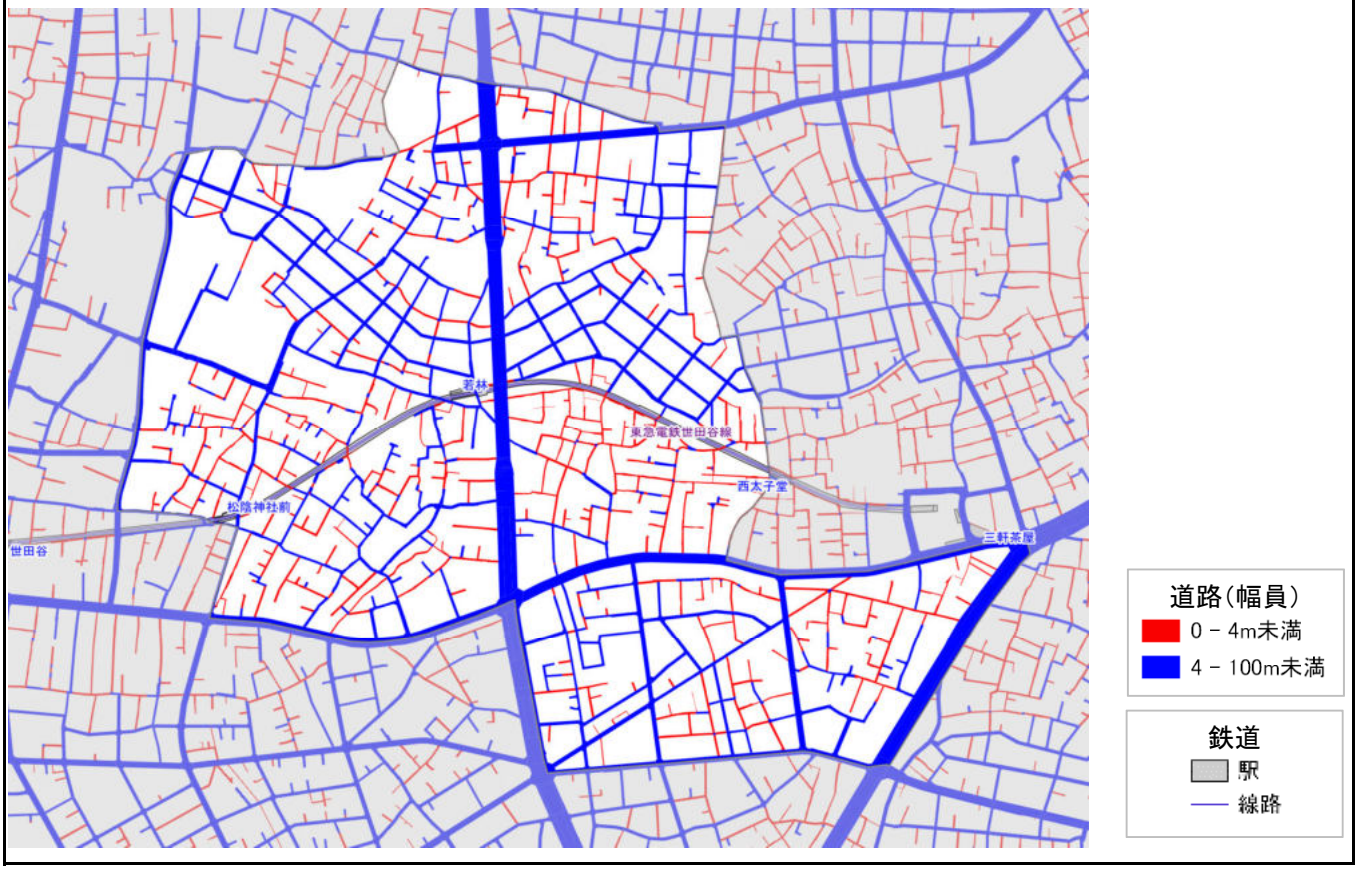
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

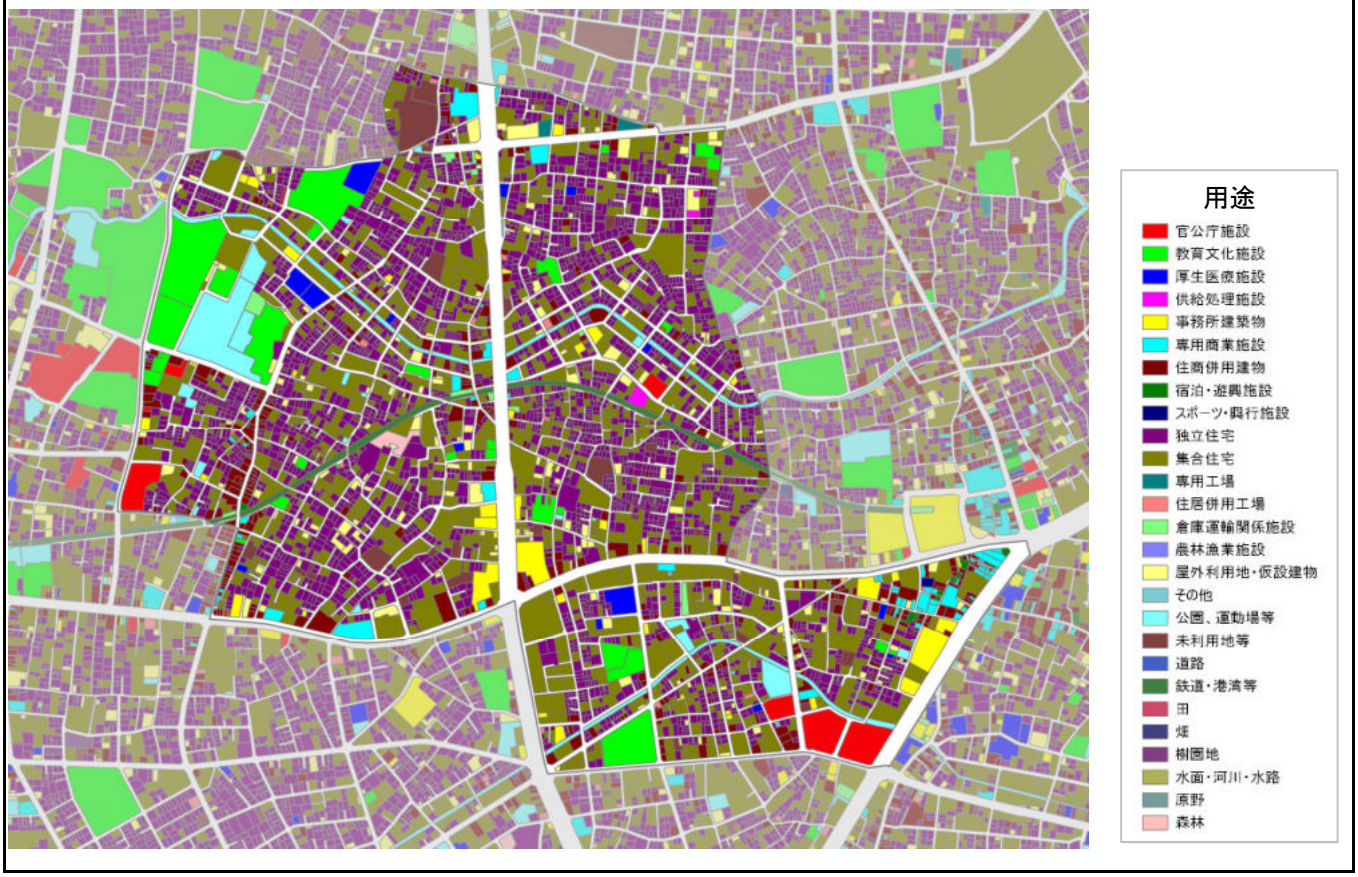
人口	27,293 人	細街路率		42.4 %	
世帯数	16,588 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		79.8 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.65 人	耐火率(建築面積ベース)		68.0 %	
若年層数(15才未満)	2,659 人	土地利用(宅地)		70.6 %	
若年層率(15才未満)	9.7 %	土地利用(宅地以外)		29.4 %	
高齢者数(65才以上)	5,032 人	鉄道駅	東急田園都市線三軒茶屋駅 東急世田谷線若林駅 松陰神社前駅		
高齢者率(65才以上)	18.4 %				
昼間の人口	26,389 人	産業	商業	93.6 %	
夜間の人口	28,191 人		工業	6.4 %	
昼夜間人口比	0.94 -		農業	0.0 %	
町会・自治会数	2 -				

道路・公共交通機関



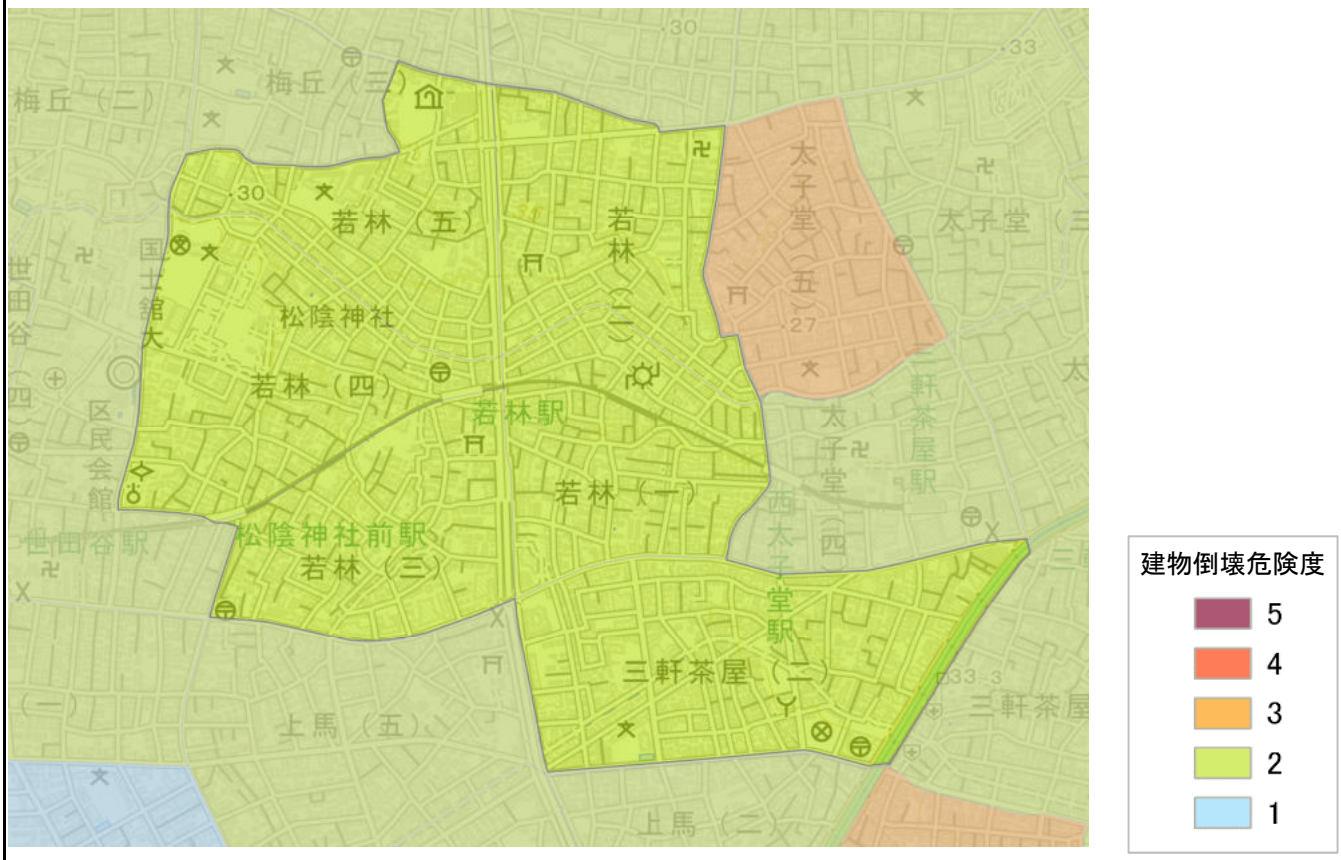
(2)社会特性

産業

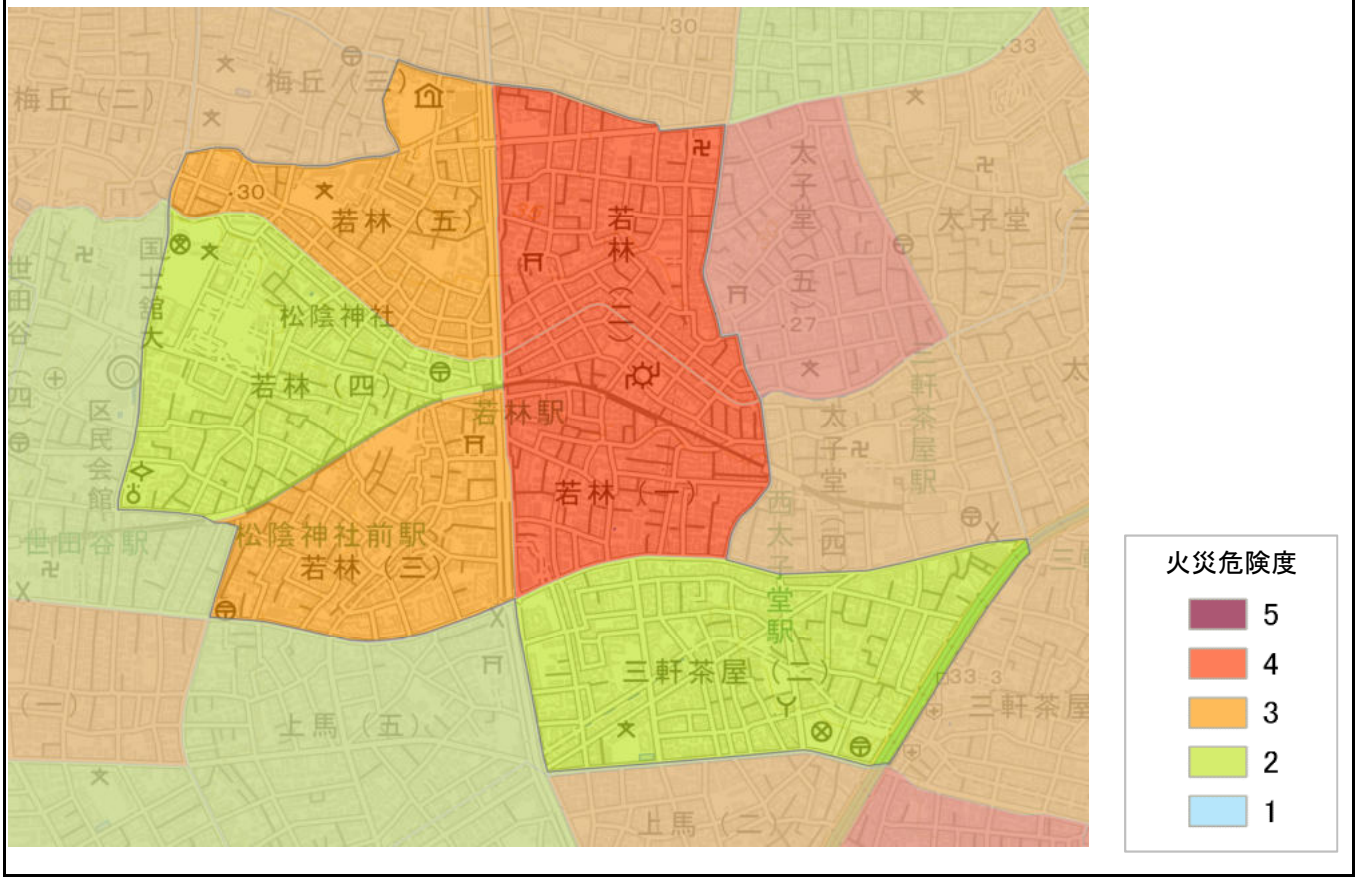

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



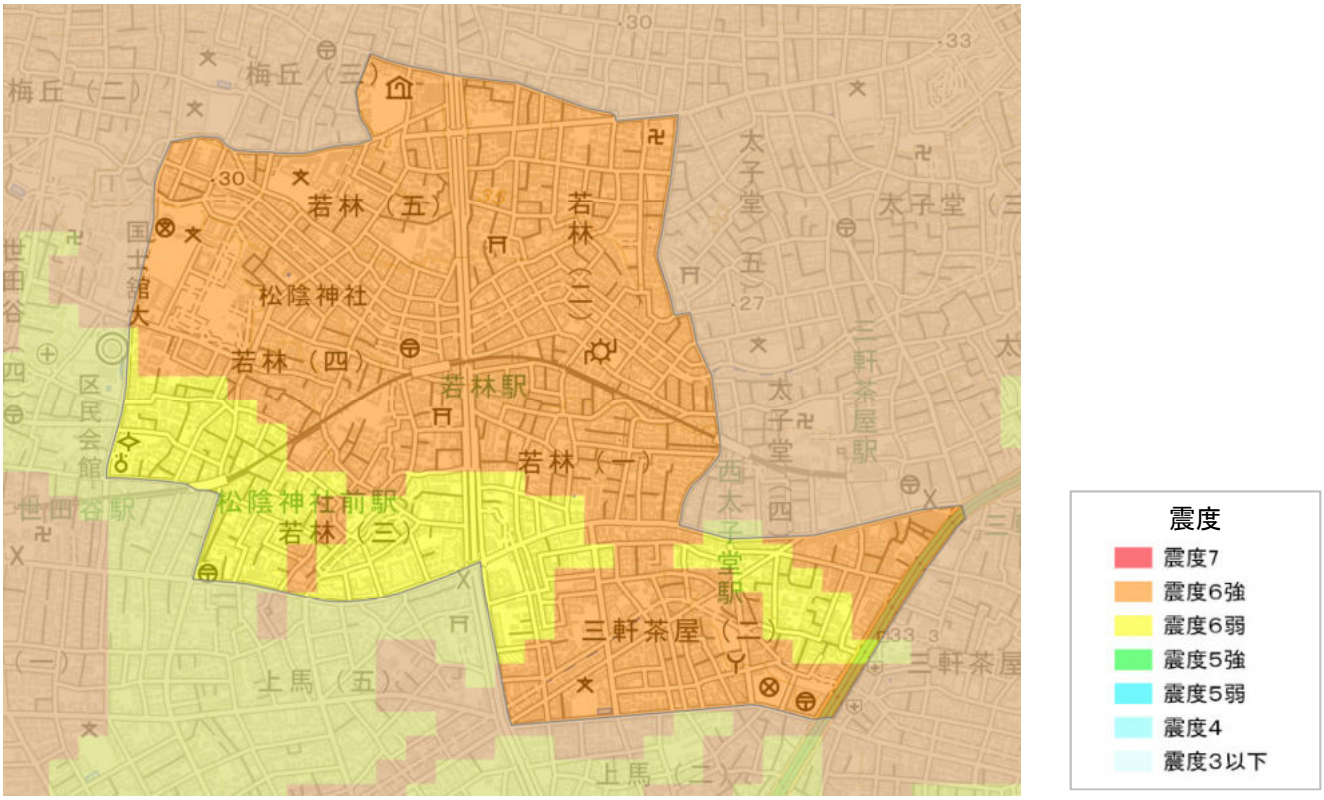
火災危険度



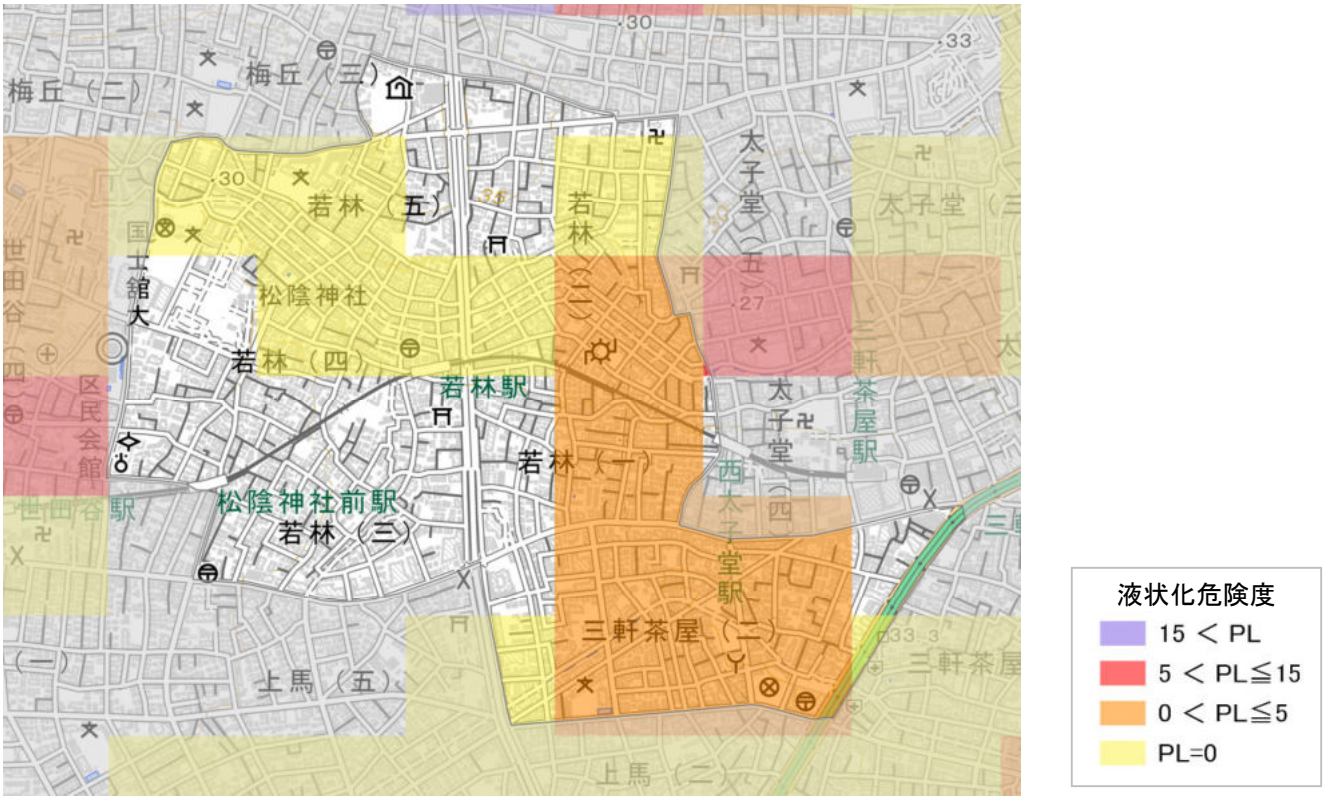
(4)被害想定

全壊棟数	228 棟	死者	22 人
半壊棟数	499 棟	負傷者	245 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	745 棟	うち重傷者	42 人

震度分布

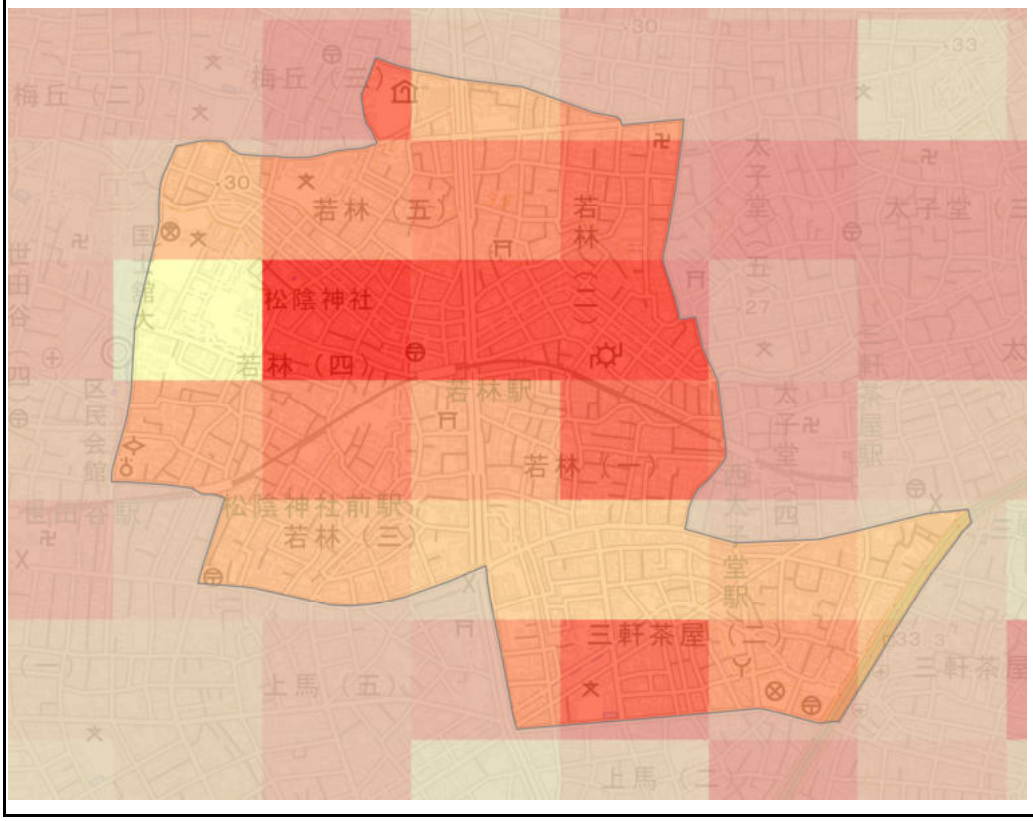


液状化分布



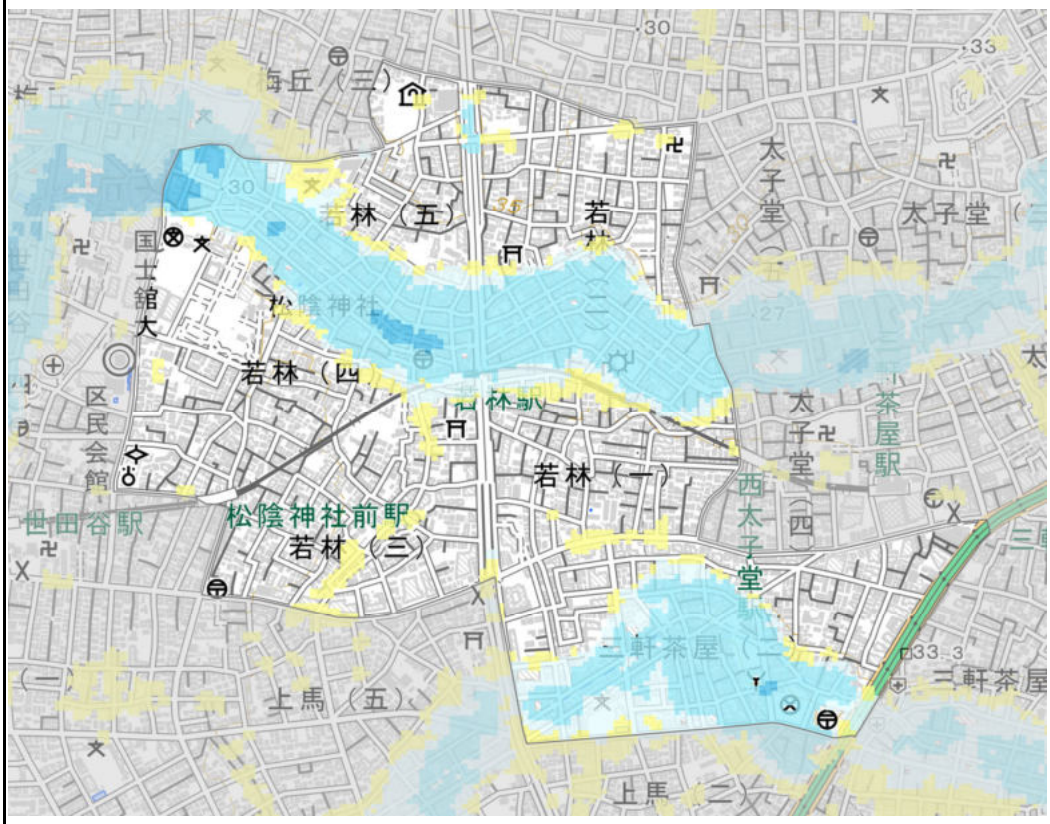
(4)被害想定

被害棟数分布



(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)

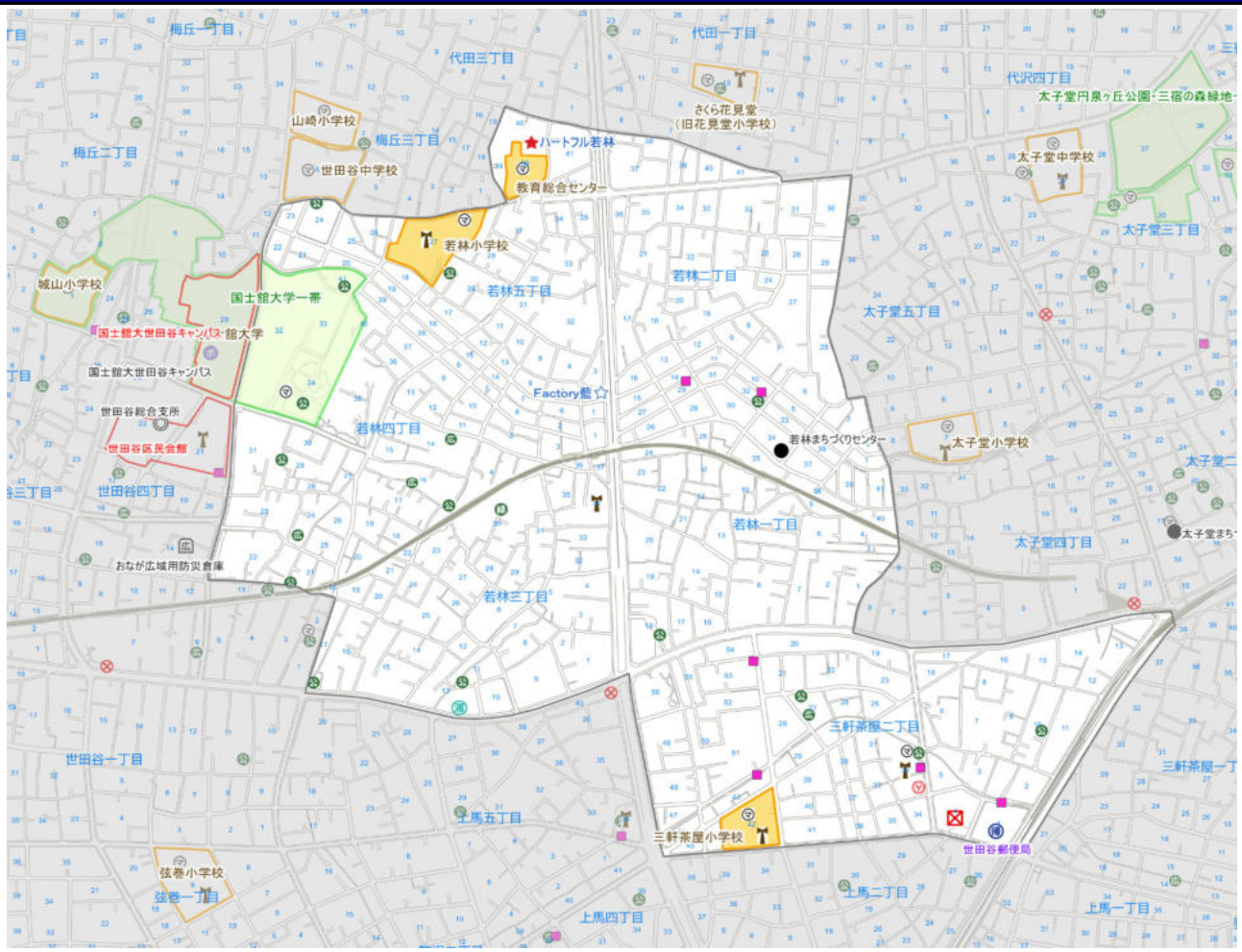


浸水想定(多摩川洪水版)

(5)防災資源一覧

広域避難場所	国士舘大学一帯				
一時集合所	三軒茶屋公園　三軒茶屋小学校　若林1丁目公園　若林ぞうさん公園　若林ふれあいひろば公園　若林もみじ公園　若林稲荷神社　若林公園　若林小学校　世田谷丸山公園　太子堂小学校　中里小学校				
指定避難所	教育総合センター 三軒茶屋小学校 若林小学校				
予備避難所					
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	ハートフル若林				
福祉避難所(障害者)	Factory藍				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	トヨタモビリティ東京㈱ レクサス若林				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	5　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	1　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	烏山川緑道(若林1の28付近)烏山川緑道(若林1の32付近)旧世田谷区保健センター　蛇崩川緑道(三軒茶屋2の3付近)　蛇崩川緑道(三軒茶屋2の43付近)　世田谷丸山公園				
警察署・交番	世田谷警察署				
消防署・出張所	世田谷消防署				

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

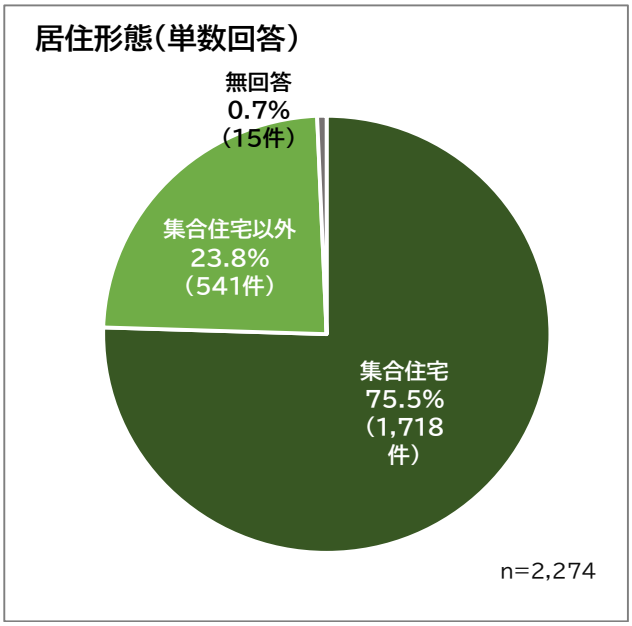
(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

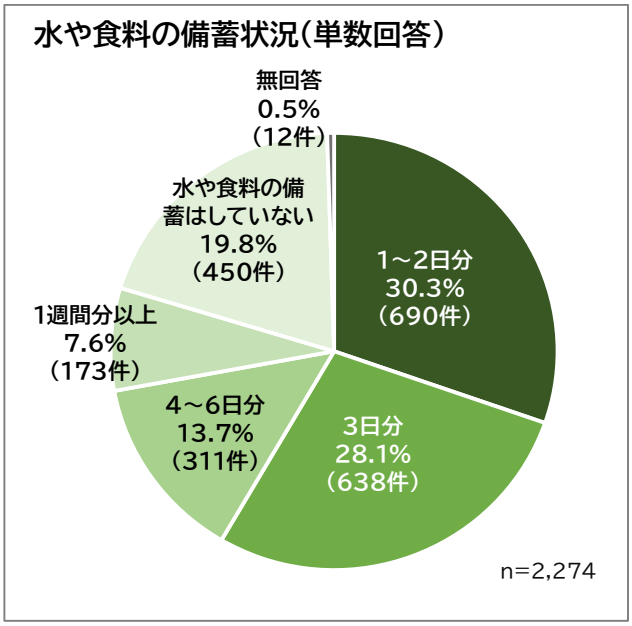
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

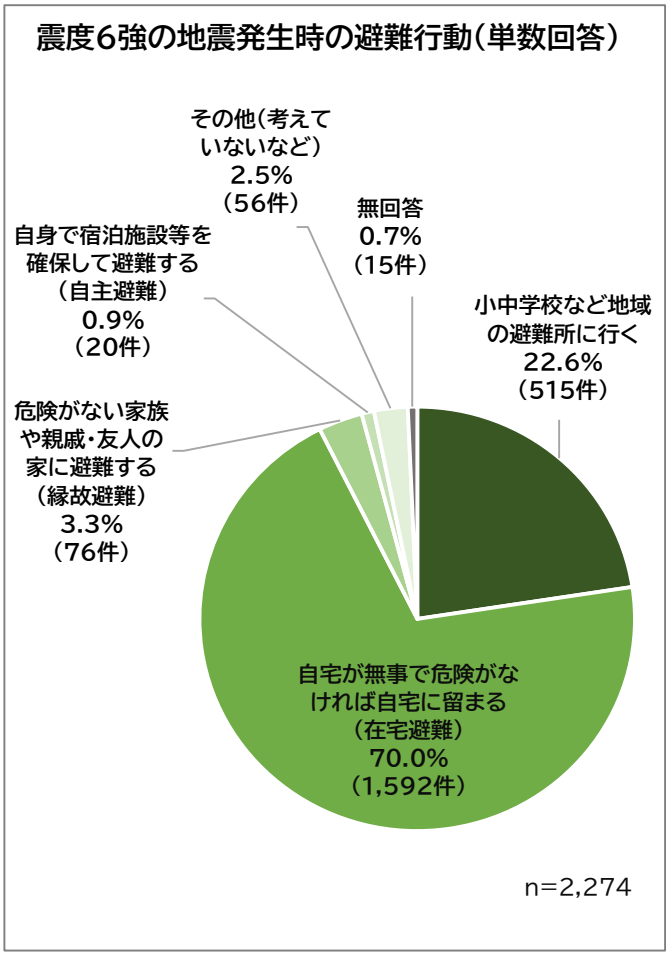


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

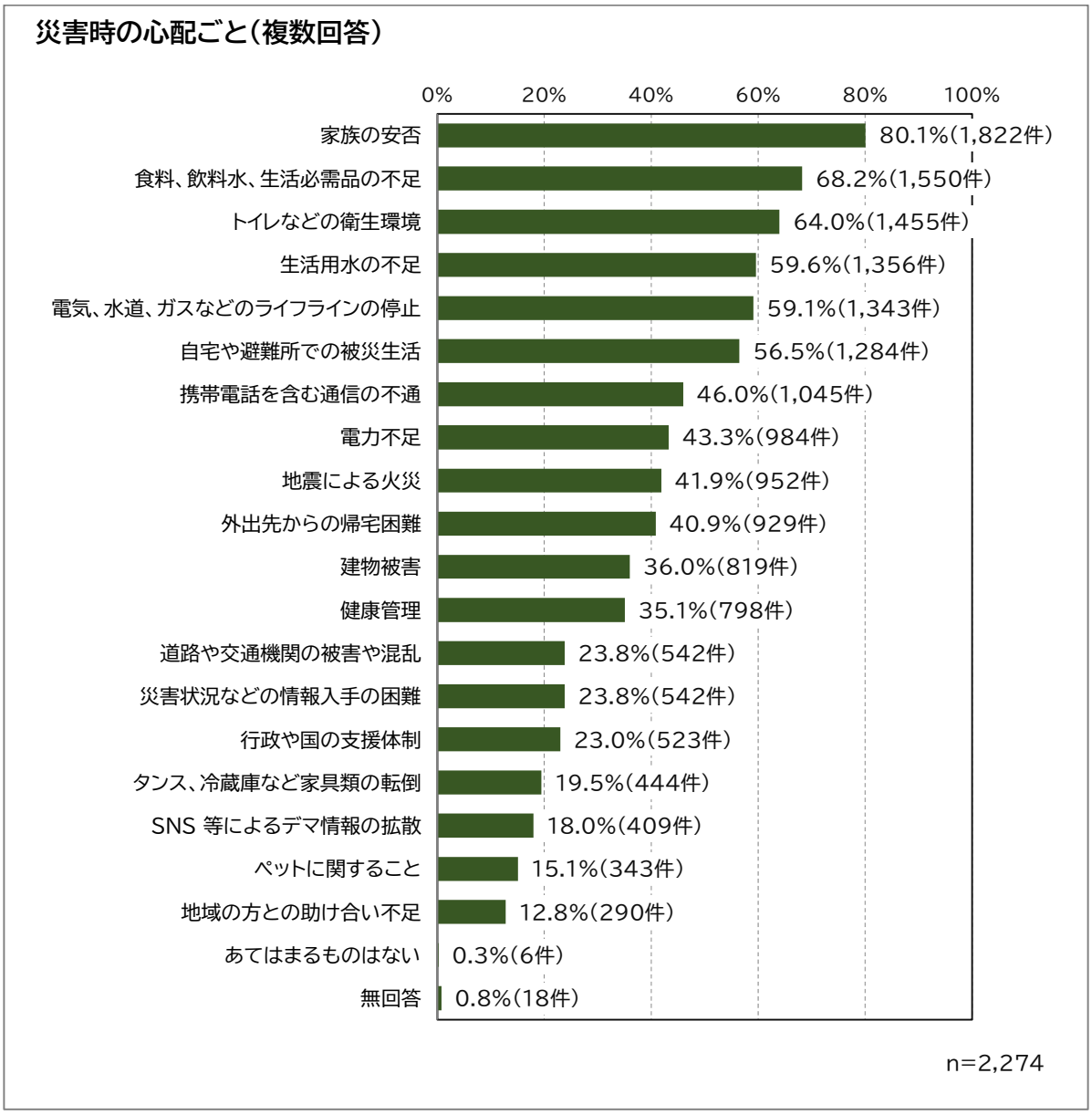


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

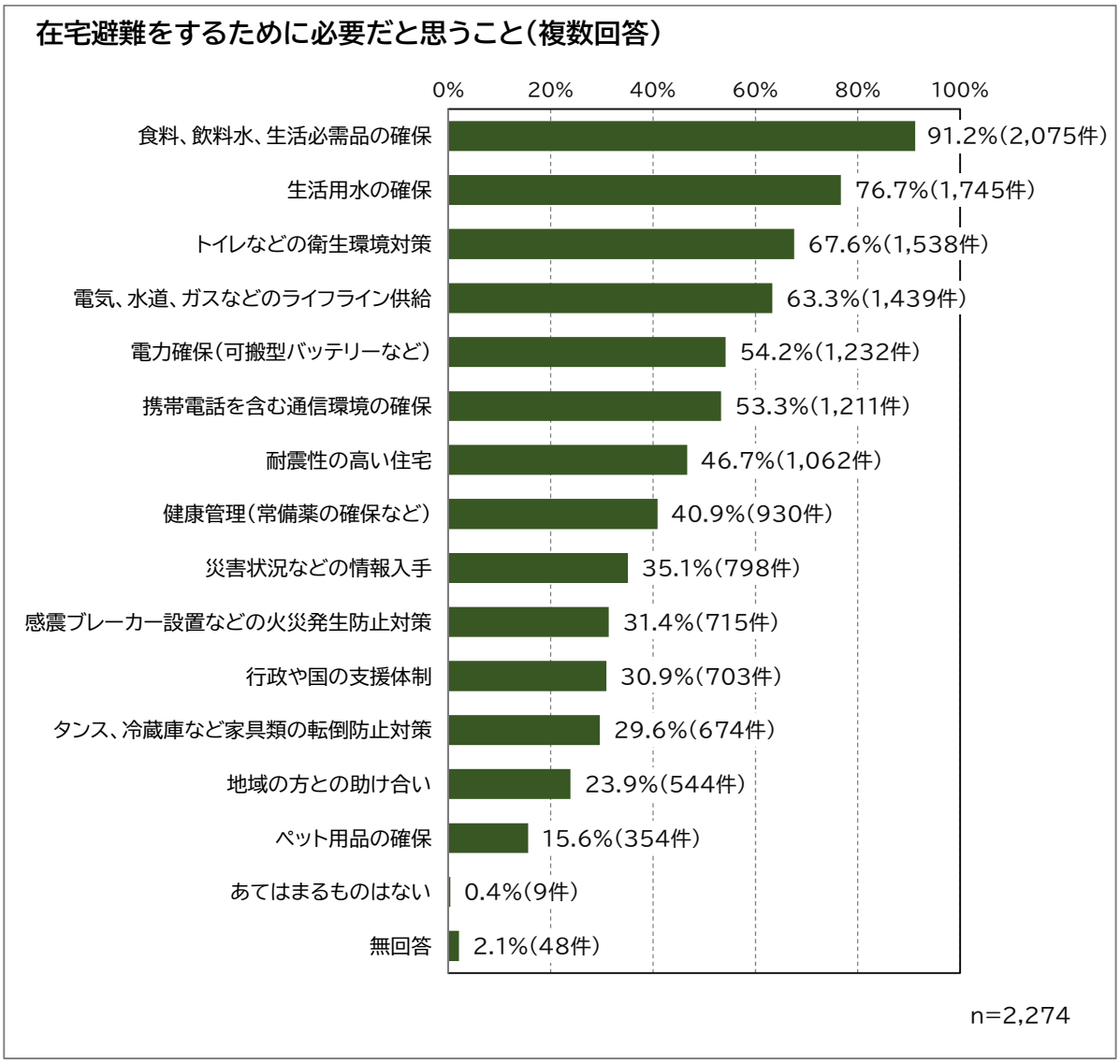


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

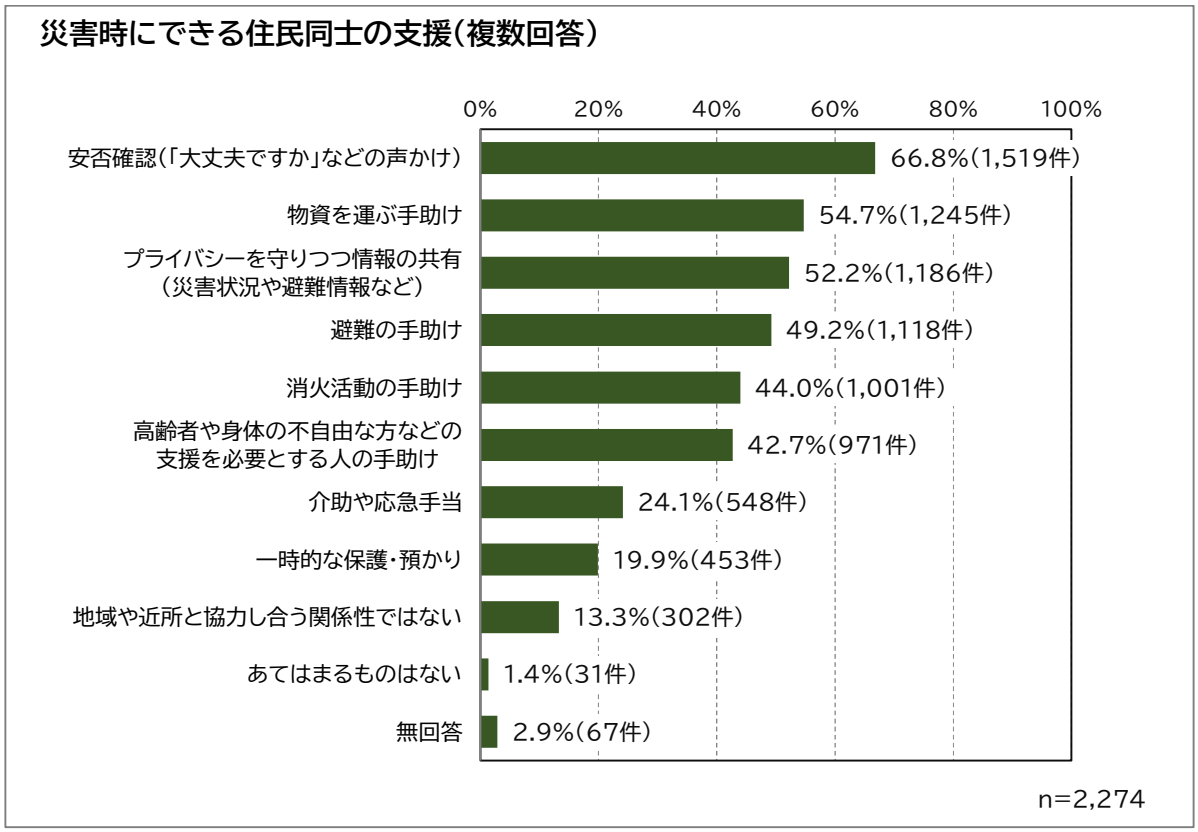


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

単純集計(5/5)

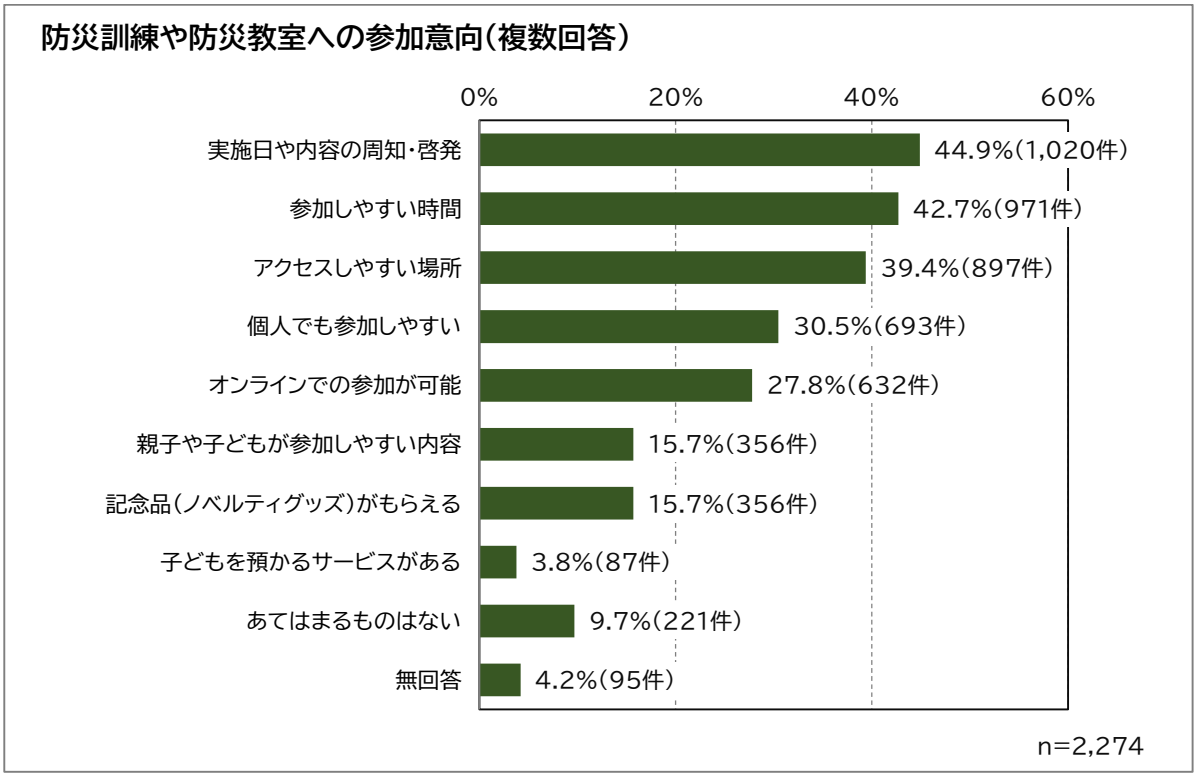
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

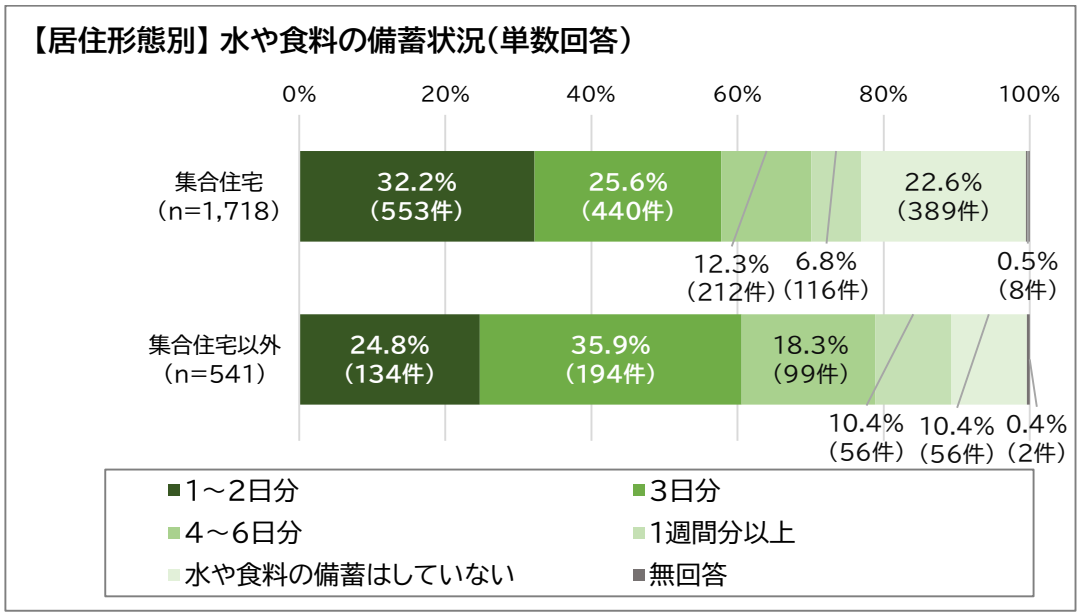


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

クロス集計(1/4)

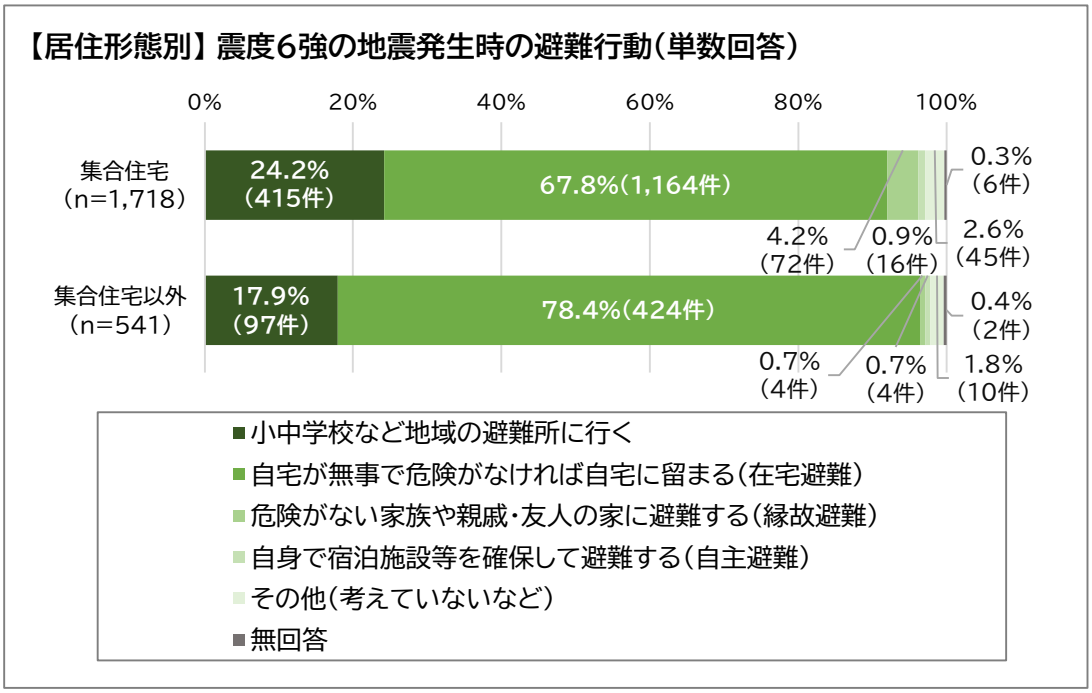
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

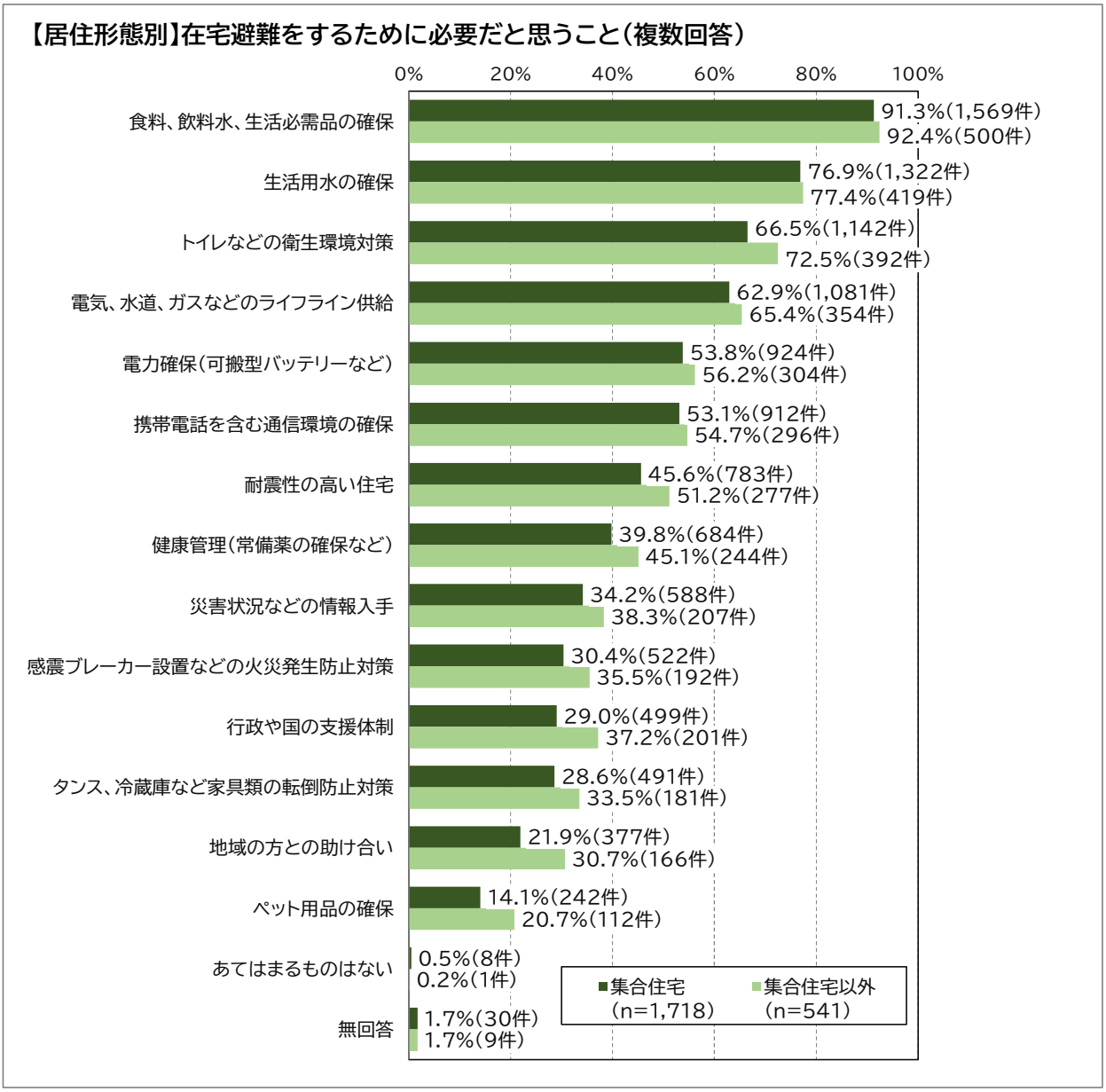
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

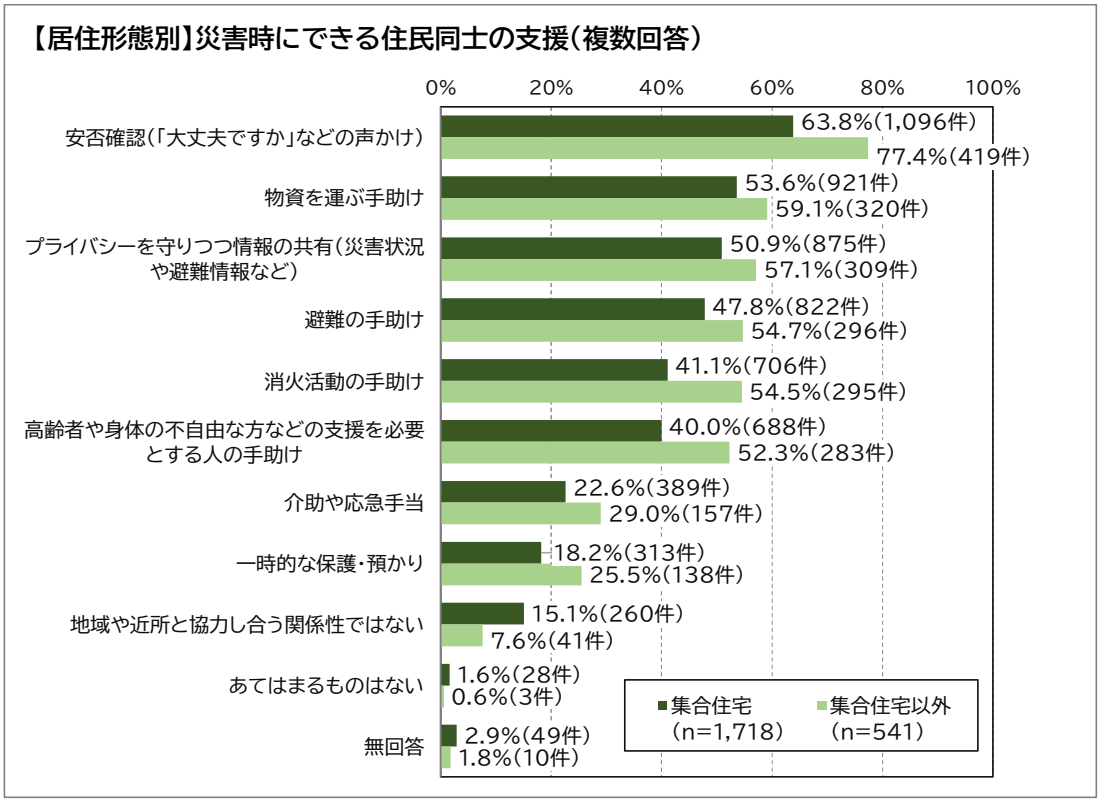


(7)区民アンケート(若林・三軒茶屋地区)

クロス集計(4/4)

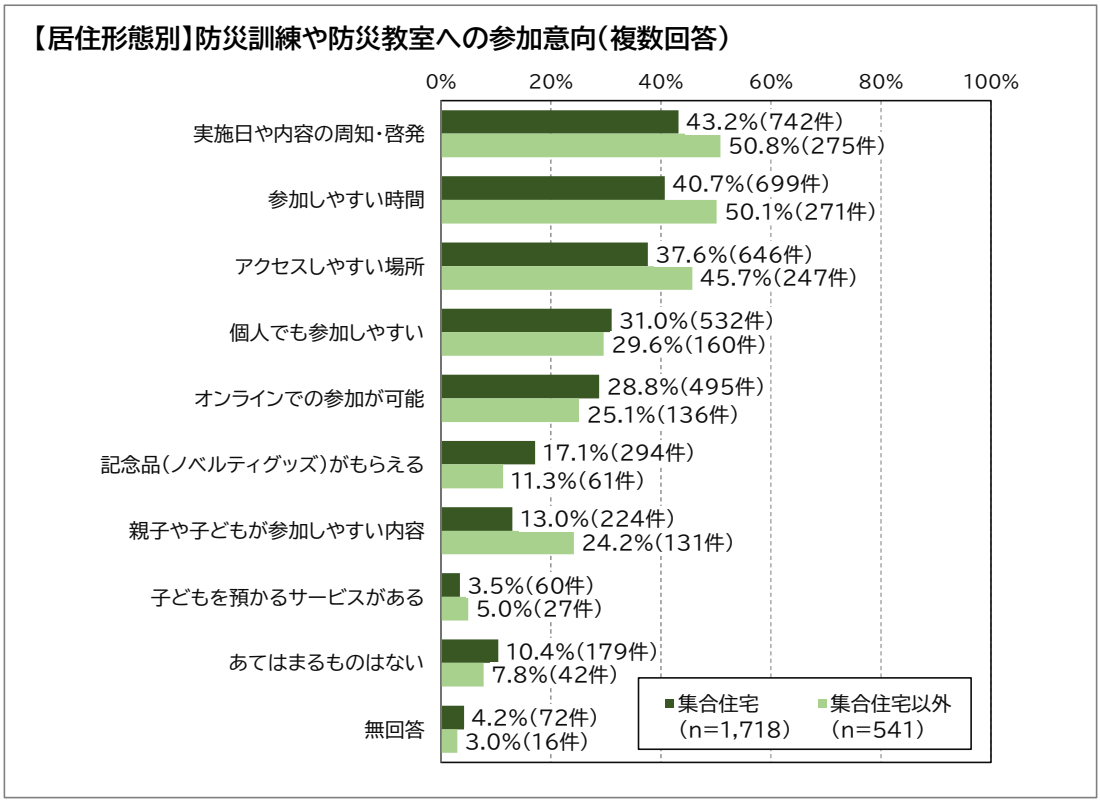
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2. 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備									
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数（年間））	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
若林町会	20	○		各丁目毎ネットワーク会議 防災部会 避難所運営会議	12	○		○		8	防災倉庫 緑道沿い等	7	防災倉庫				
三軒茶屋町会	7	○		防災訓練会議 避難所運営会議	5	○		○		2	防災倉庫	2	防災倉庫				
世田谷通共和会防災本部	20	○		災害時行動マニュアル	1	○		○		6	防災倉庫	7	防災倉庫	2	防災倉庫	AED	
モナーク三軒茶屋	1	○		防災のみに関する会議は行っていないが、管理組合理事会で防災について打ち合せている。	5	○		○		0		0		20	各階2か所		

団体名	防災訓練等の実施								防災マップ												防災士等の数			
			防災訓練		救命救急講習会		その他						掲載情報											
	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない
若林町会	○		6	各ネットワーク毎の拠点	1	世田谷消防署			○				○	○	○	○	○	○	○	スタンドパイプ設置場所	9		7	
三軒茶屋町会	○		1	丸山公園、丸山区民集会所								○									1			○
世田谷通共和会防災本部	○		1	広場	1	区民集会所					○		○					○			1			
モナーク三軒茶屋	○		1	マンション内駐輪場					○				○	○	○						0		0	

団体名	災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他
若林町会	○	○		国士舘大学 小田急ハイウェーバス株式会社	避難誘導サポーター派遣 一時避難にバスの提供	○			○		東京都防災部からの派遣講師を招き、学習会を実施。 避難行動要支援者安否確認訓練を実施。		○	○	
三軒茶屋町会		○			サンベビールーム 施設内に備蓄されている、ミルク、離乳食、紙おむつの提供	○					避難行動要支援者安否確認訓練を実施。				
世田谷通共和会防災本部	○			若林町会			○					○			
モナーク三軒茶屋			○				○		○		通常時は毎月1回会合				高齢者のみ連絡網あり

団体名	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備																	
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
若林町会		○					○	5	1		11	12	22	5	3	7	1	2	14	1	1	チェーンソー、台車、ハンドマイクスピードキー、ほか	防災倉庫
三軒茶屋町会				○			○	2		3	3	4	6		4	3			2			災害用車椅子1台 レスキューカー1台	防災倉庫
世田谷通共和会防災本部							○	○		○		○	○	○	○	○		○					防災倉庫
モナーク三軒茶屋			○				○			○		○	○	○	○	○				○		ロープ、ブルーシート、カッター他	1階管理員室奥倉庫

団体名	食糧等の備蓄																		その他の防災活動
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
若林町会		○	40以上			48			7		170	8	4	6	1	かまどセット、災害用毛布、サバイバルブランケット、ブルーシート、ランタン、ラジオ、ほか	防災倉庫		国士舘大学救急救助総合研究所と連携して、年1回、応急手当・救出救助・搬送・医療トリアージュ訓練を実施。 東京都防災部からの派遣講師を招いて学習会を実施。
三軒茶屋町会		○		296	730		252	120		100	1000	8	3			サンベビールーム施設内に哺乳ミルク、離乳食、紙おむつを備蓄（10名5日分）	防災倉庫		
世田谷通共和会防災本部		○											○						
モナーク三軒茶屋		○		○		○					○	○	○				1階管理員室奥倉庫		

3 若林・三軒茶屋地区の課題と取組み

(1)若林・三軒茶屋地区の概況

1) 自然概況

■位置・面積

行政エリアとしての若林地区の範囲は、若林区域(1 丁目～5 丁目)、三軒茶屋区域(2 丁目)である。面積 1,17k ㎡(三軒茶屋 1 丁目除く)で、世田谷区の中心からやや東寄りに位置している。

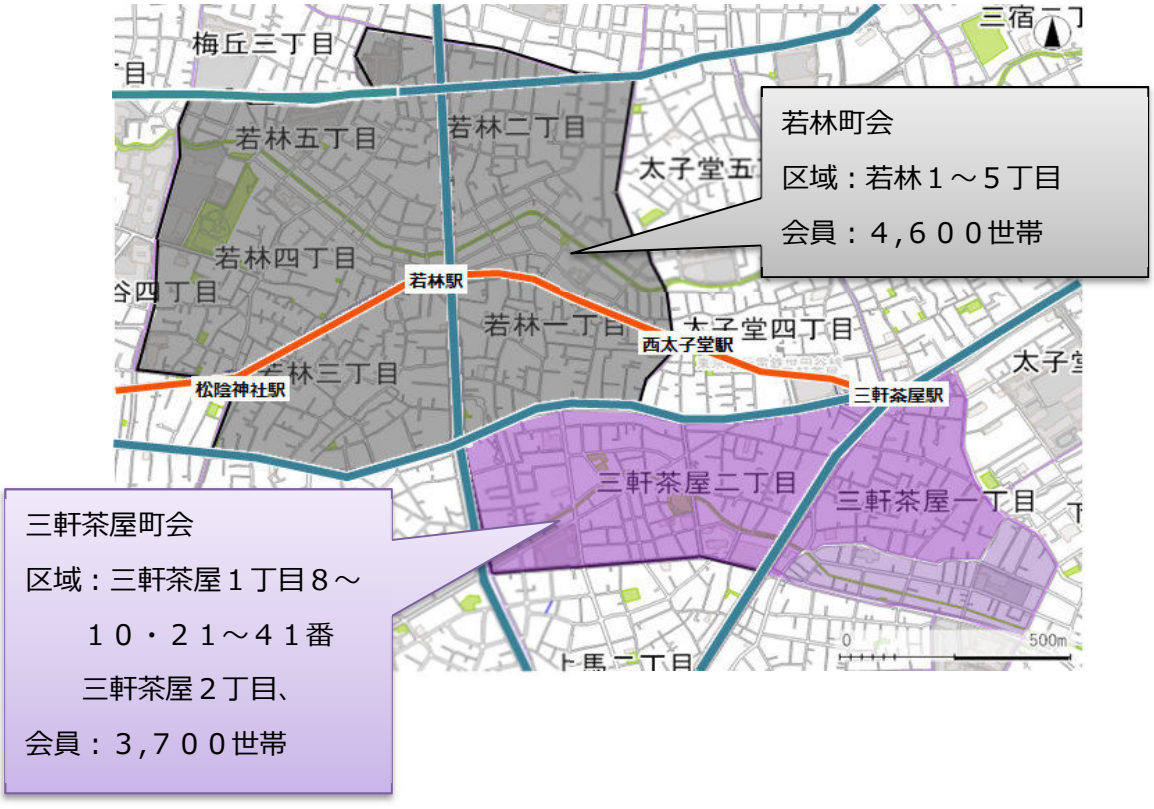
地区防災計画は、三軒茶屋町会の区域である三軒茶屋1丁目8～10・21～41番も含め、若林・三軒茶屋地区として策定した。

■交通

道路:中央を南北に環状七号線が、東西方向に北境界付近を淡島通り・中心を世田谷通りが通っている。また、三軒茶屋 1 丁目と 2 丁目の境を国道 246 号線が区切っている。

公共交通機関:東急世田谷線が、三軒茶屋交差点の三軒茶屋駅・東側境界付近の西太子堂駅・環状七号線脇の若林駅・西側境界付近の松陰神社駅を東西方向に走っている。

図1 若林・三軒茶屋地形図



2） 歴史

■若林

若林は古くから農業を営む村だったが、大正 12 年に関東大震災の被災者が移り住んだ。また、大正 14 年玉川電気鉄道（通称「玉電」）が三軒茶屋～下高井戸まで開通したことを契機として、その後大幅に人口が増加し、首都圏近郊の住宅地となっている。

昭和 39 年（1964 年）、東京オリンピックに起因して整備された環状七号線が、若林の町の真ん中を通り、沿道にはマンションやビルが立ち並んでいる。

■三軒茶屋

大正 12 年（1923 年）の関東大震災後、都心で家を失った人たちが、三軒茶屋に多く流入してきた。玉電が通り交通の便利がよいため人口が急増し、商店街が急速に発展した。

昭和 40 年代半ば以降は、マンションが建ち並び世田谷区の中でも有数の繁華街が形成された。また、オシャレなまちというイメージから「住みたいまち」などのランキングに名を連ねる人気の住宅地としても有名である。

3） 社会概況

表1は、令和4年度に居住支援課が実施した世田谷区内の「マンション実態調査」の内、若林管内の結果を集計したものである。

この結果を見ると、三軒茶屋は集合住宅世帯比率及びマンション棟数の比率が高い密集地区であることがわかる。

表1 マンション棟数及び比率（R4 調査）

所在地	マンション棟数	若林管内の比率
三軒茶屋2丁目	57	44%
若林1丁目	17	13%
若林2丁目	9	7%
若林3丁目	16	13%
若林4丁目	13	10%
若林5丁目	17	13%
合計	129	

4） その他防災資源

近隣地区を含めた、その他の主な防災資源である。

表2 その他の防災資源（近隣地区含む）

<table>
<tr><th>施 設 名</th><th colspan="2">施 設 場 所</th></tr>
<tr><td>医療救護所</td><td colspan="2">駒沢小学校、代沢小学校、桜小学校</td></tr>
<tr><td>遺体収容所</td><td colspan="2">上馬地区会館、代田南地区会館</td></tr>
<tr><td>給水拠点</td><td colspan="2">駒沢給水所、区立こどものひろば公園</td></tr>
<tr><td>帰宅困難者支援施設</td><td colspan="2">世田谷郵便局、太子堂区民センター、上馬地区会館、経堂地区会館</td></tr>
<tr><td>防災無線塔</td><td colspan="2">若林小学校、 若林3－34事務所（旧若林まちづくりセンター）、三軒茶屋小学校、太子堂小学校、中里小学校、世田谷丸山公園</td></tr>
<tr><td rowspan="2">震災時対策用井戸
（民間）
（R6時点）</td><td colspan="2">世田谷地域：307 箇所
区内：1,188 箇所</td></tr>
<tr><td>若林1丁目 2 箇所
2丁目 1 箇所
3丁目 4 箇所
4丁目 3 箇所
5丁目 0 箇所</td><td>三軒茶屋1丁目
8～10 番 0 箇所
21～41 番 2 箇所
三軒茶屋2丁目 2 箇所</td></tr>
<tr><td>ボランティア
マッチングセンター</td><td colspan="2">昭和女子大学、国士舘大学世田谷キャンパス</td></tr>
<tr><td>区有井戸</td><td colspan="2">若林もみじ公園、三軒茶屋小学校</td></tr>
</table>

5） 減災対策の施策

下記2項目とも、世田谷区の取り組みである。

①新たな防火規制

新しく建てる建物に耐火性能を義務付けるもので、火災に弱い木造建物の再生産はしないという規制である。

若林 1 丁目、若林 2 丁目(37～41 番除く)および若林 3～5 丁目が区域指定されている。三軒茶屋町会区域は対象ではない。

表3 新たな防火規制対象区域

町会	対象区域
若林町会	全域(若林 2 丁目 37～41 番除く)
三軒茶屋町会	該当なし

②不燃化特区制度

現状ある木造建物を解消するという制度で、戸建建替の助成制度や専門家派遣支援などがある。

若林 1 丁目、若林 2 丁目(37～41 番除く)および若林 3～5 丁目が区域指定されている。三軒茶屋町会区域は対象ではない。

表4 不燃化特区制度の対象区域

町会	対象区域
若林町会	全域(若林 2 丁目 37～41 番除く)
三軒茶屋町会	該当なし

（2）地区防災計画策定時（平成28年）から現在までの取組み

若林・三軒茶屋地区では、平成28年度の地区防災計画策定時に以下の課題を抽出し、それに基づいた行動計画（取組みの方向性）を策定した。現時点での活動結果は以下のとおりである。

	課題	活動結果
1	一時集合所の見直しと情報提供	H28　丸山公園、若林ふれあい広場公園での災害情報掲示板の設置
2	集合住宅用防災マニュアルの作成	H29　集合住宅防災マニュアル（若林コンド）の作成 R5　集合住宅向け防災セミナーの開催、及びマニュアル作成の啓発
3	災害時要援護者（現：避難行動要支援者）の安否確認	R29　問い合わせ訓練 R6　要支援者（同意者）に安否確認バンダナを配布 安否確認訓練の実施
4	避難所に避難しない避難生活について	H29　在宅避難啓発用パンフレット「在宅避難のススメ」作成 R3　同パンフレット改訂　全戸配布 R6　同パンフレット改訂 ※この間「在宅避難のススメ」を活用した避難所運営訓練や防災訓練・教室等を実施

（3）令和3年以降見出された課題

1）令和3年修正　若林・三軒茶屋地区防災計画について

令和3年に修正した地区防災計画では、今後の取組として①拡大した見守りネットワークによる避難行動要支援者の安否確認訓練の実施　②「在宅避難のすすめ」啓発の継続を行動指針として定めた。

①については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、訪問の自粛、団体間の交流制限などにより、活動自体が中止・縮小する期間があった。訓練に関しても、それまで行っていた架空の名簿を使い、まちづくりセンターに情報を集約する「問い合わせ訓練」に一定の効果が見込まれたこと、実際の名簿登載者を巻き込む必要性があること等をふまえたより実践的な訓練を望む声があがった。

②については、感染症対策により避難所における避難者受け入れ可能数がさらに縮小したこと、避難所運営において新たに感染症への対応等も増え、運営面でのリソース不足が顕在化したことを踏まえ、より一層在宅避難の啓発強化が求められることになった。

2)各種アンケート結果について

①防災カタログギフト申込者アンケート

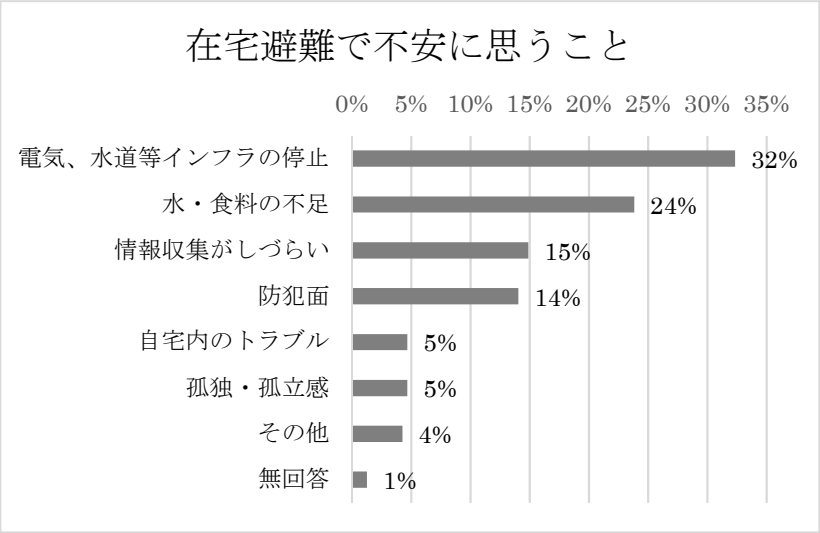
「震度6強の地震発生時の避難行動」を問う問いでは、若林管内在住者の「自宅に留まる(在宅避難)」との回答は70%となり、全区平均より低い結果となった。逆に「避難所に行く」との回答は22.6%、「考えていない」が2.5%となり、いずれも全区平均より高かった。特に集合住宅居住者に上記の回答が多く、集合住宅居住者に在宅避難の意識が浸透してないことがわかった。

また、「災害時にできる住民同士の支援」を問う問いでは、「地域や近所と協力し合う関係性ではない」との回答が全区平均より高かった。

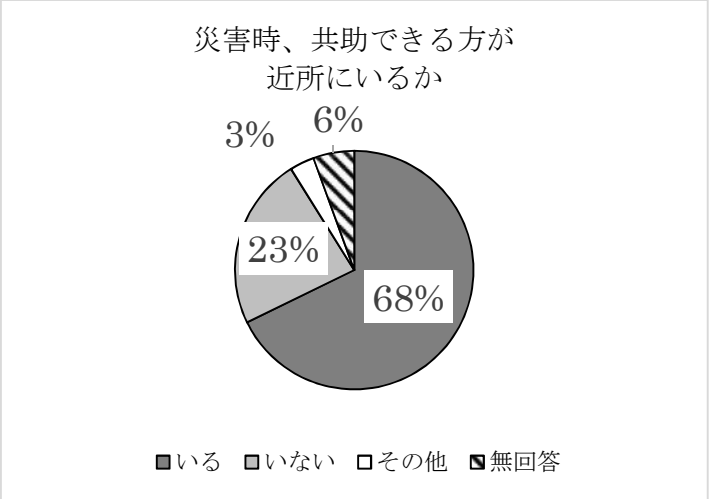
②まちづくりセンター管内でのアンケート

管内で行った各種まちづくり・防災活動の参加者に対して防災アンケートを行った。(回答数 90 人)

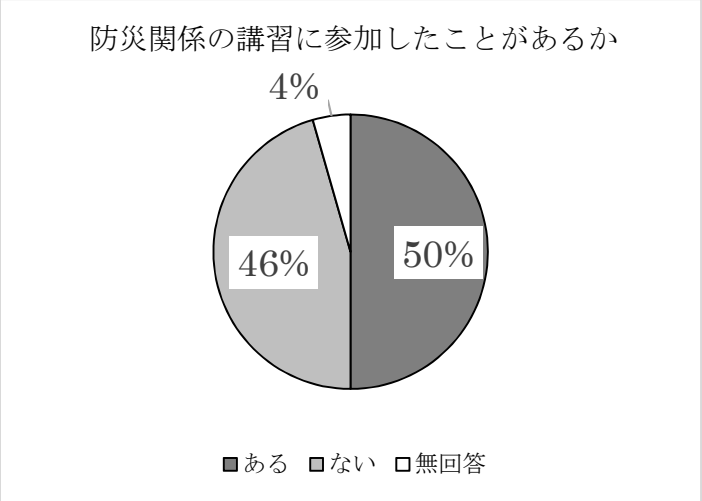
■在宅避難を続けるにあたっての不安点

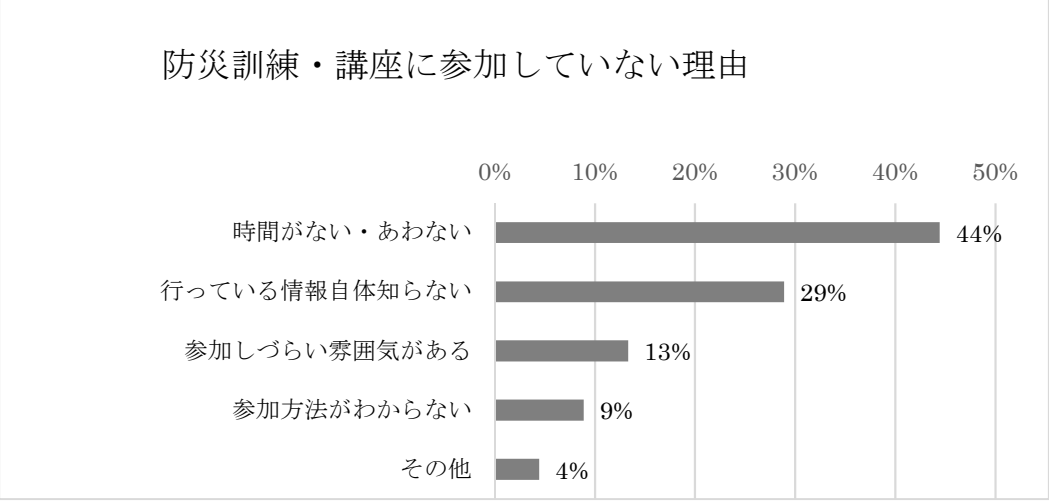


■災害時での助けあい



■防災訓練や事業への参加経験や理由





3)防災塾

■令和4年度「地域防災の新たなステージ～地域と福祉と防災と」防災と福祉の連携について、地区内の地域資源となる団体、事業所、施設などとの連携強化を求める意見が上がった。

■令和5年度「近年の自然災害とマンションの備え～マンション防災マニュアルの重要性について～」防災マニュアルを作成しているマンションが少ないこと、またマンション内での防災訓練参加率が低いことなどについて意見が交わされた。

4)その他

令和 6 年能登半島地震での被害状況やボランティア参加者の報告などを町会の防災部会やネットワーク会議、身近なまちづくり推進協議会安全安心部会、避難所運営委員会で議題にした。特に、震災時のトイレ対応が大きな課題であること、非常用携帯トイレ・簡易トイレの備えの必要性について声が上がった。

（4）今後の取組み方針

若林・三軒茶屋地区で重点的に取組む行動

①在宅避難の啓発・支援の強化　　②集合住宅への働きかけ

③避難行動要支援者支援活動の推進　　④防災の担い手の発掘・連携強化

①在宅避難の啓発・支援の強化

	行動計画
平常時	・地区で作成した在宅避難啓発パンフレット「在宅避難のススメ」を随時更新し、配布する。 ・防災事業・訓練で在宅避難の啓発を行う。 ・在宅避難者への対応を想定した避難所運営訓練を行う。 ・非常用携帯トイレ・簡易トイレの使い方や備蓄の推進などの普及啓発を行う。 ・在宅避難を行うためには、燃えない、倒壊しない自宅の確保が第一。住み慣れた自宅で安全に避難生活を送れるよう、延焼リスクのある木密地域を中心に初期消火訓練を行う。また、耐震化や家具の転倒防止についても周知を行う。
災害時	・延焼リスクのある木密地域ではエリアでは初期消火を優先的に行う。 ・避難所運営委員会は、在宅避難者へ正しい情報提供を行うと共に、在宅避難者向けの水・物資、充電場所の提供を行う。 ・地域での防犯パトロール、見回り・声掛けを強化する。

②集合住宅への働きかけ

	行動計画
平常時	・集合住宅居住者を対象にした在宅避難の啓発を行う。 【マンション対象】 ・マンション防災マニュアル作成のよびかけと作成協力 ・マンションに住む避難行動要支援者の安否確認訓練を居住者やマンション管理人、管理組合と協力して行う。 ・マンションと地域が協力した防災訓練の実施 ・マンションと町会の日頃からの連携・交流
災害時	・建物や自室が無事であれば在宅避難を呼びかける。 ・オートロックマンション居住の要支援者（同意者）の安否確認を、居住者と共に行う。

③避難行動要支援者支援活動の推進

	行動計画
平常時	・町会は、名簿情報提供同意者に対し災害時の安否情報を意思表示するためのバンダナ配布を行い、この取組の周知を図る。 ・毎年9月1日に要支援者（同意者）も参加した安否確認訓練を行う。訓練では、要支援者（同意者）のバンダナ掲示率向上を目ざすと共に、見守りを行う側の支援協力者を増やす。 ・発災時に迅速・効率的に安否確認を行えるよう、見回りルートの確認や要支援者（同意者）の居住・地域特性などを事前に把握・準備しておく。
災害時	・名簿管理者以外の地区住民とも協力し、安否確認を行う。 ・オートロックマンション居住の要支援者の安否確認を、居住者と共に行う。（再掲） ・地区内の介護事業者等と連携し、要支援者の安否確認を行う。 ・安否情報はすみやかに若林拠点隊（まちづくりセンター）に報告する。

④防災の担い手の発掘・連携強化

	行動計画
平常時	・地域の各種イベントに防災啓発を組み合わせる。 ・商店街、民間企業、PTA、おやじの会などの地域団体や、小学校・大学と連携し、防災事業を行う。 ・見守り・防犯パトロールや地域のお祭り・イベント等を通し、地域活動協力者の裾野を広げ、顔見知りの仲間を増やす。 ・防災事業の広報・PR 手段の工夫（HP、電子回覧板、SNS 等） ・他地区の団体との関係性を築く。
災害時	・地域の団体やボランティア（被災動物ボランティア含む）と連携し、避難所運営・被災者支援を行う。 ・名簿管理者以外の地区住民、オートロックマンション居住者、介護事業者とも協力し、要支援者（同意者）への迅速な安否確認を行う。

上町地区防災計画

［令和7年修正］

上町地区

上町地区防災計画作成団体

（順不同）

NO	上町地区防災計画作成協力団体
1	世田谷上町町会
2	世田谷東町会
3	世田谷2丁目町会
4	桜町会
5	松丘町会
6	弦巻町会
7	桜小学校避難所運営委員会
8	松丘小学校避難所運営委員会
9	弦巻小学校避難所運営委員会
10	桜木中学校避難所運営委員会
11	弦巻中学校避難所運営委員会
12	上町あんしんすこやかセンター
13	上町社会福祉協議会
14	上町地区身近なまちづくり推進協議会防災対策部会

目 次

1 上町地区の特性 ……上町-1(-104-)
(1)自然特性 ……上町-1(-104-)
(2)社会特性 …… 上町-2(-105-)
(3)地域危険度 …… 上町-4(-107-)
(4)被害想定 …… 上町-5(-108-)
(5)防災資源一覧 …… 上町-8(-111-)
(6)防災資源マップ ……上町-9(-112-)
(7)区民アンケート …… 上町-10(-113-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ ……上町-19(-122-)

3 上町地区の課題と取り組み……上町-24(-127-)
(1)方針 ……上町-24(-127-)
(2)課題 ……上町-24(-127-)
(3)課題に対する取り組み……上町-24(-127-)

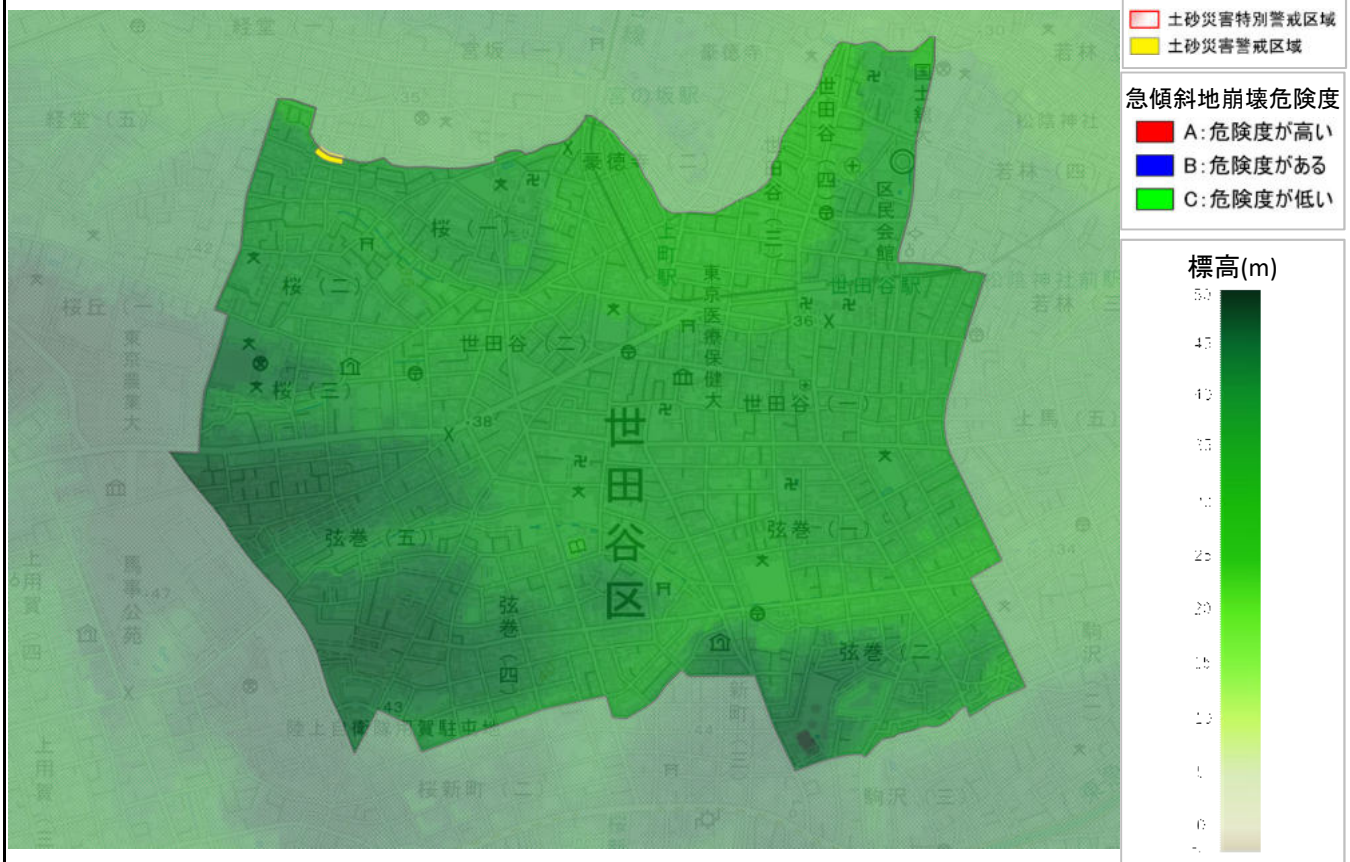
1. 上町地区の特性

(1)自然特性

面積	2.56　Km²	最高標高	51.0　m	最低標高	30.4　m

位置

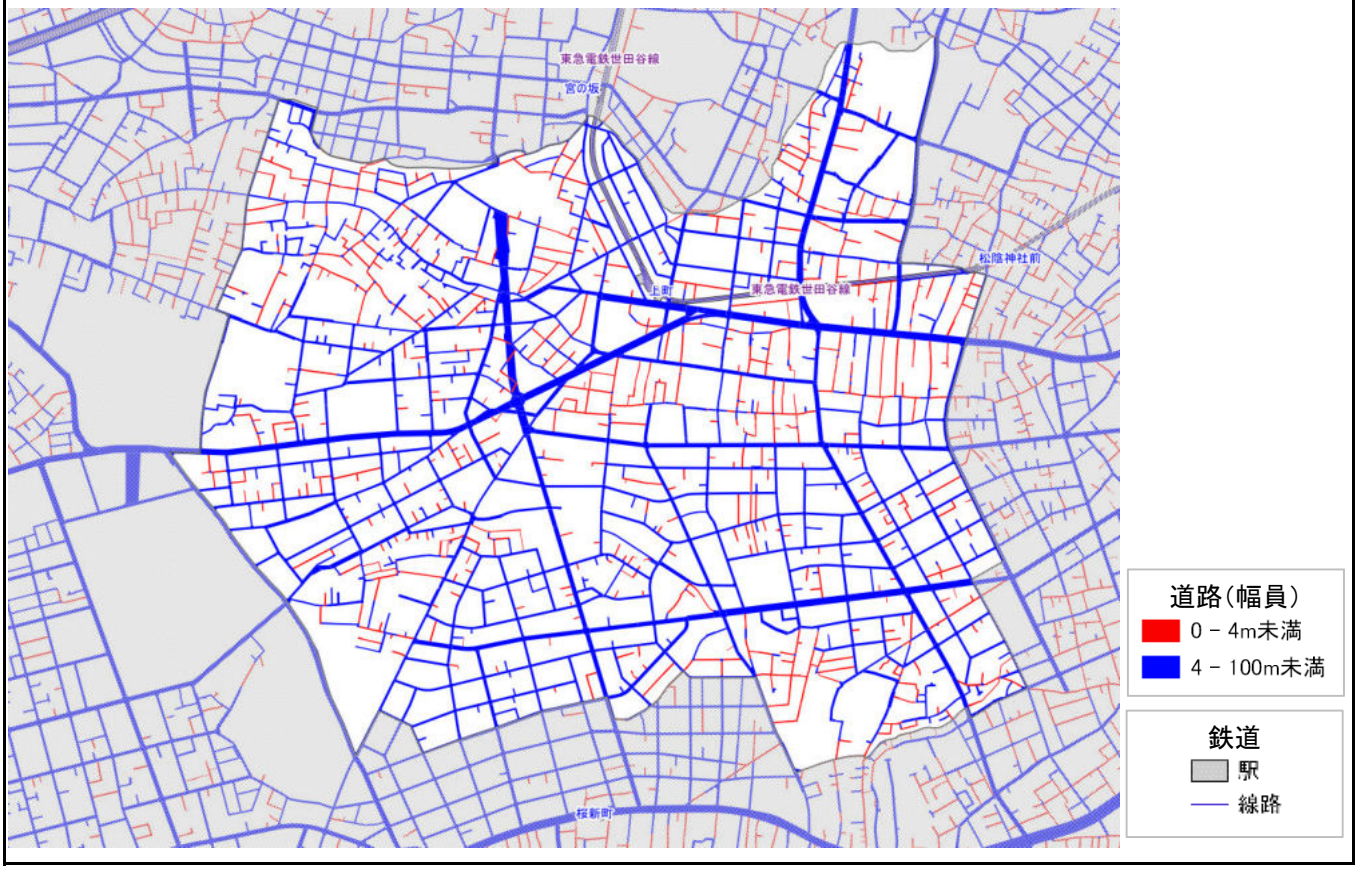
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

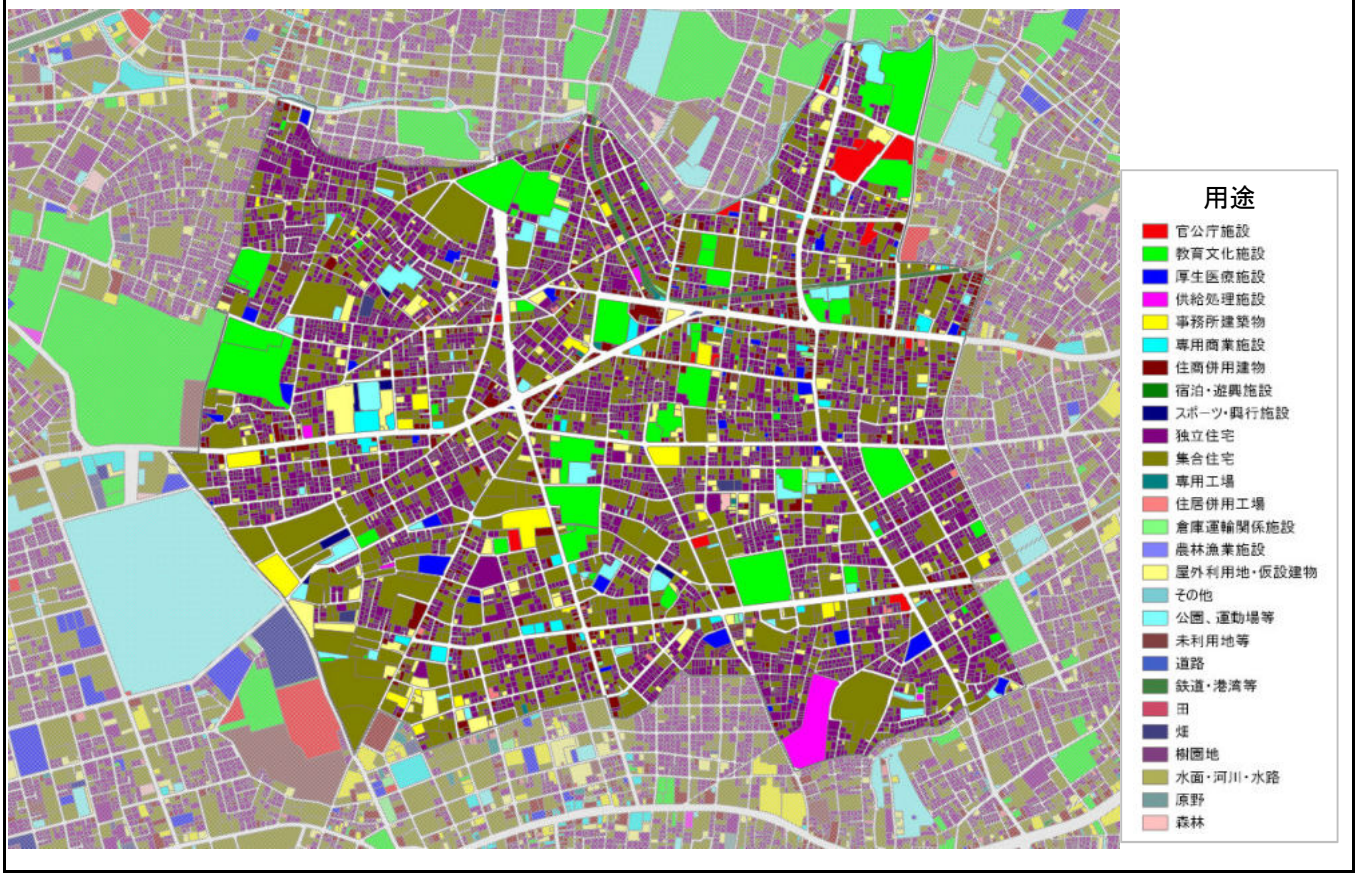
人口	53,832 人	細街路率		30.1 %	
世帯数	28,194 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		82.7 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.91 人	耐火率(建築面積ベース)		66.3 %	
若年層数(15才未満)	6,699 人	土地利用(宅地)		74.1 %	
若年層率(15才未満)	12.4 %	土地利用(宅地以外)		25.9 %	
高齢者数(65才以上)	10,819 人	鉄道駅	東急世田谷線世田谷駅 上町駅		
高齢者率(65才以上)	20.1 %				
昼間の人口	49,688 人	産業	商業	90.3 %	
夜間の人口	55,032 人		工業	6.4 %	
昼夜間人口比	0.90 -		農業	3.4 %	
町会・自治会数	6 -				

道路・公共交通機関



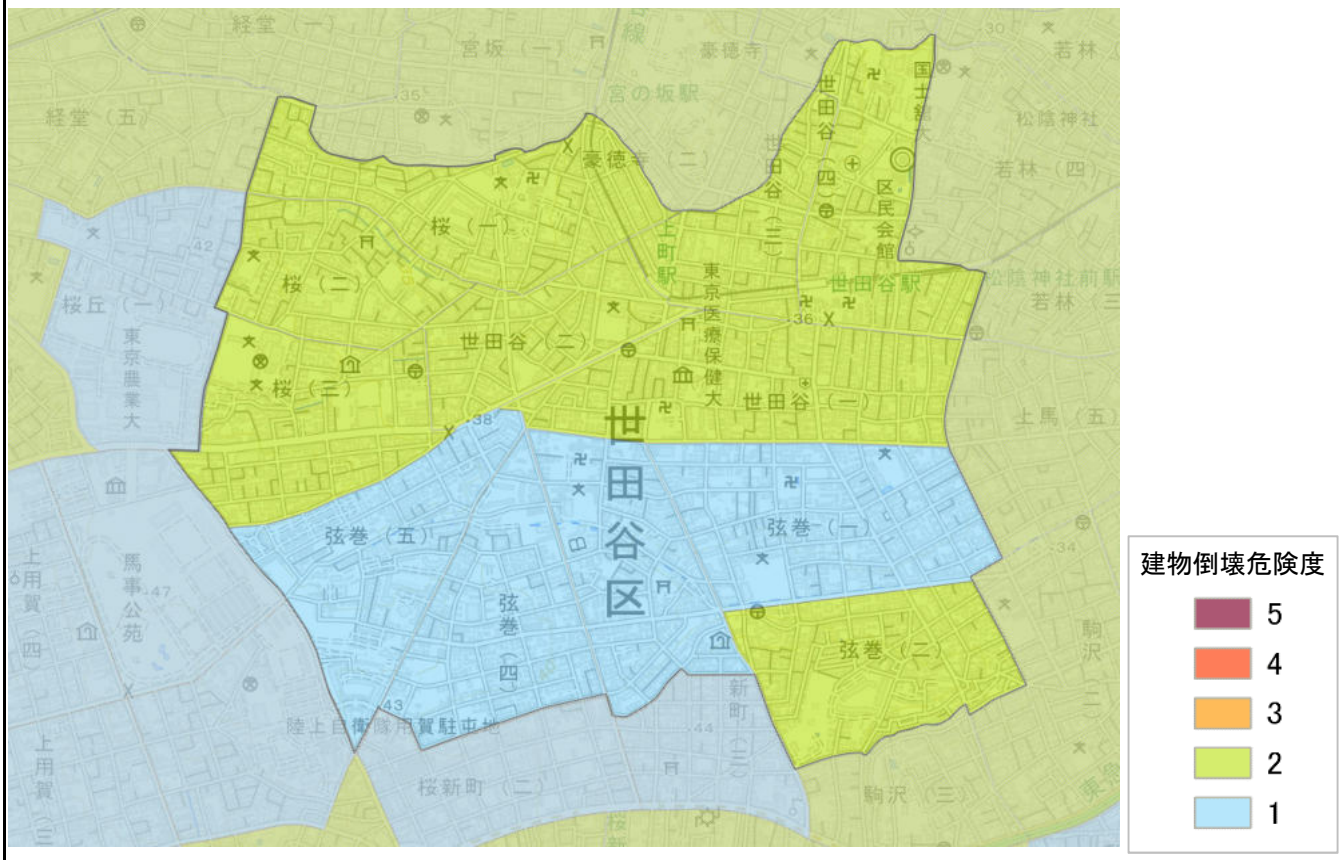
(2)社会特性

産業

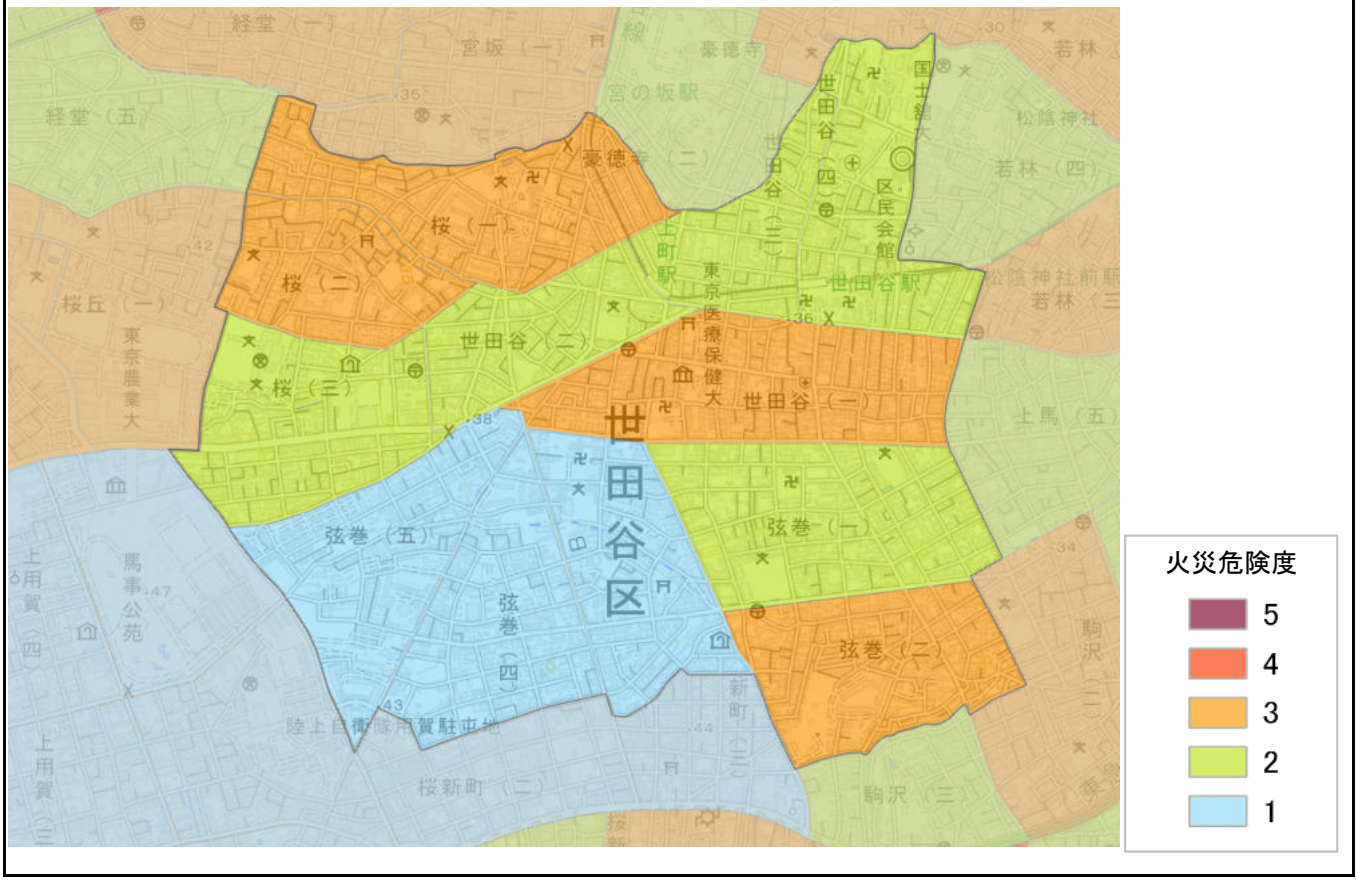

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



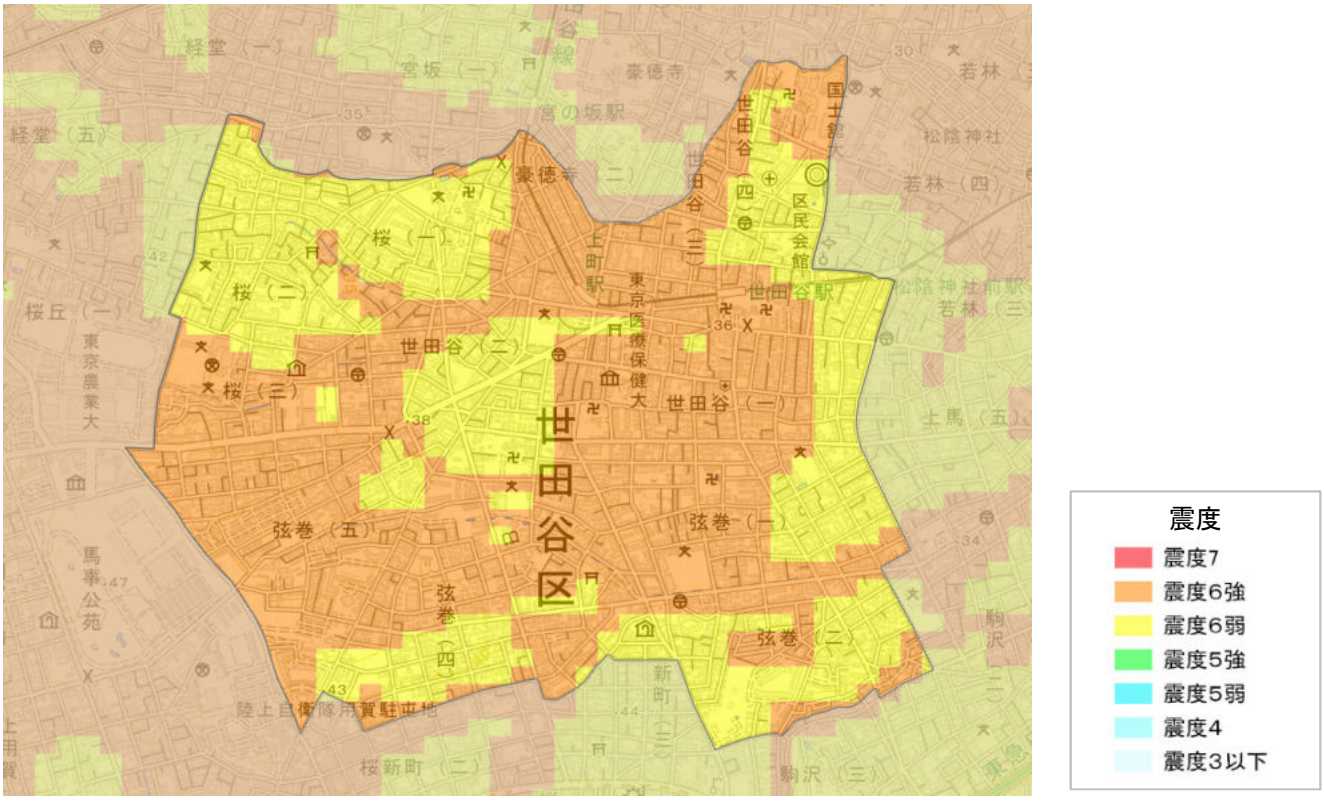
火災危険度



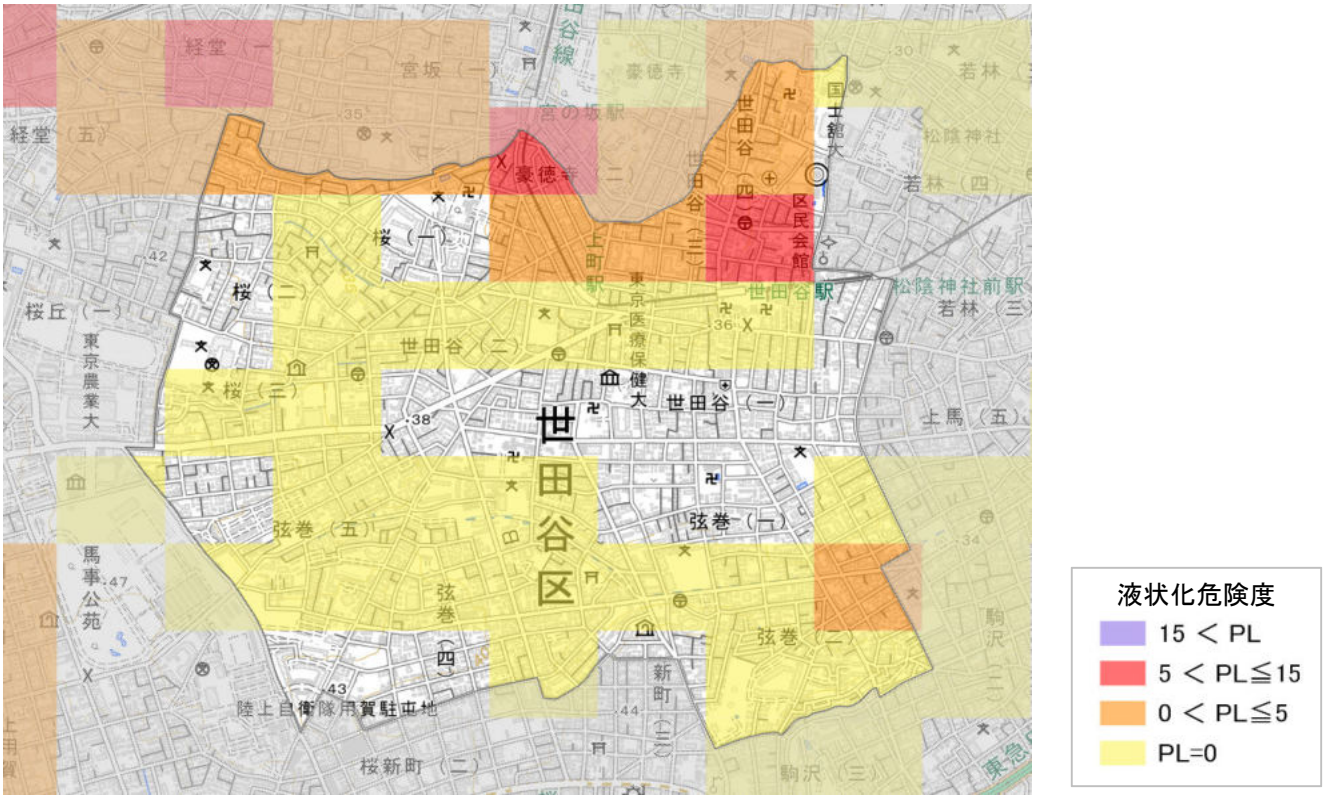
(4)被害想定

全壊棟数	350 棟	死者	35 人
半壊棟数	983 棟	負傷者	383 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	965 棟	うち重傷者	65 人

震度分布

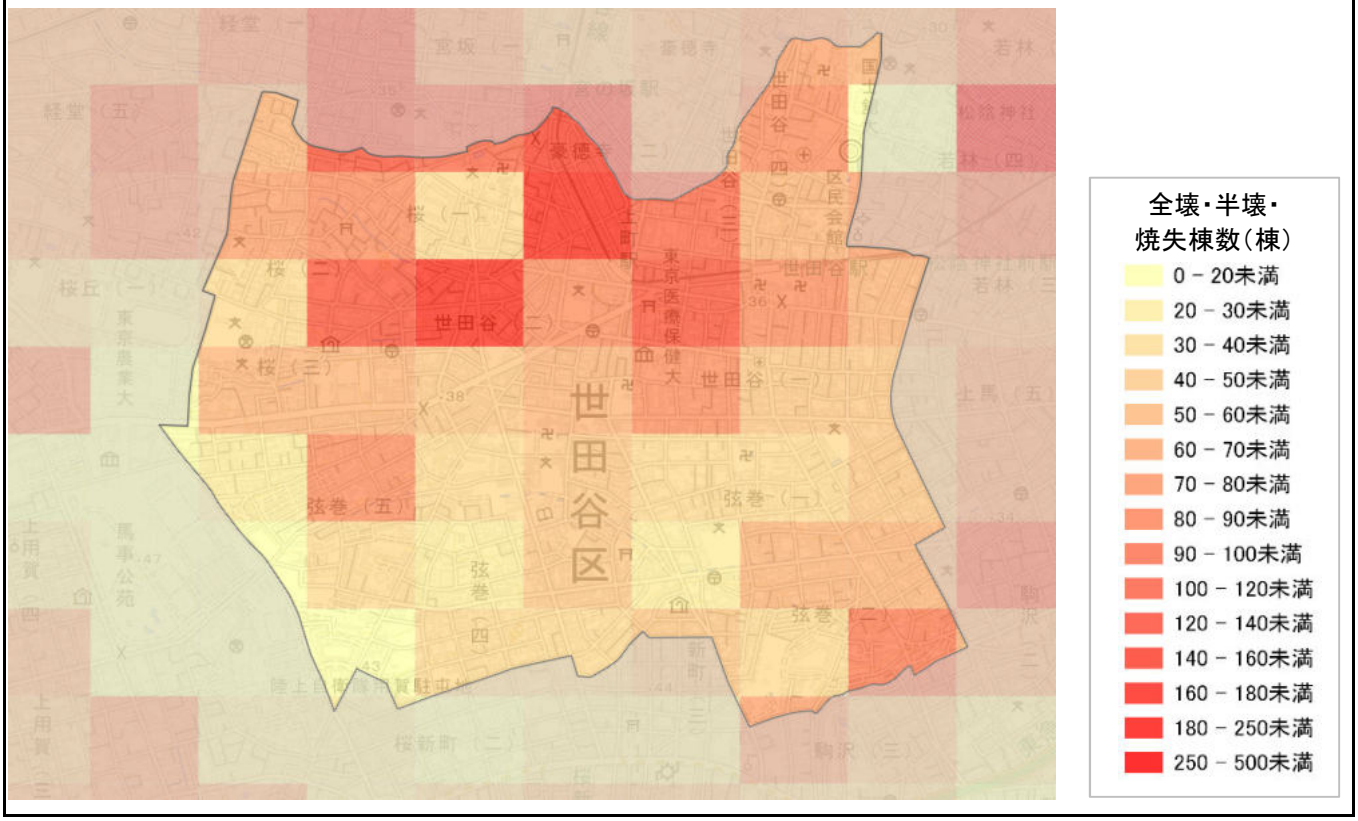


液状化分布



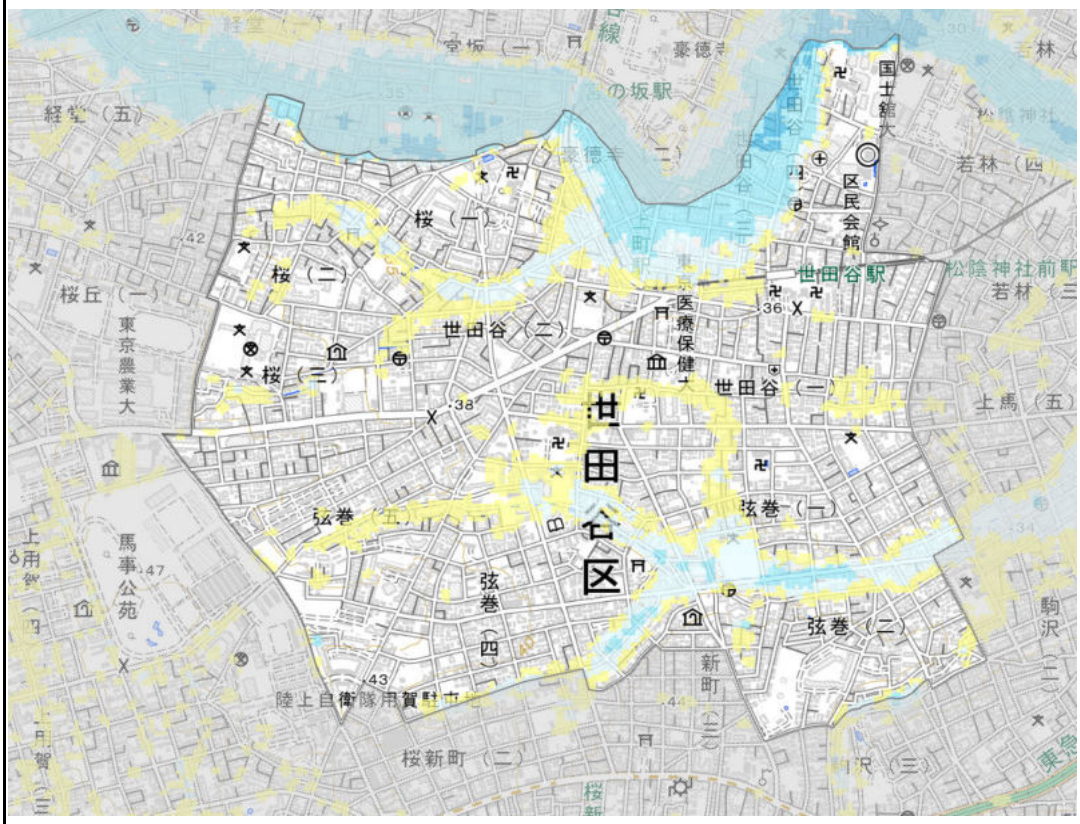
(4)被害想定

被害棟数分布

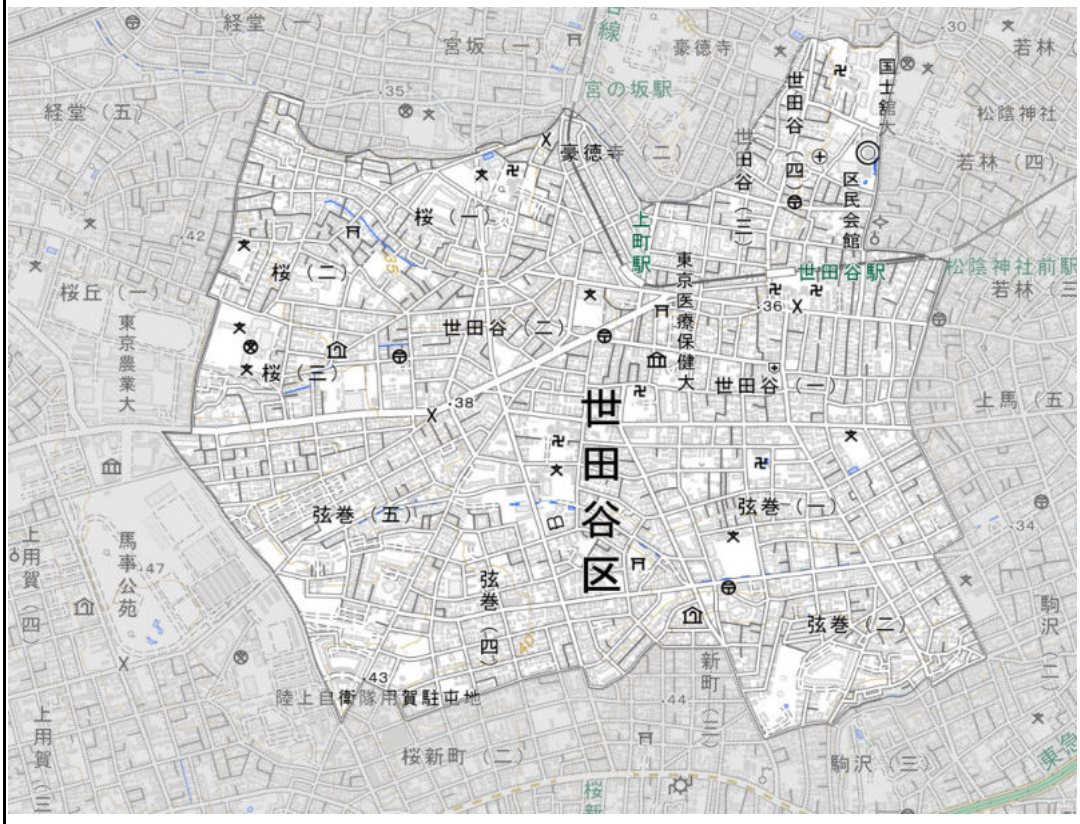


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



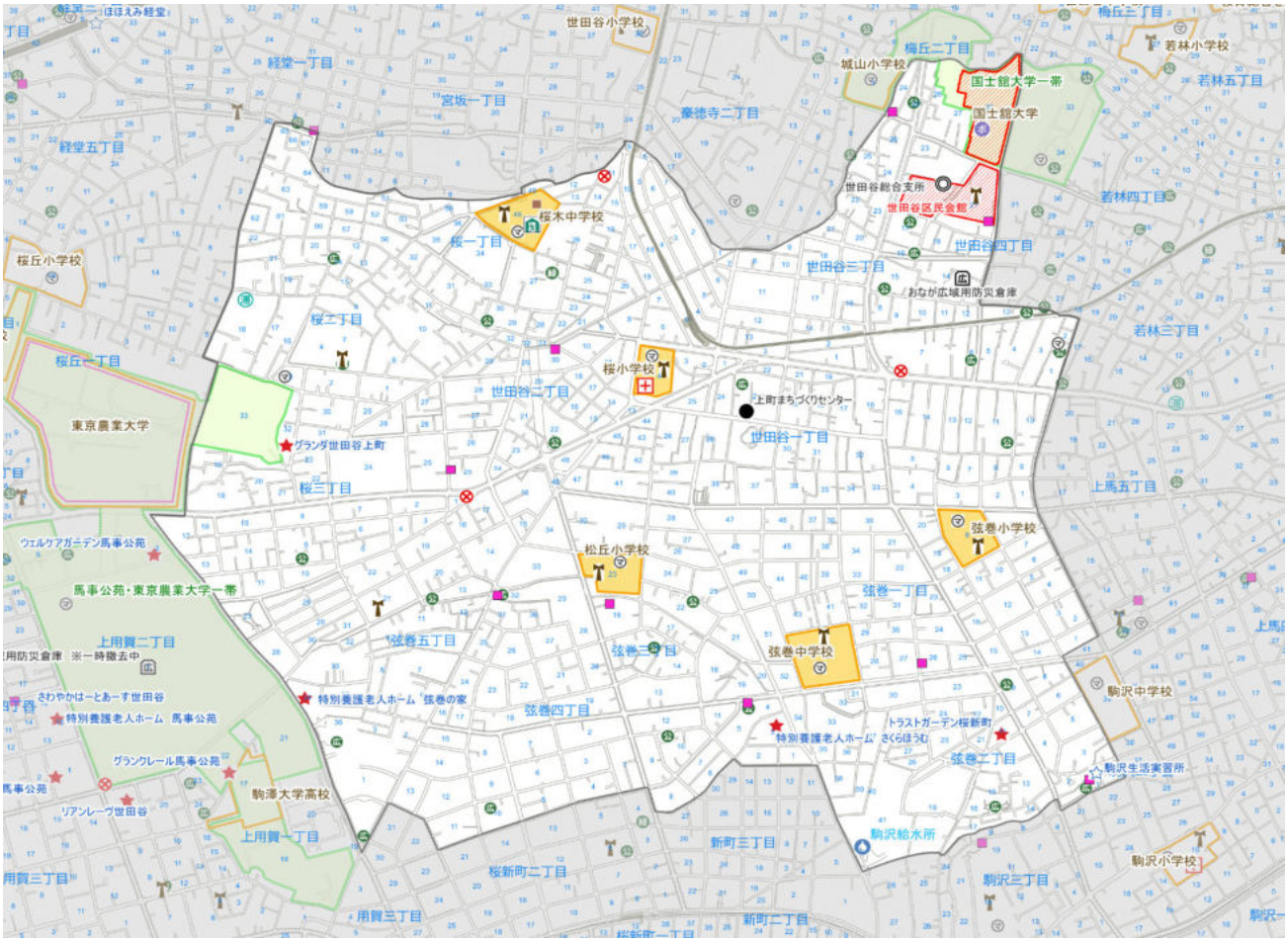
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	国士舘大学一帯　馬事公苑・東京農業大学一帯				
一時集合所	オークラランド住宅公園　オークラランド駐車場　くぬぎ公園　せたがやみどり公園　弦巻どんぐり山公園　弦巻三丁目東公園　弦巻小学校　弦巻神社　弦巻中学校　桜みんなの公園　桜小学校　桜木中学校　勝国寺　松丘小学校　城山小学校　世田谷2丁目ふれあい公園　世田谷区役所　大吉寺　天祖神社				
指定避難所	弦巻小学校 弦巻中学校 桜小学校 桜木中学校 松丘小学校				
予備避難所	国士舘大学				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	トラストガーデン桜新町　グランダ世田谷上町　特別養護老人ホーム さくらほうむ　特別養護老人ホーム弦巻の家				
福祉避難所(障害者)	駒沢生活実習所				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	桜木中学校				
土砂災害時避難所	桜木中学校				
避難所救護所	桜小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	和光小学校				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター	国士舘大世田谷キャンパス				
マンホールトイレ	7　ヶ所	防災行政無線塔	8　ヶ所	緑地	1　ヶ所
輸送拠点	国士舘大世田谷キャンパス　世田谷区民会館				
給水拠点	駒沢給水所				
広域用防災倉庫	おなが広域用防災倉庫				
土のうステーション	旧教育センター　区役所(東棟南側)　駒沢生活実習所　弦巻区民センター　弦巻三丁目東公園　上町児童館　城山分庁舎(玄関前)　世田谷地区会館　大山道児童遊園横				
警察署・交番	桜木駐在所　松ケ丘交番　世田谷交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

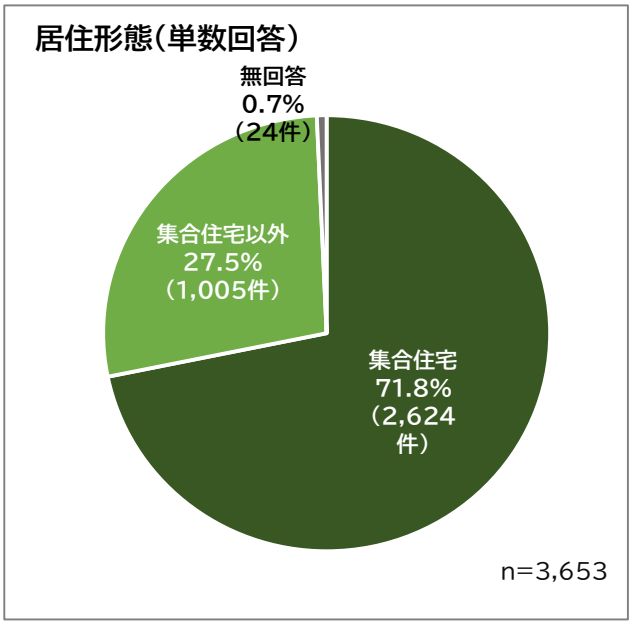
(7)区民アンケート(上町地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

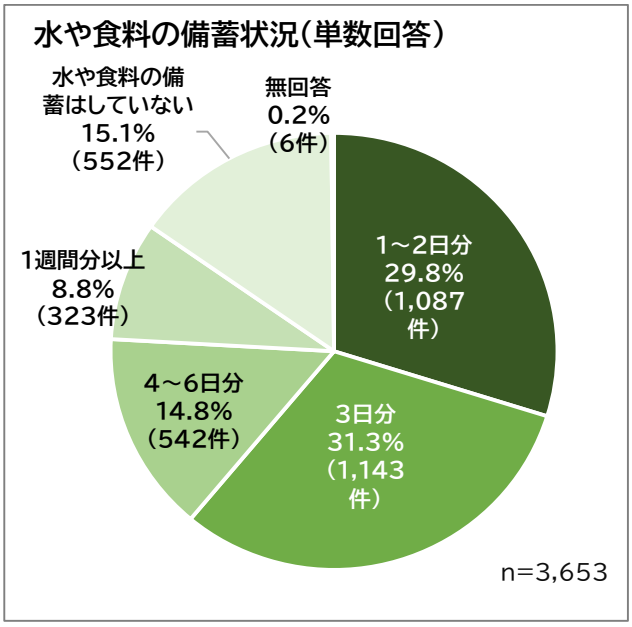
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

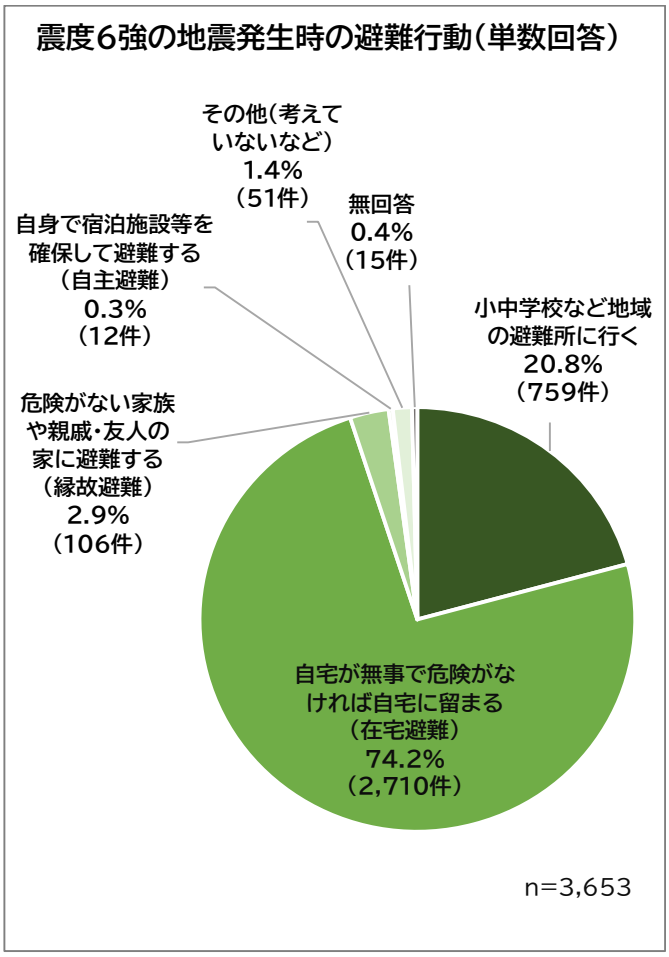


(7)区民アンケート(上町地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

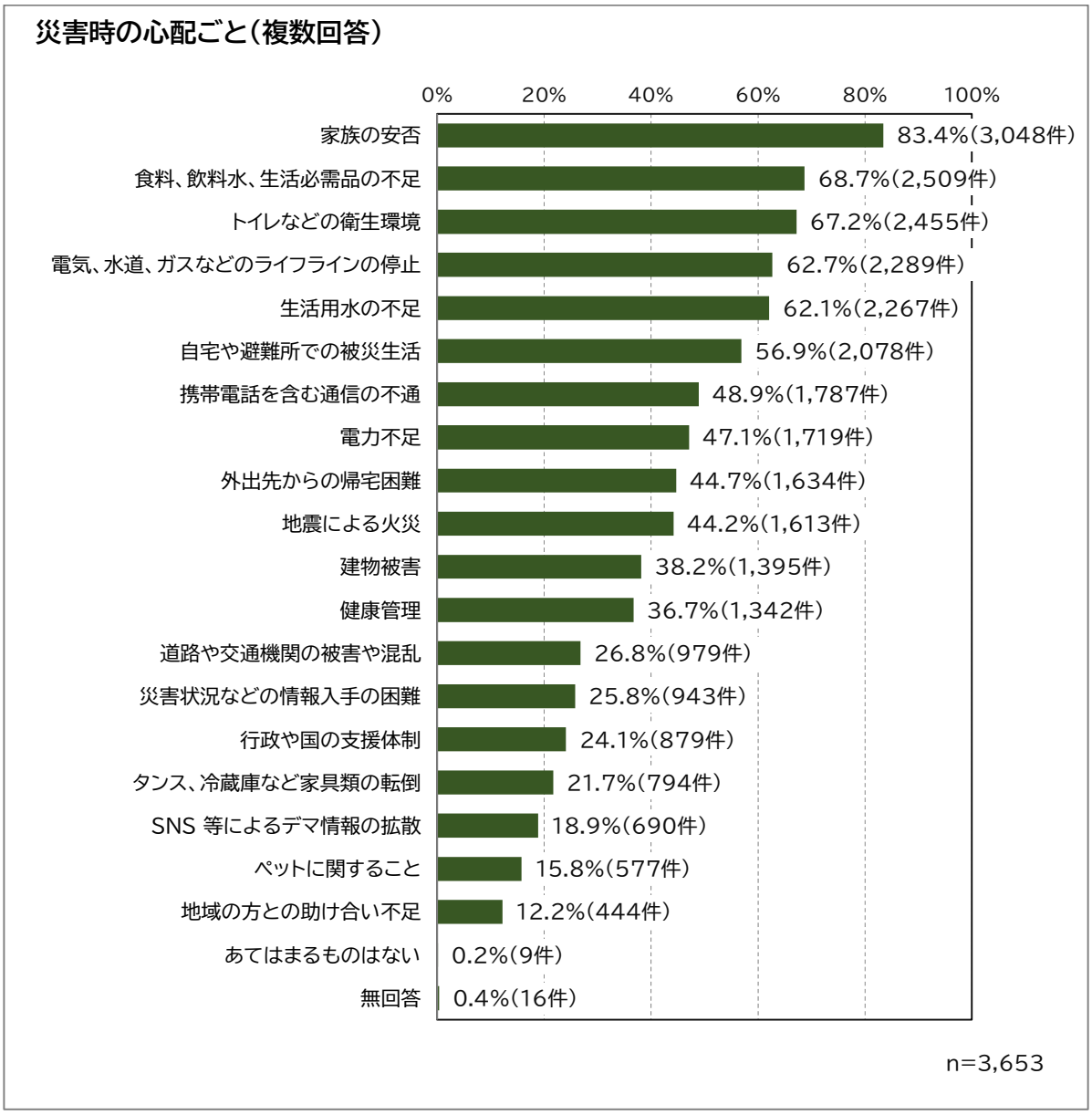


(7)区民アンケート(上町地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

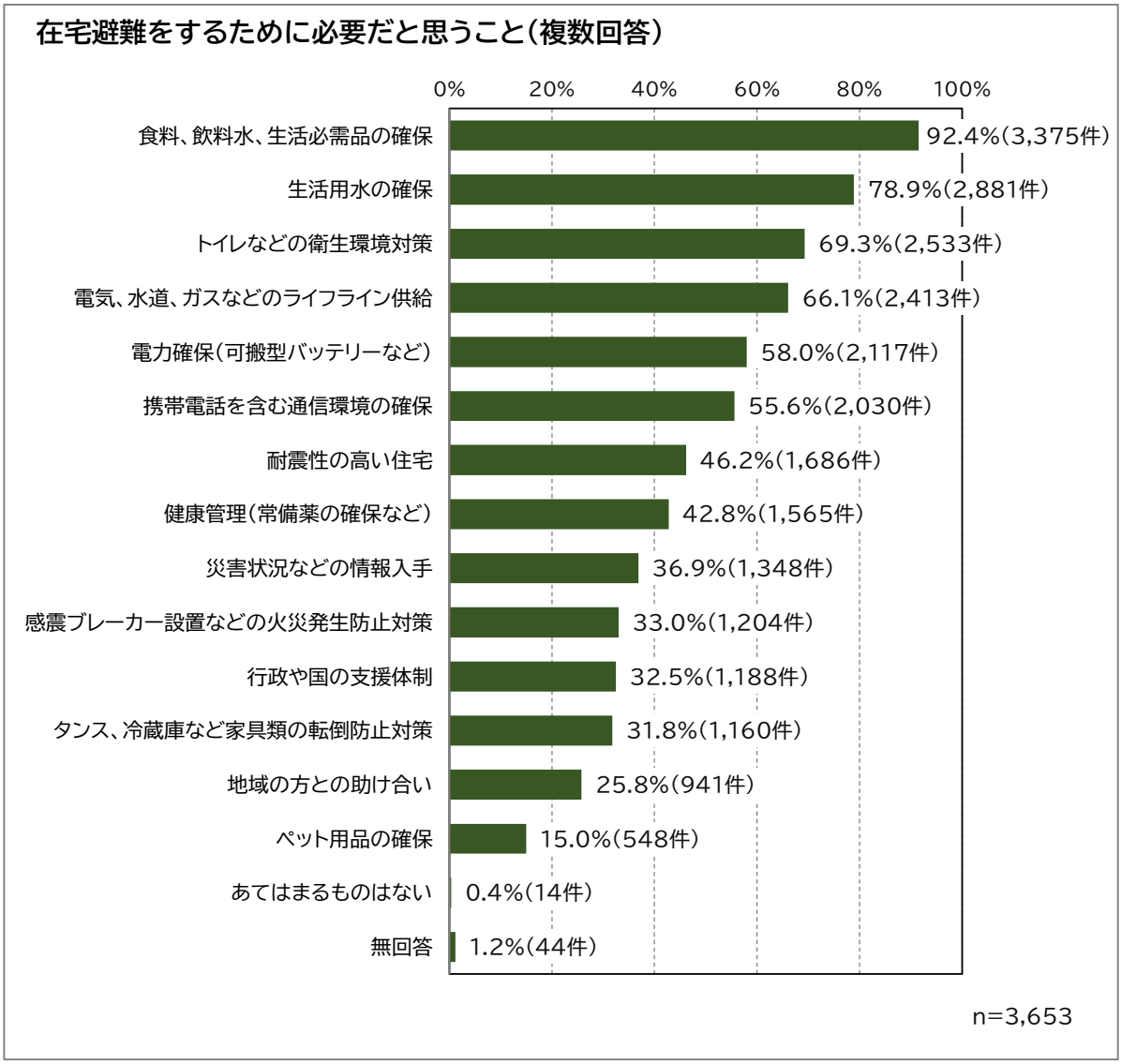


(7)区民アンケート(上町地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

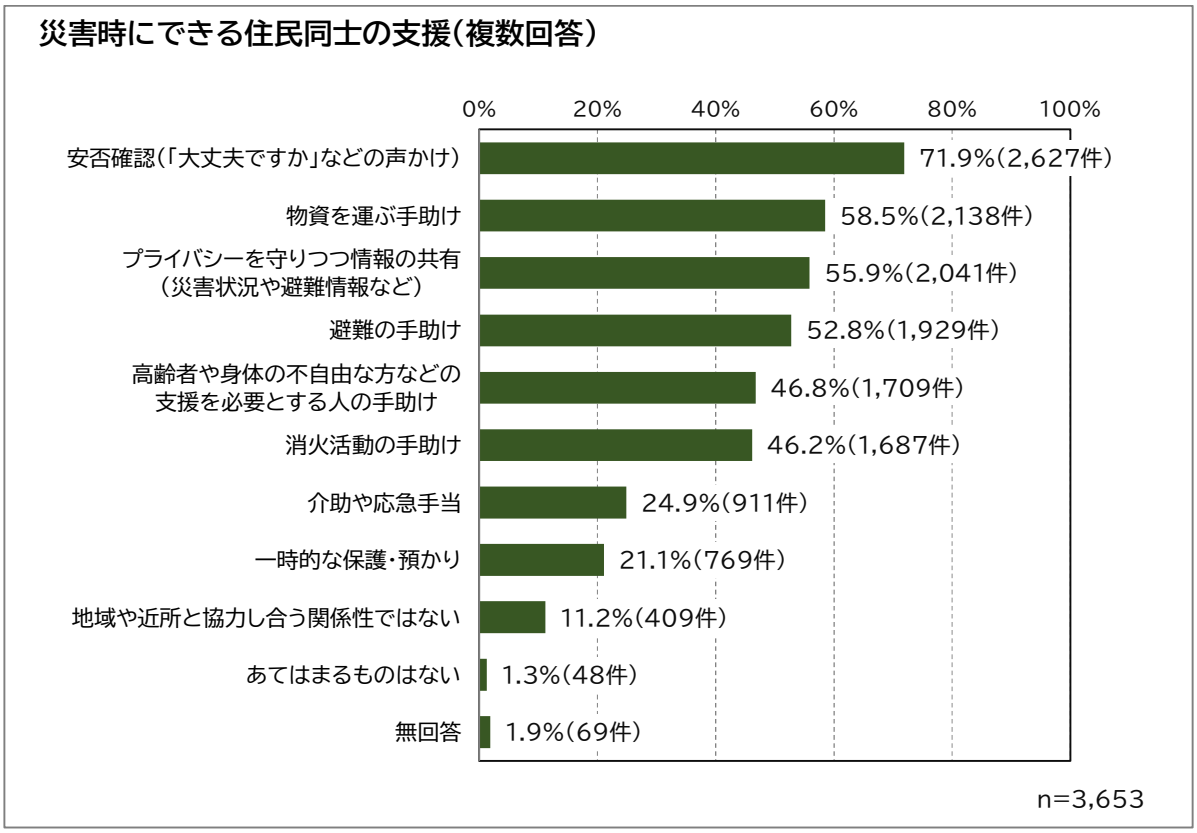


(7)区民アンケート(上町地区)

単純集計(5/5)

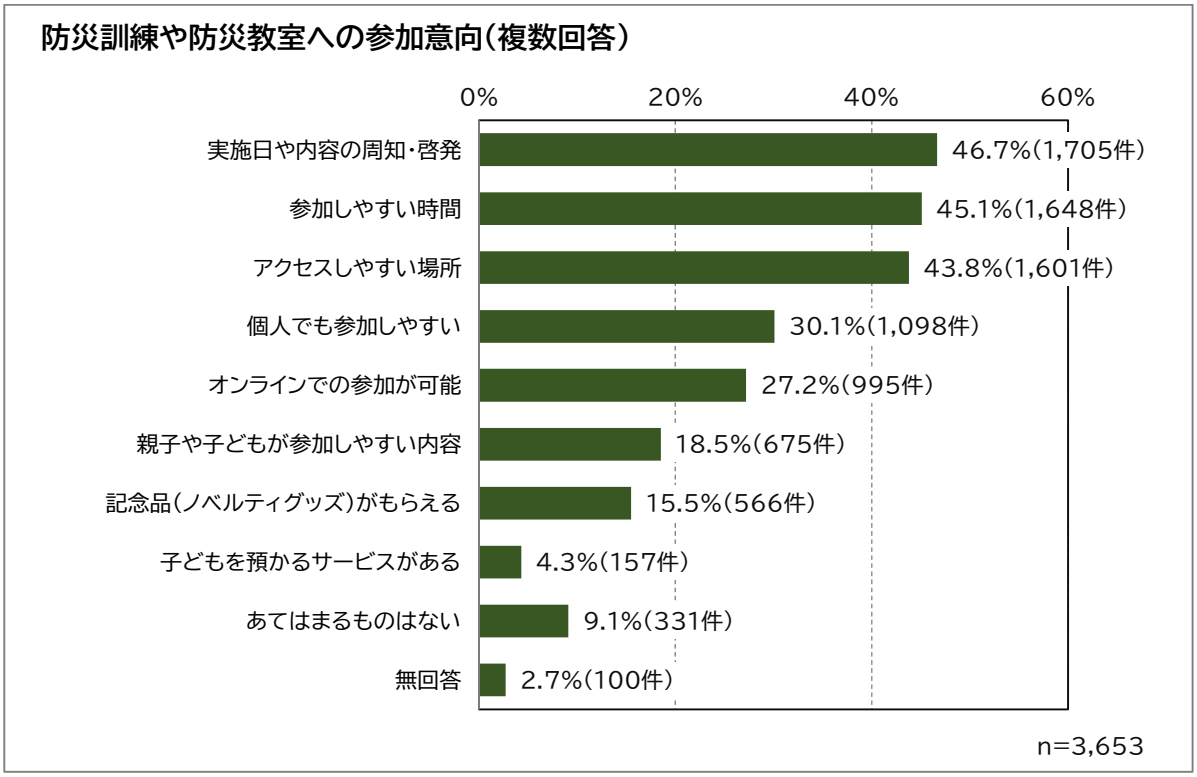
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

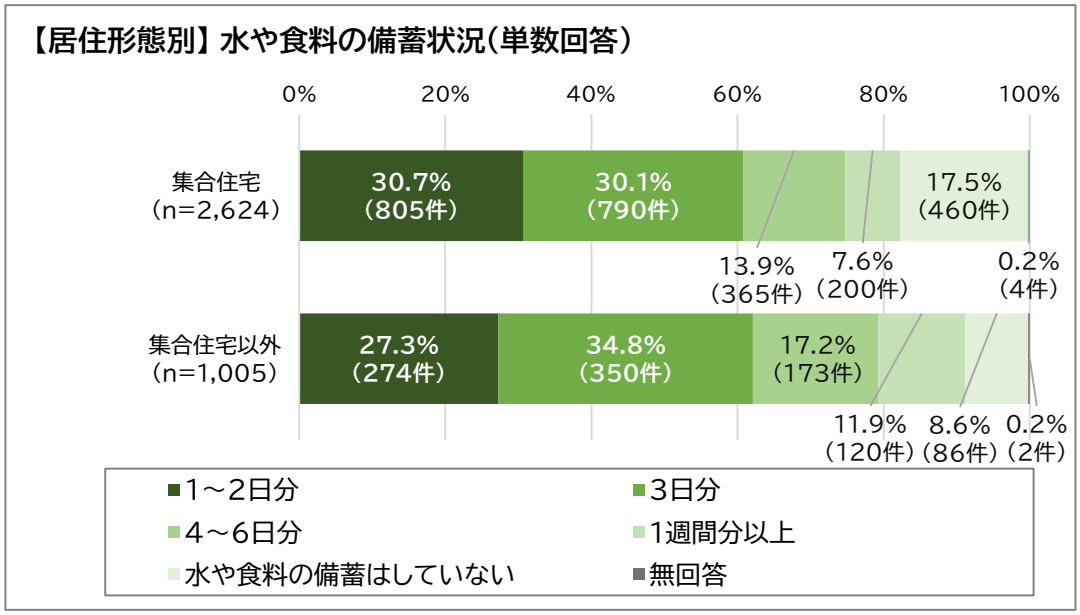


(7)区民アンケート(上町地区)

クロス集計(1/4)

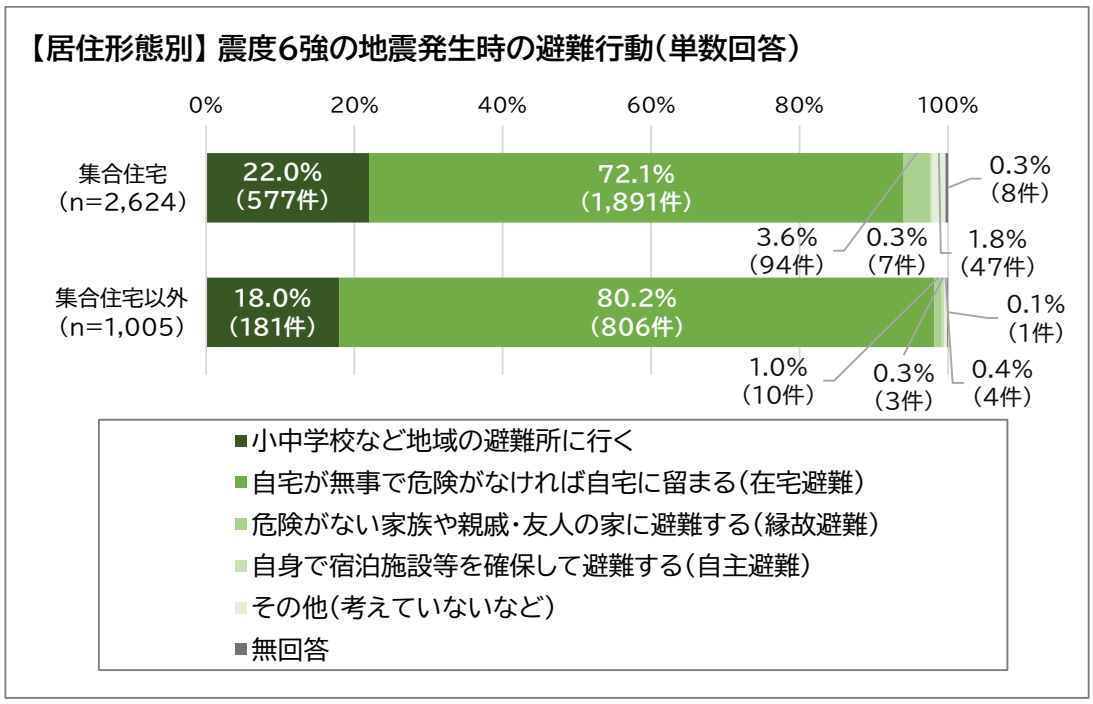
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(上町地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

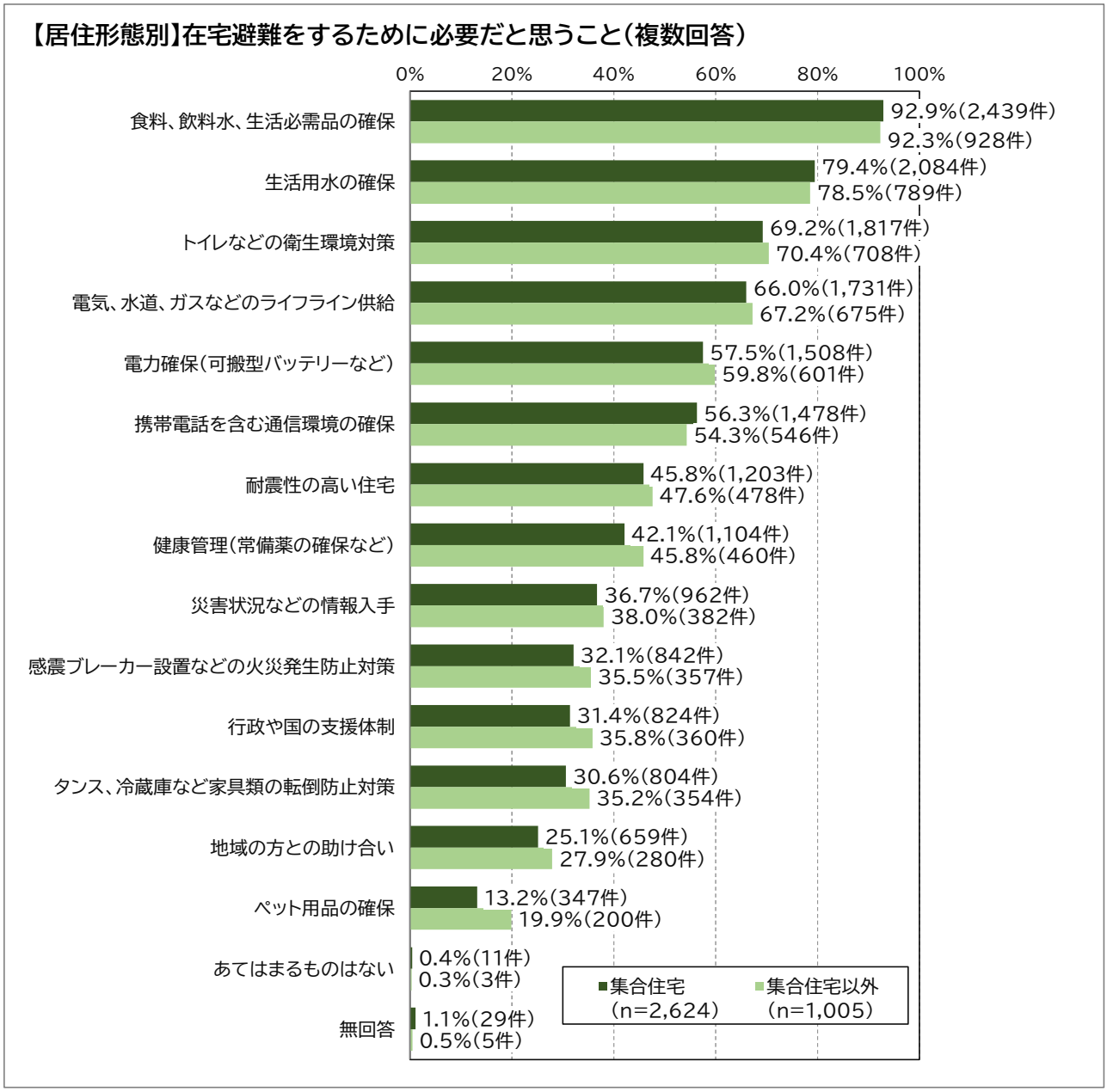
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(上町地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

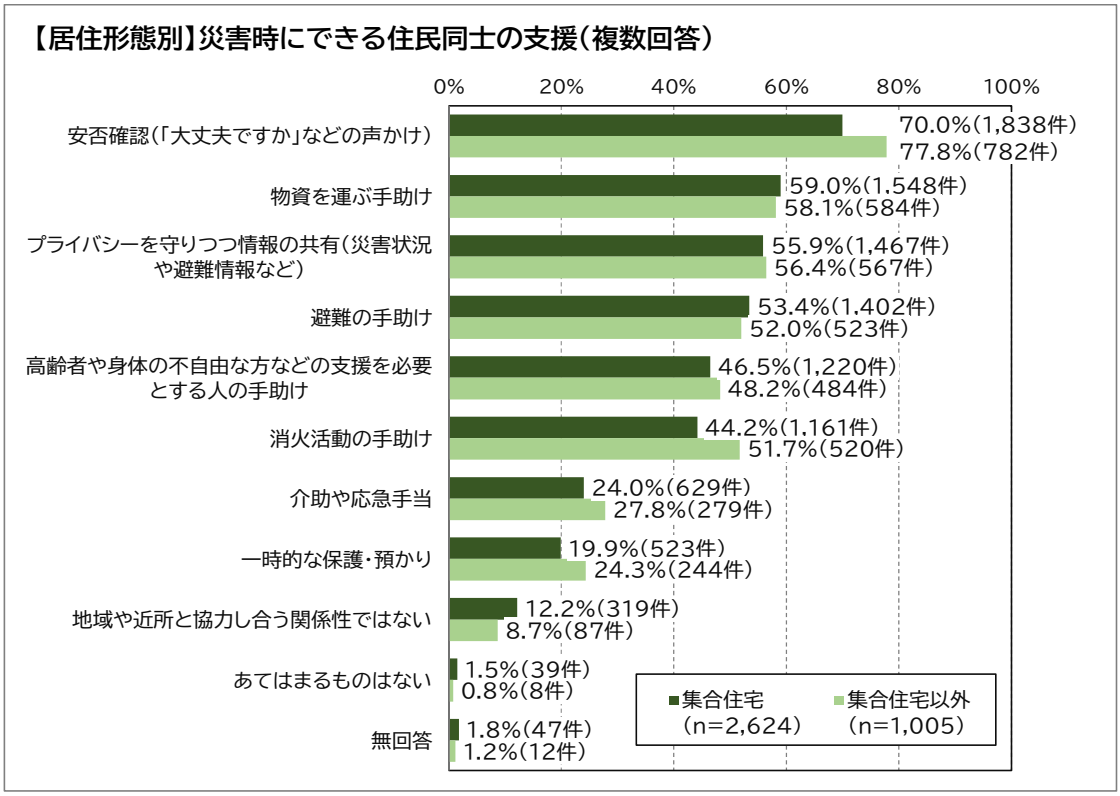


(7)区民アンケート(上町地区)

クロス集計(4/4)

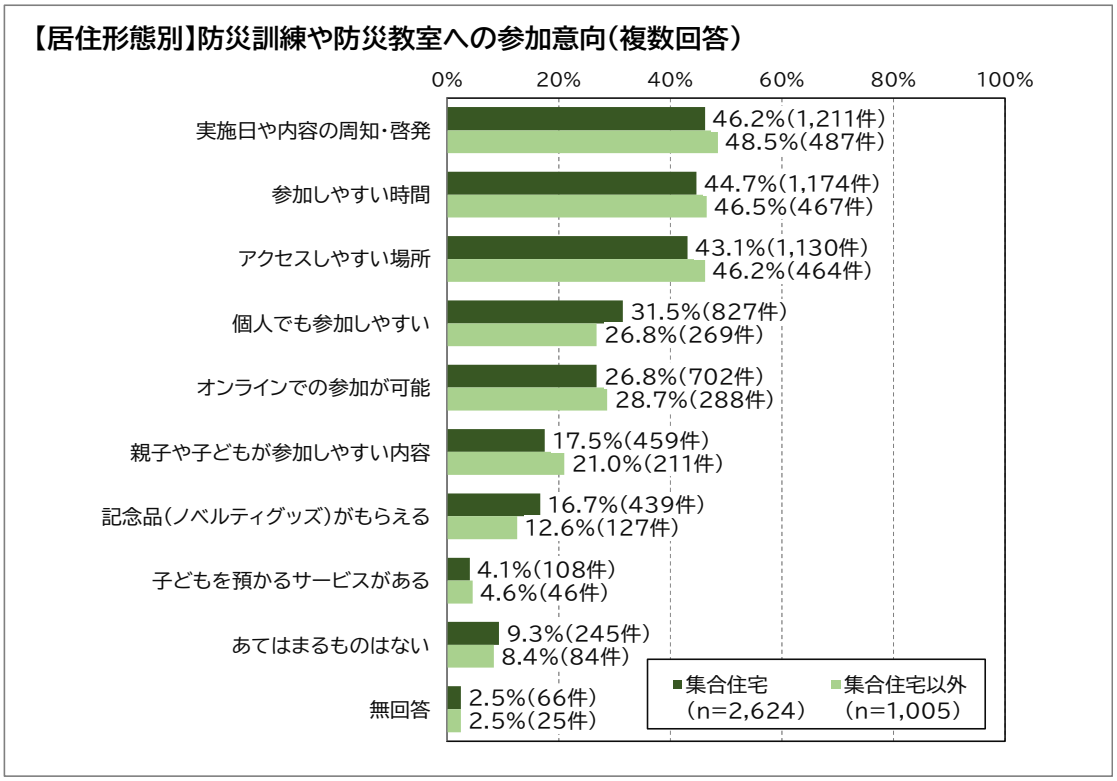
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備									
										スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
世田谷上町町会	15		○				○	○				1	桜小学校校庭				
世田谷東町会	5	○		ご近所防災ネットワークづくりの寄合い	4	○		○		2	世田谷東町会防災倉庫	2	世田谷東町会防災倉庫				
世田谷2丁目町会	3	○		防災部会	12	○		○		2	世田谷2丁目町会防災倉庫	2	世田谷2丁目町会防災倉庫				
桜町会	12	○		防災部会	2	○		○		1	桜町会防災倉庫	1	桜町会防災倉庫	2	桜会館		
松丘町会	10	○		町会役員会	10	○		○				1	桜3－25－23				
弦巻町会	7	○		弦巻町会防災担当者会議	2	○		○		7	弦巻町会防災倉庫	1	弦巻町会防災倉庫	7	弦巻町会防災倉庫		

団体名	防災訓練等の実施								防災マップ											
			防災訓練		救命救急講習会		その他						掲載情報							
	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
世田谷上町町会		○										○								
世田谷東町会	○						スタンドパイプ及びD型ポンプの操作訓練	せたがやみどり公園			○									
世田谷2丁目町会		○										○								
桜町会	○		1	桜木中学校または桜木ふれあい緑地			マンホールトイレ訓練	桜みんなの公園			○									
松丘町会	○		1	オークラランド住宅公園	1	松丘小学校	マンホールトイレ訓練	桜みんなの公園	○				○	○	○	○				
弦巻町会	○				1	松丘小学校	①マンホールトイレ訓練、②放水訓練	①弦巻中学校、②弦巻神社周辺			○									

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他
世田谷上町町会	3		0				○					○				○		○	
世田谷東町会	4		0		○			世田谷駅前商店街振興組合				○	○		ご近所同士の助け合いのお願い				会長、副会長、総務、会計へのメール及び役員会で情報共有をする
世田谷2丁目町会	2		0				○			○					民生委員が毎年、情報確認を行っている			○	
桜町会	5		0		○			東京農業大学(陸上競技部)、和光学園				○	○				○		防災部員は震度5弱で、桜木中学校正門に集合する
松丘町会	4		1		○			オークラランド住宅公園運営会社(サンフジ企画)、東京農業大学(ホッケー部)				○	○		要支援者から町会役員へ要請があった場合は、対応する			○	震度5強でオークラランド住宅公園に集合する
弦巻町会	9		2		○			隣接する駒沢3丁目町会と桜新町町会と第1回会合を持ち、当町会が実施した防災訓練に代表者各4～5名が参加している			○			○					

団体名	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備																
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
世田谷上町町会				○		○																	
世田谷東町会			○				○	1			1		30	2								工具箱 1個	世田谷東町会 防災倉庫
世田谷2丁目町会			○				○			2	1	1	20	1	1	3		3	1				世田谷2丁目町会 防災倉庫
桜町会				○			○	1	1	1	2	1	20		2	5	2		1	2		シャベル (小) 5個	桜木中学校 防災倉庫
松丘町会				○			○	1		1	1		15		1	1	1	1	1	1			オークラランド 住宅公園
弦巻町会				○			○	1		2		3	60	2	3	3	2	2					弦巻町会 防災倉庫

団体名	食糧等の備蓄																		その他の防災活動
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用その他食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
世田谷上町町会	○																		
世田谷東町会		○							1		100	1	1			ソーラーパネル2セット	世田谷東町会防災倉庫	発災型防災訓練を実行可能な場所にて、年1～2回行った際は参加者に配布している	
世田谷2丁目町会		○										1	2				世田谷2丁目町会防災倉庫		
桜町会		○	100食	1,024食	480食				2			28		2	2	ポータブルテント、トイレ各3個	桜木中学校防災倉庫	町会の防災訓練参加者に配布している	東京農業大学(陸上競技部)と相互支援覚書を締結している
松丘町会		○	200食			2L×60本		60食	3		400		2				オークランド住宅公園、桜3-25-23(発電機のみ)	訓練・イベントの際に参加者に配布している	東京農業大学(ホッケー部)と相互支援覚書を締結している
弦巻町会		○									1,000		4			防災服(上下)10着、ゴム長靴10足	弦巻町会防災倉庫	町会員各家庭にトイレセットを1セットずつ配布済み	

3 上町地区の課題と取り組み

(1)方 針

地区住民への防災に対する意識向上を図り、災害時に備え自助・共助の取り組みを推進する。

(2)課 題

上町地区身近なまちづくり推進協議会防災対策部会(以下、「防災対策部会」という)にて、地区の防災活動を通じて部会員が感じたことや地域の声を集約し、課題を抽出しました。

自助(自分自身や家族の命と財産を守るために、自分で、家族で防災に取り組むこと)

① 在宅避難の認知率向上ならびに備え
② 防災知識の向上

共助(地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと)

① 避難所運営の強化
② 防災活動を推進する担い手の育成・支援
③ 要配慮者、避難行動要支援者の支援
④ 集合住宅における防災意識の向上ならびに支援

(3)課題に対する取り組み

自助① 在宅避難の認知率向上ならびに備え

現在の取り組み

□在宅避難の周知

●防災リーフレット「在宅避難のすすめ」の配布

令和2年1月に防災対策部会の協力により在宅避難における課題や意見をまとめた防災リーフレット「在宅避難のすすめ」を発行し、上町まちづくりセンターにて配布しています。

●在宅避難と合わせて区の各防災対策支援を掲載したチラシを作成、周知。

在宅避難の認知率の向上および令和6年8月から開始の「せたがや防災ギフト」をはじめとした区の各防災対策支援を紹介したチラシを作成し、町会回覧や上町まちづくりセンターにて配布しています。

今後の取り組み

□在宅避難の周知の充実

□区や東京都など行政による防災対策補助や支援の周知

自助② 防災知識の向上

現在の取り組み

□地区住民の防災知識の向上

●地区住民を対象とした町会主催の防災訓練の実施

松丘町会では初期消火や煙体験、起震車体験などの防災訓練を実施しています。地区住民へ防災啓発を行うとともに、様々な世代の住民が交流しながら知識を高める場となっています。

□青少年の防災教育の推進

●桜町会・桜木中学校 地域合同防災訓練

桜木中学校の生徒を対象に、PTA、町会、避難所運営委員会、消防署、あんしんすこやかセンターなど各団体が協力し、福祉用具体験、資機材訓練、応急救護訓練を実施しています。

●桜小学校「まもりんピックさくら」の開催

桜小学校の児童を対象に、PTA、消防署、避難所運営委員会など各団体が協力し、防災学習授業を実施しています。

●「子ども大会」における消火体験コーナーの設置

毎年8月に実施される「子ども大会」では、各団体が様々な体験コーナーを設けています。そのコーナーのひとつとして世田谷消防署が消火体験を実施しています。

今後の取り組み

□地区住民のさらなる防災知識の向上ならびに区の各防災対策支援の積極的な活用周知

□幼稚園・保育施設の園児や小・中学校の児童・生徒、またその保護者を対象とした防災教育の充実

□上町地区の社会福祉施設（児童館、高齢者施設など）における防災知識の向上および連携した防災活動の実施

□ペットに関する防災知識の向上

共助① 避難所運営の強化

現在の取り組み

□避難所運営訓練の拡充

●中学生を対象とした避難所運営訓練の実施

TSA（※）の生徒たちが講師となって、他の生徒に発電機の取り扱いやマンホールトイレの組み立て方法を教えています。

※Tsurumaki Student Aid：避難所運営を支援する弦巻中学校の生徒で構成されたチーム

●応急手当訓練の実施

発災時、避難所となる学校には負傷して動けない児童や教職員、また、閉じ込め等でその所在も分からない児童や教職員がいる可能性があることから負傷者や所在不明者を探索、発見し、医療機関に適切につなぎ、避難所を迅速に開設するために、桜小学校避難所運営委員会では探索の技術や災害時の心身の状況についての知識や配慮、応急手当などを学び、災害に対応できる力を身に着けています。

□要配慮者への対応・支援に向けた取組

●分かりやすい情報発信

上町地区の各避難所運営委員や福祉サービス業の方を対象に外国人が情報を受け取る際にどのような困りごとを抱えているかを知り、分かりやすい情報発信をするためのやさしい日本語について学ぶ講習会を実施しました。

□避難所運営委員の知識向上

●上町地区身近なまちづくり推進協議会防災対策部会員ならびに避難所運営委員による勉強会の実施

世田谷災害ボランティアセンターの設立経緯と役割を学び、指定避難所内におけるボランティアのサテライトの設置や避難所とサテライトの連携について学ぶ勉強会を実施しました。

今後の取り組み

□地区住民の避難所運営への参加に向けた活動の推進

□要配慮者への対応の充実

□ペット同行避難への対応ならびにペット在宅避難の啓蒙

□指定避難所となっている学校との情報共有など連携の強化

共助② 防災活動を推進する担い手の育成・支援

現在の取り組み

□防災関連の資格取得に向けた積極的な参加の推進

●防災士資格取得の推進

（上町地区の防災士：27名（令和6年5月28日時点、世田谷区の防災士認証登録支援制度を利用した方））

上町地区における防災士※の資格取得者を増やすため、世田谷区の防災士認証登録支援制度を活用した研修を対象である上町地区の防災区民組織や各指定避難所の避難所運営委員の方に積極的に周知し、受講を促しています。

※防災士とは…「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を習得したことをNPO法人日本防災士機構が認証した人です。防災士は災害発生後の被災者支援活動や平常における防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練実施など様々な場で多様な活躍が期待されています。

□若手人材の育成

●地区の大学を交えた町会主催の防災訓練の実施

東京農業大学の学生が松丘町会および桜町会の防災訓練に参加し、救助訓練等を実施しています。防災活動を話題に世代の垣根を越えて日頃から交流しています。

今後の取り組み

□小学校・中学校の児童・生徒、またその保護者への防災意識の向上と継続した防災活動を目的としたイベント実施支援

共助③　要配慮者、避難行動要支援者の支援

現在の取り組み

□避難行動要支援者支援協定の締結

●世田谷2丁目町会が締結

今後の取り組み

□まちづくり活動を通じたさらなる住民交流の活性化

□社会福祉施設と連携した要配慮者、避難行動要支援者の理解と学びの場の提供

共助④　集合住宅における防災意識の向上ならびに支援

現在の取り組み

□防災意識の向上

●町会作成のリーフレットを各戸配布

松丘町会では、リーフレット「災害時のトイレについて」を作成し、集合住宅へ各戸配布しました。

今後の取り組み

□集合住宅への防災意識向上や共助推進に向けた啓発ならび行政支援の周知

経堂地区防災計画

［令和7年修正］

経堂地区

【経堂地区防災計画作成団体】　（順不同）

経堂1丁目町会	経堂北町会
経堂南町会	宮坂1・2丁目町会
宮坂3丁目町会	桜丘1丁目町会
桜丘町会	桜丘南町会
桜丘小学校 PTA・おやじの会	世田谷小学校 PTA・おやじの会
経堂小学校 PTA・おやじの会	笹原小学校 PTA・おやじの会
桜丘中学校 PTA・おやじの会	世田谷小学校地域ネットいぶき
経堂地区民生委員・児童委員協議会	赤十字奉仕団経堂分団
経堂農大通り商店街振興組合	経堂商店街振興組合
千歳船橋参商会商店街振興組合	経堂本町会
経堂西通り商店会	経堂南口平和通会
経堂シンフォニー商店会	桜丘三丁目商店会
経堂あんしんすこやかセンター	ほほえみ経堂
世田谷地域社会福祉協議会	世田谷消防団第6分団・第16分団
東京農業大学	スポーツクラブ＆スパ ルネサンス経堂

目 次

1 経堂地区の特性 ……経堂-1(-134-)
(1)自然特性 ……経堂-1(-134-)
(2)社会特性…… 経堂-2(-135-)
(3)地域危険度 …… 経堂-4(-137-)
(4)被害想定…… 経堂-5(-138-)
(5)防災資源一覧……経堂-8(-141-)
(6)防災資源マップ …… 経堂-9(-142-)
(7)区民アンケート……経堂-10(-143-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～……経堂-19(-152-)

3 経堂地区の課題と取組み……経堂-23(-156-)
(1)住民同士のつながり、ネットワークの拡充……経堂-23(-156-)
(2)情報不足・情報が行き届いていない ……経堂-25(-158-)
(3)逃げなくてもいい安全なまちをつくるために……経堂-26(-159-)

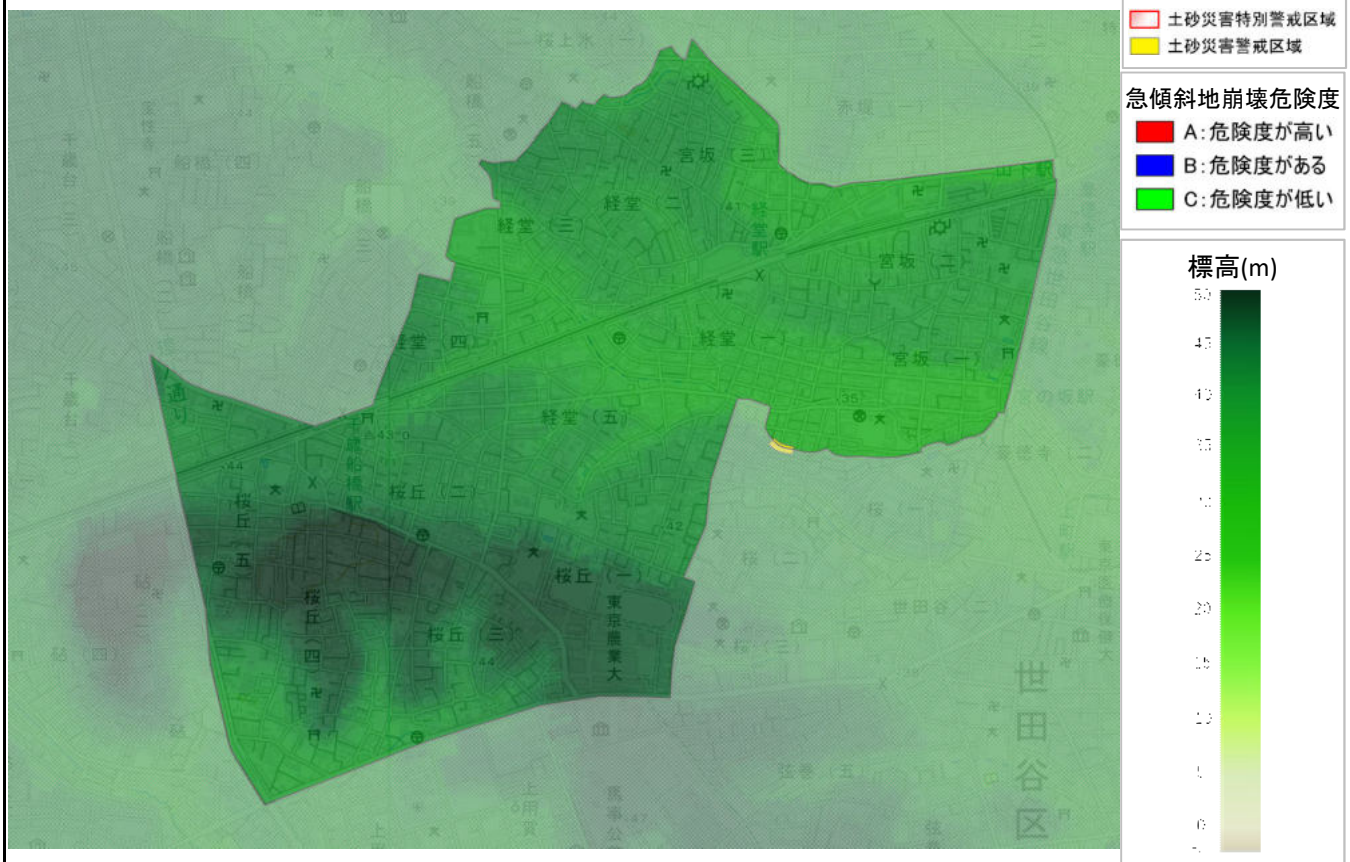
1. 経堂地区の特性

(1)自然特性

面積	2.92　Km²	最高標高	52.6　m	最低標高	33.4　m

位置

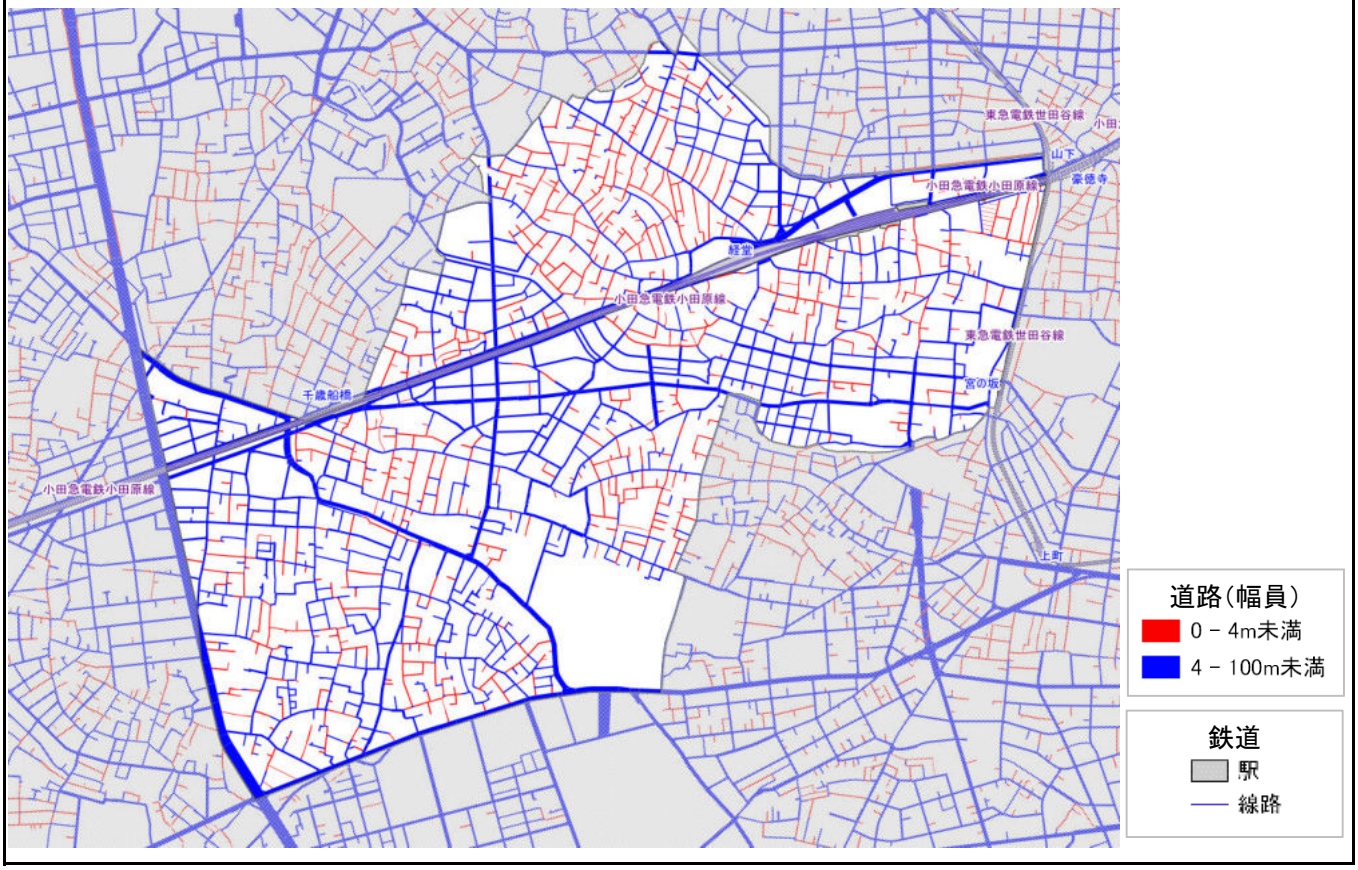
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

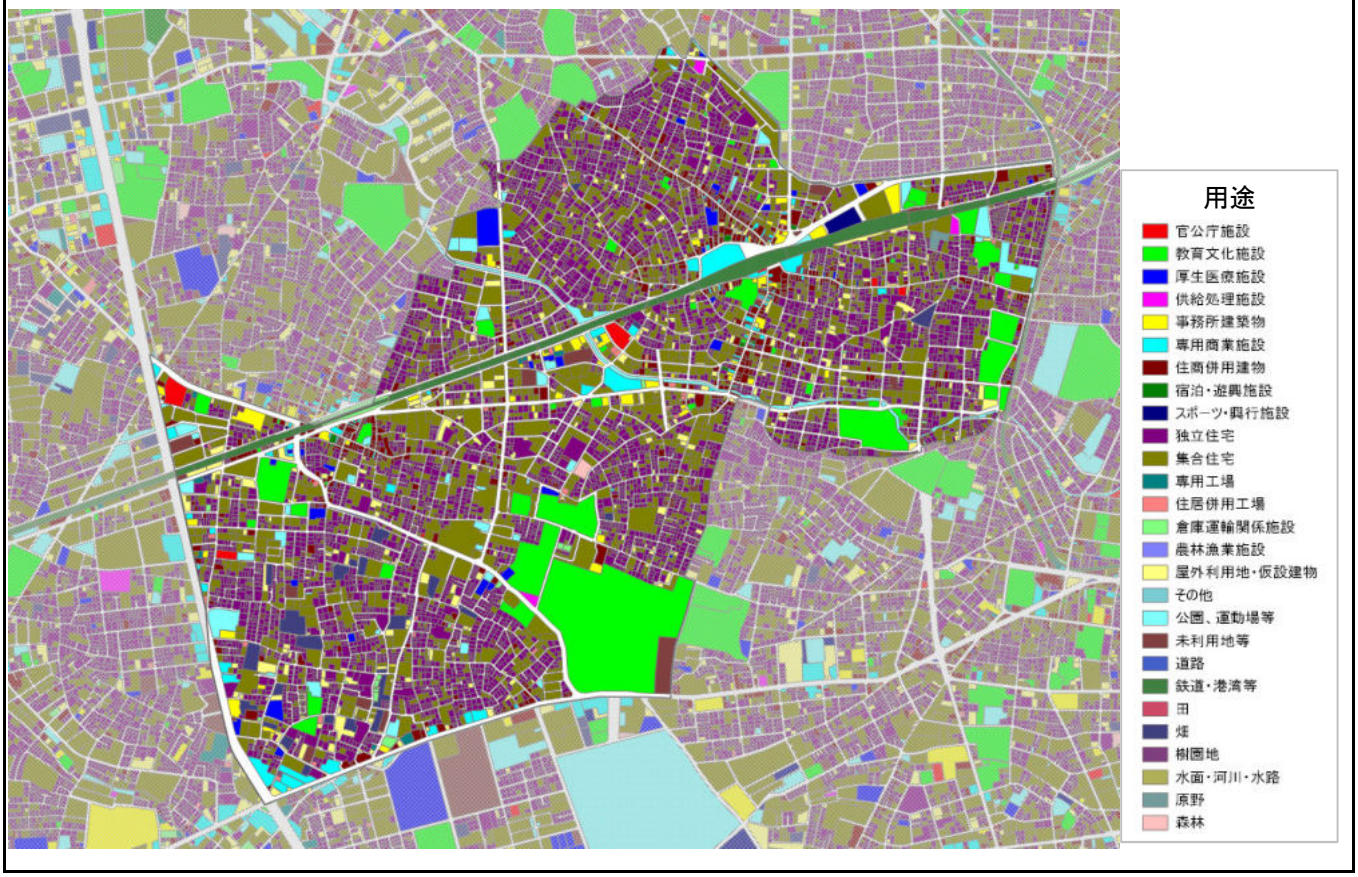
人口	51,675 人	細街路率		32.5 %	
世帯数	29,089 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		72.7 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.78 人	耐火率(建築面積ベース)		63.0 %	
若年層数(15才未満)	5,536 人	土地利用(宅地)		72.6 %	
若年層率(15才未満)	10.7 %	土地利用(宅地以外)		27.4 %	
高齢者数(65才以上)	10,823 人	鉄道駅	小田急小田原線豪徳寺駅 経堂駅 千歳船橋駅 東急世田谷線 宮の坂駅		
高齢者率(65才以上)	20.9 %				
昼間の人口	49,074 人	産業	商業	78.3 %	
夜間の人口	53,105 人		工業	7.3 %	
昼夜間人口比	0.92 -		農業	14.4 %	
町会・自治会数	8 -				

道路・公共交通機関



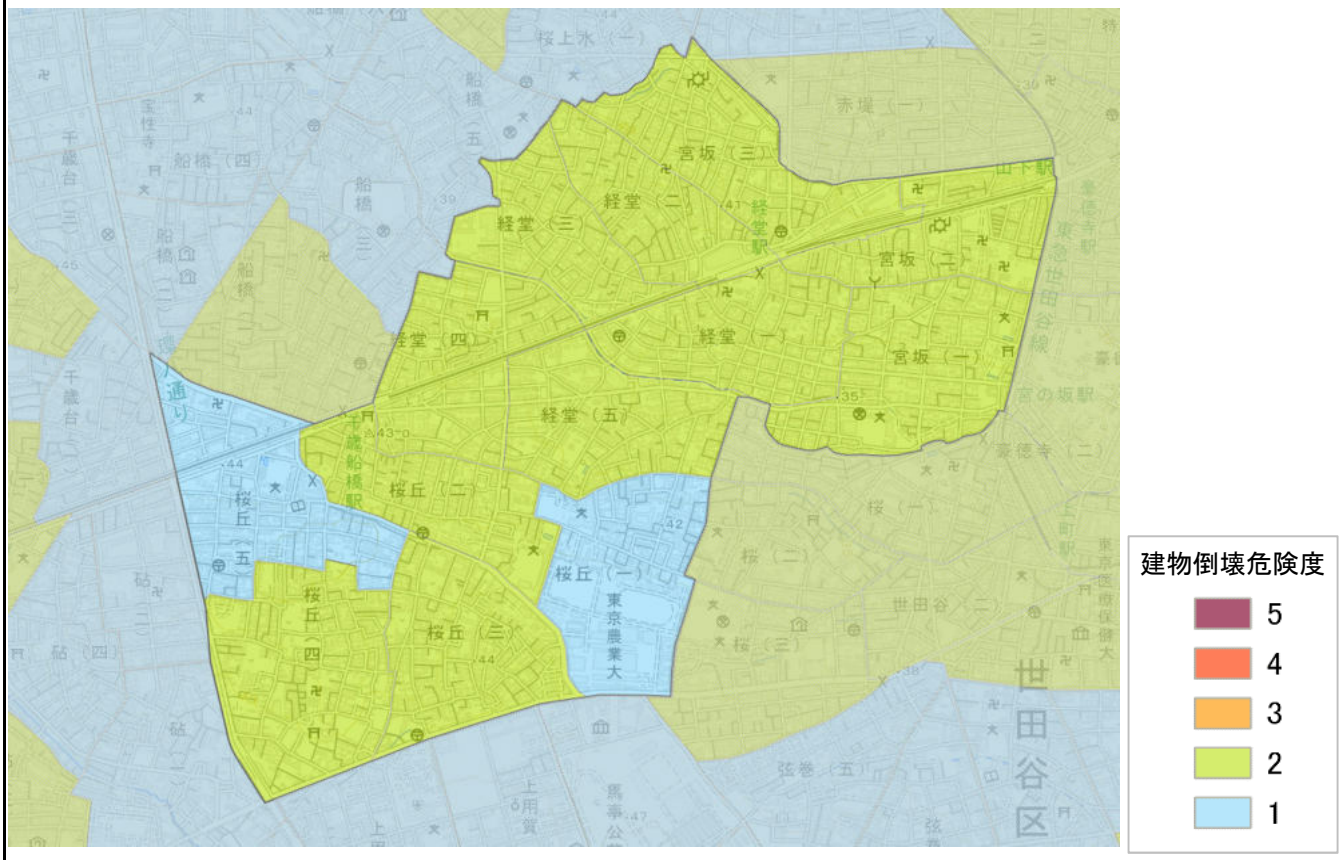
(2)社会特性

産業

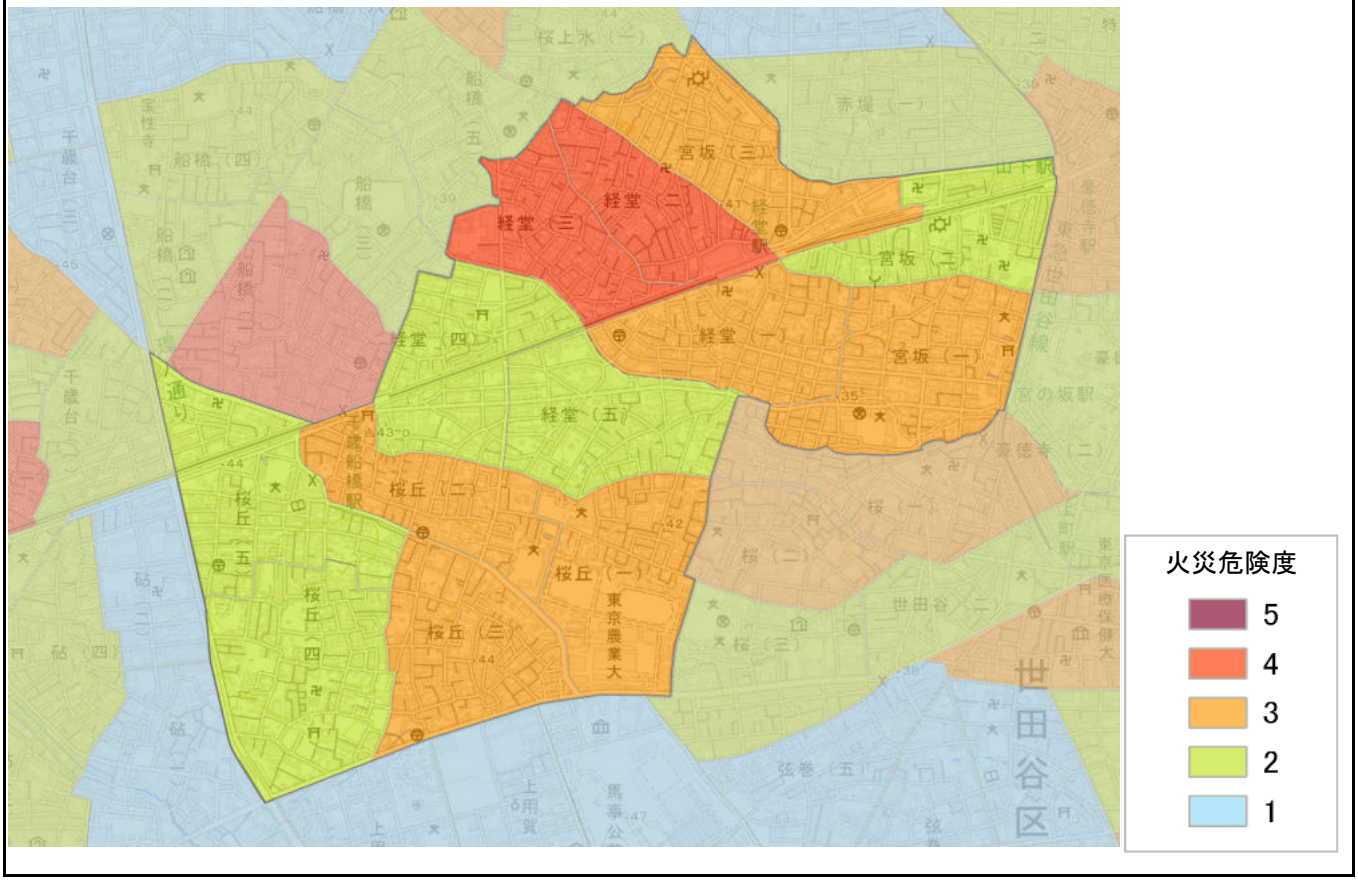

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



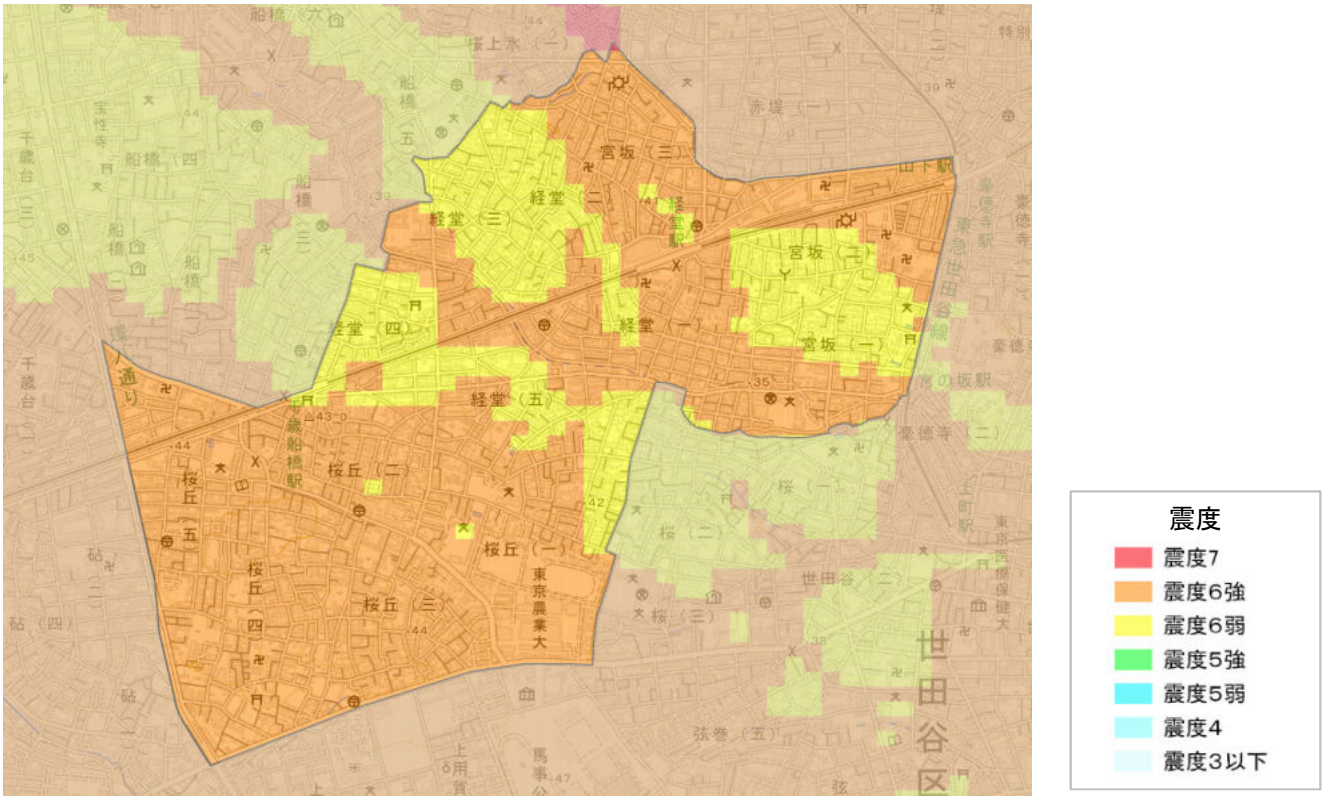
火災危険度



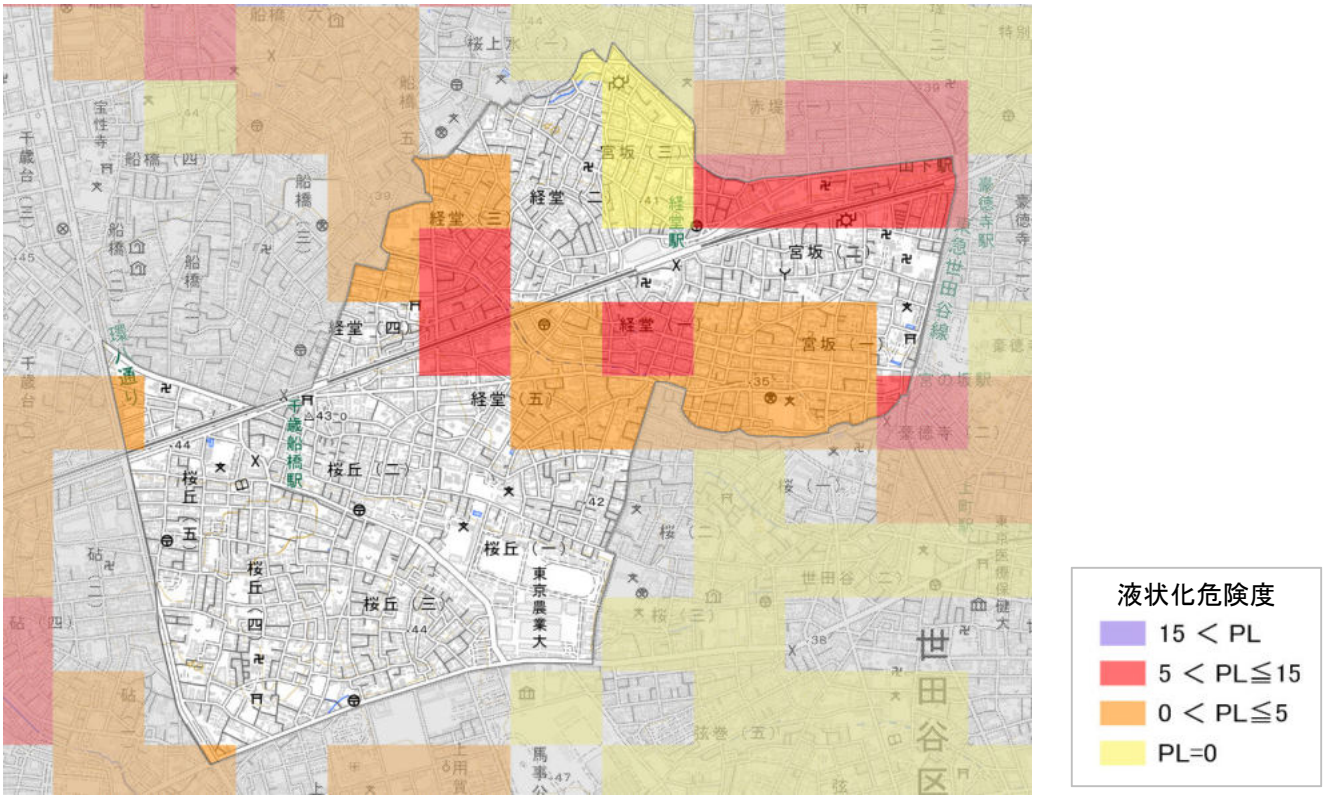
(4)被害想定

全壊棟数	420 棟	死者	47 人
半壊棟数	1,133 棟	負傷者	524 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	1,588 棟	うち重傷者	89 人

震度分布

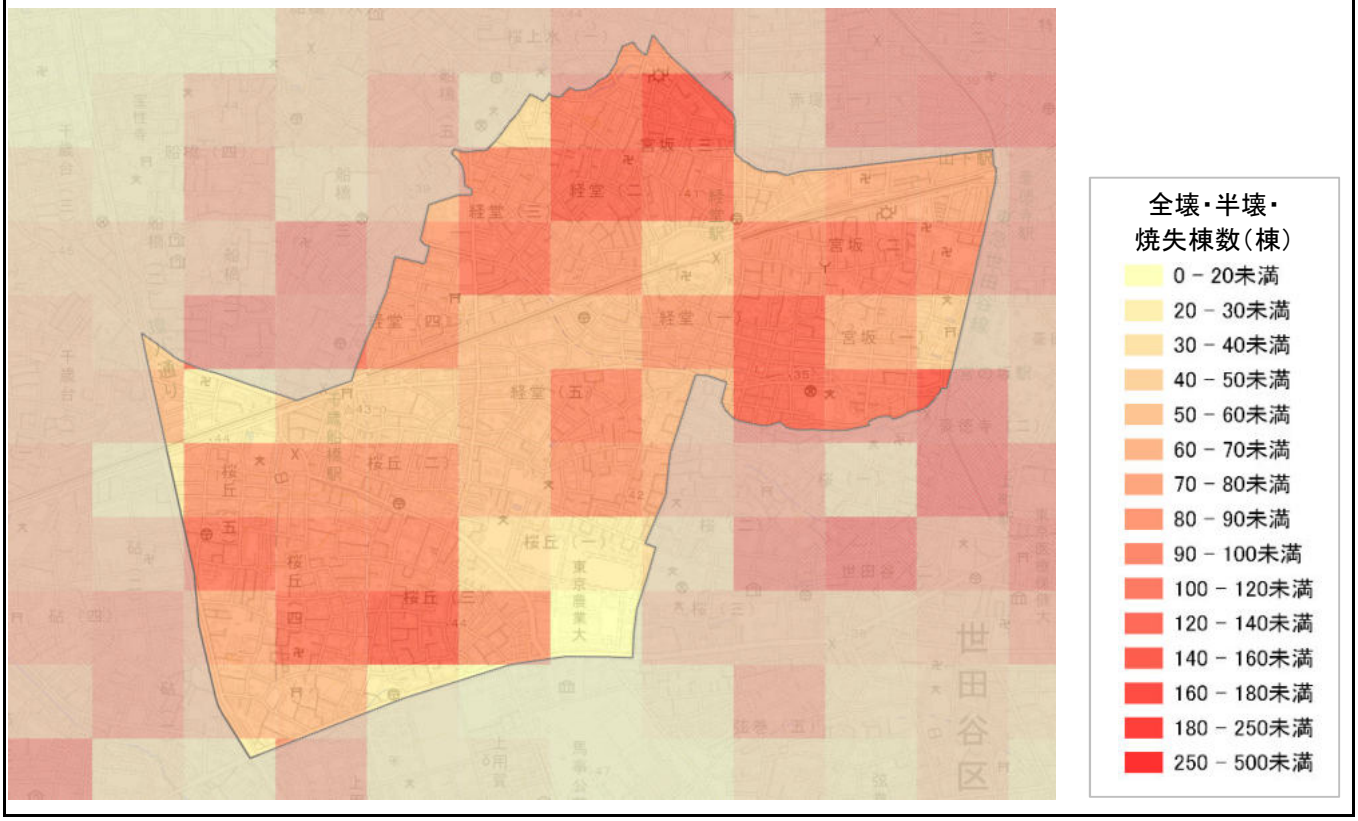


液状化分布



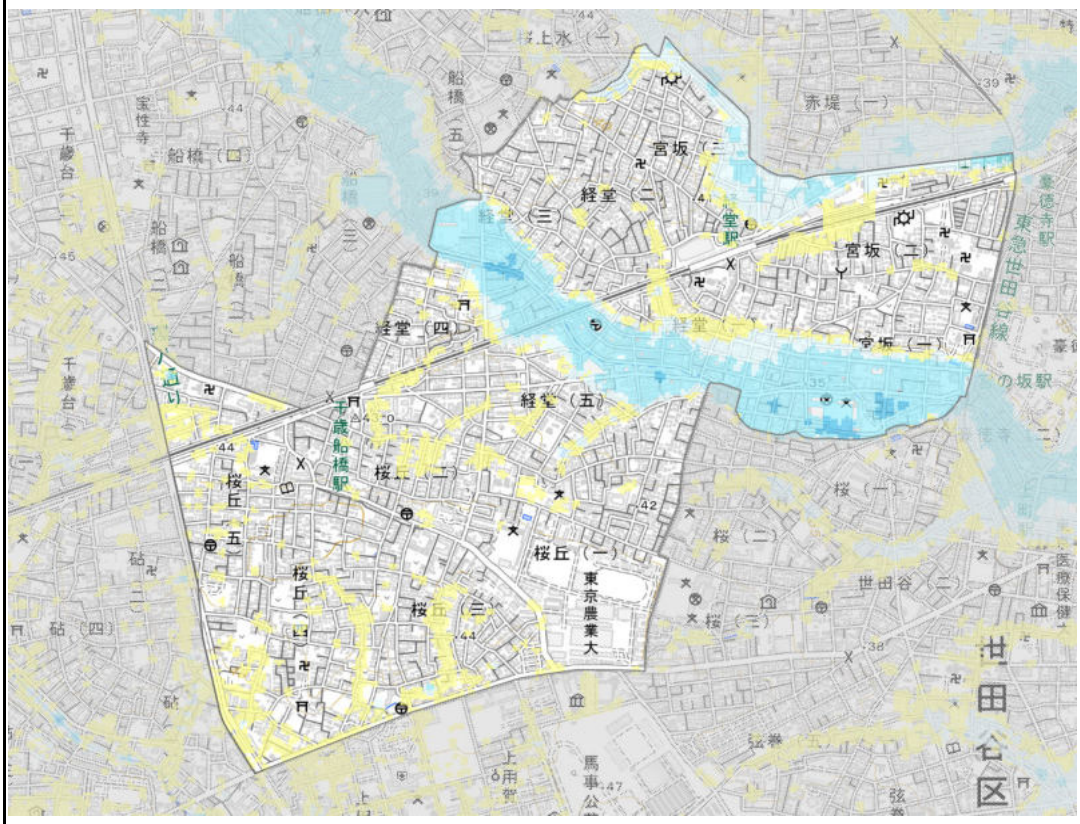
(4)被害想定

被害棟数分布



(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)

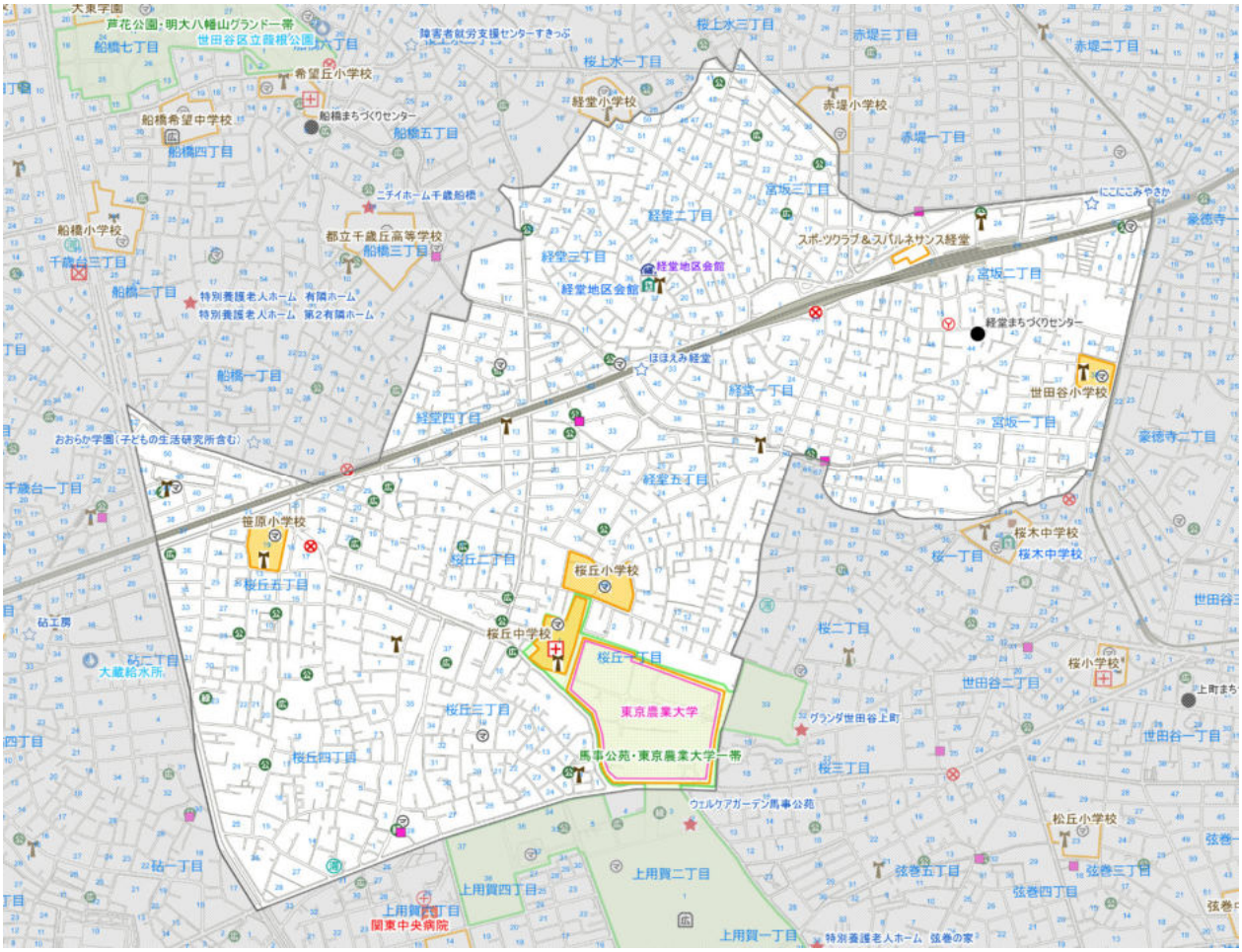


浸水想定(多摩川洪水版)

(5)防災資源一覧

広域避難場所	馬事公苑・東京農業大学一帯				
一時集合所	稲荷森稲荷神社　宇山稲荷神社　烏山川緑道(中村橋)　区立山下公園　経堂4丁目児童遊園　経堂出張所・経堂まちづくりセンター　経堂小学校　経堂大橋公園　桜丘3丁目児童遊園　桜丘5丁目公園　桜丘こぶし公園　桜丘すみれば庭園　桜丘小学校　桜丘中学校　桜樹広場　桜木中学校　笹原小学校　山下西公園　世田谷小学校　世田谷八幡宮駐車場　西原公園　石仏公園　南公園　南台公園　弁天公園				
指定避難所	経堂小学校 桜丘小学校 桜丘中学校 笹原小学校 世田谷小学校				
予備避難所	スポ-ツクラブ＆スパルネサンス経堂　東京農業大学				
福祉避難所(母子)	東京農業大学				
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)	ほほえみ経堂　にこにこみやさか				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	桜木中学校　経堂地区会館				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	桜丘中学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	トヨタモビリティ東京㈱ 世田谷桜丘店				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	12　ヶ所	防災行政無線塔	10　ヶ所	緑地	2　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	烏山川緑道(経堂1の4付近)桜丘宇山緑地　南台公園　北沢川緑道(赤堤1の29付近)				
警察署・交番	経堂駅前交番　桜丘交番				
消防署・出張所	宮の坂出張所				

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所(母子)
- 福祉避難所(高齢者)
- 福祉避難所(障害者)
- 水害時避難所(第1次)
- 水害時避難所(第2次)
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所(狛江市)
- 水害時避難所(調布市)
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設(車中避難)

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

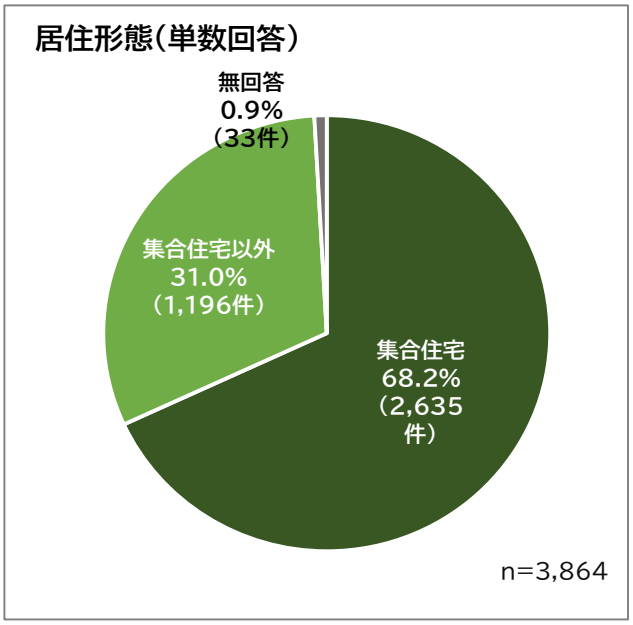
(7)区民アンケート(経堂地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

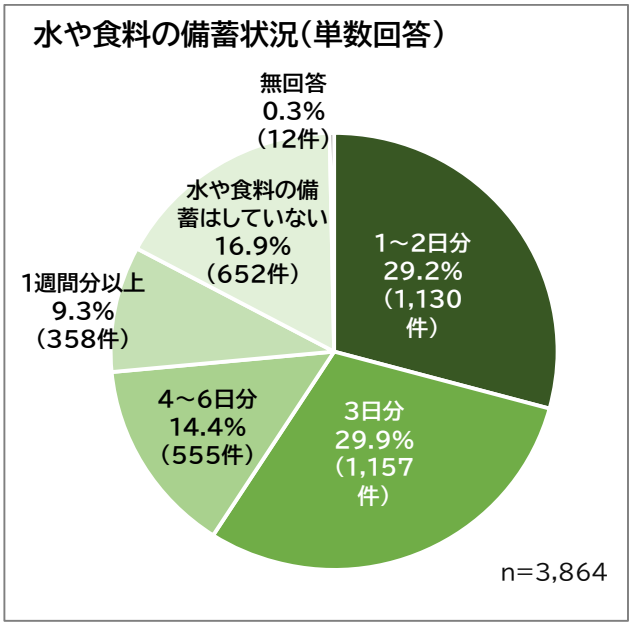
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

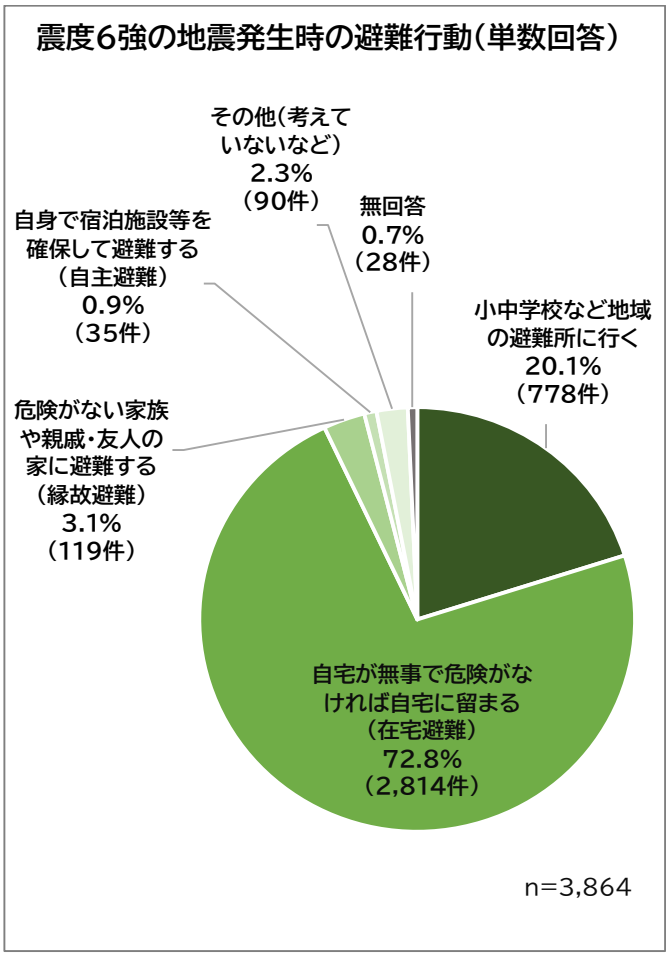


(7)区民アンケート(経堂地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

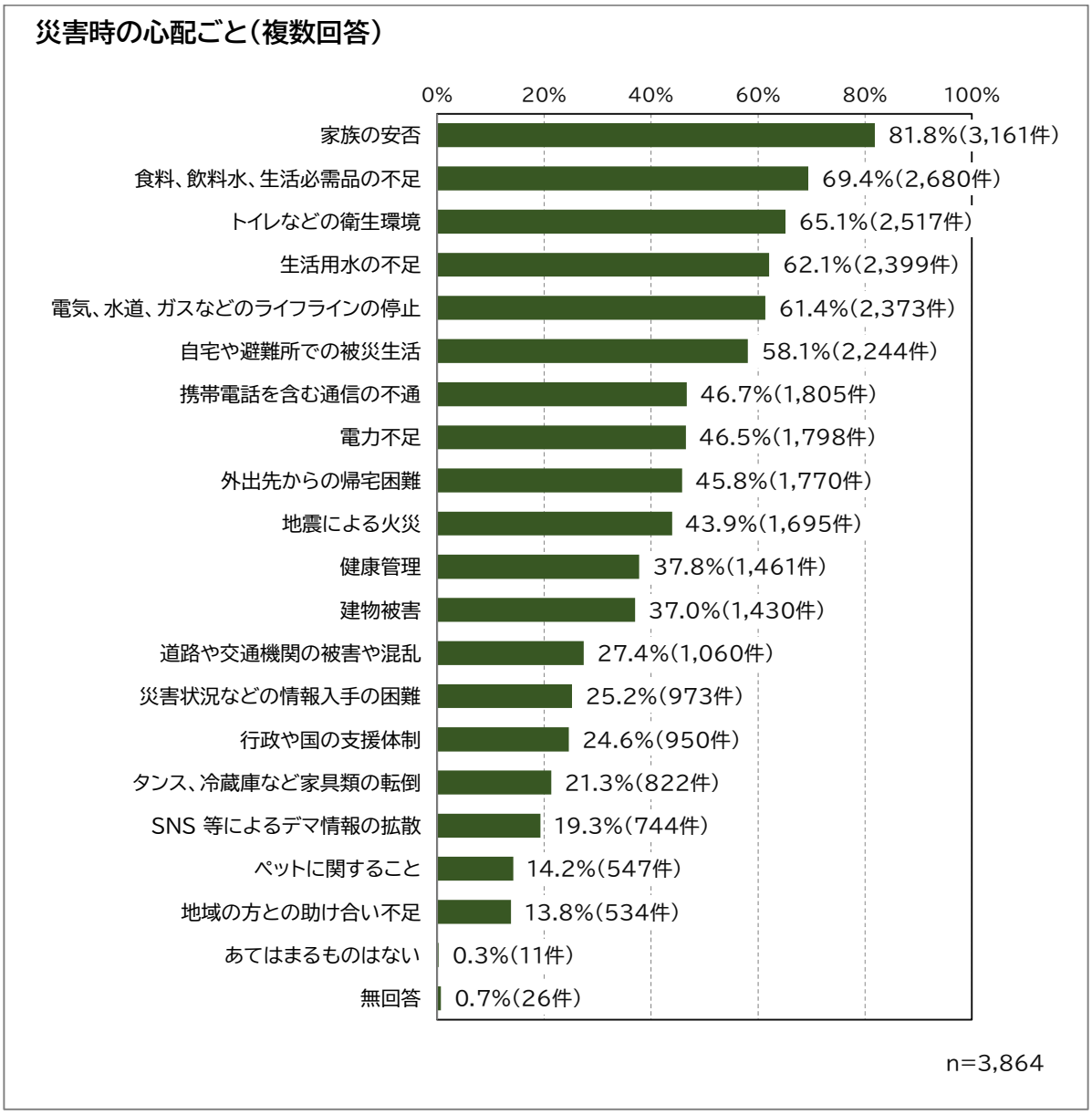


(7)区民アンケート(経堂地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

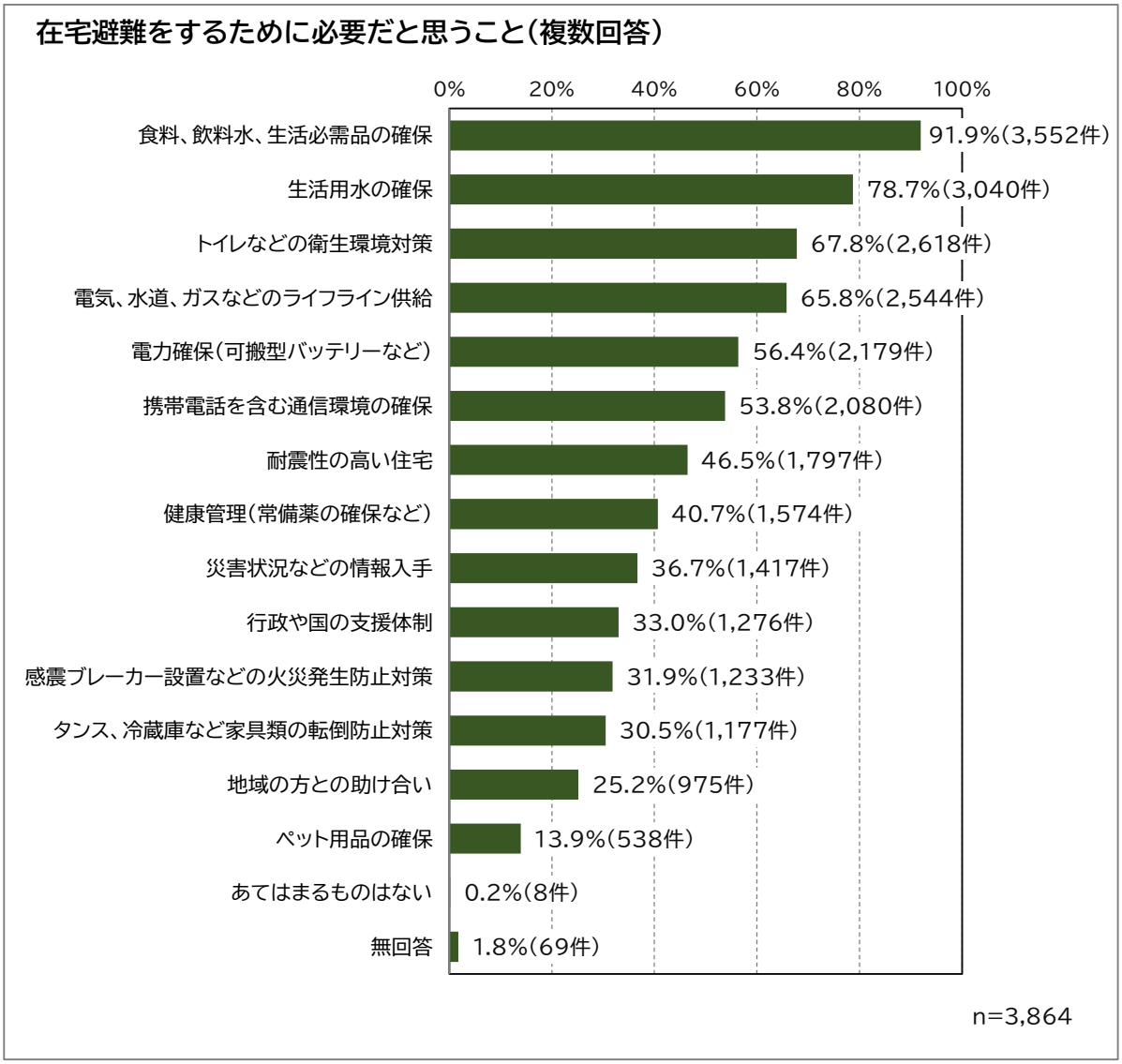


(7)区民アンケート(経堂地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

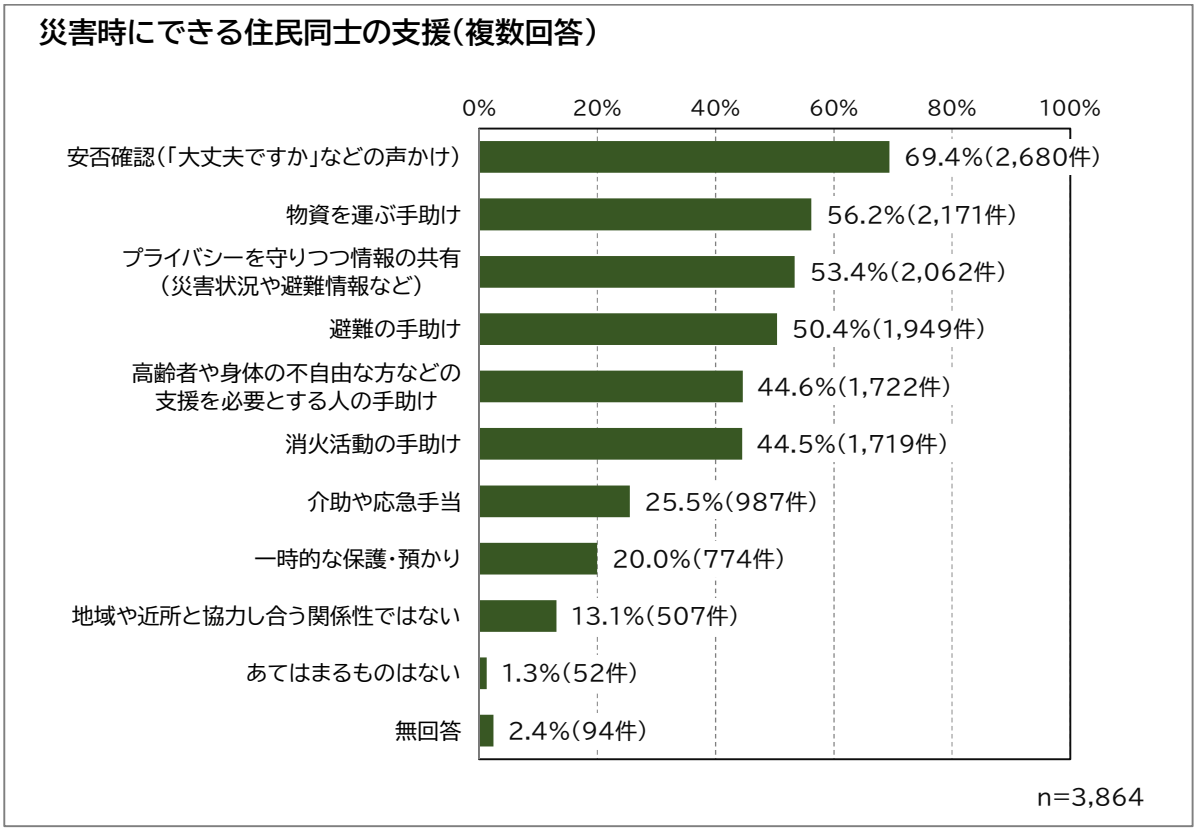


(7)区民アンケート(経堂地区)

単純集計(5/5)

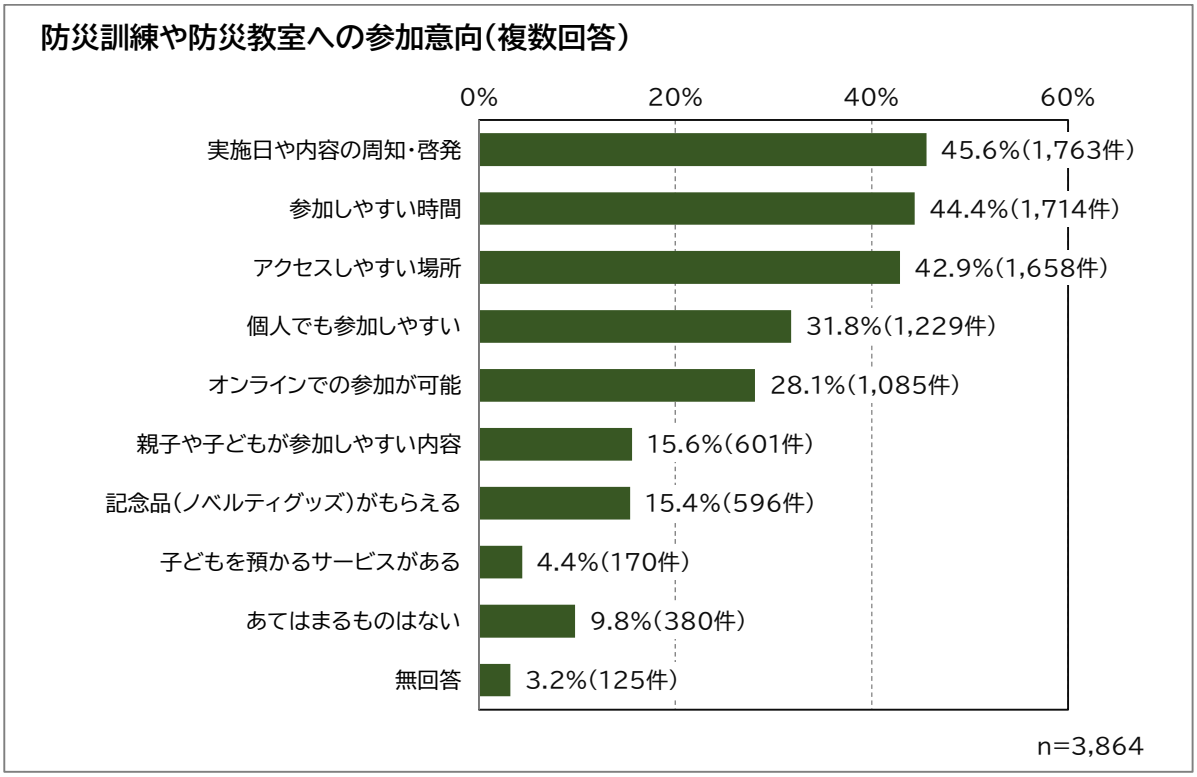
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

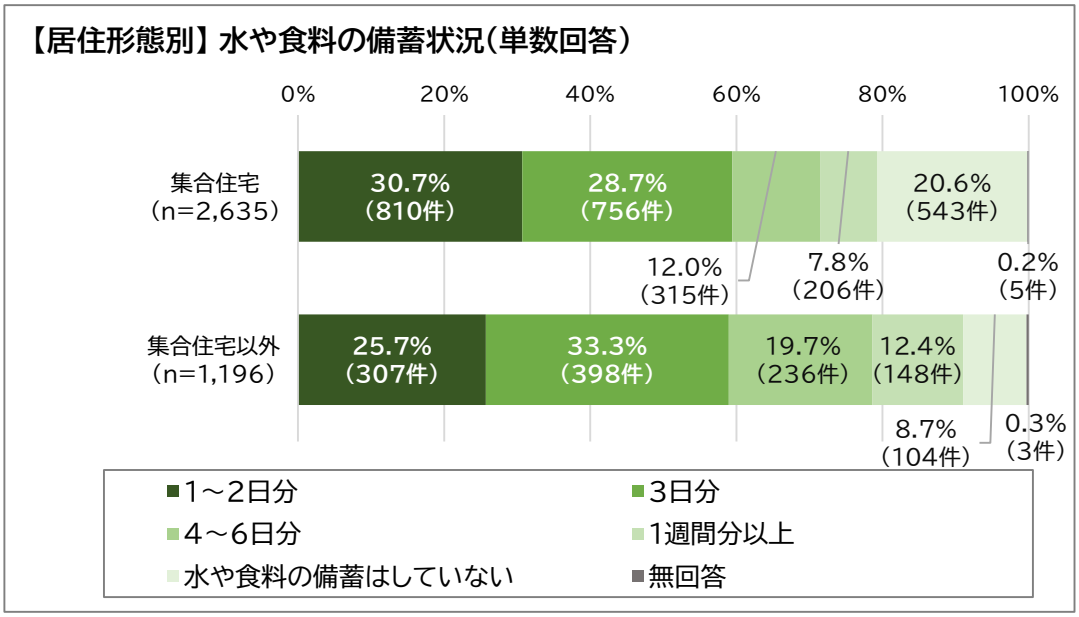


(7)区民アンケート(経堂地区)

クロス集計(1/4)

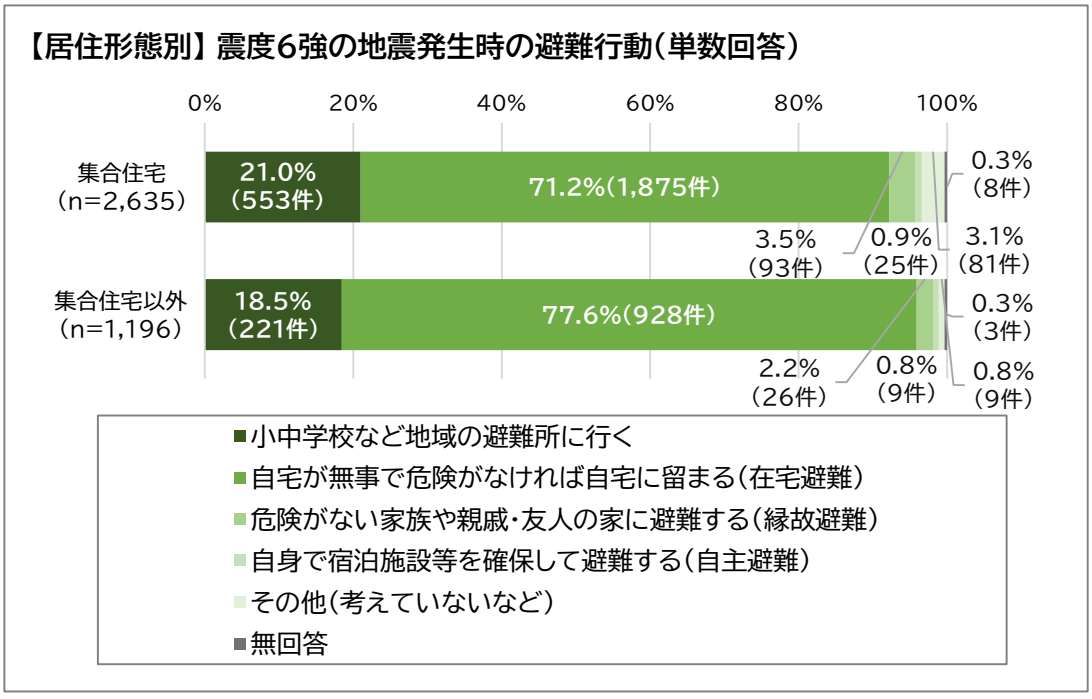
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(経堂地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

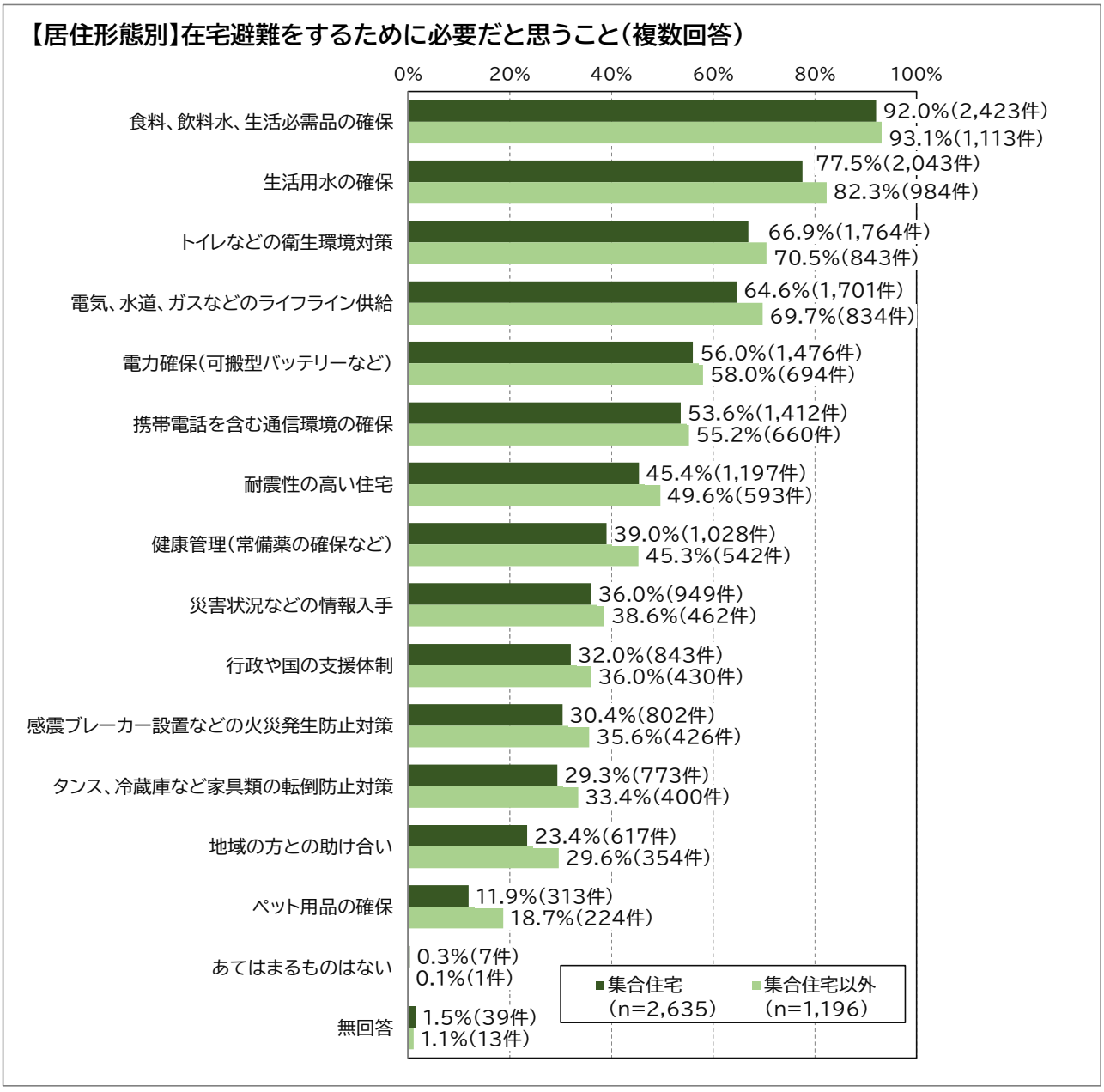
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(経堂地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

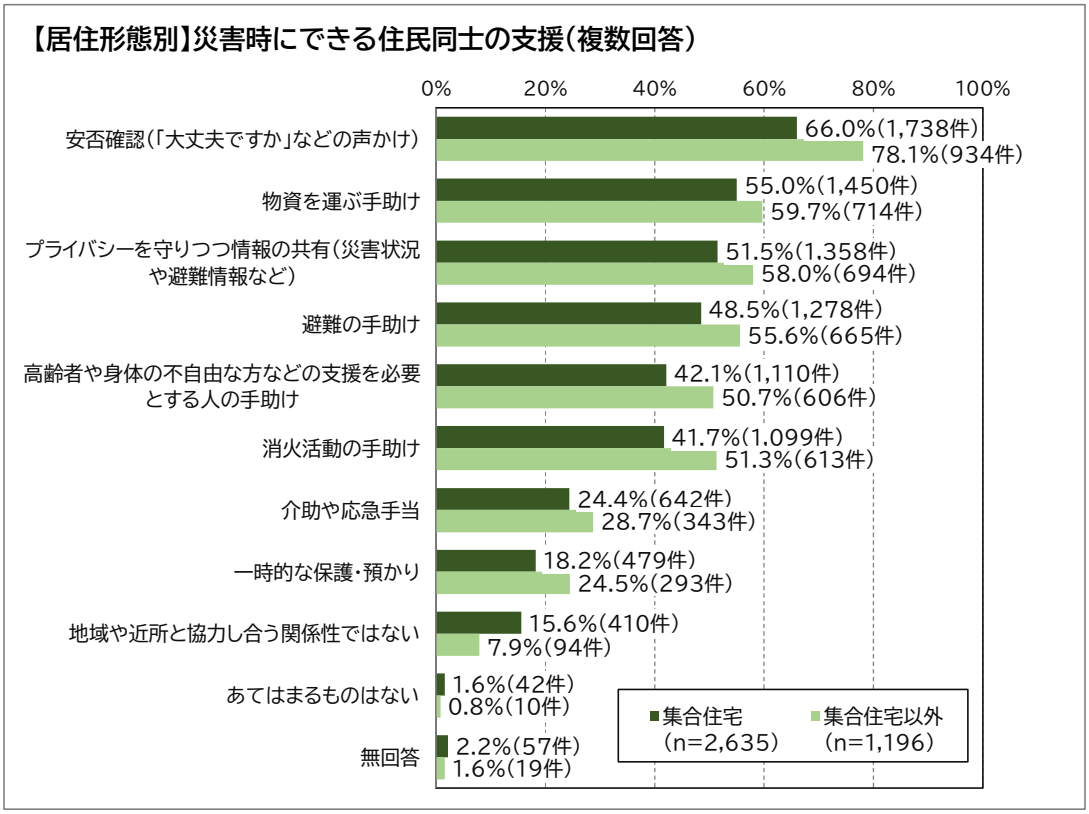


(7)区民アンケート(経堂地区)

クロス集計(4/4)

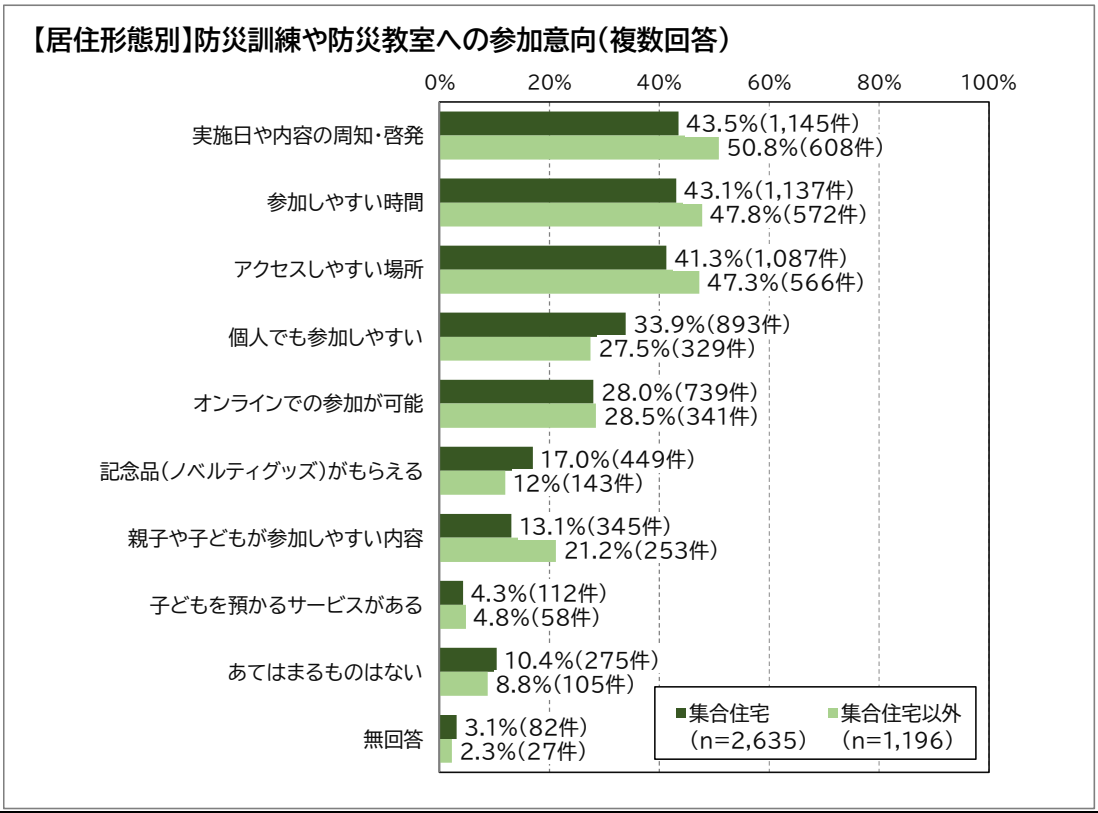
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動資機材配備等の実施		消火資機材の配備						消火資機材の配備				防災訓練等の実施									
										スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他				防災訓練		救命救急講習会		その他	
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所
経堂1丁目町会	20	○		避難所訓練 発災対応	3		○		○									○		1	桜丘小学校、経堂駅前	1	経堂駅前		
経堂北町会						○		○		2	町会員宅	1	経堂地区会館					○		2	経堂小学校と石仏公園	1	経堂地区会館		
経堂南町会	2	○		避難所運営訓練会議 D型ポンプ操作訓練時	1 10	○		○		1	町内倉庫（経堂4丁目児童遊園）	1	町内倉庫（経堂4丁目児童遊園）					○		2	桜丘小学校 経堂4丁目児童遊園 南公園	1	経堂南地区会館大広間		
宮坂1･2丁目町会	30	○		町会理事会	2	○		○		4	世田谷小学校、ねむの木公園訓練、町会長宅	2	世田谷小学校、ねむの木公園					○		2	世田谷小学校	1	世田谷小学校	施設見学	防災施設（年1回）
宮坂3丁目町会		○		宮坂3丁目町会役員会	12	○		○		4	町会役員宅	1	町会防災倉庫					○		2	経堂小学校 町内児童公園				
桜丘1丁目町会	5		○				○	○		3	町内3カ所							○		1	町会内				
桜丘町会	16	○		災害時支援隊	3	○		○		4	桜樹広場第1防災倉庫(2)、桜樹広場内(1)、都営桜丘5丁目アパート東側(1)	1	西原公園内					○		2	笹原小学校 桜丘中学校			まちかど防災訓練	町内（年2回）
桜丘南町会	8		○			○		○		3	宇山神社公会堂下倉庫外2箇所			9	南町会宇山神社公会堂下倉庫			○		3	笹原小学校 宇山神社	2		施設見学会体験（1年に1回）	バスにて色々な施設へ
東京農業大学		○		防火防災対策委員会	1～2	○		○		2				700		屋内消火栓		○		15		3			
経堂農大通り商店街振興組合	13	○		理事会	3	○		○		1	区駅前南自転車場			6	商店街内			○		1	駅前ロータリー				
経堂商店街振興組合	9	○		商店街理事会	12	○		○		1	スタンドパイプ倉庫			4	各階フロア			○		1	商店街				
経堂本町会	3	○		役員会	3	○		○		1	経堂1-18-12							○		1	経堂駅 経堂1-17-12				
経堂西通り商店会	5		○				○		○										○						
経堂南口平和通会			○				○												○						
経堂すずらん通り商店街防災部	9	○		理事会	1	○		○		1	1階裏口	○		4	各階エレベーター前	AED	1階エントランス	○		1	会館前	1	会館地下		
経堂セントラルマンション管理組合防災本部	9	○		防災会議	2	○		○						21	各階エレベーター前、その他適宜			○						防災会議	会議室

団体名	防災マップ										防災マップ		防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策					連絡手段の確保			
	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報						掲載情報		防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	作成・連絡網の整備	その他
					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他																				
経堂1丁目町会			○										1	○		○			○					○	○						
経堂北町会	○				○		○	○		○			1						○	宮坂3丁目町会				○	○				○		
経堂南町会			○										1		1	○			○					○			○				特に訓練は無し
宮坂1・2丁目町会	○				○	○	○	○	○	○		公衆電話 AED	4		4				○			○			○	○	75歳以上敬老訪問により理事把握		○	○	無線局登録5機 簡易型　4機 ショルダー型コンパクトメガホーンx1 ハンドリーハンド型拡声器x1、ポータブルアンプ一式x1
宮坂3丁目町会	○				○	○	○	○		○	○	緊急連絡先 地区内医療機関 総合病院	1		0		○			経堂北町会		○					地震等の時安否確認を行う		○	○	
桜丘1丁目町会			○											○	1				○			○			○				○		
桜丘町会	○				○	○	○	○	○		○	AED	3		2		○	○		桜丘南町会 東京農業大学（ボクシング部、野球部）			○		○		町会加入世帯で、75才以上の障害のある方で希望者			○	
桜丘南町会		○			○	○		○	○	○	○				○		○			桜丘町会		○						○			最初に災害本部委員に連絡をする
東京農業大学				○										○		○		○			町会		○					○	○	○	
経堂農大通り商店街振興組合			○										3		0				○											○	
経堂商店街振興組合				○										○		○	○			商店街、町会、小学校								○		○	
経堂本町会			○											○					○					○				○			
経堂西通り商店会			○											○					○									○			
経堂南口平和通会				○										○		○			○									○			
経堂すずらん通り商店街防災部				○										○		○	○			世田谷区商店街連合会				○				○			
経堂セントラルマンション管理組合防災本部				○										○		○			○					○				○			

団体名	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備																食糧等の備蓄					
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水
経堂1丁目町会			○				○	1		1			20		○	○			○		○		町会倉庫		○		○	○	
経堂北町会							○	○		1	1	2	28	1									町会倉庫		○				
経堂南町会			○		世田谷区防災マニュアルによる		○	1		1	2	1	15	1	1	5		3	1			町会倉庫（経堂4丁目児童遊園及び南台公園）			○		100		60
宮坂1・2丁目町会			○				○	2			4	2	100	3	○	○	○	○	○	○	○	一輪車x2 車椅子x1 エンジンチェンソーx1 油圧ジャッキ ツーウェイキャリーx2 ハロゲン投光機x3 4 グループx10 ゴーグルx10 防塵マスクx60 救助用ロープx1 らくらく「おんぶ」x4	町会長宅倉庫他		○				
宮坂3丁目町会			○				○	2			2	1	25	1								無線機4	宮坂3丁目倉庫		○				
桜丘1丁目町会			○				○	1			2		30	3										○					
桜丘町会			○				○	1		4	2	1	10		2				2	1		※ヘルメットは役員各自1個自宅に配備	第1防災倉庫（桜樹広場） 第2防災倉庫（西原公園） 稲荷神社 境内倉庫		○	10kg	60	50	384（500ml）
桜丘南町会			○				○		2	10	2	2	70		2	10		5	2	1		チェンソー エンジンカッター	桜丘南町会宇山神社公会堂下倉庫 神社広場防災倉庫		○				
東京農業大学	○				防災業務計画 災害対策本部運営計画 災害時対応マニュアル		○		○	○	8				○	○	○	○							○	○	○	○	○
経堂農大通り商店街振興組合			○				○			2		1	13	○	1			1						○					
経堂商店街振興組合				○			○	2	1	2		1	10	1								チェンソー	倉庫（1階）、地下備蓄倉庫		○	300	240		600
経堂本町会			○				○			2			10										経堂1-17-12 斉藤たばこ店	○					
経堂西通り商店会				○					○	○														○					
経堂南口平和通会				○		○																		○					
経堂すずらん通り商店街防災部				○			○	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○			地下倉庫 1F倉庫		○	○	○	○	○
経堂セントラルマンション管理組合防災本部				○			○	○		○		○			○	○	○	○	○	○				○					

団体名	食糧等の備蓄												その他の防災活動
	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害その他食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
経堂1丁目町会	○	○	○	○	○		○	3		電池単2＊10、簡易テント、石油ストーブ、係用ベスト	会長宅 町会倉庫	経堂1丁目町会住民	
経堂北町会								3					
経堂南町会	24	422					1	2			南台公園倉庫		D級ポンプによる消火訓練を月1回実施。 毎年「歳末夜回り」を2日実施。
宮坂1･2丁目町会						10	3		220	水中ポンプx1　石油ストーブx3　工場扇x2　スポットクーラーx2　パーテーションx1　ガソリン缶石油缶x5　かまどセットx2　鍋セットなどx4　食器セットなどx3　燻薪25kg	世田谷小学校防災倉庫(町会用) 町会長宅倉庫		D型ポンプ及びスタンドパイプ年2回点検及び訓練
宮坂3丁目町会							2			折りたたみ式リヤカー2、床クッションマット10、テント大中各2、簡易トイレ、炊き出しかまど、鍋、ガスコンロ	町内防災倉庫		町内各ブロック(各班)毎にスタンドパイプを使用した消火訓練を実施している。
桜丘1丁目町会													
桜丘町会		110	2	400		2	3	2	5	ロープ2巻	第1防災倉庫 (桜樹広場) 第2防災倉庫 (西原公園) 稲荷神社境内倉庫	町内住民	10月～12月　町内夜間パトロール(月2～4回) 12月26日～30日　町内夜警(21時～翌1時まで)
桜丘南町会						2				毛布3枚 座布団60枚位	南町会宇山神社公会堂下倉庫		
東京農業大学					○		3		○	毛布x500 ダンカx10 LHD照明機具 中型発電機x3　他			
経堂農大通り商店街振興組合													
経堂商店街振興組合	150	300	10			74	1		100	大人用紙おむつ　子供用紙おむつ　石油ストーブ　ラジオ　蓄電気　蓄電池　マンホール対応型トイレ　毛布x50　エマージェンシーブランケットx150　トイレットペーパー	各階ホール、備蓄倉庫	組合員	
経堂本町会											検討中		
経堂西通り商店会													当商店会は飲食店が多く通りの店が大多数のため会としての防災対策が進んでいないのが現状です。今後は町会などの協力をお願いし、徐々に対策をしていく考えでいます。
経堂南口平和通会													
経堂すずらん通り商店街防災部	○	○	○	○	○	○	○		○	ガソリン缶	地下倉庫 会館裏倉庫	組合員	
経堂セントラルマンション管理組合防災本部													

3 経堂地区の課題と取組み

課題1 住民同士のつながり、ネットワークの拡充

■現状（意見）

〇町会同士や商店街との連携

・町会と商店会の繋がりを深める。町会・商店会で災害発生直後の役割分担について協議する。
・近隣住民同士の連携が不可欠。お隣同士は仲良く情報交換しておきたい。
・町会や商店会への加入を促進していくべき。
・災害時〇〇提供の店等商店会の物資提供の仕組みづくりが必要。
・都営住宅の防災訓練参加率が高い。より狭いコミュニティで訓練を広げていくのもよい。
・近隣町会で連携することが大事。采配するリーダーが必要。
・町会の防災組織が基本。他に手が回らない。一時集合所の運営方法を整理する必要がある。

〇避難行動要支援者の安否確認

・高齢者や障害者について町会だけでは把握が難しい。
・避難行動要支援者の把握と安否確認をどのようにするか具体的に決まっていない。
・安否確認に個人情報の壁がある。障害者施設と町会の連携も現時点ではまだできていない。
・要支援者への取り組みは、町会、あんすこ、学校、PTA、おやじの会との連携が必要となる。
・効果的な支援のため、要支援者が支援内容の把握、地域との繋がりの認識を深める必要がある。

〇小・中学校保護者等若い世代への働きかけ

・災害時のことに関心を持ってもらい、人的ネットワークを広げていく必要がある。
・中学生と一緒に訓練することは、大人になっても関心を持ってもらえるのでよい。
・魅力がないと参加してくれない。中高生のニーズを聞き、生徒と保護者を巻き込んだ訓練をすべき。
・避難所運営訓練や防災訓練へのおやじの会の参加を呼びかける。次につながる機会とする。
・小学校の保護者の中には自分の町会を知らない人たちがいるため周知が必要。
・人集めが課題。消防団には最近若い人が入っている。呼びかけをしないと始まらない。

■地区としての取組みの方向性

・イベントを続けて地域の団体の顔が見える関係をつくる。
・町会内のブロックや都営住宅等小さいコミュニティでの防災訓練を実施する。
・地域のイベントやお祭りと合同で防災訓練を行う等参加者が楽しく訓練に参加できるよう工夫する。
・東京農大との連携。行事に声をかけ、引き続き関係性を深めるとともに学生に関心を持ってもらう。
・小さいコミュニティでのつながりを大切にする。
・私立学校や神社・寺院・コンビニ・商業施設・スポーツ施設等に災害時の協力を呼びかける。
・避難行動要支援者の対応について、あんしんすこやかセンター、社協、民生委員との連携を深める。
・あんしんすこやかセンターを通じ、介護事業者との連携を深める。
・災害時の避難行動要支援者対応の流れ、情報公開のルールを構築する。
・地区内で災害時の連携について話し合う場を設ける。

■各団体の今後の取組みの方向性

・経堂1丁目町会、経堂農大通り商店街、経堂本町会と経堂南口平和通会は、防災訓練を行い繋がりを深める。

・経堂北町会と宮坂 3 丁目町会は地域の商店街や団体と協力し、合同でイベントを行い、顔が見える関係をつくり連携する。

・経堂小の避難所運営訓練や防災訓練では子どもだけでなく、大人にも関心を持ってもらう工夫をしていく。また、地域住民に向け両町会合同で発行した経堂小避難所運営マニュアル冊子版を今後も共有し更新していく他、円滑な避難所運営や住民への啓発活動を共同で検討していく。

・経堂北町会とほほえみ経堂はお互いの会議やイベントに参加し、助け合える関係を目指す。

・経堂南町会は安心・安全パトロールを継続して行う。

・経堂南町会は、経堂1丁目町会と一緒に一時集合所から避難所となる桜丘小へ避難する訓練と避難所運営訓練を継続する。

・経堂南町会では、地域のイベントやお祭りとセットで参加者が楽しく防災訓練に参加できるよう取り組む。

・宮坂1・2丁目町会は世田谷小と全児童が参加する訓練を今後も継続して行う。

・世田谷小避難所運営訓練への PTA の参加者を増やす。

・経堂本町会は、AED の操作訓練を今後も実施していく。

・宮坂1・2丁目町会は、避難行動要支援者支援協定を締結しており、今後も継続して要支援者を確認し、民生委員と連携していく。

・宮坂1・2丁目町会は町会への加入促進に取り組んでいく。

・桜丘町会では地域の団体へ災害時要援護者支援隊の登録を呼びかける。

・桜丘町会では笹原小保護者と連携し互いに防災訓練に参加するなど、相互協力を深める。

・桜丘町会では避難行動要支援者へ配付する「さくらカード」を災害時の支え合いに活用していく。

・桜丘の3町会では小さい単位での防災訓練を実施し、参加者を増やし、知り合う機会にしていく。

・桜丘の3町会は、覚書を交わした東京農業大学と引き続き連携し、運動部の学生と地域で日頃から交流し関心を持ってもらうことで、災害時に支え合える関係を築く。

・桜丘地区では、イベントで防災訓練も実施するなど、楽しく・ふれあい・知り合えるよう工夫する。

・桜丘南町会では東京農業大学と連携した秋の防災訓練を継続する。

・桜丘南町会では夏休みラジオ体操最終日に消防署指導の元、親子の消火器訓練を継続していく。

・桜丘南町会では毎年実施する他県の防災施設の見学等を行う研修会を長期間継続しており、今後も継続することで防災意識向上と初参加者との交流など地域住民の関係性を深めていく。

・桜丘南町会では、引き続きお祭りや盆踊り等のイベント実施により、地域の多くの方と知り合い、ふれ合える場を作っていく。また、今後定期の町会パトロールを検討する。

・桜丘南町会は避難行動要支援者名簿の活用検討を行う。

・笹原小学校おやじの会では、小学校を会場として実施する防災学習合宿等を通じ、
児童・保護者に防災知識・意識の向上を図っていく。

課題2　情報不足・情報が行き届いていない

■現状（意見）

〇情報不足

・情報については、町会に入っていない人も多く、行き届かない。
・近所付き合いの希薄化が進み地域の人、情報をよく知らない。
・訓練に参加している人は意識が高いが、一方で避難所に行けば助かると思っている人たちも多く住民の意識改革が必要では。

〇防災マップの作成・まち歩き

・町会で防災マップを作成し、防火水槽の場所やスタンドパイプ等防災資源を把握している。
・道路の安全確認が非常に重要である。今後、防災マップを作成し、まちを歩いてみることも必要。
・防災についてもっと精通しないといけない。また防災組織の強化をしないと意味がない。

〇集合住宅への働きかけ

・集合住宅にどんな人が住んでいるか分からない。
・集合住宅の安否確認、情報収集、防災組織の強化が課題
・大型マンションとの連携が薄いため、マンションで防災訓練が実施される際、町会にも連絡してもらい、町会員も訓練に参加するようになるといい。

■地区としての取組みの方向性

・子育て世代等が参加の多いイベントのときに防災訓練等をPRする。
・小学校の児童・PTA、町会でまち歩きを行い、地域の課題を再確認する等その過程を大切にしながら防災マップを作成する。
・防災マップを3年ごとに見直すなど、地域への浸透を目指す。
・新しく開発される地区やマンションは建築中から町会加入について販売会社に加入促進の協力を求める。
・避難所運営訓練の案内を集合住宅にも配布させてもらうなど、防災意識の醸成を拡げていく。
・水害時の避難所や災害時の情報手段、また、新型コロナウイルスにも関連した在宅避難の推進等、防災関連情報について地域住民への周知を図る。

■各団体の今後の取組みの方向性

・経堂１丁目町会は、今後も町会独自のニュースを発行し、広報板や回覧で情報を発信していく。
・経堂北町会と宮坂3丁目町会で一緒に作成した防災マップを３年ごとに見直す。また、町会ホームページ等により防災関連の情報発信を行う。
・宮坂１・2 丁目町会は、地域特性や防災資源を確認し、地域の課題を認識し作成した防災マップを活用して地域住民や世田谷小の児童・PTAとまち歩きを行い、自ら考える意識を持てるよう防災学習に役立てる。
・宮坂１・2 丁目町会は、75歳以上の方の個別訪問（敬老金）を継続してコミュニケーションをとる。

・桜丘の3町会では防災マップを一緒に作成し、情報を共有、活用していく。
・桜丘南町会では独自の防災マップ作成を検討する。
・NPO 世田谷桜丘まちづくりでは、災害時ミニFMで情報を発信する。
・桜丘の3町会は新しく住宅が開発される地区やマンション販売会社に町会加入促進の協力を求める
・桜丘地区ではウォークラリー等のイベントで子育て世代に防災訓練をPRしていく。

課題3　逃げなくてもいい安全なまちをつくるために

■現状（意見）
〇スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプの増設
・経堂駅の北側は火災が延焼すると北の方面に行けなくなるため、初期消火が非常に大切になる。
・延焼を遮断するためのまちづくりが必要。
・住宅密集地区は火災が発生すると広がりやすいという危険性がある。
・発災後の丁寧なシミュレーションが必要。
・スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプ操作訓練を定期的に行っているが、一部の固定化したメンバーしか参加していない。
・24時間開いており、若い従業員の多いコンビニエンスストアと連携していきたい。
　災害に備えてスタンドパイプなど初期に使う資機材を設置できるとよい。

〇狭い道路等の問題
・狭あい道路が点在している。
・烏山川緑道付近は地盤が弱い。
・宮の坂駅付近の崖くずれが怖い。

〇区の施設等の有効利用
・区の施設、設備、土地を有効利用する。スタンドパイプの設置場所等区の施設、設備が有効利用されていない。
・避難所となる学校のキャパシティ不足
・私学の用地の活用・協力を依頼したい。
・給水所が不足している。
・災害時に小田急線が運休してしまった際、駅利用者の対応の必要がでてくる。
・マンションの空地に防災倉庫を置けないか。

■地区としての取組みの方向性
・消火栓や街路消火器、スタンドパイプの不足を感じるため、増やすことを働きかける。
・スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプは、水は使わずセットする訓練等方法を工夫して訓練回数を増やす。
・地区内の施設・私立学校・企業等への災害時の協力を依頼する。
・在宅避難を推奨し、避難所との付き合い方をPRする。

■各団体の今後の取組みの方向性

・経堂北町会と宮坂3丁目町会は、街路消火器等消火設備を増やし、火災の延焼を遮断するためのまちづくりを進める。
・経堂南町会は可搬式D型消防ポンプ操作訓練を今後も毎月実施する。
・経堂南町会は防災訓練に参加する人を増やす工夫をしていく。
・宮坂 1・2 丁目町会は、スタンドパイプの増設と設置場所を探す。
・桜丘 1 丁目町会は大規模災害を想定し、町会内3か所で同時に消火器とスタンドパイプを操作する訓練を今後も実施していく。
・桜丘南町会は、今後も宇山神社で防災訓練を実施していく。
・東京農業大学は、大学周辺町会及び商店街の防災訓練に協力、支援をしていくとともに、大学内での学生対象の普通救命講習会を継続していく。
・桜丘地区では、在宅避難と1週間分の食料備蓄を推奨し、物資支援等避難所との付き合い方をPRしていく。
・桜丘町会では、引き続き、誰でも利用できるようスタンドパイプの公園等、公共の場への設置を進めていく。

下馬地区防災計画

［令和7年修正］

「しものざワン」

下馬地区防災計画作成団体

（順不同）

下馬1丁目町会	世田谷消防団第12分団
駒繋西自治会	世田谷消防団第14分団
下馬2丁目北町会	第6ブロック高齢者クラブ
下馬新生自治会	駒繋小学校
下馬5丁目町会	旭小学校
下馬6丁目町会	中丸小学校
野沢1丁目明朗会	駒留中学校
野沢2丁目町会	三宿中学校
野沢3丁目町会	世田谷地域社会福祉協議会事務所
野沢四丁目自治会	下馬あんしんすこやかセンター
身近なまちづくり推進協議会 （生活環境防災部会）	日本大学危機管理学部
日本赤十字奉仕団下馬東分団	東急トランセ下馬営業所
日本赤十字奉仕団下馬西分団	世田谷消防署
下馬地区社会福祉協議会	世田谷警察署
野沢地区社会福祉協議会	下馬地区民生委員・児童委員協議会
世田谷ボランティア協会	青少年下馬・野沢地区委員会
東京学芸大学附属高等学校	

目 次

1 はじめに……下馬-1(-164-)

2 下馬地区の特性…… 下馬-2(-165-)
(1)自然特性 …… 下馬-2(-165-)
(2)社会特性…… 下馬-3(-166-)
(3)地域危険度 …… 下馬-5(-168-)
(4)被害想定…… 下馬-6(-169-)
(5)防災資源一覧…… 下馬-9(-172-)
(6)防災資源マップ ……下馬-10(-173-)
(7)区民アンケート…… 下馬-11(-174-)

3 各団体の防災活動～現在の取組状況～……下馬-20(-183-)

4 下馬地区の課題と今後の取り組み ……下馬-28(-191-)
(1)現状・課題・背景など……下馬-28(-191-)
(2)これまでの主な取り組みや成果……下馬-28(-191-)
(3)今後の取り組み……下馬-29(-192-)

1　はじめに

東日本大震災では、地震や津波によって自治体の行政機能が麻痺し、住民による自助、地域コミュニティにおける共助が重要な役割を果たした。国はこうした教訓を踏まえ、平成25年に災害対策基本法を改正し、地区居住者等による自発的な防災活動を促すため「地区防災計画制度」を創設した。

これを受け、世田谷区では、各まちづくりセンターの管轄区域ごとに地区防災計画を作成することとした。下馬地区では、平成26年度より防災塾を開催し、地区の特性や被害想定を分析したうえで避難所ごとに検討した結果を4つのテーマに分け意見集約し、平成29年に「下馬地区防災計画」を策定し、令和3年に修正を行った。

本計画は、令和3年修正から、この間の防災塾で検討を重ねた結果等を反映し、令和7年修正版として改めて地区団体等による防災活動に関する取り組みをまとめたものである。

今後は、本計画を地区住民で共有するとともに、下馬地区防災計画に基づいた地域活動を更に推進していくことが重要である。

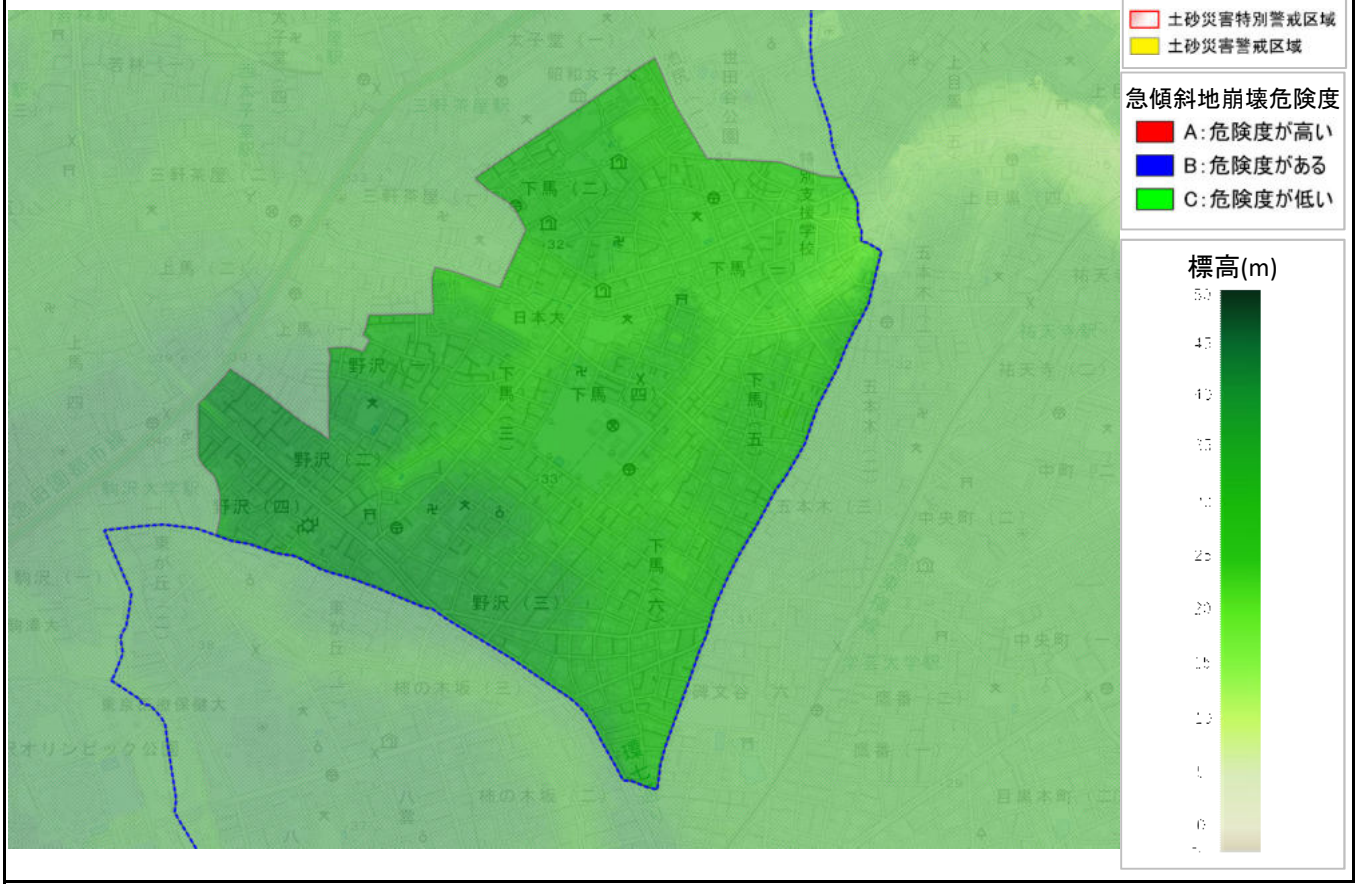
2. 下馬地区の特性

(1)自然特性

面積	2.08　Km²	最高標高	41.5　m	最低標高	20.8　m

位置

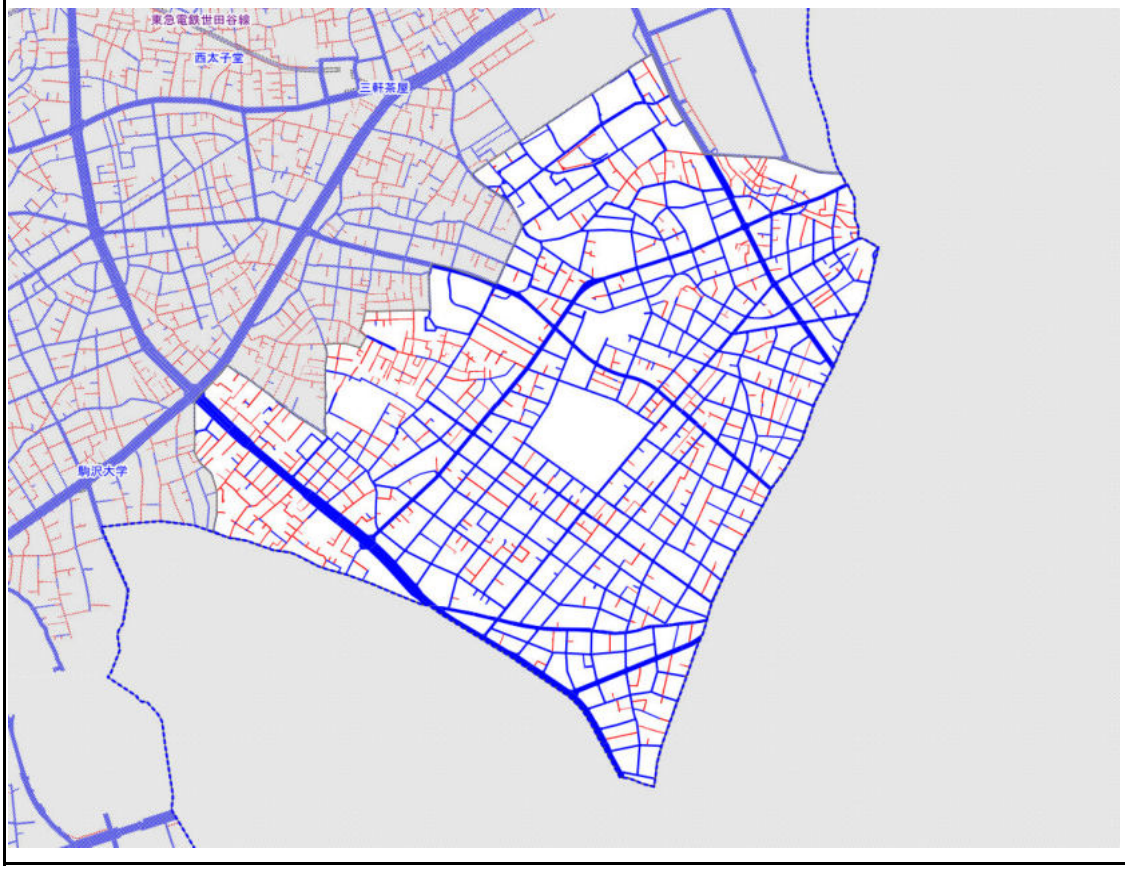
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

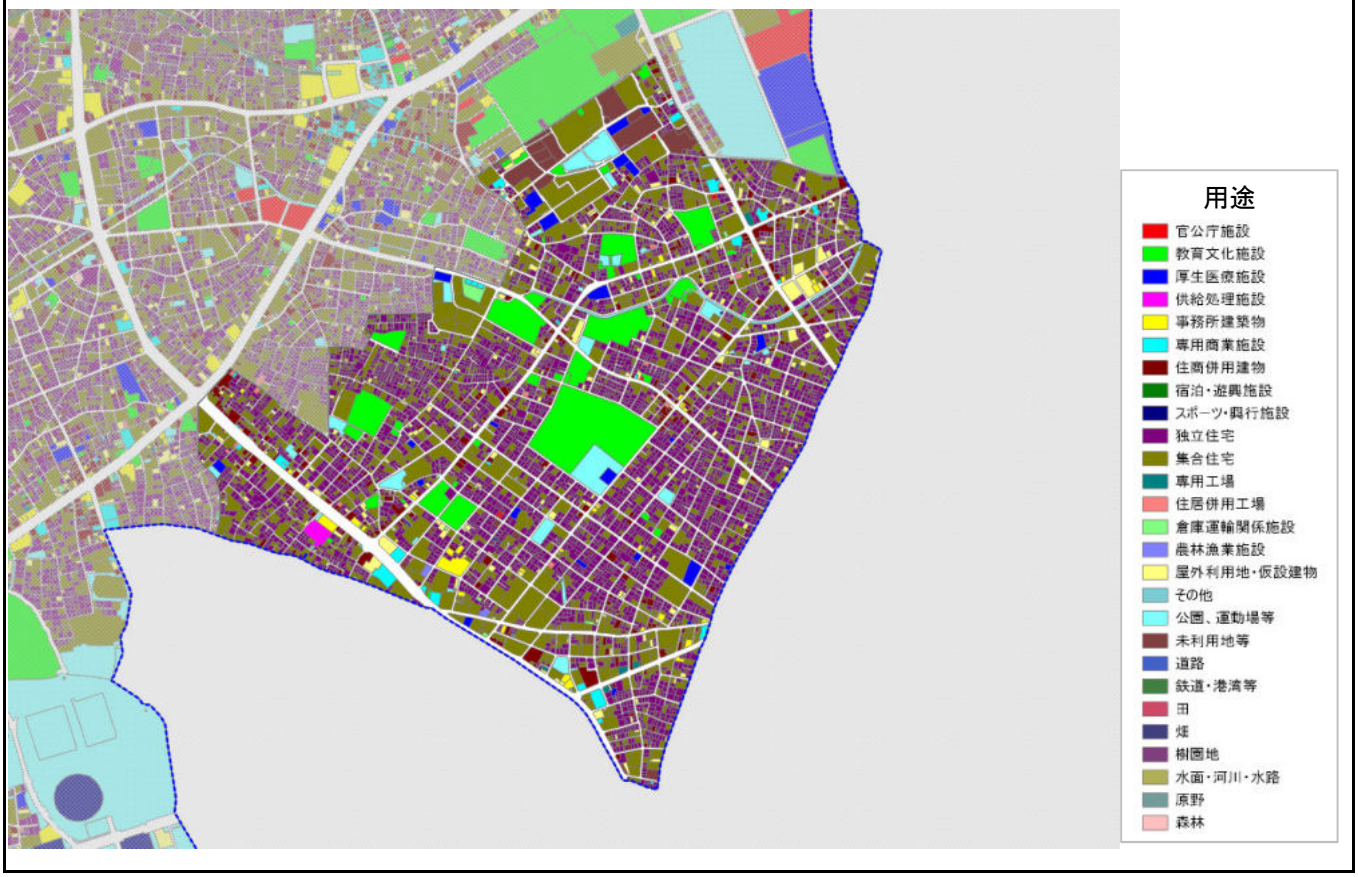
人口	42,869 人	細街路率		29.9 %	
世帯数	23,688 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		64.5 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.81 人	耐火率(建築面積ベース)		66.5 %	
若年層数(15才未満)	4,810 人	土地利用(宅地)		72.8 %	
若年層率(15才未満)	11.2 %	土地利用(宅地以外)		27.2 %	
高齢者数(65才以上)	9,052 人	鉄道駅			
高齢者率(65才以上)	21.1 %				
昼間の人口	32,083 人	産業	商業	88.7 %	
夜間の人口	44,071 人		工業	9.9 %	
昼夜間人口比	0.73 -		農業	1.4 %	
町会・自治会数	10 -				

道路・公共交通機関



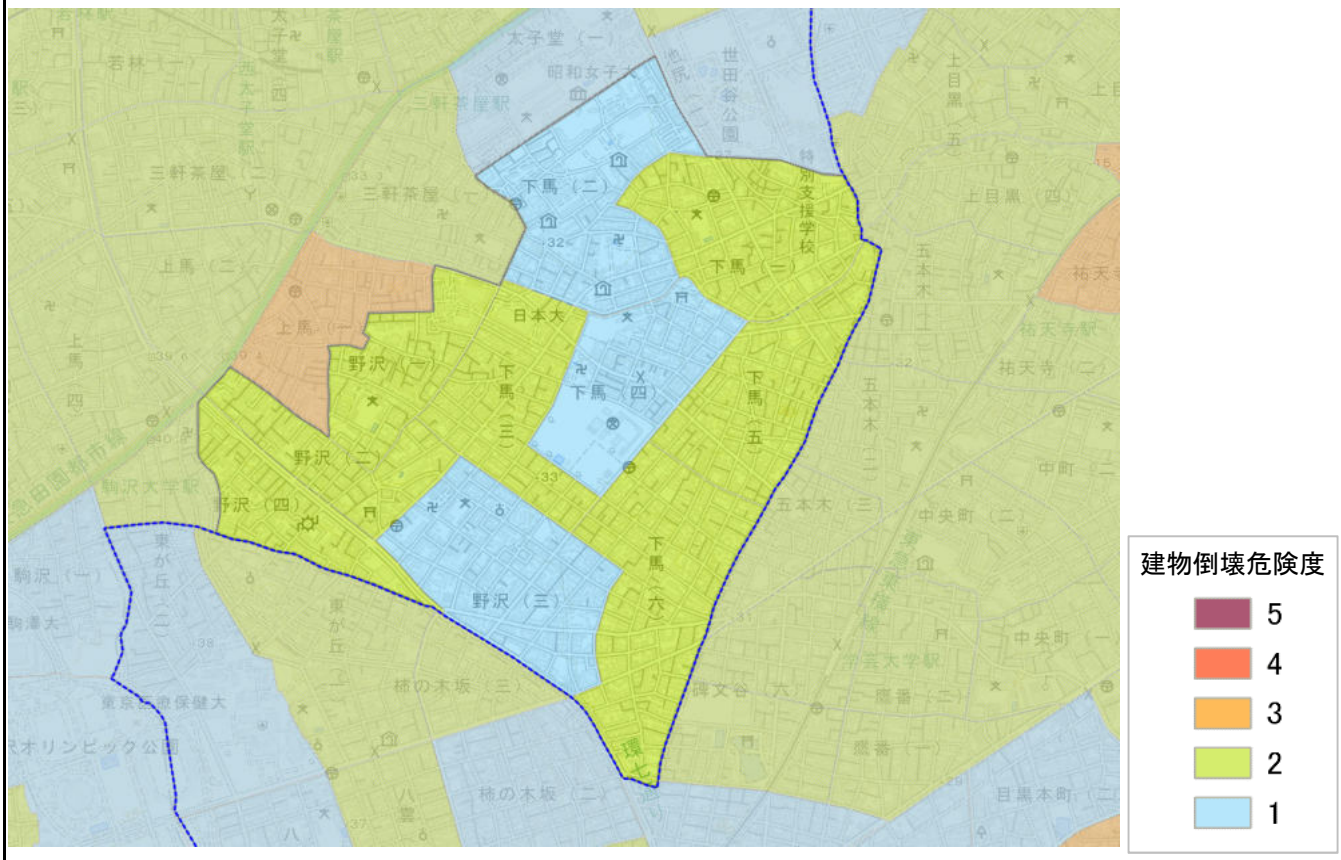
(2)社会特性

産業

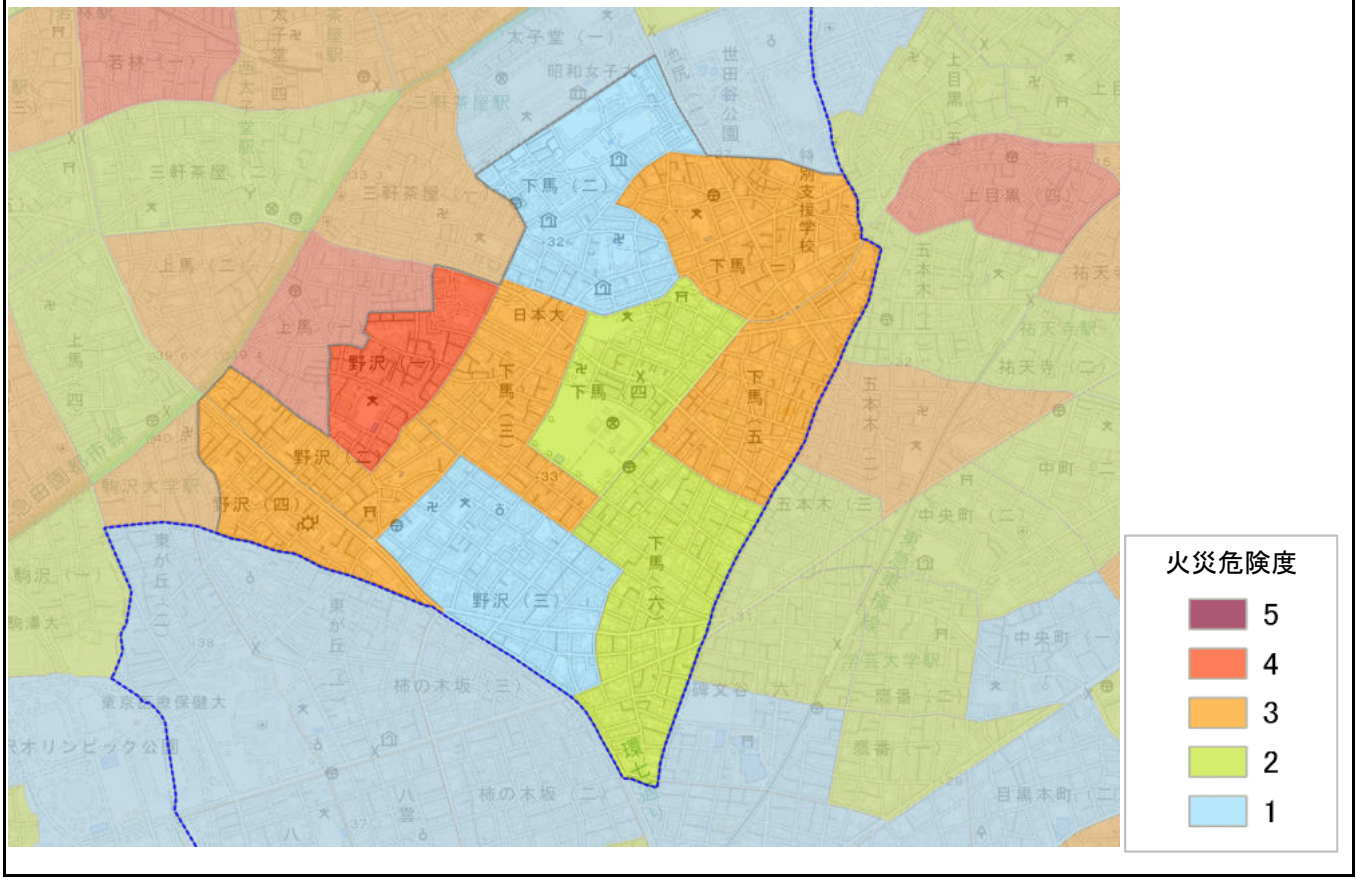

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



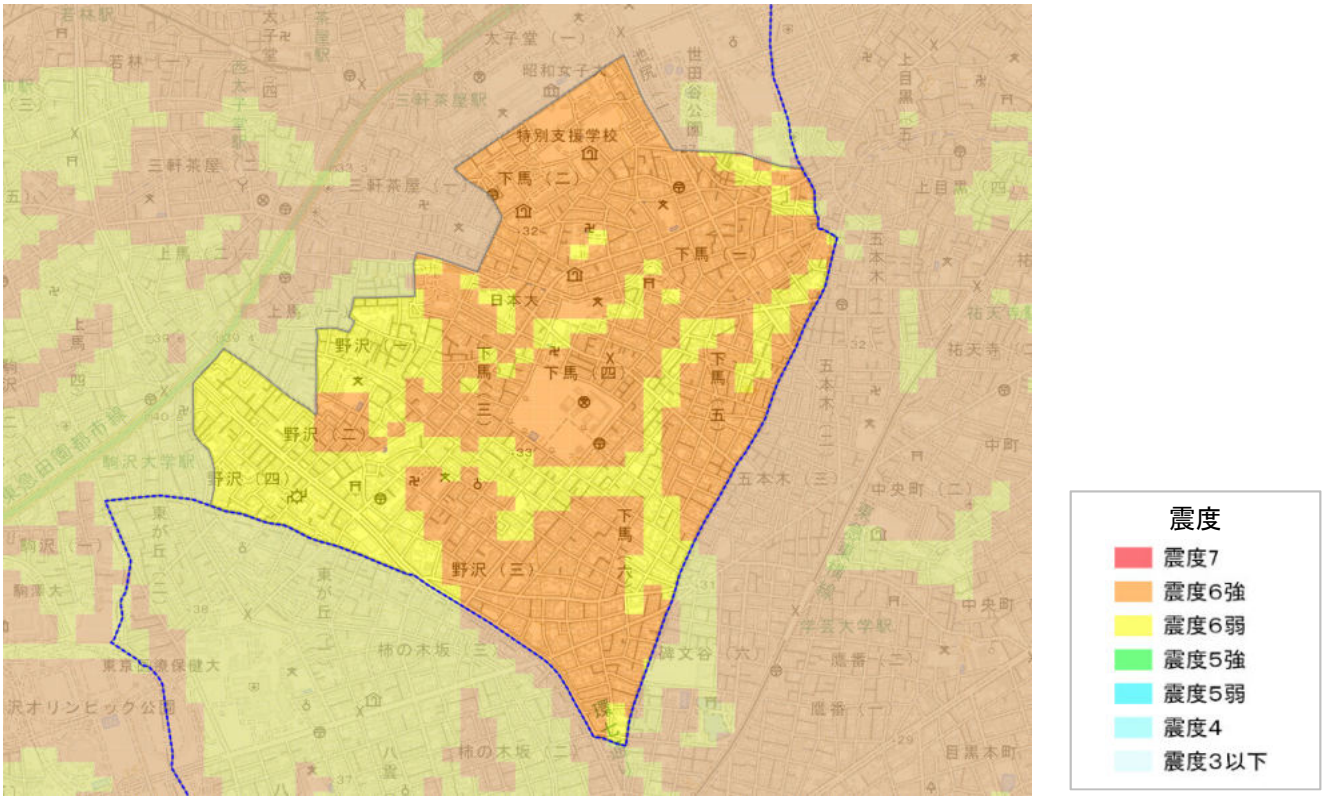
火災危険度



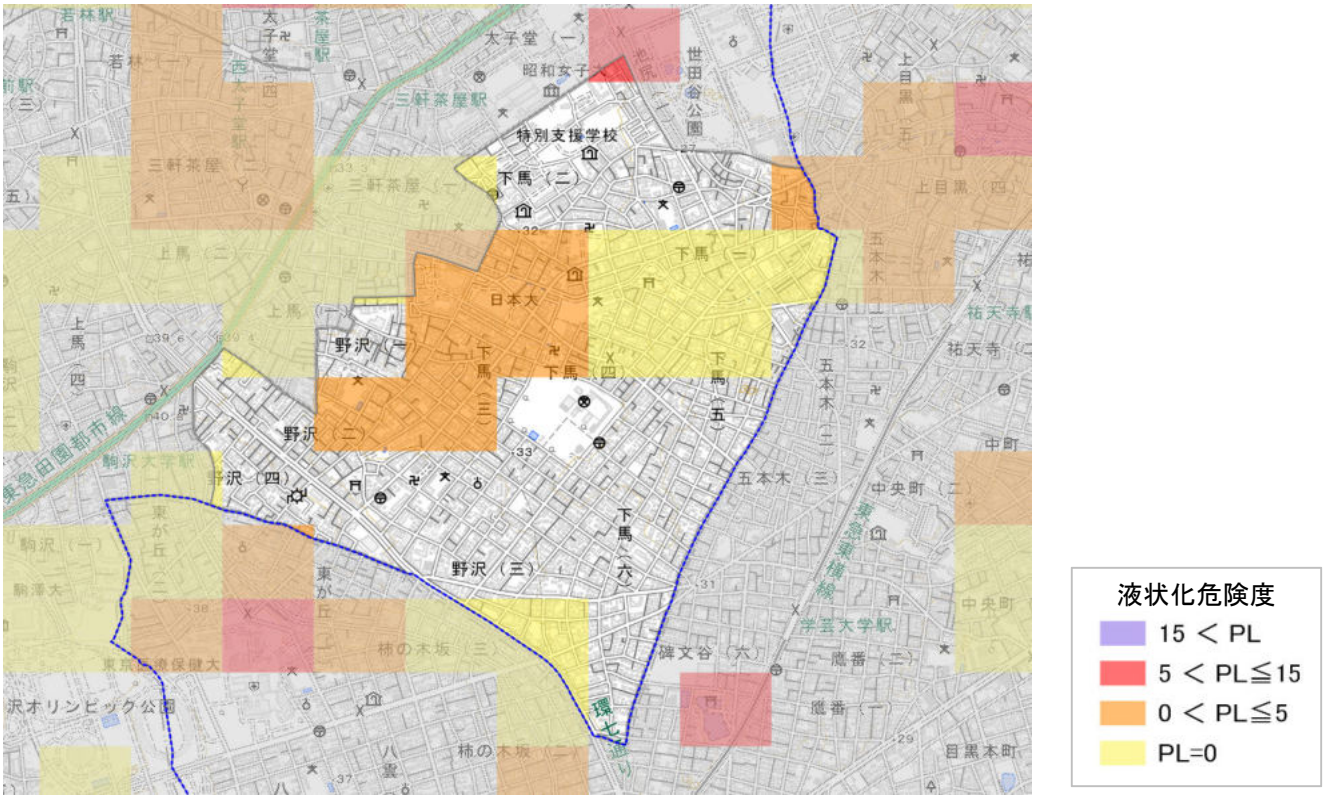
(4)被害想定

全壊棟数	300 棟	死者	26 人
半壊棟数	822 棟	負傷者	284 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	583 棟	うち重傷者	48 人

震度分布

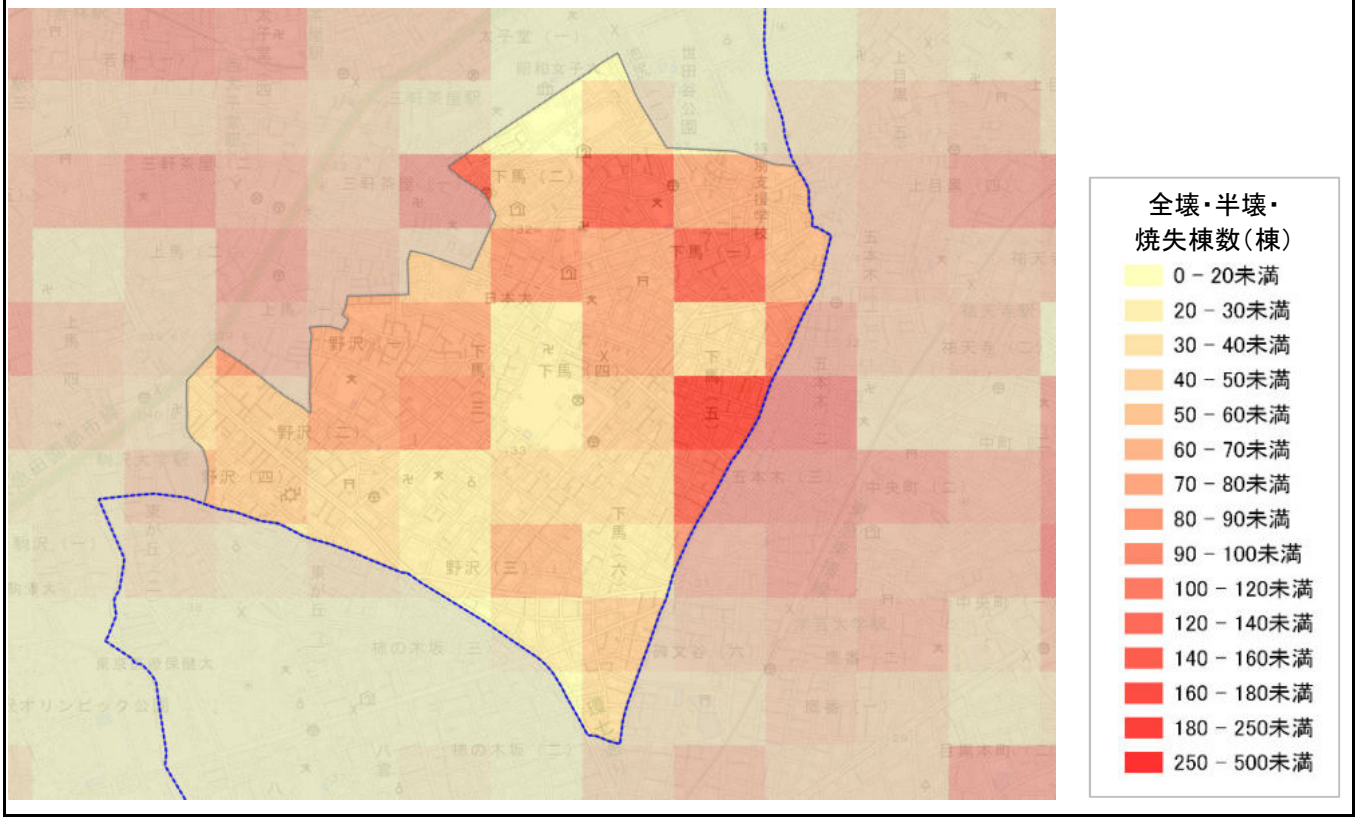


液状化分布



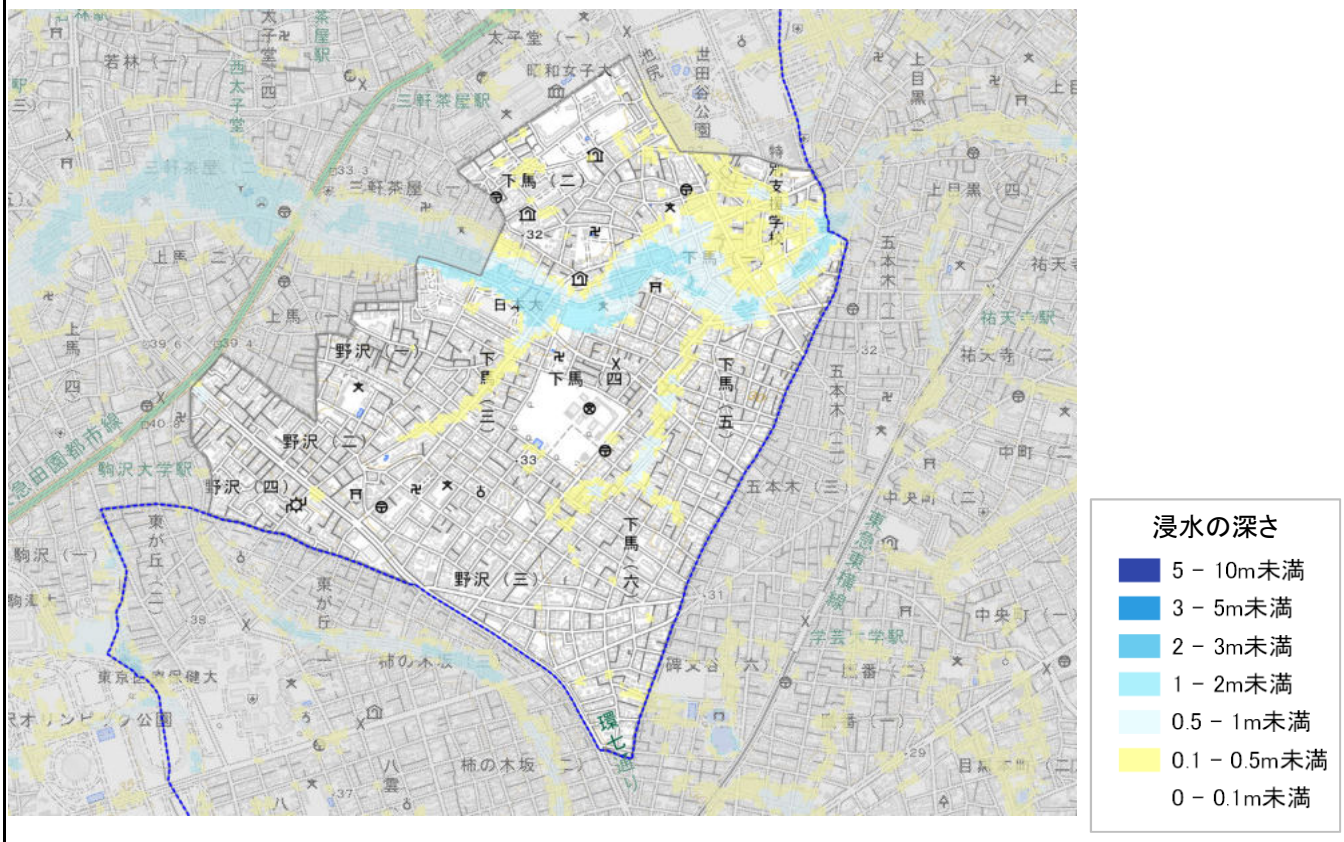
(4)被害想定

被害棟数分布

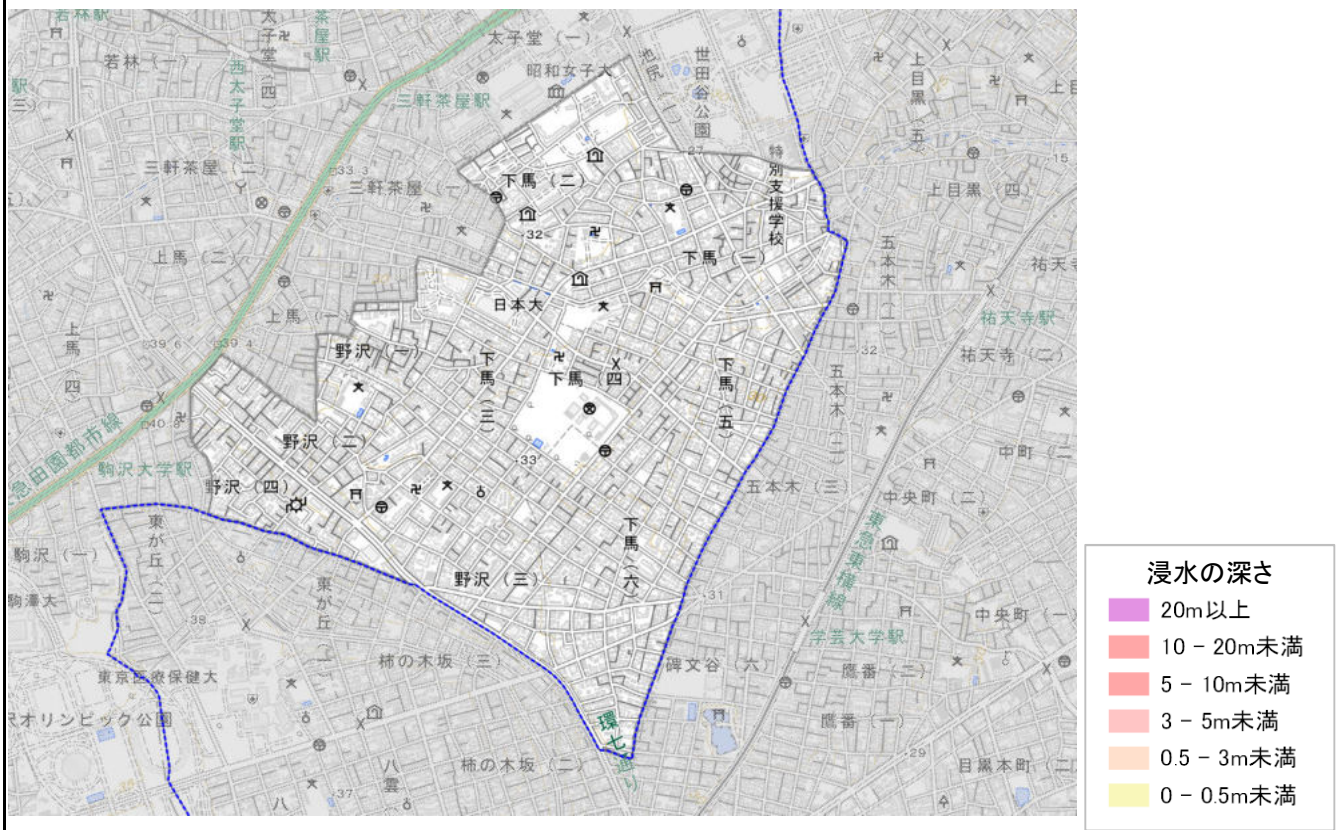


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



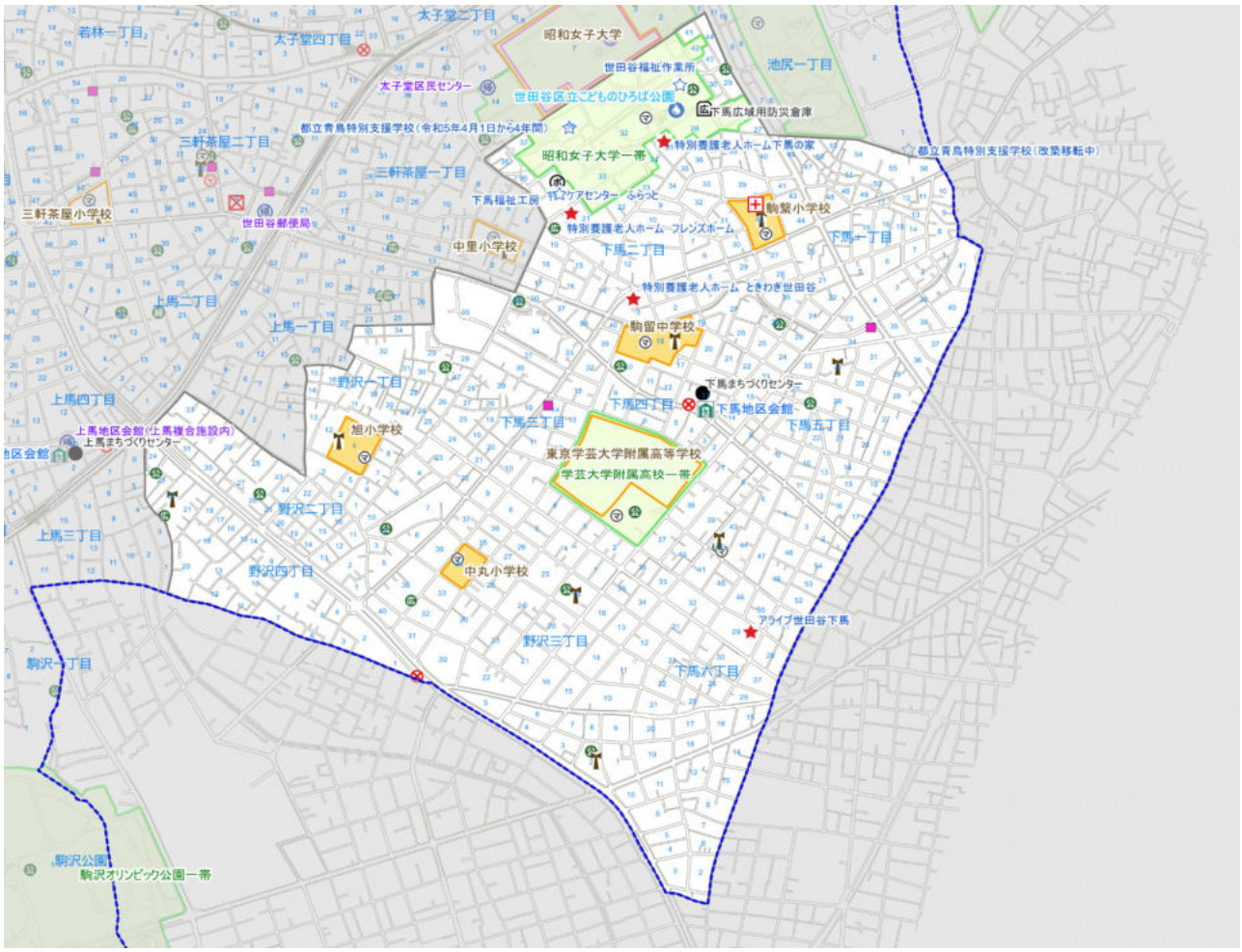
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	学芸大学附属高校一帯　昭和女子大学一帯				
一時集合所	こどものひろば公園　旭小学校　下馬公園　下馬中央公園　関電工敷地　駒繋公園　駒繋小学校　子の神公園　世田谷公園　中丸小学校　中里小学校　鶴ヶ久保公園　南原公園　碑文谷公園　野沢2丁目公園　野沢公園　野沢児童遊園　野沢明朗公園　龍雲寺				
指定避難所	旭小学校 駒繋小学校 駒留中学校 中丸小学校				
予備避難所	東京学芸大学附属高等学校				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホームフレンズホーム　アライブ世田谷下馬　特別養護老人ホーム下馬の家　特別養護老人ホームときわぎ世田谷				
福祉避難所(障害者)	下馬福祉工房　世田谷福祉作業所　ケアセンターふらっと　都立青鳥特別支援学校(令和5年4月1日から4年間の予定。以降は池尻1-1-4。)				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	下馬地区会館				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	駒繋小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	7　ヶ所	防災行政無線塔	8　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	世田谷区立こどものひろば公園				
広域用防災倉庫	下馬広域用防災倉庫				
土のうステーション	蛇崩川緑道(下馬5の34付近)世田谷観音入口交差点付近歩道植栽帯				
警察署・交番	下馬四丁目交番　野沢地域安全センター				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

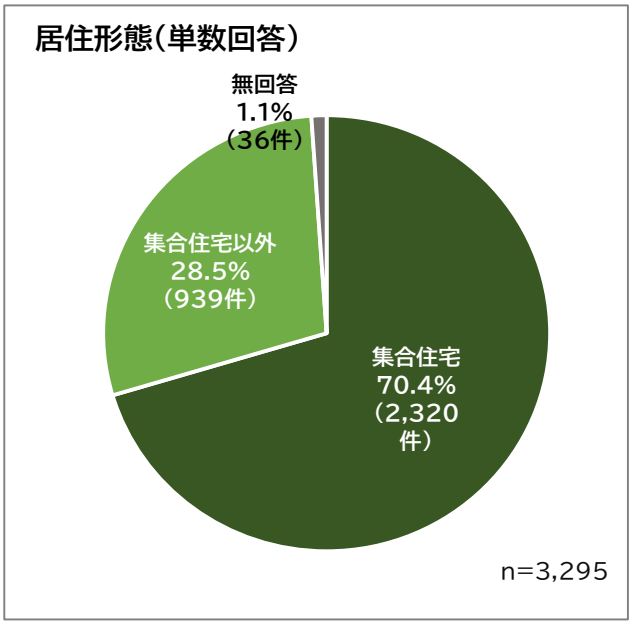
(7)区民アンケート(下馬地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

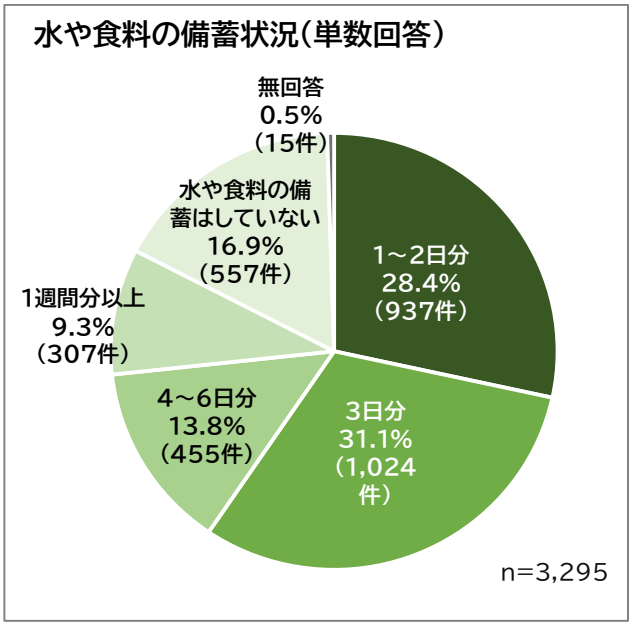
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

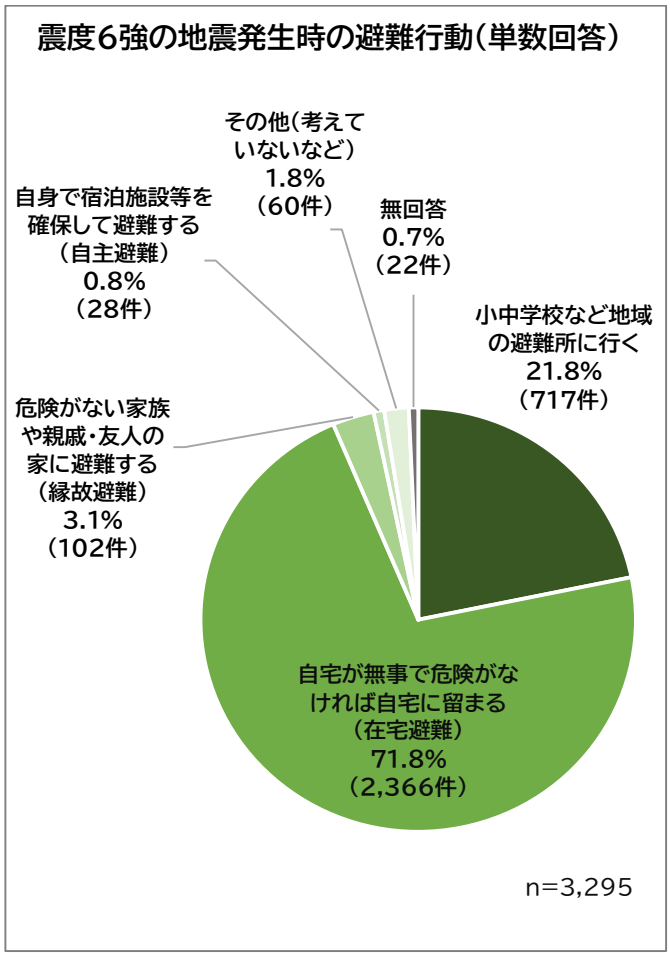


(7)区民アンケート(下馬地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

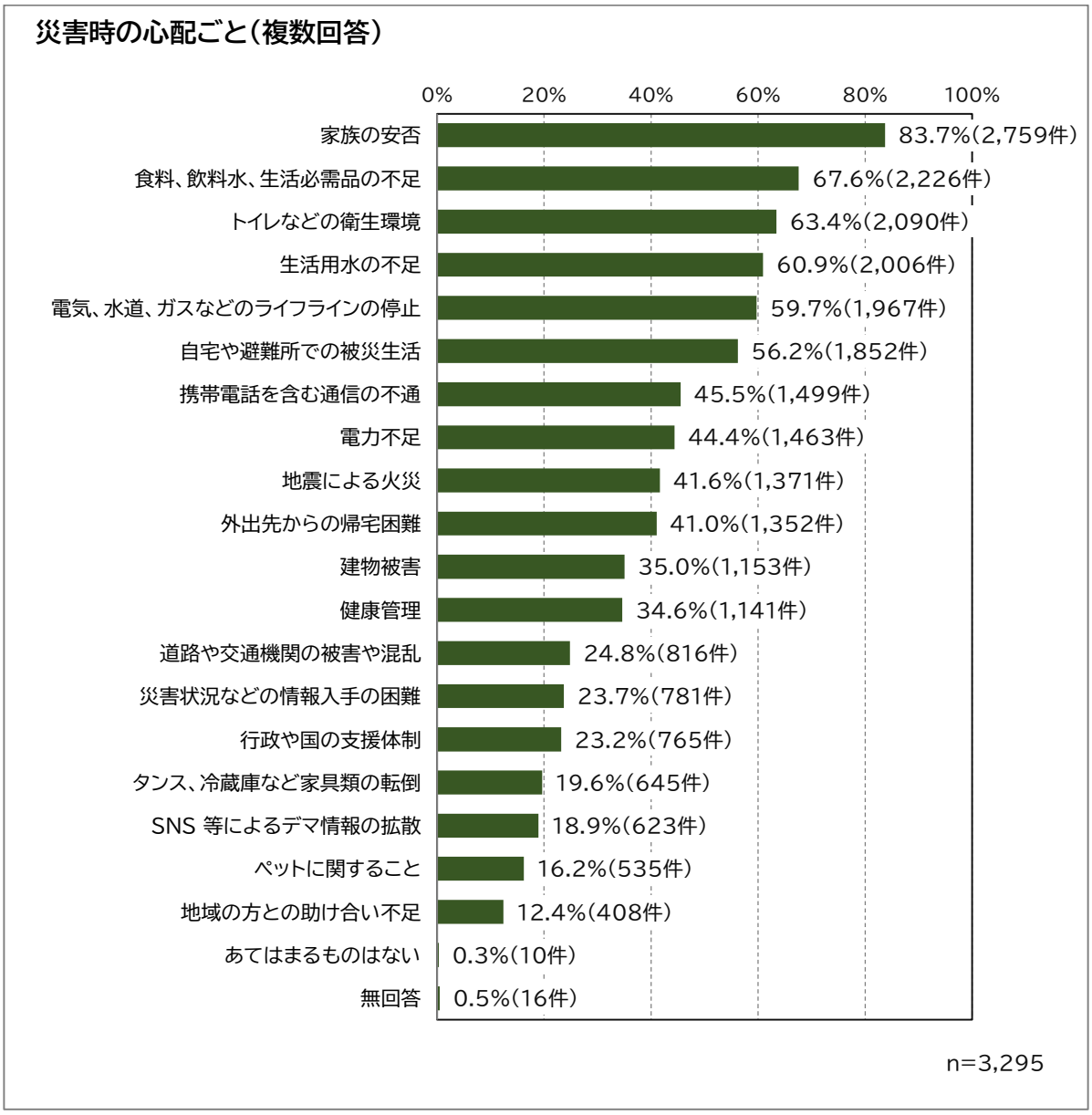


(7)区民アンケート(下馬地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

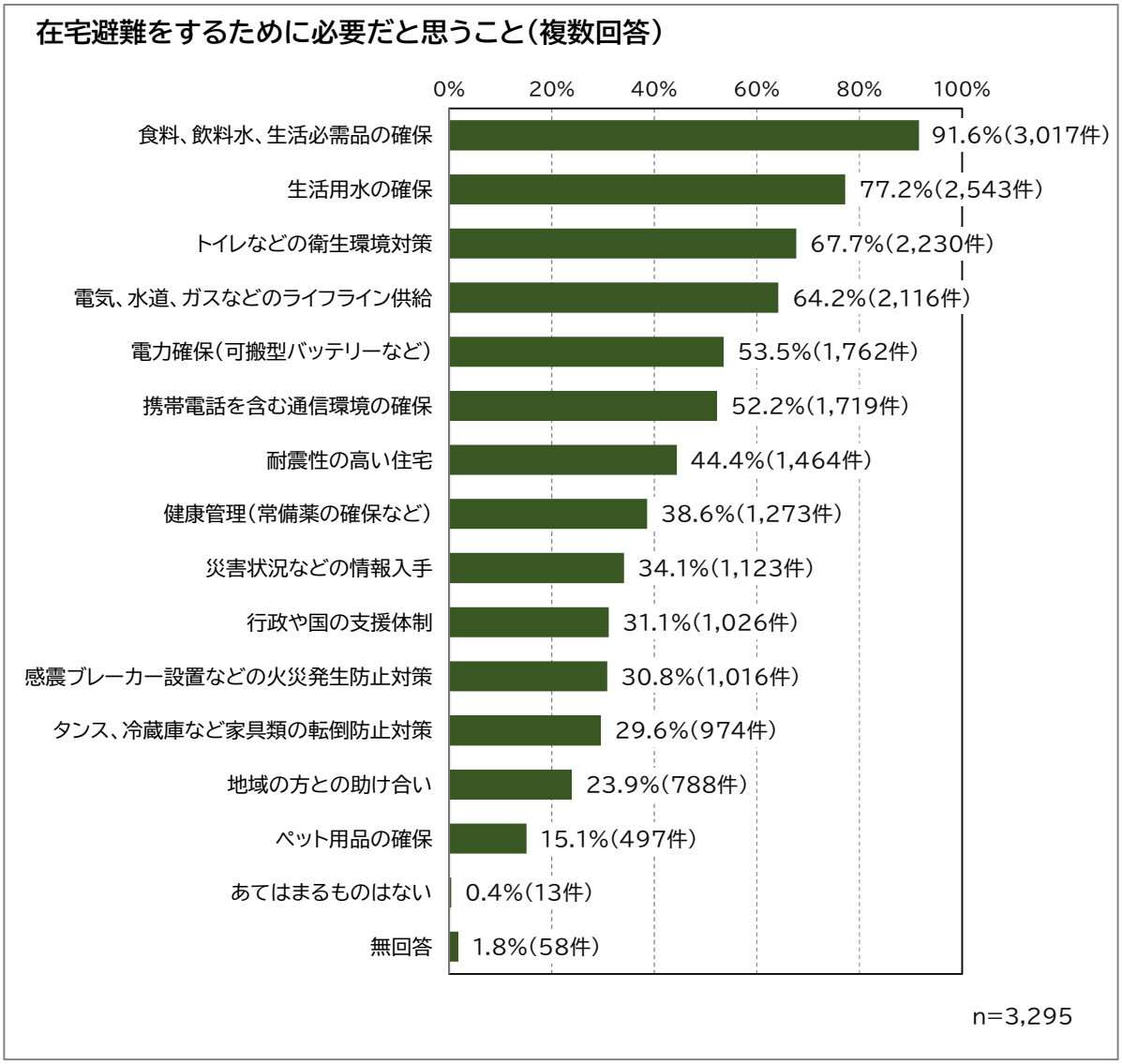


(7)区民アンケート(下馬地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

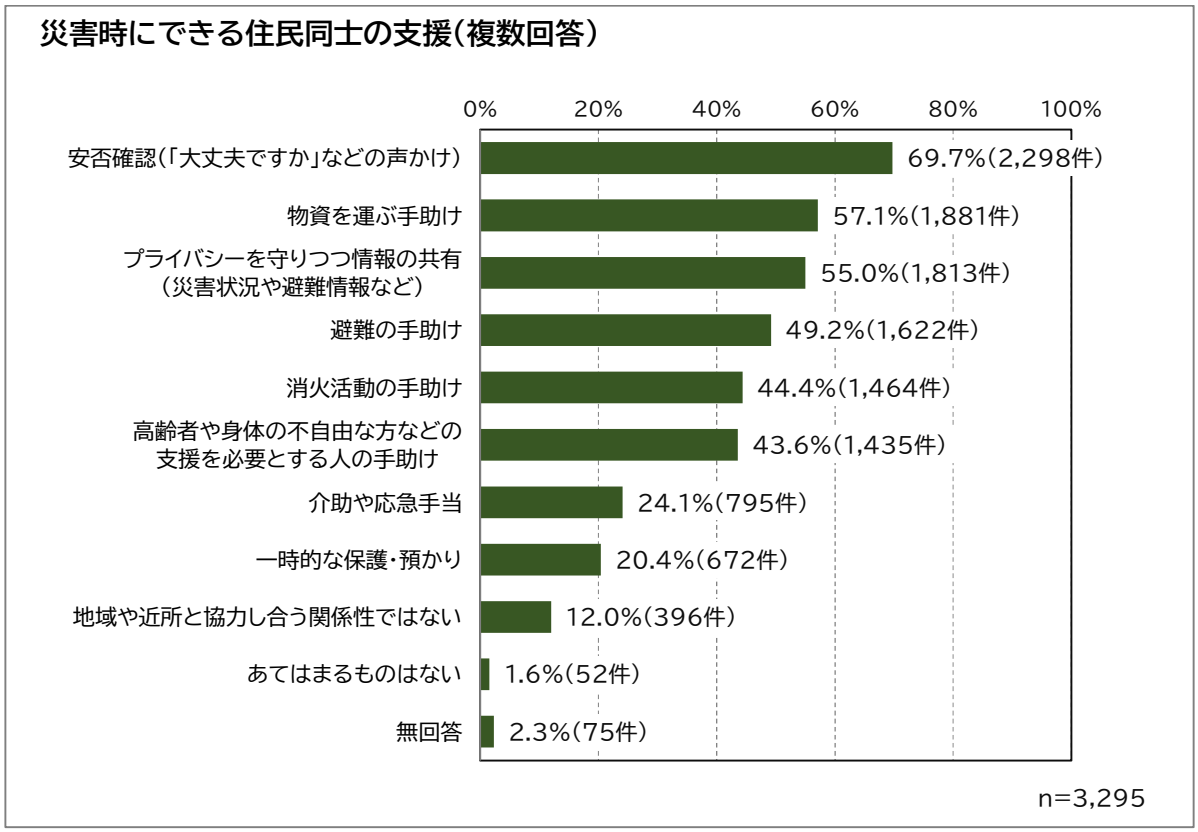


(7)区民アンケート(下馬地区)

単純集計(5/5)

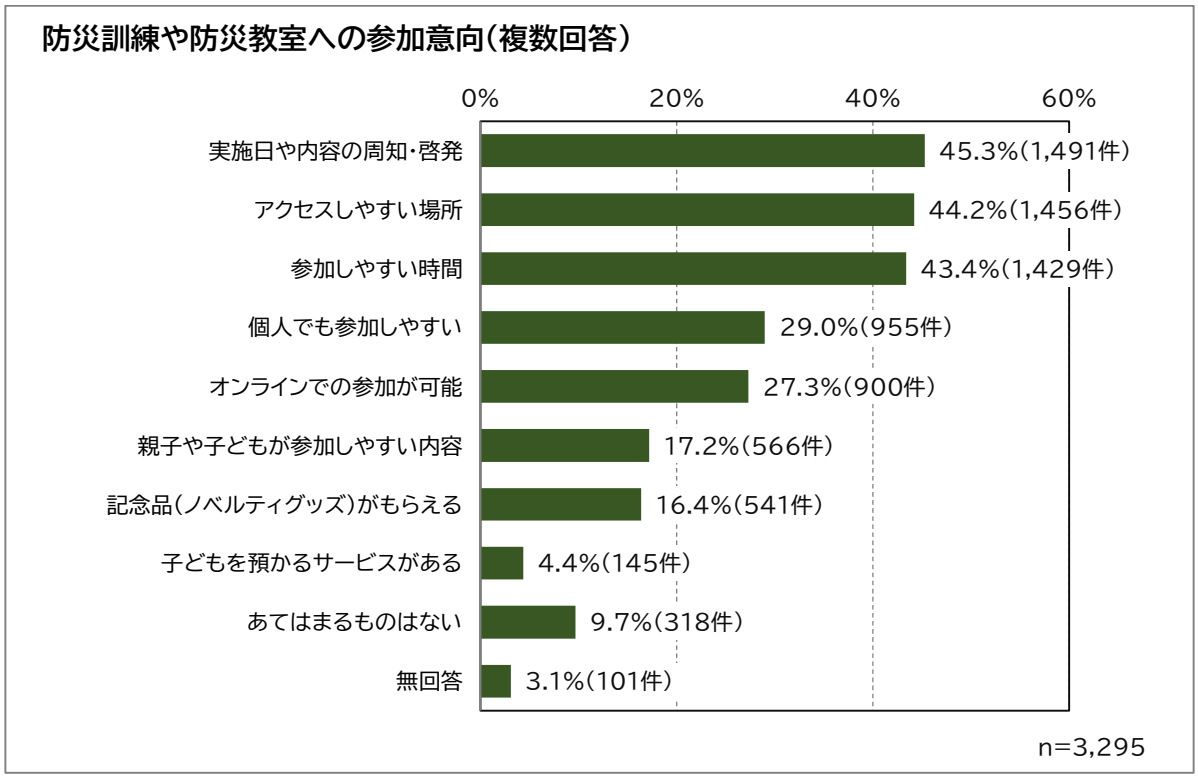
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

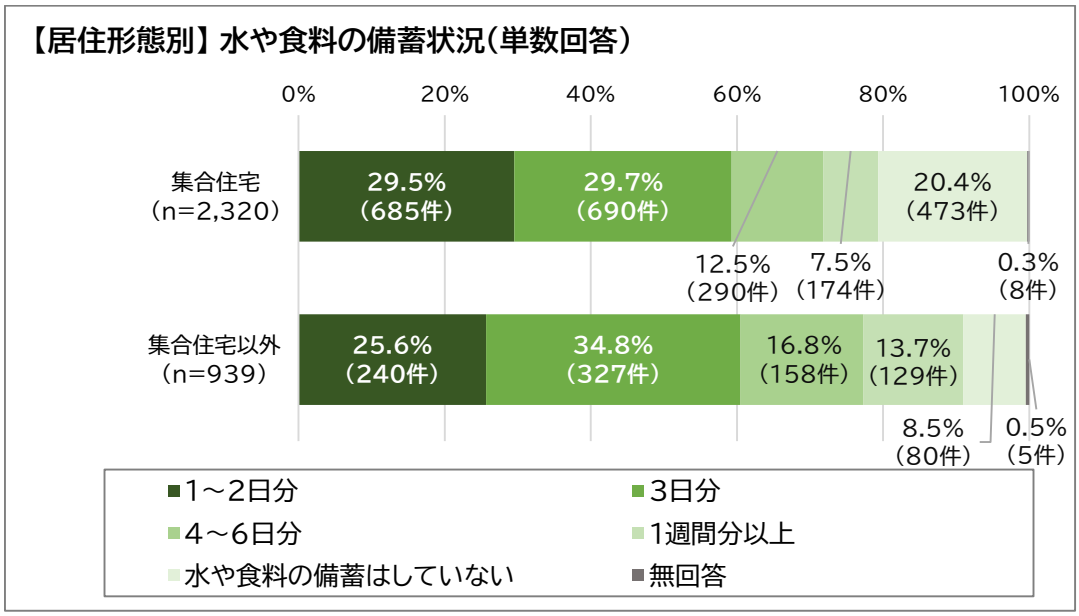


(7)区民アンケート(下馬地区)

クロス集計(1/4)

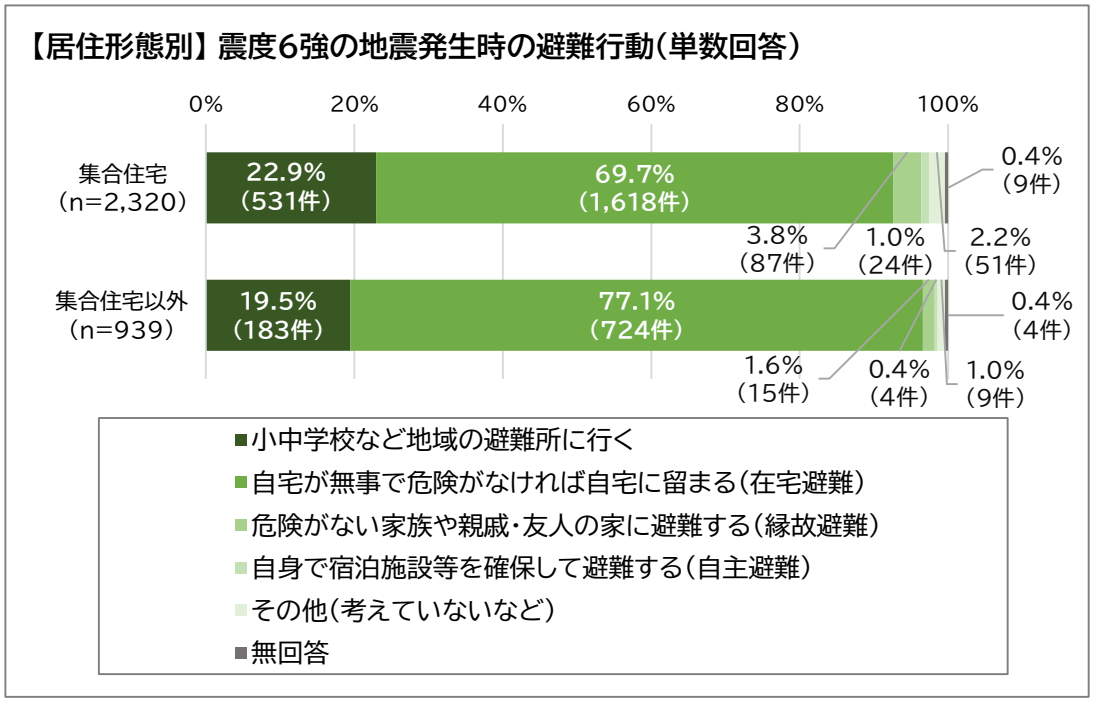
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(下馬地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

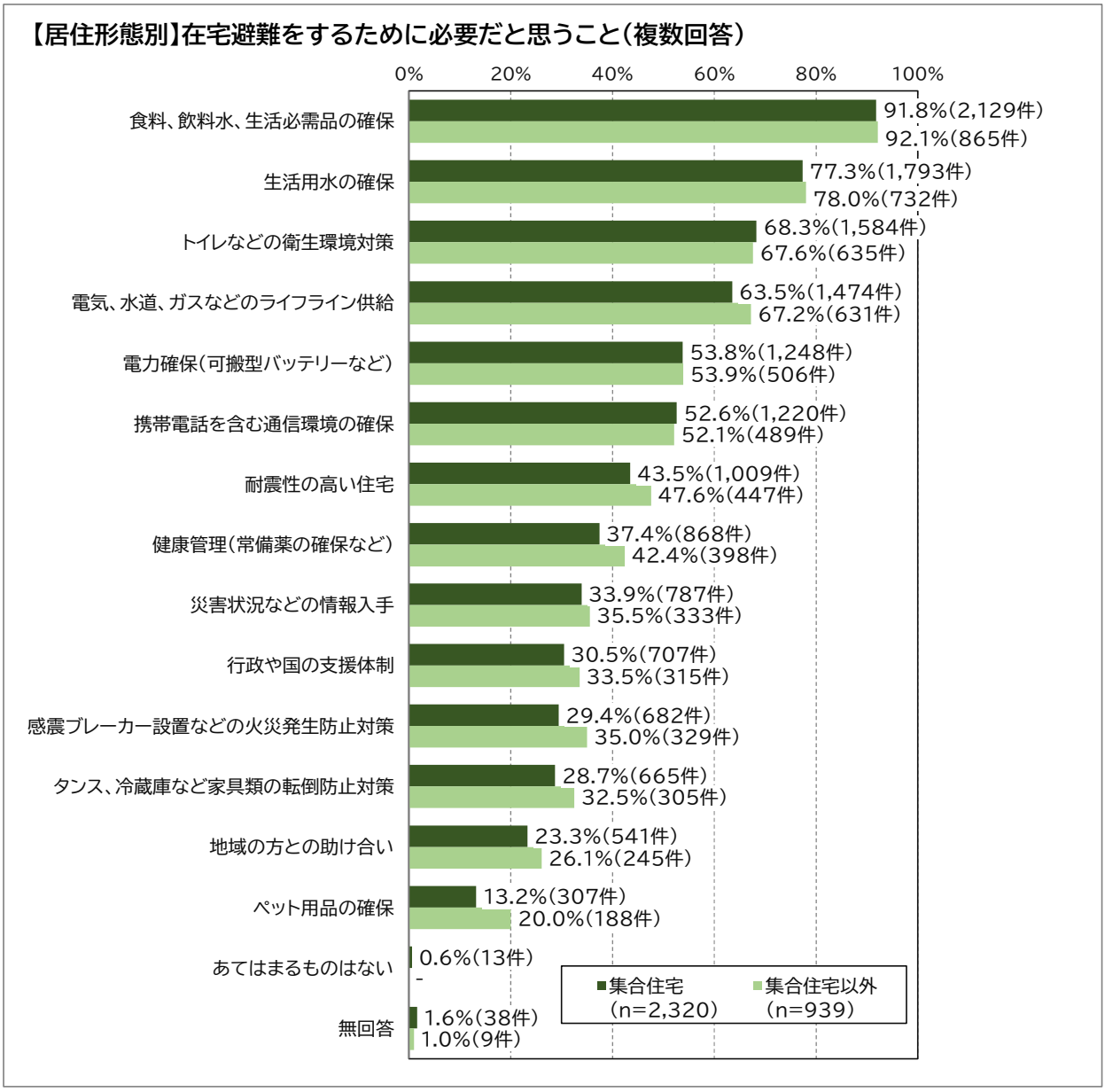
【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)

(7)区民アンケート(下馬地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

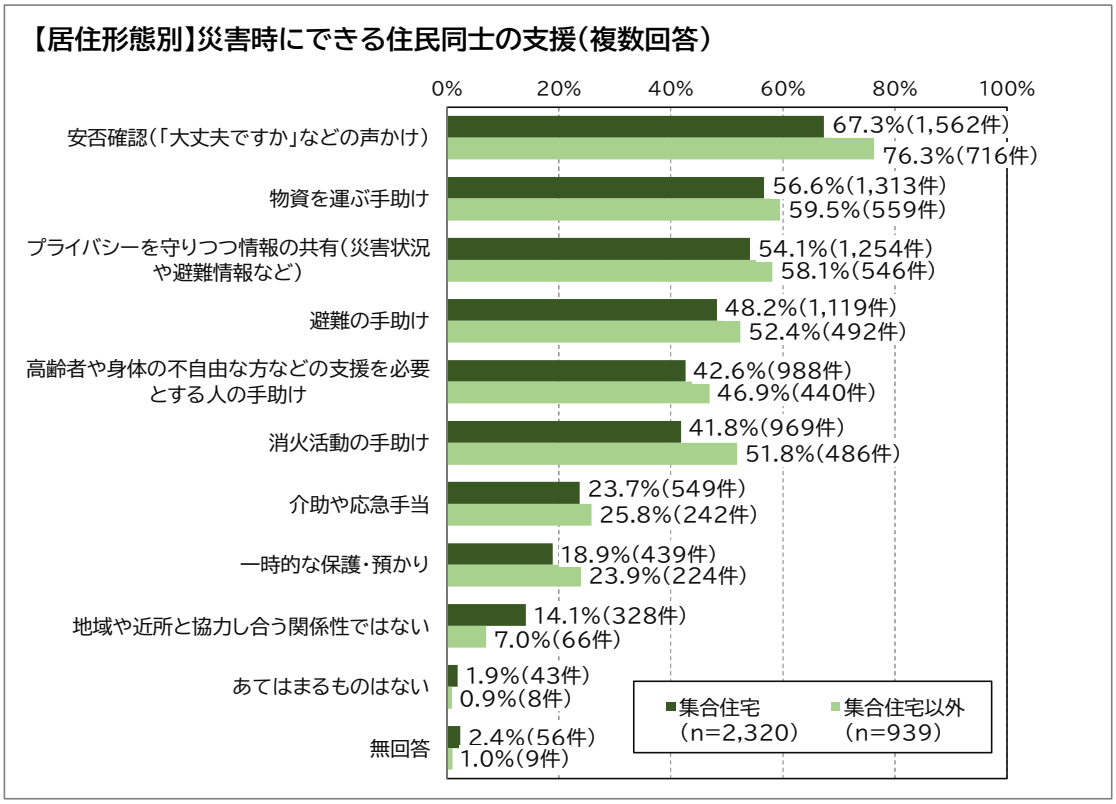


(7)区民アンケート(下馬地区)

クロス集計(4/4)

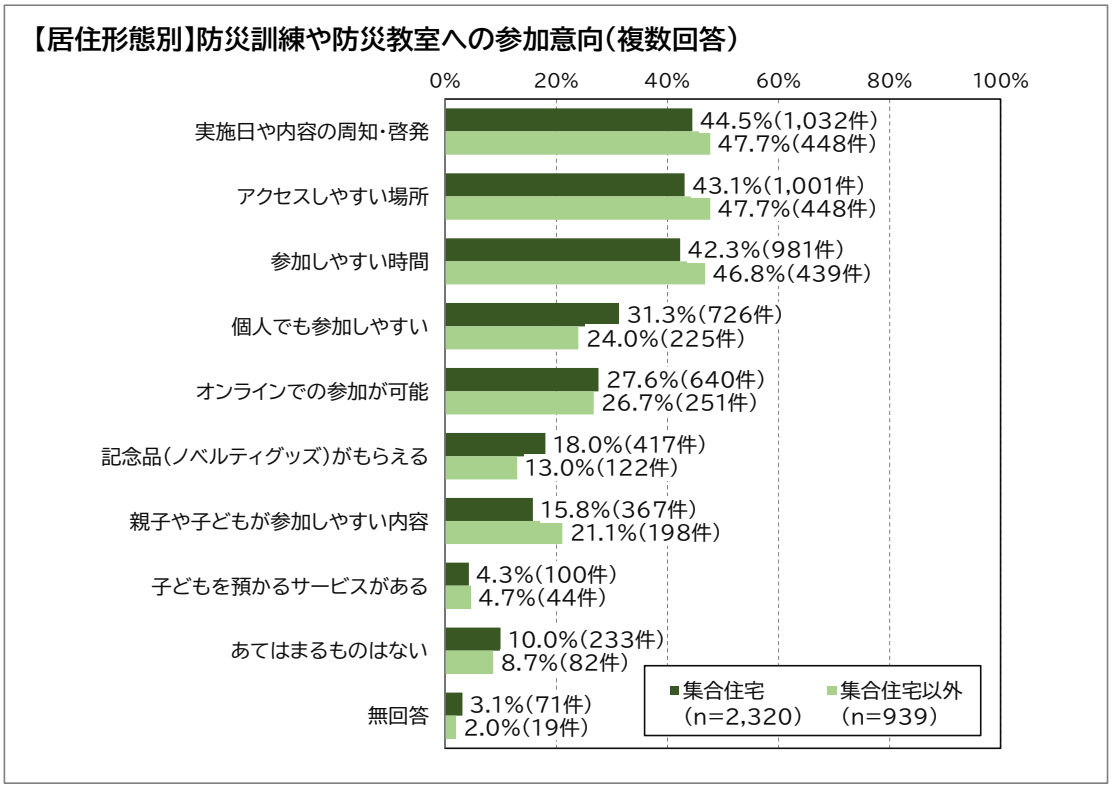
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



3 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
										スタンドパイプ	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所
下馬1丁目町会	5	○		総務会(議題として) 理事会(議題として)	12 12	○		○		1	町会会館内
駒繋西自治会	5	○		避難所運営委員会 防災部会議 防災部会議メール相談	3 1 多数	○		○		4	和田宅、坂野宅 中山、中村宅
下馬2丁目北町会	15	○		避難所運営会議 役員防災会議 防災学習セミナー	2 8 2	○		○		3	第1集会所格納庫 第3集会所格納庫 7号棟保管庫
下馬新生自治会	7	○		・避難所運営訓練 ・防災訓練 ・防災塾 ・役員会(毎月第1月曜日)	1・2 1・10	○		○		2	下馬3-25-10 下馬3-2-1
下馬5丁目町会	47	○		避難所運営準備会議 防災訓練準備会議 町会理事会(議題として) ATN(安心助け合いﾈｯﾄﾜｰｸ) 全体会議	3 3 10 1	○		○		1	下馬5丁目会館
下馬6丁目町会	5	○		防災会議 避難所運営訓練	2	○		○		1	下馬公園内倉庫
野沢1丁目明朗会	8	○		避難所運営訓練予備会議 町会幹部会及び役員会(議題として)	2 各6	○		○		7	町会内指定場所
野沢2丁目町会	4	○		役員会 理事会	20	○		○		6	町会内6ヶ所
野沢3丁目町会	15	○		避難所運営委員会 役員会	2 11	○		○		4	龍雲寺、町会事務所、テットー広場、柿の木坂パレス
野沢四丁目自治会	5	○		月例役員会 自治会防災訓練打合せ会議 避難所運営訓練関係会議	11 2 4	○		○		2	野沢児童遊園 野沢ふれあいの家
柿の木坂パレス	3	○		柿の木坂パレス消防組織	2	○		○		1	1階エントランス

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他				防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所	実施している	実施していない	回数	実施場所
下馬1丁目町会	1	町会会館内	2	町会会館			○		1	東急バス営業所横
駒繋西自治会							○		1	西澄寺
下馬2丁目北町会	2	第1集会所格納庫 第3集会所格納庫	774	1･2･3･4･5･7･8･9号棟各部屋			○		6	こどものひろば公園
下馬新生自治会	1	子の神第14分団倉庫					○			
下馬5丁目町会			2	下馬5丁目会館			○		1	下馬5丁目会館通り
下馬6丁目町会			1	町会事務所内			○		2	下馬公園
野沢1丁目明朗会	2	明朗公園防災倉庫(野沢1-29-27) 野沢児童館前倉庫					○		5～6	町会内 野沢明朗公園
野沢2丁目町会	1	野沢2丁目公園倉庫					○		1	野沢2丁目公園
野沢3丁目町会							○		1 1 1 1 1	龍雲寺 町会事務所 テットー広場 南原公園 野沢公園
野沢四丁目自治会	1	野沢児童遊園	5	自治会詰所 倉庫			○		1	野沢四丁目自治会防災訓練
柿の木坂パレス							○		1	マンション内駐車場

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ											
	救命救急講習会		その他						掲載情報							
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
下馬1丁目町会	2		防災･防犯の講演 避難所運営訓練	町会会館 駒繋小学校			○		○	○	○	○		○	○	
駒繋西自治会			避難所運営訓練	駒繋小学校		○			○	○	○	○	○	○	○	
下馬2丁目北町会	2	第1集会所	通報訓練 スタンドパイプ訓練 応急救護 避難所運営訓練	三宿中学校			○		○	○		○	○	○	○	安否確認シート全戸配布
下馬新生自治会			合同防災訓練 避難所運営訓練	駒留中学校				○	○	○	○	○			○	
下馬5丁目町会			合同防災訓練 避難所運営訓練	駒留中学校	○				○	○	○					
下馬6丁目町会	1	町会事務所	避難所運営訓練	中丸小学校	○				○	○	○	○	○	○	○	
野沢1丁目明朗会	1 (随時)	野沢地区会館	野沢2丁目公園防災訓練(野沢2丁目町会の訓練に参加) 避難所運営訓練	野沢2丁目公園 旭小学校	○				○	○	○	○	○	○	○	スタンドパイプ、可搬ポンプ、災害時避難通路
野沢2丁目町会			野沢2丁目公園防災訓練 避難所運営訓練	野沢2丁目公園 旭小学校	○				○		○	○	○		○	
野沢3丁目町会	1	龍雲寺会館	避難所運営訓練	中丸小学校				○								AED及びスタンドパイプ配置図のみ作成済
野沢四丁目自治会			避難所運営訓練	旭小学校	○				○	○	○	○	○	○	○	
柿の木坂パレス	1	マンション内会議室						○								

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）				災害時連携・協定（区を除く）	避難行動要支援者協定		
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
下馬1丁目町会	1				○			**・駒繋西自治会** （避難所運営訓練・防災訓練）			○	
駒繋西自治会	2			○	○			**・下馬1丁目町会** （避難所運営訓練・防災訓練）				○
下馬2丁目北町会	1		1		○			**・太子堂1丁目町会** （避難所運営訓練を共同開催） **・フレンズケアセンター** （災害時協力応援体制） **・世田谷ボランティア協会** （災害時協力体制）		○		
下馬新生自治会	4		2		○			**・下馬5丁目町会** （避難所運営訓練及び防災訓練を共同開催）		○		
下馬5丁目町会	2		2		○			**・下馬新生自治会** （避難所運営訓練及び防災訓練における準備、打合せ等）		○		
下馬6丁目町会	3		1		○			**・野沢3丁目町会** （避難所運営訓練を共同開催）		○		
野沢1丁目明朗会	2		2		○	○		**・野沢2町目町会** **・野沢四丁目自治会** **・上馬東町会** （避難所運営訓練を共同開催）	災害時緊急避難通路 ①関係箇所（2箇所） ②災害時一時避難所、日大こども園			
野沢2丁目町会	1		1		○			**・野沢1丁目明朗会** **・野沢四丁目自治会** **・上馬東町会** （避難所運営訓練を共同開催）		○		
野沢3丁目町会		○	1	○	○			**・下馬6丁目町会** （避難所運営訓練を共同開催） **・龍雲寺** （いざという時協力）		○		
野沢四丁目自治会	1		1		○			**・野沢1丁目明朗会** **・野沢2丁目町会** **・上馬東町会** （避難所運営訓練を共同開催）			○	
柿の木坂パレス		○		○			○					○

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）				
	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
下馬1丁目町会	○				5	○					○	
駒繋西自治会					○					○		
下馬2丁目北町会	○	○	各戸訪問		○	○	**・防災協力員選出** （災害時、各棟・各館・各班に応援体制）		○			
下馬新生自治会				○		○	「いちのいち」に加入 役員がつながっている	○				地震の時はこうする
下馬5丁目町会	○		年2回以上のお声かけ			○	**・ATN（安心助け合いﾈｯﾄﾜｰｸ）専用回覧伝言システム** （総括班長5名・各番地班長43名からなる回覧板伝言システム） **・町会理事連絡網** （町会理事24名を3系列に分けた伝言連絡システム）	○				安心助け合いネットワーク（ATN）
下馬6丁目町会	○					○						
野沢1丁目明朗会			町会要領を作成済				役員、各種委員、協力者名簿あり（電話）				○	
野沢2丁目町会			対象者訪問			○				○		
野沢3丁目町会	○		在宅避難を推奨	○		○	町会役員は主にLINEで連絡				○	
野沢四丁目自治会						○	**・支部長連絡網** （地域を36の支部に分け、各支部に支部長を配置した連絡網を設けている）				○	
柿の木坂パレス	○									○		

団体名	救出救助に係る資機材の配備															救出救助に係る資機材の配備	
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
下馬1丁目町会		○	1	1	2	1	2	30	2	2	3	2	2	1	1	2		町会会館 委員保管 小学校内町会倉庫
駒繋西自治会		○	3				5	50			9						折りたたみテーブル(10台)	駒繋公園内防災倉庫
下馬2丁目北町会		○	2	2	20	8	5	500		5	20		5	2	2		救助用ロープ(2本) デジタル無線機(18台)	第1・第3集会所格納庫 第1集会所 各防災倉庫・各戸保管
下馬新生自治会		○	1		1	3	2	20		1	3	1		1				駒留中学校遊歩道防災倉庫 (下馬4-18)
下馬5丁目町会		○				2		10			2						車いす2台	下馬5丁目会館倉庫 各町会理事宅
下馬6丁目町会		○	1	1	1	2	2	10	1	1	5	2	2	1	1	1	電動チェーンソー	下馬公園内倉庫
野沢1丁目明朗会		○	3			1		70	2	6	2						電動チェーンソー(1個) 車いす(2台)	野沢児童館前倉庫 野沢明朗公園 町会防災倉庫(野沢1-11-2)
野沢2丁目町会		○	2		1	1	2	30			1	1	2	1	1	1	なた(1本) トラロープ(2本) 簡易テント(4基) 毛布(5枚)	野沢2丁目公園防災倉庫
野沢3丁目町会		○	1			1	1		1		8		1				折りたたみ式車いす	龍雲寺駐車場内防災倉庫
野沢四丁目自治会		○	2				2	100	1	1	1	1	1		1		台車(軽量型)2台 台車(金属製)2台	防災倉庫 (詰所、野沢ふれあいの家)
柿の木坂パレス		○			○			5		○	○			○				1階倉庫 8階旧内階段

団体名	食糧等の備蓄						食糧等の備蓄								
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他
下馬1丁目町会		○	250			150 (500ml)		300			400	5	1	2		組み立て式段ボール簡易トイレ(3個)
駒繋西自治会		○					50		5			3	1	2		簡易トイレ(100セット)
下馬2丁目北町会		○							5			3	2	3	20 ℓ	飲料水は町会内に地下タンクあり 簡易トイレ(18セット) カセットボンベ(10本)
下馬新生自治会		○				50 (500ml)	445				15			2	60 ℓ	カセットボンベ(1本) 簡易トイレ(20セット)
下馬5丁目町会		○					400				1			2		
下馬6丁目町会		○	500	360		456 (500ml)		660	2			1	1			氷砂糖(300個) カセットボンベ(30本) 簡易トイレ(600セット) 液体ミルク(120個)
野沢1丁目明朗会											3		2	1		トイレットペーパー(288ロール) 簡易トイレ(600枚)
野沢2丁目町会		○		96		40 (1.5ℓ) 90 (500mℓ)			2			3	2		200 ℓ	鍋、釜、食器類 氷砂糖(100袋) ライスクッキー(48食) 簡易トイレ(500セット)
野沢3丁目町会		○	○			450 (2ℓ) 298 (1.5ℓ)			8		5	10		1	2	炊出し用大鍋(1)・ヤカン 浄水器
野沢四丁目自治会		○				1,000 (500mℓ)	100	100			500		2	1		簡易トイレ(400セット)
柿の木坂パレス		○	○	○	○	○		○	○	○	○			○		

団体名			その他の防災活動
	保管場所	備蓄品配布先	
下馬1丁目町会	町会会館1階	町会行事参加者	夜間パトロール(年3回) スタンドパイプ訓練 防災研修会(講演会)
駒繋西自治会	駒繋公園内 防災倉庫		・消火資機材の啓発 ・炊き出し訓練・防災研修会(講演会)・スタンドパイプ訓練 ・ハロウィンスタンプラリーにて、スタンドパイプのデモンストレーション ・防災教室・夜間パトロール・子ども防災デー
下馬2丁目北町会	防災倉庫		・歳末夜警　・防災学習会 ・毎月2回防犯パトロール　・防災こども花火大会 ・毎月2回防災訓練　・スタンドパイプ訓練
下馬新生自治会	下馬3-2-1 駒留中学校遊歩道防災倉庫(下馬4-18)		・歳末に役員・消防団・市民消防隊とでパトロール ・地元消防団による夜警 ・スタンドパイプの訓練・防災訓練の回覧 ・年始町会内消防団員によるパトロール ・在宅避難時「無事です」タオル(黄色地タオルに赤字)を全戸配布
下馬5丁目町会	5丁目町会会館		・ATN(安心助け合いネットワーク)回覧板伝言システム・防災・防犯パトロール ・スタンドパイプ防水訓練・年末夜警・火災予防運動
下馬6丁目町会	町会事務所	町会事務所	スタンドパイプ訓練 年末パトロール 防災訓練 避難所運営訓練・防災訓練日の回覧板
野沢1丁目明朗会	町会防災倉庫		スタンドパイプ操作・放水訓練 D型ポンプ操作・放水訓練 歳末夜警
野沢2丁目町会	野沢2丁目公園 防災倉庫		スタントパイプ訓練 夜間パトロール 歳末警戒
野沢3丁目町会	町会事務所倉庫 (野沢3-23-13) 龍雲寺駐車場内防災倉庫		・防災ウォーキングを実施(年1回) ・炊き出し訓練を実施(年1回、スタンドパイプと同時) ・他町会の防災訓練に参加 ・町会が開設したインスタグラムで防災訓練等の情報を把握
野沢四丁目自治会	野沢ふれあいの家 町会防災倉庫		・野沢四丁目自治会防災訓練 ・スタンドパイプ訓練 ・歳末防犯・防火パトロール
柿の木坂パレス	1階倉庫 屋上踊り場 8階旧内階段		

4 下馬地区における課題と今後の取り組み

◇地区防災力の向上

現状・課題・背景など

1 防災意識の向上

・災害時の被害を最小限に抑えるためには、住民一人ひとりによる「自助」や、地区住民による「共助」が重要であり、下馬地区の特性を踏まえて個々の災害に関する意識を高め、地区住民が一体となって防災力の向上に取り組む必要がある。

2 避難所運営と在宅避難の推進

・収容可能人数を超える避難者が指定避難所に詰めかけることが懸念されている。避難所の過密状況を避け、適切な避難所運営を可能にするため、在宅避難の推進に取り組む必要がある。

・町会・自治会役員の高齢化や担い手不足等により、適切な避難所運営を行うことができるか危惧されている。より多くの担い手や協力者を増やし、育成していく必要がある。

3 避難行動要支援者への支援

・災害時に自力での避難が困難な高齢者や障害者（避難行動要支援者）に対する避難支援体制を整える必要がある。

これまでの主な取り組みや成果

・地区住民の防災意識の向上を図るため、「下馬地区防災マップ」を作成し、下馬地区管内の約23,500世帯への全戸配布を行った。

・新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、指定避難所の過密状況に対する懸念が一層深まったため、在宅避難をするための日頃からの備えを分かりやすく掲載したリーフレット「在宅避難のすすめ」を作成し配布を行った。

・適切な避難所運営をしていくためには、避難所運営委員だけでなく多くの協力者が必要である。また、過密状況を避けるためには、自宅が安全な人に対して在宅避難を促すことが重要である。災害時に指定避難所に避難してきた人に対して、この 2 点を呼びかける 2 種類の看板を作成し、避難所運営倉庫に配備した。

・下馬地区防災塾において、避難所運営や在宅避難をテーマとした講演会を開催し、在宅避難をするための事前準備や心構え、災害時の適切な避難所運営など、実例に基づく実践的な手法を学び、訓練等に活かしている。

・避難行動要支援者の発災直後の安否確認方法の一つとして、「無事です」等のサインボードや掲示物を事前に配布し、災害時に玄関等に掲げてもらうことで迅速に安否確認できる取り組みを進めている。

・避難行動要支援者に対しては、町会・自治会が独自に助け合い活動を実施したり、区と「避難行動要支援者支援に関する協定」を締結し、災害時に安否確認や支援を行う態勢を整備している。

今後の取り組み

災害時には、地区住民一人ひとりの自助の取り組みが重要であり、近隣の支え合いや助け合い活動が大きな効果を発揮する。「自分たちのまちは自分たちで守る」という機運を高め、「自助」「共助」の意識を一層促進し、「公助」と連携して地区防災力の向上に向けた取り組みを進めていく。

これまで取り組んできた活動を継続しながら、地区住民一人ひとりの防災意識を高め、災害時にお互いが支え合い、助け合える関係性を構築するため、地区コミュニティの醸成を図る取り組みを推進する。

1 防災意識の向上

・集合住宅の居住者や町会・自治会の未加入者など、普段から地区での繋がりがない人に、地域のお祭りやイベント等の機会に防災訓練や町会行事への参加を呼びかけ、顔の見える関係を築いていく。
・より多くの人に防災に対する理解を深めてもらう取り組みを進めるため、誰もが気軽に楽しみながら参加できる防災訓練を実施する。
・自宅の耐震化や家具の転倒・落下・移動防止、感震ブレーカーの設置など自宅を安全にする取り組みを周知・啓発していく。
・下馬管内にある日本大学三軒茶屋キャンパスとの連携・協力体制を深めていく。

2 避難所運営と在宅避難の推進

・指定避難所は自宅に居住できなくなった人を一時的に保護する場所であるということを周知・啓発し、避難所へ行くことだけが避難ではないという認識を深めていく。
・指定避難所の過密状況や運営の困難さを地区住民に対して十分に認識してもらうとともに、在宅避難をはじめ、自主避難や縁故避難など多様な避難の方法があることを日頃から周知・啓発する。
・災害時に円滑な避難所の開設・運営を行うため、せたがや女性防災コーディネーターやおやじの会、PTAなど多様な人材にアプローチし避難所運営委員会への参加協力を求めていく。
・在宅避難の認知率向上のため、日頃から在宅避難のために必要な知識や発災時に取るべき行動を周知・啓発していく。
・指定避難所に避難してきた人にも避難所運営に協力してもらうため、避難所運営マニュアルや避難所の備蓄品等について理解を深めていく。

3 避難行動要支援者の支援

・区の「避難行動要支援者支援に関する協定」の取り組みや、町会・自治会独自の助け合い活動を継続する。
・災害時に速やかに安否確認や支援を行うことができるよう、日頃から民生委員・児童委員と情報共有を行っておく。
・在宅避難している避難行動要支援者に対しては、各指定避難所にせたがや災害ボランティアセンターが設置するサテライトと連携して支援を行う。

上馬地区防災計画

［令和7年修正］

上馬地区

【上馬地区防災計画作成団体】　（順不同）

NO	上馬地区防災計画作成協力団体
1	上馬東町会
2	上馬西町会
3	上馬北部町会
4	上馬・駒沢明和会
5	駒沢親和会
6	駒沢小学校避難所運営委員会
7	駒沢中学校避難所運営委員会
8	上馬地区区民防災会議
9	上馬地区身近なまちづくり推進協議会
10	上馬あんしんすこやかセンター
11	社会福祉協議会上馬地区事務局

目 次

1 上馬地区の特性 ……上馬-1(-196-)
(1)自然特性 ……上馬-1(-196-)
(2)社会特性 …… 上馬-2(-197-)
(3)地域危険度 …… 上馬-4(-199-)
(4)被害想定 …… 上馬-5(-200-)
(5)防災資源一覧 …… 上馬-8(-203-)
(6)防災資源マップ …… 上馬-9(-204-)
(7)区民アンケート……上馬-10(-205-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ …… 上馬-19(-214-)

3 上馬地区の課題と取り組み……上馬-26(-221-)
(1)近隣・避難行動要支援者・要配慮者の安否確認、その後の避難・救援
……上馬-26(-221-)
(2)担い手不足を解消するネットワークづくり ……上馬-26(-221-)
(3)避難所の円滑な運営 …… 上馬-27(-222-)

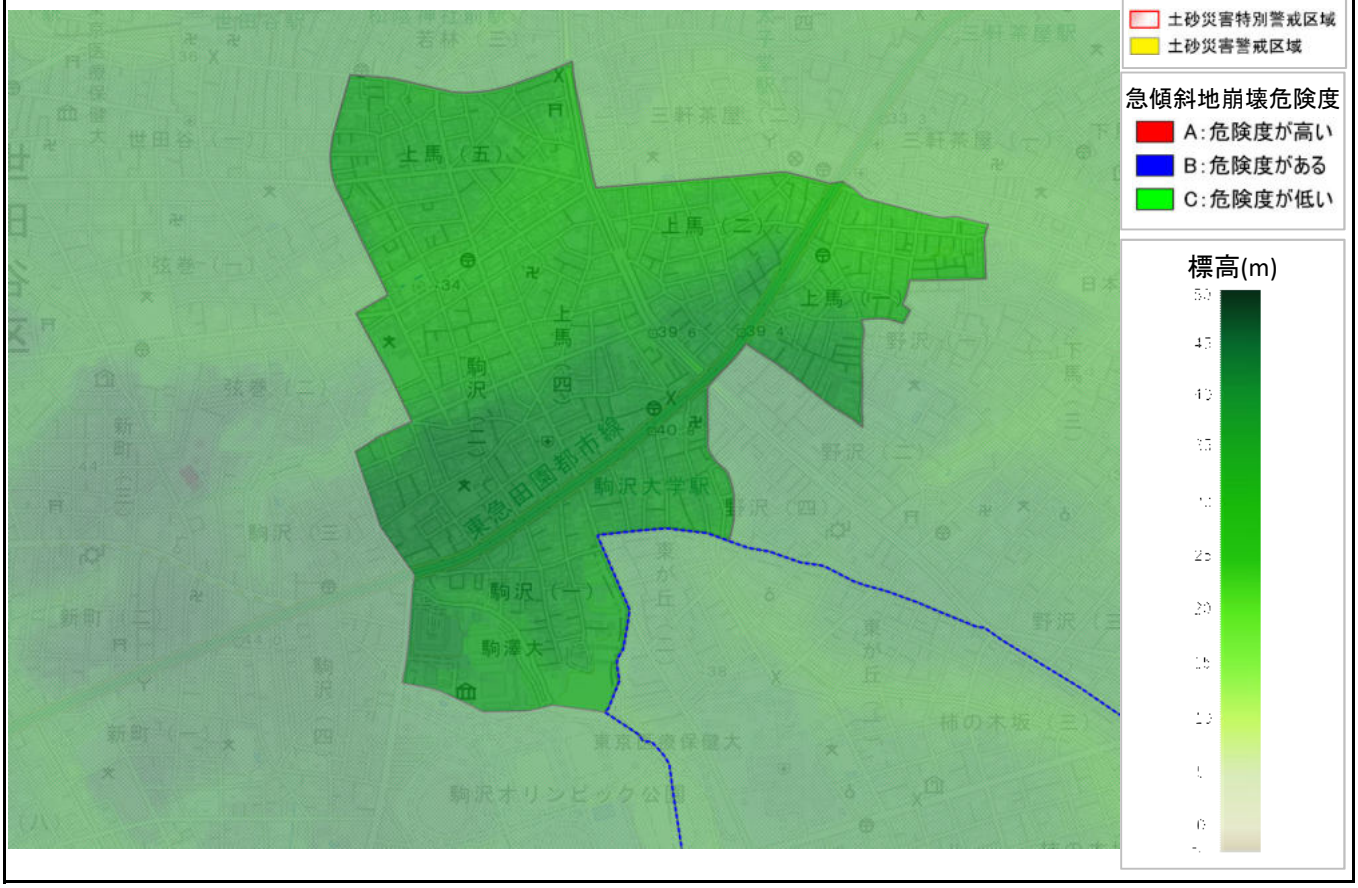
1. 上馬地区の特性

(1)自然特性

面積	1.36 Km²	最高標高	43.9 m	最低標高	27.6 m

位置

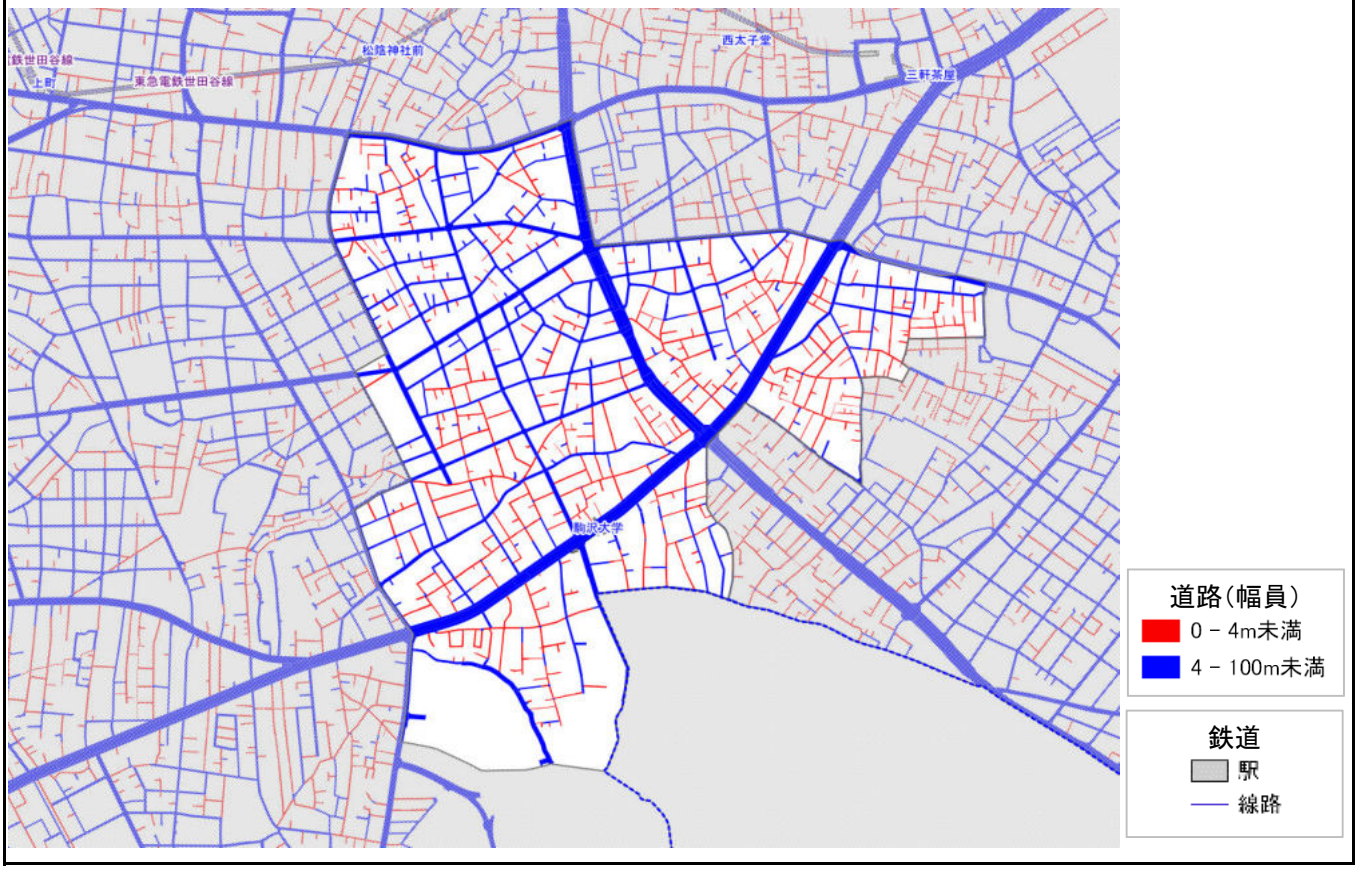
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

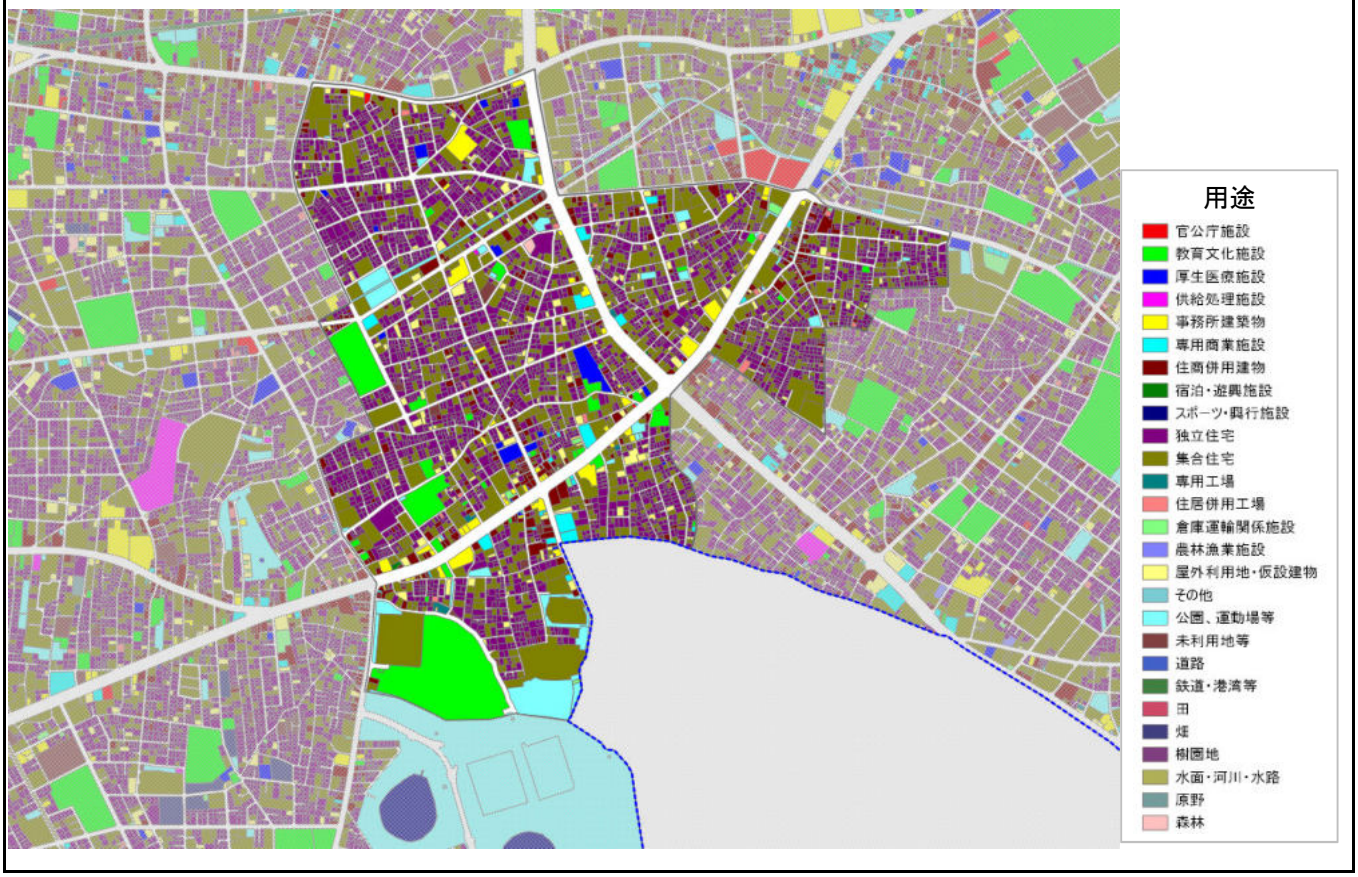
人口	29,102 人	細街路率		42.9 %	
世帯数	17,610 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		94.6 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.65 人	耐火率(建築面積ベース)		66.6 %	
若年層数(15才未満)	2,877 人	土地利用(宅地)		73.3 %	
若年層率(15才未満)	9.9 %	土地利用(宅地以外)		26.7 %	
高齢者数(65才以上)	5,366 人	鉄道駅	東急田園都市線駒沢大学駅		
高齢者率(65才以上)	18.4 %				
昼間の人口	34,206 人	産業	商業	92.0 %	
夜間の人口	30,101 人		工業	8.0 %	
昼夜間人口比	1.14 -		農業	0.0 %	
町会・自治会数	5 -				

道路・公共交通機関



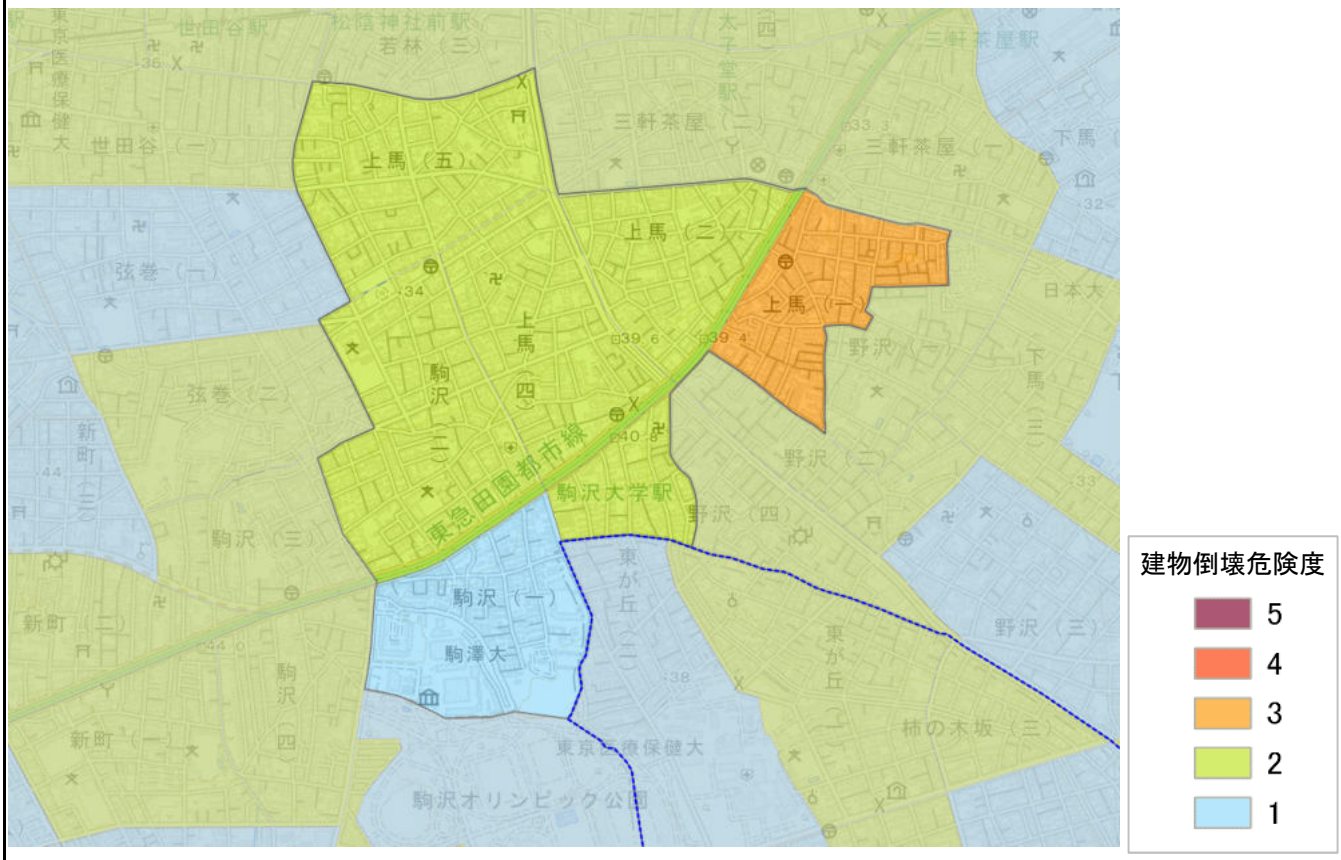
(2)社会特性

産業

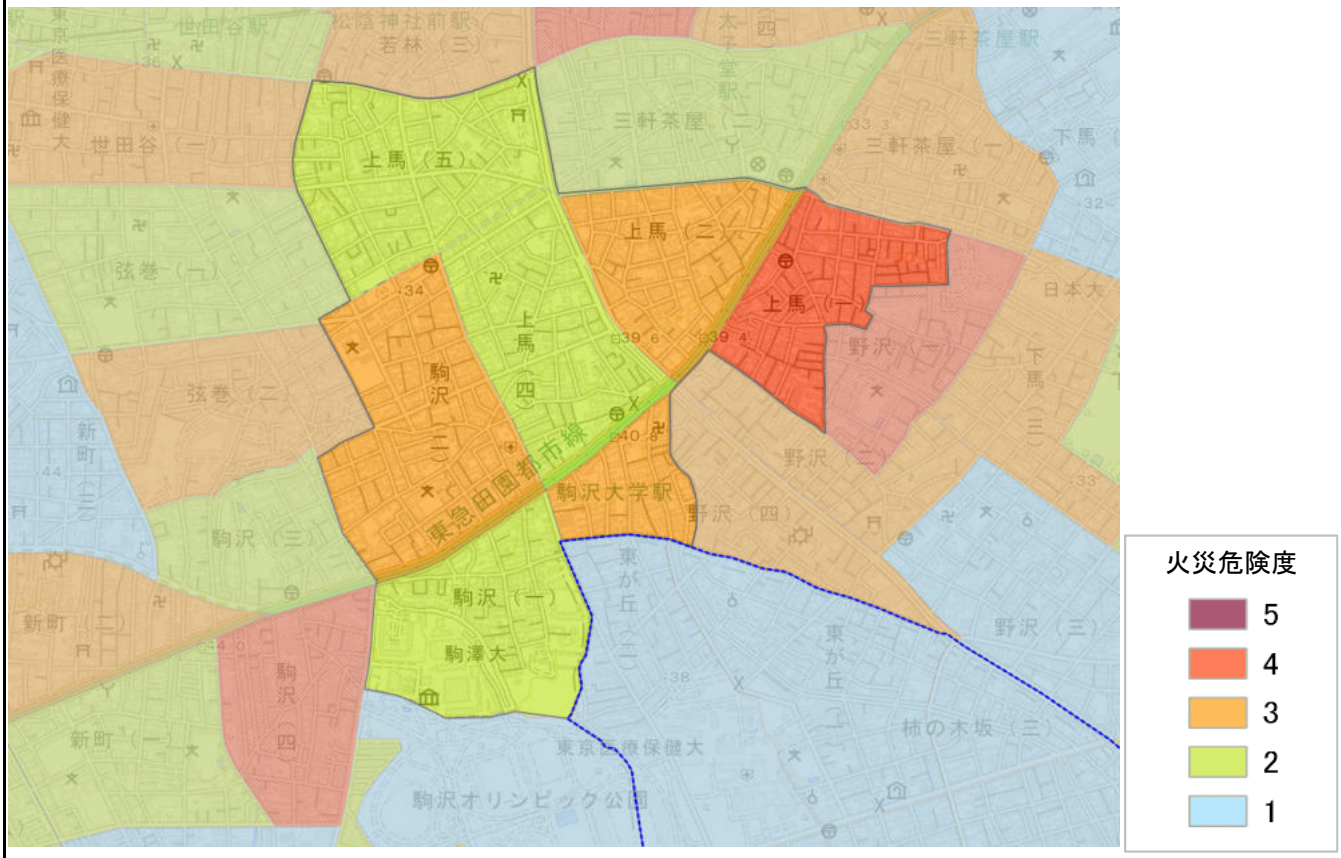

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



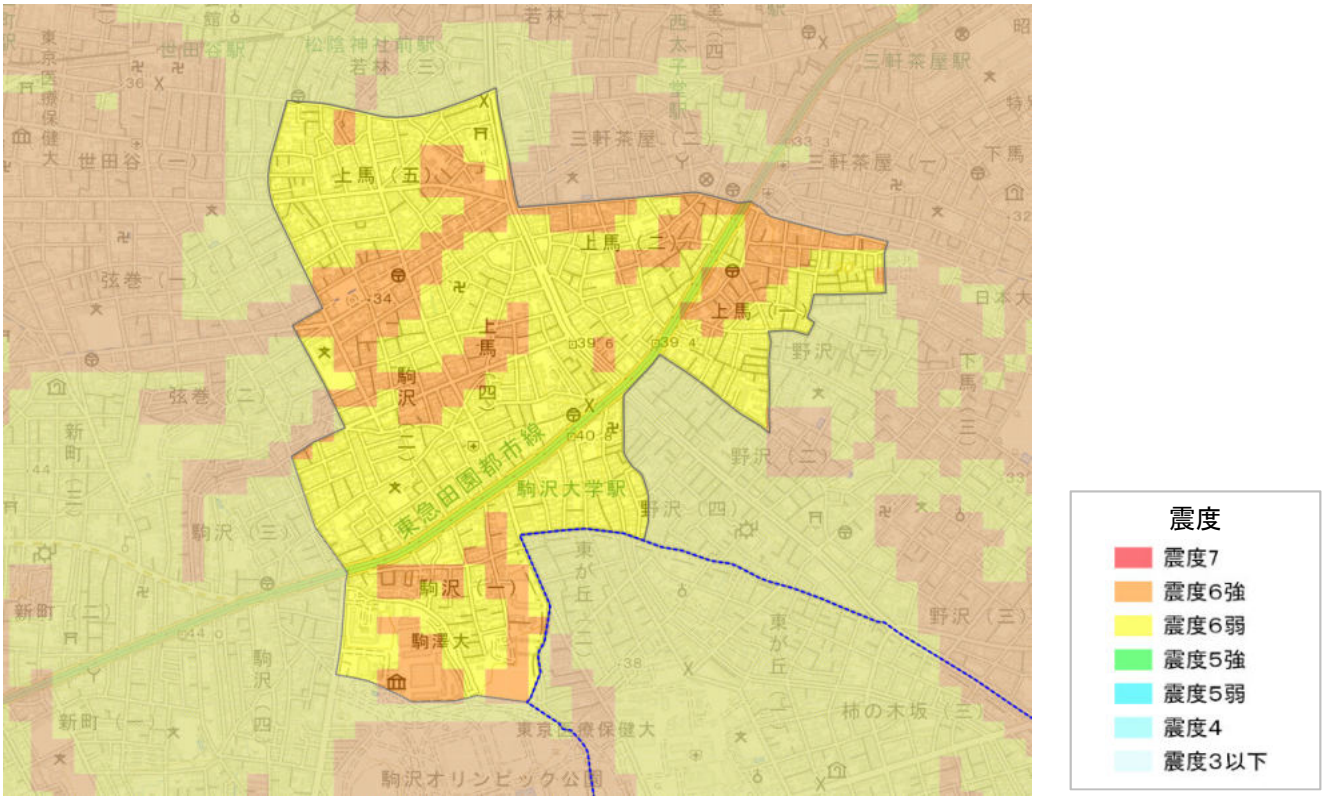
火災危険度



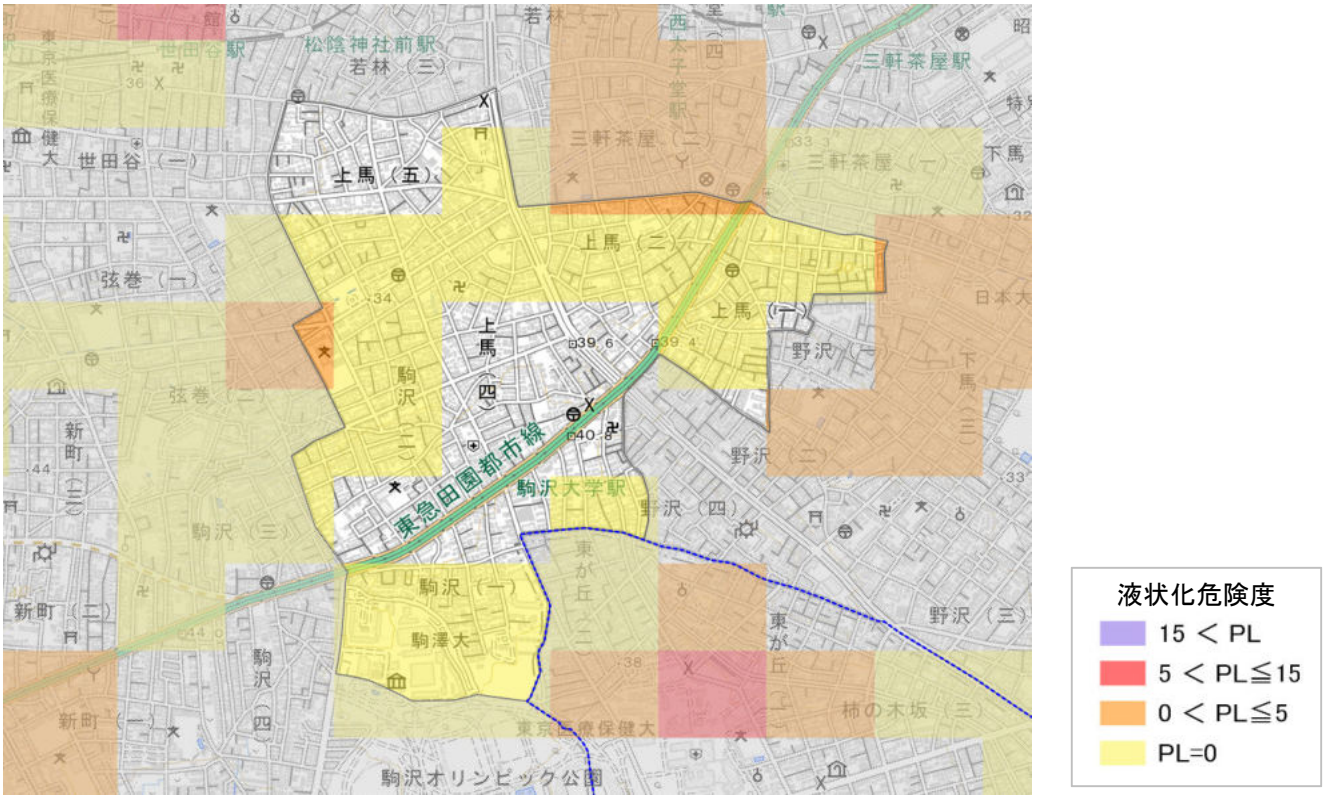
(4)被害想定

全壊棟数	143　棟	死者	15　人
半壊棟数	470　棟	負傷者	171　人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	411　棟	うち重傷者	29　人

震度分布

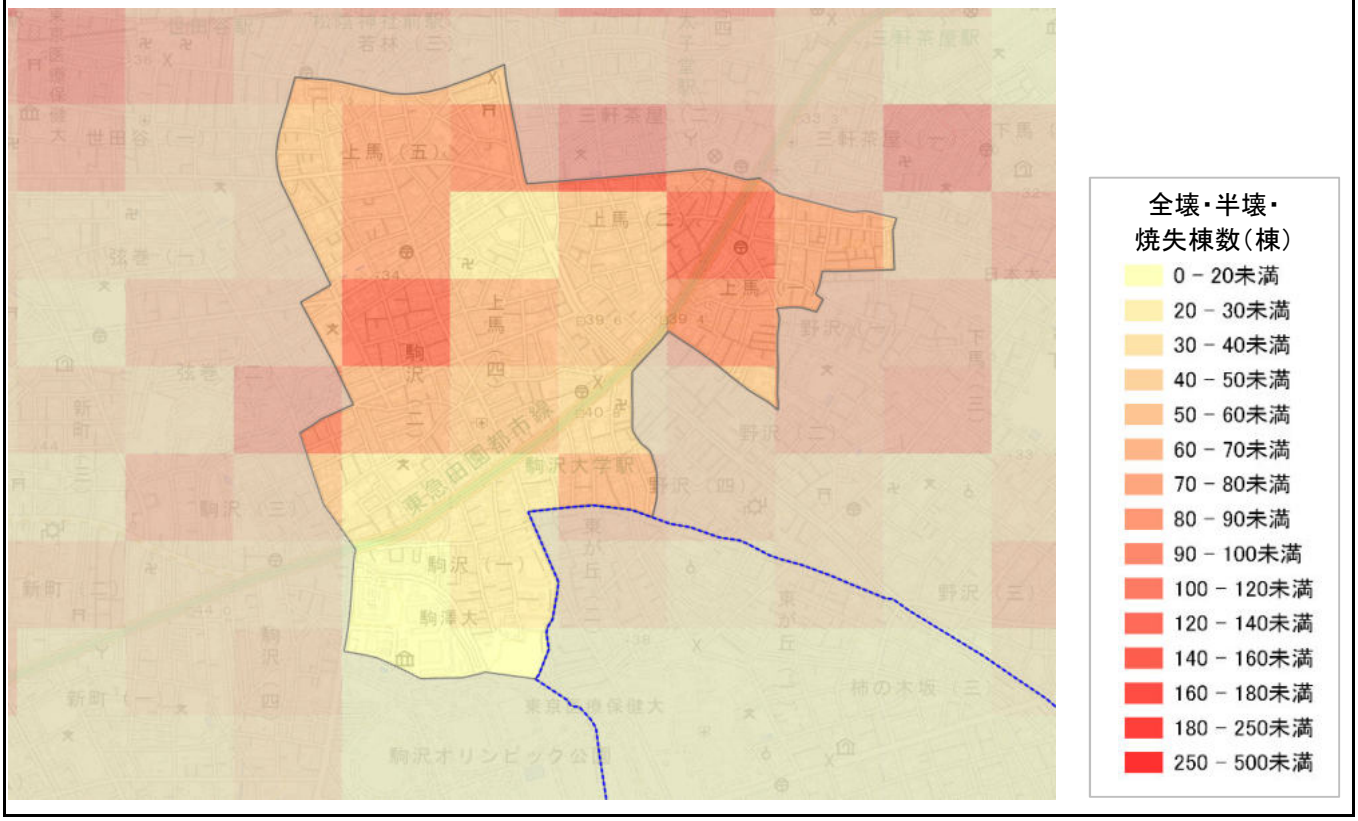


液状化分布



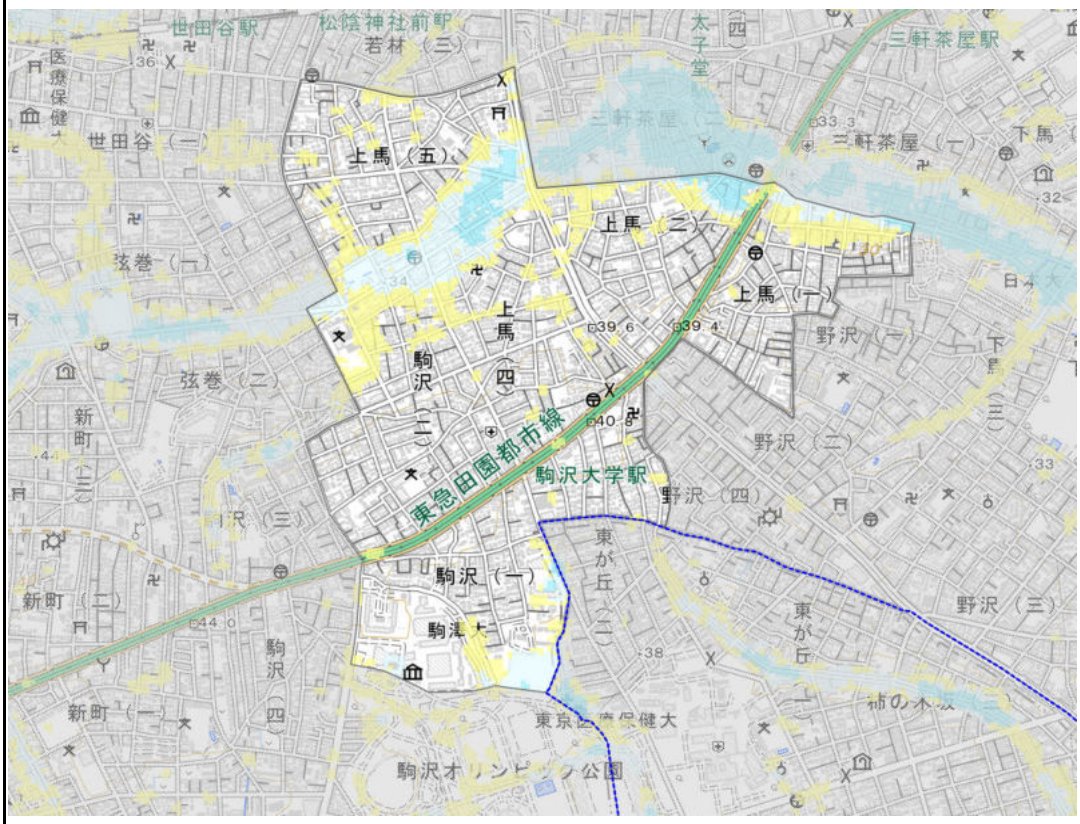
(4)被害想定

被害棟数分布

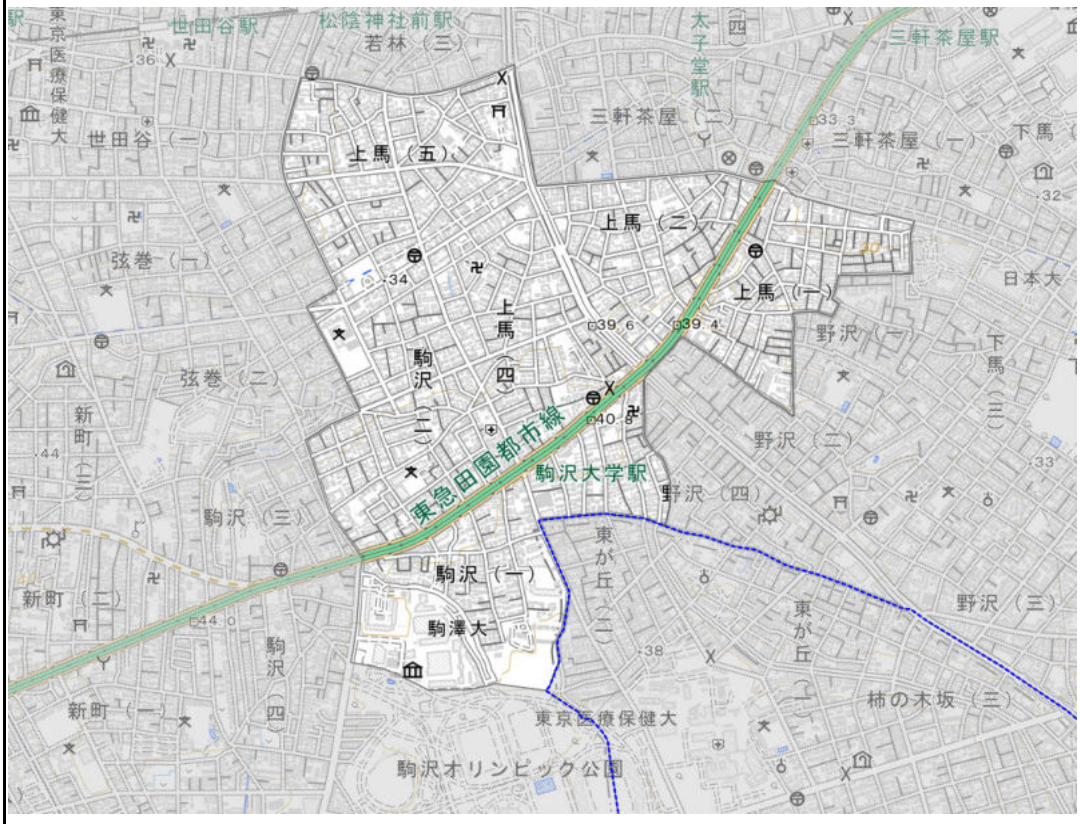


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



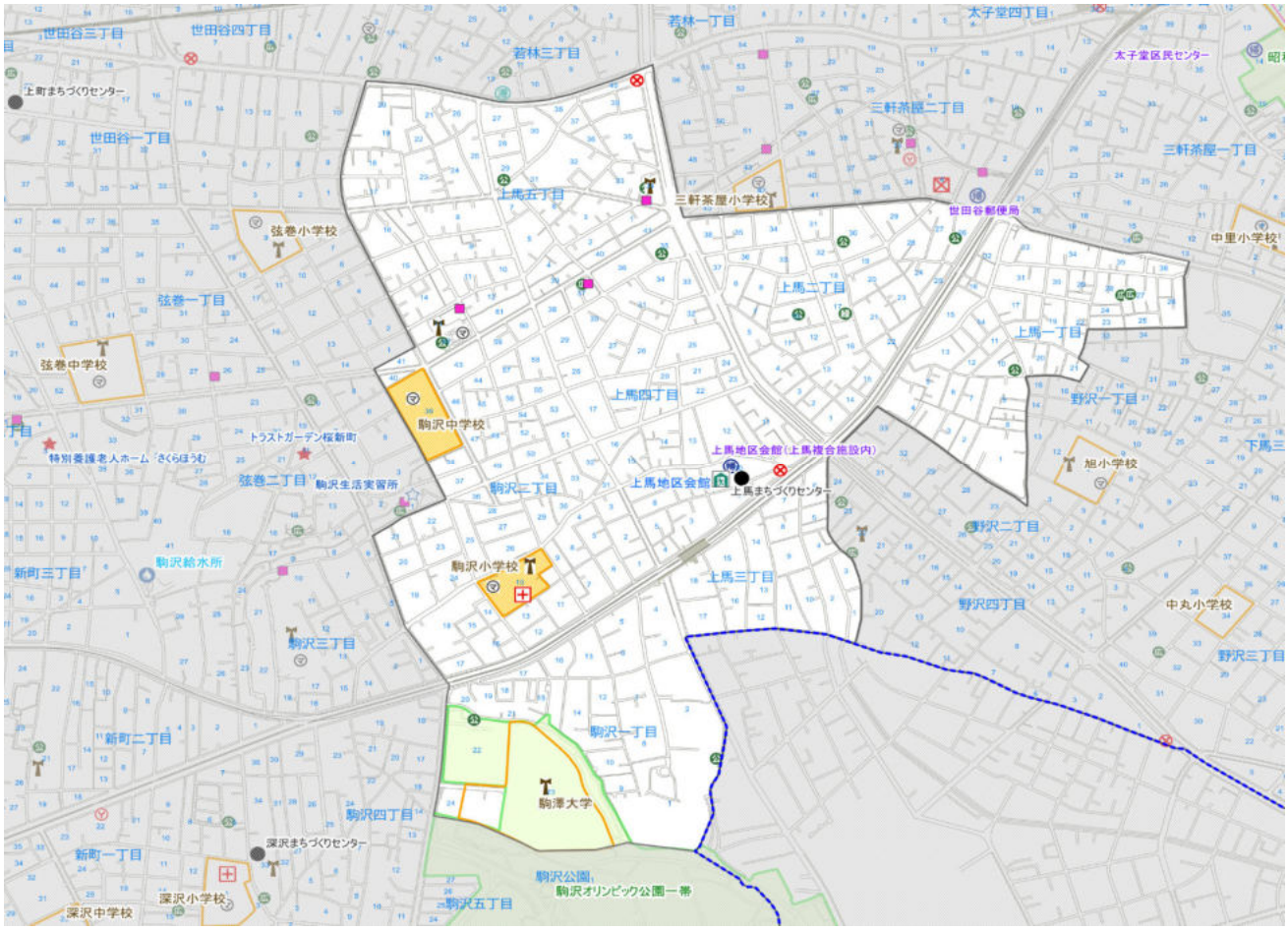
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	駒沢オリンピック公園一帯				
一時集合所	旭小学校　駒沢オリンピック公園　駒沢一丁目西公園　駒沢小学校　駒沢中学校　三軒茶屋小学校　小泉公園　上馬1やまもも広場　上馬公園　上馬四丁目公園　上馬東公園　上馬北公園　中里小学校　中里地区会館敷地　野沢児童遊園				
指定避難所	駒沢小学校 駒沢中学校				
予備避難所	駒澤大学				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	上馬地区会館				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	駒沢小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	3　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	1　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	駒留公園　小泉公園　上馬パンダ広場				
警察署・交番	若林交番　上馬交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

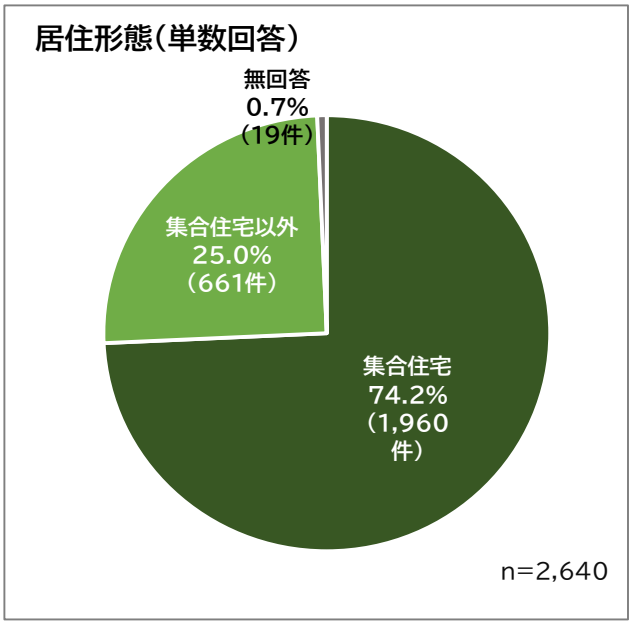
(7)区民アンケート(上馬地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

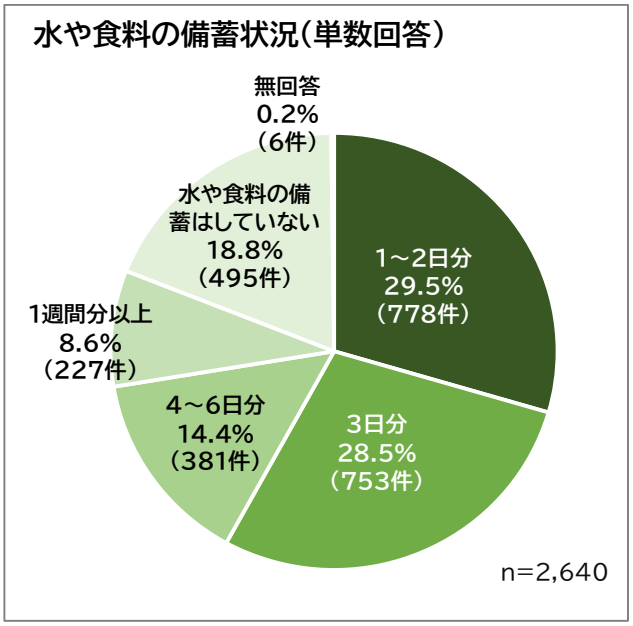
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

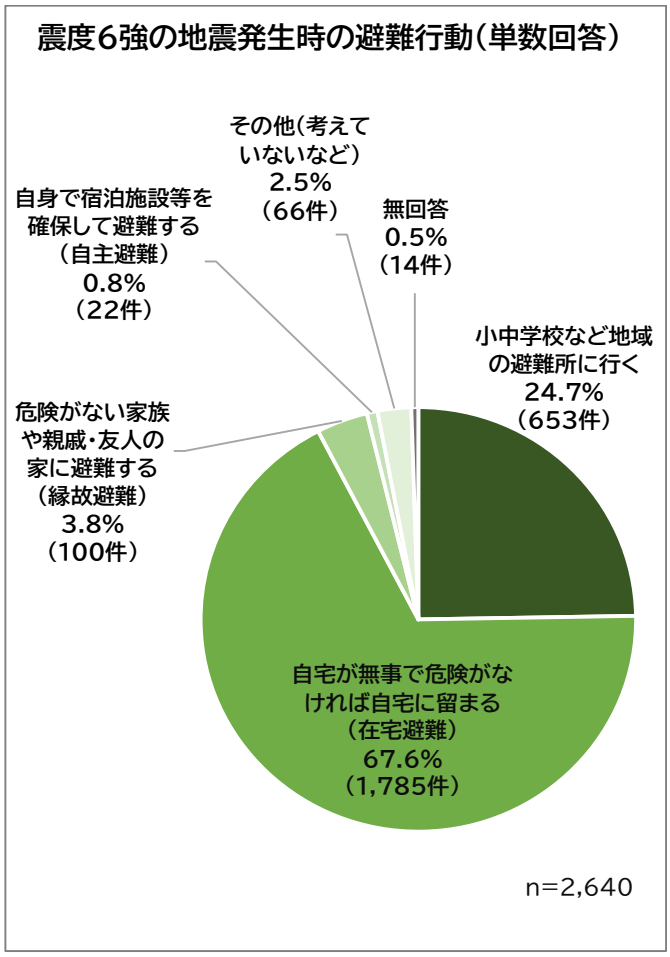


(7)区民アンケート(上馬地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

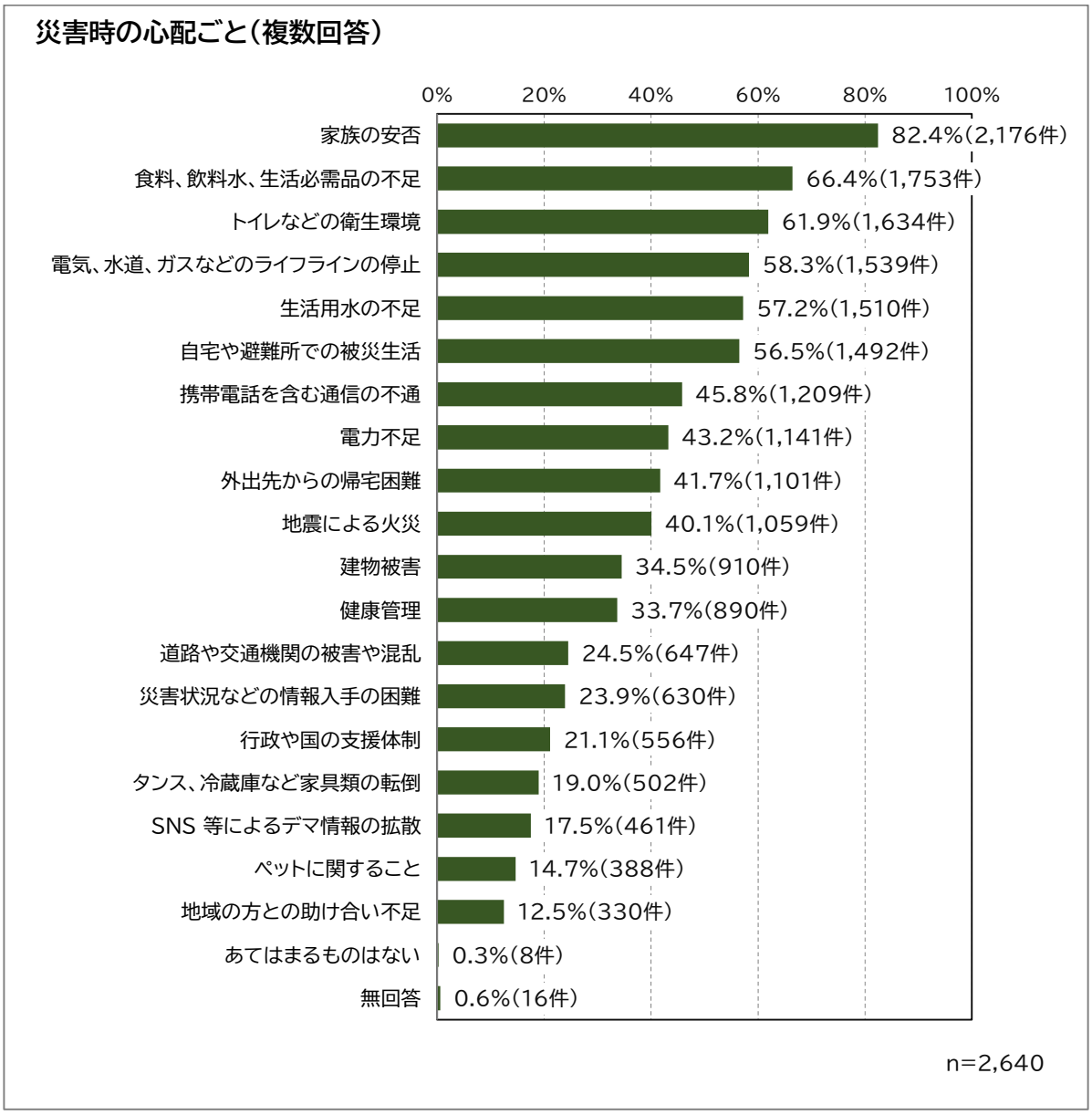


(7)区民アンケート(上馬地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

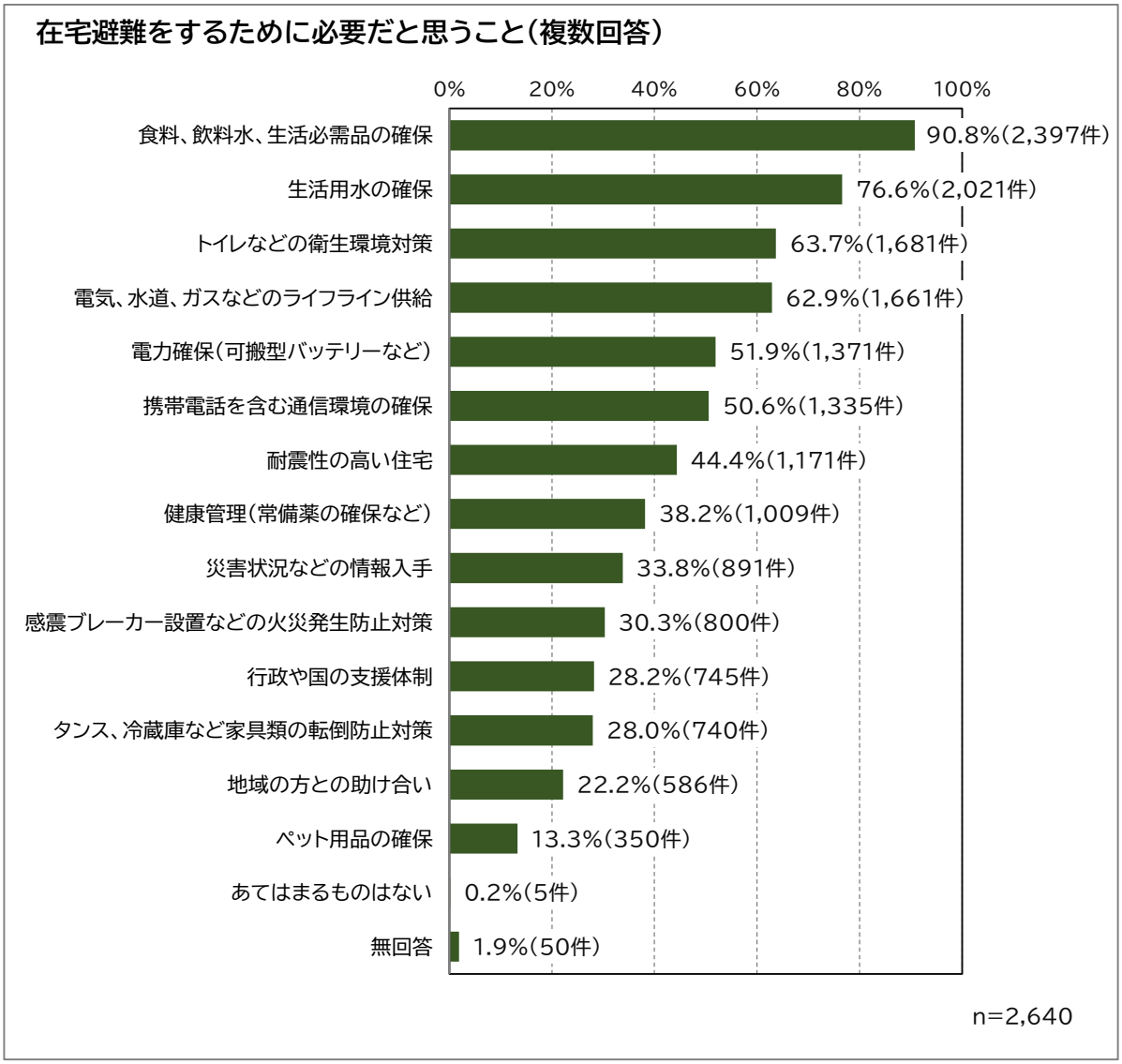


(7)区民アンケート(上馬地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

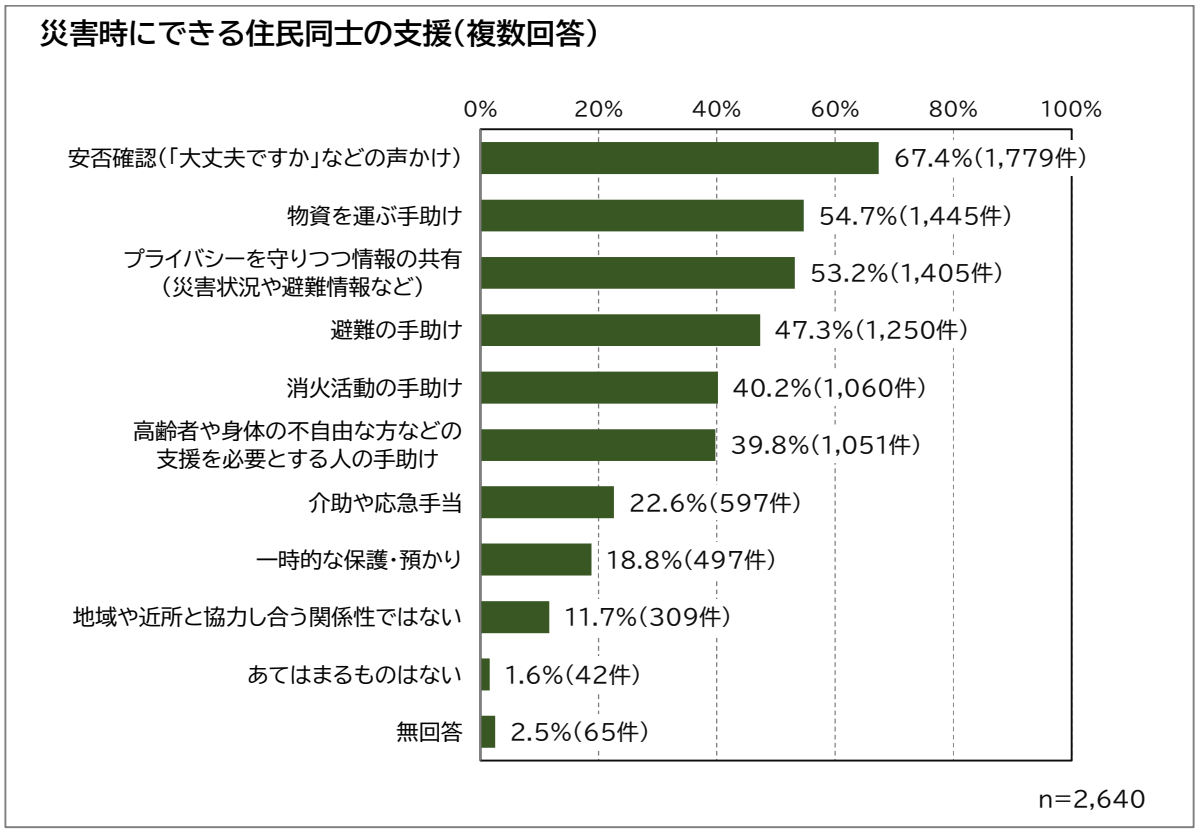


(7)区民アンケート(上馬地区)

単純集計(5/5)

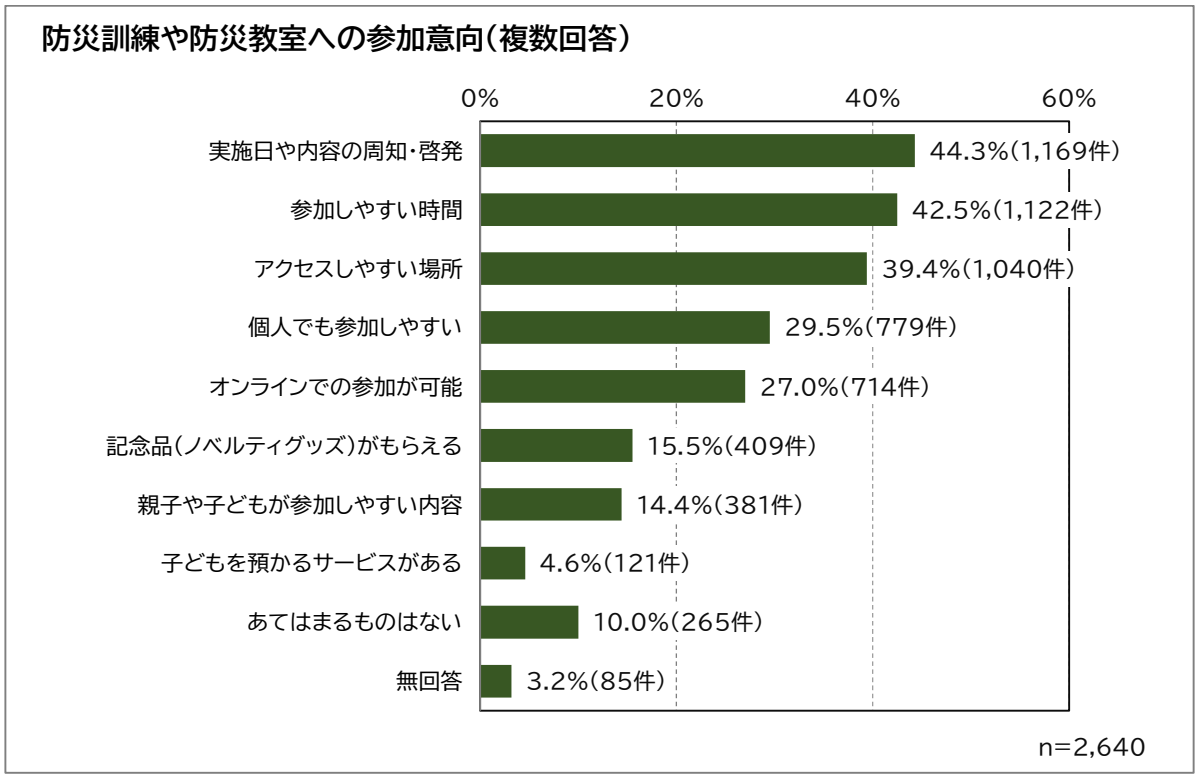
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

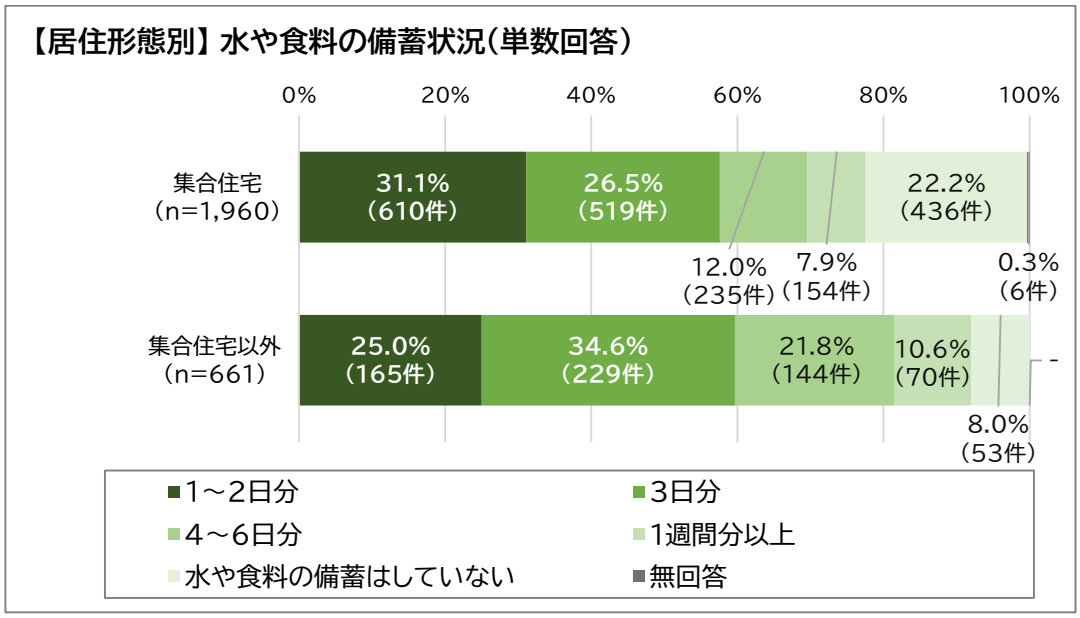


(7)区民アンケート(上馬地区)

クロス集計(1/4)

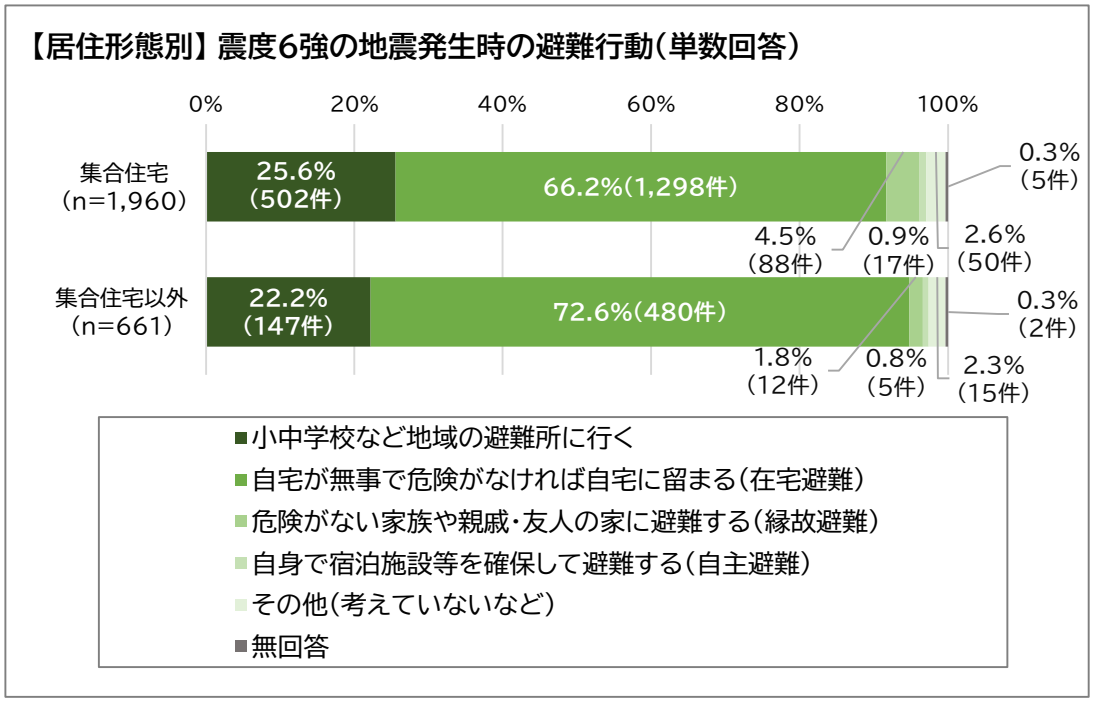
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(上馬地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

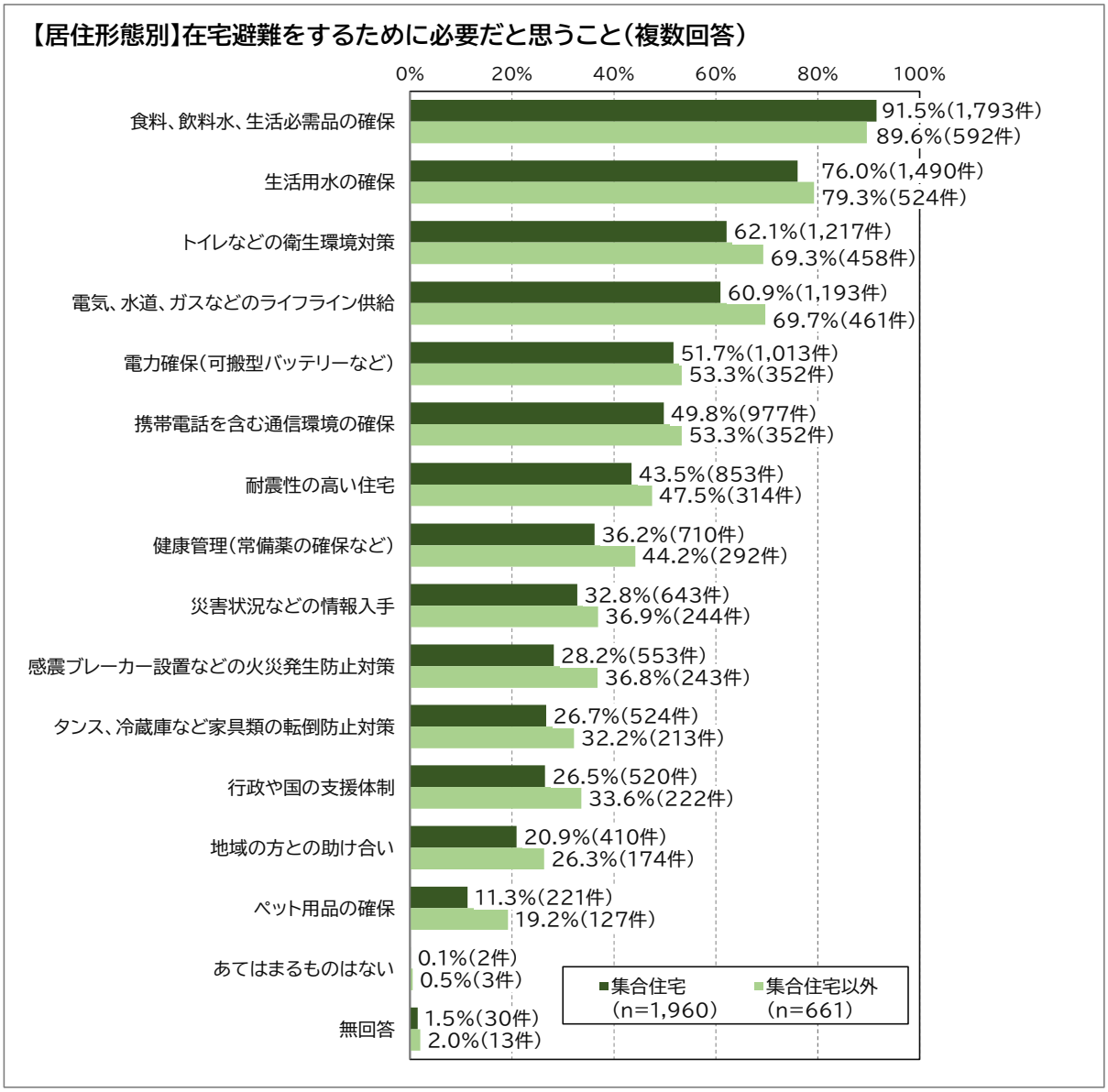
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(上馬地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

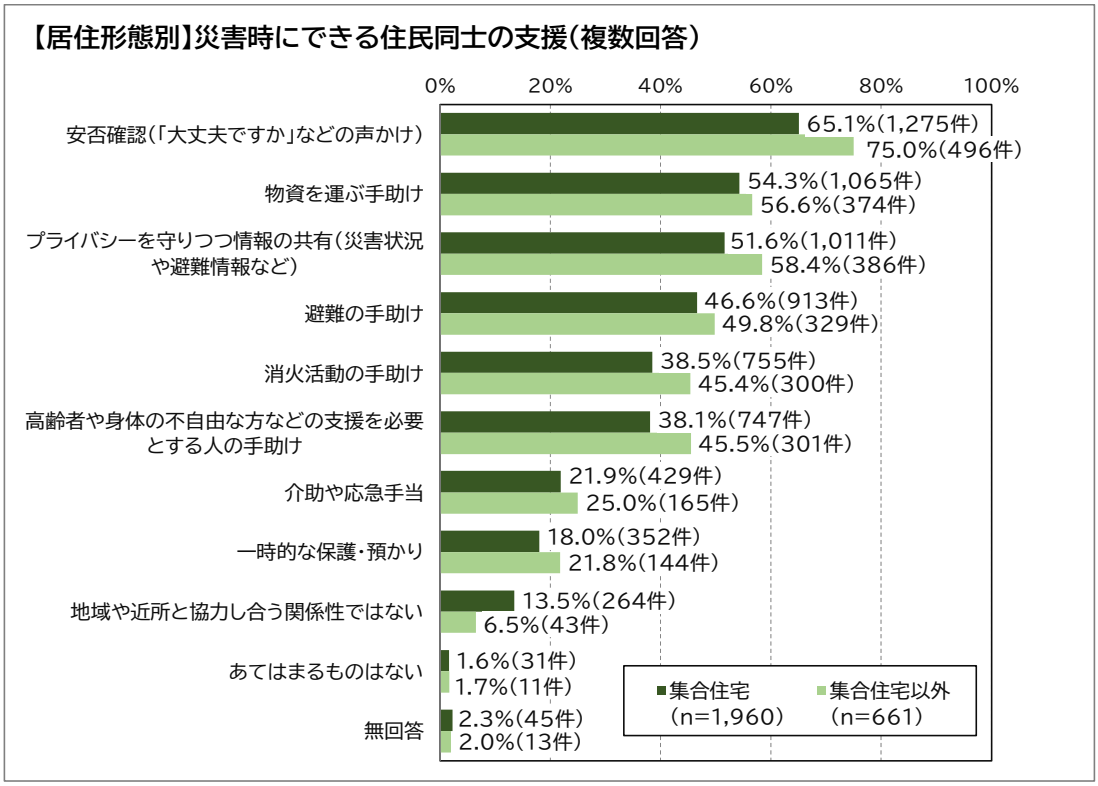


(7)区民アンケート(上馬地区)

クロス集計(4/4)

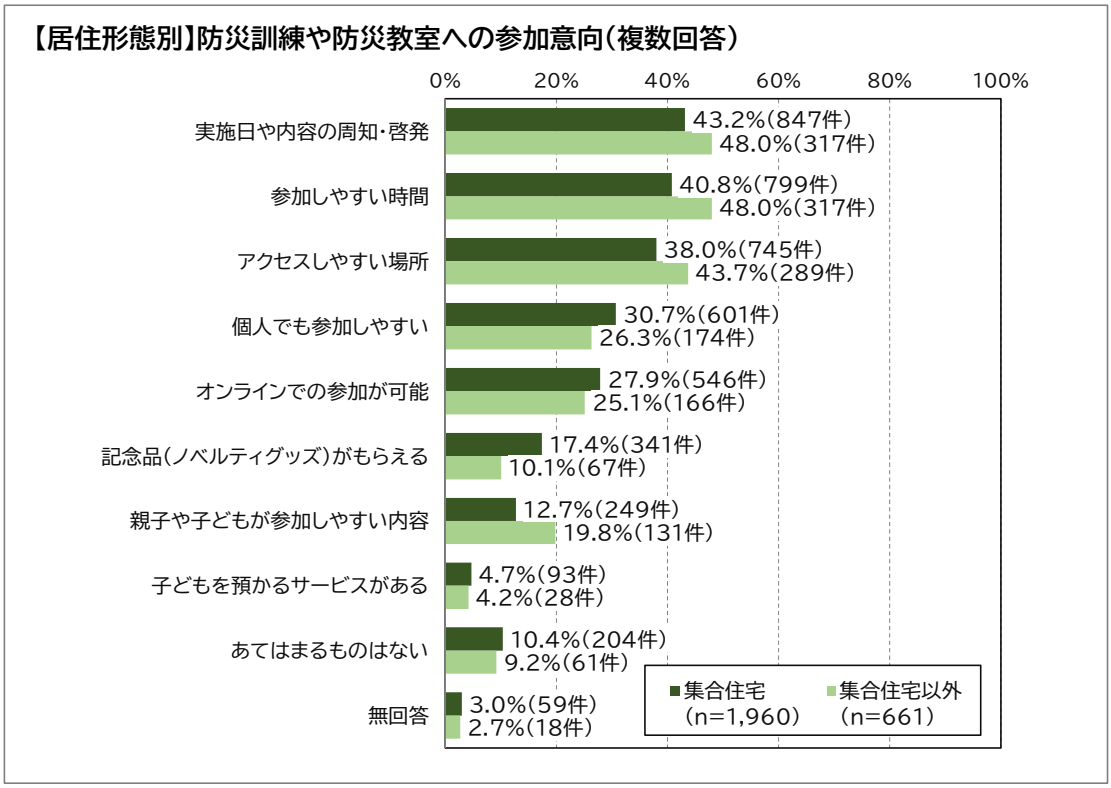
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
										スタンドパイプ	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所
上馬東町会	6	○		上馬地区区民防災会議 町会役員会	11	○		○		3	上馬東町会中里会館 上馬1やまもも広場 上馬公園
上馬西町会	8	○		上馬地区区民防災会議 町会役員会	11	○		○		3	上馬2丁目(曽根宅)、3丁目(加納宅)、4丁目(中井宅)
上馬北部町会	6	○		上馬地区区民防災会議 町会役員会(随時)	11	○		○		7	個人宅(4件) 上馬東公園 上馬北公園
上馬･駒沢明和会	2	○		役員常会日に防災報告を実施 上馬地区区民防災会議	11(毎月5日)	○		○		5	町会内防災倉庫4ヶ所
駒沢親和会	2	○		上馬地区区民防災会議	2	○		○		3	駒沢会館、駒沢一丁目西公園
三菱重工駒沢社宅防災部		○			1	○		○			

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施					
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所
上馬東町会	2	中里会館1 上馬1やまもも広場1	10	中里会館			○		1	上馬公園と 上馬1やまもも広場 隔年	2	中里会館 上馬公園
上馬西町会	1	まちづくりセンター					○		1	野沢児童遊園ほか	1	上馬まちづくりセンター
上馬北部町会	1	上馬北公園	2	上馬東公園 上馬北公園			○		2	上馬2丁目 1箇所 上馬4丁目 1箇所	1	上馬まちづくりセンター
上馬・駒沢明和会	2	町会内防災倉庫 1ヶ所					○		1	小泉公園	1	上馬まちづくりセンター
駒沢親和会	1	駒沢一丁目公園	3	駒沢会館			○		2	駒沢小学校他	1	上馬まちづくりセンター
三菱重工駒沢社宅防災部			219	各階			○		1	社宅内		

団体名	防災訓練等の実施		防災マップ											
	その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							
	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
上馬東町会	防災に関する講演会 避難所運営訓練	中里会館 旭小学校 中里小学校	○				○	○	○	○	○		○	防災倉庫の場所 災害時のみ開通する避難道路
上馬西町会	避難所運営訓練	駒沢小学校 三軒茶屋小学校	○		○		○		○					
上馬北部町会	避難所運営訓練	駒沢小学校 三軒茶屋小学校	○				○	○	○	○	○		○	AED
上馬・駒沢明和会	避難所運営訓練	駒沢中学校	○				○	○	○	○			○	
駒沢親和会	避難所運営訓練	駒沢小学校	○				○		○	○			○	
三菱重工駒沢社宅防災部			○				○	○	○				○	

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策			
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない
上馬東町会	3				○			中里商店街 三軒茶屋病院 社員寮及びマンション		○			○		町会防災訓練に取り入れている講演会を実施 年1回の防災訓練時訪問する	
上馬西町会	○	○		○	○		○	上馬商店会			○					○
上馬北部町会	1						○			○			○			
上馬・駒沢明和会	3						○			○						○
駒沢親和会	1						○					○				○
三菱重工駒沢社宅防災部		○		○						○						○

団体名	連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備											
	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり
上馬東町会	○	○		△						○	1	3	2	1	3	50	2	2	2	2	2
上馬西町会							○			○	4			2		33	1		3		
上馬北部町会	○	○					○			○	3	1		3	2	40	2	2	2	2	1
上馬･駒沢明和会		○					○			○	1		3	5	2	24	1	1	1		1
駒沢親和会	○	○					○			○	1		2		1	○	3	○	○		
三菱重工駒沢社宅防災部		○		○						○					1						

団体名	救出救助に係る資機材の配備					食糧等の備蓄								
	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ
上馬東町会		2	2		①上馬1やまもも広場 ②中里会館防災倉庫内	○								
上馬西町会						○								
上馬北部町会	1	1	1		防災倉庫		○	○	○		○		○	2
上馬･駒沢明和会	3	1		大型カッター1個、手押し車3台	町会内防災倉庫		○	○					○	
駒沢親和会	○	○			駒沢会館、駒沢一丁目西公園		○		○	○	○		○	
三菱重工駒沢社宅防災部							○							

団体名	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	食糧等の備蓄						その他の防災活動
				発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
上馬東町会		200 ※簡易型			○		ランタン大小10 ハンドマイク5 放送用資材1 無線機15 エコ暖マット10 本部用テント1 テーブル4 貯水プール1 台車3 コードリール3 メガホン3	中里会館防災倉庫		
上馬西町会		○			○		ハンドマイク3	防災倉庫		
上馬北部町会	発熱剤400	800 うち654配布済			○		水槽2 ランタンライト40 懐中電灯50 ハンドマイク2	防災倉庫		
上馬・駒沢明和会	○		1		○		石油コンロ2基、大型鍋・やかん各1個	町会防災倉庫3ヶ所		・毎月2回の防犯パトロール。8月、12月は夜間パトロールも実施
駒沢親和会		○			○					
三菱重工駒沢社宅防災部		180	18					社宅内地下倉庫		

3. 上馬地区の課題と取り組み

上馬地区は、都道環状七号線と国道246号線（玉川通り）で分断されており、そのことが地域住民のコミュニティ活動、防災活動の課題である。

また、地区内には5つの町会があり、そのうち区と避難行動要支援者の支援に関する協定を結んでいるのは、4町会である。

課題1　近隣・避難行動要支援者・要配慮者の安否確認、その後の避難・救援

■意見

・まずは自助が進むことが重要。
・災害時、避難所に参集することになっている避難所運営委員が、避難行動要支援者・要配慮者の方の安否確認をする担当者になっていることが多い。
・避難行動要支援者・要配慮者の方と顔の見える関係が不十分。
・支援（安否確認）する側の人の確保が困難。
・避難行動要支援者・要配慮者対応の取り組みが未整備。
・個人情報の関係上、同意者名簿を広く共有することができないなかで、避難行動要支援者の支援には限界がある。
・同意者名簿に記載された方から「支援は不要だ」と言われたことがある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①自助の啓発、そして共助の重要性も発信・啓発する。
②福祉事業所との連携による安否確認について話し合い、ルール等を決める。
（上馬地区見守りネットワーク会議参加者との連携を進める。）
③協定締結団体は、日ごろ（平時）からの関係づくりを進める。
④避難所運営訓練に避難行動要支援者・要配慮者対応の訓練を取り入れる。
⑤安否確認カードの作成・配布・啓発の継続。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・協定締結済みの町会は、町会防災訓練のメニューに支援行動を取り入れる。
・町会行事の機会を捉える等、避難行動要支援者・要配慮者との関係づくりに努める。

課題2　担い手不足を解消するネットワークづくり

■意見

・避難所運営委員が、何でも委員がやらなければならないと思わないよう意識するとともに、地域住民に共助の意識を啓発し、いざというときは担い手になってもらうよう、日常の中でつながりを持つ。
・町会防災訓練の曜日や時間を変えて実施することで参加者を拡大するとともに、あわせて避難所生活をする場合の共助の啓発も行う。
・避難所運営訓練実施時、応援（地域住民、ボランティア）受け入れについてもイメ

ージし、意見交換しておく。
・町会未加入者へのアプローチが難しい。
・中高生や駒澤大学の学生さんなど若い世代の協力を得るべき。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①防災塾等の機会を通じて学校や事業者、団体に引き続き応援を働きかける。
②混乱期以降、避難所運営ボランティアを確保する。
③若い世代の力を取り込んでいく。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・総会開催時など団体の人が多く集まる場を活用し、避難所運営やその応援について協力を求める。
・マンションの管理会社との連携のほか、マンション居住者向けの防災講習会防災マップ・パンフレットの作成等など、町会活動や防災活動への意識を根付かせていく。

課題3　避難所の円滑な運営
■意見
・避難所がどこか知らない人がいる。
・運営組織構成員が町会役員とPTAだけになっている（PTAは1年交代で構成員となっており、話し合い・活動の継続が難しい。）。
・避難所運営委員の高齢化が進んでいる。運営委員だけではまかなえない。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①避難所運営を知ってもらい、運営組織に入っていなくても、いざというときは避難所運営に携わってもらえるよう啓発する。
②組織構成員について検討する。
③PTAの避難所運営委員は役職退任と同じタイミングで運営委員を退任するが、その後も地域の協力者として継続的にかかわれるよう働きかける。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・地域住民に在宅避難が最善という啓発を行いつつ、避難所運営組織についても啓発し、人材を発掘する。
・PTAとの協力関係を積極的に持つ。

梅丘地区防災計画

［令和7年修正］

梅丘地区

【梅丘地区防災計画作成団体】　（順不同）

梅丘1丁目町会	梅丘2・3丁目町会
豪徳寺1丁目町会	豪徳寺一丁目山下自治会
豪徳寺二丁目町会	代田自治会
日赤奉仕団梅丘分団	梅丘地区民生委員・児童委員協議会
梅丘地区社会福祉協議会	青少年梅丘地区委員会
梅丘商店街振興組合	豪徳寺商店街振興組合
山下商店街振興組合	世田谷消防団第5分団
世田谷中学校PTA	山崎小学校PTA
城山小学校PTA	北沢地域社会福祉協議会梅丘地区事務局
梅丘あんしんすこやかセンター	

目 次

1 梅丘地区の特性 …… 梅丘-1(-226-)
(1)自然特性 …… 梅丘-1(-226-)
(2)社会特性 …… 梅丘-2(-227-)
(3)地域危険度 …… 梅丘-4(-229-)
(4)被害想定 …… 梅丘-5(-230-)
(5)防災資源一覧 …… 梅丘-8(-233-)
(6)防災資源マップ …… 梅丘-9(-234-)
(7)区民アンケート …… 梅丘-10(-235-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ …… 梅丘-19(-244-)

3 梅丘地区の課題と取り組み …… 梅丘-27(-252-)
(1)情報収集・伝達 …… 梅丘-27(-252-)
(2)安否確認 …… 梅丘-28(-253-)
(3)初期消火 …… 梅丘-29(-254-)
(4)避難行動 …… 梅丘-30(-255-)
(5)避難生活 …… 梅丘-31(-256-)
(6)その他 …… 梅丘-32(-257-)

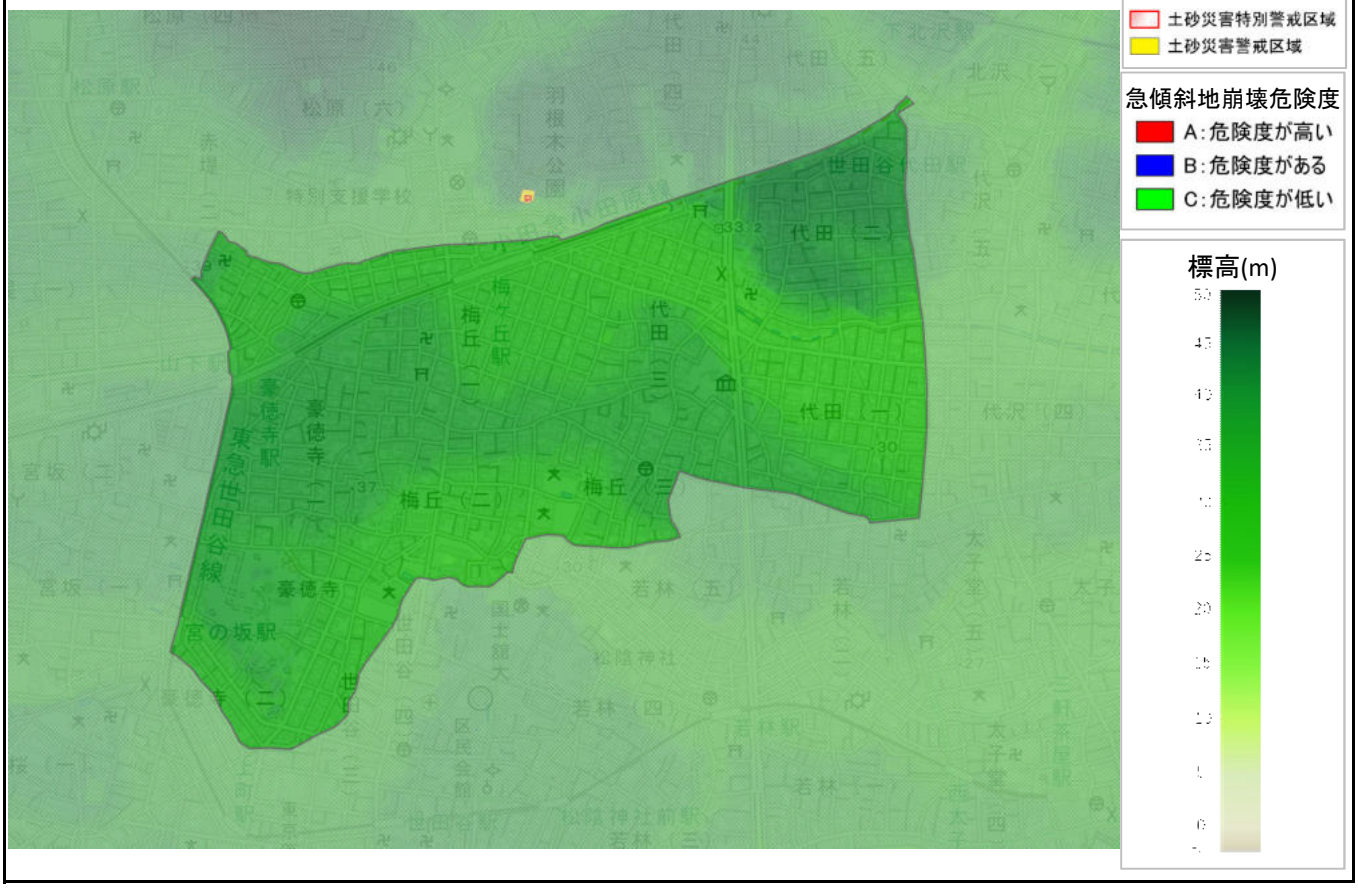
1. 梅丘地区の特性

(1)自然特性

面積	1.60 Km²	最高標高	43.6 m	最低標高	26.5 m

位置

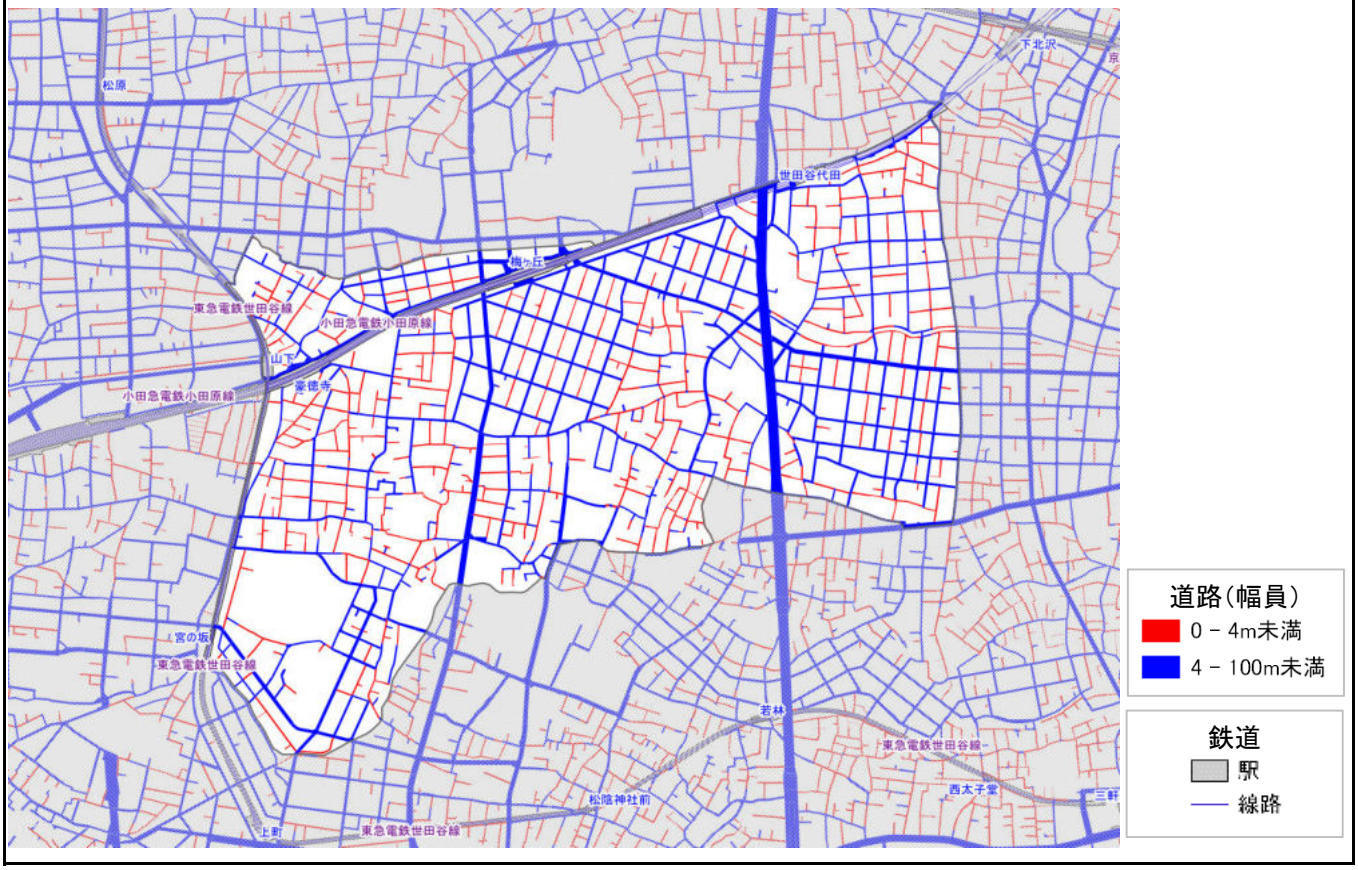
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

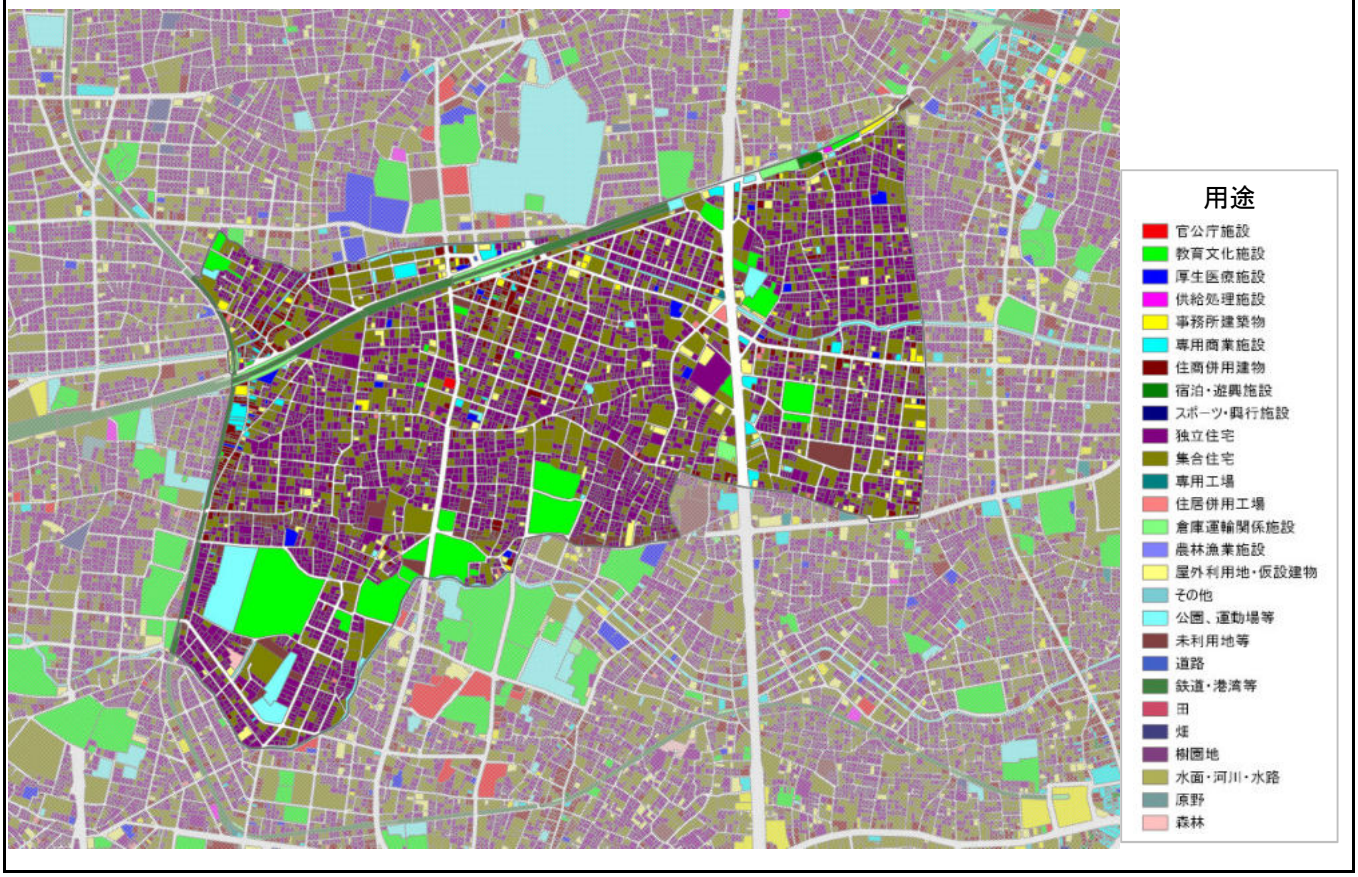
人口	28,390	人	細街路率		41.0 %
世帯数	16,437	世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		86.0 棟/K㎡
1世帯あたり	1.73	人	耐火率(建築面積ベース)		54.8 %
若年層数(15才未満)	2,819	人	土地利用(宅地)		72.6 %
若年層率(15才未満)	9.9	%	土地利用(宅地以外)		27.4 %
高齢者数(65才以上)	5,831	人	鉄道駅	小田急小田原線世田谷代田駅 梅ヶ丘駅 豪徳寺駅 東急世田谷線山下駅 宮の坂駅	
高齢者率(65才以上)	20.5	%			
昼間の人口	20,338	人	産業	商業	81.7 %
夜間の人口	28,882	人		工業	17.9 %
昼夜間人口比	0.70	-		農業	0.4 %
町会・自治会数	6	-			

道路・公共交通機関



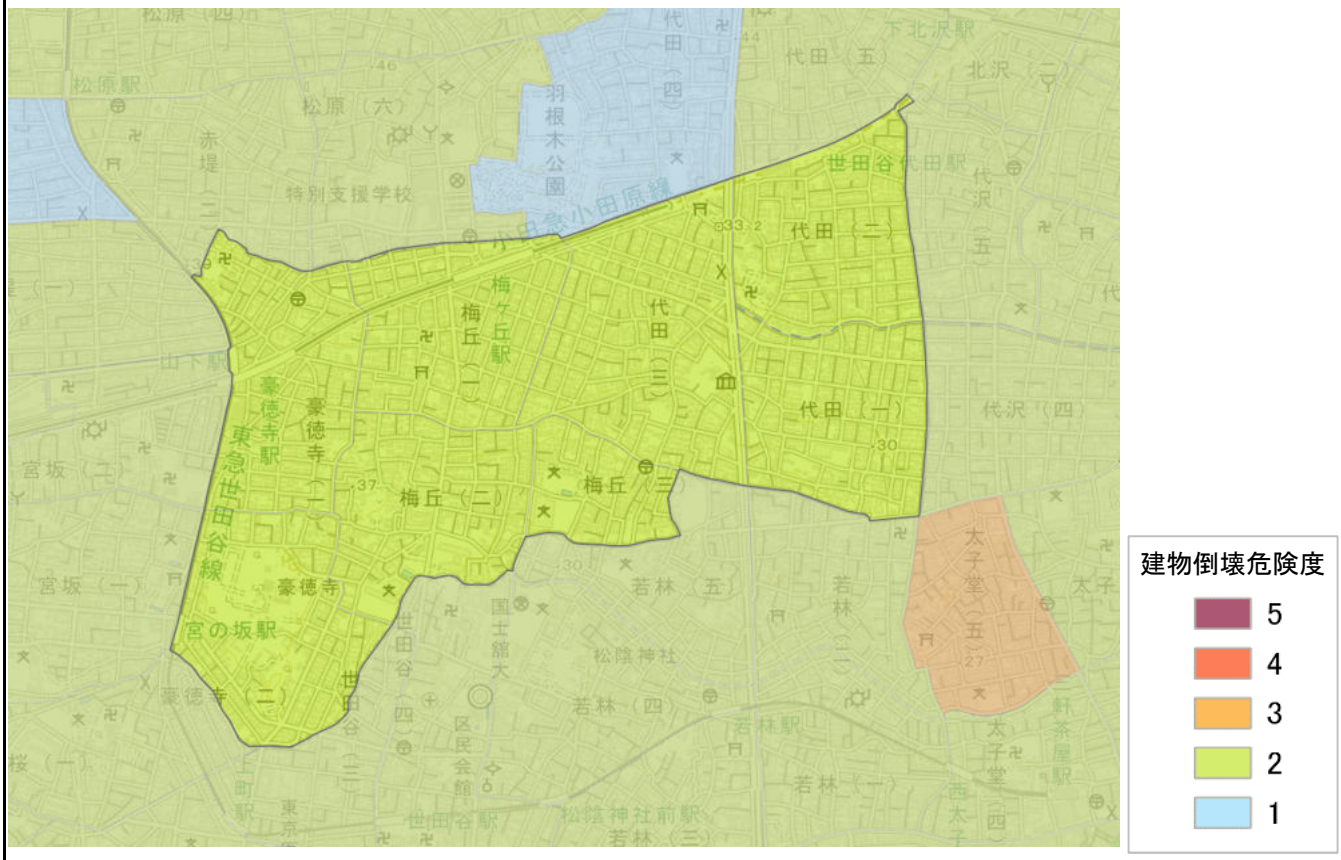
(2)社会特性

産業

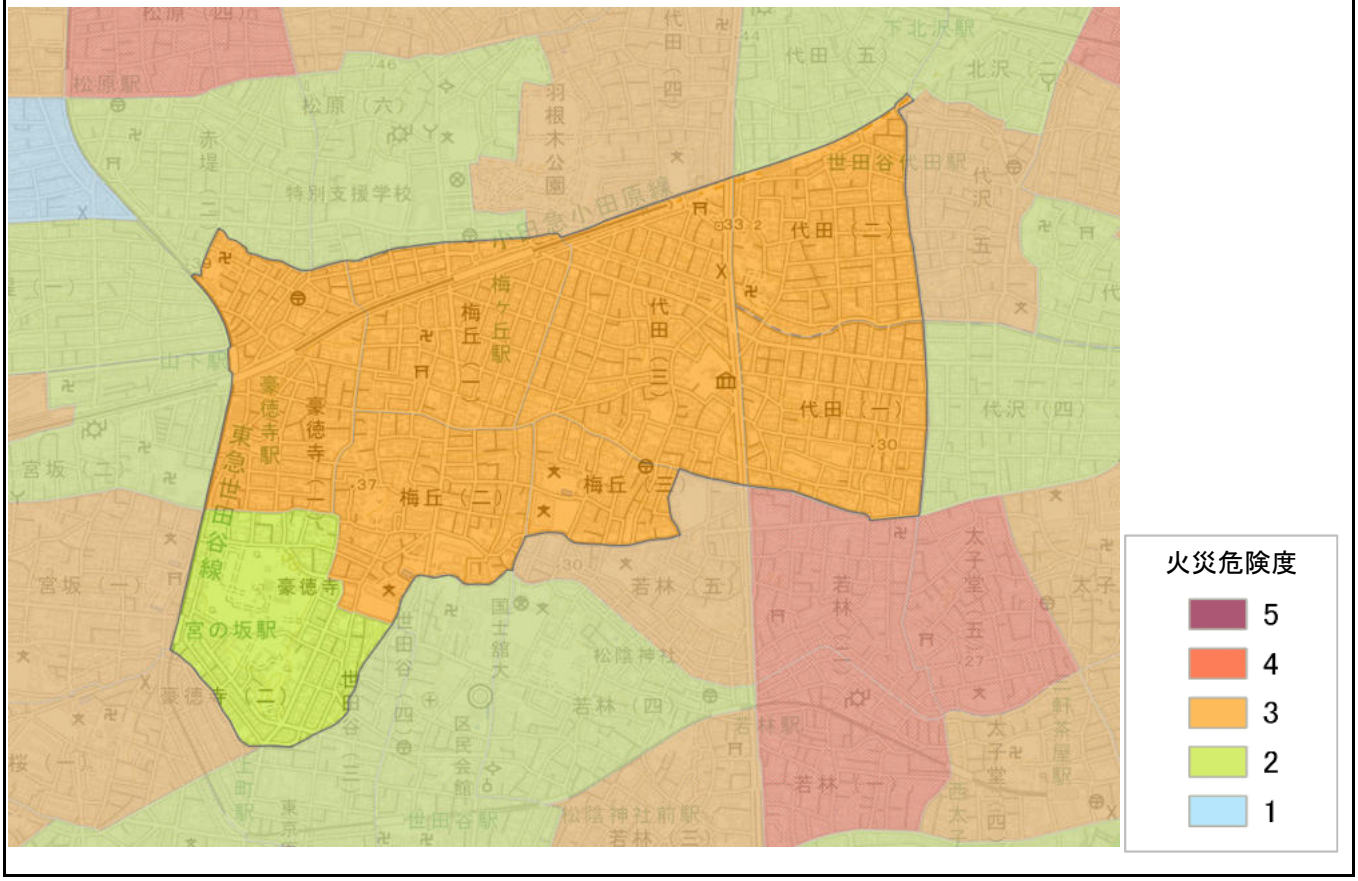

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



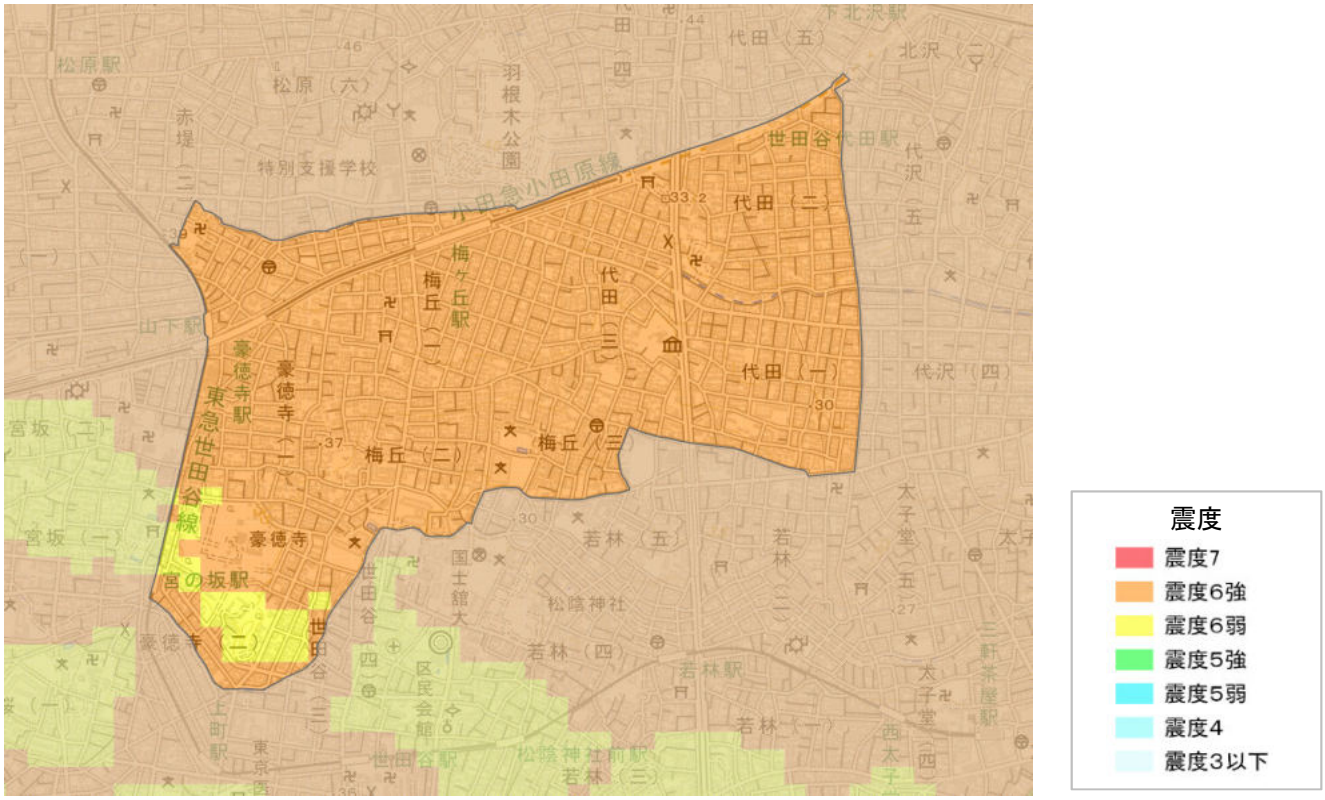
火災危険度



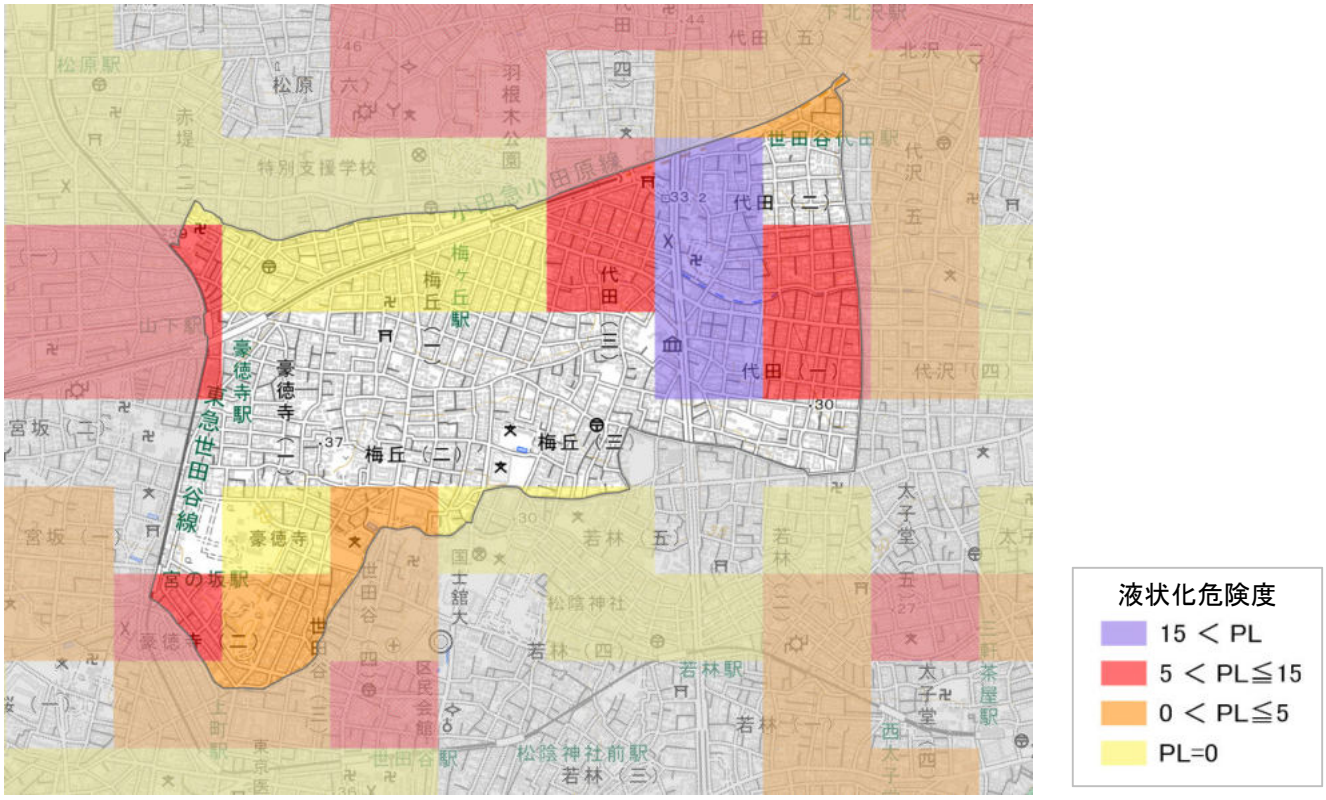
(4)被害想定

全壊棟数	249　棟	死者	29　人
半壊棟数	568　棟	負傷者	316　人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	1,076　棟	うち重傷者	54　人

震度分布

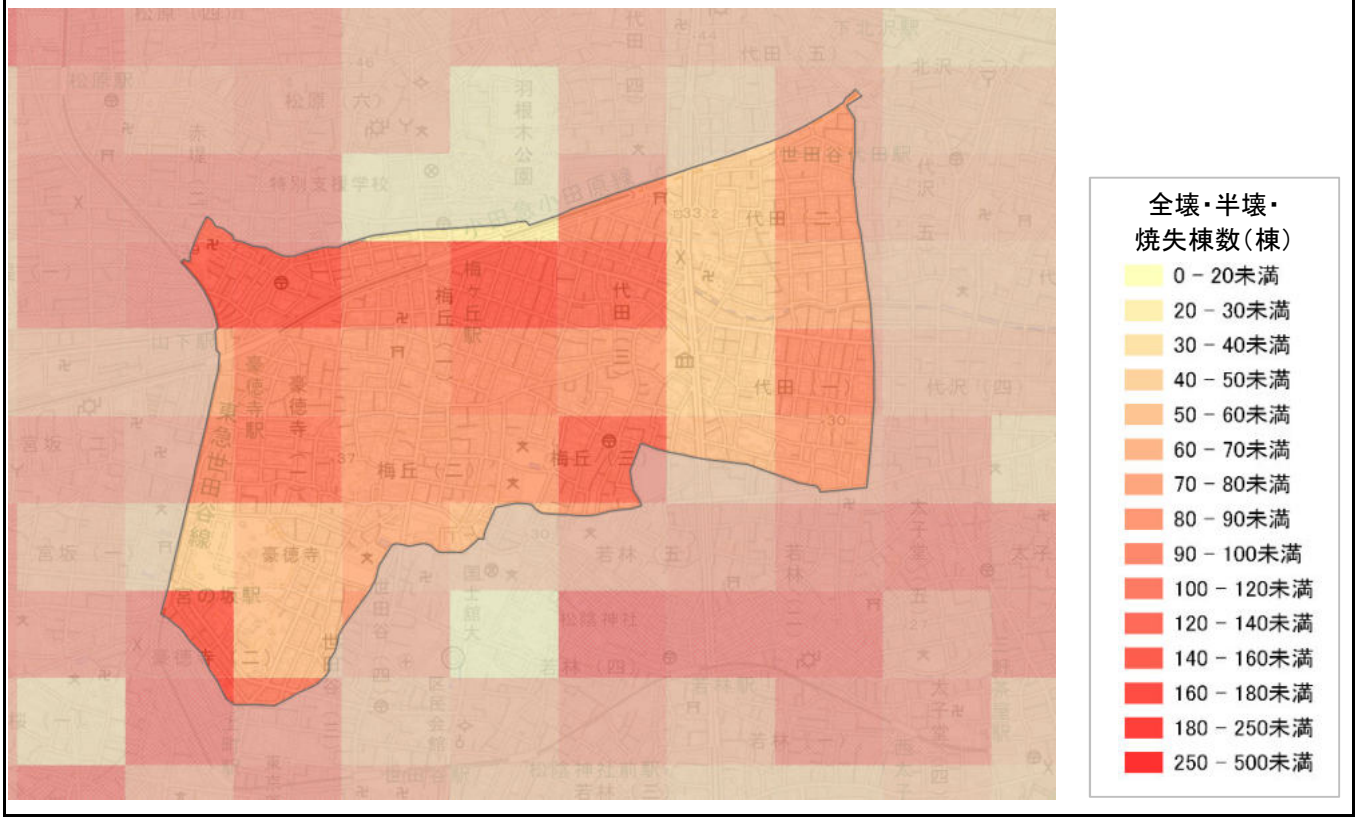


液状化分布



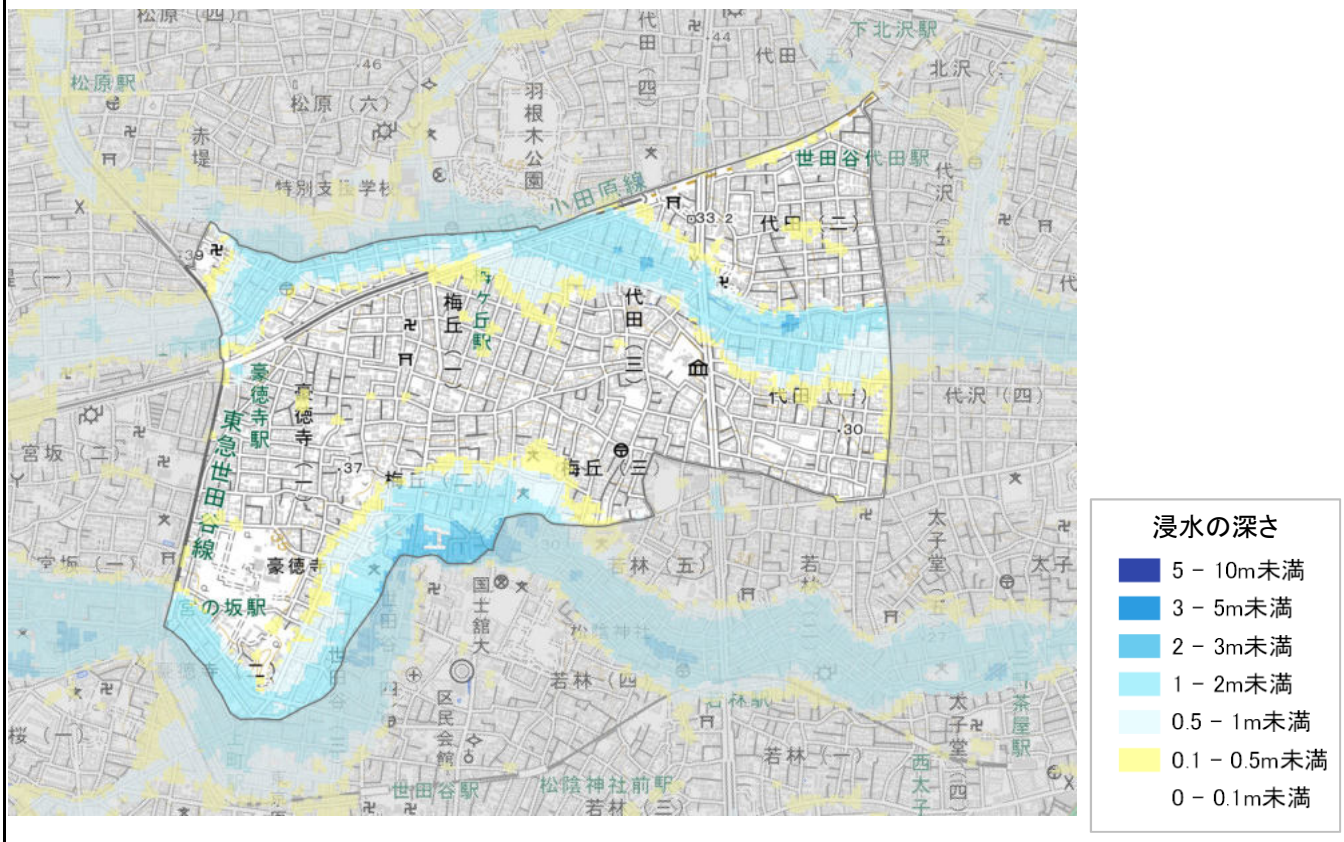
(4)被害想定

被害棟数分布

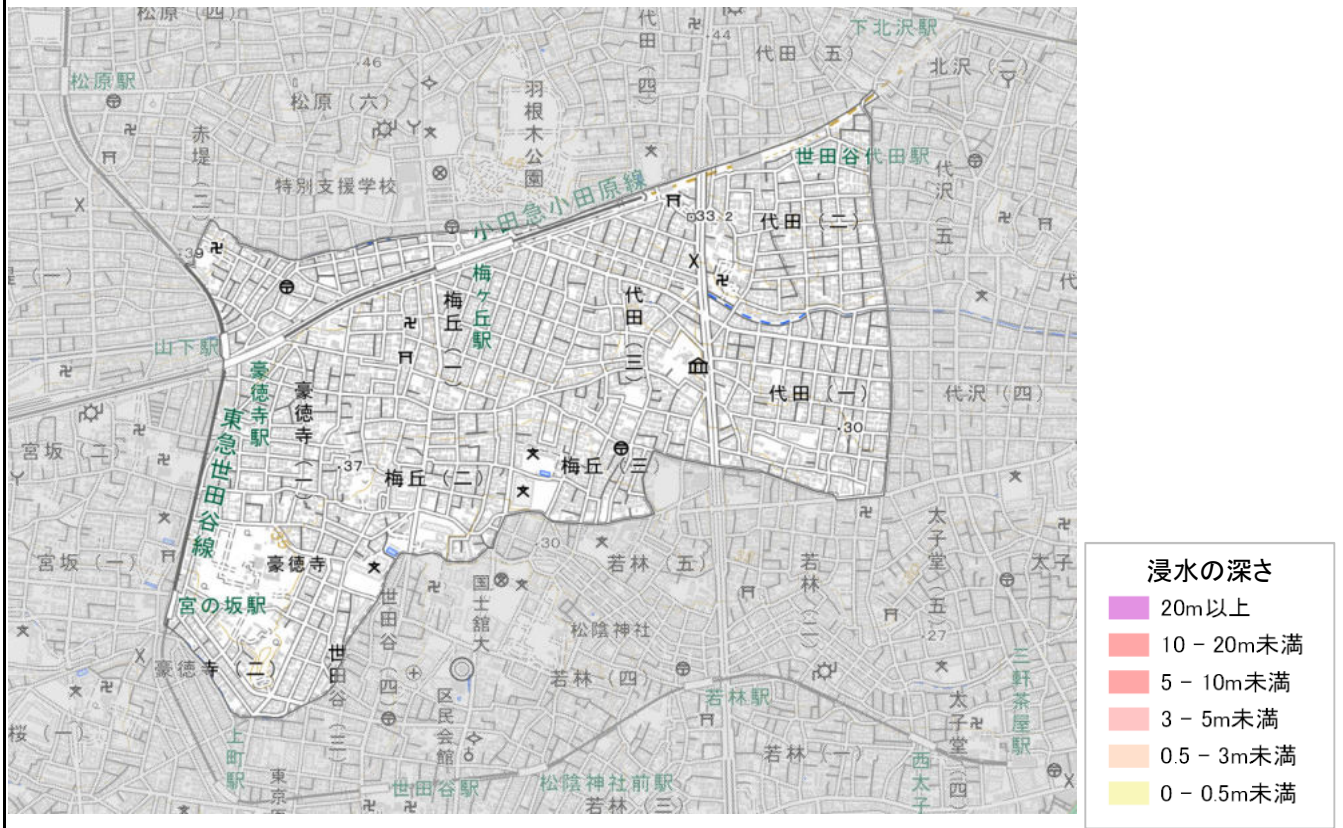


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



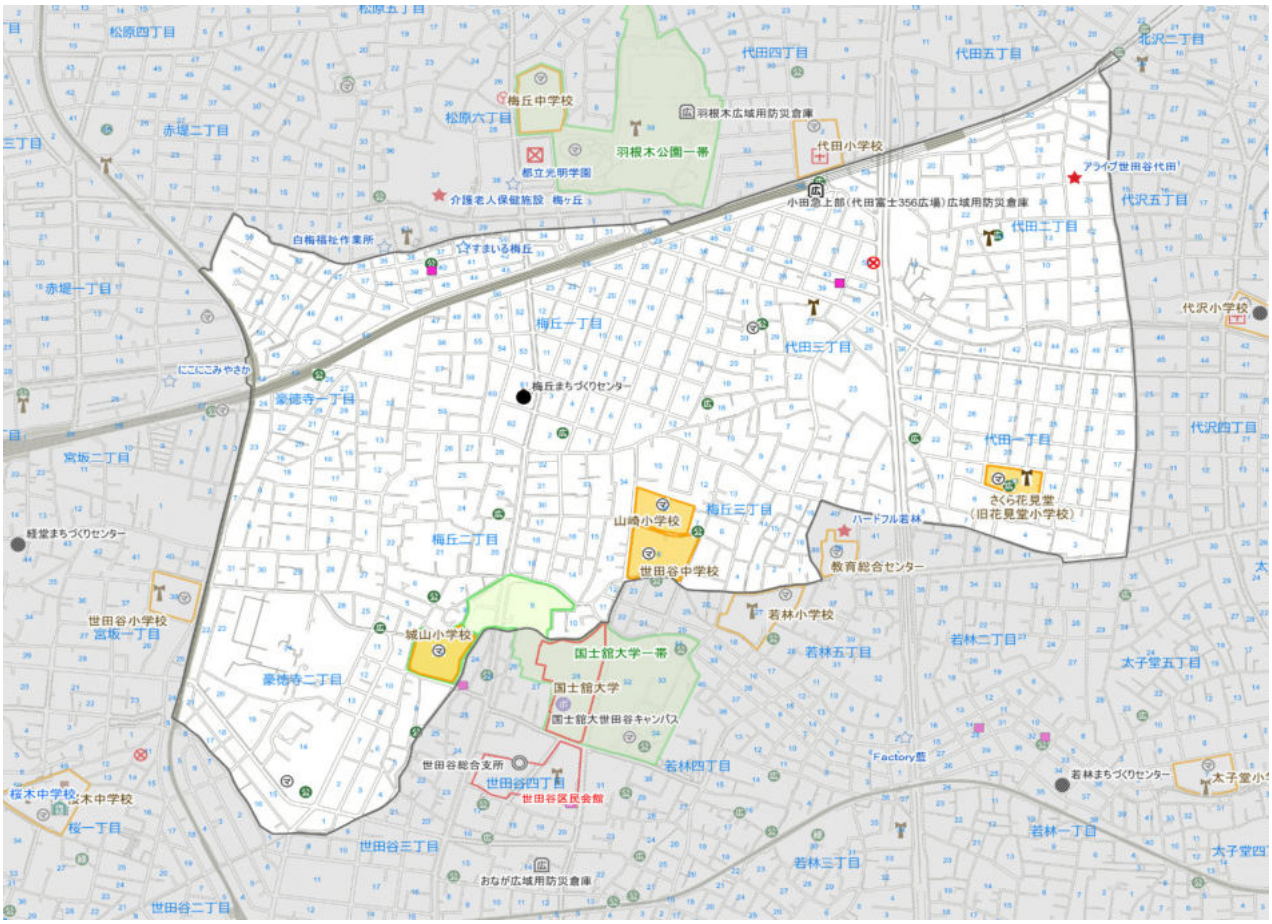
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	国士舘大学一帯				
一時集合所	さくら花見堂(花見堂複合施設) 羽根木公園 円乗院前 豪徳寺1丁目オリーブ公園 国士舘大学地域交流文化センター前 世田谷城址公園 善性寺 代田広場 梅丘とちのき公園 梅丘まちづくりセンター				
指定避難所	さくら花見堂(旧花見堂小学校) 山崎小学校 城山小学校 世田谷中学校				
予備避難所					
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	アライブ世田谷代田				
福祉避難所(障害者)	すまいる梅丘				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0 ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	6 ヶ所	防災行政無線塔	4 ヶ所	緑地	0 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫	小田急上部(代田富士356広場)広域用防災倉庫				
土のうステーション	梅丘北公園 北沢川緑道(代田3の43付近)				
警察署・交番	宮前橋交番 豪徳寺駅前交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所(母子)
- 福祉避難所(高齢者)
- 福祉避難所(障害者)
- 水害時避難所(第1次)
- 水害時避難所(第2次)
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所(狛江市)
- 水害時避難所(調布市)
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設(車中避難)

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

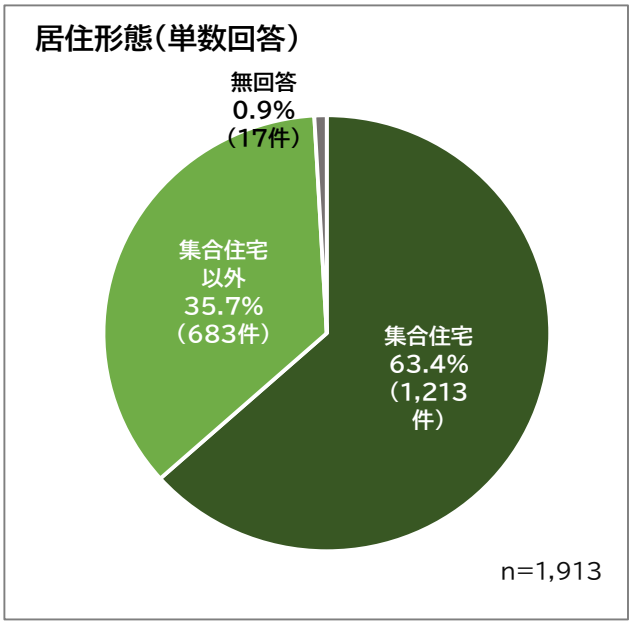
(7)区民アンケート(梅丘地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

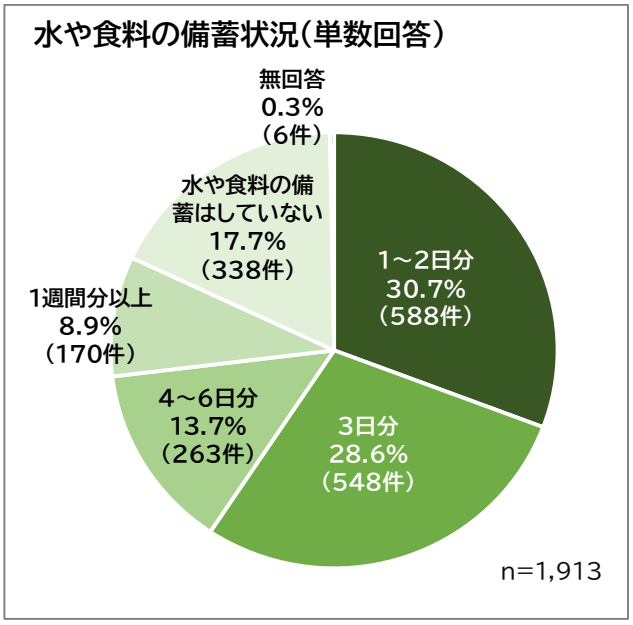
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

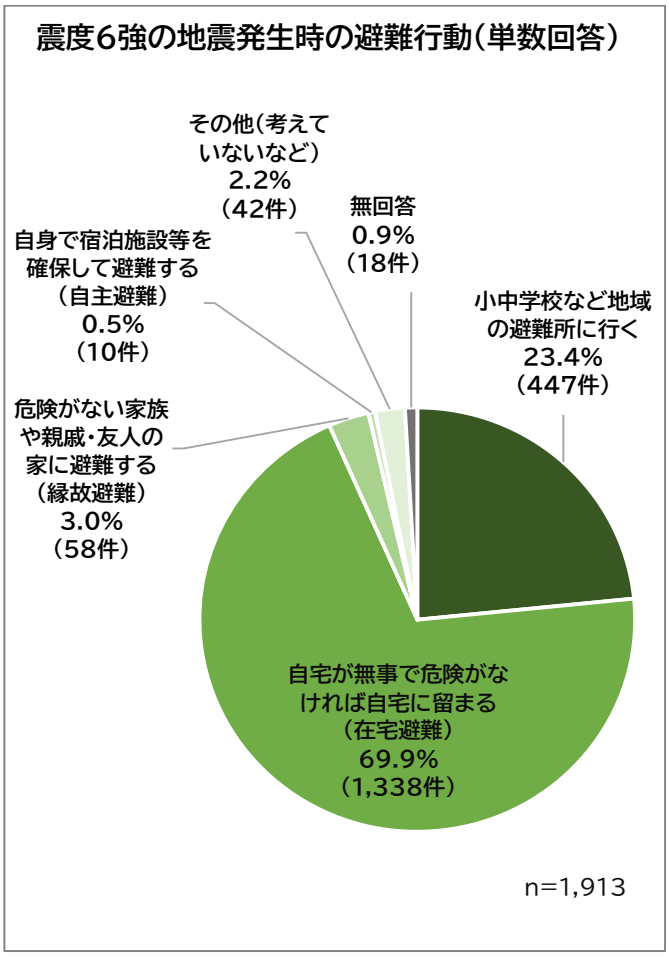


(7)区民アンケート(梅丘地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

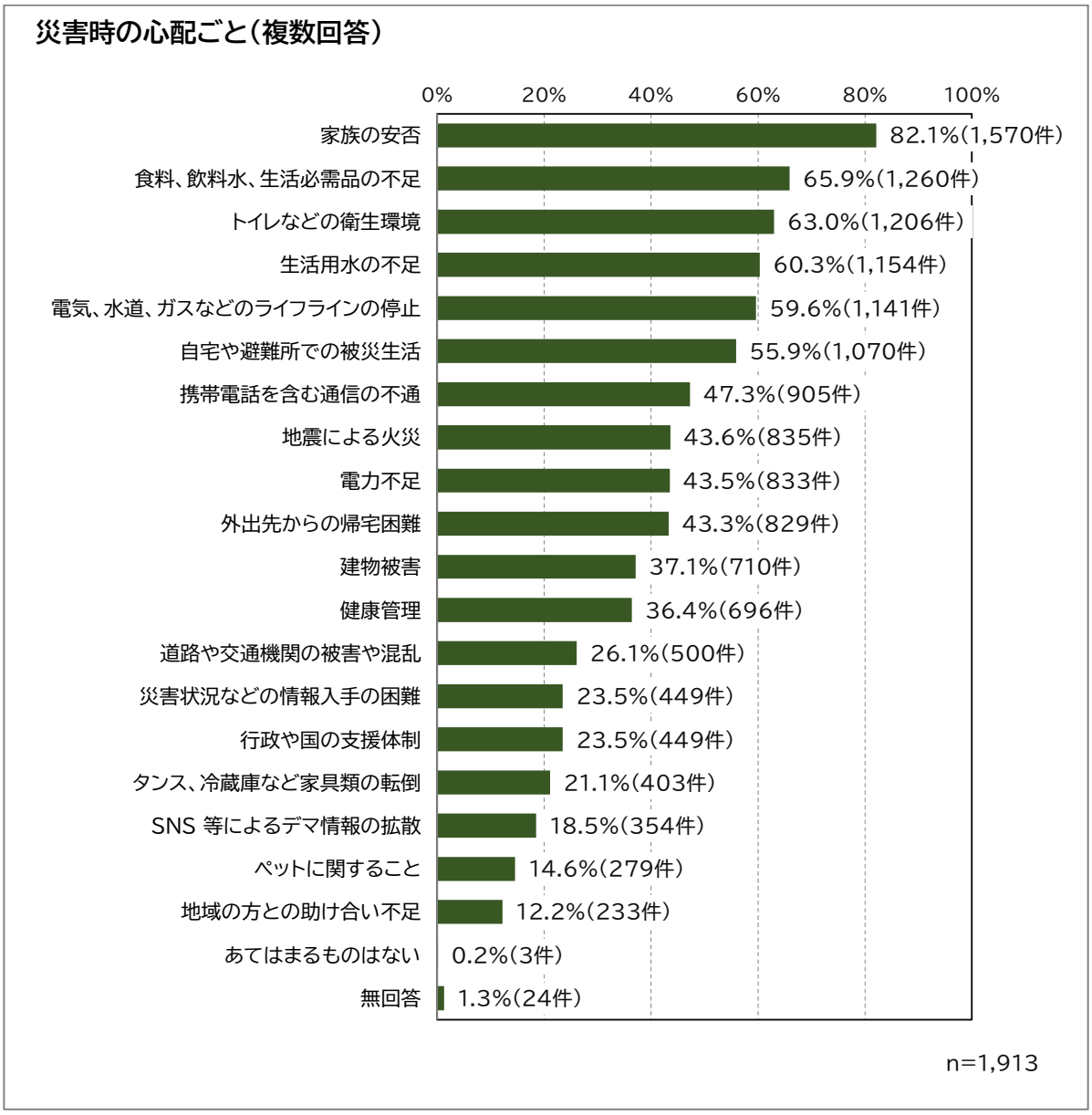


(7)区民アンケート(梅丘地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

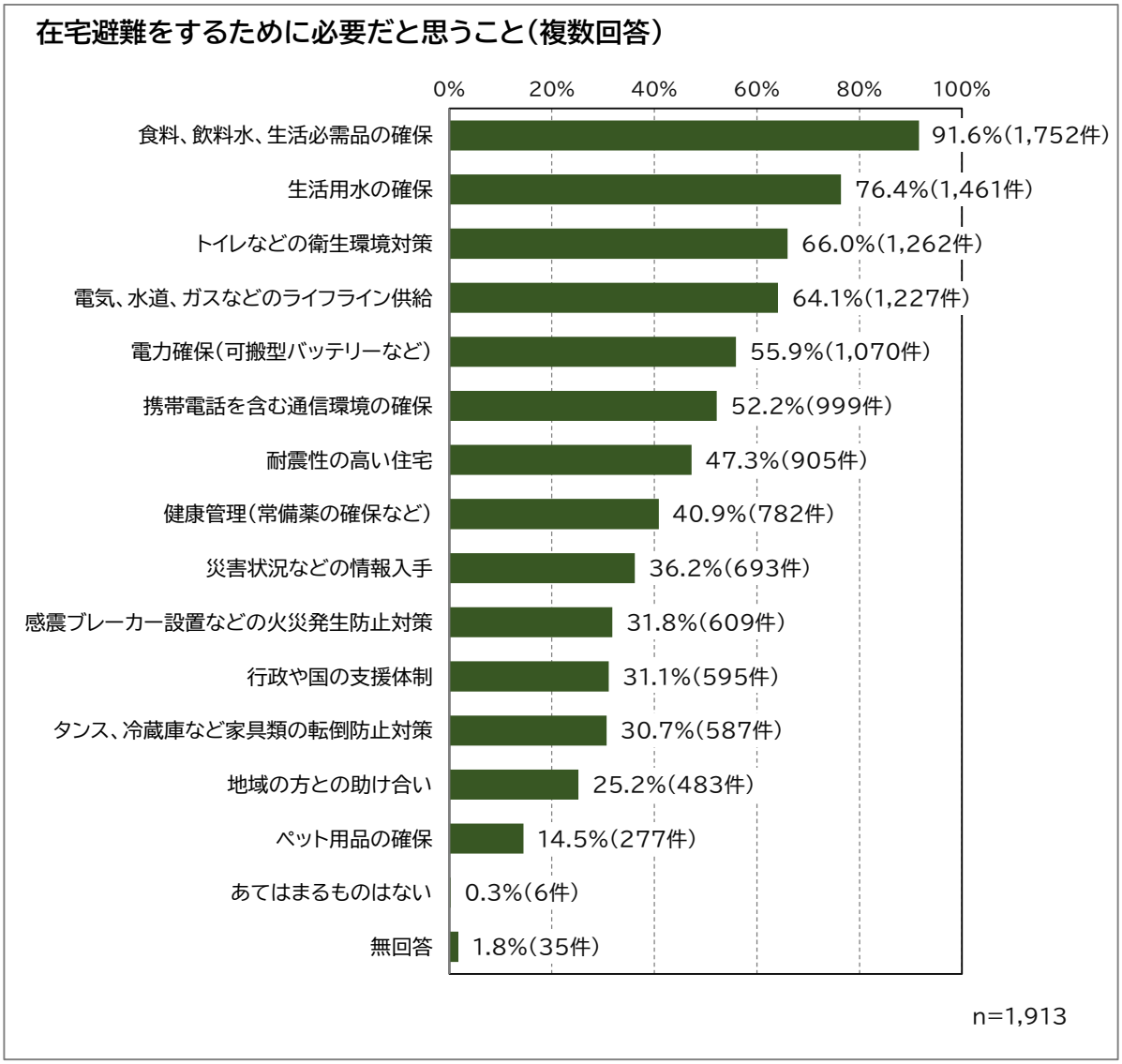


(7)区民アンケート(梅丘地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

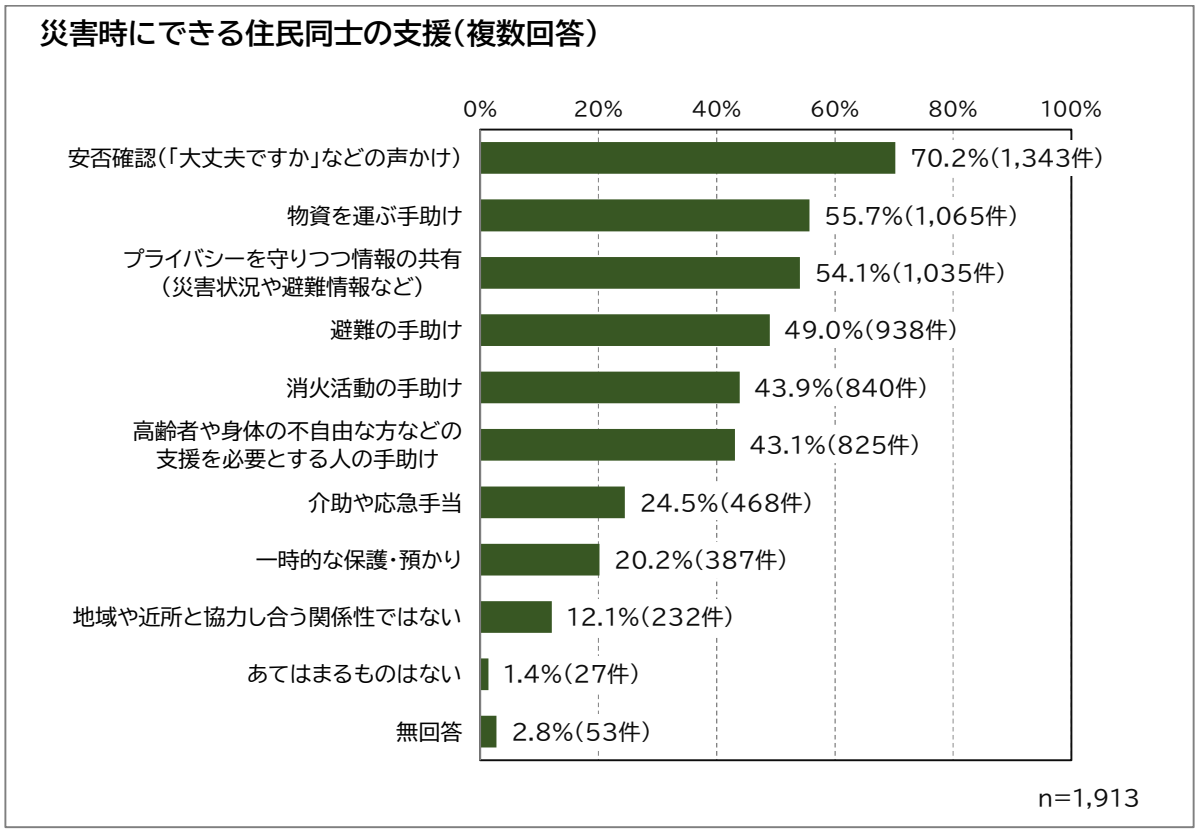


(7)区民アンケート(梅丘地区)

単純集計(5/5)

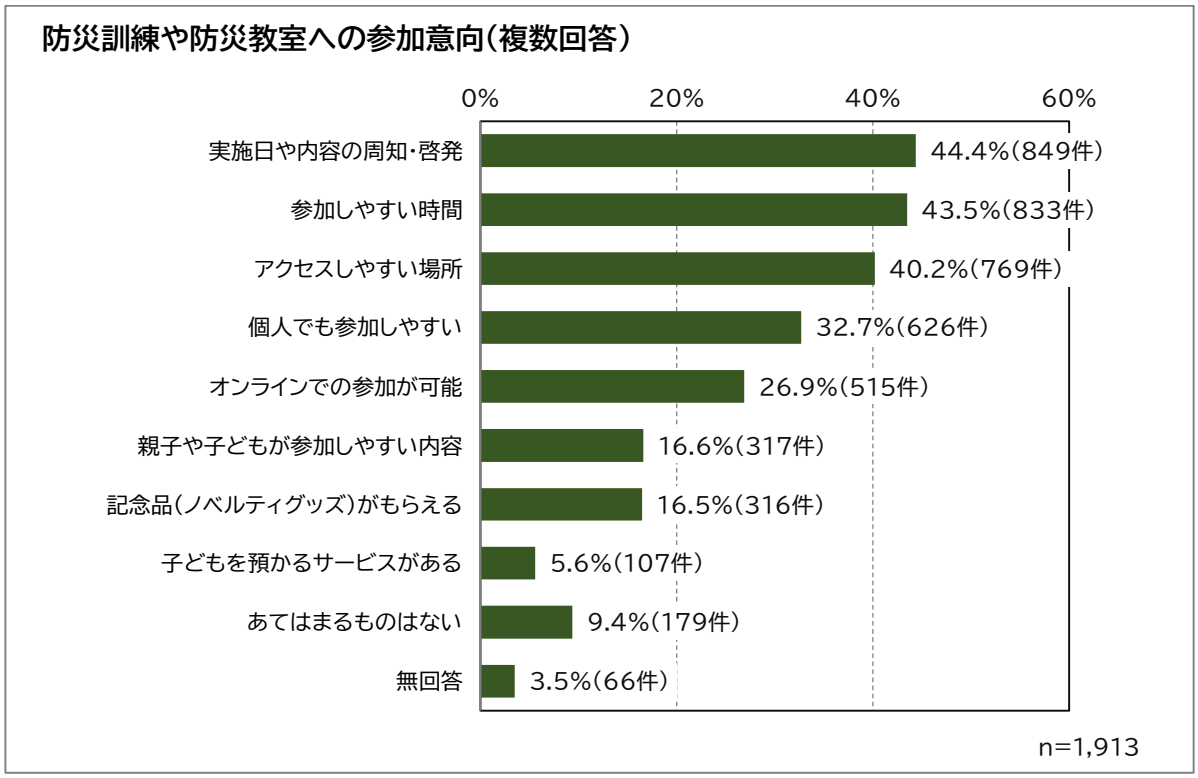
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

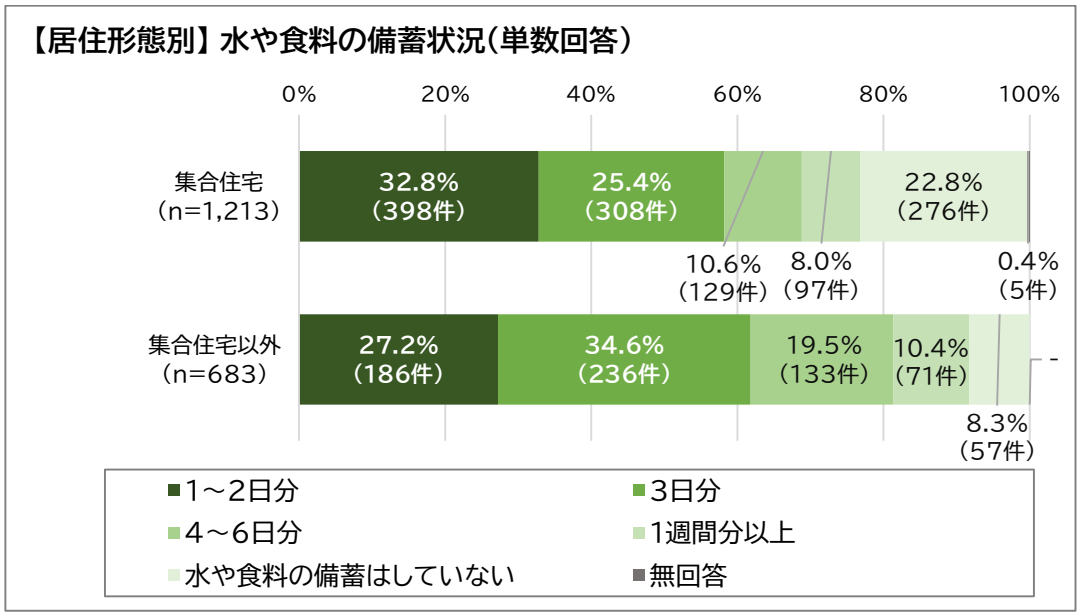


(7)区民アンケート(梅丘地区)

クロス集計(1/4)

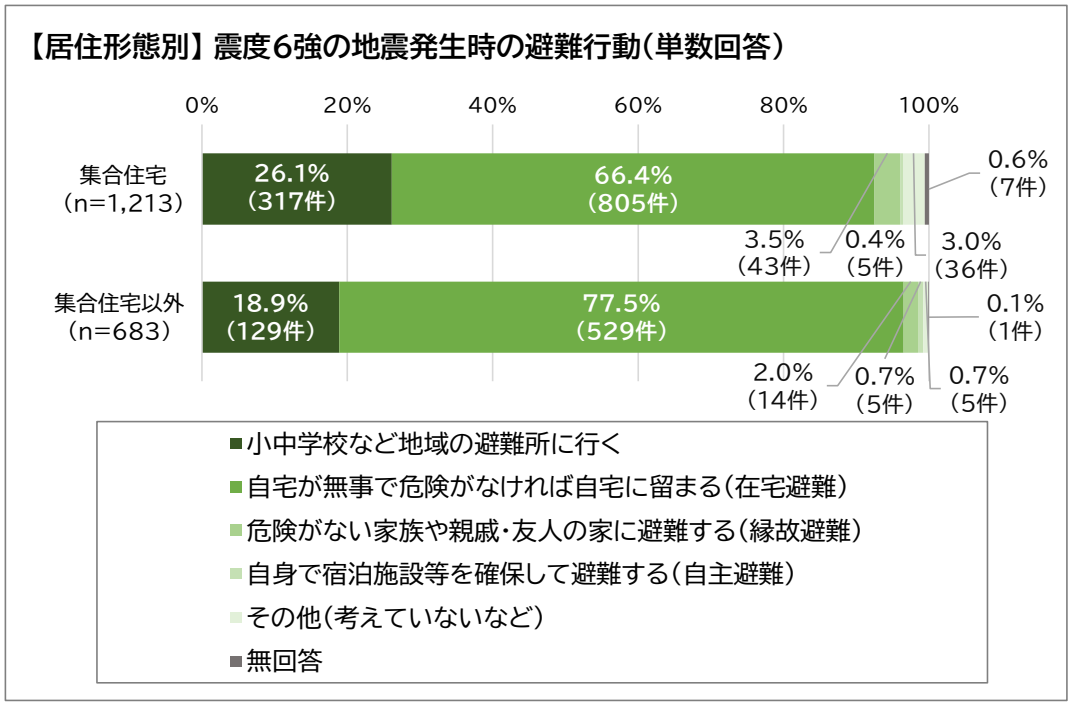
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(梅丘地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

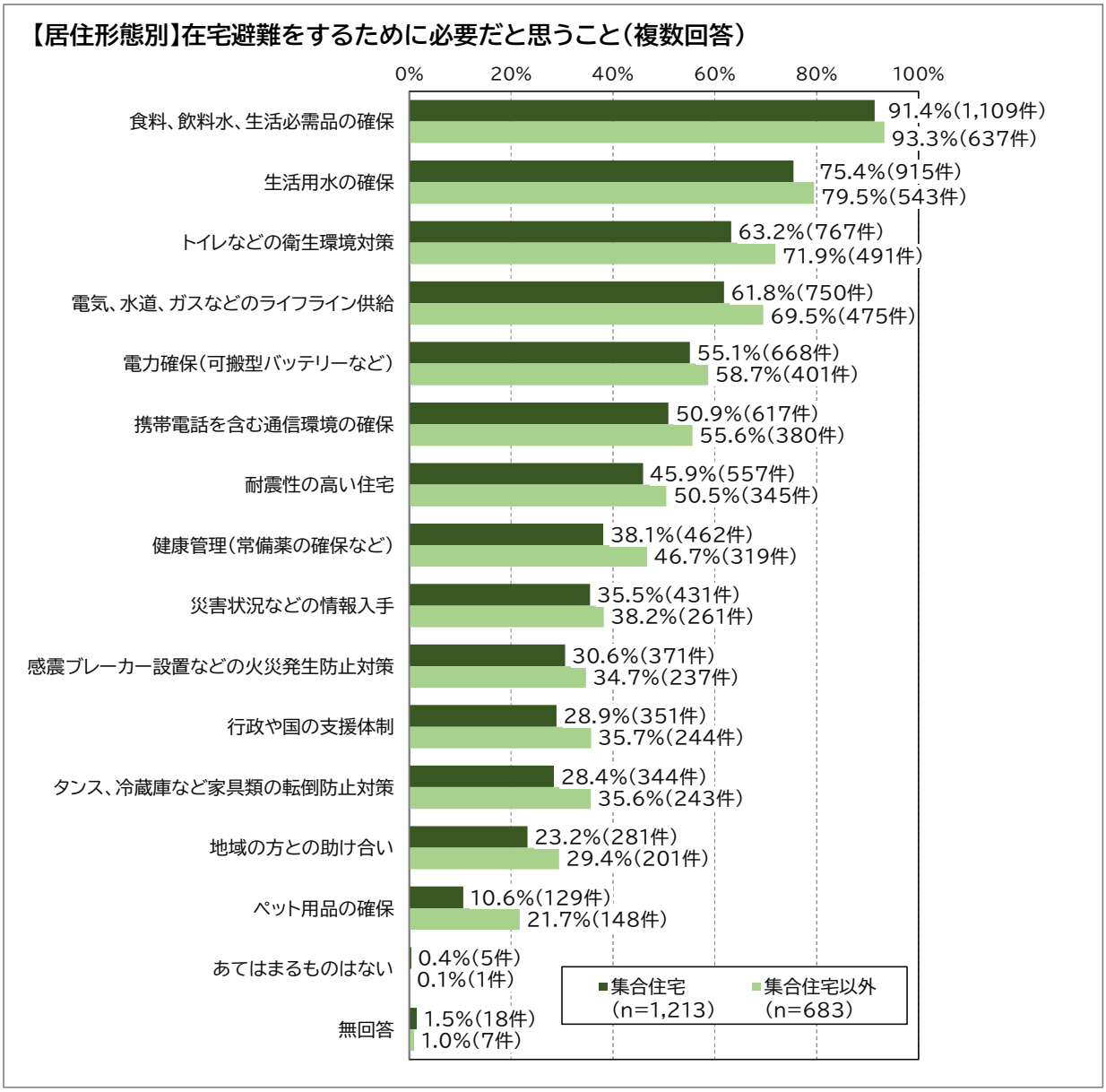
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(梅丘地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

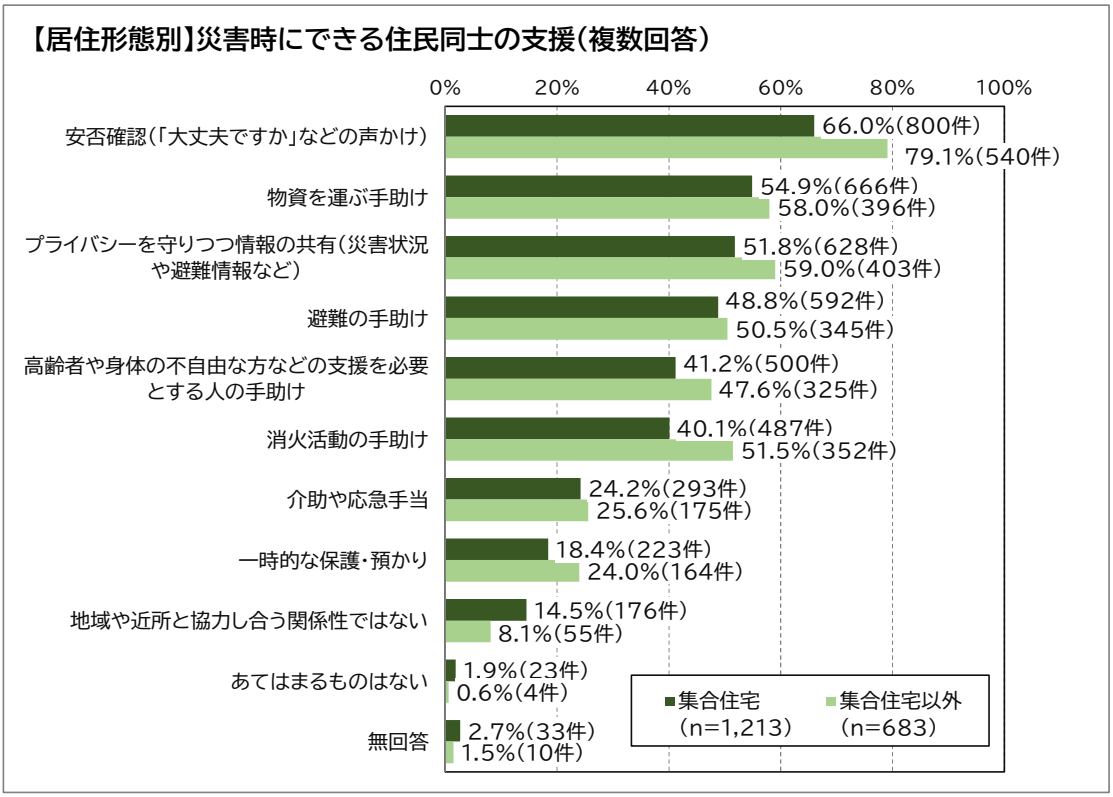


(7)区民アンケート(梅丘地区)

クロス集計(4/4)

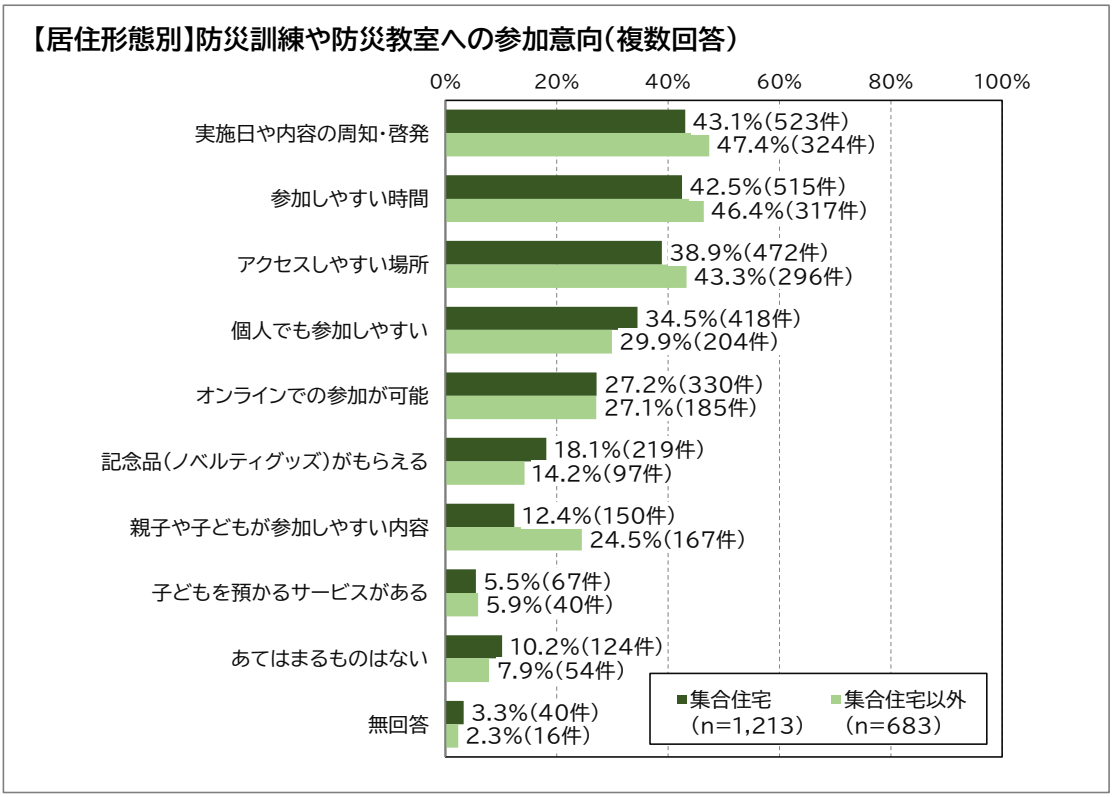
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
										スタンドパイプ	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所
梅丘1丁目町会	18	○		町会役員会	11	○		○		3	梅丘まちづくりセンター(2)、北沢法人会(1)
梅丘2･3丁目町会	20	○		町会役員会	4	○		○		2	とちの木公園倉庫･二丁目倉庫
豪徳寺1丁目町会	16	○		豪徳寺1丁目町会防災担当会議	3	○		○		3	豪徳寺1丁目町会防災倉庫　豪徳寺商店街　豪徳寺1丁目内給水栓そば
豪徳寺一丁目山下自治会	15	○		防災会議	3	○		○		2	消火栓近くに設置
豪徳寺二丁目町会	20	○		豪徳寺二丁目町会防災会議	10	○		○		2	二丁目町会防災倉庫
代田自治会		○		避難所運営会議	4	○		○		2	代田自治会倉庫

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施					
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所
梅丘1丁目町会							○		1	梅丘まちづくりセンター	1	梅丘まちづくりセンター
梅丘2･3丁目町会	1	とちの木公園倉庫	20	とちの木公園倉庫･防災担当者宅			○		1	とちの木公園		
豪徳寺1丁目町会	2	豪徳寺1丁目町会防災倉庫、豪徳寺1丁目玉ニャン防災倉庫					○		1	オリーブ公園	2	アミカーレホール
豪徳寺一丁目山下自治会	1	山下自治会倉庫					○		1	自治会内、消防署		
豪徳寺二丁目町会	1	二丁目町会防災倉庫	27	二丁目町会	防火水槽x4基		○		1	城址公園、豪徳寺正門前	1	宮坂区民センター
代田自治会	1	代田自治会倉庫					○		1	さくら花見堂		

団体名	防災訓練等の実施		防災マップ				防災マップ								防災士等の数			
	その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報								防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない
	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他				
梅丘1丁目町会			○				○	○	○	○	○		○		1		1	
梅丘2･3丁目町会						○									3		1	
豪徳寺1丁目町会			○				○	○	○	○	○	○	○			○	3	
豪徳寺一丁目山下自治会			○				○			○	○	○	○		3			
豪徳寺二丁目町会					○		○	○	○	○	○	○	○	防災倉庫	1			○
代田自治会						○									1			

団体名	災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他
梅丘1丁目町会			○			○			○					○	
梅丘2･3丁目町会		○				○			○					○	
豪徳寺1丁目町会	3			豪徳寺商店街振興組合、春明保育園、ハンズ世田谷		○			○		新避難行動要支援者に対して毎年面談している。			○	
豪徳寺一丁目山下自治会		○（手続中）				○			○				○	○	
豪徳寺二丁目町会			○			○			○					○	
代田自治会			○			○			○						

団体名	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備					救出救助に係る資機材の配備									
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー
梅丘1丁目町会		○	○			○						1	20		1	5				
梅丘2･3丁目町会				○			○				2	2	20	2	2	4		2		
豪徳寺1丁目町会			○				○	1	1	1	1	2	20	1	1	2		2	3	1
豪徳寺一丁目山下自治会			○				○	1			3	2		1						
豪徳寺二丁目町会			○				○	1	1		3	5	50	1	2	2	1	2	1	1
代田自治会				○			○	1	1	1	12	6	68	1				1	1	1

団体名	救出救助に係る資機材の配備			食糧等の備蓄						
	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類
梅丘1丁目町会		レスキューセット メガホン5	梅丘まちづくりセンター倉庫		○					
梅丘2･3丁目町会	2		梅丘2･3丁目町会倉庫 (とちの木公園3丁目･2丁目倉庫)		○		300			
豪徳寺1丁目町会		大テントx2　小テントx2 ブルーシートx20 車いすx2	防災倉庫(オリーブ公園､豪徳寺1丁目玉ニャン公園) アミカーレホール床下		○	100	100		500	300
豪徳寺一丁目山下自治会		テント1張り　車いす	山下自治会倉庫		○		500		500	
豪徳寺二丁目町会			豪徳寺二丁目防災倉庫		○	2000		250	200	
代田自治会		鉈1	代田自治会倉庫		○			100		

団体名		食糧等の備蓄								
	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所
梅丘1丁目町会	3200			720			2セット			梅丘まちづくりセンター倉庫
梅丘2･3丁目町会		2			2					梅丘2･3丁目町会倉庫(とちの木公園3丁目･2丁目倉庫)
豪徳寺1丁目町会		2		100	20	1			毛布x10 カセットストーブx5 LPガスボンベx2 大なべx2	豪徳寺1丁目町会防災倉庫
豪徳寺一丁目山下自治会		5		5	5	1	1		カセットストーブ、トイレセット5袋250	山下自治会倉庫
豪徳寺二丁目町会	50	2		200	2	2	1	100		町会防災倉庫
代田自治会				200	30	1	2	61	クラッカー 152缶、パン缶240個、ポータブルトイレ 10個、かまどセット 大1、小1、メガホン大 18、サバイバルブランケット 92、マスク 250、タオル 100、手袋 91	代田自治会倉庫

団体名	備蓄品配布先	その他の防災活動
梅丘1丁目町会	梅丘1丁目町会会員	避難所運営訓練(山崎小)への参加。 区や国士舘大学が主催する防災イベント等に積極的に参加している。
梅丘2･3丁目町会	梅丘2･3丁目町会会員	
豪徳寺1丁目町会	豪徳寺1丁目町会管内の町会員	商店街中央にある町内商店街共用の防災拠点において随時実施。 町会員のみでなく一般の方々にも参加頂いて宮坂消防署主催で町会協力のもと実施年3回。
豪徳寺一丁目山下自治会	山下自治会会員	
豪徳寺二丁目町会	二丁目町会管轄住民	当地に適応した防災訓練を毎年春に町会主催にて行っています。 今年度は我々にも出来うる初期消火訓練と救助訓練を重点的にし、避難所訓練に於いても必要な簡易トイレの使用方法の講習を行う予定です。又、消火栓の開放訓練を予定しています。
代田自治会	代田自治会管轄住民	

3 梅丘地区の課題と取り組み

課題1 情報収集・伝達

■取り組むべき課題
・情報伝達（提供）の手段
・避難後の情報収集の手段

■課題に対する意見等
・情報として何を収集し、何を伝えるのか。また情報の第一報は、地域の誰に伝える仕組みになっているのか。基本的なことを整理する必要がある。
・避難所へ行かず自宅に避難している方への情報伝達の方法を考える必要がある。
・代田地域では、他の地区よりも管轄地域が広く、環状7号線をまたがっているため、全域への情報伝達が困難である。
・代田地域では、他の地区のような大きな商店街がないため、他の地区のように商店街が情報伝達拠点にならない。
・代田自治会では、山崎小学校とさくら花見堂の避難所に関わらなければならず、情報伝達等にも不安を感じる。
・訓練に参加する住民が毎回決まった人になってしまっているので、参加した人がいかにまわりの人間に伝達するかが大切になってくる。

■各団体ですでに取り組んでいること
・平時から取り組んでいる高齢者見守りの活動は、災害時の安否情報等の収集に大いに役立つと考える。
・自治会役員でトランシーバーを所持し、訓練を兼ね、地域行事等で実践している。
・商店街の空き店舗を活用し、まちかど防災拠点としている。スタンドパイプや救命道具等を備えた。災害時は、情報拠点としても機能させたい。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①防災情報を町会・区の掲示板を活用し、伝達する。
②情報・物資の伝達方法の具体的な手段を検討する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・商店街の駅前に防災情報の掲示板を設置できないか。そこで小さな情報でも集約し、周知できると良い。
・福祉施設や都営住宅（高齢世帯が多い）、コンビニ等と連携し、情報の共有化が図れると良い。
・災害時には、町会役員が拡声器を持って地域を回り、情報伝達と収集に努める。

・災害時に商店街の無線の使用を検討する。
・避難所運営本部組織の中に、地域を回って情報を伝える班の設置を検討する。
・回覧板を見ない人もいるため、インターネットやスマートフォンのアプリを利用し、情報発信するのもひとつの手である。
・中高生は、情報発信等が得意であるので、今後はそれを存分に活用して情報伝達を行う。

課題2　安否確認

■取り組むべき課題
・福祉施設利用者の安全確保（複数施設が近接している）
・独居高齢者の救助・支援

■課題に対する意見等
・統一的な安否確認の方法をつくるべき。一人世帯の家に何回も確認に回るのは、迷惑にもつながる。既に安否確認が済んでいることを示す手段（サイン・表示のようなもの）を検討するべき。
・避難行動要支援者の安否確認では、プライバシーの問題がある。ある程度の個人情報を把握していないと、発生時にも迅速に対応できない。できる範囲で行政に情報開示をお願いしたい。
・最近増えているシェアハウスには、どんな人が住んでいるのかわからない。そうした方々の安否確認は不可能に近い。
・重要なことは、まず近所・近隣の方の安否確認からが基本ではないか。
・高齢者や障害者、子育てママの方等との安否の情報共有はなかなか難しい。
・高齢者以外の方で支援が必要と思われる方の情報が入らないので、実際の取り組みが出来ない。
・避難行動要支援者協定により町会未加入者の名簿を渡されるのだが、そのような方の支援をどう考えるか検討する必要がある。
・安否確認の役割を担っている町会では、一部の人に役割が集中している。役割を担っているのは高齢者であり、助けるよりも助けられる側の存在である。
・町会費を払っている世帯は、集金の際等に住人の把握が可能であるが、町会に加入していない住民や、マンション等の集合住宅は、住民1人ひとりの把握が難しい。マンション等は民生委員が一軒一軒回るほかないのであろうか？
・昔ながらの家は、住民が把握出来ているが、新しく引っ越してきた住人は、把握しきれていない。
・避難行動要支援者に登録している方は良いが、登録をしていない方や、登録する必要があるのに登録を拒絶している方もいるので、そのような人たちの被災時の安全確保をどうするか。
・小さな赤ちゃんが居る家庭で、そのほかにも小さいお子さんが居る家庭等は、親

の負担が大きく、被災時の避難に困難をきたす。また、子どもだけしか家に居ない時間帯に災害が起きたときのために、そのような家庭の家族構成を理解している必要がある。
・子どもが新BOPに加入していると家庭状況を把握しやすい。

■各団体ですでに取り組んでいること
・福祉施設（区立すまいる梅丘）が町会に加入してくれたことで、日頃の繋がりができた。「繋がる」ことは、安否確認の上で大切なキーワードである。
・避難行動要支援者1人につき複数の方で担当している。
・新たに避難行動要支援者の対象となった方を訪問している。
・班長が自分の班内の避難行動要支援者を把握し、お宅訪問を実施している。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①避難行動要支援者協定に基づいた取組みを継続する。
②災害発生時の安否確認の方法について、担当やエリアなどを含めた具体的な取り決めや運用を検討する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・高齢者のひとり暮らしの方々への対応は、非常に難しい。今後も話し合いの場をもっていきたい。
・最終的にはやはり地域のつながりが大切になってくる。顔の見える関係を築いていきたい。

課題3　初期消火
■取り組むべき課題
・消火手段の確認
・スタンドパイプ訓練の実施

■課題に対する意見等
・街路消火器の増設と防災マップへ設置場所の表示を行政にお願いしたい。
・大規模な防災訓練（地区防災訓練等）では、水でなく、粉末消火剤を使って消火器訓練を行ってほしい。
・住民は、木密地域で火が出たら危険であることは認識している。スタンドパイプが果たして有効なのかという声がある。消火器が有効ではないかと考える。
・バケツリレーも有効ではないか。共助の士気も上がる。
・代田3丁目の住民は、わざわざ環状7号線を渡って訓練に参加しないので、スタンドパイプ等の消火器具の使い方がわからないままになってしまう。訓練参加をどのように呼びかけていくかを考える必要がある。

・倉庫の鍵は役員しか所持していないため、いざというときに、役員が倉庫の鍵を開けるほかない。

■各団体ですでに取り組んでいること
・世田谷中学校にて防災訓練・放水訓練を行っており、中学生にも積極的に訓練に参加するように呼びかけている。
・スタンドパイプは消火栓の所に鍵を付けずに置いている。
・防災訓練等を全町会で実施している。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①消火器やスタンドパイプ等の消火器具を充実させ、設置場所や取り扱い方法を周知していく。
②訓練等において、消火器等の操作に慣れた人材を養成する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・火災を起こさないようにしたい。まだ小火の間に消火するには、スタンドパイプより消火器である。スタンドパイプは組み立てに時間がかかるので、その間に火が回ってしまう。性能の良い消火器をもっと普及させたい。
・消火器の取扱い訓練を町会以外の方とも行いたい。
・スタンドパイプはあるが、倉庫にしまって鍵がかかっているので、迅速な対応が難しい。数字で合わせるワイヤー錠に変更したい。
・初期消火に必要な物品等は、地域でどの場所にあるかをしっかり把握したい。
・自治会以外で所持している防災物品等も確認できると良い。

課題4　避難行動

■取り組むべき課題
・避難ルートの安全確保

■課題に対する意見等
・「逃げない」という考え方もある。実際、逃げる場所がないからである。なので、「倒壊しない・火災が起きないまち」をつくることが大事である。
・狭小な道路に囲まれている住宅も多く、避難ルートの確保が難しい。災害が起きたときにどのように避難するかは、状況に応じて判断するしかないのでは。
・避難せずに自宅で待機する方の検討も必要である。
・1階が駐車場になっているような住宅は地震の際の被害が心配。
・密集地が多くなってきているため、火事等が心配。
・車椅子の人は避難が困難。
・ブレーカーの落とし忘れが火事に繋がるが、ブレーカーが高い位置にあり高齢者

等は手が届かない場合が多い。
・防犯パトロールは行っているが、防犯目線なので、土砂崩れ等の危険箇所を見極める視点ではパトロールを行えていない。
・防災に関することは、普段の生活の面では、不便なことが多いので、どうしても疎かになりがちである。

■各団体ですでに取り組んでいること
・週1で防犯パトロールをしながら避難経路等のチェックを行っている。
・週1回4グループに分かれて、担当者が交替で地域をパトロールしている。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①建物の耐震化・不燃化をさらに進め、在宅避難を推奨する。
②避難所に行くまでの経路の中で危険な場所がないかを日頃から確認する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・両隣に声をかけ、笛等を携帯して皆で助け合っていく。
・寝ているときは、近くにスニーカー等の靴を置いておく必要がある。
・懐中電灯は避難の際に使用するため、乾電池の予備も用意する必要がある。
・ブレーカーを落とす工夫として、地震を感知すると勝手にレバーが下がる装置を取り付ける。天窓用の棒を利用してブレーカーを落とす等の工夫をすることを呼びかける。
・小学校等の避難訓練での内容を子どもたちが学び、それを家庭に持ち帰り共有することで、情報を拡散出来る。
・消火器、スタンドパイプ等の設置箇所の一覧表（地図）の作成を検討する。推奨避難経路等も設定したい。

課題5　避難生活
■取り組むべき課題
・避難所での生活規律の確保
・給水（飲み水）の確保
・トイレ（排泄手段）の確保
・避難所の衛生管理

■課題に対する意見等
・マンホールトイレ専用の道路（一般は通行止めにする）を検討してほしい。
・災害時指定井戸の利用法や貯水量・水質等についての情報が乏しい。区でもっと積極的に情報提供してほしい。

・町会での備蓄に関して、行政には金銭補助をお願いしたい。
・避難用食糧の備蓄は、決して多くはないので、各自で備蓄してもらいたい。
・給水地点が遠いので、水の確保についてハード面から検討してほしい。
・避難所での生活ルールは出来ているが、地域の人たちに事前にどう伝えるかが課題である。
・避難所ではそもそも全住民が避難出来るだけのキャパシティは持ち合わせていない。
・避難所で生活している人、家で待機している人との情報格差が生まれる。
・熊本の震災でも食糧不足であるのに住民の多い東京で震災が起きたときの食糧問題が深刻化するのは明白である。
・環状7号線の内側、外側でうまくまとまって避難生活を行っていくべき。
・避難所における感染症対策により、避難所に備蓄している消毒用アルコール、石鹸、体温計、マスク等の衛生用物品が不足すると予想される。

■各団体ですでに取り組んでいること
・町会で、ペットボトルの飲料水や非常食を備蓄している。今後もっと増やしていく予定。
・トイレの不足が懸念されるので、様々な角度からトイレ増設の可能性を検討していく。
・避難所に来るときは手ぶらでは来ないように伝えている。（水、トイレットペーパー、食糧等）

■地区としての今後の取り組みの方向性
①避難所での運営ルール、生活ルールを事前に検討する。
②避難所（学校）内にマンホールトイレの整備を検討する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・大きいマンホールで使用できるマンホールトイレがあれば検討したい。
・家が無事なら家で避難生活をする。そのために最低1週間分の食糧の備蓄を呼びかける。
・避難所でのアレルギー問題がとても深刻なため、避難者カードでアレルギーの有無の項目が無かったら追加する。
・感染症対策を受け、避難所に来るときは、消毒用アルコール、石鹸、体温計、マスク等の衛生用品を各自で持参するよう伝える。

課題6　その他
■取り組むべき課題

・日頃からの防災意識の重要性
・町会と未加入者との連携

■課題に対する意見等
・防災塾に学校関係者（教員）の参加をぜひ呼びかけてほしい。
・24時間使用可能なAEDをコンビニ等に設置してほしい。公共施設等に置いてあるAEDは、時間外の使用ができず問題がある。
・小学校（避難所）が統廃合によって閉校し、大きな課題として、子どもたちの安全・安心を含めて、今後を考えていく必要がある。
・災害時のまちなかの炊き出し風景等を意識向上のために区の広報等にのせてほしい。（被災地の写真等）
・ペットのアレルギー問題が深刻である。また最近では犬猫以外の珍しいペットを飼っている家庭も増えてきたことも含め、ペットを避難所でどのように扱うか検討が必要である。
・赤ちゃんが居る家庭の避難は困難をきたすことから、世田谷区では進んでいる事業である「赤ちゃん訪問」等を利用してその際に防災を徹底する呼びかけ等を実施していくのも良い。
・感染症流行に伴い、避難所でのあり方が変わってきている。避難所の3密（密閉、密集、密接）を防ぐため、避難者間の間隔をあけることにより、収容人数の減少が見込まれる。また、避難所での感染リスクの増加も懸念され、住民一人一人の在宅避難への備えが重要になってくる。

■各団体ですでに取り組んでいること
・町会で車椅子を数台所有しているが、非常時にはリアカーの代わりにもなる。ベビーカー等も非常時の運搬手段として活用できるのでは。
・町会で、非常用のジャッキを確保した。人命救出等に役立つと考える。
・都営住宅の建替えで防火水槽とマンホールトイレ、避難スペースを設けてもらうよう申し入れをした。
・町会でリアカーを所有しており、荷物の運搬の他に人を運ぶことも出来る。

■地区としての今後の取り組みの方向性
①自宅の耐震化や家具の転倒防止について周知していく。
②家庭での備蓄物品の推進をPRしていく。
③普段から地域のイベント等を通じて顔の見える関係を築く。
④AEDやスタンドパイプ等、防災に関する情報がさらに認知されるようツール等を検討し、情報発信していく。
■各団体の今後の取り組みの方向性
・消防団とは日頃から防災訓練や町会行事を一緒に行っている。消防団と町会の

更なる連携を図りたい。
・地域のイベントや祭り等は、人と人を繋ぎ、地域の関係性を高める機会として、重要である。地域を巻き込む「場づくり」にもっと力を入れていきたい。
・地域のイベントにPTAをもっと巻き込む必要がある。そのためには、学校からPTAに発信していく必要がある。
・町会の加入率を上げる必要がある。
・人が集まるベビー向け、子供向けの普通救命講習や、予防接種、中学生の進路説明会等で、防災に関する説明を抱き合わせる等してうまく情報を周知させていきたい。
・各団体の防災訓練時に、“人が多く集まる避難所は、感染が拡大するリスクが高く、必ずしも安全とは限らない。災害時に自宅での居住継続が可能な場合は、在宅避難をしよう。そのために日ごろからの備えが大切である。”のように、在宅避難につなげていくため、近隣住民に呼びかける。

代沢地区防災計画

［令和7年修正］

代沢地区

【代沢地区防災計画作成団体】

下代田東町会	代沢地区民生委員・児童委員協議会
代沢2丁目北町会	青少年代沢地区委員会
代沢中町会	代沢地区社会福祉協議会
下代田西町会	赤十字奉仕団代沢分団
代沢4丁目西町会	代沢地区身近なまちづくり推進協議会
代沢五丁目町会	代沢あんしんすこやかセンター
代沢5丁目東町会	

目　次

1　代沢地区の特性 …… 代沢-1(-264-)
(1)自然特性 …… 代沢-1(-264-)
(2)社会特性 …… 代沢-2(-265-)
(3)地域危険度 …… 代沢-4(-267-)
(4)被害想定 …… 代沢-5(-268-)
(5)防災資源一覧 …… 代沢-8(-271-)
(6)防災資源マップ …… 代沢-9(-272-)
(7)区民アンケート……代沢-10(-273-)

2　各団体の防災活動～現在の取組状況～……代沢-19(-282-)

3　代沢地区の課題と取り組み…… 代沢-27(-290-)
(1)自助の取り組みの強化　～自分や家族の命を守るために～
…… 代沢-27(-290-)
(2)共助の取り組みの強化　～担い手・協力者を増やすために～
……代沢-28(-291-)
(3)安否確認と避難行動要支援者対策　～命を救うために～
…… 代沢-29(-292-)
(4)初期消火と救出救助　～命を救うために～…… 代沢-30(-293-)
(5)避難行動と避難場所の周知　～助かった命を守るために～
……代沢-31(-294-)

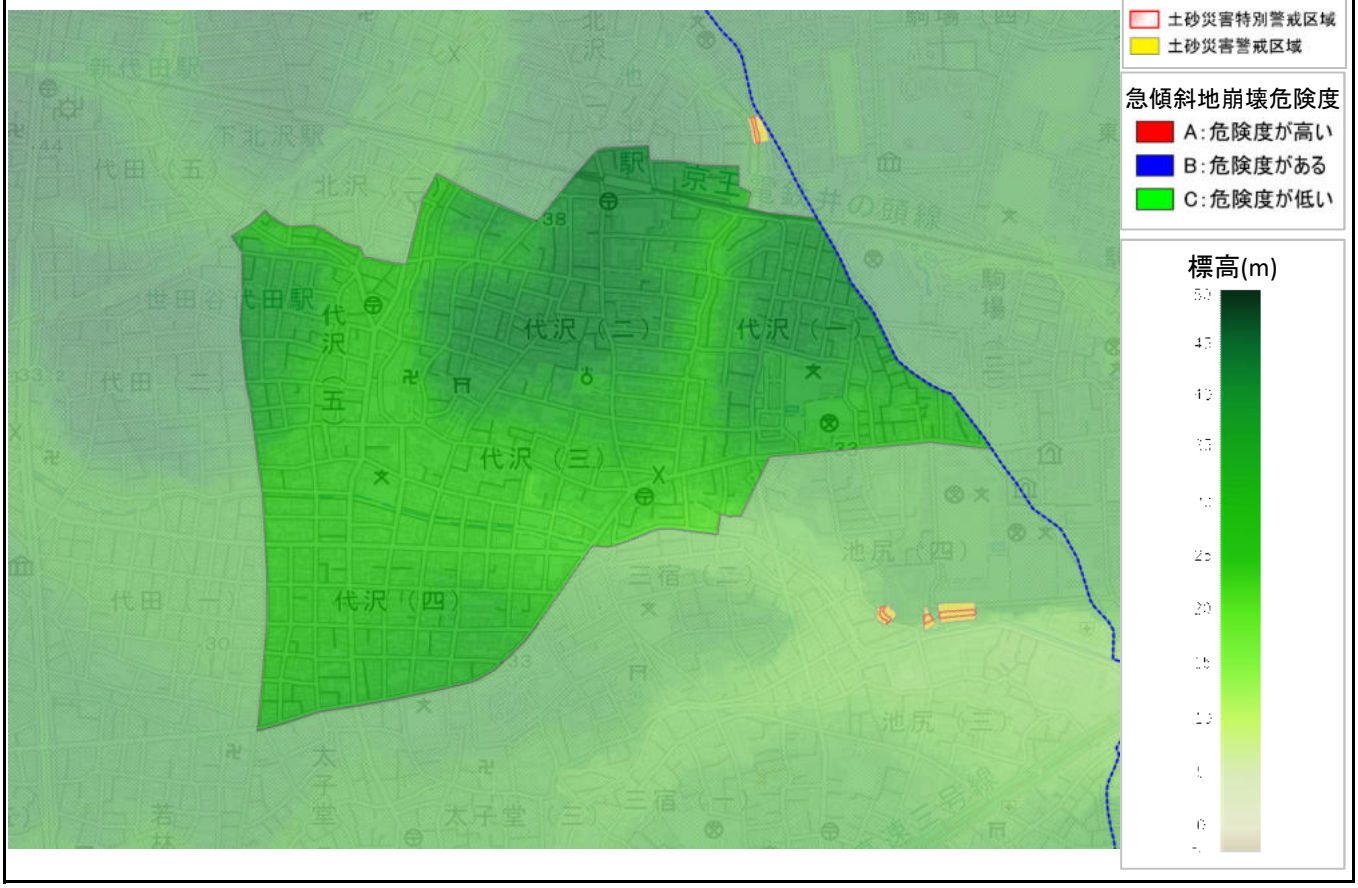
1. 代沢地区の特性

(1)自然特性

面積	1.03 Km²	最高標高	43.1 m	最低標高	21.3 m

位置

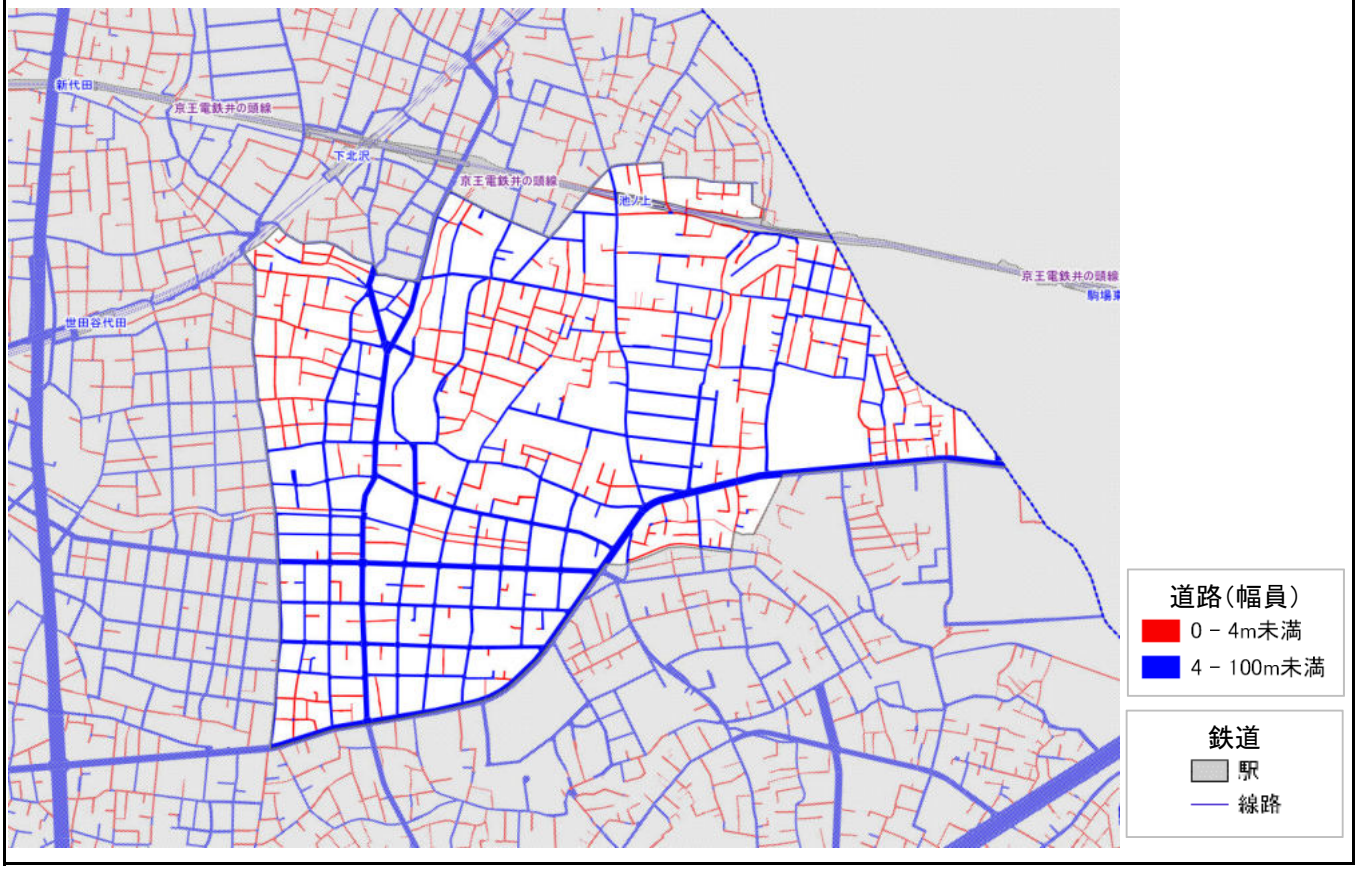
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

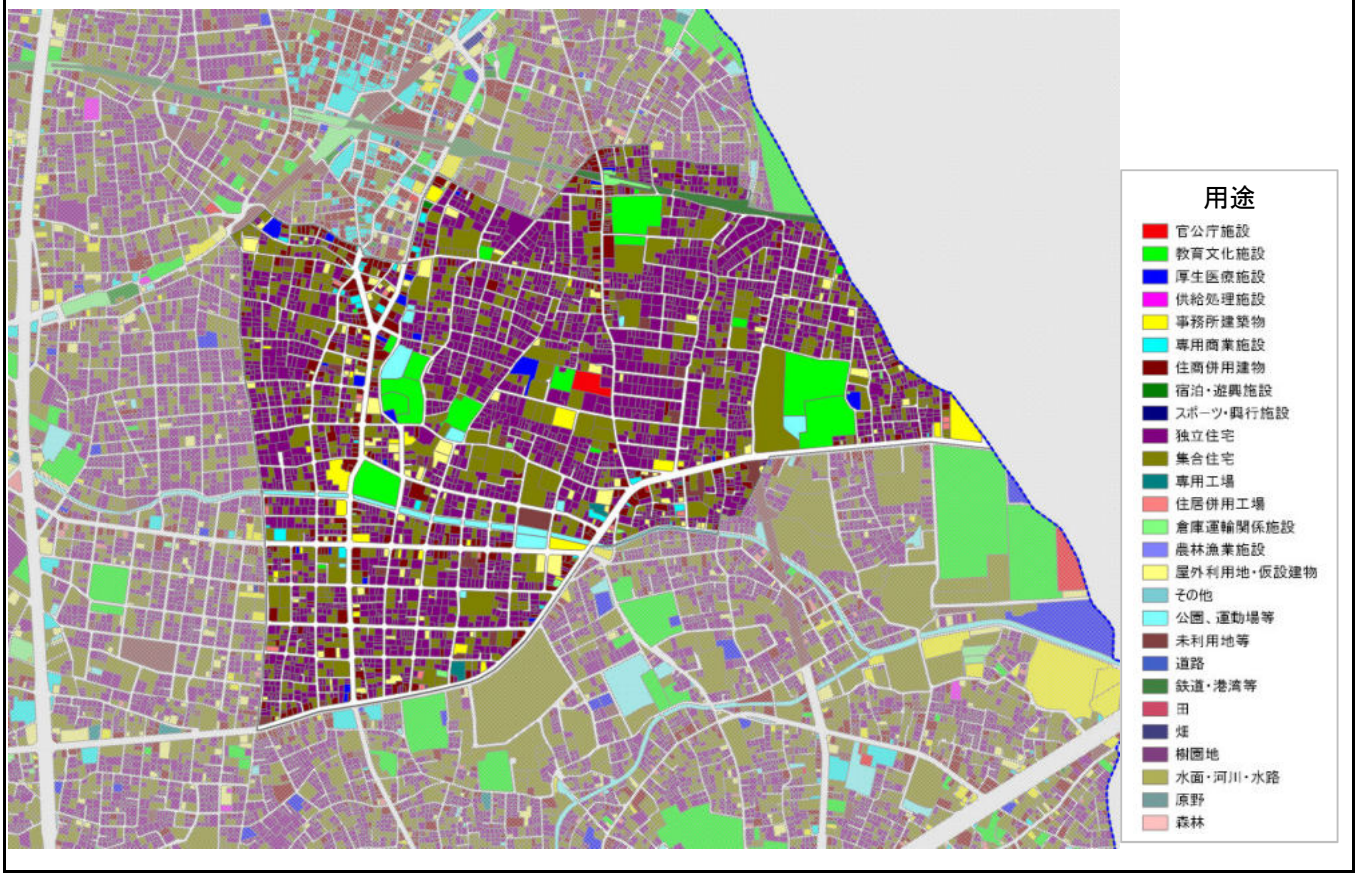
人口	17,308 人	細街路率		42.2 %	
世帯数	9,957 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		65.4 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.74 人	耐火率(建築面積ベース)		58.1 %	
若年層数(15才未満)	1,751 人	土地利用(宅地)		76.0 %	
若年層率(15才未満)	10.1 %	土地利用(宅地以外)		24.0 %	
高齢者数(65才以上)	3,497 人	鉄道駅	京王井の頭線池ノ上駅		
高齢者率(65才以上)	20.2 %				
昼間の人口	14,636 人	産業	商業	91.8 %	
夜間の人口	18,021 人		工業	8.2 %	
昼夜間人口比	0.81 -		農業	0.0 %	
町会・自治会数	7 -				

道路・公共交通機関



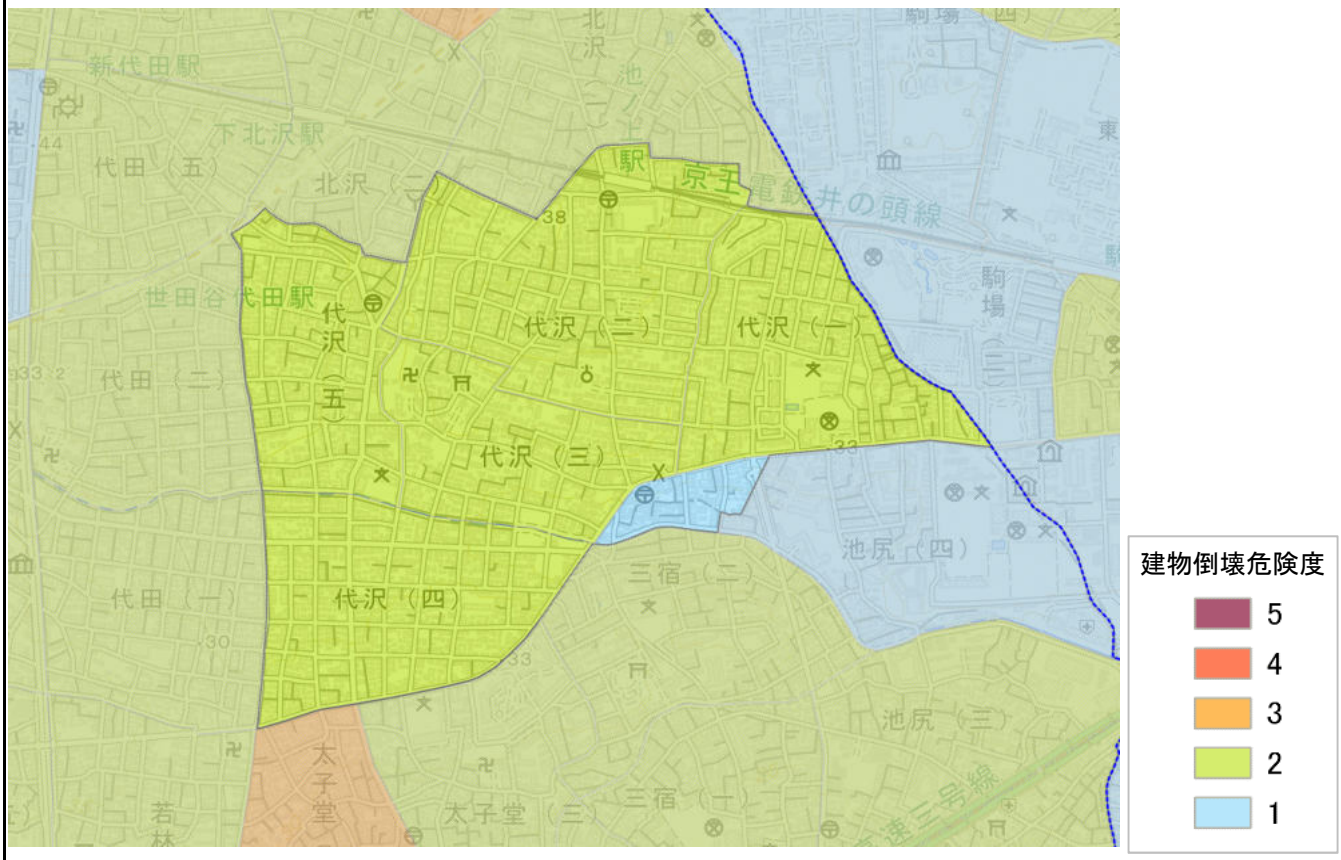
(2)社会特性

産業

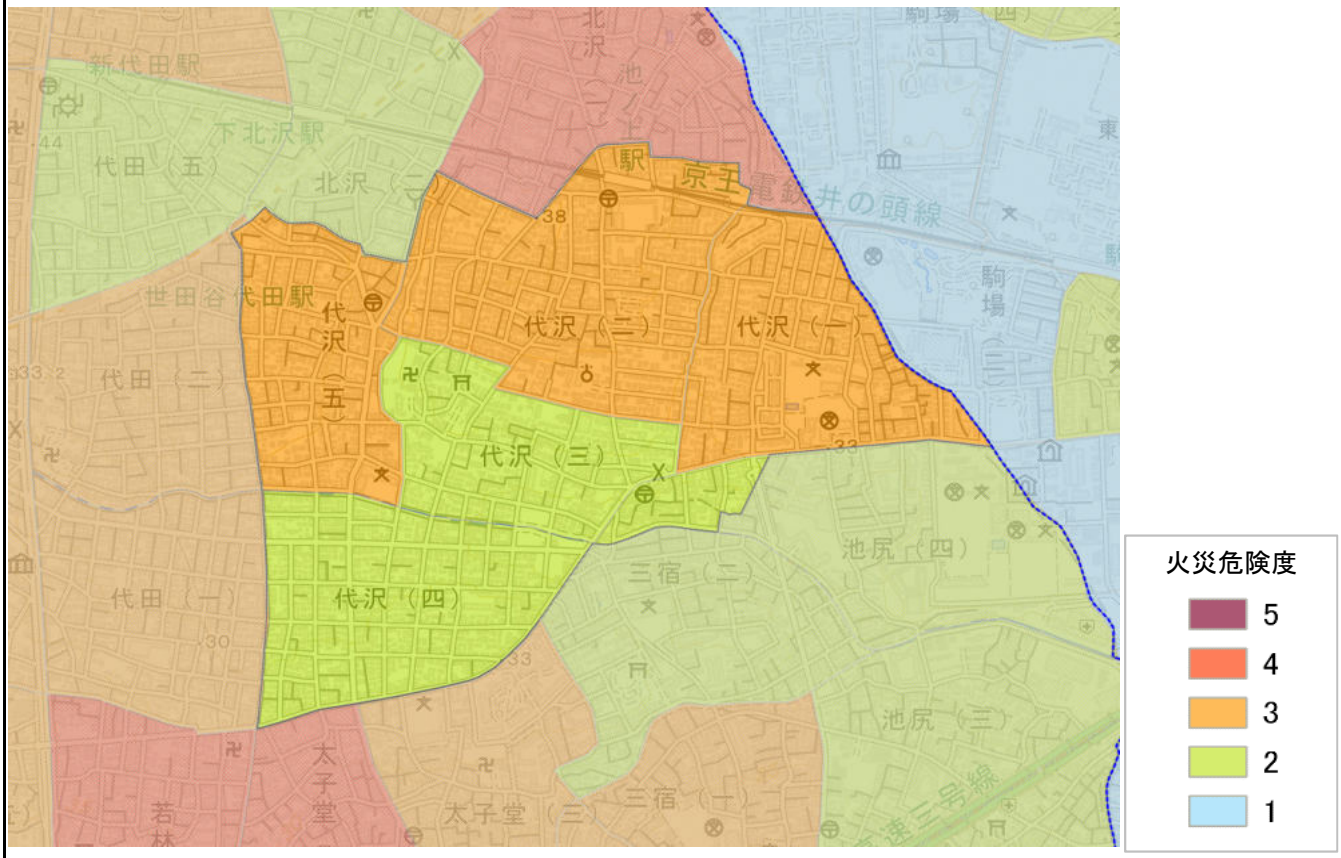

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



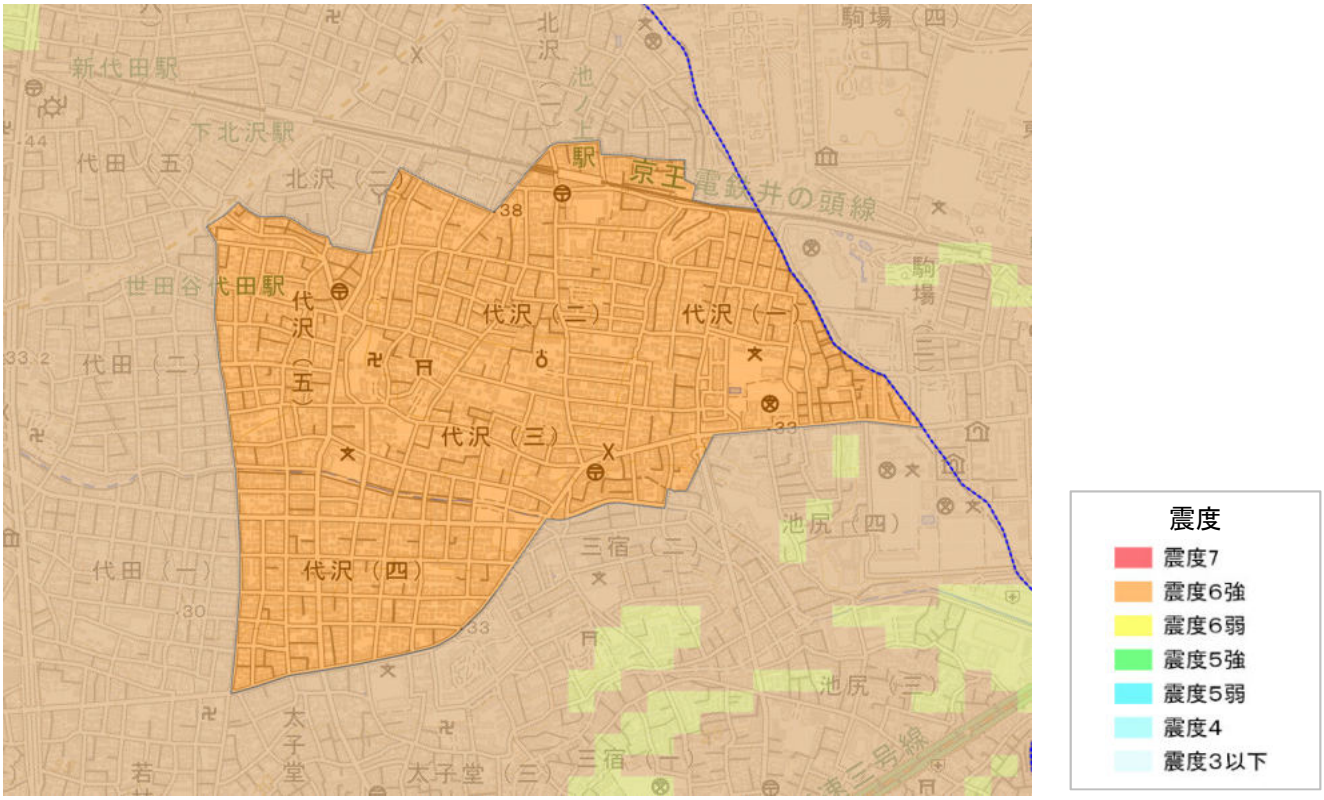
火災危険度



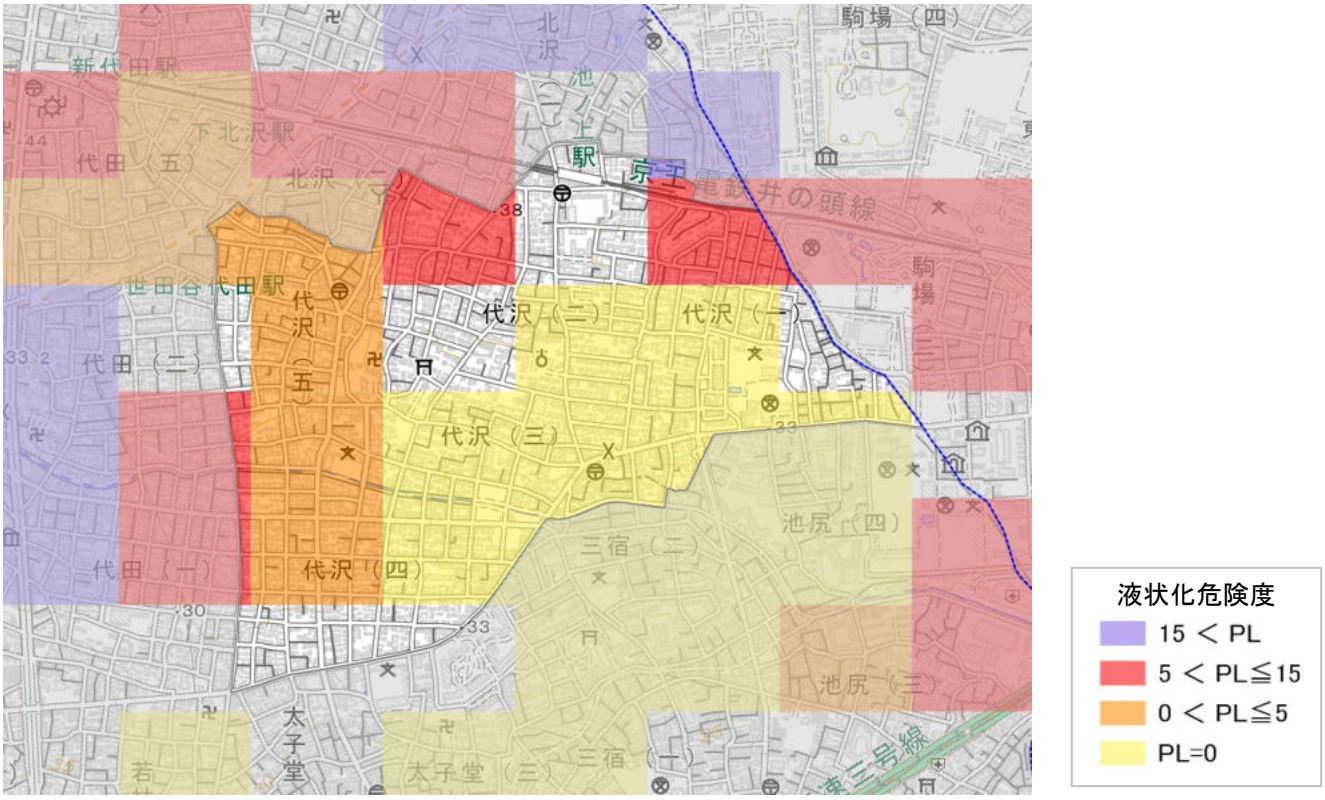
(4)被害想定

全壊棟数	93　棟	死者	14　人
半壊棟数	261　棟	負傷者	158　人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	593　棟	うち重傷者	27　人

震度分布

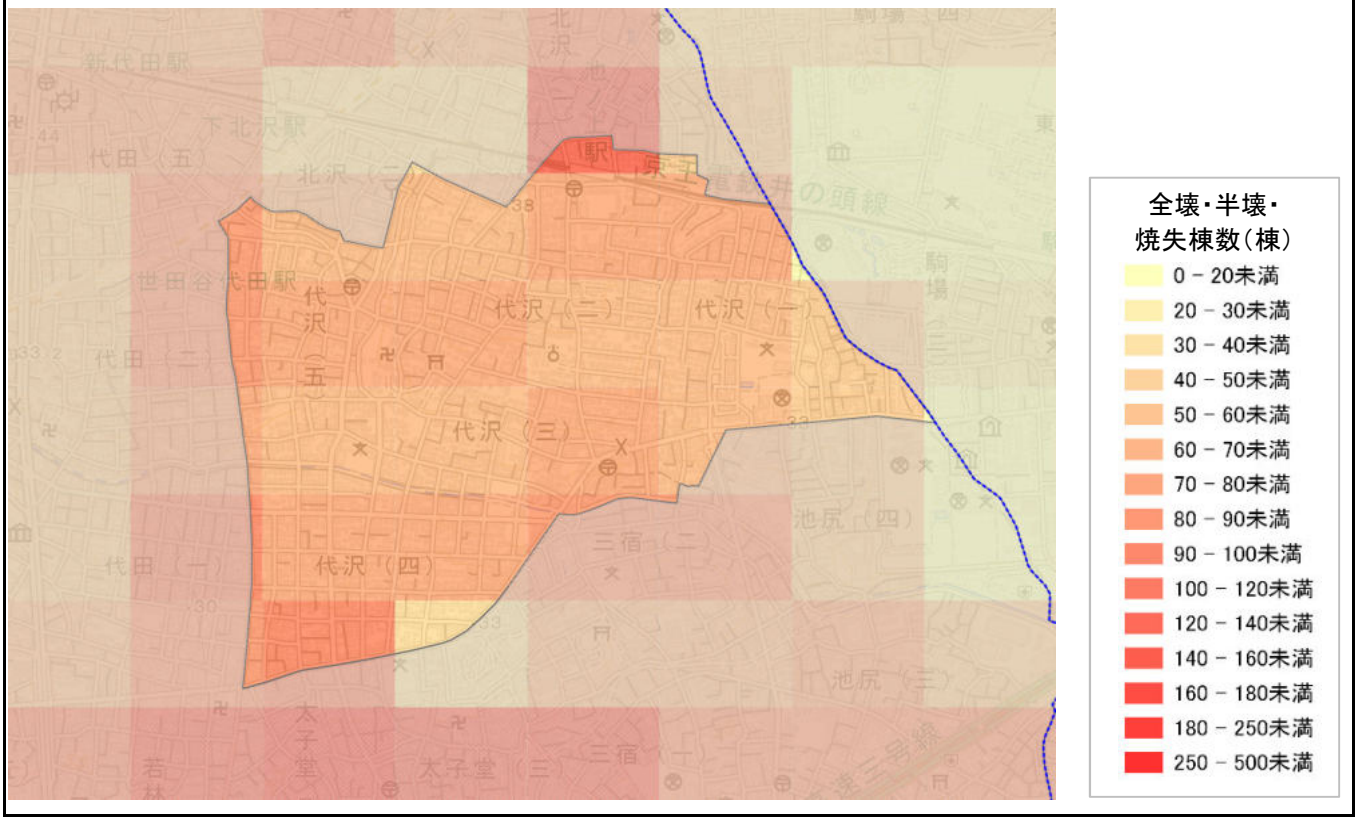


液状化分布



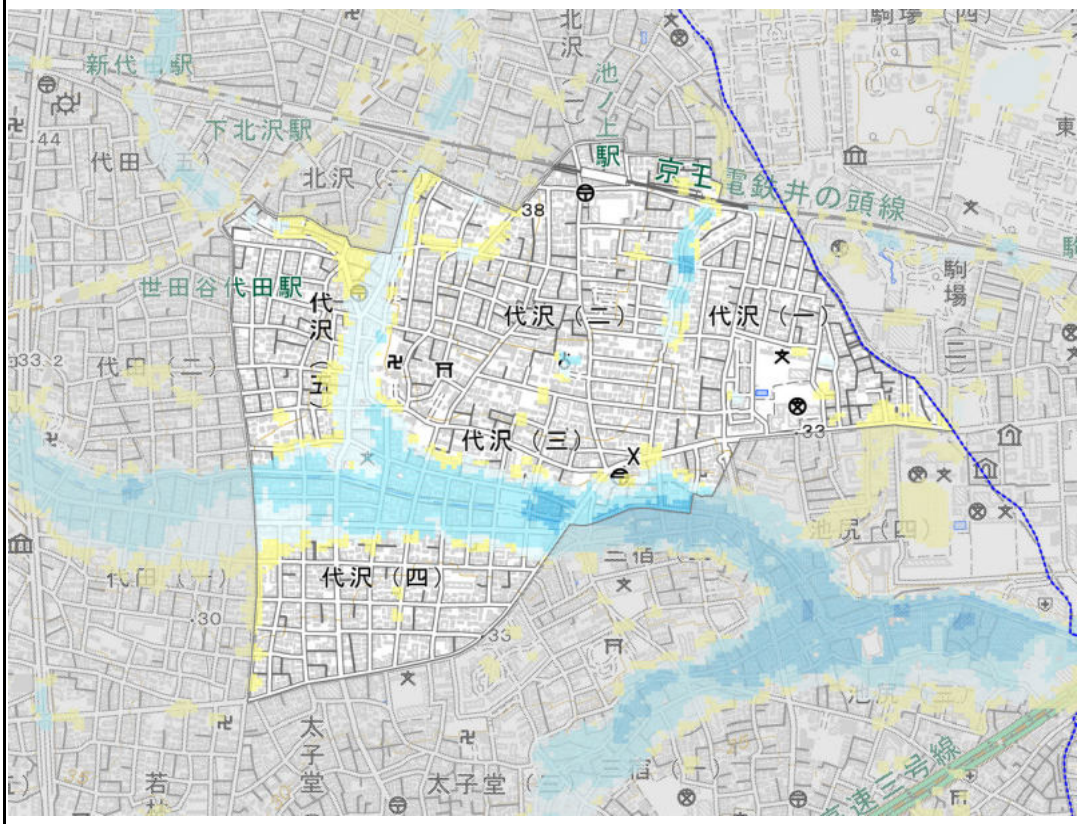
(4)被害想定

被害棟数分布

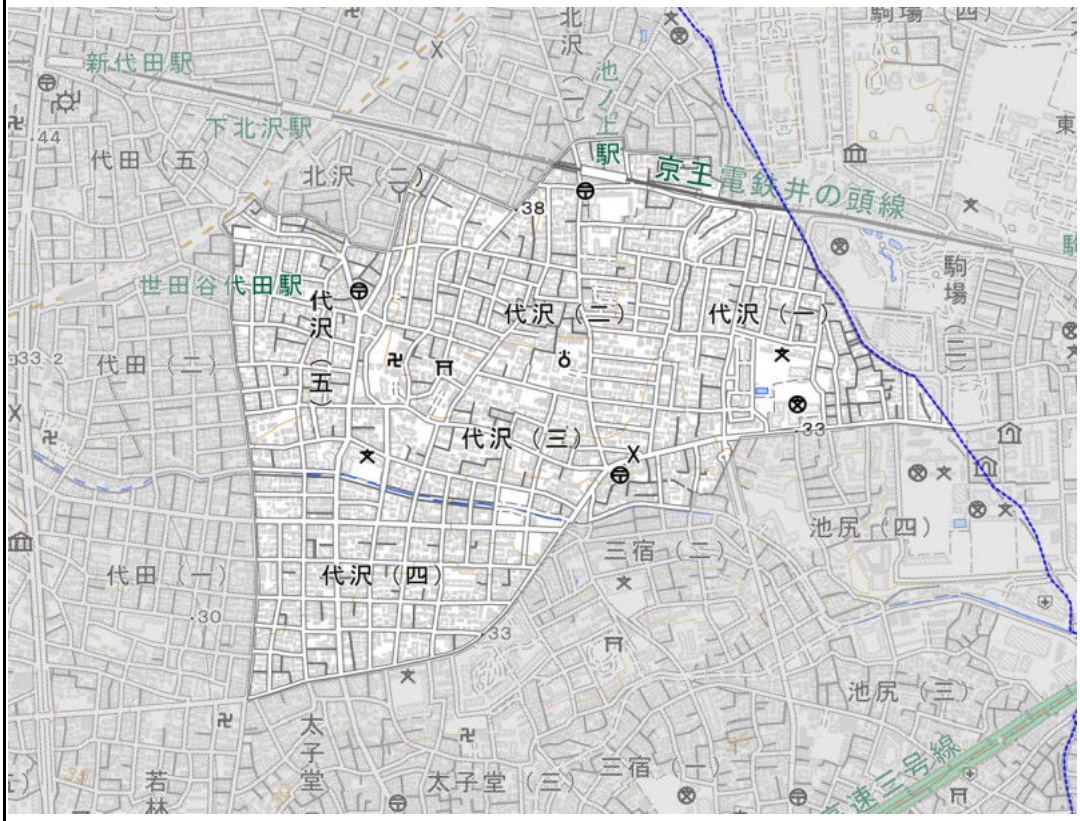


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



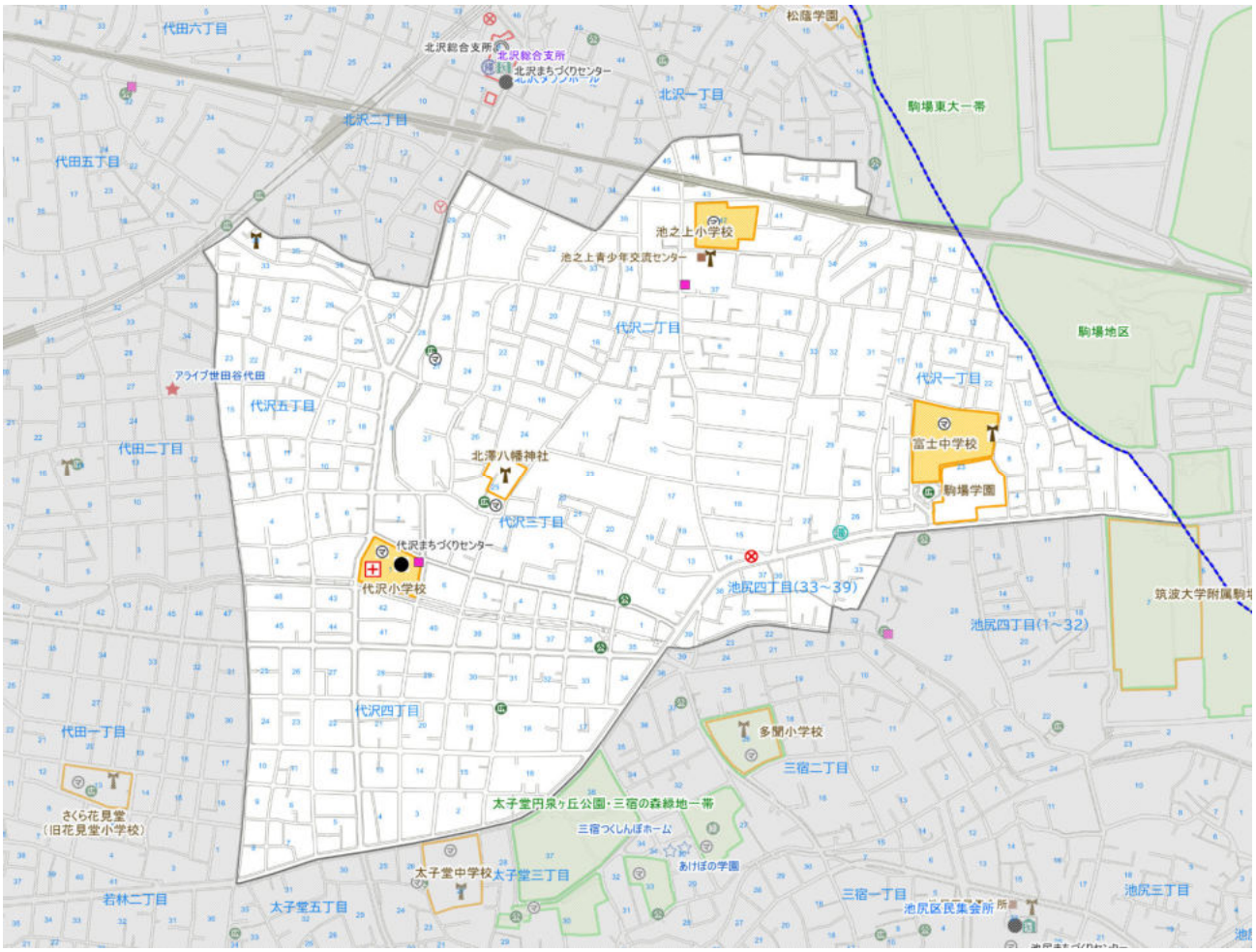
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	駒場地区　駒場東大一帯　太子堂円泉ヶ丘公園・三宿の森緑地一帯				
一時集合所	区立シモキタ雨庭広場　代沢せせらぎ公園　代沢四丁目広場　代沢小学校　池之上小学校　池之上青少年交流センター　富士中学校　北沢川緑道　北沢八幡児童遊園				
指定避難所	代沢小学校　池之上小学校　富士中学校				
予備避難所	駒場学園　北澤八幡神社				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所	池之上青少年交流センター				
避難所救護所	代沢小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	東洋ドライルーブ㈱				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	5　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	代沢まちづくりセンター　池之上青少年交流センター				
警察署・交番	淡島通交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

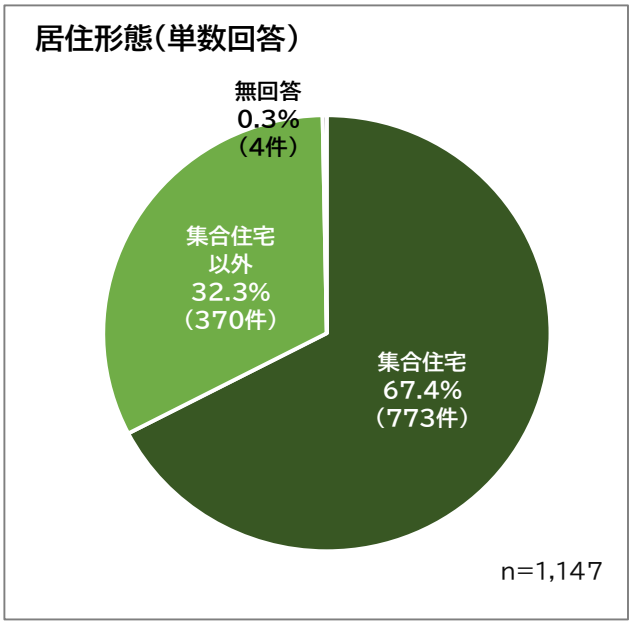
(7)区民アンケート(代沢地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

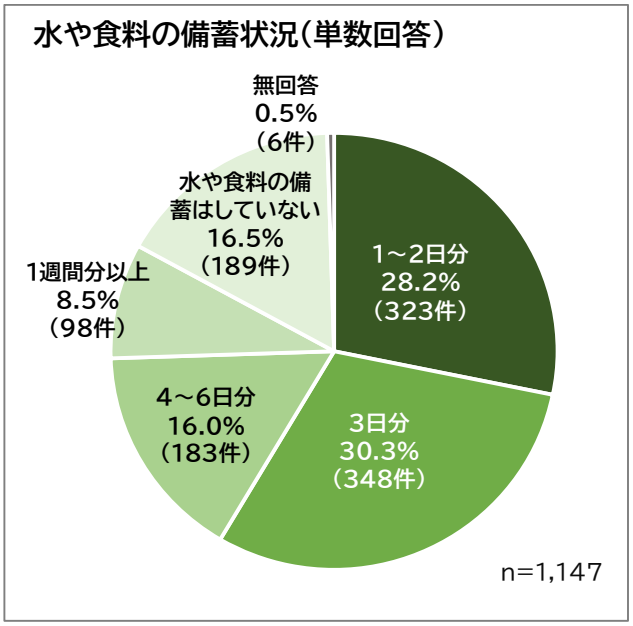
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

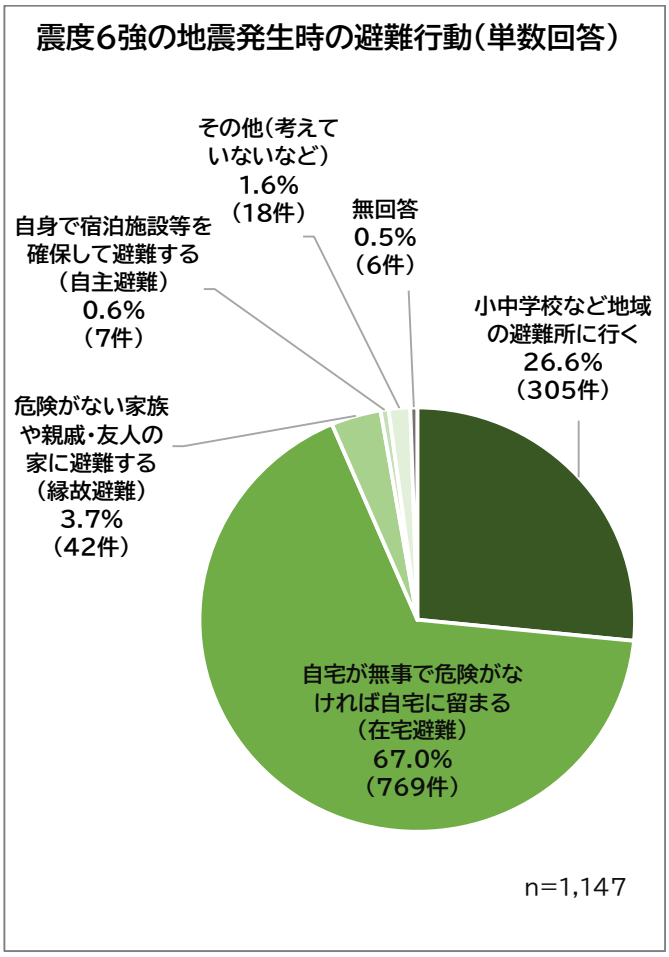


(7)区民アンケート(代沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(代沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

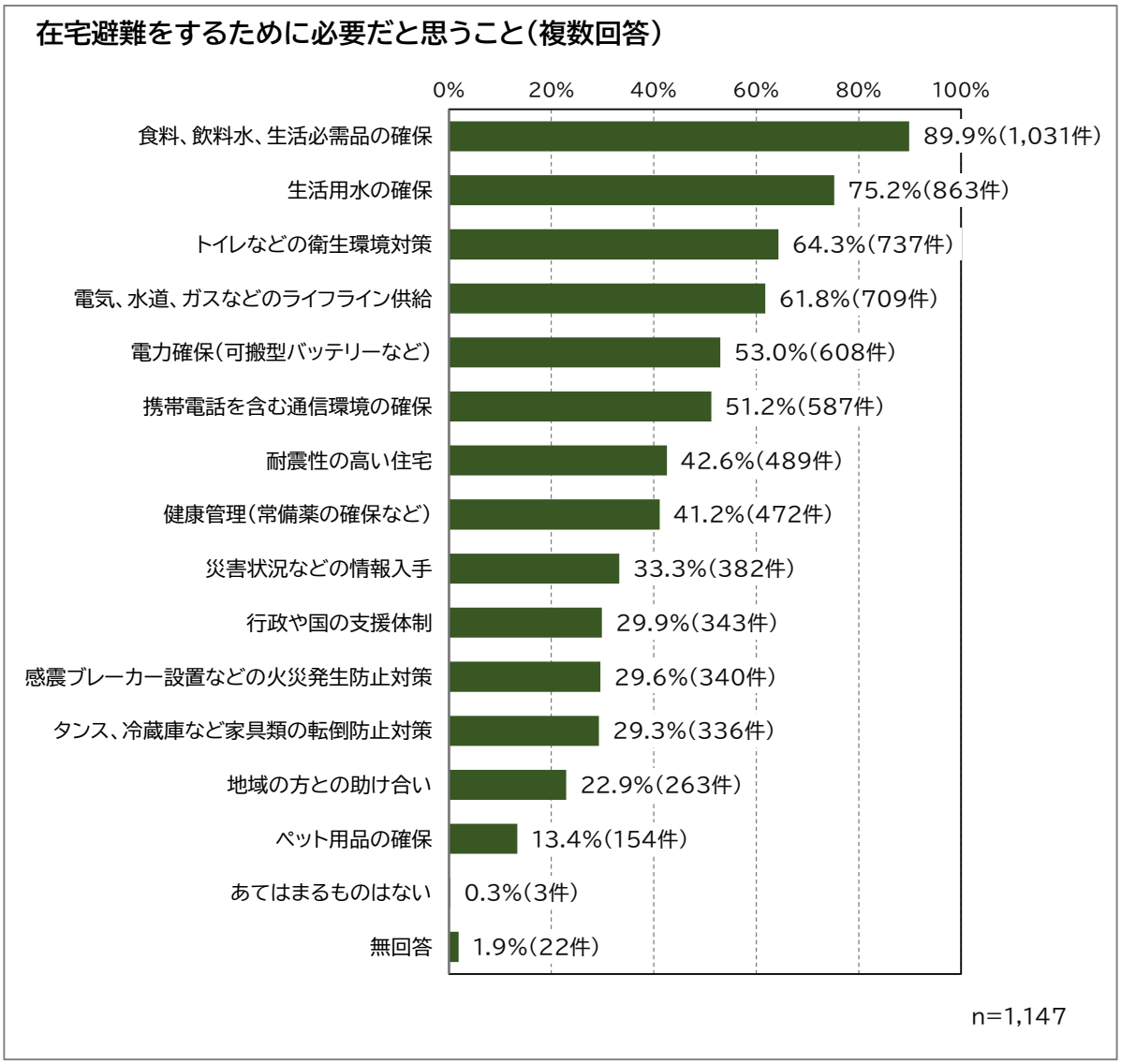
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(代沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

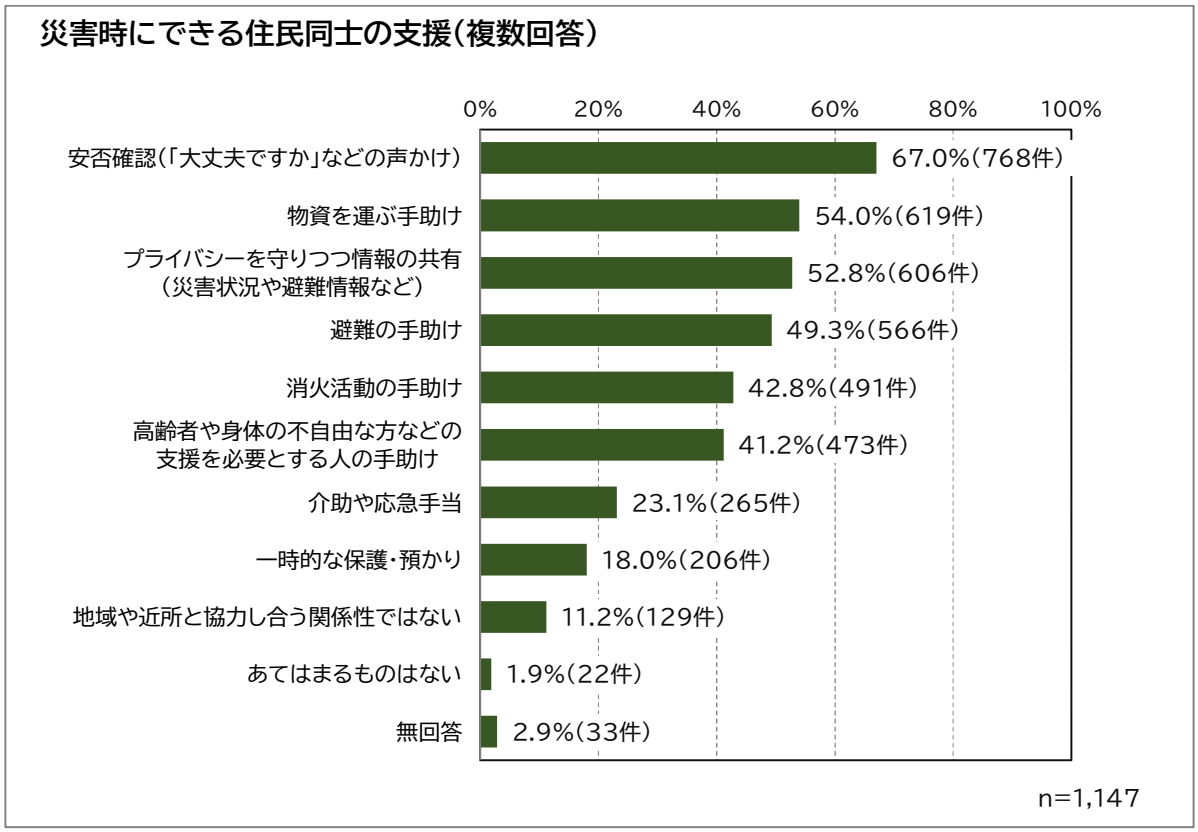


(7)区民アンケート(代沢地区)

単純集計(5/5)

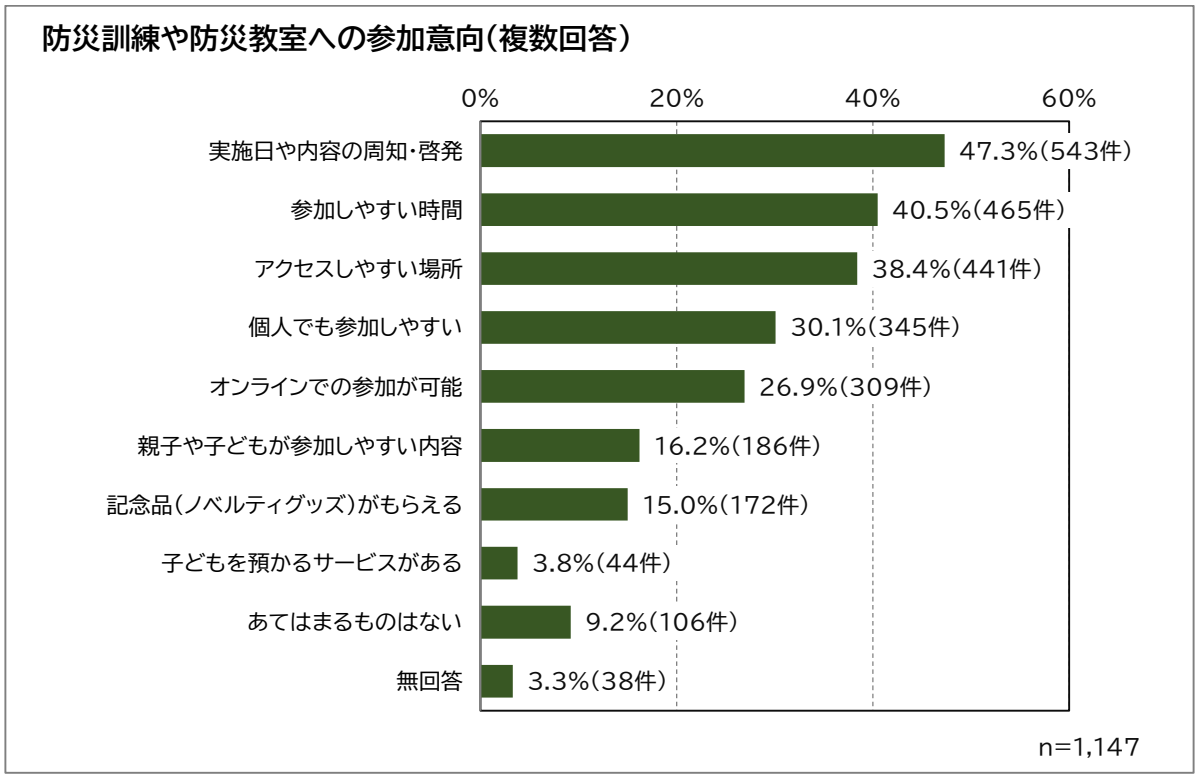
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

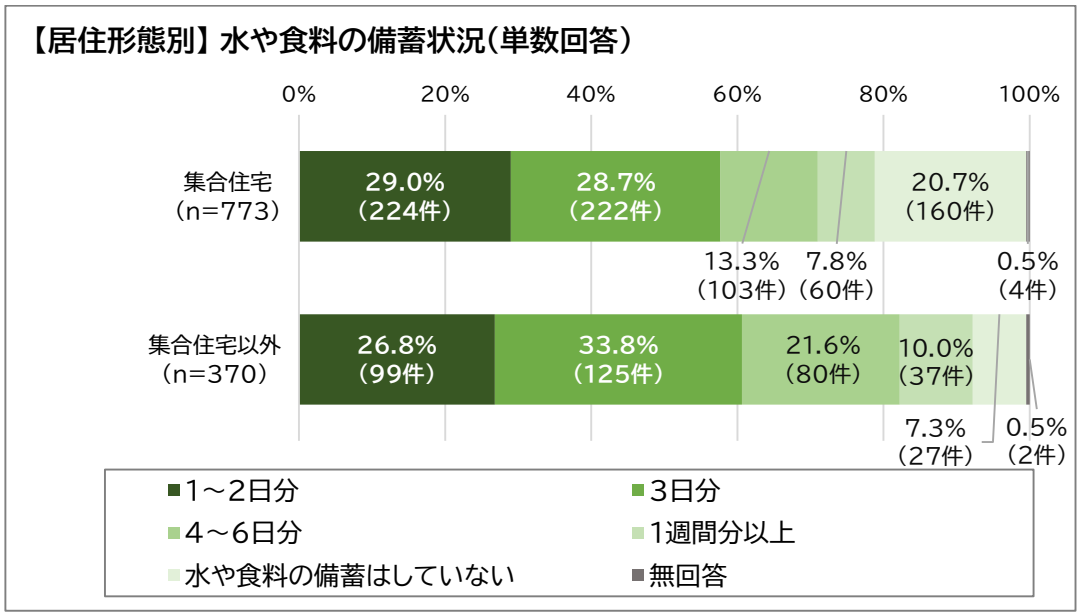


(7)区民アンケート(代沢地区)

クロス集計(1/4)

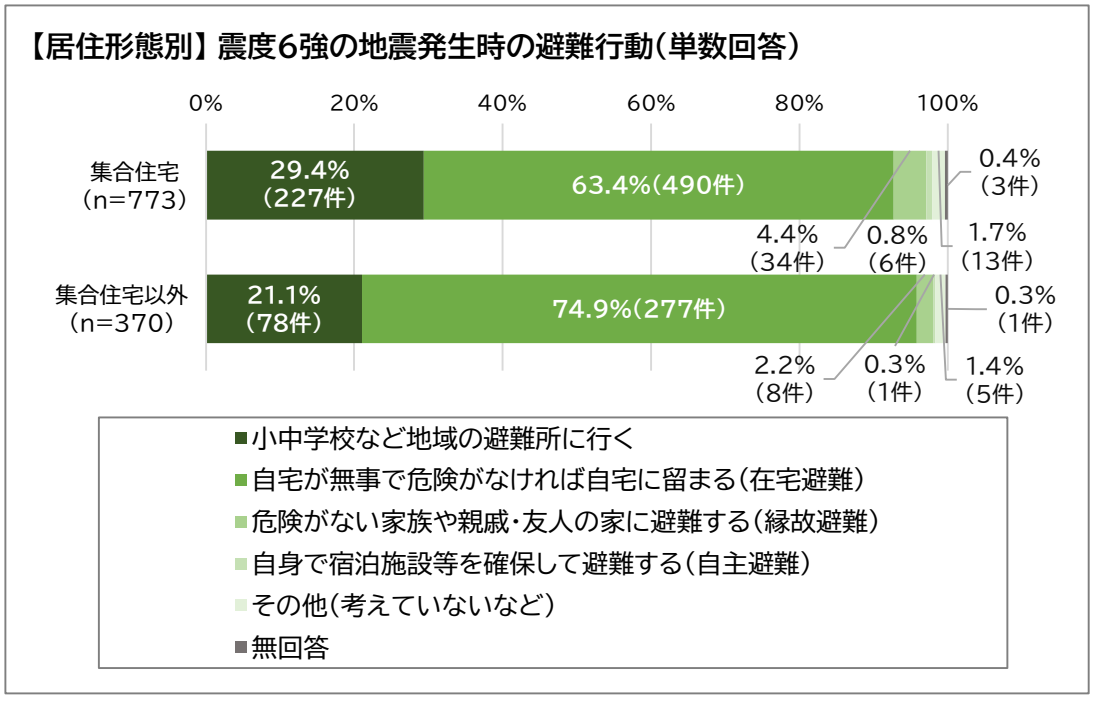
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(代沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

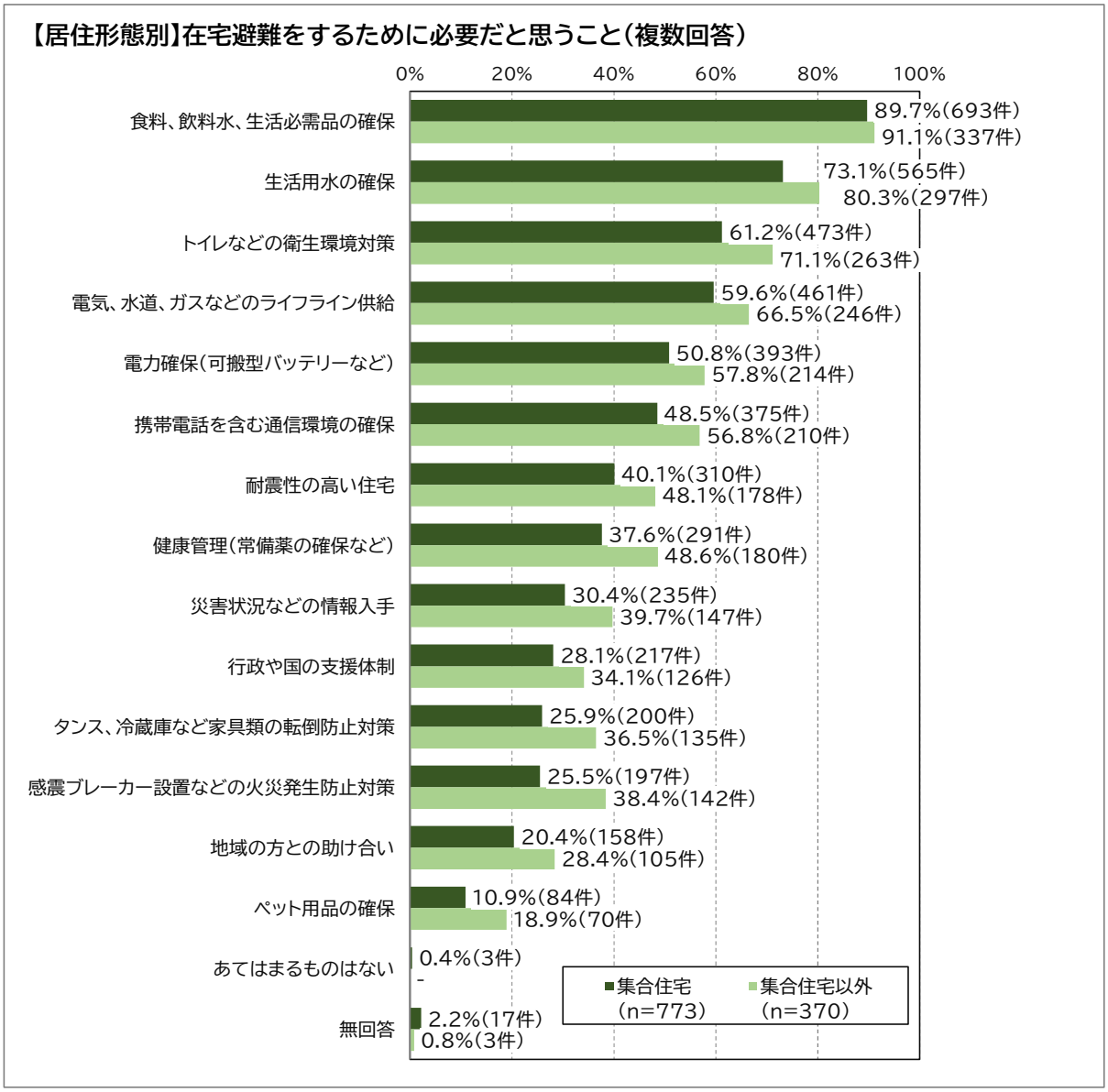
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(代沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

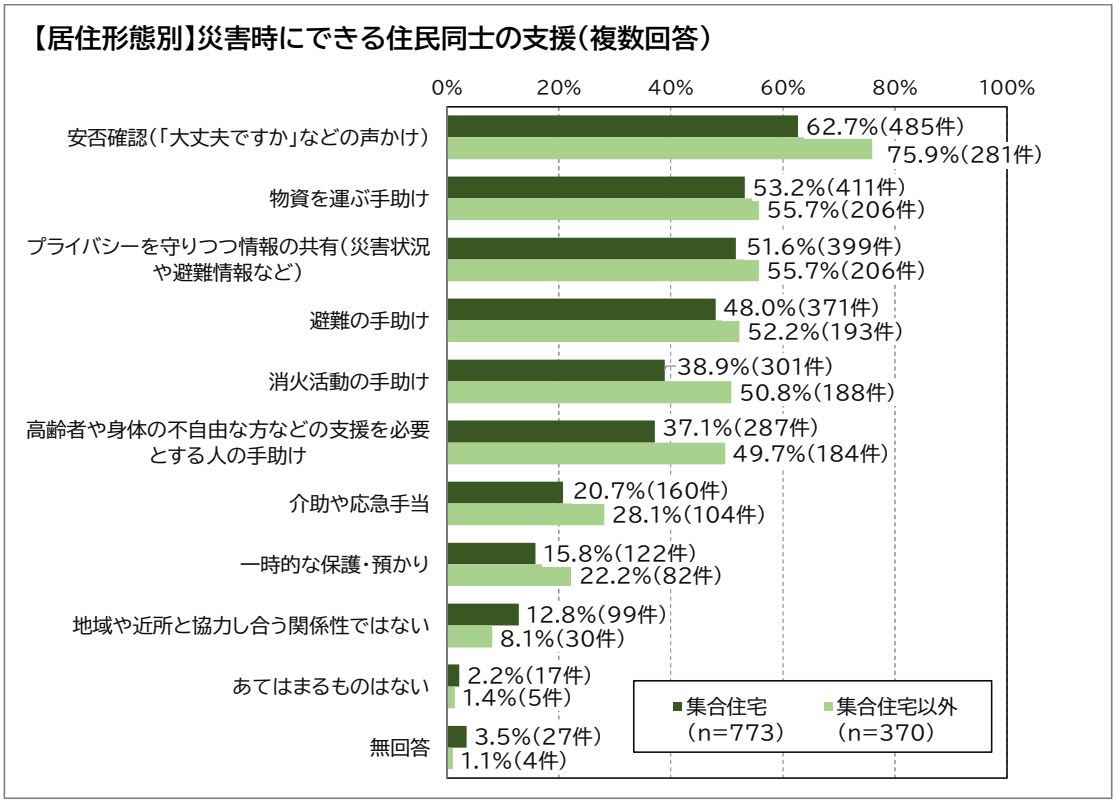


(7)区民アンケート(代沢地区)

クロス集計(4/4)

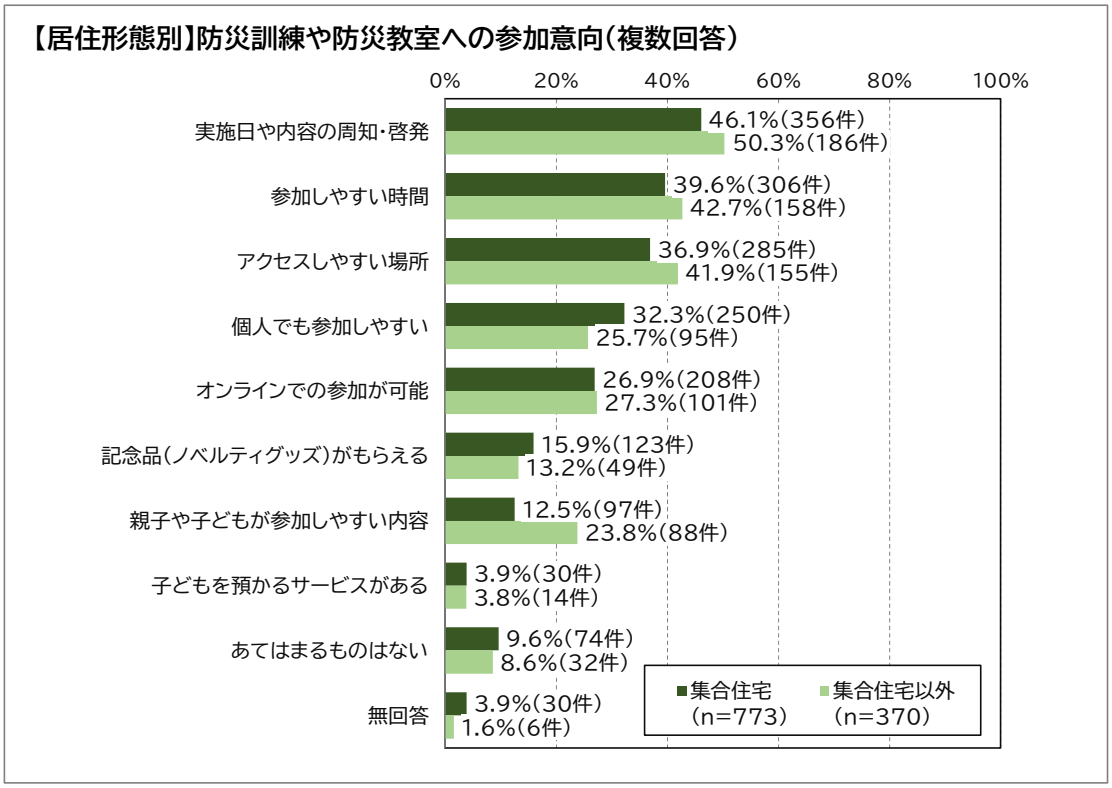
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
下代田東町会	38	○		下代田東町会防災部	6	○		○		3	町会内
代沢2丁目北町会	10	○		防災会議	2	○		○		2	池小町会防災倉庫、池之上青少年交流センター
代沢中町会	47	○		代沢中町会防災会議	3	○		○		3	代沢中町会防災倉庫
下代田西町会	5	○		下代田西町会防災会議	2	○		○		3	防災倉庫他
代沢4丁目西町会	4		○			○		○		4	町会内適宜
代沢五丁目町会	8	○		代沢五丁目町会防災懇談会	1	○		○		4	町会内
代沢5丁目東町会	7	○		代沢5丁目東町会防災部会	1～2	○		○		1	代沢5丁目東町会防災公庫

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
下代田東町会	1	町会防災倉庫	30	町会内	発電機	町会防災倉庫	○		2	地区会館 富士中避難所
代沢2丁目北町会	3	池小町会防災倉庫	複数	町会内	テント ブリキバケツ	町会防災倉庫	○		1	東電寮広場 池之上小避難所
代沢中町会					防災用水槽 ブリキバケツ	代沢中町会防災倉庫	○		3	北沢八幡神社境内、児童遊園、富士中避難所
下代田西町会	1	防災倉庫	3	町会専用防災倉庫	発電機 テント（3）	防災倉庫	○		3	せせらぎ公園 町内 代沢小避難所
代沢4丁目西町会							○		2	北沢川緑道 代沢小避難所
代沢五丁目町会							○		3	町内 代沢小避難所
代沢5丁目東町会			2	代沢5丁目東町会防災倉庫			○		1～2	代沢小避難所

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ										
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報						
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓
下代田東町会	1	地区会館			○				○	○	○	○	○	○	○
代沢2丁目北町会			避難所運営訓練見学	富士中学校	○				○	○	○	○	○	○	○
代沢中町会			鎮守の杜の防災フェス	北澤八幡神社、北沢八幡児童遊園	○				○	○	○	○	○	○	○
下代田西町会			放水訓練	せせらぎ公園他	○				○	○	○	○	○	○	○
代沢4丁目西町会			放水or救命救急訓練	緑道	○				○	○	○	○			○
代沢五丁目町会					○				○	○	○	○			○
代沢5丁目東町会					○				○	○	○	○	○		○

団体名	防災マップ	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定		
	掲載情報 その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
下代田東町会	スタンドパイプ置場	1		2				○			○		
代沢2丁目北町会	AED、病院	2		1				○			○		
代沢中町会	AED、防災倉庫、給水拠点、（英語版）	1		1				○			○		
下代田西町会	AED、病院	1		3				○			○		
代沢4丁目西町会	AED、スタンドパイプ、防災倉庫、病院、公衆電話、浸水危険区域		○		○			○			○		
代沢五丁目町会	AED、裏面英語版	1	○		○			○			○		
代沢5丁目東町会	AED、スタンドパイプ、防災倉庫、防災無線（2次元コード、裏面英語版）	1			○			○			○		

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）				
	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
下代田東町会	○	○			○						○	
代沢2丁目北町会	○					○				○		
代沢中町会	○				○	○		○				防災・防犯部員の災害時活動心得
下代田西町会	○					○				○		
代沢4丁目西町会	○										○	
代沢五丁目町会	○									○		
代沢5丁目東町会				○ ※対象者なし						○		

団体名	救出救助に係る資機材の配備																
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
下代田東町会	○		1			1	1	20	1	1							ガスボンベ、発電機	下代田東町会防災倉庫
代沢2丁目北町会		○	1			1	1	5						1※油圧式				代沢2丁目北町会防災倉庫
代沢中町会		○			1	6	3	50	3					5※油圧式				代沢中町会防災倉庫
下代田西町会		○		1	1	1	2	5	2								ガスボンベ、発電機	下代田西町会倉庫
代沢4丁目西町会		○	1				1	7	1									
代沢五丁目町会		○	1		2	1	1	12	2	3	1		1	2※油圧式	1			代沢五丁目町会倉庫
代沢5丁目東町会		○	1				1	7		1	1		1	1※油圧式	1		ロープ2	代沢5丁目東町会防災倉庫

団体名	食糧等の備蓄														
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
下代田東町会		○	○	○	○	○	○	○				○	1		
代沢2丁目北町会		○	○	○		○	○			○	○	○（LED強力ライト）	1	1	1
代沢中町会		○	100			12		○	○		○	○（スタンド式灯光器2基）	4		
下代田西町会	○								2				2	2	
代沢4丁目西町会	○													2	
代沢五丁目町会		○	150	100		16		60	1		16				
代沢5丁目東町会	○					○			○		○	○（ヘッドライト、LED強力ライト）		○	○

団体名		食糧等の備蓄		その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品 配布先	
下代田東町会		下代田東町会防災倉庫		
代沢2丁目北町会	災害時炊き出し用釜、飯ごう多数	池之上小内町会防災倉庫	町会住民	
代沢中町会	災害時炊き出し用釜(8kg用)3升、災害時用仮設トイレ	代沢中町会防災倉庫		
下代田西町会		下代田西町会倉庫		
代沢4丁目西町会				
代沢五丁目町会		代沢五丁目町会倉庫	代沢五丁目町会管轄住民	
代沢5丁目東町会	ポット、湯飲み、浄水ストロー	代沢5丁目東町会防災倉庫、会長宅敷地内	町会会員世帯	

3 代沢地区の課題と取り組み

課題1 自助の取り組みの強化 ～自分や家族の命を守るために～

■意見

・自宅の耐震化や家具の転倒防止対策の意識がまだ低い。
・家庭での備蓄が徹底されていない。
・木造密集地域では、火事を出さないための対応策が必要である。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・自宅の耐震化や家具の転倒防止について周知していく。
・家庭での備蓄物品の推進をPRしていく。
・家庭用消火器や感震ブレーカーの設置を推進する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・町会だよりに防災コーナーを設け、テーマを決めてPRしていく。（下代田東町会）
・家具の転倒防止について、町会費の集金などの際に班長を通して周知していく。（下代田東町会）
・町内の防犯パトロール車（青パト車）を広報車としても利用して、防災の PR（備蓄品、消火器共同購入、自宅の耐震化、防災行事開催案内等）をする。（下代田東町会）
・家族内の取り決めや備蓄品チェックといった呼びかけを検討する。（代沢2丁目北町会）
・飲料水の確保、伝染病予防の衛生面の取り組みの必要性について、呼びかけていく。（代沢2丁目北町会）
・防災グッズの配布や、商店会の街路灯に標語を掲示するなど、PRを継続して実施していく。（代沢2丁目北町会）
・防犯カメラの設置をきっかけとして安全意識を高めていく。（代沢2丁目北町会）
・防災用備蓄品のあっせんや、家庭用消火器の下取りと更新を行っていく。（代沢2丁目北町会）
・町会の子ども会などで備蓄品の情報などを、子ども達に伝えることによって、若い父母の世代に周知を図っていく。（代沢中町会）
・防災用品、備蓄品等の共同購入をする仕組みを、代沢地区として考えたい。（代沢中町会）
・各家庭での家具の転倒防止や備蓄品、消火器の設置を町会回覧などで繰り返し呼びかけていく。（下代田西町会）
・町会で備蓄物品購入のアンケートを行い、共同購入する仕組みを考えたい。（下代田西町会）
・区の「家具転倒防止器具の取付支援」の利用が進むよう、職員が訪問する際に必要な方へパンフレットをお渡ししていきたい。（あんしんすこやかセンター）

課題2　共助の取り組みの強化　～担い手・協力者を増やすために～

■意見

・隣同士の付き合いが希薄になってきている。特に若い世代の交流がない。
・代沢地区は、昼間の若年人口が少ない。支援者となる人手が不足する。
・安否確認や避難所運営の役割を担う町会構成員の高齢化が懸念される。
・地区内の事業所や私立学校との連携が希薄である。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・若い世代へ働きかけ、いざという時の担い手を増やしていく。
・地区内の事業者や学校、地域団体との連携を考える。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・駒場学園高校と合同で防災訓練を行えるように検討するなど、地元の企業や高校と訓練や備蓄倉庫の共有などを働きかけていく。（下代田東町会）
・集合住宅の住民に、町会員であるという意識を啓発していく。（下代田東町会）
・納涼祭に起震車やまちかど防災車を呼ぶなど、町会の事業に防災の要素を取り入れ、多世代にアプローチできるプランを考えていく。（下代田東町会）
・町会の青年部に防災の担い手として取組んでもらうよう働きかけていく。（下代田東町会）
・小学生・中学生にも参加してもらえるような防災訓練を目指していく（代沢2丁目北町会）
・防災訓練に小中学生、特に高校生の参加を呼びかけていく。（代沢2丁目北町会）
・町会の歳末パトロールに高校生の参加を検討する。（代沢2丁目北町会）
・人材確保の手段として非常時の役員制度を採用し、町会に理解のある若い人を非常勤役員として登録した。さらに、いざという時に若い世代の父母に活動してもらう取り組みを広げたい。（代沢中町会）
・子供会の活動に防災訓練の要素を盛り込み、保護者への啓発に取り組んでいく（代沢中町会）
・中学生、高校生が防災訓練に参加してもらえるような工夫をしていく。（代沢中町会）
・増えている外国人居住者に対し町会加入を促すとともに、外国人向けの多言語版の防災マップを作成して災害時の担い手を増やしていく。（代沢中町会）
・新しいマンションの住人へは、管理組合と連携してアプローチしていく。（代沢中町会）
・町会のホームページを立上げ、防災情報を提供できるようにする。（代沢中町会）
・「防災訓練」として人を集めるのではなく、お祭りや資源回収など人が集まるイベントとコラボして若い人たちを上手く巻き込んで行きたい。（下代田西町会）
・昼間の発災直後の協力者として、地区内にある企業との交流を進める。（代沢4丁目西町会）
・スタンプラリーなどのイベントに防災の要素を取り入れ、まちの魅力を親子で発見し

ながら、楽しんで防災意識を向上させるプランを考えたい。（代沢4丁目西町会）
・町会として発災時防災訓練を実施するとき、商店街や PTA に声をかける。（代沢五丁目町会）
・町会が主催する座談会など、様々な年代の人が気軽に参加してもらえる機会をつくり支援者を募っていく。（代沢五丁目町会）
・防災訓練の際は、集まった参加者に、その場でボランティアとして訓練の役割を担ってもらうようにする。（代沢五丁目町会）
・町会の限られたブロックで訓練を行うことや、Facebook 等の SNS を利用して情報発信するなど、防災訓練を身近に感じてもらい参加者が増えるように工夫していく。（代沢五丁目町会）
・町内にあるビルの管理者や保育園と共同で防災訓練を実施するなど、発災時の連携・協力について協議していく。（代沢5丁目東町会）
・町会合同の防災訓練を実施している。（代沢五丁目町会、代沢5丁目東町会）

課題3　安否確認と避難行動要支援者対策　～命を救うために～

■意見
・避難行動要支援者協定を結んでいるが、本当に支援が必要と思われる人が手をあげているか不安がある。
・避難行動要支援者の情報を様々な団体が個別に把握している。いざという時の連携が明確でない。
・災害発生時の避難行動要支援者の具体的な担当が決まっていないところもある。
・災害発生直後は、全ての人が避難行動要支援者となる可能性がある。ご近所同士の安否確認の方法について考える必要がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・避難行動要支援者とは、平時から顔の見える関係を築いていく。
・いざという時の団体同士の連携について検討を行う。
・災害発生時の安否確認の方法について、担当やエリアなどを含めた具体的な取り決めを検討する。
・安否確認の協力者・支援者を確保する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・避難行動要支援者と普段からの繋がりの中で信頼関係を築き、緊急時に必要な情報を把握していく。（全町会）
・平時からの見守りを今後もしっかり続けていく。（全町会）
・避難行動要支援者の近所の方に協力をお願いしていく。（代沢中町会）
・災害発生時の安否確認が迅速に行われるよう、玄関への表示物の掲示などの方法を、区全体のとり組みとなるよう提案していく。（代沢中町会）

・防犯パトロールのメンバーによる要配慮者への訪問活動を続けていく。（下代田東町会、代沢４丁目西町会、代沢5丁目東町会）
・要支援者対策について各団体と話し合える機会を設けていく。（あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、民生・児童委員協議会、まちづくりセンター）

課題4　初期消火と救出救助　～命を救うために～

■意見
・災害発生時、自分や家族の安全が確保できれば、近隣の人たちの命を救うために、倒壊家屋からの救出や初期消火という意識を育てる必要がある。
・スタンドパイプは誰もがすぐに使えるという状況ではない。鍵を開けられる人や操作できる人が限定されている。
・救出救助を行うための機材の配備場所を知らない人が多い。取扱い方法もわからない。
・初期消火や救出救助活動は一人ではできない。チームでの対応が必要である。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・消火器やスタンドパイプなどの消火器具を充実させ、設置場所や取扱い方法を周知していく。
・救出救助器具の配備を充実させ、配備場所や取扱い方法を周知していく。
・初期消火や救出救助の担い手を確保する。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・消火器具の取扱い訓練を行い、人材を育成していく。（全町会）
・救出救助器具の取扱い訓練を行い、人材を育成していく。（全町会）
・学校行事やイベントの中で、消火器具や救助器具、救命法について学ぶ機会を設けるように働きかけていく。（下代田東町会）
・町会主催イベントの人が多く集まる機会に耐震訓練、消火器訓練を引き続き繰り返し行う。（下代田東町会）
・池之上小避難所運営訓練でのスタンドパイプ操作訓練は、参加者に人気があるので、改築工事後も継続して実施したい。（代沢2丁目北町会）
・防災教室などを開催し、町内の防災意識向上を図るため、その方法、手段を検討する。（代沢2丁目北町会）
・防犯パトロールなどの機会を利用して、街路消火器のチェックや消火栓の位置の確認を行う。（代沢4丁目西町会）
・ビル所有者が防災訓練を行うとき、町会も一緒に加わり、訓練を実施することによって人材育成につなげたい。（代沢5丁目東町会）

課題5　避難行動と避難場所の周知　～助かった命を守るために～

■意見

・代沢地区の地形はアップダウンが多く、急な上り坂や階段など、車いすでは通行できない所もある。道幅も狭く、行き止まりも多い。
・住宅街のため、公園や広場等のスペースが少なく、一時集合所の確保が難しい。
・在宅避難者に対して、情報や食料などを提供する仕組みがない。
・正確な情報を把握するための手段の周知が必要である。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・避難所の場所や避難ルートの周知を図っていく。
・一時集合所の確保を進める。
・在宅避難者等に対する支援について検討する。
・正確な情報を把握するためのツールの周知を図る。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・町会内の施設等に声をかけ、一時集合所の確保に努める。（全町会）
・池尻4丁目の一部が町会の区域内に入っており、町会員が混乱しないよう、町会だよりを使って定期的に避難所について周知していく。（下代田東町会）
・在宅避難者の孤立を防ぐ情報や食事・物資の配布、避難行動要支援者の避難を消防などと連携し救助体制を検討し訓練を行っていく。（下代田東町会）
・避難ルートの周知を図るため、表示や案内の設置について継続して取り組む。（代沢2丁目北町会）
・町会の防災マップをリニューアルし、全戸配布する。（代沢2丁目北町会）
・3者協定（北澤八幡神社・町会・区）を締結し、北澤八幡神社が区の予備避難所として位置づけられているので、避難者の受入れ態勢について充実を図るとともに、訓練等を行い、運営に支障がないようにしていきたい。（代沢中町会）
・防犯パトロールの際に、地区の危険個所を洗い出し、住宅地図に落とし込む。さらに要配慮者の情報も盛り込んで非常時に使用できる防災マップを作成したい。（代沢中町会）
・災害時に迅速に安否確認ができるよう、無事な人は玄関に「無事です」という掲示物（プレート）を貼れるよう検討する。（代沢中町会）
・町会だより、掲示板などを利用して防災に関する情報を周知していく。（下代田西町会）
・避難行動の際には、ラジオの情報は頼りになる。普段から馴染んでいるラジオの普及を啓発していきたい。（代沢五丁目町会）
・災害で被害を受けた人が利用することができる各種助成制度をまとめたパンレットを作成し、戸別配布したい。（代沢五丁目町会）
・防災マップを数年ごとにリニューアルして、町会全戸に配布する。（代沢五丁目町会・代沢5丁目東町会）

新代田地区防災計画

［令和7年修正］

【目 次】

1. 新代田地区の特性
(1)自然特性……新代田-1(-297-)
(2)社会特性 ……新代田-2(-298-)
(3)地域危険度……新代田-4(-300-)
(4)被害想定 ……新代田-5(-301-)
(5)防災資源一覧 ……新代田-8(-304-)
(6)防災資源マップ……新代田-9(-305-)
(7)区民アンケート …… 新代田-10(-306-)

2. 各団体の防災活動～現在の取組状況～
(1)集計表 …… 新代田-19(-315-)

3. 新代田地区の課題と今後の取り組み
(1)情報収集・情報伝達 ……新代田-26(-322-)
(2)地域・コミュニティ作り ……新代田-27(-323-)
(3)安否確認・要配慮者支援 ……新代田-29(-325-)
(4)初期消火活動 ……新代田-30(-326-)
(5)避難誘導 ……新代田-32(-328-)
(6)その他の課題……新代田-33(-329-)

【新代田地区防災計画作成団体(防災塾参加団体)】

代田4丁目町会	代田北町会
根津山会	大原南町会
代田東町会	大原北町会
代田南町会	大原西町会
守山町会	羽根木町会

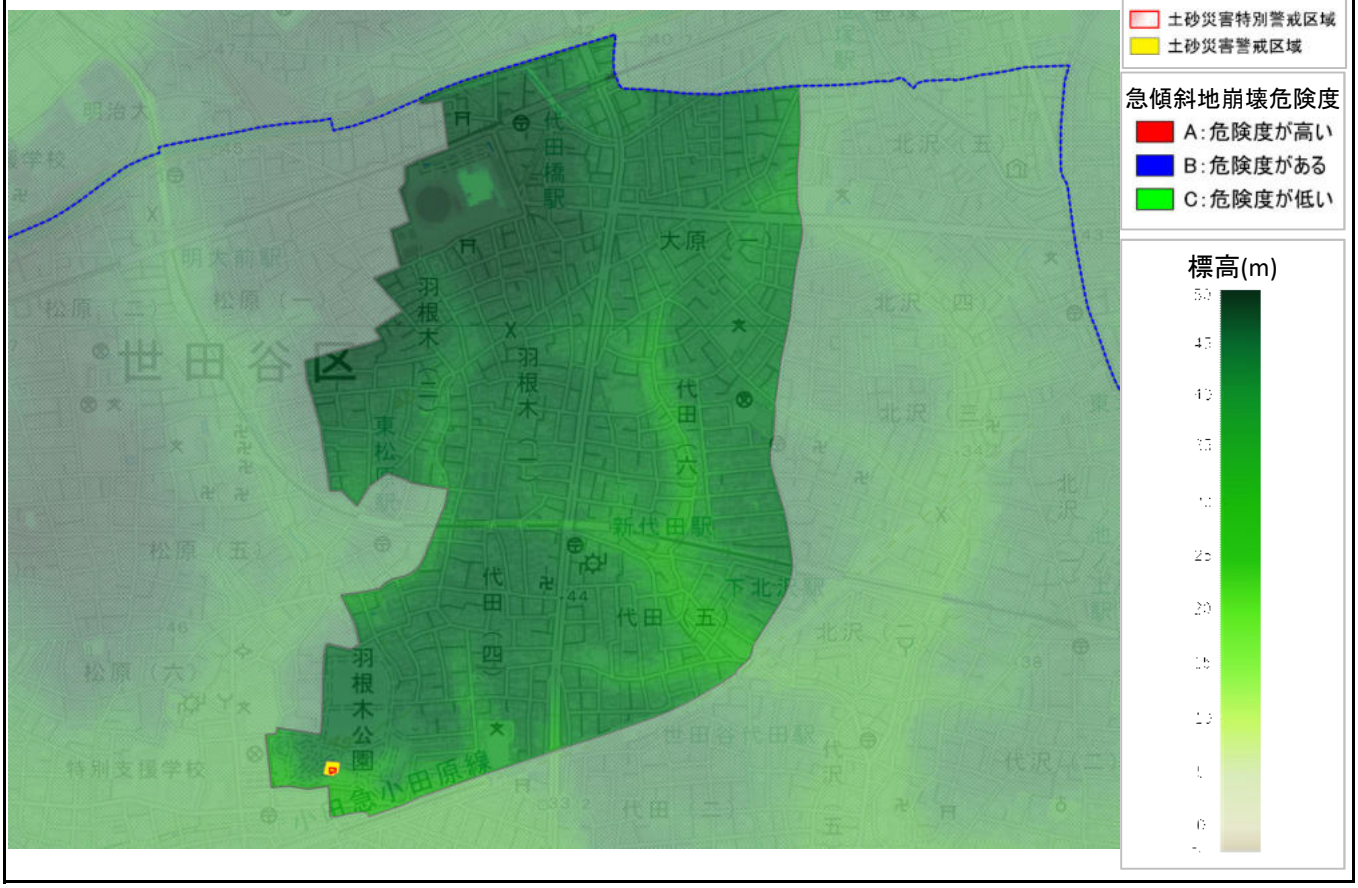
1. 新代田地区の特性

(1)自然特性

面積	1.42 Km²	最高標高	50.5 m	最低標高	30.9 m

位置

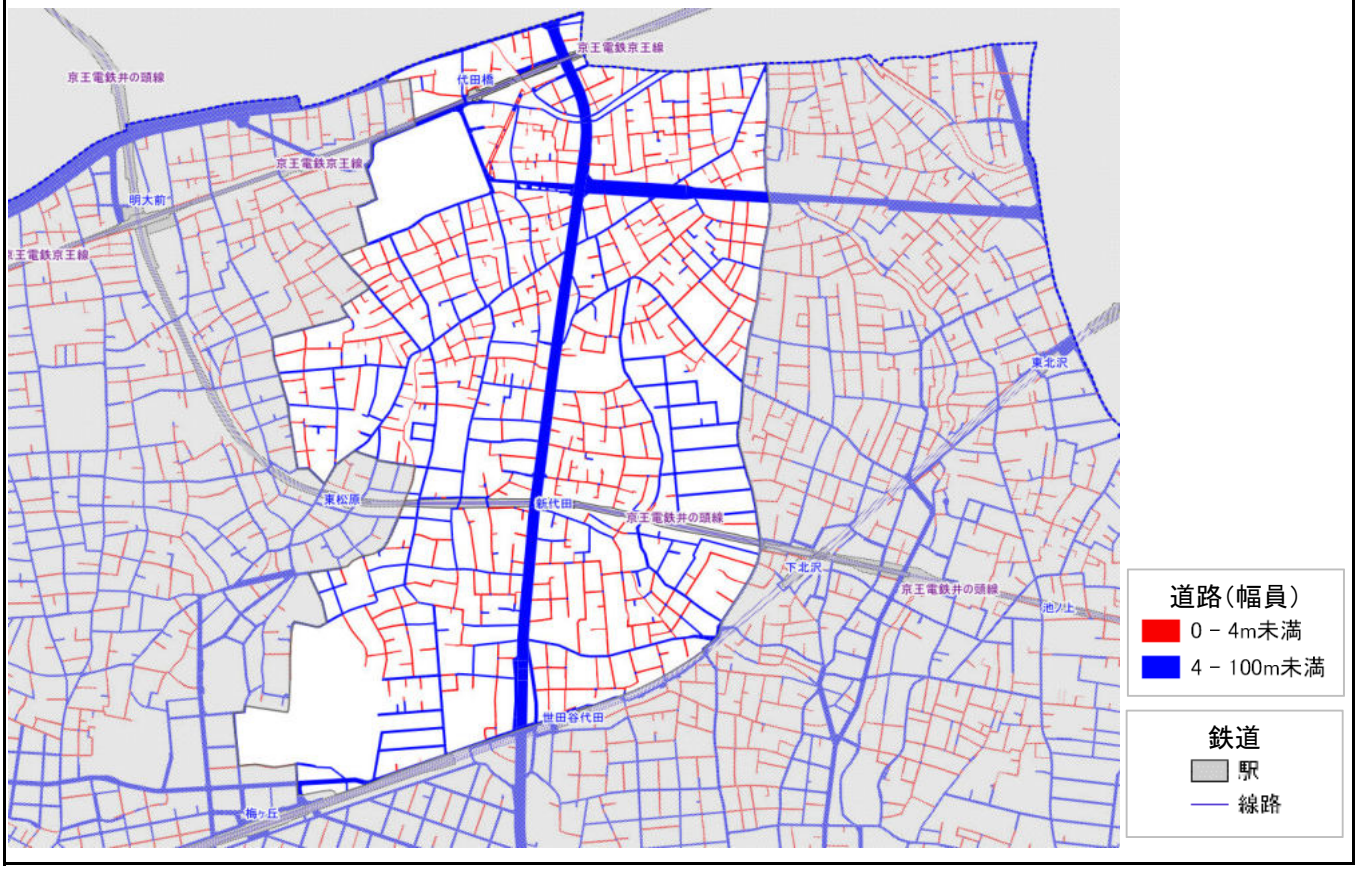
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

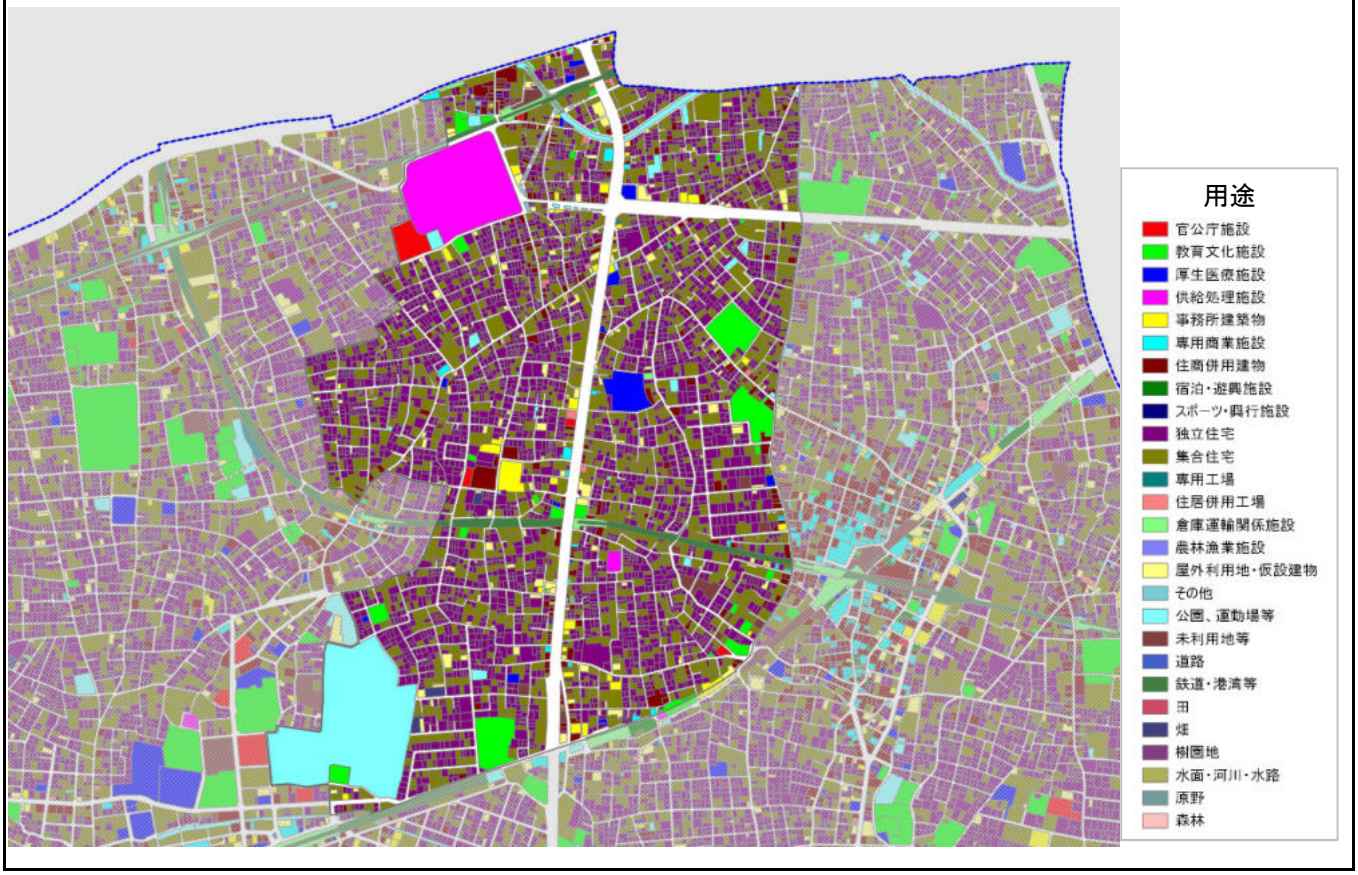
人口	26,026 人	細街路率		52.0 %	
世帯数	16,552 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		84.6 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.57 人	耐火率(建築面積ベース)		57.5 %	
若年層数(15才未満)	2,092 人	土地利用(宅地)		71.8 %	
若年層率(15才未満)	8.0 %	土地利用(宅地以外)		28.2 %	
高齢者数(65才以上)	4,882 人	鉄道駅	京王線代田橋駅 京王井の頭線新代田駅 小田急小田原線世田谷代田駅		
高齢者率(65才以上)	18.8 %				
昼間の人口	18,413 人	産業	商業	86.3 %	
夜間の人口	26,273 人		工業	10.5 %	
昼夜間人口比	0.70 -		農業	3.2 %	
町会・自治会数	10 -				

道路・公共交通機関



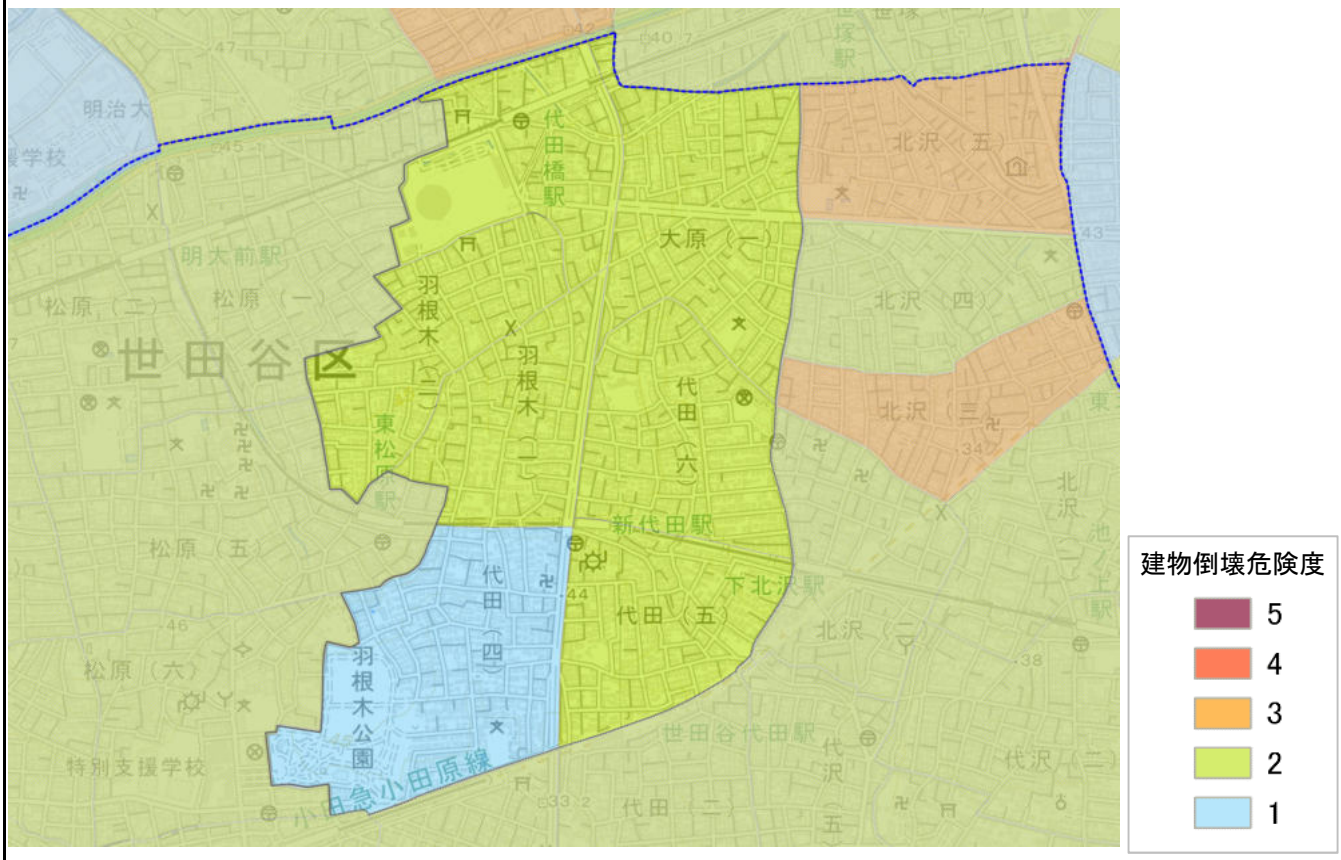
(2)社会特性

産業

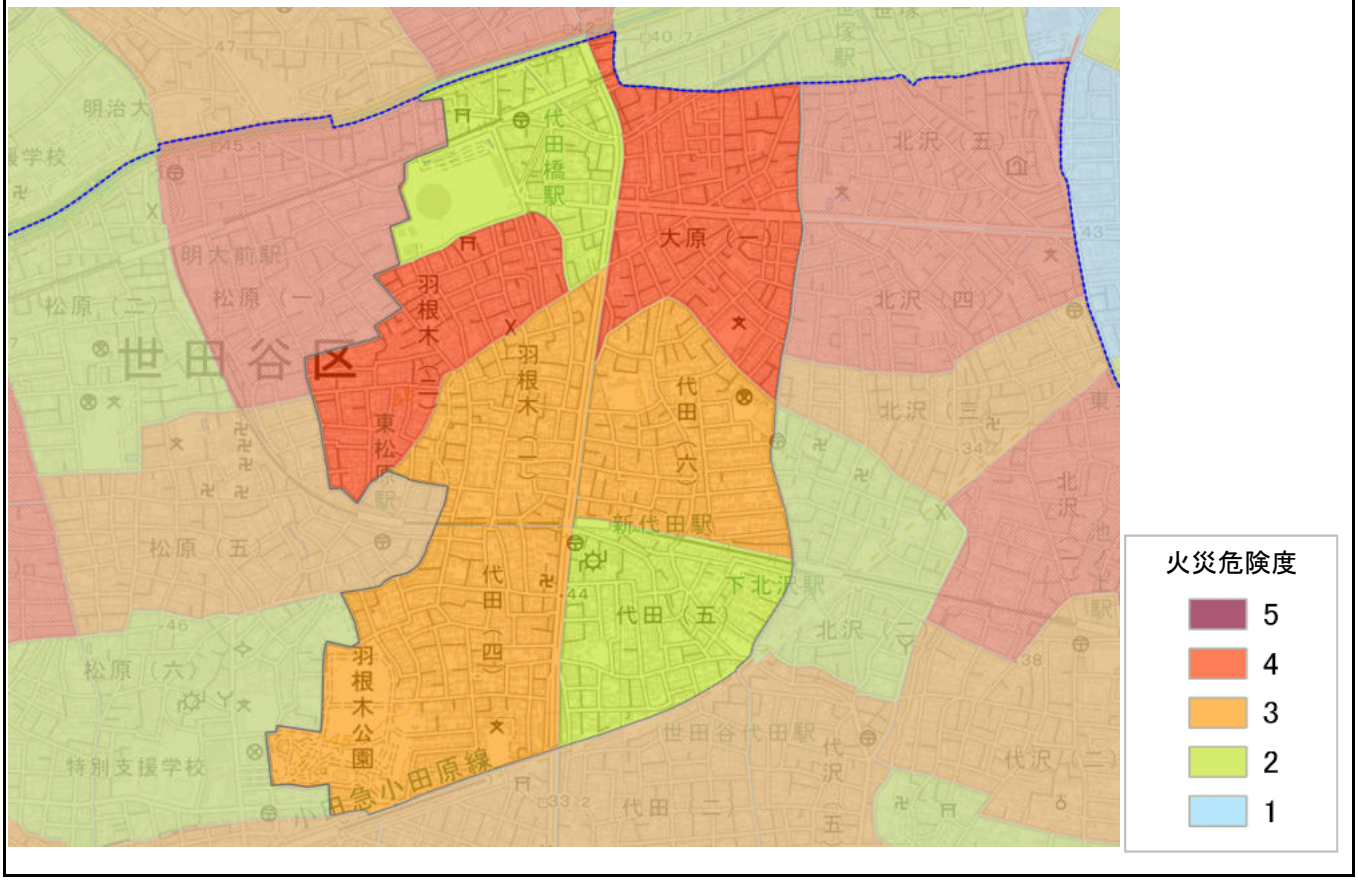

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



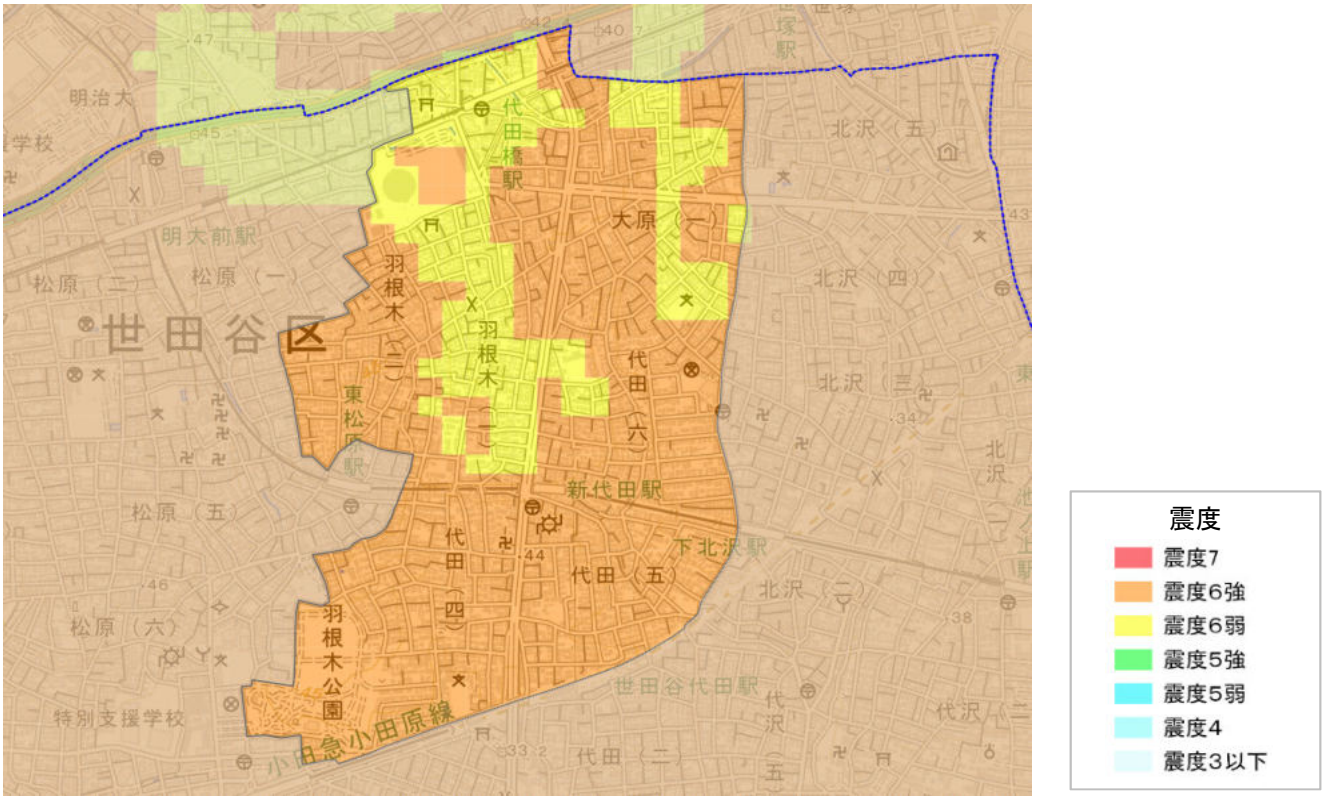
火災危険度



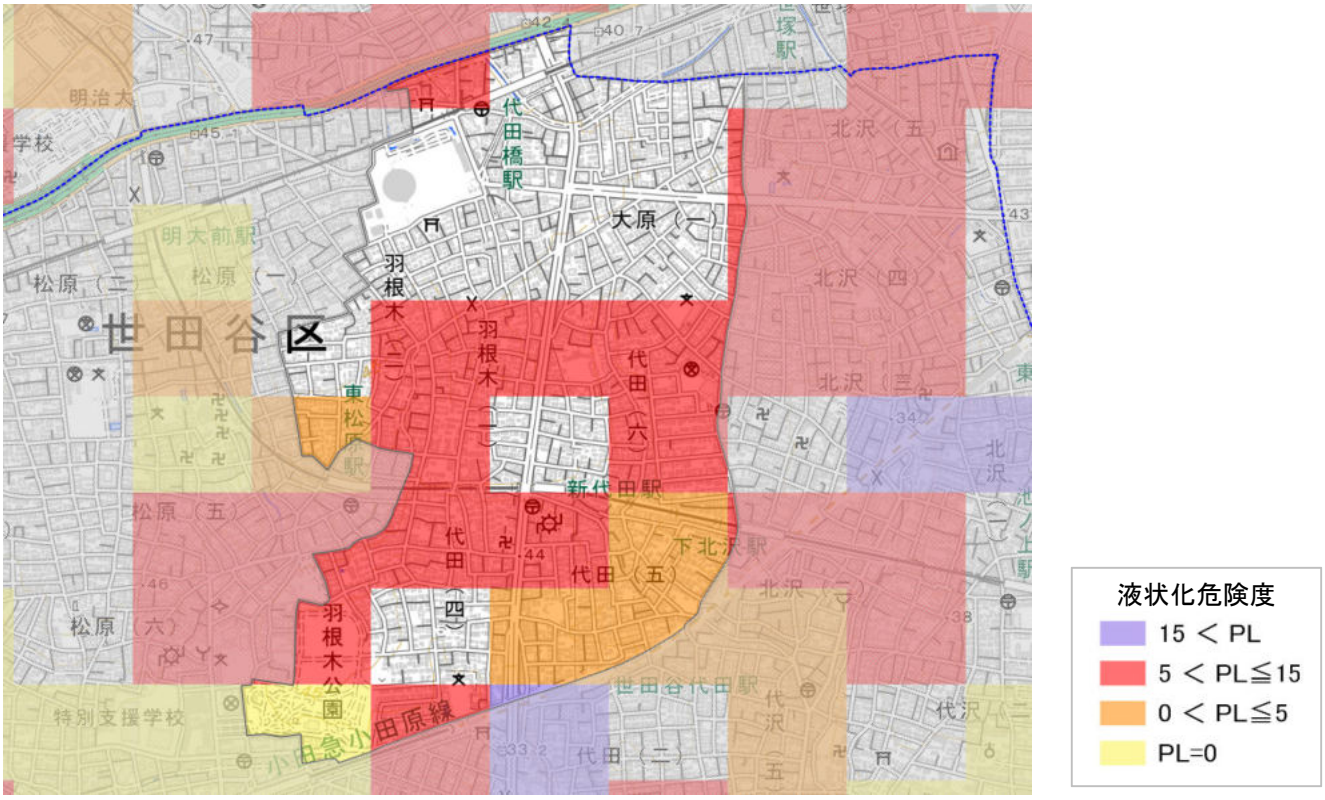
(4)被害想定

全壊棟数	121 棟	死者	19 人
半壊棟数	396 棟	負傷者	205 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	714 棟	うち重傷者	35 人

震度分布

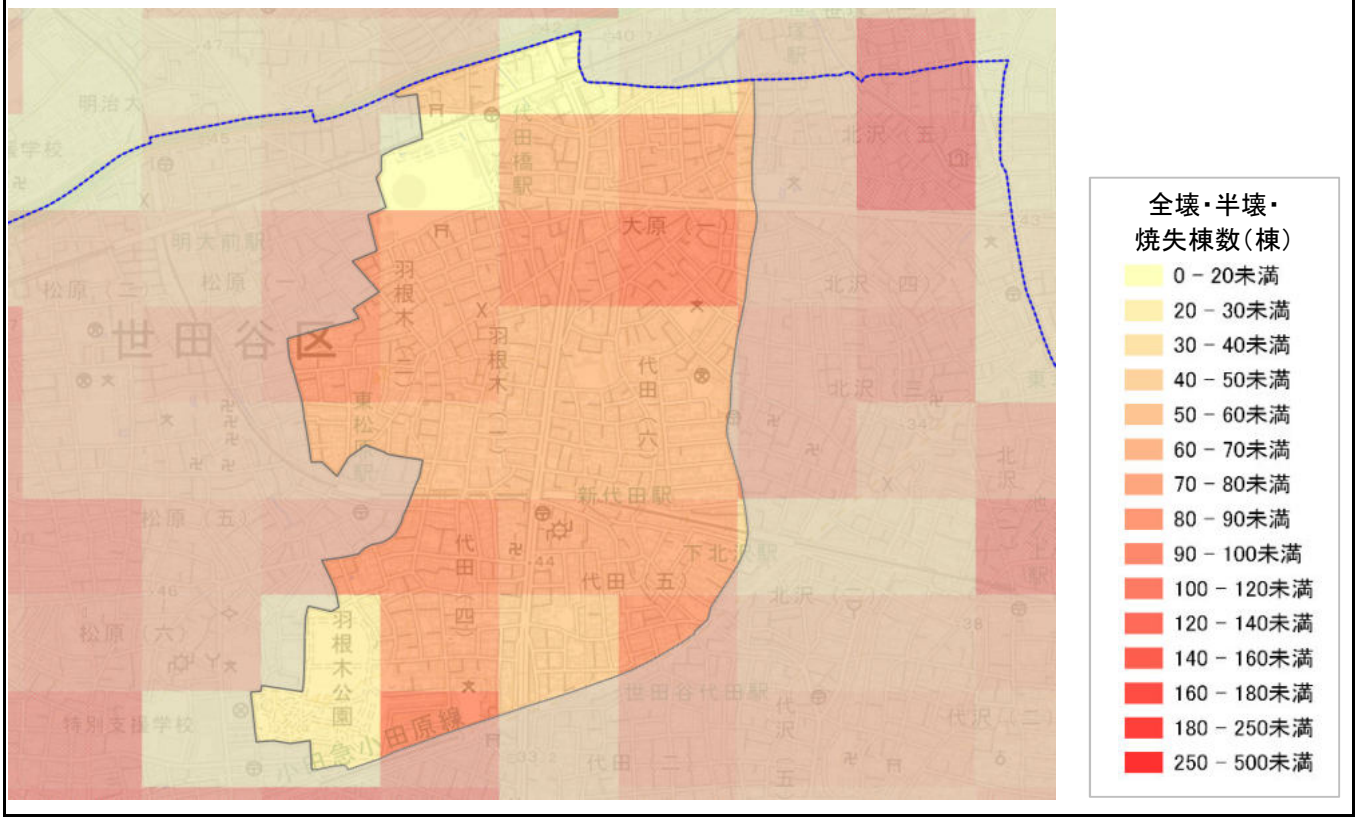


液状化分布



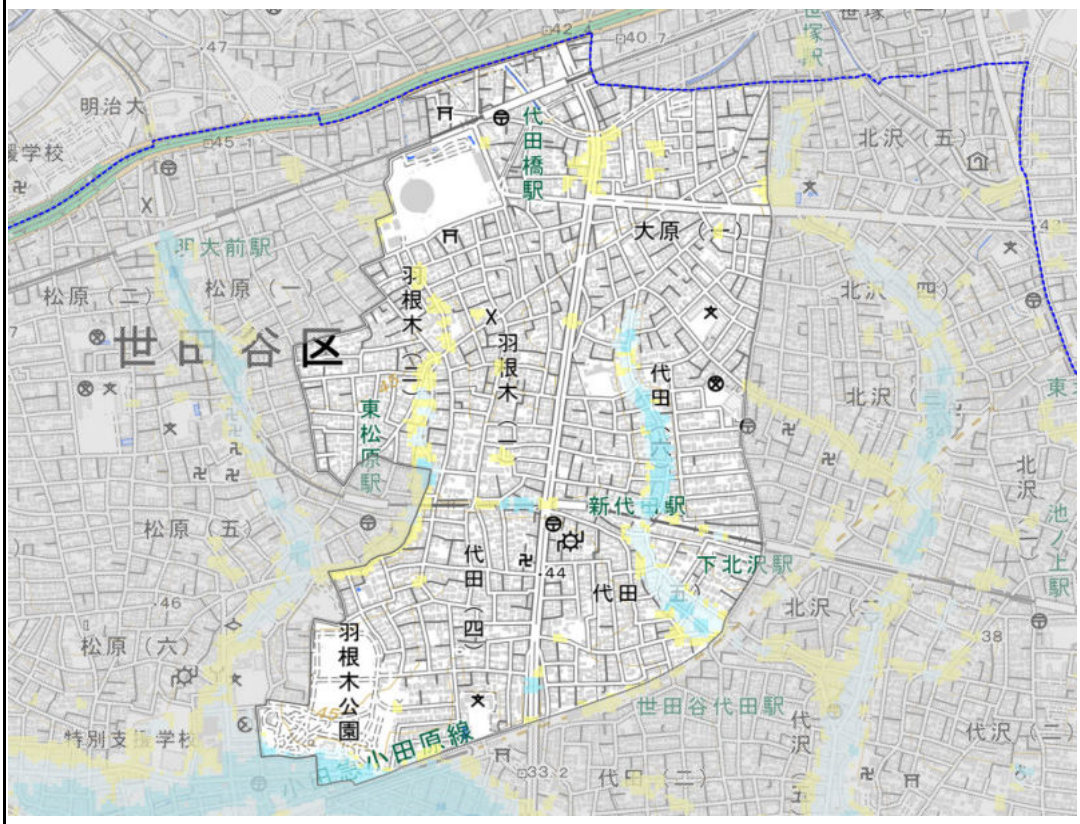
(4)被害想定

被害棟数分布

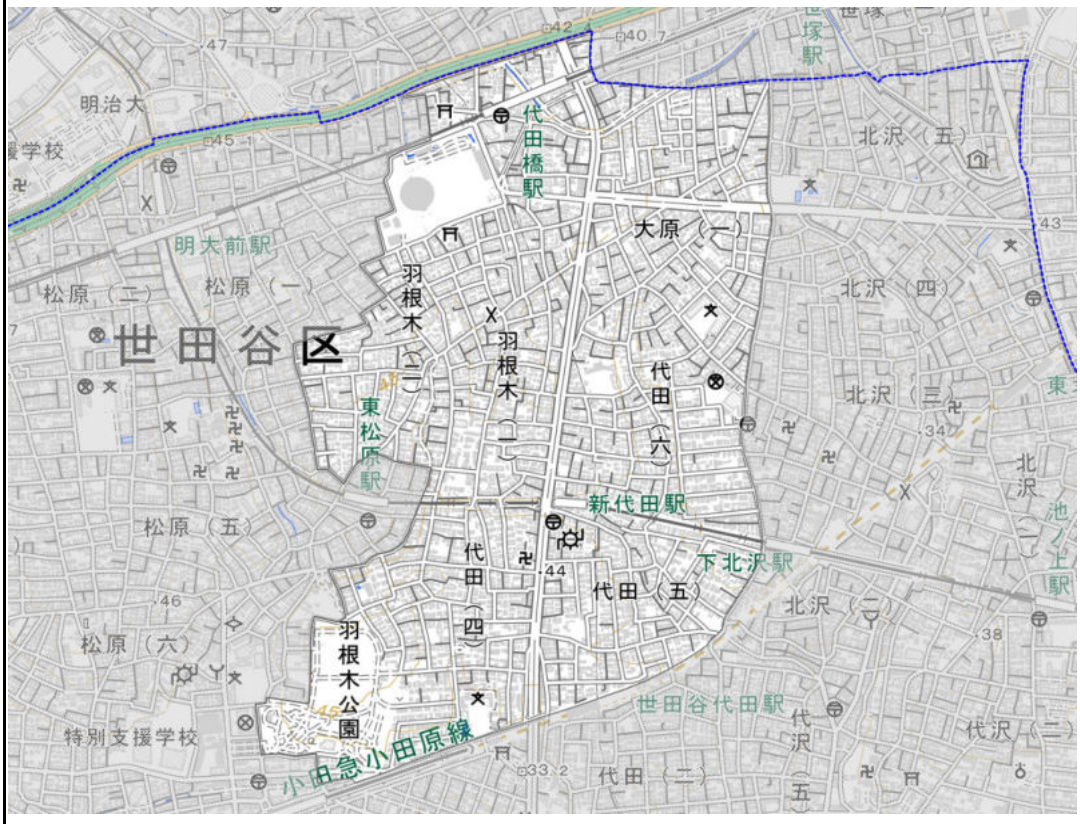


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



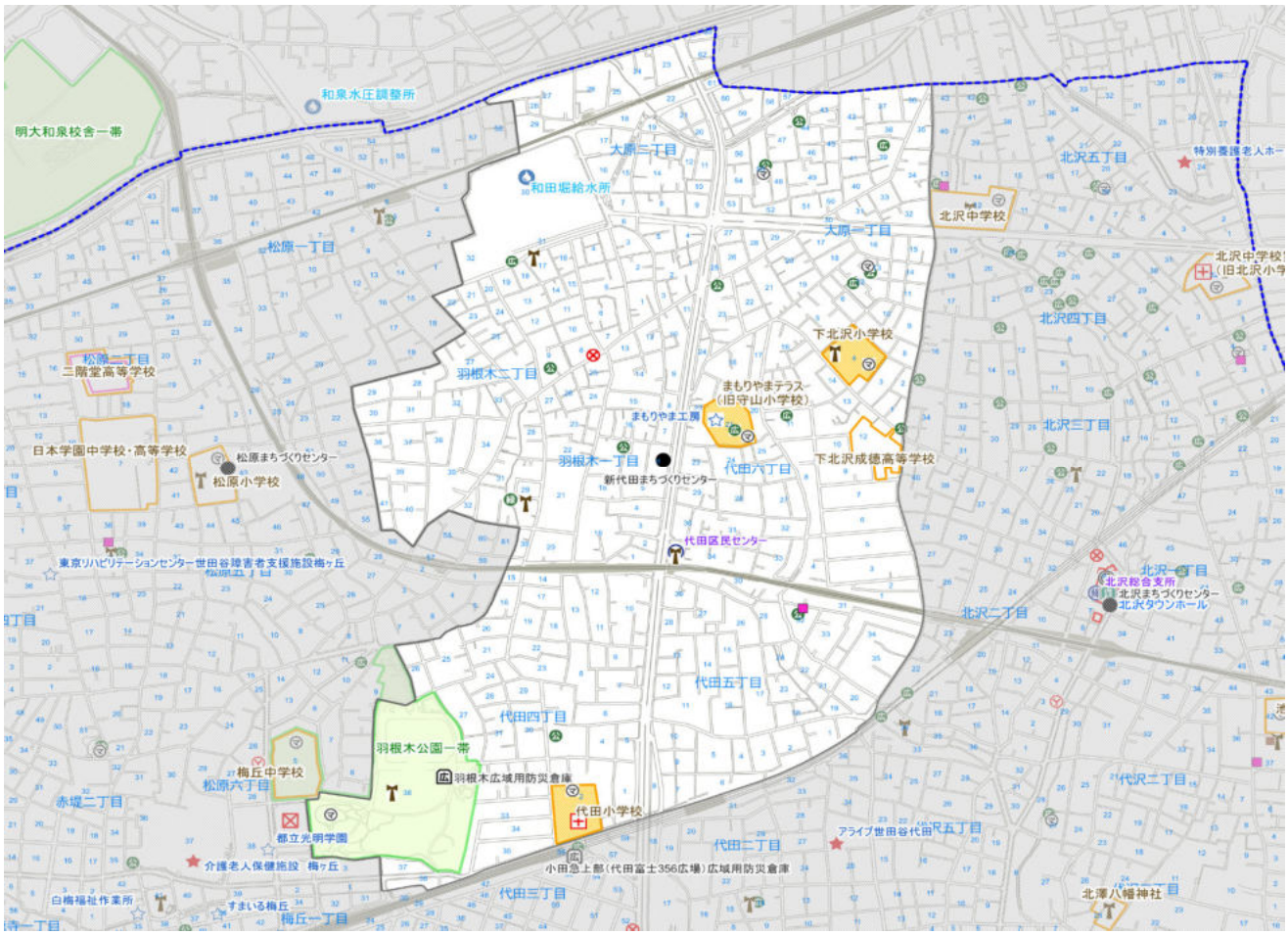
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	羽根木公園一帯				
一時集合所	まもりやまテラス(旧守山小学校) 羽根木1丁目公園 羽根木2丁目公園 羽根木公園 羽根木神社 下北沢小学校 下北沢成徳高等学校 玉川上水緑道 世田谷代田駅周辺 代田5丁目公園 代田小学校 代田北広場 大原さんかく公園 大原南広場 北沢土木管理事務所前 和田堀給水所				
指定避難所	まもりやまテラス(旧守山小学校) 下北沢小学校 代田小学校				
予備避難所	下北沢成徳高等学校				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)	まもりやま工房				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所	代田小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1 ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	6 ヶ所	防災行政無線塔	6 ヶ所	緑地	1 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	和田堀給水所				
広域用防災倉庫	羽根木広域用防災倉庫				
土のうステーション	代田五丁目公園				
警察署・交番	羽根木交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所(母子)
- 福祉避難所(高齢者)
- 福祉避難所(障害者)
- 水害時避難所(第1次)
- 水害時避難所(第2次)
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所(狛江市)
- 水害時避難所(調布市)
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設(車中避難)

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

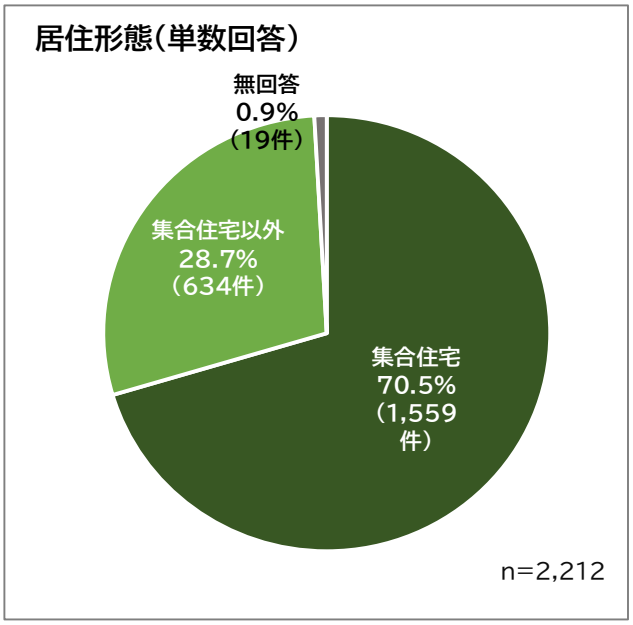
(7)区民アンケート(新代田地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

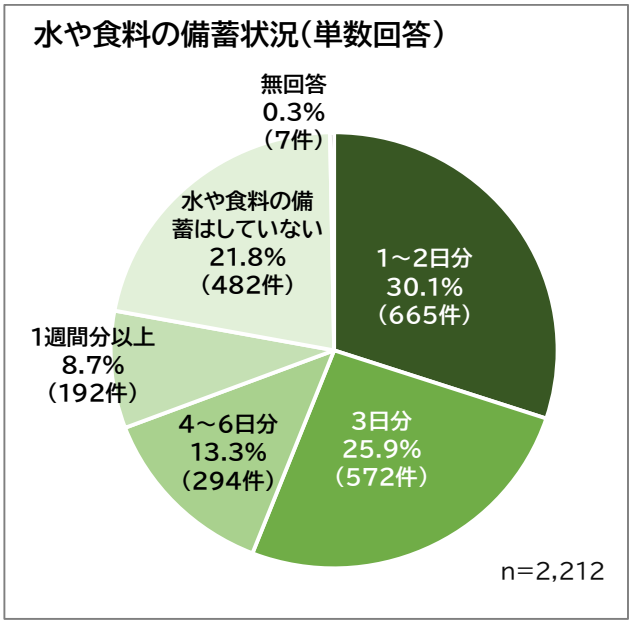
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

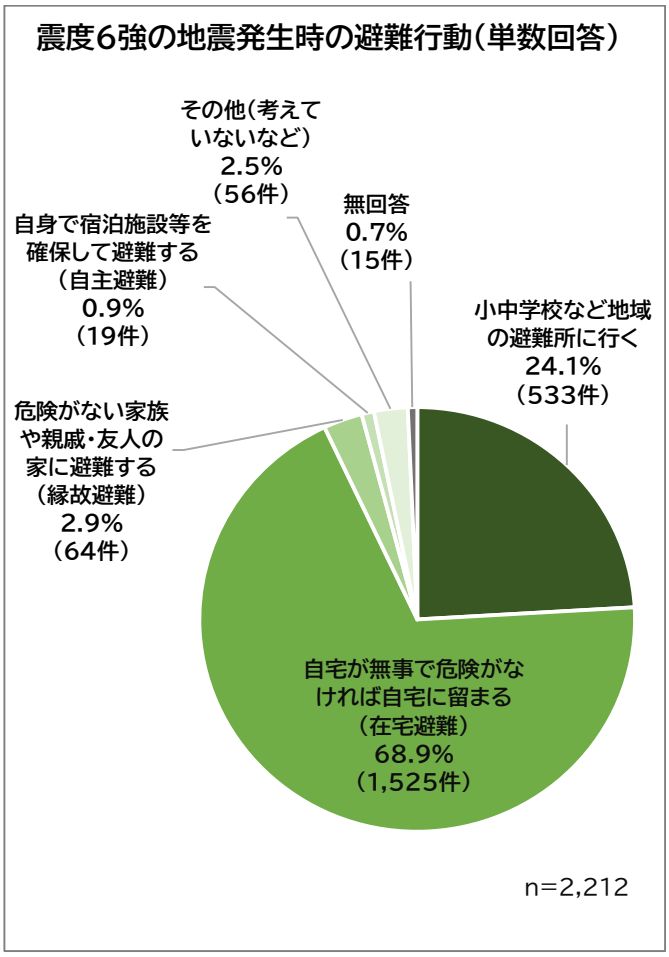


(7)区民アンケート(新代田地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(新代田地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

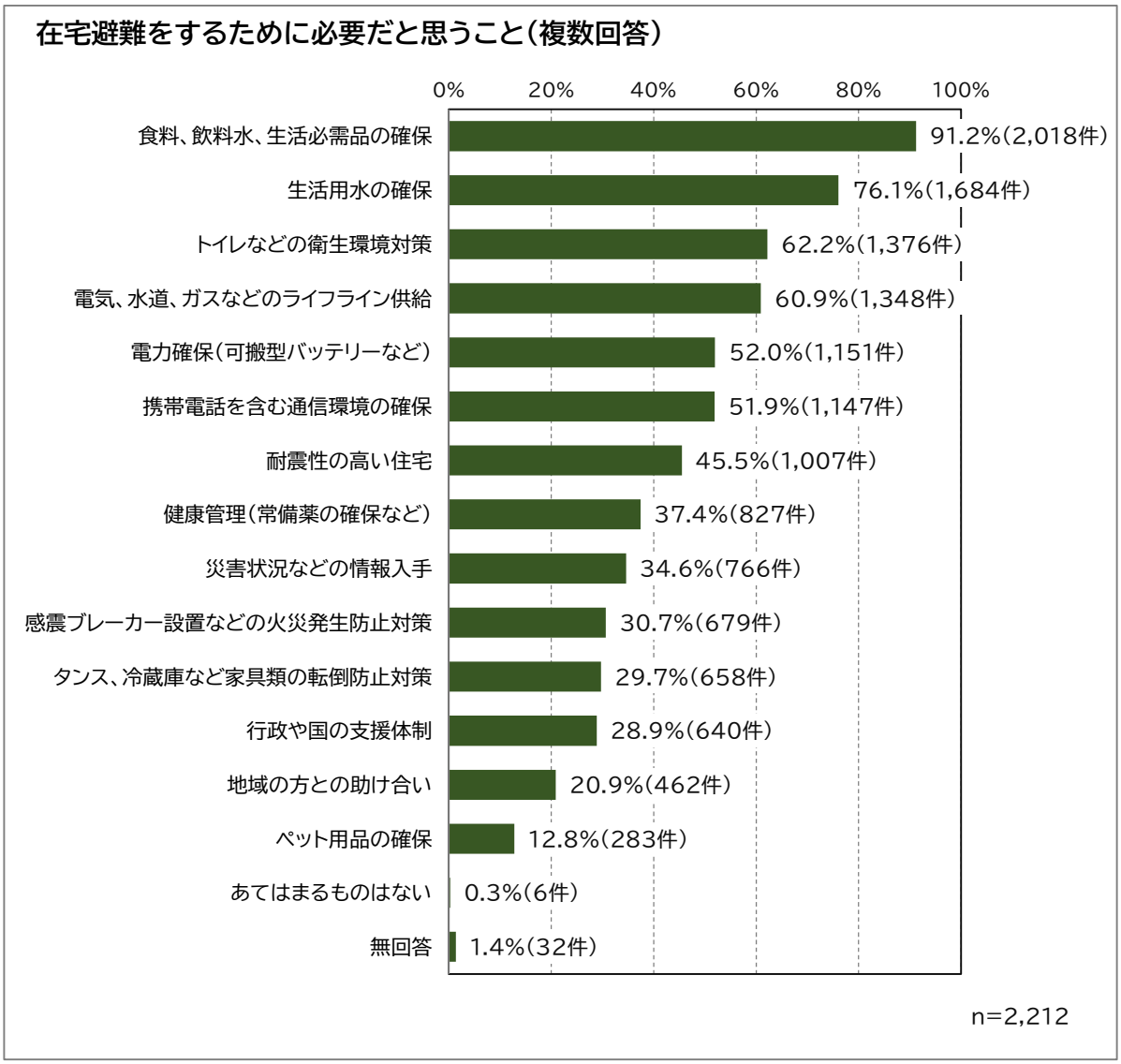
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(新代田地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

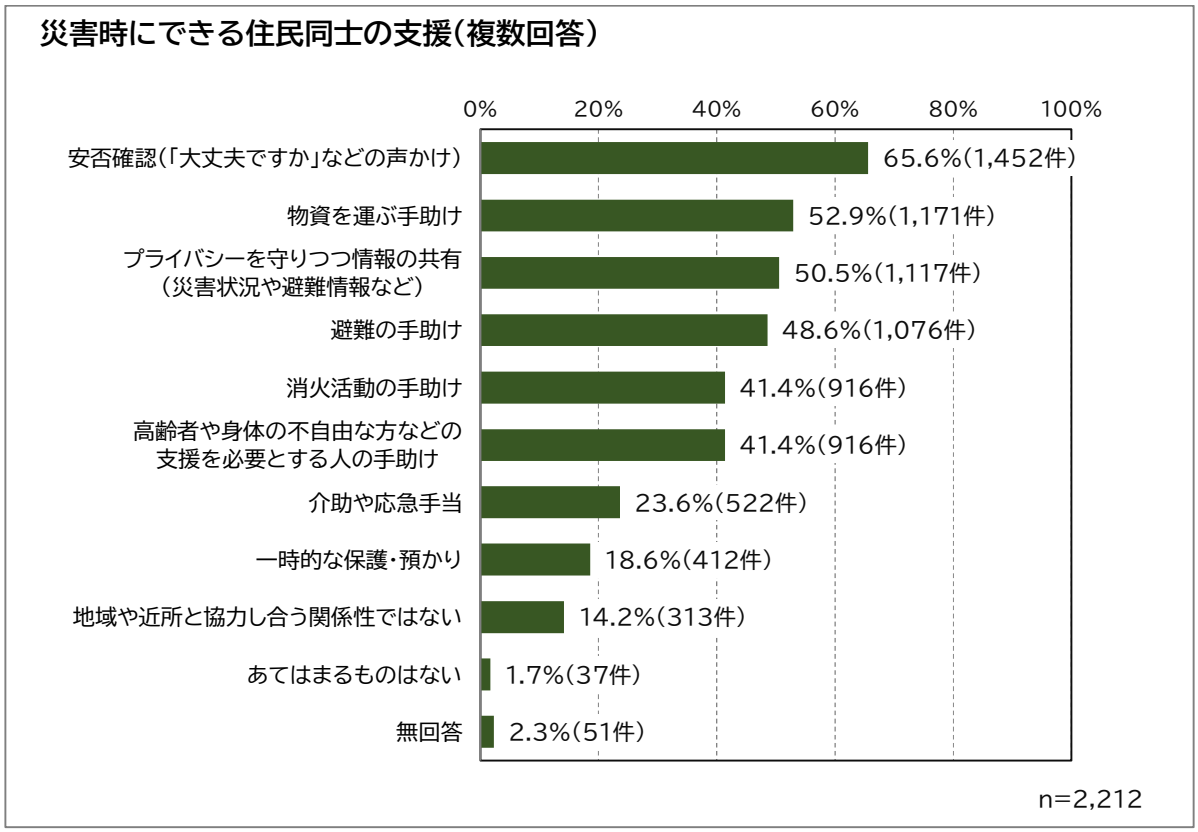


(7)区民アンケート(新代田地区)

単純集計(5/5)

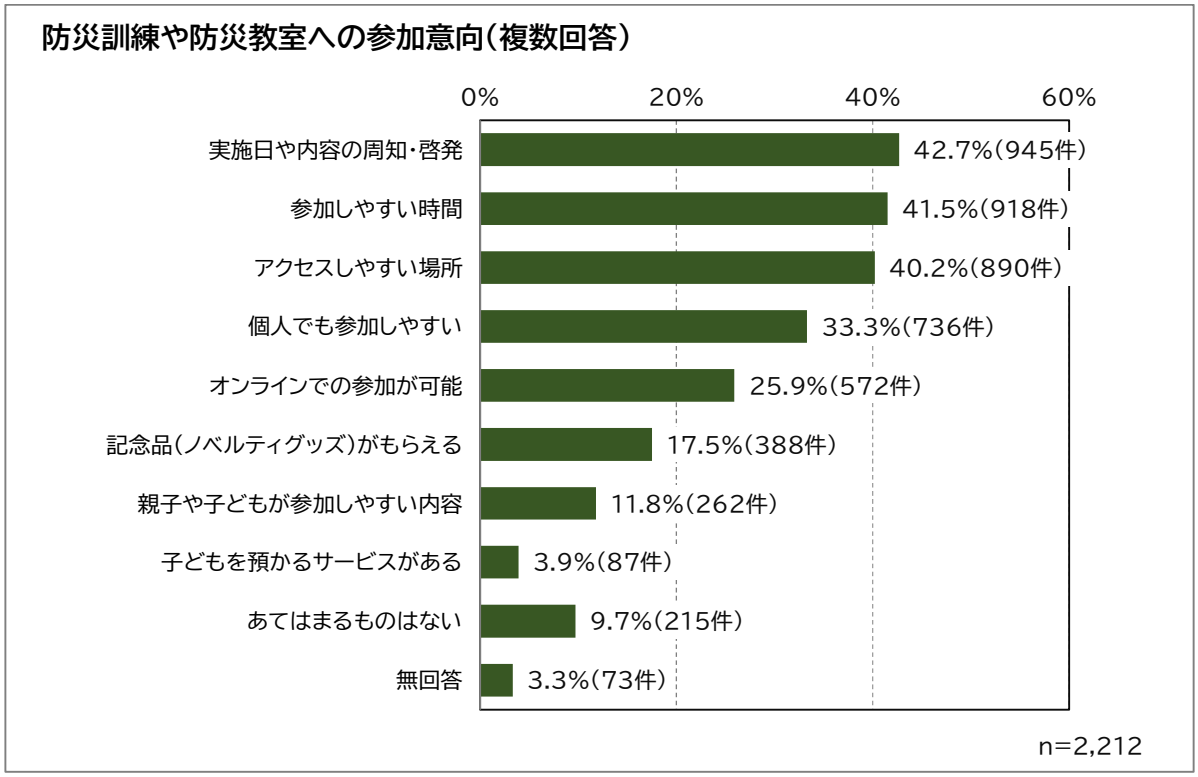
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

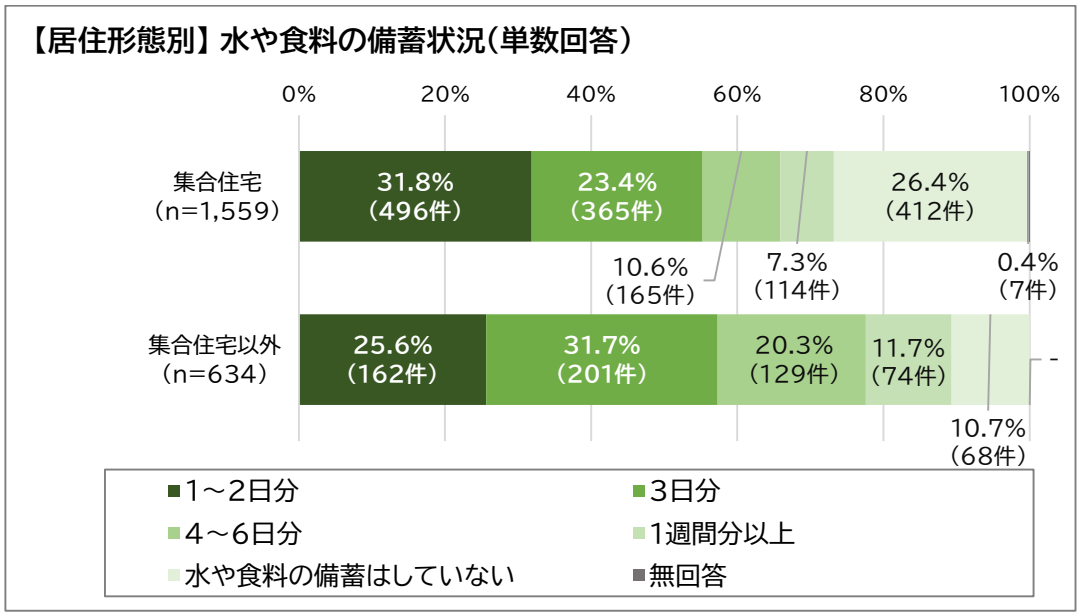


(7)区民アンケート(新代田地区)

クロス集計(1/4)

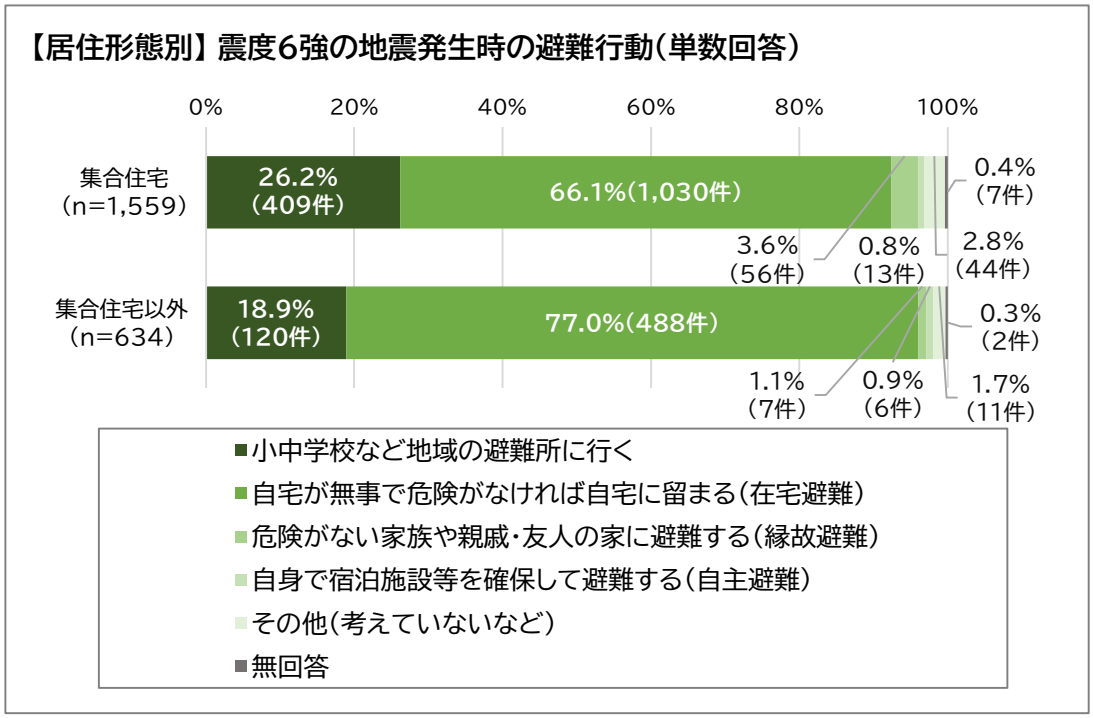
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(新代田地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

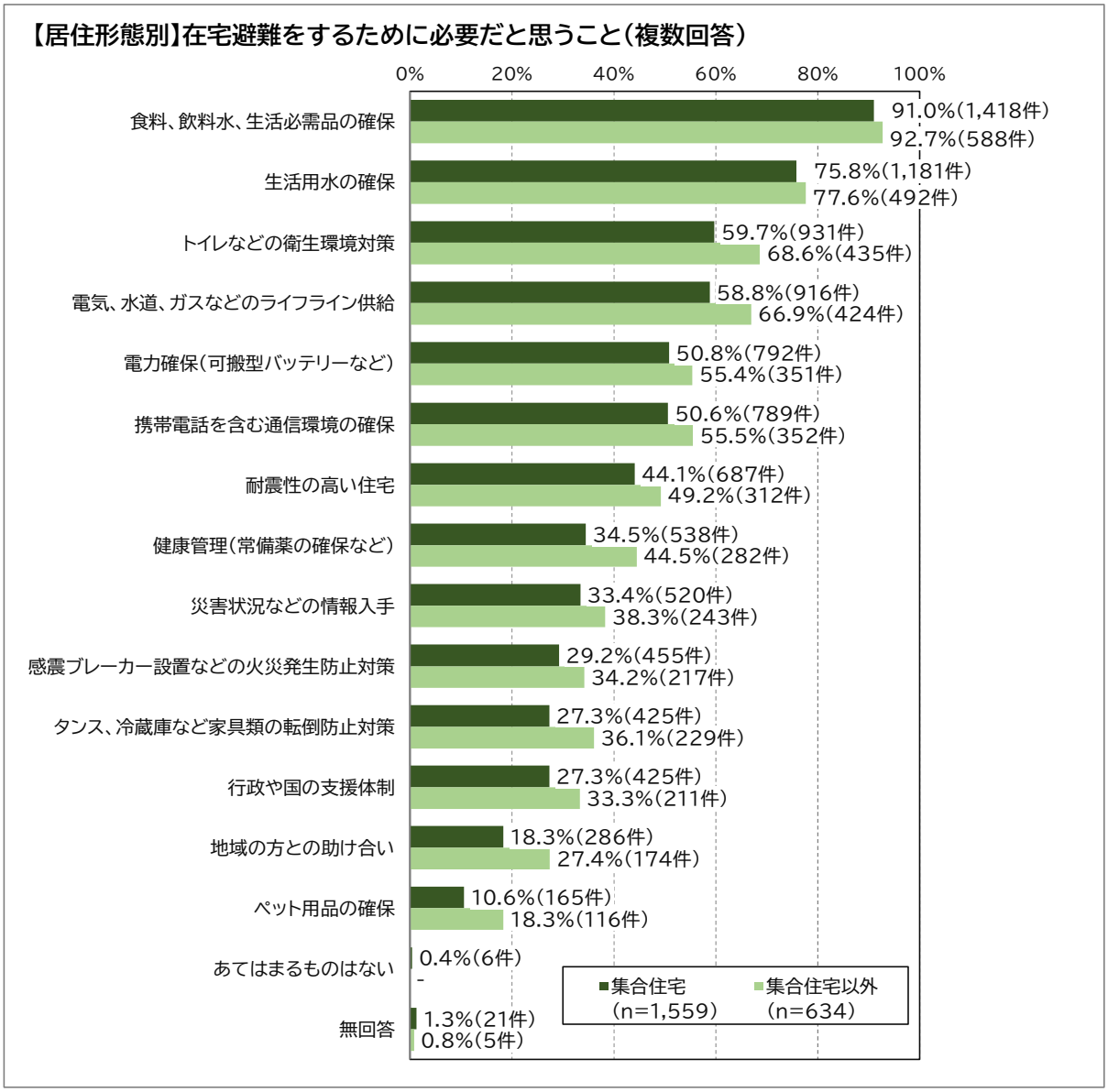
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(新代田地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

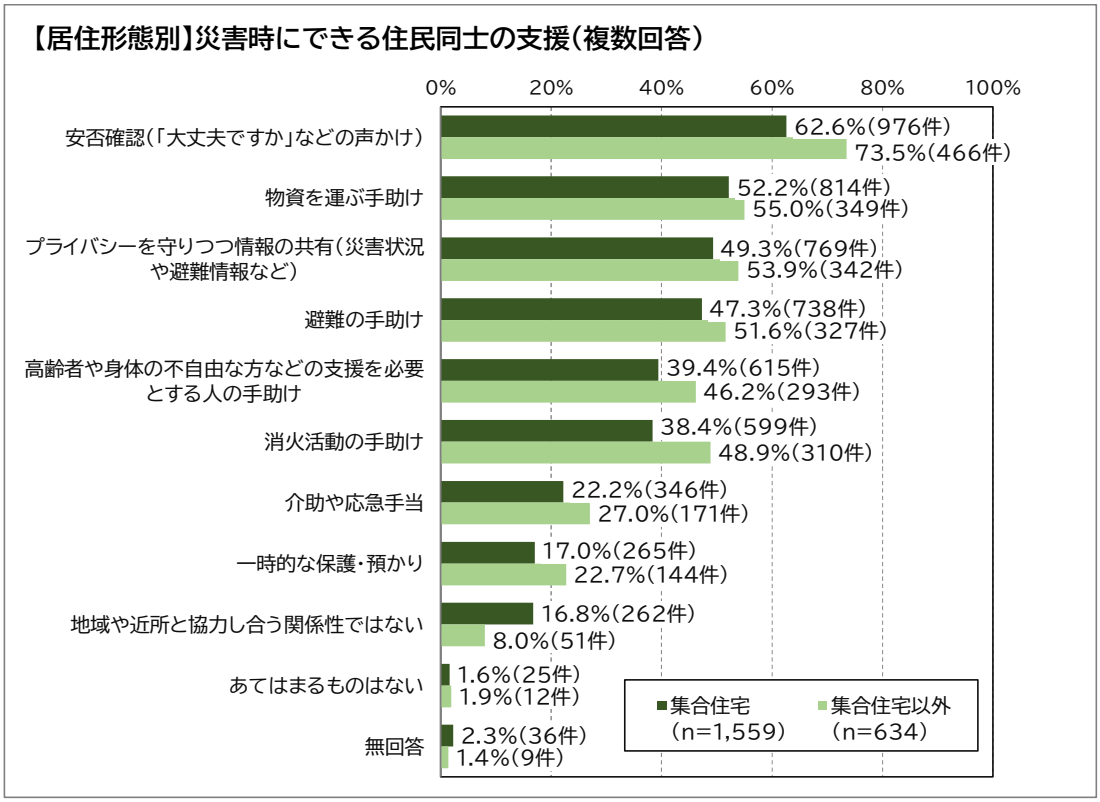


(7)区民アンケート(新代田地区)

クロス集計(4/4)

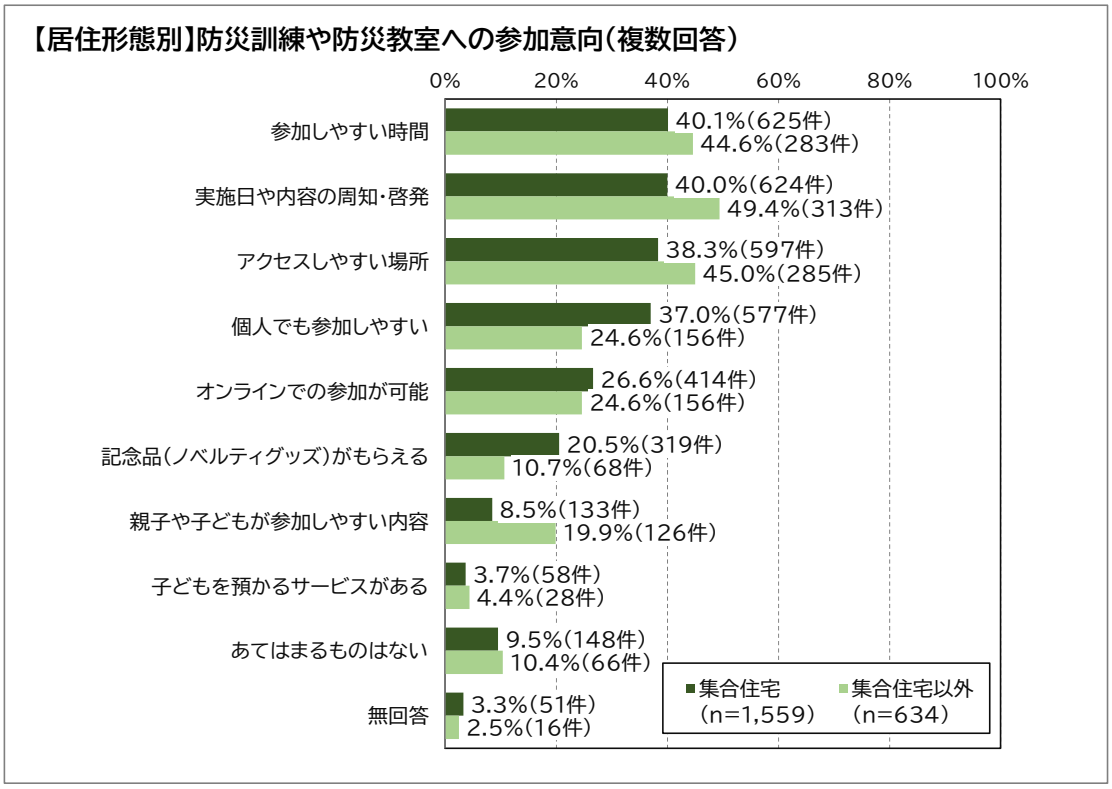
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備					
										スタンドパイプ		D型ポンプ	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所	数量	場所
代田4丁目町会	11	○				○		○		1	防災倉庫	1	防災倉庫
根津山会	6		○				○		○				
代田東町会防災部	7	○		町会理事会及び防災部	2	○			○			2	町会会館、町会内小公園
代田南町会	12	○		町会役員会	10	○		○		6	町内消火栓近くに配置		
守山町会	10		○				○		○				
代田北町会	13		○			○		○		2	町会防災倉庫	1	町会防災倉庫
大原南町会	9	○		大原南町会役員会	12	○		○		3	大原1-7、大原1-20、大原1-24	1	大原さんかく公園防災倉庫
大原北町会	6	○		防災訓練	4	○		○		4	会館倉庫、防災倉庫×3	4	防災倉庫×4
大原西町会	8	○		大原西町会防災部	3	○		○		4	町内4か所にて設置	1	大原西町会防災倉庫
羽根木町会防災組織	16	○		町会定例会議	6	○		○		3	羽根木2丁目公園、羽根木神社	2	羽根木2丁目公園

団体名	消火資機材の配備				防災訓練等の実施							
	消火器		その他				防災訓練		救命救急講習会		その他	
	数量	場所	名称	場所	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所
代田4丁目町会			バール、角棒、担架、ジャッキ、防火服、防災ヘルメット	防災倉庫	○		1	地区会館又は代田小学校	1	区開催参加	避難所運営訓練	代田小学校
根津山会						○						
代田東町会防災部	2	町会会館			○		1	町会会館、代田小学校	1	町会会館及び町会小公園		
代田南町会					○		2	スタンドパイプ配置所				
守山町会						○						
代田北町会						○						
大原南町会	27				○		1	下北沢小学校及び周辺	1	区営住宅集会室		
大原北町会	2	町会会館	バール、角棒、担架、ジャッキ	防災倉庫、町会会館	○		6	かるがも公園、GoGo公園				
大原西町会			C型ポンプ	大原西町会防災倉庫	○		1	玉川上水緑道公園	1	玉川上水緑道公園	D型、C型ポンプ	大原西町会防災倉庫
羽根木町会防災組織					○		1	下北沢小学校			D型ポンプ、スタンドパイプ、消火器操作	羽根木神社

団体名	防災マップ												防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）				
					掲載情報																
	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容
代田4丁目町会	○				○	○	○	○	○	○	○	AED			2				○		
根津山会				○										○		○			○		
代田東町会防災部			○										1		1				○		
代田南町会				○															○		
守山町会				○										○		○			○		
代田北町会	○				○	○	○	○	○	○	○	AED	1			○	○			羽根木町会	
大原南町会	○			○	○		○	○	○		○		1			○	○			隣接町会との情報・物資交流	
大原北町会	○				○	○	○	○	○	○	○		1			○			○		
大原西町会	○				○		○		○		○			○		○			○		
羽根木町会防災組織			○		○			○		○	○			○		○			○		

団体名	避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）				
	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
代田4丁目町会			○	○			○		○		○				
根津山会	○			○		町会役員が把握	○							○	
代田東町会防災部		○				町会内を月1～2回、3班に分かれてパトロールする							○		
代田南町会	○			○					○					○	
守山町会			○				○							○	
代田北町会			○	○									○		
大原南町会		○		○	○				○				○		
大原北町会	○			○		町会役員担当、年2回実施		○	○				○		
大原西町会			○			班別にて、訪問して現況を町会常会に状況を報告する								○	
羽根木町会防災組織			○				○		○					○	

団体名	救出救助に係る資機材の配備																	
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
代田4丁目町会		○				1	1	550		5				2				防災倉庫
根津山会	○					1							1					町会長宅庭
代田東町会防災部		○			2	1		20		2	5	2	2		2			町会会館、町会内小公園
代田南町会	○																	
守山町会	○																	
代田北町会		○	1		1	3	2	40	1								防災用ガソリン缶、灯油缶	町会防災倉庫
大原南町会		○	1		1	1	1	10		1							車椅子1台、放水用水槽 1個	大原南広場防災倉庫
大原北町会		○	2	1	1	1	3	7	1	1	3	1		1				町会会館
大原西町会		○	3	1			1	20		5	3	2	1	1	1		テント3張	大原西町会防災倉庫
羽根木町会防災組織		○	2			1	1										放水用水槽1個(D型ポンプ用)	羽根木2丁目公園

団体名	食糧等の備蓄															
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他
代田4丁目町会	○											○	○			防災倉庫
根津山会		○		○	○						○			2		
代田東町会防災部		○		200			300									
代田南町会	○															
守山町会	○															
代田北町会		○	600	600		90						2	2		30ﾘｯﾄﾙ×20（簡易）	防寒用シート100枚
大原南町会		○	300	1270							10					
大原北町会		○	1500	1500	500				4		3	3	4	2		
大原西町会		○	200	2缶	100	200	60	200	2			5	2	1		
羽根木町会防災組織		○				720	パン480				1000		3	3		氷砂糖 8袋

団体名	食糧等の備蓄		その他の防災活動
	保管場所	備蓄品配布先	
代田4丁目町会			年末の見回り、防災ヘルメットの配布（年1回）
根津山会	町会長宅		
代田東町会防災部	町会と館内		
代田南町会			年末に夜警（火の元注意）を実施予定
守山町会			避難所運営会議を年3回程行う
代田北町会	町会防災倉庫		
大原南町会	大原南広場防災倉庫	大原南町会会員（住民）他	
大原北町会	町会会館		簡易無線機（3台）
大原西町会	大原西町会防災倉庫	大原稲荷神社	
羽根木町会防災組織	羽根木神社	羽根木神社	歳末夜警巡回活動実施

3. 新代田地区の課題と今後の取り組み

課題1　情報収集・情報伝達

■1班（大原北町会、大原西町会）

①現状（意見）

・災害に関する情報を、どのように把握し、どこへ伝達するか、その判断が重要なポイントである。
・災害時には、混乱等により防災無線や行政無線は充分な機能が果たせない可能性がある。

②地区における今後の取り組みの方向性

・町会役員は、日々の訓練を通して、避難者に関する情報収集や管理方法を熟知している。
・災害時には30分以内に災害対策本部を設置できる体制を進めている。
・近隣の被害状況等の確認や円滑な情報伝達ができるように、一時集合所にも町会役員を配置している。
・さまざまな災害状況を想定して、定期的に防災訓練を実施している。
・町会名簿を定期的に更新している。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・集合住宅も含めた防災用の名簿の作成と整備を進めていく。
・町会相互の連携を図る（無線機等を活用した情報の共有化）。
・町会の無線機が発災時に活用できるよう随時検証していく。【大原西町会】

■2班（代田北町会・羽根木町会）

①現状（意見）

・防災に関する印刷物は、内容の点検や確認、更新を定期的に行う必要がある。
・防災情報の周知方法をどのように行うのか、整理しておく必要がある。

②地区における今後の取り組みの方向性

・町会独自で防災マップを作成し配付している。
・緊急連絡シートを世帯ごとに配布し、家庭内で家族の安否確認ができるように活用してもらっている。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・防災マップの内容について、定期的な更新作業を検討する。

■3班（代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会）

①現状（意見）

・情報の収集について、スマートフォンや携帯電話を所有しない住民もいるのではないか。
・手軽に情報が入手できる、ラジオの活用を進めるべきである。

②地区における今後の取り組みの方向性
・避難所に電話機を設置する。
・連絡用の無線機を所有している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・情報収集が容易にできる、ラジオの普及を進める。
・まず隣近所への情報伝達を心がけていく。

■4班（代田4丁目町会・根津山会）
①現状（意見）
・スマートフォンは情報収集ツールとして有用だが、高齢者には使い方がわからない場合がある。
②現在地区で取り組んでいる内容
・災害時に備えて、町会役員の緊急連絡網を作成している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・町会加入者全員の情報を網羅した、緊急連絡網の作成を目指す。
・自治体が作成、発行した資料の周知とその活用を推進する。
・定期的なパトロールを実施し、地区の危険箇所の把握とその情報周知を図る。
・防災マップの利用の仕方、高齢者への避難の伝達方法について考えていく必要がある。【代田 4 丁目町会】

課題2　地域・コミュニティ作り
■1班（大原北町会、大原西町会）
①現状（意見）
・個人情報の収集とプライバシーの保護をどのように両立させるか。
・これから地域を支える新たな担い手をどのように育成していくか。
・地区の中学校や高校の生徒を巻き込んだ防災活動を進めることはできないか。
②地区における今後の取り組みの方向性
・地区の中学校や高校へ個別に要請し、防災訓練等への参加を促すチラシを配付している。
・町会の活動を知ってもらえるように説明した。【大原北町会】
③各団体における今後の取り組みの方向性
・共同住宅等への入居者に関する情報を把握するため、建物の管理会社等との連携、協力要請を検討する。
・学校や PTA との情報共有を図り、生徒との連携を深める方策を模索する。

■2班（代田北町会・羽根木町会）
①現状（意見）
・集合住宅居住者の情報をどのように収集するのか。

・災害に対する危機感よりも、プライバシー保護を優先に考えている住人が多いのではないか。
・学校との連携を充実する必要がある。
・若者への働きかけを推進する。

②地区における今後の取り組みの方向性

・町会掲示板を活用して、防災に関する情報提供を行っている。
・地区の防犯パトロールを実施し、危険箇所等の確認や把握に努めている。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・集合住宅居住者に対する、防災活動の重要性を効果的に周知する方法を検討する。
・防災訓練等への積極的な参加を促進するための効果的な働きかけを進める。

■3班（代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会）

①現状（意見）

・防災力を高めるために、町会への強制的な加入を進めることはできないが、加入してもらうための何らかの工夫は必要である。
・私立学校との情報交換が希薄ではないか。

②地区における今後の取り組みの方向性

・公立の学校と、常に情報の共有を図っている。
・募金活動に付随して、防災訓練等への参加を促している。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・災害時の連携が図られるよう、近隣の私立学校への働きかけを進める。【代田南町会・大原南町会】
・小学生や中学生その保護者を対象に、防災訓練参加を求める取り組みを進める。
・私立学校に備蓄品や資機材の置き場を提供してもらうよう要請していく。【代田南町会】

■4班（代田4丁目町会・根津山会）

①現状（意見）

・町会への加入促進も含めて、共同住宅の管理人等への災害時における協力要請を働きかけてはどうか。

②地区における今後の取り組みの方向性

・地区の中で「お互いの顔が見える」活動の一環として、小学校の登下校時間を活用し、あいさつ運動を積極的に行っている。
・親と子どもたちの円滑なコミュニケーションの形成を促すためのイベントを実施している。
・小学校と連携し、定期的に避難所運営訓練を実施している。
・「おやじの会」主催の防災訓練を定期的に実施している。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・避難所運営訓練等の実施にあたり、おやじの会だけではなく、地区内の他団体との連携を図っていく。
・地区の住民を対象とした、防災倉庫内の用具の確認や、それらの用具の使用訓練の実施を検討する。【代田４丁目町会】
・マンション居住者への町会加入の促進に向けた取り組みと併せて、防災訓練等への参加の要請を進める。

課題3　安否確認・要配慮者支援

■1班（大原北町会、大原西町会）

①現状（意見）

・収集した要配慮者に関する、さまざまな個人情報の保護を徹底する必要がある。
・個人のプライバシーを守ることによって、充分な対応が難しくなる場面も出てくる可能性がある。

②地区における今後の取り組みの方向性

・災害時要援護者支援協定を締結している。
・民生委員の把握している情報（名簿）を活用している。
・定期的に「要援護者名簿」に基づいて、地区の巡回を行っている。
・町会独自で全世帯を対象に「安否確認板」を配付し、高齢者や要配慮者宅の玄関に表示できるようにしている。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・災害時の安否確認（安否確認板等の活用）が把握できるよう、集合住宅に入居している方の情報を管理会社等と共有ができないか検討する。

■2班（代田北町会・羽根木町会）

①現状（意見）

・個人情報保護の壁をどうクリアするか、大きなテーマである。

②地区における今後の取り組みの方向性

・民生委員による地区のみまもりを定期的に行っている。
・地区に居住する 75 歳以上の方の情報を把握している（自己申告制）。
・地域のみまもりネットワークを立ち上げている。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・災害時要援護者支援協定の締結を目指す。
・「みまもり見回り名簿」の作成を検討する。

■3班（代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会）

①現状（意見）

・個人情報保護の壁をどのように乗り越えるか、検討が必要である。

②地区における今後の取り組みの方向性
・町会で独自の名簿を作成している。
・支援が必要な世帯に対して、玄関先に掲出する赤い札を配付している。
・町会長自らが、要配慮者宅を巡回訪問し確認を行っている。
・地区の班長が定期的に巡回し状況を把握している。
・大きな地図に要配慮者をマッピングしている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・何らかの配慮や支援が必要な方への訪問を定期的に行い、要配慮者の情報収集の手法を検討する。【代田南町会・大原南町会】
・正確な地域の災害状況の把握方法を検討していく。
・町会が主体となって、高齢者の居住情報の把握を進める。
・隣近所の人を気にかけ孤立させないようにしていく。

■4班（代田4丁目町会・根津山会）
①現状（意見）
・個人情報を収集するのは、かなり大変なことではないか。
・安否確認については、まずは家族がきちんと状況を把握しておく必要がある。
②地区における今後の取り組みの方向性
・災害時要援護者支援協定を締結している。【根津山会】
・町会役員が、要配慮者に対する救護活動の役割分担を明確にしている。
・救助活動に必要な物品や用具類を配備している。
・「敬老の日」に高齢者宅を訪問し、状況の把握に努めている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・普段から、災害対策について「家族で話し合える」情報の提供を進める。

課題4　初期消火活動
■1班（大原北町会、大原西町会）
①現状（意見）
・町会で配備している防災用具が充分に活用できるか不安である。
②地区における今後の取り組みの方向性
・消火器具の使用訓練を定期的に実施している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・さまざまな機会を通じて、防災用具の使用方法や活用法に関する情報提供、訓練を継続的に実施していく。

■2班（代田北町会・羽根木町会）
①現状（意見）
・防災用具（スタンドパイプ）の操作方法を熟知している住民が、どの程度いるのか

不安である。
・定期的な訓練計画を立てることが重要である。
・防災倉庫やD級可搬ポンプは、地域の状況等も勘案して配備する必要がある。
・避難場所の周知について、住人の目に付きやすい場所に表示をすることができないか。
・避難訓練等への参加者の拡充を進める必要がある。
・訓練の回数や内容の充実を図り、住民が参加しやすい訓練を行う必要がある。

②地区における今後の取り組みの方向性

・定期的な避難訓練を実施し、併せて避難用具の操作説明を参加者に行っている。

③各団体における今後の取り組みの方向性

・避難訓練の参加者を増やすための働きかけを継続的に進めていく。
・誰でも使用できるように、防災用具(スタンドパイプ)の操作方法の説明や用具の配置、活用方法を検討する。【代田北町会】
・防災用具(スタンドパイプ、発電機)の増設、また、操作できる人材を増やす。
・町会独自の消防計画を策定し、その計画に基づいた訓練の実施を目指す。

■3班(代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会)

①現状(意見)

・地区によって防災用具に格差(人員・場所・台数)があるのではないか。
・防災物品の保管場所の確保が難しい。【代田南町会】
・防災用具(スタンドパイプ)を操作できる住民の確保が難しい。

②地区における今後の取り組みの方向性

・避難所訓練を定期的に実施し、防災用具の使用説明を行っている。
・年１回訓練を継続している。【大原南町会】

③各団体における今後の取り組みの方向性

・防災物品の拡充と保管場所について、行政とも充分調整を図りながら、確保を進める。【代田南町会】
・防災用具の取り扱いに関する訓練の回数と参加者の拡充を図る。【代田東町会・代田南町会・大原南町会】

■4班(代田4丁目町会・根津山会)

①現状(意見)

・消火活動の役割分担を明確化しておく必要がある。
・地区の住民が、防災用具の使用方法を理解しているか不安である。

②地区における今後の取り組みの方向性

・町会内で消火活動の役割分担を定めている。
・避難所運営訓練を定期的に開催し、災害時に備えている。

・スタンドパイプの使用訓練を定期的に実施している。
・町会加入者を対象に、防災用ヘルメットを配付している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・町会が主催する防災訓練の開催頻度を増やし、訓練への参加者拡大を図る。

課題5　避難誘導

■1班（大原北町会、大原西町会）
①現状（意見）
・広域避難場所が地区から遠い場所にあるため、一時集合所の積極的な活用を図る必要がある。
②地区における今後の取り組みの方向性
・地区防災マップを作成、配布し、情報提供を行っている。
・避難所運営訓練を定期的に実施している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・避難所訓練を定期的、かつ継続的に実施していく。【大原西町会】
・広域避難場所や一時集合所の充実とルート確認や安全に移動できる手段等を検討する。

■2班（代田北町会・羽根木町会）
①現状（意見）
・災害時に混乱を招かないように、避難所施設の使用方法や避難所運営の方法を明確にしておく必要がある。
・学校、避難所施設に子どもたちがいる場合等、あらゆる場面を想定して避難所運営訓練を行うべきである。
②地区における今後の取り組みの方向性
・町会役員が主体となって訓練等への参加、運営を行っている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・避難訓練等の情報提供の方法を検証し、地区住民への周知徹底、参加者の拡大に繋がる方策を模索する。
・避難所施設の利用方法等について見直しが必要である。
・避難所の開設がスムーズにできるよう避難所運営訓練に力を注ぐ。

■3班（代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会）
①現状（意見）
・防災用具（スタンドパイプ）の保有数について、地区によってばらつきがある。
・一時集合所の場所について、どの程度の住民が認知しているかわからない。
②地区における今後の取り組みの方向性
・定期的に避難所訓練を実施し、避難所の円滑な設営や運営を心掛けている。

③各団体における今後の取り組みの方向性
・地区の安全を担保するため、学校の見回り要員の増員を進める。

■4班（代田4丁目町会・根津山会）
①現状（意見）
・防災士や救命救急講習受講者の活用を図ることができないか。
②地区における今後の取り組みの方向性
・避難所運営訓練を定期的に実施している。
・地区内の避難ルートの確認を行い、安全確保に努めている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・防災訓練の実施にあたり、多く住民が参加できる訓練の方法を検討する。
・防災マップを使い、安全に避難できるルートを説明する必要がある。【代田４丁目町会】
・地区の中で「顔が見える関係づくり」を進める方策を検討する。・学校PTAを通して防災訓練の参加者を集める。

課題6　その他の課題
■1班（大原北町会、大原西町会）
①現状（意見）
・教育活動の一環として、防災の重要性や災害時の心掛け等、意識改革を図る必要があるのではないか。
・地区住民の防災意識を高めるためにも、継続的に啓発活動を進める必要がある。
②地区における今後の取り組みの方向性
・防災訓練等の実施に関するチラシの配付や回覧を行い、参加を促している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・地区住民の防災意識を高めるため、継続的な防災活動に関する情報の周知をするとともに、新たな情報提供の手法を模索する。

■2班（代田北町会・羽根木町会）
①現状（意見）
・台風や集中豪雨等による、浸水被害への対策が必要である。
②地区における今後の取り組みの方向性
・町会独自の防災マップを配付し、災害への注意喚起と防災への意識啓発を行っている。
・気象情報等を確認し、必要に応じて現地確認を行い被害状況の把握とその後の対応を行っている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・浸水被害が発生しやすいエリアに対して、必要に応じパトロールを進めていく。

【代田北町会・羽根木町会】
・浸水被害に関する注意喚起を進める。【代田北町会・羽根木町会】
・町会作成の「防災マップ」の見直しを検討する。【代田北町会】

■3班（代田東町会・代田南町会・守山町会・大原南町会）
①現状（意見）
・以前よりも住民の防災に対する意識は高まっている。
・日頃からの防災対策を推進し、災害を最小限に抑える工夫が必要である。
②地区における今後の取り組みの方向性
・避難所訓練実施に関するチラシ等を配付し、情報提供を行っている。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・防災意識の一層の向上を図るための具体的な働きかけの手法を検討する。

■4班（代田4丁目町会・根津山会）
①現状（意見）
・自助努力がもっと必要ではないか。
・災害時の状況について、自分たちも住民も、もっと想像力を働かせて考えて行動することが必要である。
②地区における今後の取り組みの方向性
・町会単位で非常用の食糧を備蓄している。
・防災士及び救命救急講習受講者が町会関係者に多数おり、避難所訓練等に積極的に参加している。
③各団体における今後の取り組みの方向性
・住民の、災害に対する想像力を鍛えるための働きかけを検討する。
・「想定外」や「思いもしない」等、被害を一層甚大にする要因を取り除く方策を模索する。
・自助努力の醸成を図るための働きかけを検討する。
・町会の備蓄物品に関する情報の周知方法を検討する。【代田４丁目町会】
・多くの住民が救命救急講習を受講できるような工夫を検討する。

北沢地区防災計画

［令和7年修正］

北沢地区

【北沢地区防災計画作成団体】

北沢1丁目町会	北沢地区民生・児童委員協議会
東北沢自治会	日本赤十字社北沢分団
北沢2丁目南町会	身近なまちづくり推進協議会安全防災部会
北沢2丁目協和会	青少年北沢地区委員会
北沢3・4丁目西町会	下北沢一番街商店街振興組合
北沢4丁目町会	しもきた商店街振興組合
北沢中央自治会	東北沢商和会
北沢5丁目町会	北沢5丁目商店街振興組合
北沢地区社会福祉協議会	下北沢東会
北沢あんしんすこやかセンター	男女共同参画センター　らぷらす
池之上小学校	池之上小学校PTA
下北沢小学校	下北沢小学校PTA
北沢小学校	北沢小学校PTA
北沢中学校	北沢中学校PTA
松蔭中学校	育成幼稚園
松蔭高校	若竹保育園
松蔭幼稚園	東北沢ききょう保育園

目 次

1 北沢地区の特性 …… 北沢-1(-334-)
(1)自然特性 …… 北沢-1(-334-)
(2)社会特性 …… 北沢-2(-335-)
(3)地域危険度 …… 北沢-4(-337-)
(4)被害想定 …… 北沢-5(-338-)
(5)防災資源一覧 …… 北沢-8(-341-)
(6)防災資源マップ …… 北沢-9(-342-)
(7)区民アンケート …… 北沢-10(-343-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ …… 北沢-19(-352-)

3 北沢地区の課題と取り組み …… 北沢-27(-360-)
(1)外来者が多い …… 北沢-27(-360-)
(2)火災発生の危険度が高い …… 北沢-29(-362-)
(3)傾斜地がある …… 北沢-32(-365-)
(4)避難行動要支援者 …… 北沢-33(-366-)
(5)町会・自治会会員以外の高齢者 …… 北沢-35(-368-)
(6)内水氾濫 …… 北沢-35(-368-)

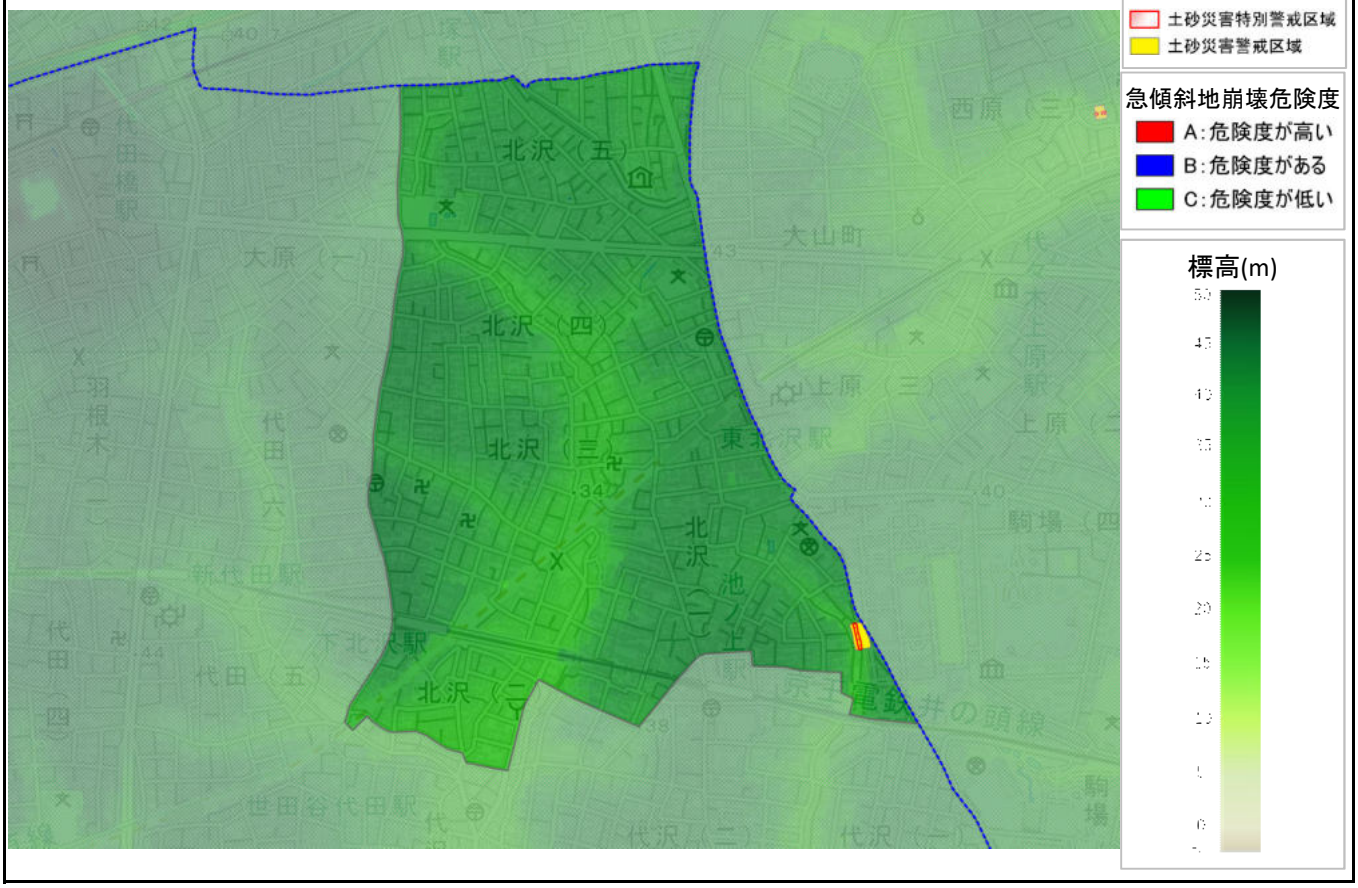
1. 北沢地区の特性

(1)自然特性

面積	0.98 Km²	最高標高	43.6 m	最低標高	25.9 m

位置

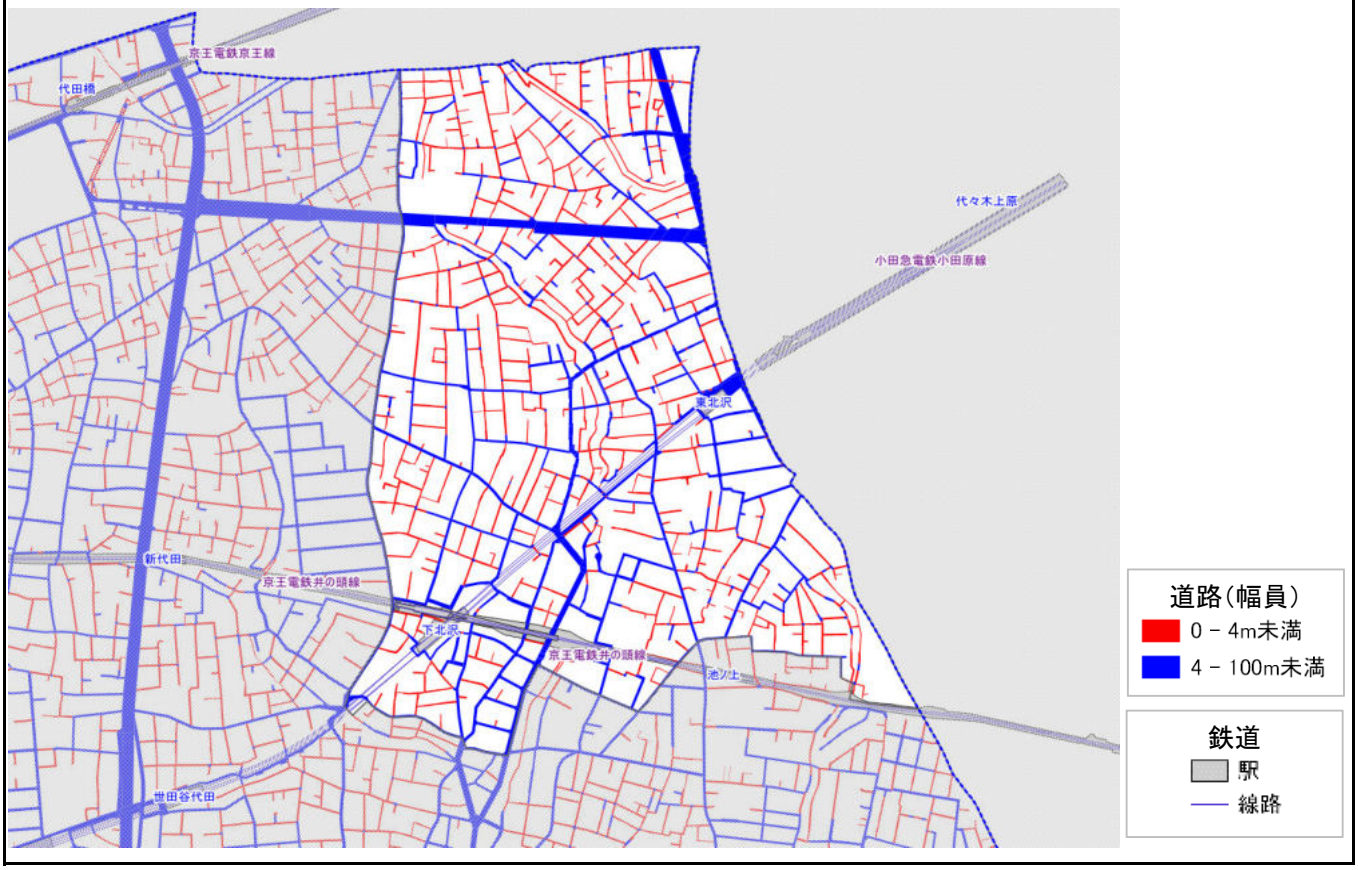
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

人口	18,322 人	細街路率		57.2 %	
世帯数	11,792 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		88.9 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.55 人	耐火率(建築面積ベース)		62.3 %	
若年層数(15才未満)	1,405 人	土地利用(宅地)		75.3 %	
若年層率(15才未満)	7.7 %	土地利用(宅地以外)		24.7 %	
高齢者数(65才以上)	3,691 人	鉄道駅	京王井の頭線下北沢駅 小田急小田原線下北沢駅 東北沢駅		
高齢者率(65才以上)	20.1 %				
昼間の人口	19,600 人	産業	商業	88.7 %	
夜間の人口	19,187 人		工業	11.3 %	
昼夜間人口比	1.02 -		農業	0.1 %	
町会・自治会数	8 -				

道路・公共交通機関



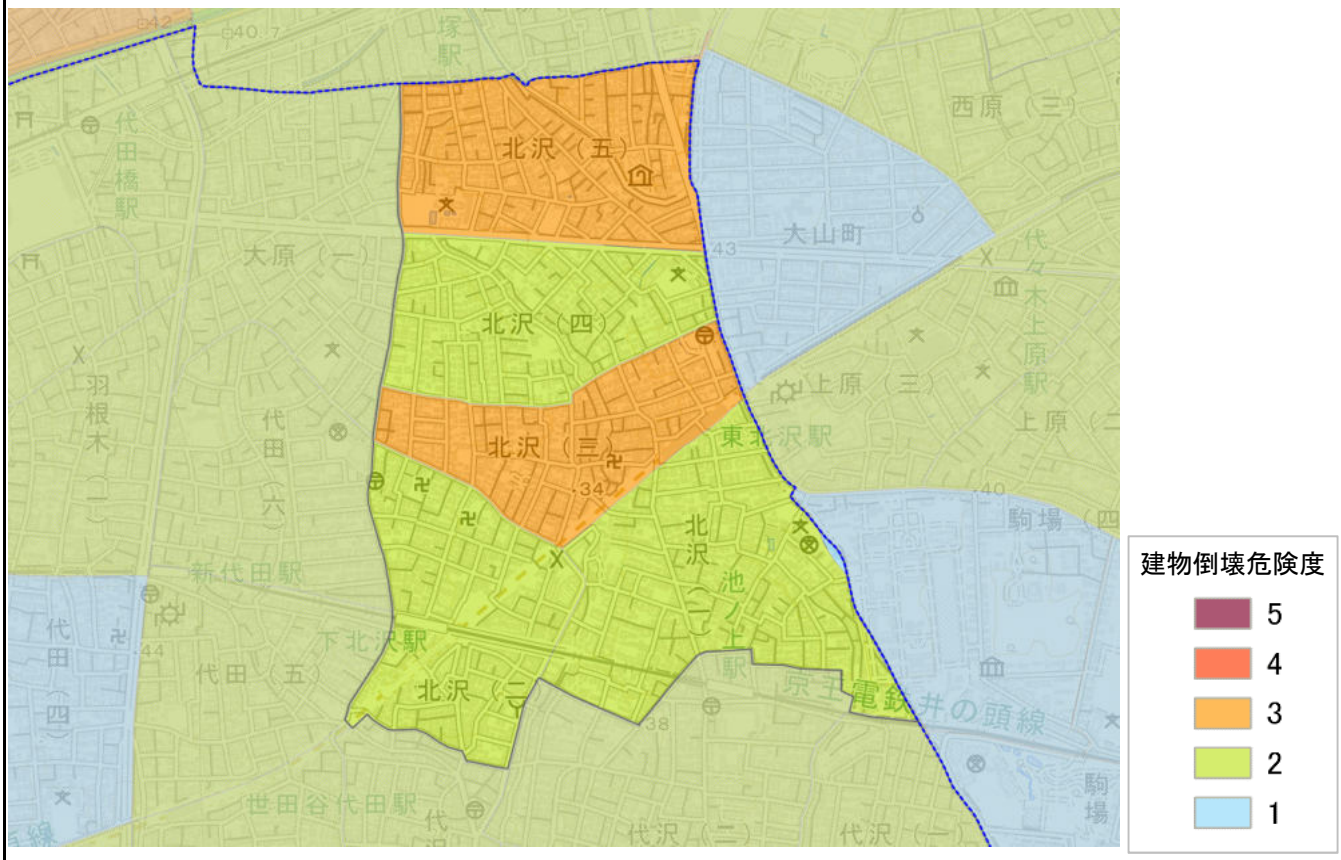
(2)社会特性

産業

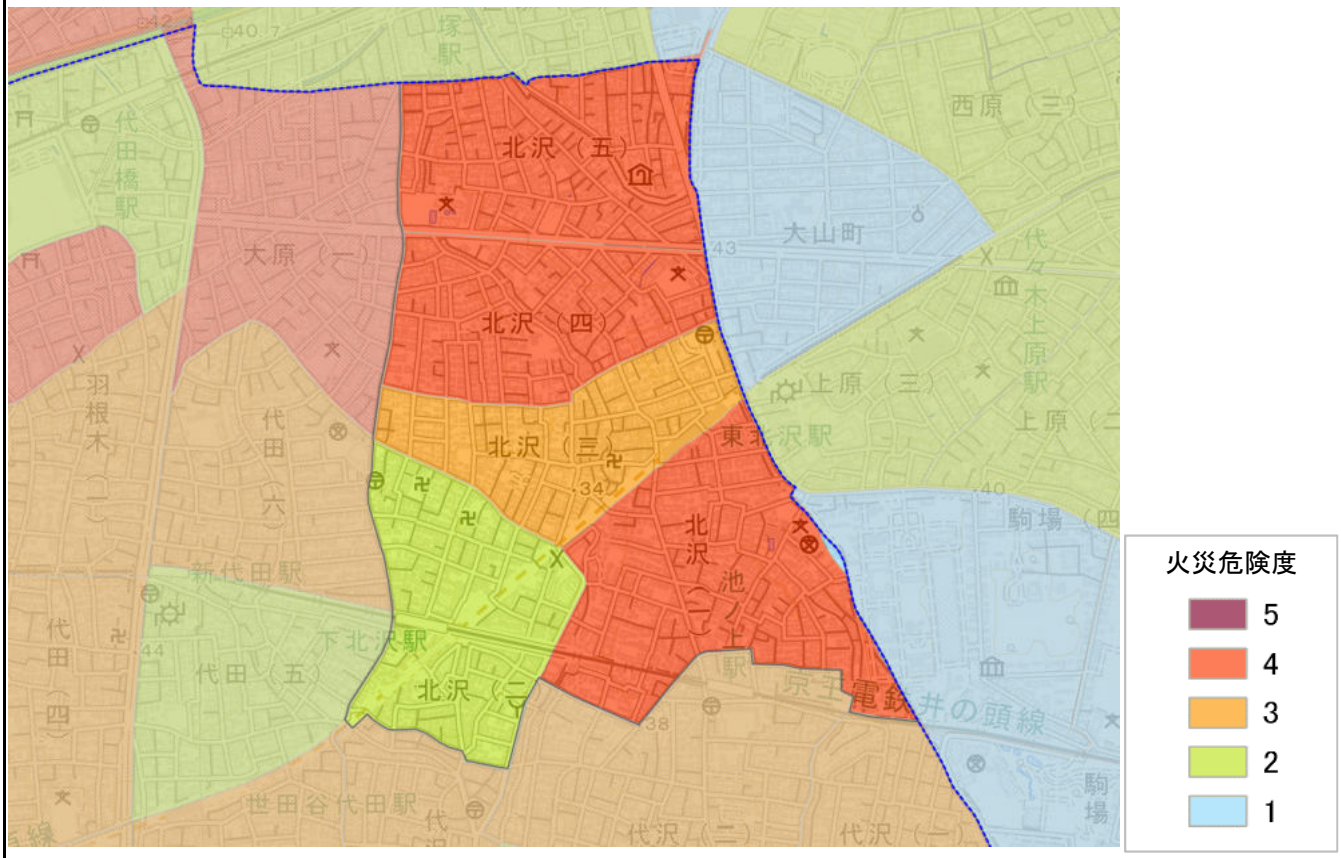
用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



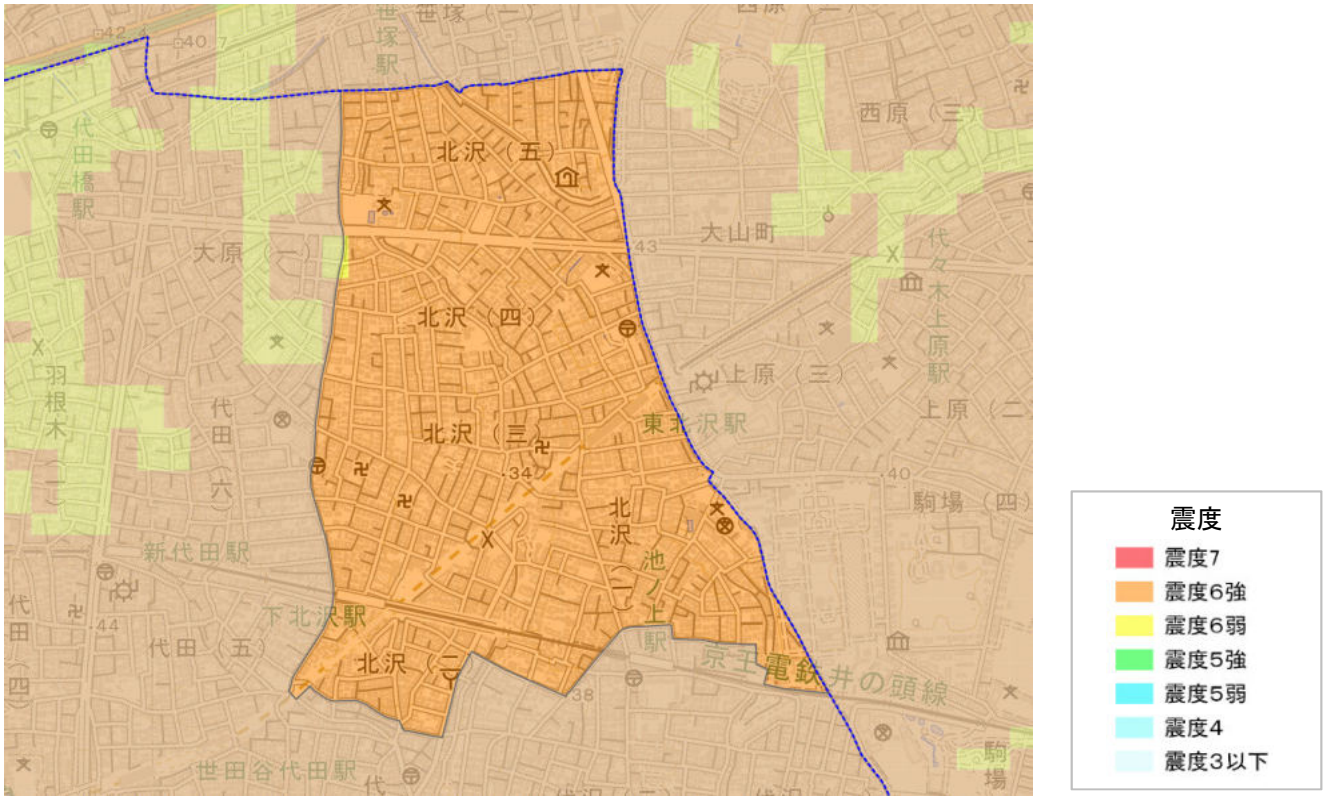
火災危険度



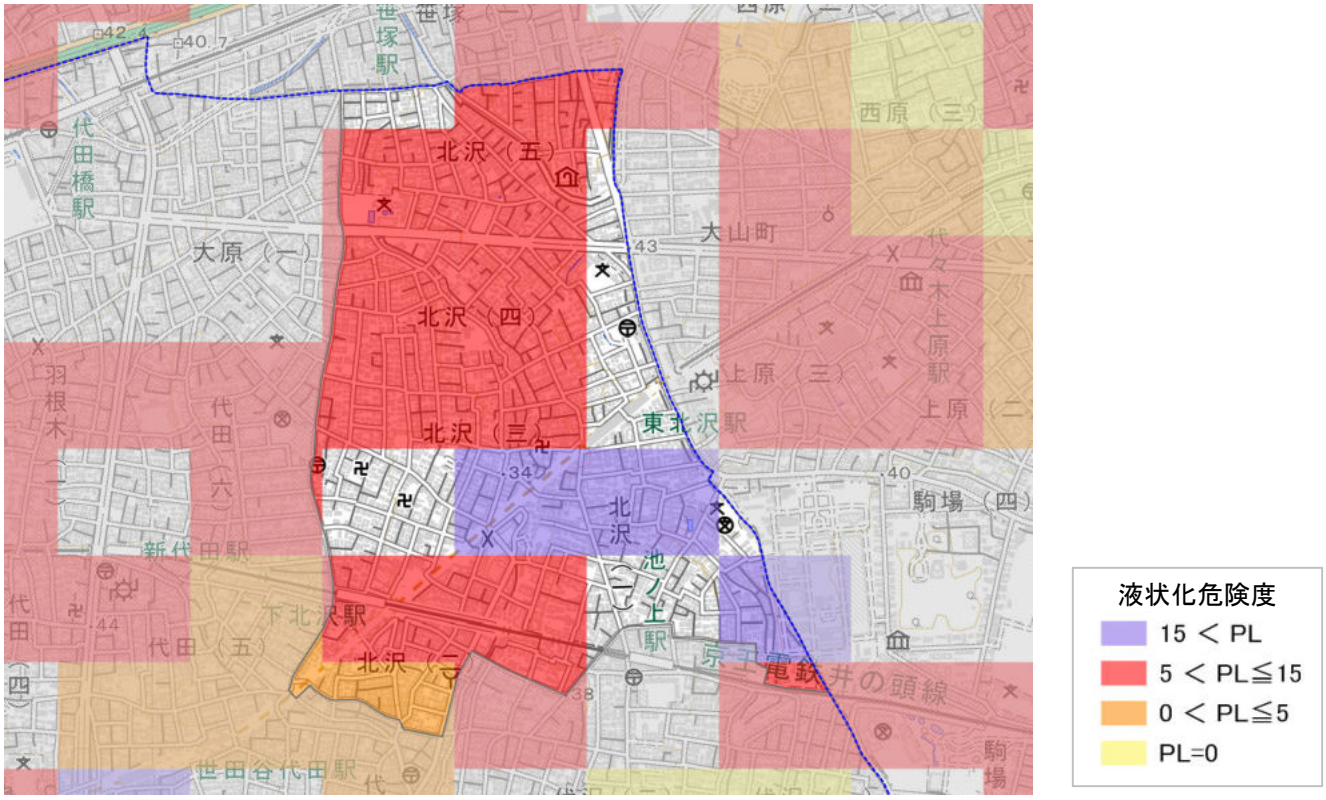
(4)被害想定

全壊棟数	159 棟	死者	15 人
半壊棟数	375 棟	負傷者	169 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	479 棟	うち重傷者	29 人

震度分布

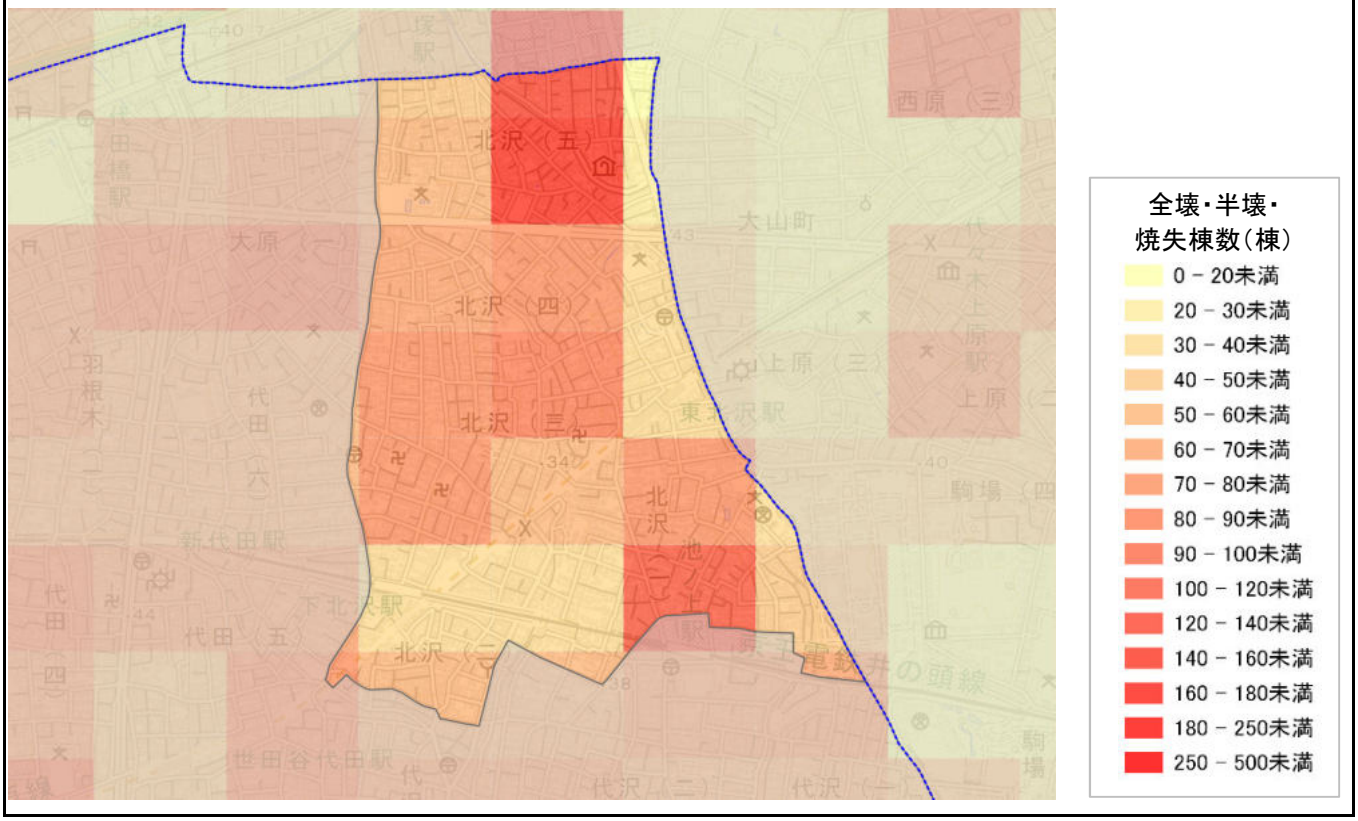


液状化分布



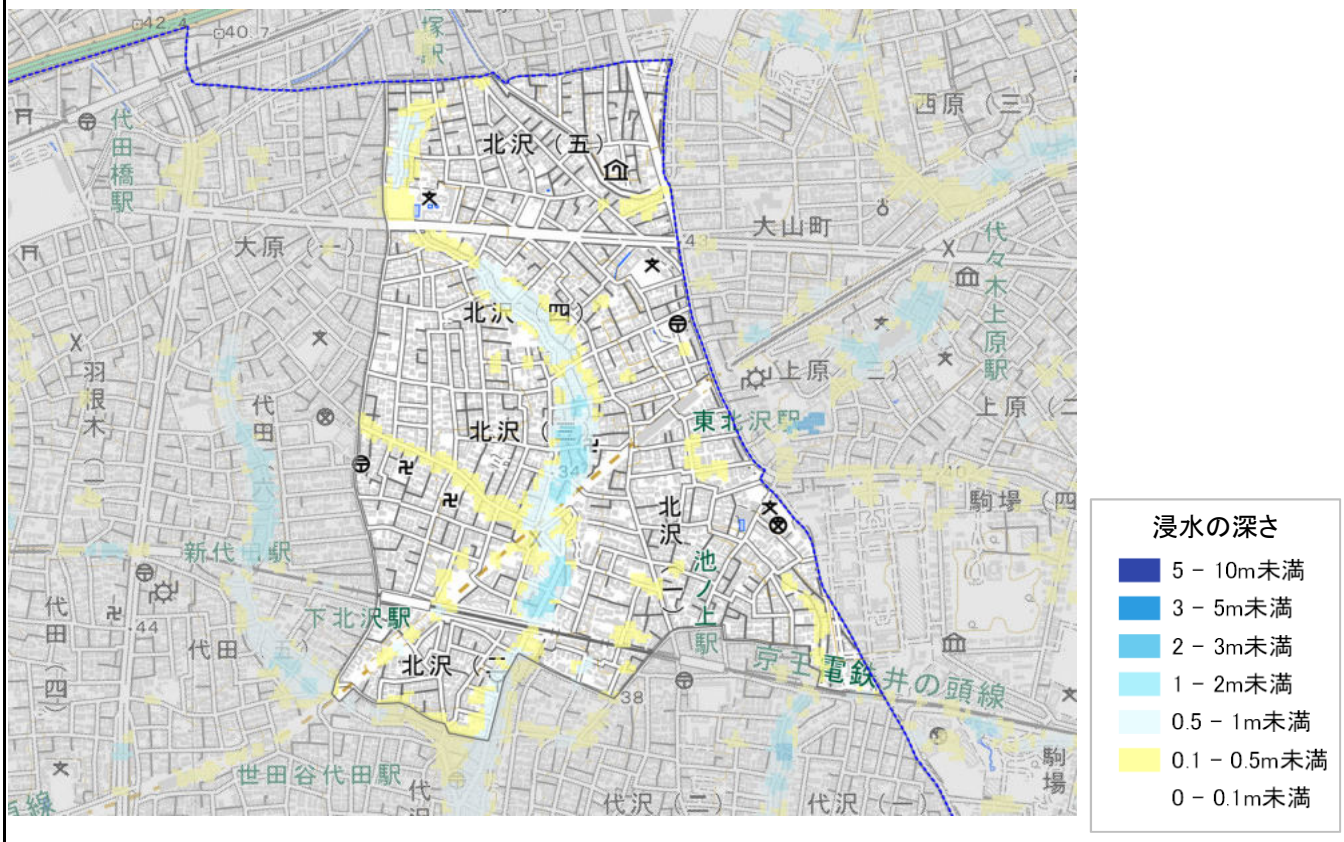
(4)被害想定

被害棟数分布

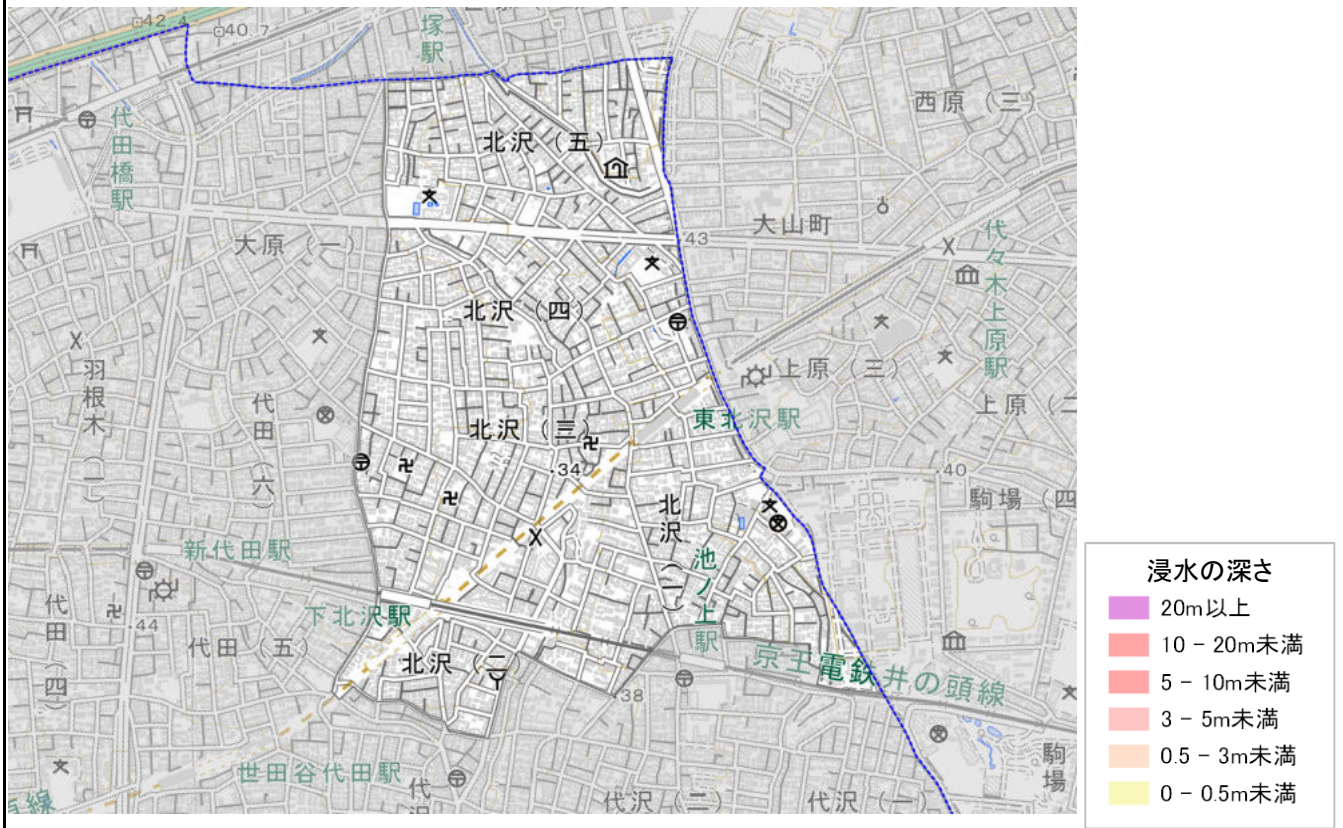


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



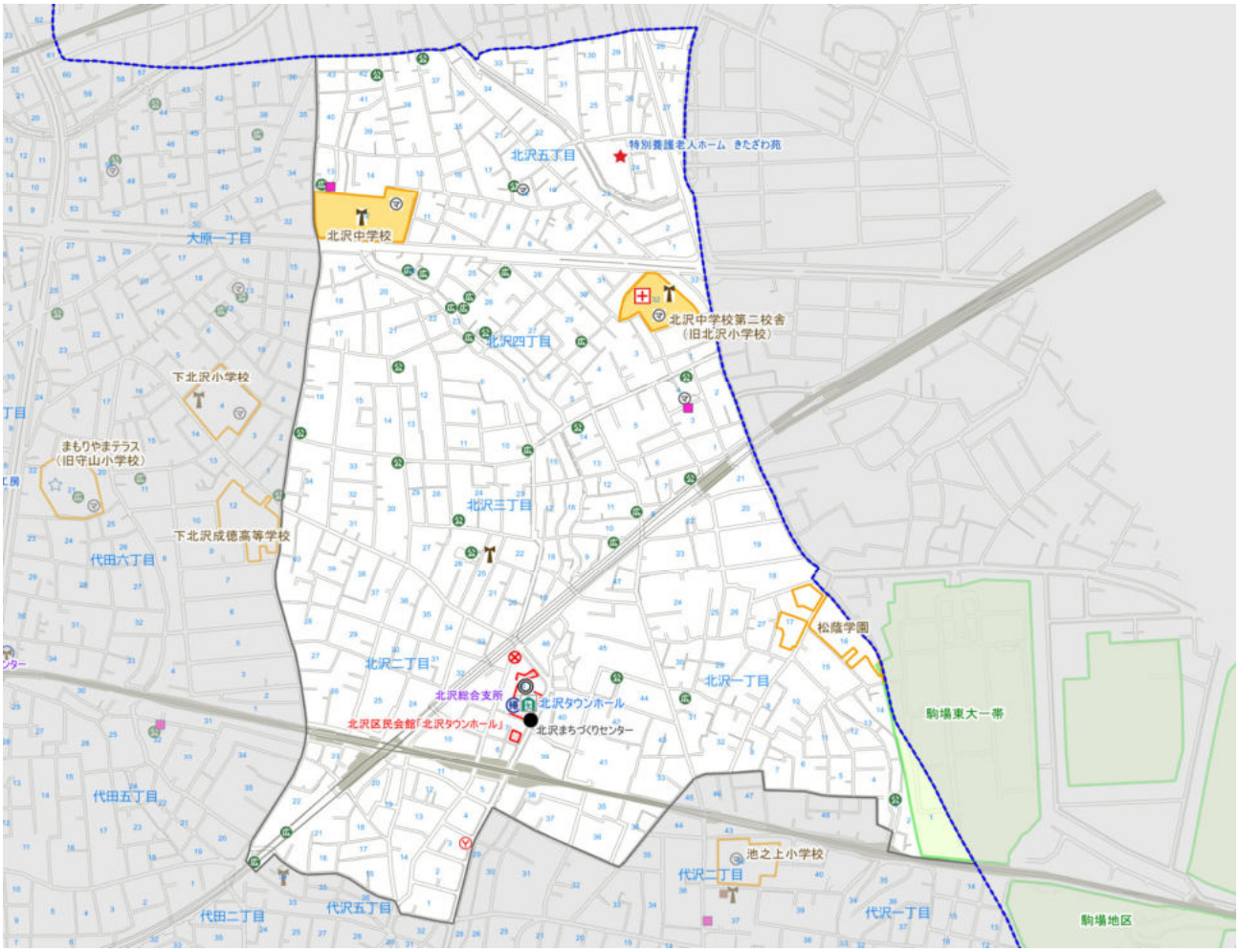
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	駒場東大一帯				
一時集合所	2000ねん公園　カトリック世田谷教会　どんぐりひろば公園　下北沢駅中央口ピーコック前　玉川上水第2緑道　北沢中学校第二校舎(旧北沢小学校)　北沢中学校第二校舎(旧北沢小学校)向かい 井の頭通り沿いの5丁目側　北沢3丁目公園　北沢4丁目公園　北沢5丁目児童遊園　北沢タウンホール　北沢公園　北沢中学校				
指定避難所	北沢中学校第二校舎(旧北沢小学校) 北沢中学校				
予備避難所	松蔭学園				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホームきたざわ苑				
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	北沢タウンホール				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	北沢中学校第二校舎(旧北沢小学校)				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	1　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	4　ヶ所	防災行政無線塔	4　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点	北沢区民会館「北沢タウンホール」				
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	北沢五丁目児童遊園　北沢地区会館				
警察署・交番	下北沢交番				
消防署・出張所	北沢出張所				

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所(母子)
- 福祉避難所(高齢者)
- 福祉避難所(障害者)
- 水害時避難所(第1次)
- 水害時避難所(第2次)
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所(狛江市)
- 水害時避難所(調布市)
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設(車中避難)

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

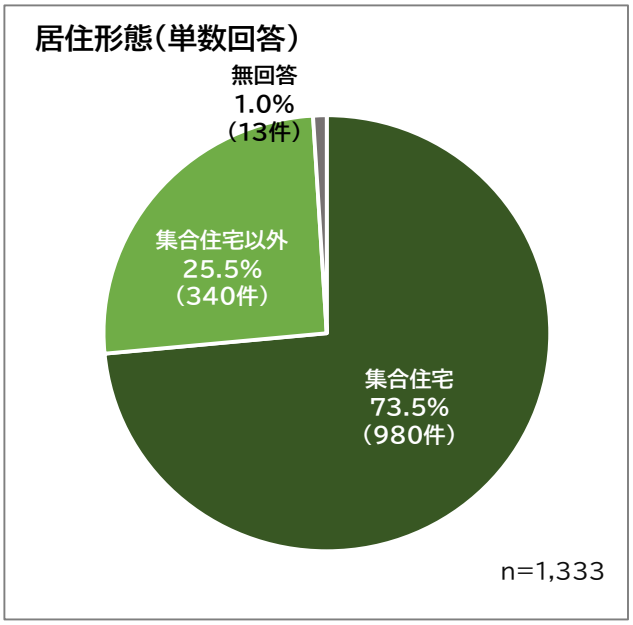
(7)区民アンケート(北沢地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

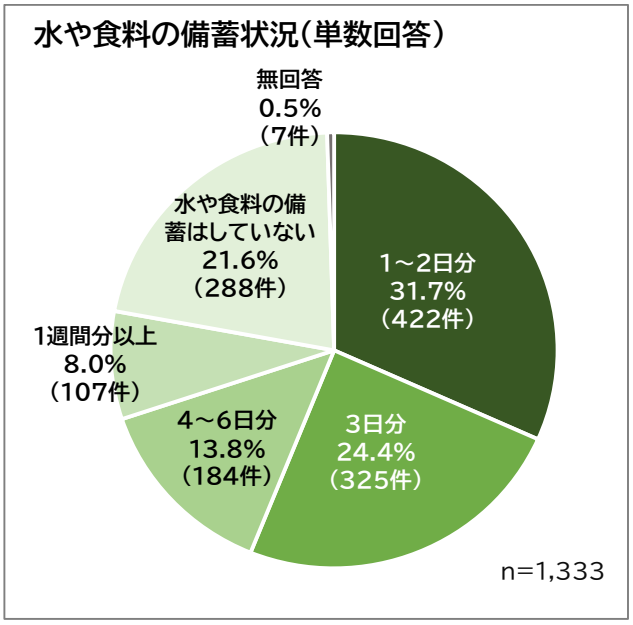
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

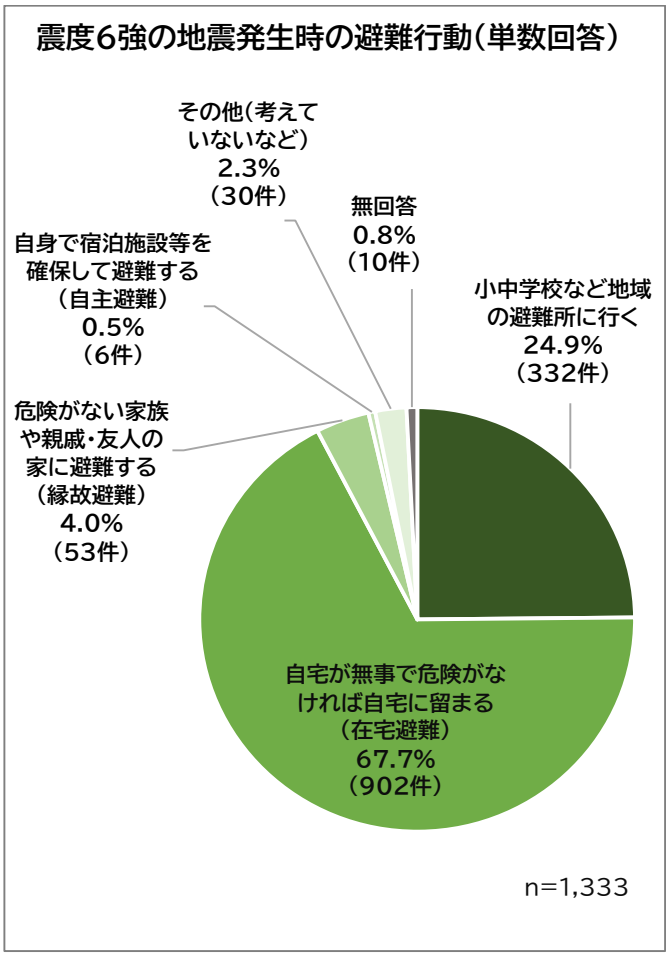


(7)区民アンケート(北沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(北沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

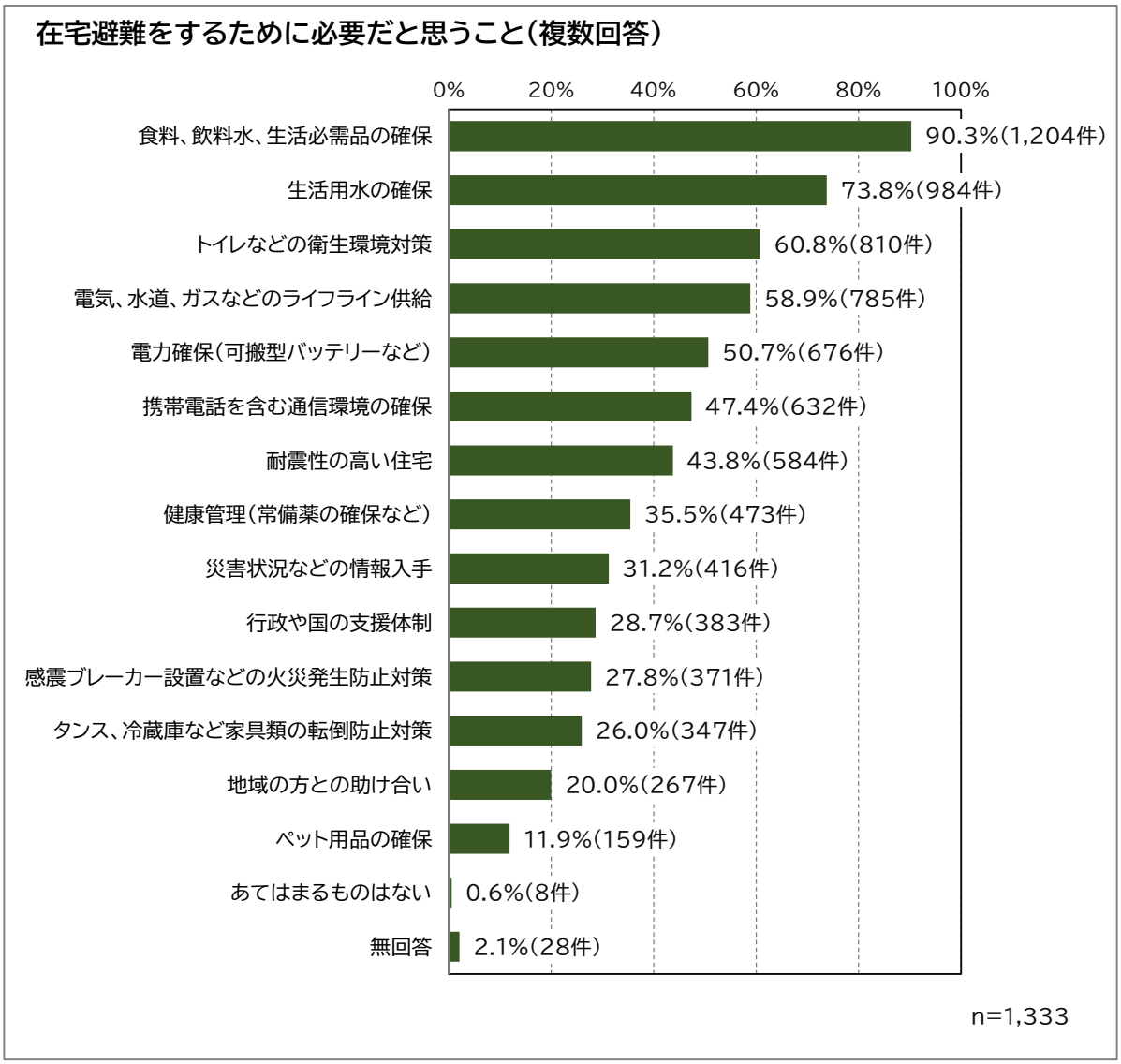
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(北沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

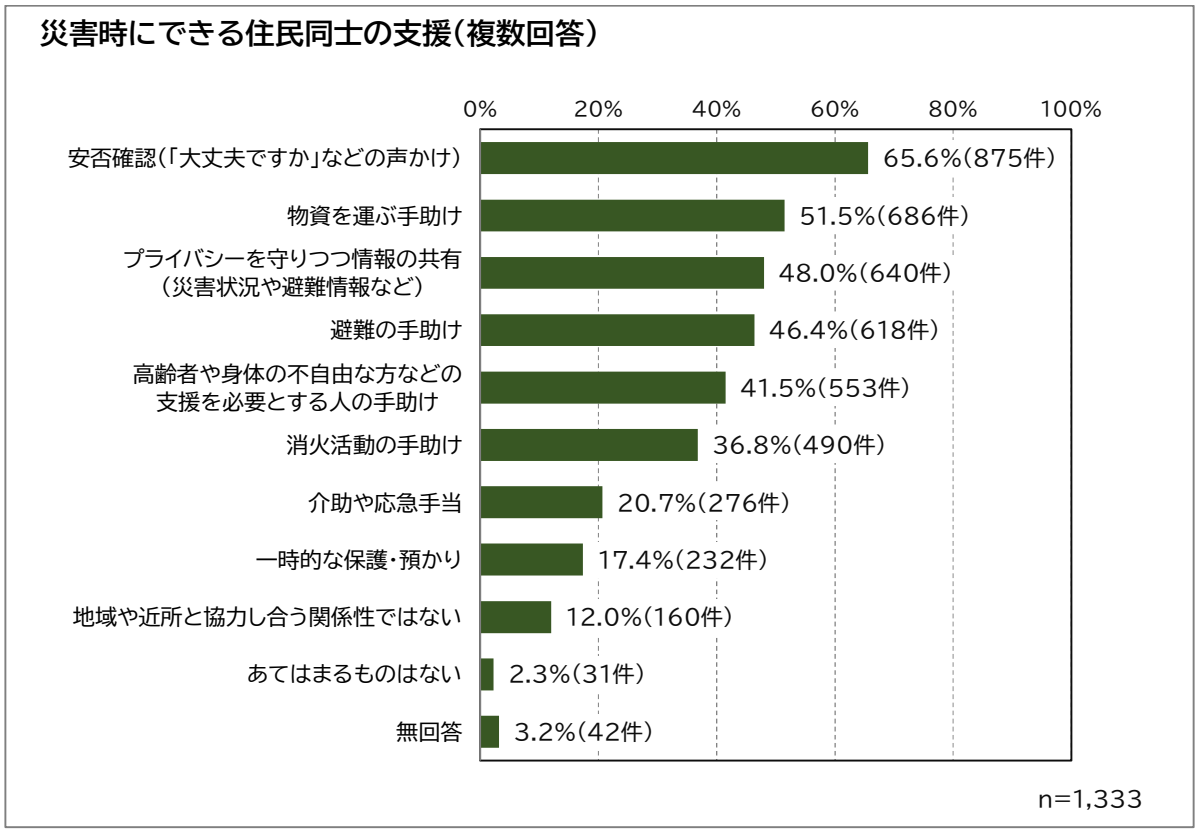


(7)区民アンケート(北沢地区)

単純集計(5/5)

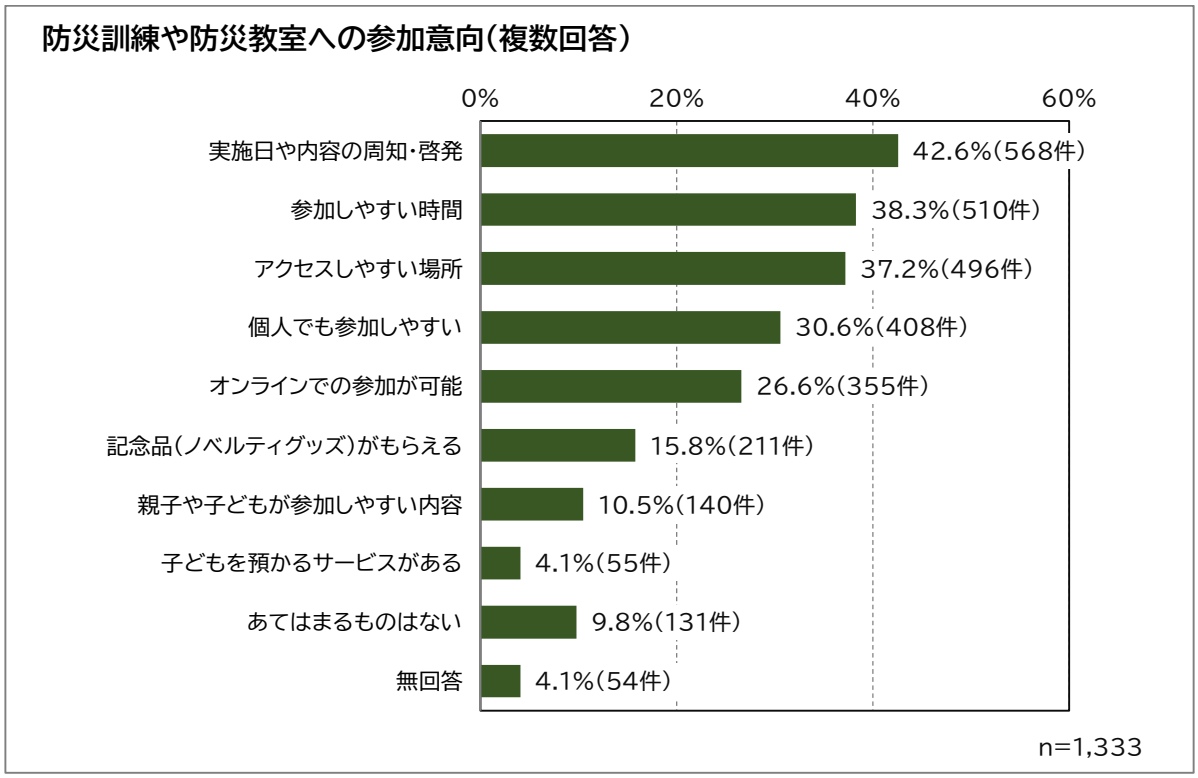
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

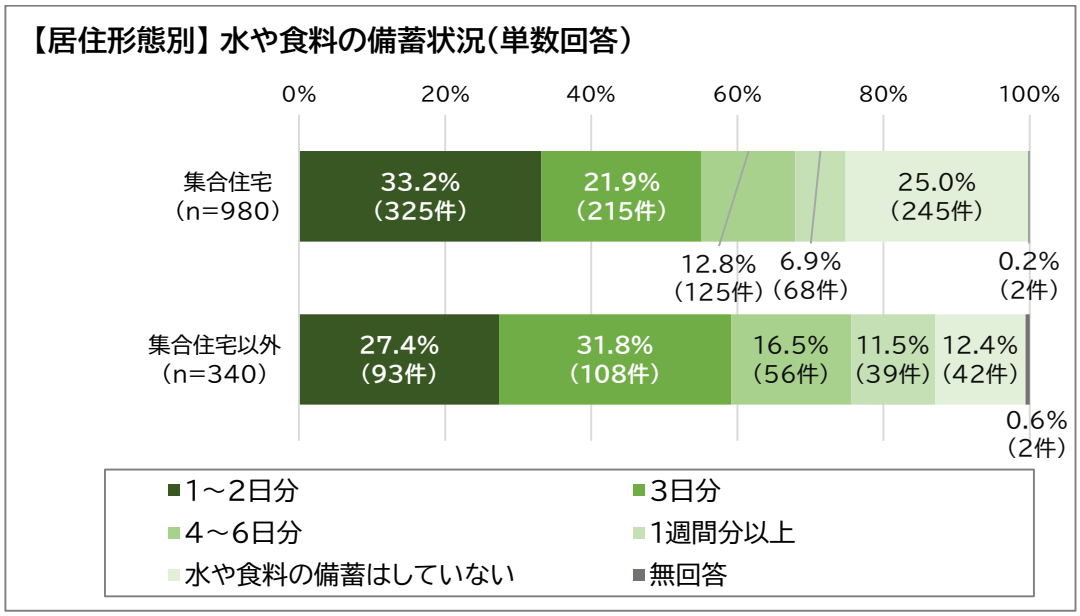


(7)区民アンケート(北沢地区)

クロス集計(1/4)

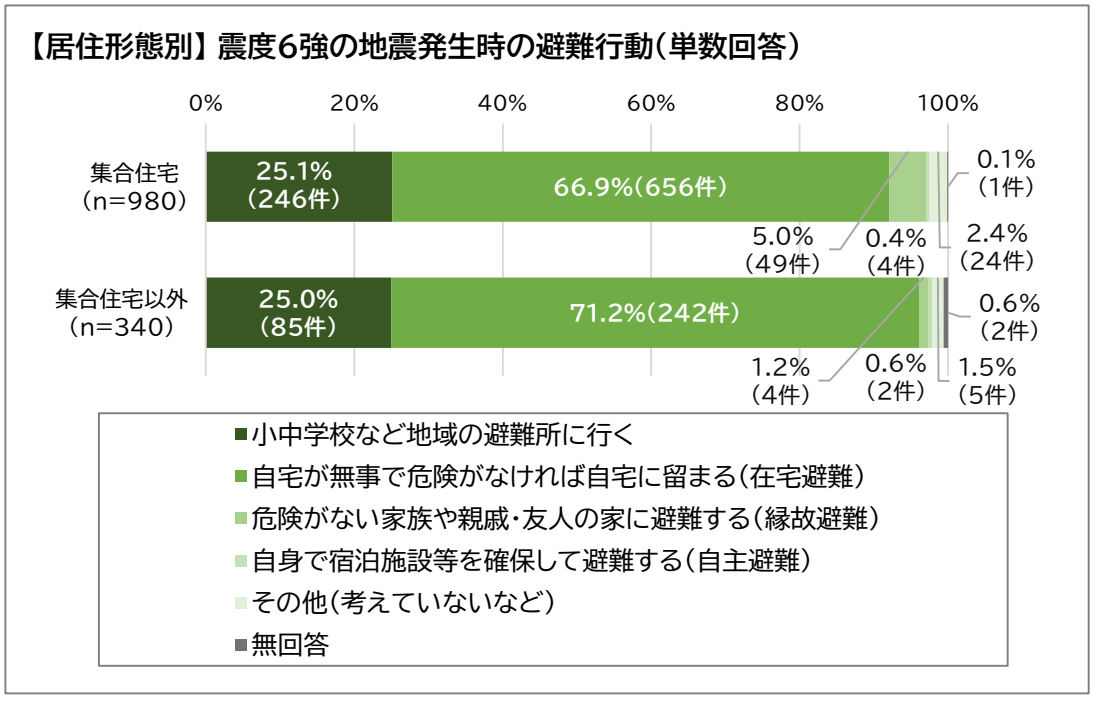
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(北沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

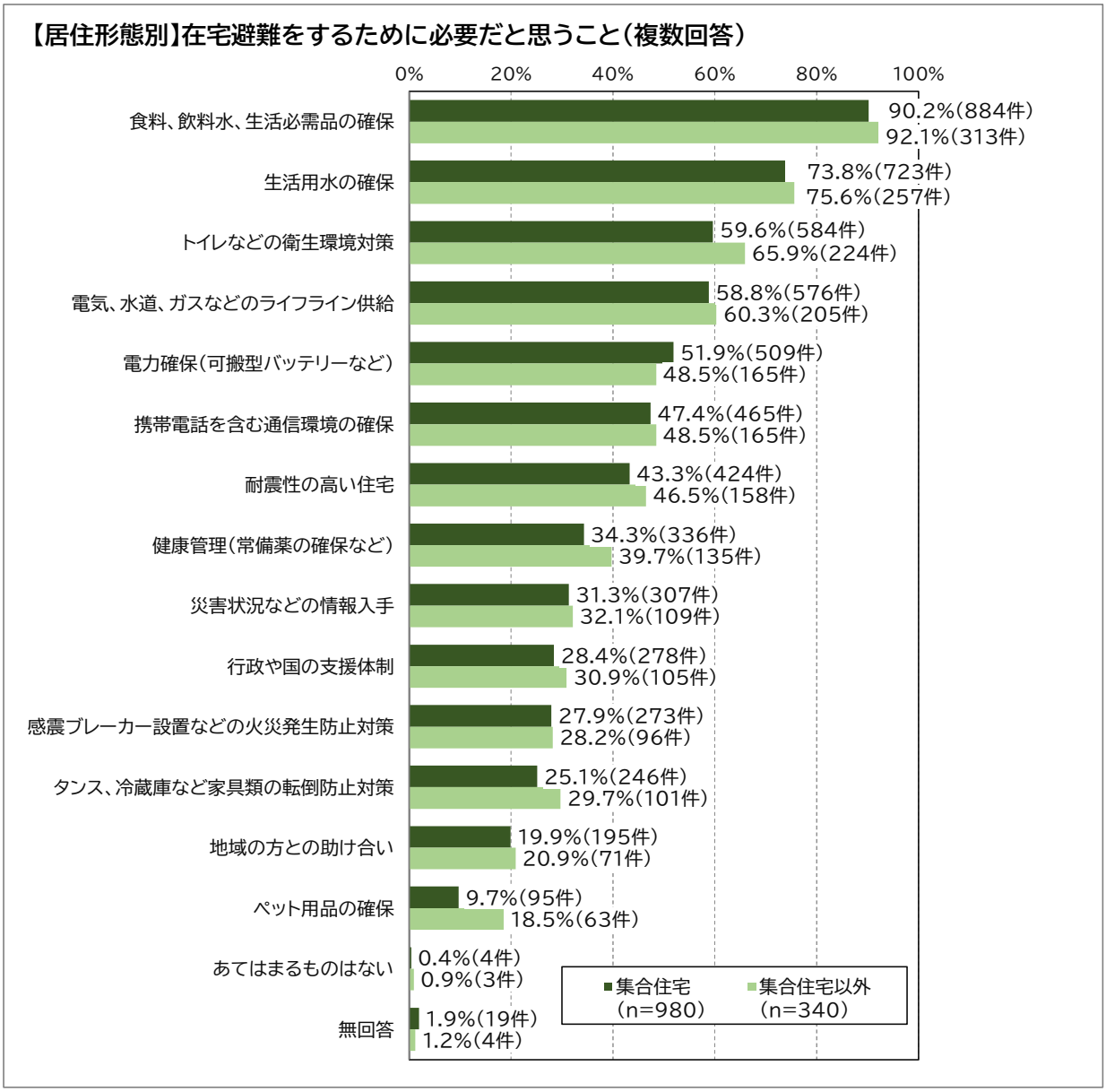
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(北沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

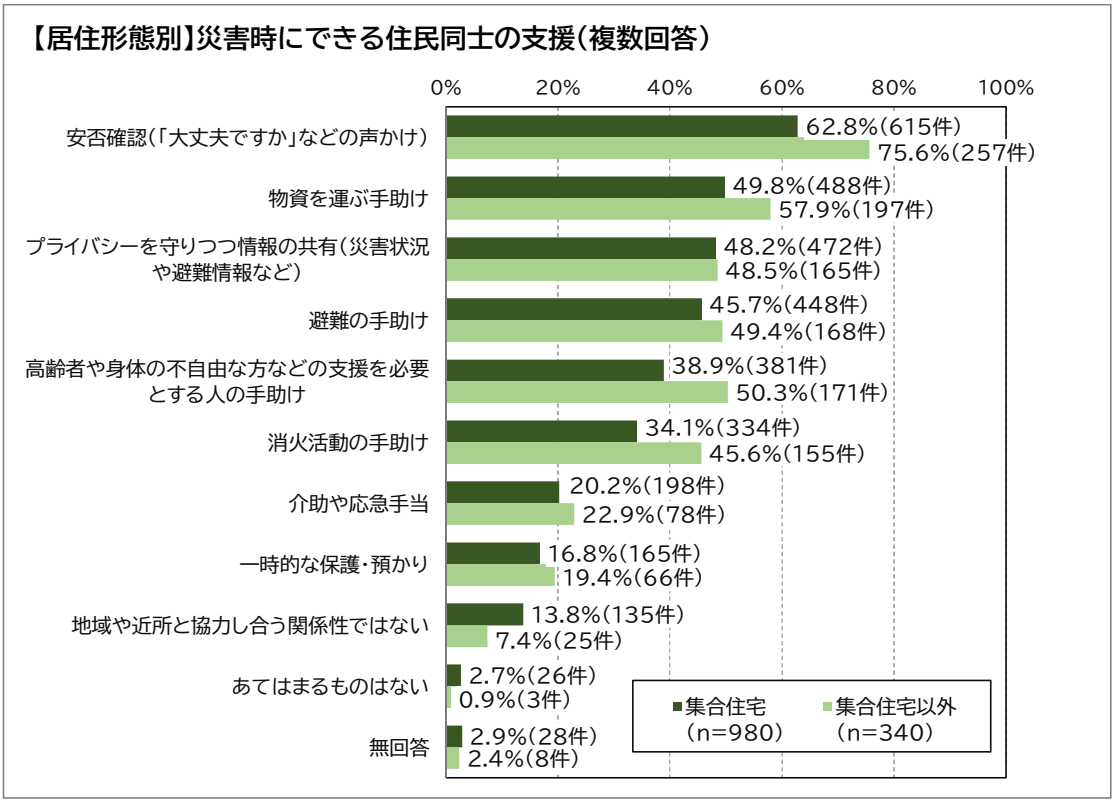


(7)区民アンケート(北沢地区)

クロス集計(4/4)

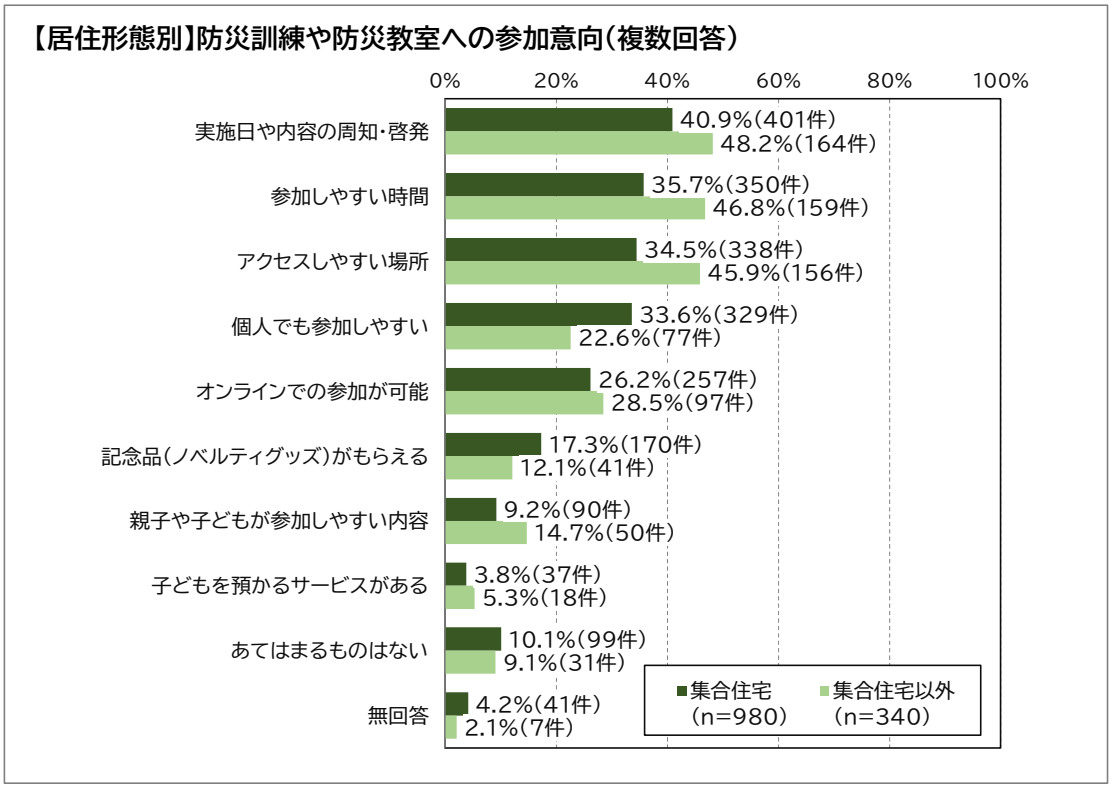
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
北沢1丁目町会	6		○			○		○		3	町内各所
東北沢自治会	2	○		防災教室	1～2	○		○		3	自治会区域内
北沢2丁目南町会	4	○		町会役員会	3	○		○		1	北沢2-14-6
北沢2丁目協和会	2	○		防災部会	1～2	○		○		3	役員宅
北沢3･4丁目西町会	1		○			○		○		2	どんぐり広場1 四丁目公園1
北沢4丁目町会	7	○		町会役員会	12	○		○		4	やまもも広場1、個人駐車場2、北沢中1
北沢中央自治会	3	○		北沢中央自治会定例会の中で	2～3	○		○		2	北沢5-18-6（わかたけ公園内）、北沢5-23-9
北沢5丁目町会	18	○		北沢5丁目町会防災対策委員会	1～2	○		○		10	町内各所

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
北沢1丁目町会	1	町会防災倉庫	38	町内各所			○		1	北沢中学校
東北沢自治会	1	自治会防災倉庫	28	自治会各所	消防ホース水槽＋パイプ	自治会防災倉庫	○		2	自治会区域内、北沢小学校
北沢2丁目南町会							○		1～2	北沢八幡下、本所防災館
北沢2丁目協和会	1	防災倉庫（どんぐり広場）					○		1	どんぐり広場スクエア
北沢3･4丁目西町会	2	どんぐり広場1四丁目公園1					○		1	北沢区民集会所
北沢4丁目町会	2	町会倉庫2					○		2	あおぞら公園、北沢小学校
北沢中央自治会							○		3	北沢中学校、北沢小学校、北沢中央自治会内
北沢5丁目町会	2	町内防災倉庫	2	町会事務所			○		2	北沢中学校、玉川上水第2緑道

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ											
	救命救急講習会		その他						掲載情報							
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
北沢1丁目町会					○				○	○	○	○	○	○	○	AED、スタンドパイプ、ポンプ、格納庫
東北沢自治会					○				○	○	○	○	○	○	○	AED、マンホールトイレ、かまどスツール
北沢2丁目南町会								○								
北沢2丁目協和会					○				○	○	○	○				
北沢3･4丁目西町会								○								
北沢4丁目町会							○									
北沢中央自治会					○				○	○	○	○	○		○	
北沢5丁目町会					○				○		○	○	○		○	スタンドパイプ、AED

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定		
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
北沢1丁目町会		○		○			○			○		
東北沢自治会		○		○			○				○	
北沢2丁目南町会		○		○			○			○		
北沢2丁目協和会	0		1（活動なし）				○			○		
北沢3・4丁目西町会	0						○			○		
北沢4丁目町会	1		1				○			○		
北沢中央自治会		○		○	○			北沢5丁目町会、きたざわ苑		○		
北沢5丁目町会	5		1		○			北沢中央自治会、きたざわ苑		○		

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		連絡手段の確保	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）				
	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
北沢1丁目町会	○					○		○				防災マップ
東北沢自治会	○						状況による	○				防災マップ
北沢2丁目南町会	○					町会役員連絡(LINE、TEL)を利用					○	
北沢2丁目協和会	○		お世話をしている方の名前・連絡先を定例会時に報告				通常のメール				○	
北沢3・4丁目西町会	○										○	
北沢4丁目町会	○					○					○	
北沢中央自治会	○					○					○	
北沢5丁目町会	○										○	

団体名	救出救助に係る資機材の配備															
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ
北沢1丁目町会		○		1		1	1	20	1	1	1		1			
東北沢自治会		○			1	1	3	11(＋防災委員、班長の自宅)		4	普通3 小2	1	1	1	3	
北沢2丁目南町会		○	1		1		3	20	1		5					
北沢2丁目協和会		○	○					役員・班長各自保管	○	○				○		
北沢3・4丁目西町会		○	1					○		1	1				○	
北沢4丁目町会		○		避難用3	1	2	1		1	1						
北沢中央自治会		○	1		1	2	1	34※	1	7	4	2	1			
北沢5丁目町会		○	2	2	1	4		10	2	6	3	7	5	4	3	6

団体名	救出救助に係る資機材の配備		食糧等の備蓄								
	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ
北沢1丁目町会		防災倉庫		○	○	○	○		○	○	
東北沢自治会	テント、ワイヤー切断機、ロープ吊り下げハンマー	自治会内の防災倉庫 小スコップは掃除用具入れ		○		40		5.7K		216	4
北沢2丁目南町会	台車3、車椅子3、テント1	防災倉庫		○						カレー400個	3
北沢2丁目協和会	簡易テント	防災倉庫(どんぐり広場)		○							
北沢3･4丁目西町会	エンジンのこぎり、ワイヤーカッター	四丁目公園		○							
北沢4丁目町会	台車2	町会倉庫		○	100	63		276本	120	170	1
北沢中央自治会	拡声器2機、ロープ1本	北沢5-18-6(わかたけ公園内)防災倉庫 ※･･･きたざわ苑内		○		180袋	9食	144本(500CC)	21缶		2※
北沢5丁目町会	エンジンカッター2台、エンジンチェンソー3台、ワイヤーカッター、大ハンマー2本	町会防災倉庫		○	7箱	3箱		14箱			

団体名	食糧等の備蓄								その他の防災活動
	災害用その他食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
北沢1丁目町会		○	○	○	○			防災倉庫他	町会会員	スタンドパイプ操法訓練
東北沢自治会		30	2	1			マスク、紙パンツ、鍋(大)、薪	自治会倉庫	自治会員	避難所への訓練参加 自治会内夜のパトロール月2回 空家チェック
北沢2丁目南町会		100袋					ブランケット30、防寒シート40	防災倉庫		
北沢2丁目協和会					○					商店街・隣接する町会とともに防犯を兼ねた夜間パトロールを実施。
北沢3・4丁目西町会		60		1	2		カセットラジオ	どんぐり広場		
北沢4丁目町会	200	スケットイレ200	4	1	3		ガスファンヒーター1	町会倉庫	町会管轄住民	
北沢中央自治会	えいようかん70	400	LEDランタン15	1※	2			きたざわ苑※・・・北沢5-18-6(わかたけ公園内)防災倉庫	会長宅	毎月10日に防災・防犯パトロールを実施。(第一土曜日) 12月歳末に10日間、夜警を実施。
北沢5丁目町会				3	2			町内防災倉庫		自主訓練を年に1回、北沢中央自治会、きたざわ苑と協力して実施。世田谷消防署北沢出張所も協力してくれる。

３　北沢地区の課題と取り組み

課題１

外来者が多い

（１）課題の説明

●下北沢駅周辺商店街は、近隣住民よりも外部から来る大勢の人でにぎわう街である。

●下北沢駅は、鉄道２路線が交差する駅である。（地震により列車から降車させられた大勢の乗客（ピーク時推定 10，000 人程度）が駅から街に流出する。）

●外国人も多く見受けられる。

●以上の状況により、地震発生時には、土地勘がない大勢の外来者に加え、日本語の言葉や文字がわからない大勢の外国人で混乱する恐れがある。

（２）当面の取り組み

（2）－1　当面の取り組み

●町会と商店街等が協力し、拡声器や案内ボードを使用して可能な限り案内を行う。

●火災が発生している場合

火災から遠い方向、風向きを者慮した方向に退避するように案内する。

（火災の規模によっては必ずしも広域避難場所を案内しなくても良い。）

●倒壊する危険性がある建物がある場合、近づかないように案内する。

●火災発生も建物倒壊もない場合、避難の必要がないことを伝える。

●徒歩で帰宅が可能な人は、都心部からの徒歩帰宅者の群れが来ないうちに行動する方が、混乱がないので、早めに帰宅行動するように促す。.

●徒歩で帰宅が不可能（遠い）な人には、帰宅困難者一時滞在施設である都立松原高校に行くように（だいたいの方向）案内する。

※日本語がわからない外国人に対しては、日本人についていくように身振り手振りで示して伝える。可能であれは外国語ができる日本人を探して伝えてもらう。（通訳機を活用する）

※避難所は倒壊や消失のために自宅に居住できなくなった方の一時滞在施設であり、「避難する場所ではない」ことを念頭において案内を行う。（避難所になるべく行かせない）

（2）－2　具体的な取り組み

●平時の防災訓練、広域避難場所である「駒場東大一帯」の徹底、防犯パトロールを実施している。【東北沢自治会】

●商店街はイベントを多く開催しているが、平時の防災訓練という考えで行なっている。【北沢 2 丁目協和会、一番街商店街、しもきた商店街】

●商店街マップは、防災情報も多く載せてある。デジタルサイネージも設置してあり、平時は商店街情報だが、災害時には防災情報を発信する。【北沢 2 丁目協和会、一番街商店街、しもきた商店街】

●アルバイト店員が多く情報不足であるが、広域避難場所は駒場東大一帯なので、ひとこと「駒場」を徹底したい。【北沢 2 丁目協和会、一番街商店街、しもきた商店街】

●外国人が多い。商店街では外国人向けの冊子を作ってあるが、部数が少ないので増やしたい。【北沢 3･4 丁目西町会】

●防犯パトロールを定期的に実施している。【北沢 2 丁目南町会】

●北沢 2 丁目協和会、一番街商店街、しもきた商店街、北沢 3･4 丁目西町会合同で月 1 回ナイトパトロールを行っている。（行政･鉄道関係者も参加）

（3）中長期的な取り組み

（3）－1　中長期的な取り組み

●町会、商店街、鉄道会社、大規模商業施設等と協議し、適切な案内方法をすり合わせておく。（定期的な開催が必要）

●拡声器、ボード、通訳機の配備

●避難や帰宅の方向(状況に応じて使い分けられるように数方向分が必要)、都立松原高校の方向を示す表示物や配付物を準備しておく。外国語版も用意する。

(3)－2 取り組みの方向性

●住宅街と商店街が混在する地域で、利害が反する部分がある。たとえば看板の路上占用など。折り合いが難しいが、相互に問題点がわかってくるので、理解へのテーブルを進めたい。【北沢 3･4 丁目西町会】

●外国人が多い。商店街では外国人向けの冊子を作ってあるが、部数が少ないので増やしたい。【北沢 3･4 丁目西町会】

●外国人が多いので、地図などを配付したりして情報提供を増やす。【北沢 2 丁目南町会】

●ルール違反の民泊や投資目的のマンション建設もあり、これからの問題として町会も理事会で問題提起する。【北沢 3･4 丁目西町会】

●消火器が区域内に 30 箇所あるが、知られていない。マップなどで知らせることが大事。【北沢 4 丁目町会】

●若者が多く集まるまちでもあるので、若者のアイデアも取り入れる。【北沢 2 丁目南町会】

課題２

火災発生の危険度が高い

(1)課題の説明

●下北沢をはじめとする各駅周辺商店街は、小規模で個性的な飲食店と衣類雑貨販売店が多い。

●ハザードマップでは、商店街は耐火構造の建築物が多いため、住宅街に比べて火災危険度が低く表示されているが、火災の発生と延焼の危険度から見

ると逆である。北沢地域の商店街は、マイコンメーターが設置されている都市ガス、転倒すると燃料や電気が遮断される暖房器具がほとんであるが、住宅街に比べ熱源に炭火やカセットコンロ等を利用する飲食店も多い。その上、耐火構造ではあっても古い建築物が多く、また、改装により耐震性が低下している店舗も見受けられるために、倒壊や一部損壊の危険性も高い商店街の方が火災発生の危険性は高いと考えられる。

●老朽化した木造住宅が密集しており、阪神・淡路大震災時と同じように地震による停電が復旧した後に発生した「通電火災」の心配がある。

●東京都の木密地域不燃化１０年プロジェクトに基づく不燃化推進特別整備地区(「不燃化特区」)に指定されている場所が広く存在している。

●道路上の看板、いす、テーブル、自転車が避難時の障害になる。【北沢２丁目協和会】

●木密地域であり、震災時には次の問題がある。【北沢中央自治会】

①火災の拡大

②適切な一時集合場所がない。

③避難場所までの経路の確保・・・広域避難場所まで徒歩での時間が 30 分かかる。避難経路に障害物が多い。道路上の電力線、通信線が倒れる危険性がある。

④住民に対する避難場所・・・避難所の役割、周知が不足しているため混乱が予想される。震災以外の災害時でも避難所へ避難する場と思っている人が多い。

（２）当面の取り組み

（2）－1当面の取り組み

●町会と商店街等が協力し、商店街の飲食店は特に重点的に火災発生を早期に発見するように注視する。

●火災の発生を発見した場合は、まず店舗備え付けの消火器等を用いるとともに「119 番」通報を試みる。

●消防署の出動が不可能な場合は、一般住民や外来者を退避させるとともに、速やかに町会や商店街が所有している消火器具（可搬ポンプやスタンドパイプ）等を利用して延焼防止に努める。

●初期消火活動・早期避難の説明、集合場所の周知、防災訓練時の説明【北沢中央自治会】

●避難訓練等での周知活動【北沢中央自治会】

水害時、土砂崩れ時の避難場所は決められているが、台風、震災時の避難場所が必ずしも決められていない。

（2）－2　具体的な取り組み

●火災のリスクが高いので、初期消火が重要。風呂水をためておくなど、各家庭で備える。【北沢１丁目町会】

●商店街路灯に初期消火装置を配備し、火災に備えている。【一番街商店街】

●感震ブレーカー購入経費の制度を利用できるようにして（現在区の制度は対象外）通電火災を防ぐよう広報・周知する。【北沢２丁目南町会】

●防災訓練の実施【北沢中央自治会】

●防災訓練の集合場所として一時集合所を使用周知する。【北沢中央自治会】

●避難訓練の中で広域避難場所までの経路を試行する。【北沢中央自治会】

●在宅避難の周知【北沢中央自治会】

（3）中長期的な取り組み

（3）－1　中長期的な取り組み

●火災発生の危険性が高い店舗に対しては十分な備え（消火設備、消火器等）と、訓練を日ごろから行うように促す。

●区不燃化計画の PR【北沢中央自治会】

●旧北沢小学校の防災拠点としての整備【北沢中央自治会】

●広域避難場所に行く前の予備避難所の指定【北沢中央自治会】

●電線、通信線の地下化【北沢中央自治会】

（3）－2 取り組みの方向性

●スタンドパイプを導入し、置き場所を確保する。【北沢中央自治会、北沢 5 丁目町会】

●コンクリートカッターやジャッキ等の工具のほか、カセットボンベ式発電機を町会で常備している。【北沢 5 丁目町会】

●北沢総合支所街づくり課で不燃化特区に対する補助制度等を利用して、街ぐるみで不燃化に取り組む。
【東北沢自治会（一部）、北沢 3・4 丁目西町会、北沢 4 丁目町会、北沢中央自冶会、北沢 5 丁目町会】

課題３

傾斜地がある

（1）課題の説明

●北沢 1 丁目には住宅地が崖下に位置する急傾斜地が存在する。（崖上は東京大学先端科学技術研究センターのキャンパスである。）

●急傾斜地では、地震により土砂崩れ等が発生して道路が寸断されるだけでなく、家屋の流出や倒壊、土砂等の下敷きになる恐れがある。

●急傾斜地では、地震により土砂崩れ等が発生して道路が寸断されるだけでなく、家屋の流出や倒壊、土砂等の下敷きになる恐れがある。

（2）当面の取り組み

（2）－1 当面の取り組み

●地震発生後速やかに急傾斜地の状況を確認し、当該区域の住民に対して速やかな退避行動を促す。

●すでに家屋の流出や倒壊が発生していた場合は、１１９番通報を試みる。

●消防隊の救助が見込めない場合は、各自の身の安全を確保しつつ近辺の住民に呼びかけ、当該家屋住人の安否確認や救出救助を行う。

（2）－2　中長期的な取り組み

●該当区域居住者に対し、地震発生時の行動を啓発する。

●近辺住民に対しては地震発生時の共助への協力を依頼する。

課題４

避難行動要支援者

（１）課題の説明

●災害時に自力での避難が困難な高齢者や障害者が多い。

●区との協定の要支援者以外に、災害時に広域避難場所までの避難は無理と思われる高齢者、日常から杖、カート等助けを借りて生活する方が多くみられる。【北沢中央自治会】

（２）当面の取り組み

（2）－1　当面の取り組み

●区と避難行動要支援者支援協定を締結している町会の場合は、区から提供された名簿等に基づき、日ごろから見守っている対象者の安否を確認する。

（協定締結町会7町会、未締結町会1町会）

●区と避難行動要支援者支援協定を締結していない町会の場合は、日ごろの町会活動等により把握している情報等に基づき、対象者の安否を確認するとともに、避難行動要支援者支援協定の締結を目指す。

●安否確認と家屋の損壊状況や火災発生状況等により、避難支援や救出救助が必要な場合は、支援を行う。

●支援に際してあらかじめ決めてある担当者だけでは足りない場合は、近隣住民等に支援の手助けを呼び掛ける。

（2）－2　具体的な取り組み

●単身者や高齢者など、新聞を取っていない世帯が多いので、ポスティングすると良い。【北沢２丁目協和会】

●高齢者の安否確認、見守り活動を実施している。町会加入促進もするが、普段の挨拶が重要と考えている。【北沢２丁目協和会】

●地区防災訓練の時に北沢中学校の生徒が避難行動要支援者支援活動訓練に参加し、救急講習を受講しており、人的な面で非常に頼りになる。【共通】

●日常の挨拶等、状況の把握【北沢中央自治会】

●機会をみて訪問、街中での挨拶等を多くすることで、要介護者以外の高齢者等の状況を把握する努力をする。・・敬老の日のお祝い配布の活用【北沢中央自治会】

●区と避難行動要支援者支援協定を締結すべく行動する。【東北沢自治会】

（３）中長期的な取り組み

（3）－1　中長期的な取り組み

●町会における日ごろからの見守り活動等をさらに充実させる。

●要援護者の近隣住民への日ごろからの協力依頼

●避難支援、救出活動の訓練

●救助に必要な機材の準備と使用方法の訓練を行う。

●近くの避難場所の検討・・・公的施設、民間のマンション等、耐震性の高い施設の一部使用【北沢中央自治会】

（3）－2　取り組みの方向性

●まず、各人が何をすべきか、どのように自分の身守るか具体的な案を考えて、その先に近所の安否確認などの共助に繋げる。【東北沢自治会】

●高齢者の安否確認には普段の挨拶が重要と考えている。【北沢 5 丁目町会】

●旧北沢小の防災拠点としての検討要求・・・広域避難場所までの中継場所、

狭い場所だが、避難可能施設として整備可能が望ましい。【北沢中央自治会】

課題５

町会・自治会会員以外の高齢者

（１）課題の説明

町会・自治会役員でも把握は不可能。【北沢２丁目協和会】

（２）当面の取り組み

（２）－１当面の取り組み

●町会・自治会の加入を促す。【北沢２丁目協和会】

（２）－２具体的な取り組み

●民生委員からも声掛けをする。【北沢２丁目協和会】

（３）中長期的な取り組み

（３）－１　中長期的な取り組み

●あんしんすこやかセンターからも声掛けをし、地域とのつながりを持っていく。【北沢２丁目協和会】

（３）－２　取り組みの方向性

●普段の挨拶ができるような環境づくり【北沢２丁目協和会】

課題６

内水氾濫

（１）課題の説明

北沢3丁目の一部は、その地形から、大雨による床下浸水が度々発生している。【東北沢自治会】

（２）当面の取り組み

（２）－１当面の取り組み

●下水溝の清掃を定期的に行う。【東北沢自治会】

（2）－2具体的な取り組み

●定期的な下水溝の清掃について、回覧等により呼びかける。【東北沢自治会】

（3）中長期的な取り組み

（3）－1　中長期的な取り組み

●排水機能の改善要望【東北沢自治会】

松原地区防災計画

［令和7年修正］

松原地区

【松原地区防災計画作成団体】　（順不同）

松原1丁目町会	松原小学校
松原2丁目町会	松原小学校 PTA
松原三・四丁目自治会	梅丘中学校
松原5・6丁目自治会	梅丘中学校 PTA
松原地区民生委員・児童委員協議会	都立光明学園
松原地区社会福祉協議会	日本学園中学校・高等学校
赤十字奉仕団松原分団	日本女子体育大学附属二階堂高等学校
世田谷消防団第十分団	
明大前商店街振興組合	
下高井戸商店街振興組合	
東松原商店街振興組合	

目 次

1 松原地区の特性 …… 松原-1(-374-)
(1)自然特性 …… 松原-1(-374-)
(2)社会特性 …… 松原-2(-375-)
(3)地域危険度 …… 松原-4(-377-)
(4)被害想定 …… 松原-5(-378-)
(5)防災資源一覧 …… 松原-8(-381-)
(6)防災資源マップ …… 松原-9(-382-)
(7)区民アンケート……松原-10(-383-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～……松原-19(-392-)

3 松原地区の課題と今後の取り組み …… 松原-24(-397-)
(1)住民の安否確認…… 松原-24(-397-)
(2)避難行動要支援者支援…… 松原-24(-397-)
(3)負傷者等の救出・救護 …… 松原-25(-398-)
(4)初期消火…… 松原-25(-398-)
(5)帰宅困難者対策 …… 松原-26(-399-)
(6)他団体との連携…… 松原-26(-399-)
(7)避難物資の確保 …… 松原-26(-399-)

1. 松原地区の特性

(1)自然特性

面積	1.50　Km²	最高標高	49.6　m	最低標高	31.0　m

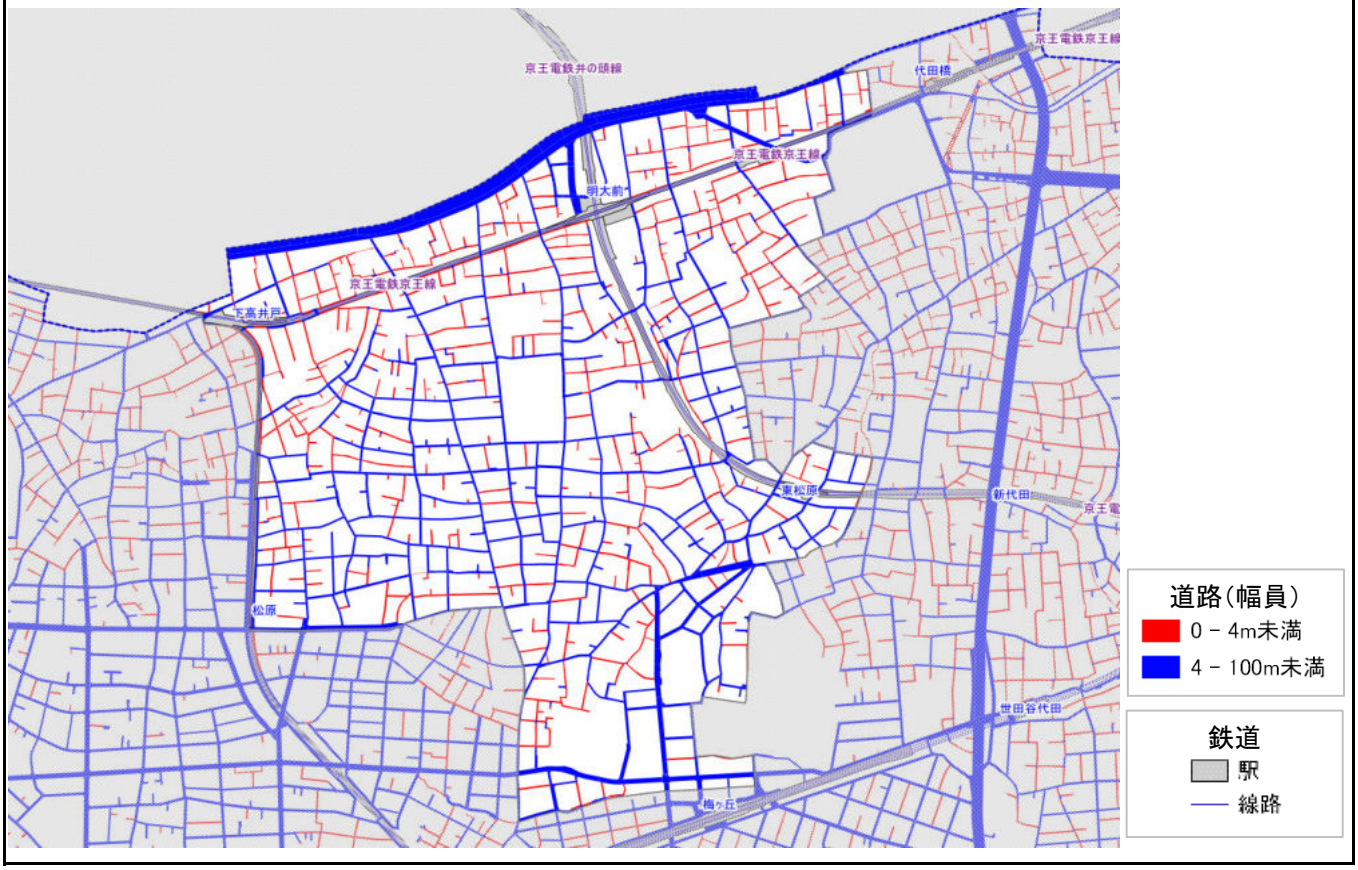
位置

標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等

(2)社会特性

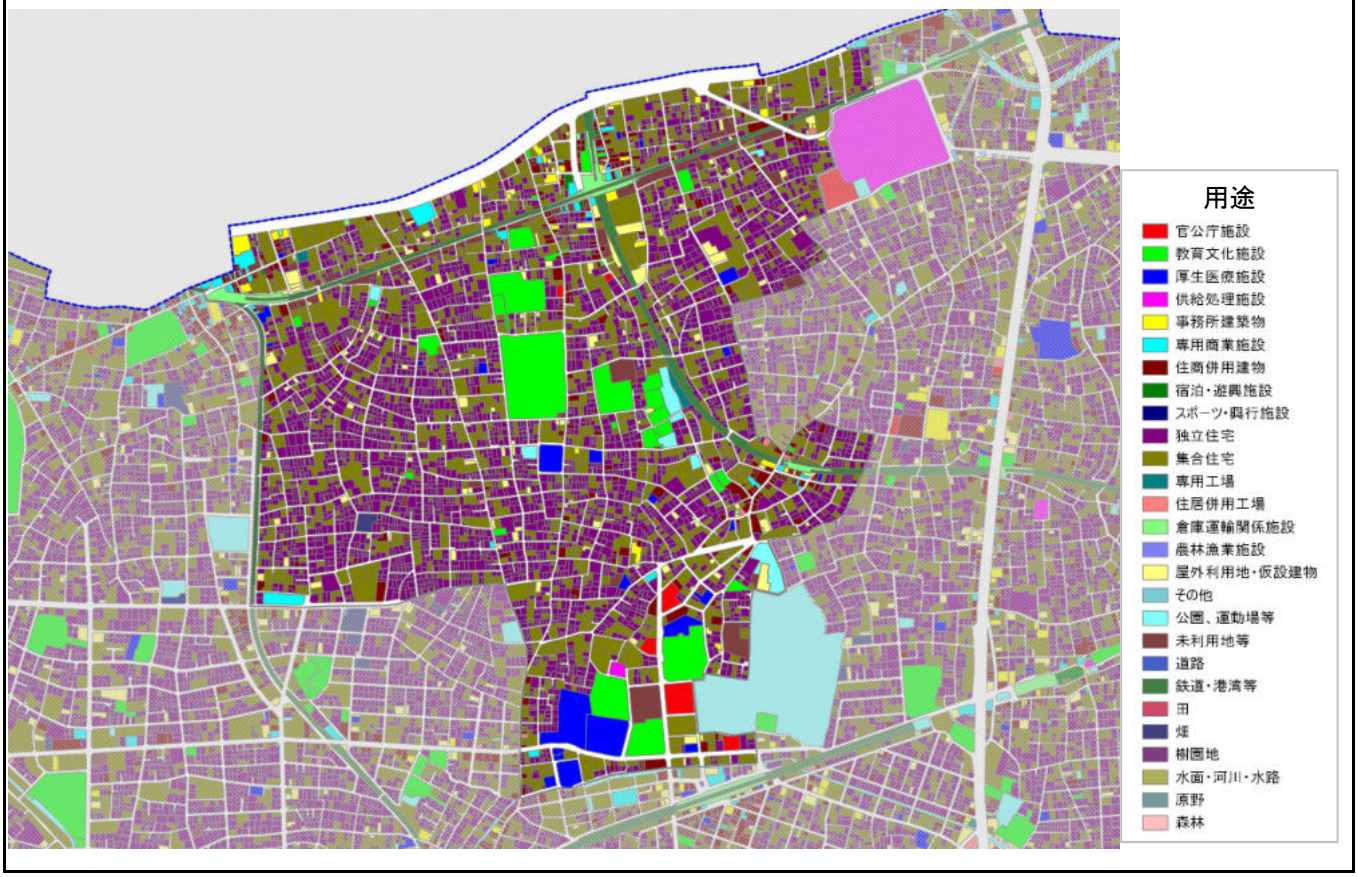
人口	29,520 人	細街路率		40.4 %	
世帯数	18,072 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		50.6 棟/K㎡	
1世帯あたり	1.63 人	耐火率(建築面積ベース)		61.1 %	
若年層数(15才未満)	2,548 人	土地利用(宅地)		74.4 %	
若年層率(15才未満)	8.6 %	土地利用(宅地以外)		25.6 %	
高齢者数(65才以上)	5,821 人	鉄道駅	京王線明大前駅 京王井の頭線明大前駅 東松原駅 東急世田谷線松原駅 下高井戸駅 京王線下高井戸駅		
高齢者率(65才以上)	19.7 %				
昼間の人口	25,960 人	産業	商業	82.3 %	
夜間の人口	30,548 人		工業	15.9 %	
昼夜間人口比	0.85 -		農業	1.8 %	
町会・自治会数	4 -				

道路・公共交通機関



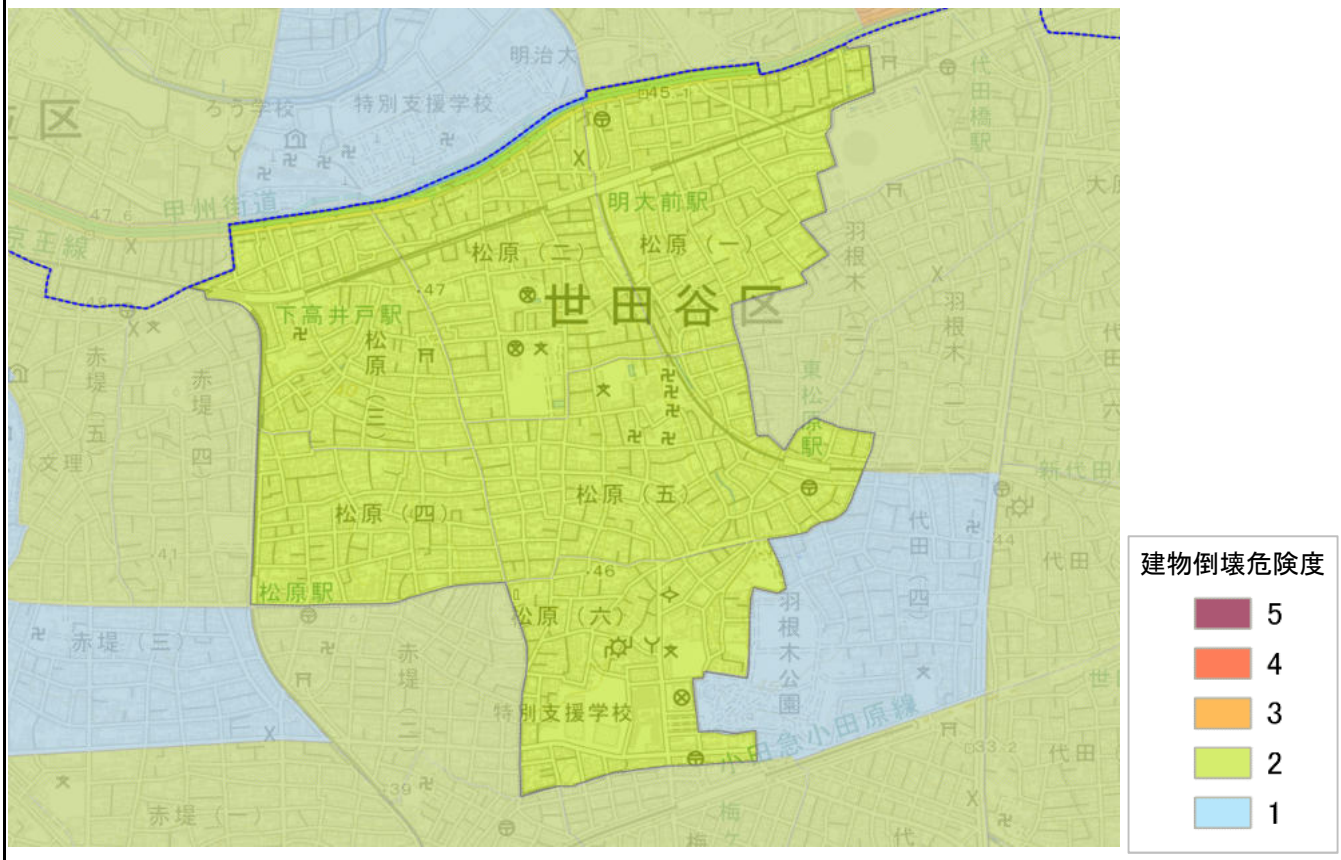
(2)社会特性

産業

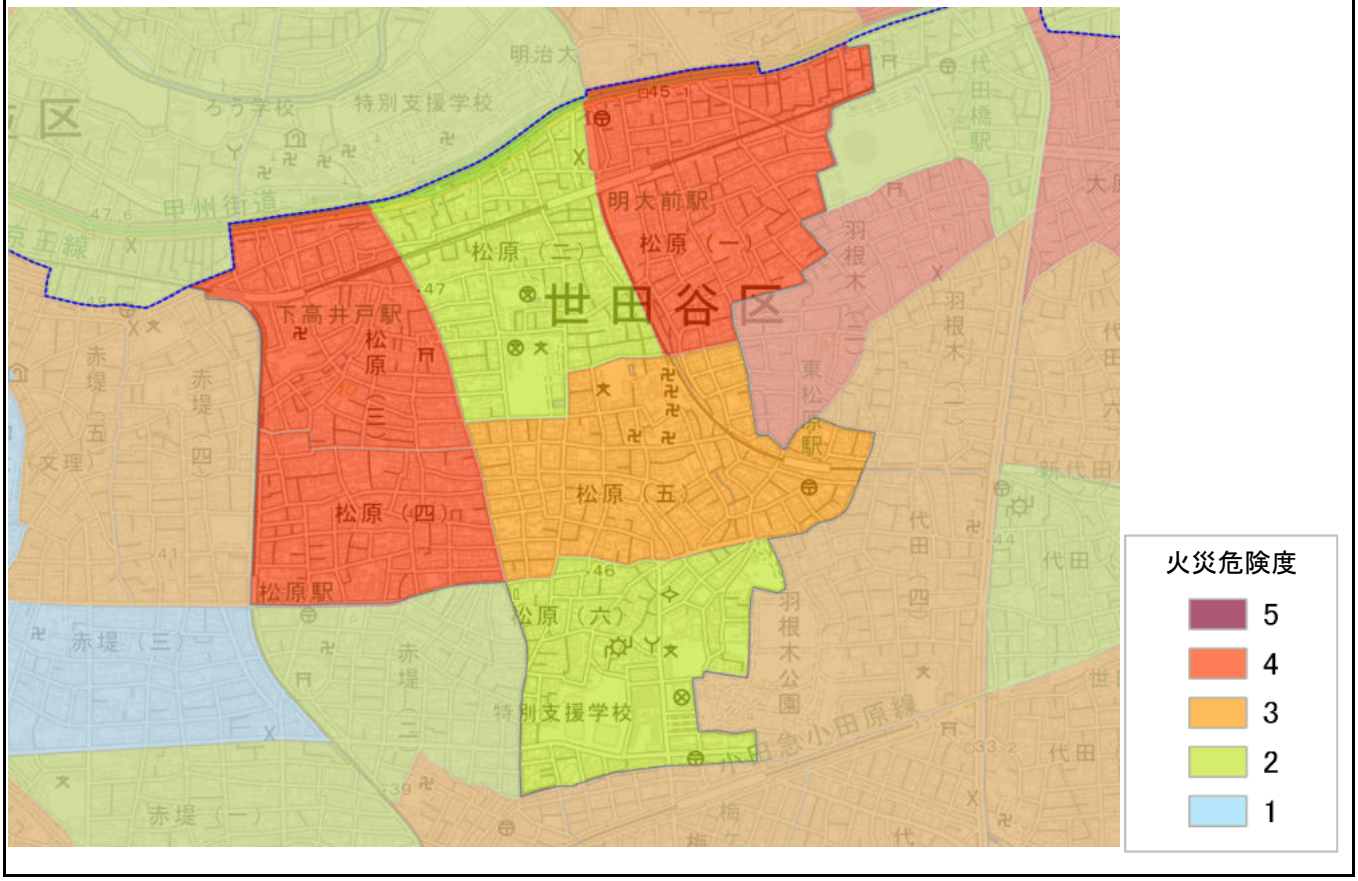

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



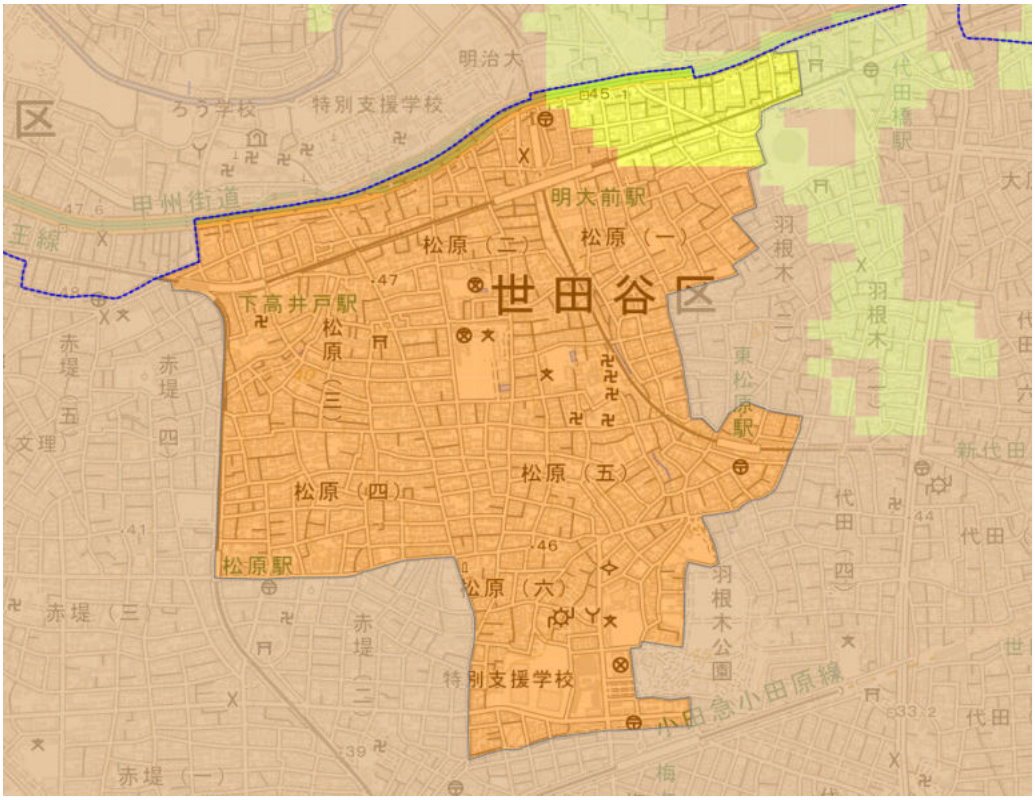
火災危険度



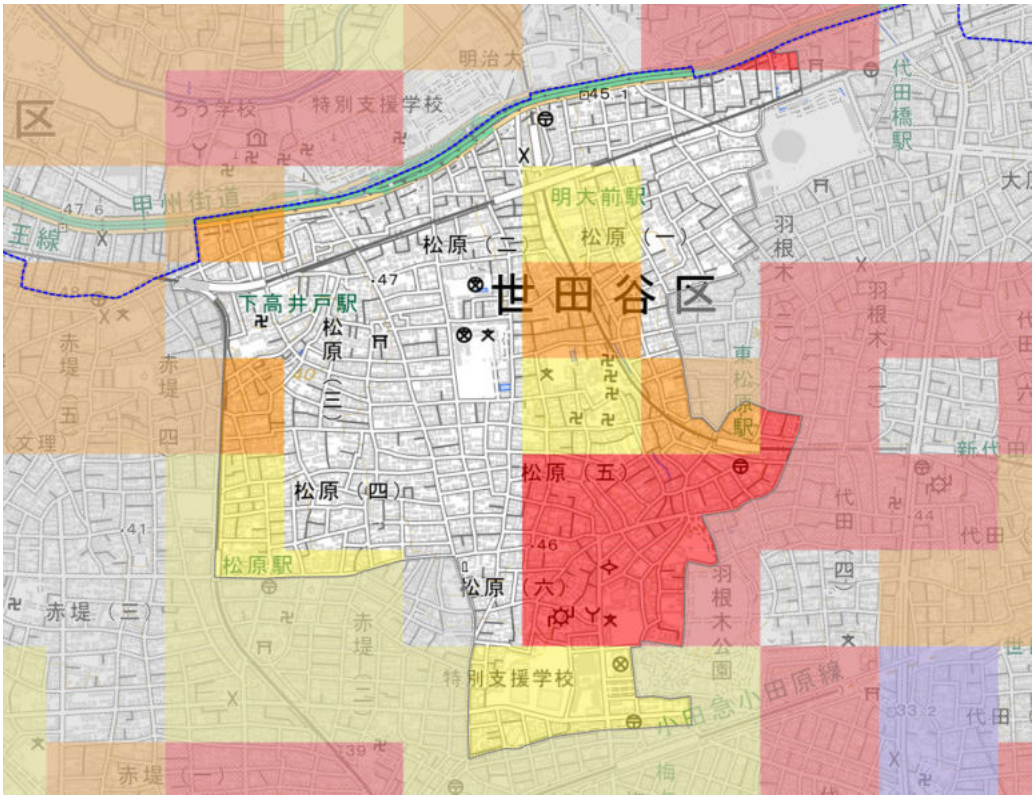
(4)被害想定

全壊棟数	208 棟	死者	22 人
半壊棟数	490 棟	負傷者	247 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	783 棟	うち重傷者	42 人

震度分布

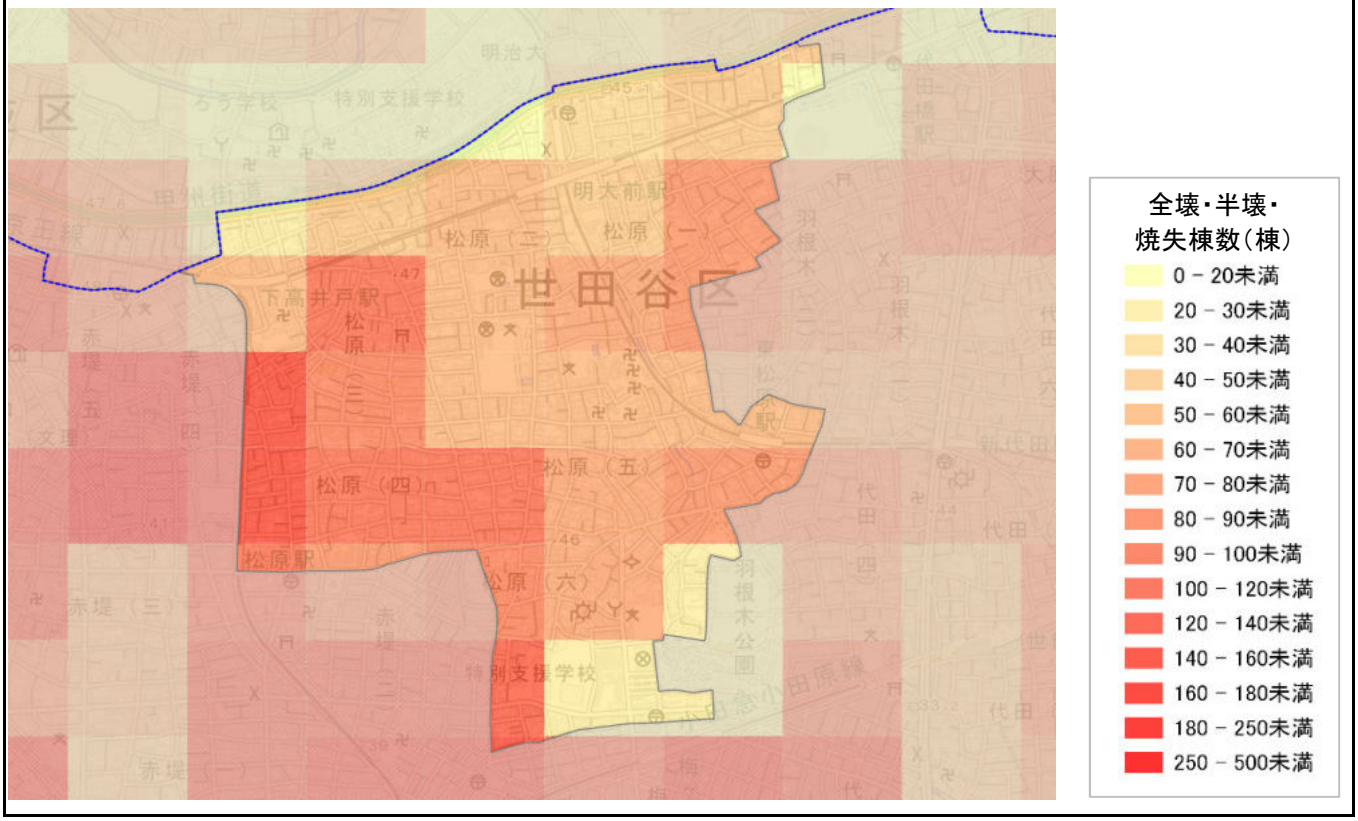


液状化分布



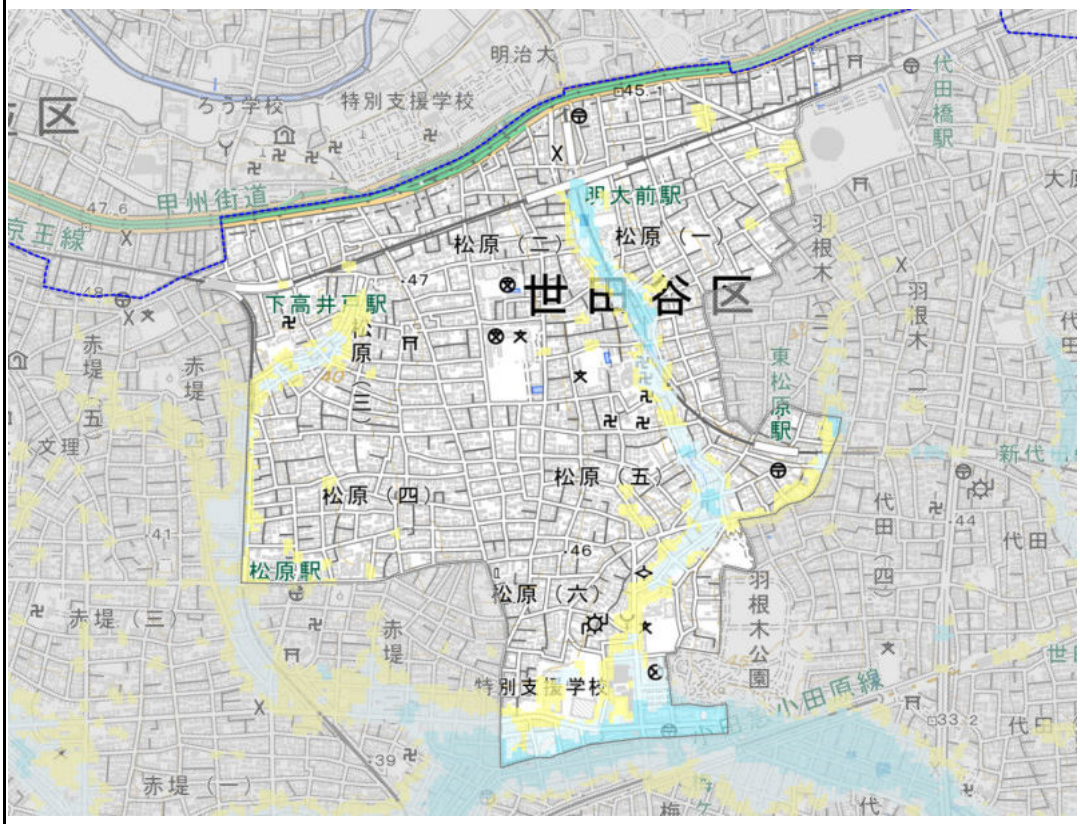
(4)被害想定

被害棟数分布

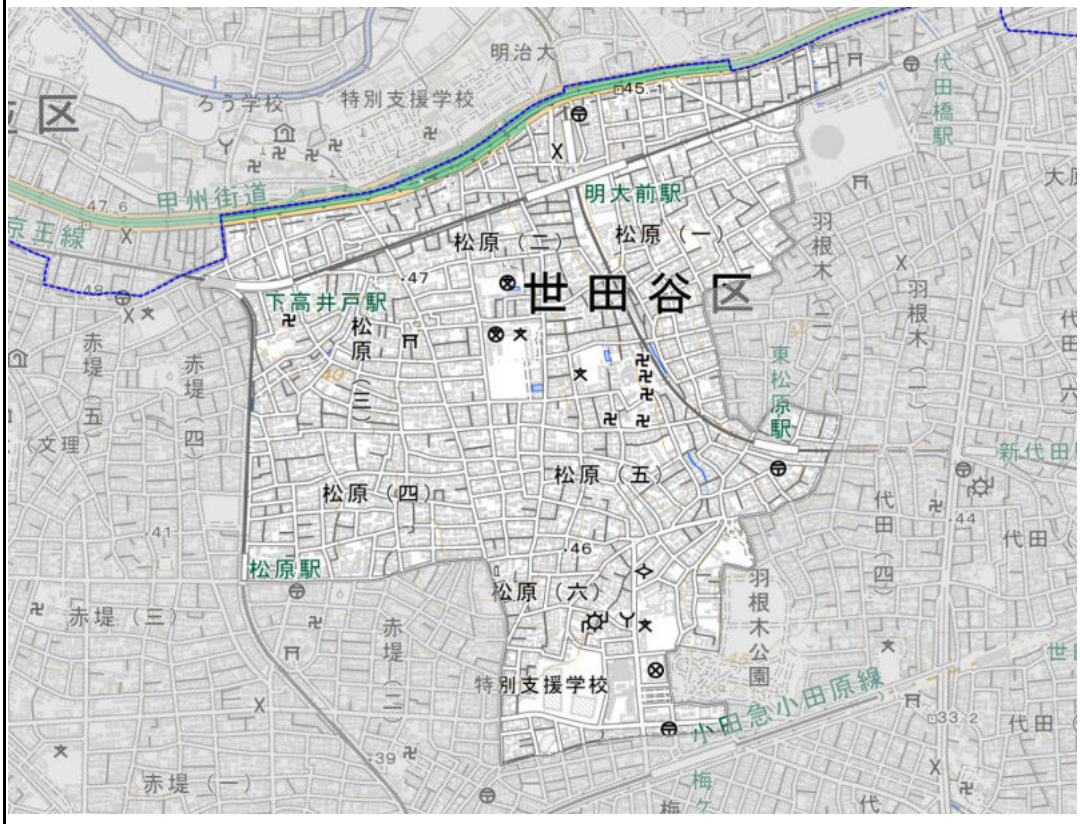


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



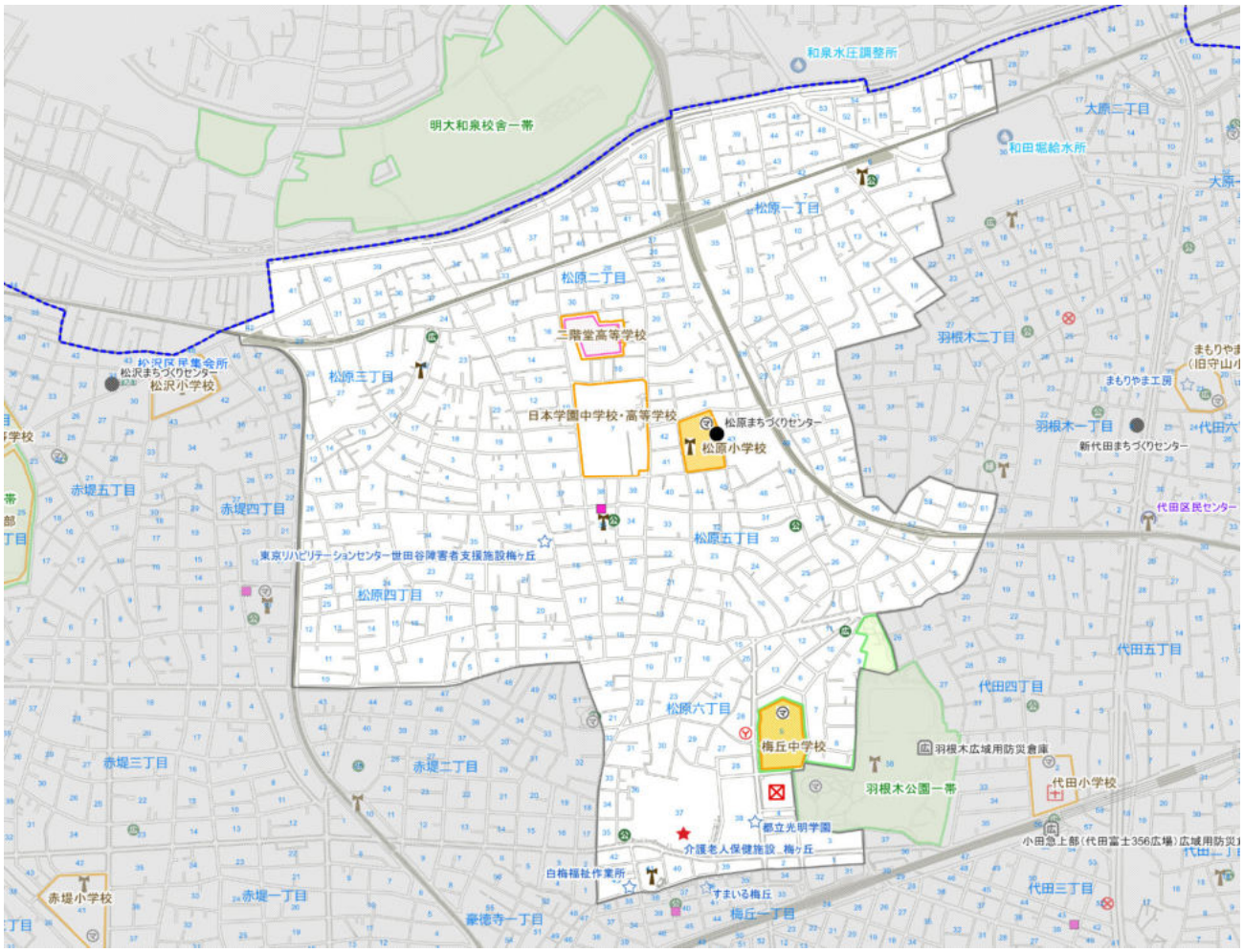
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	羽根木公園一帯				
一時集合所	松原つみき公園　松原公園　松原小学校　赤羽根公園　赤松ぼっくり庭園緑地 日本女子体育大学附属二階堂高等学校　日本学園中・高等学校　梅丘中学校 弁天児童遊園　和田堀給水所前路上				
指定避難所	松原小学校 梅丘中学校				
予備避難所	日本女子体育大学附属二階堂高等学校　日本学園中学校・高等学校				
福祉避難所(母子)	日本女子体育大学附属二階堂高等学校				
福祉避難所(高齢者)	介護老人保健施設 梅ヶ丘				
福祉避難所(障害者)	都立光明学園　白梅福祉作業所　東京リハビリテーションセンター世田谷障害者支援施設梅ヶ丘				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	2　ヶ所	防災行政無線塔	5　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	松原公園　松原5の8先歩道上				
警察署・交番	北沢警察署				
消防署・出張所	松原出張所				

(6)防災資源マップ



出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

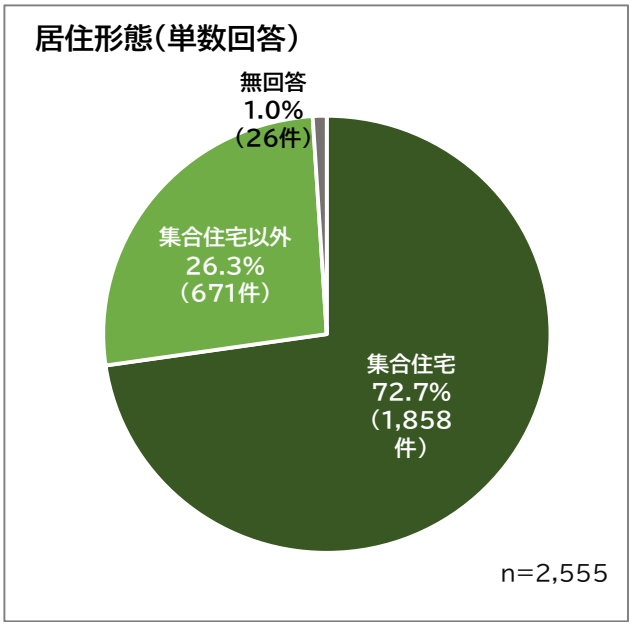
(7)区民アンケート(松原地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

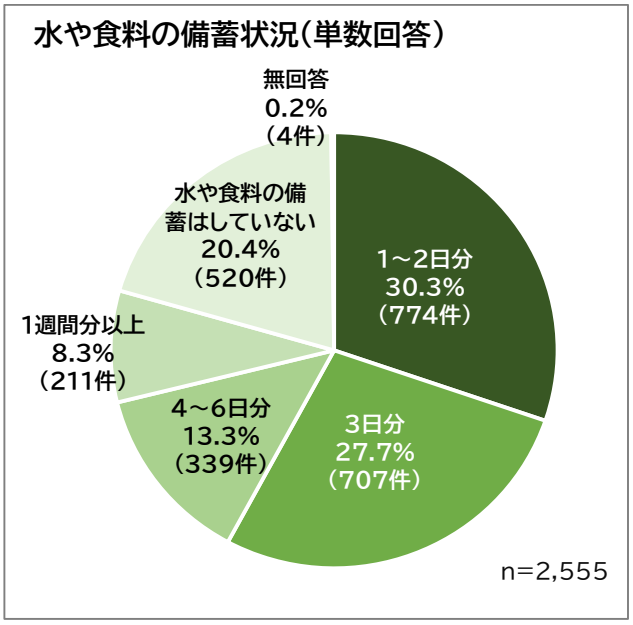
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

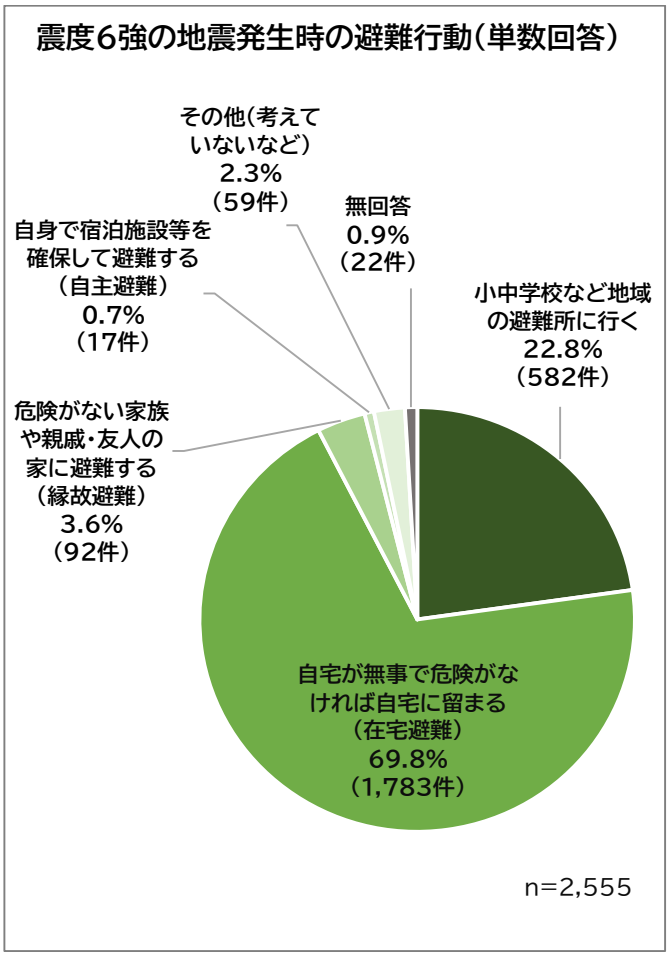


(7)区民アンケート(松原地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(松原地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

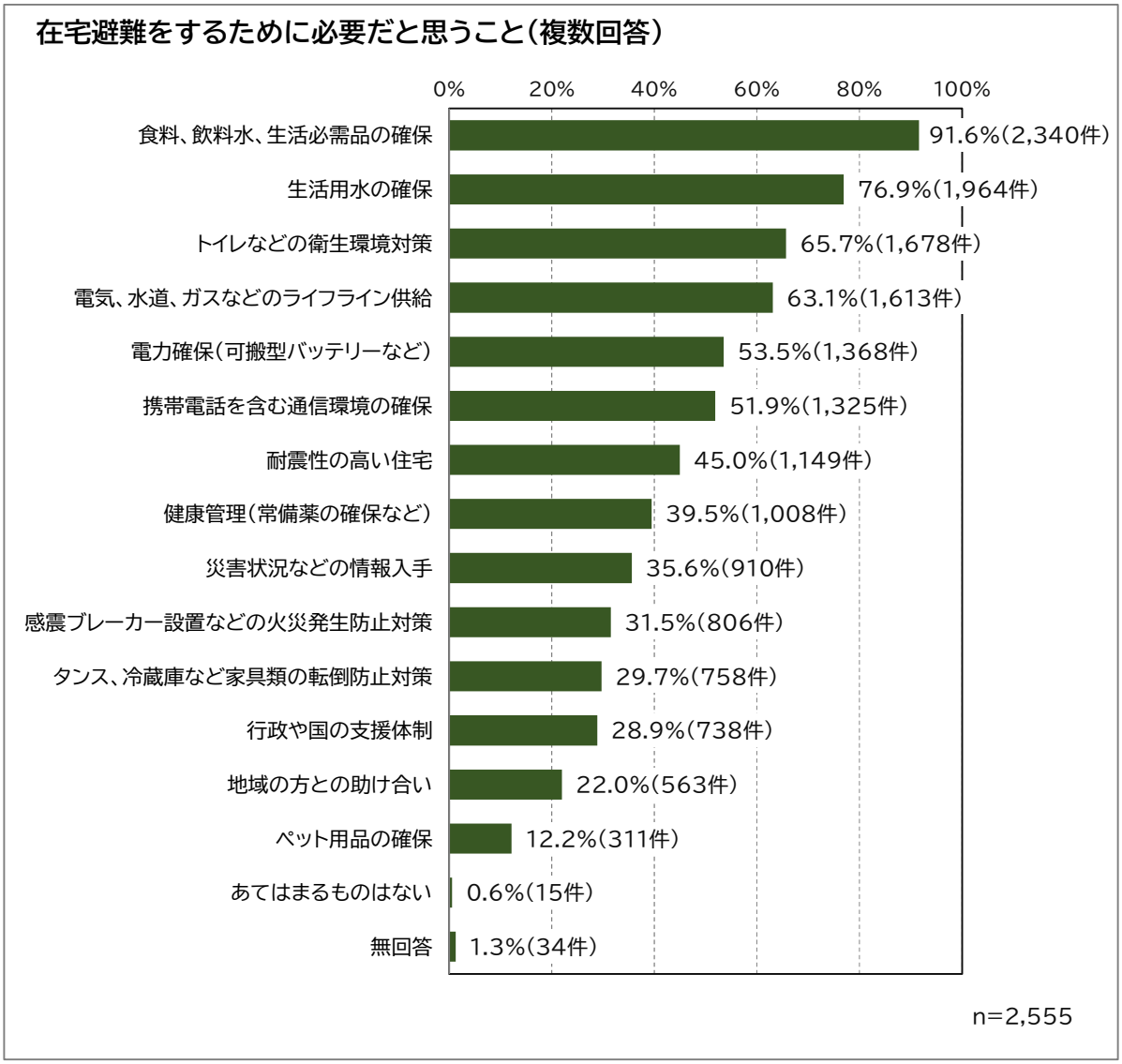
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(松原地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

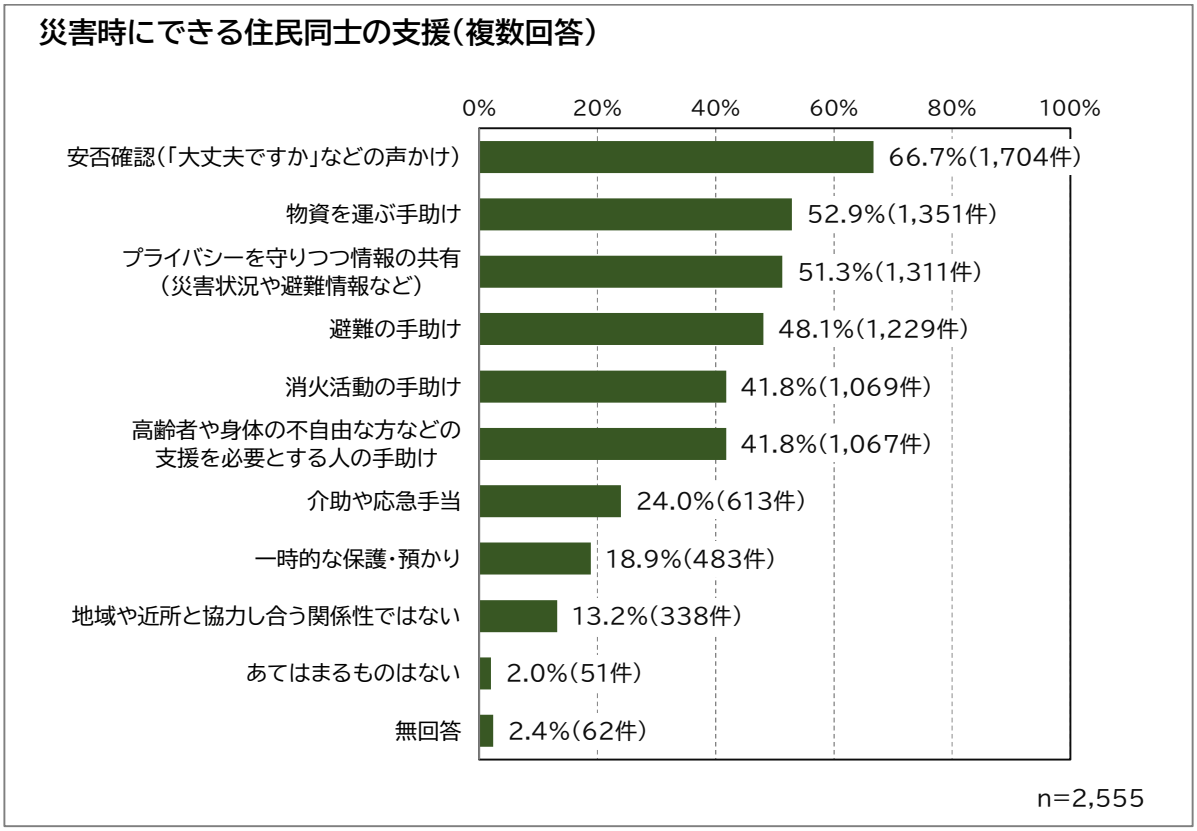


(7)区民アンケート(松原地区)

単純集計(5/5)

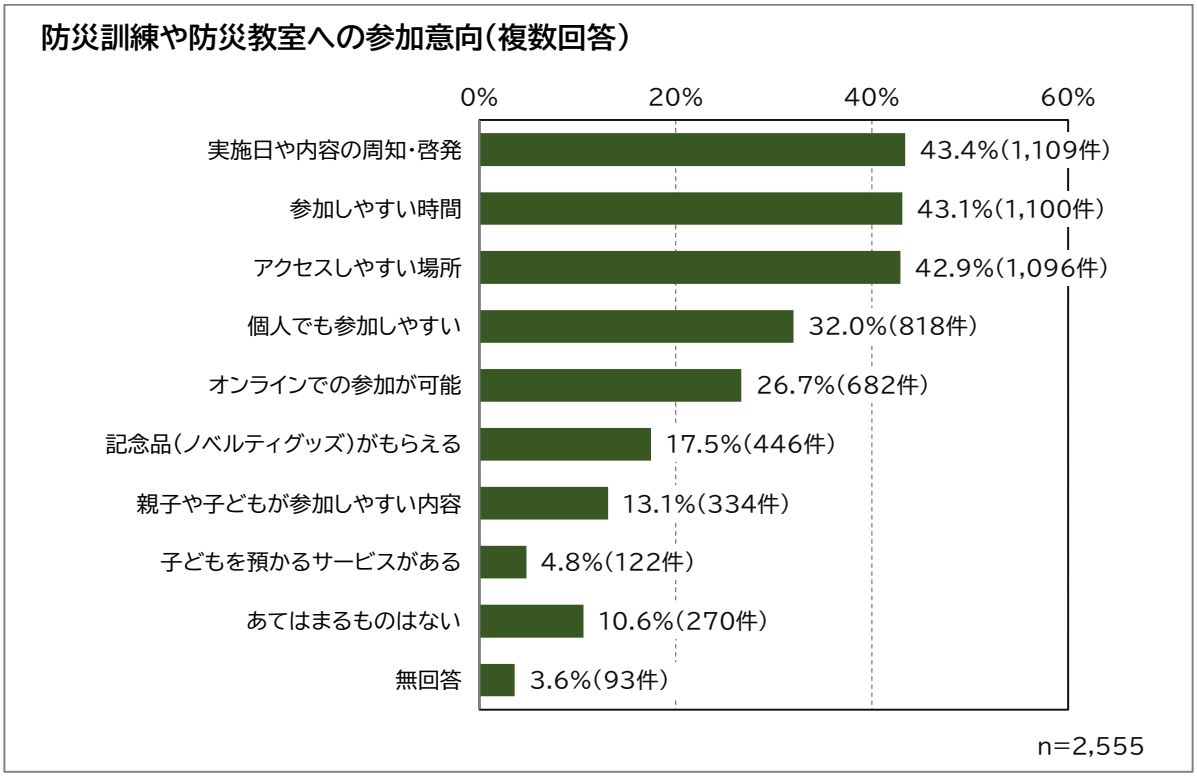
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

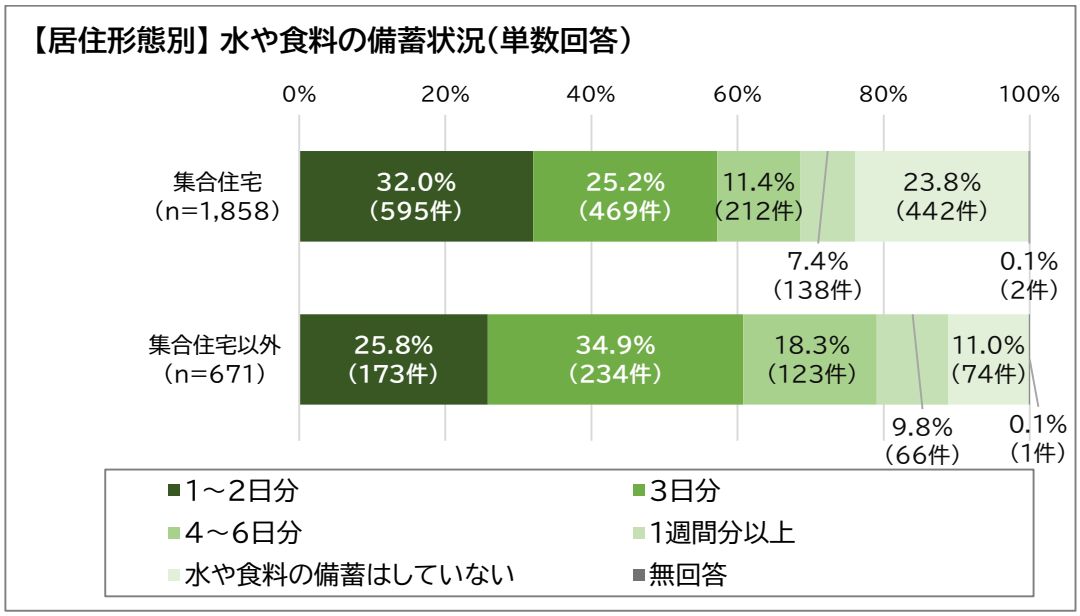


(7)区民アンケート(松原地区)

クロス集計(1/4)

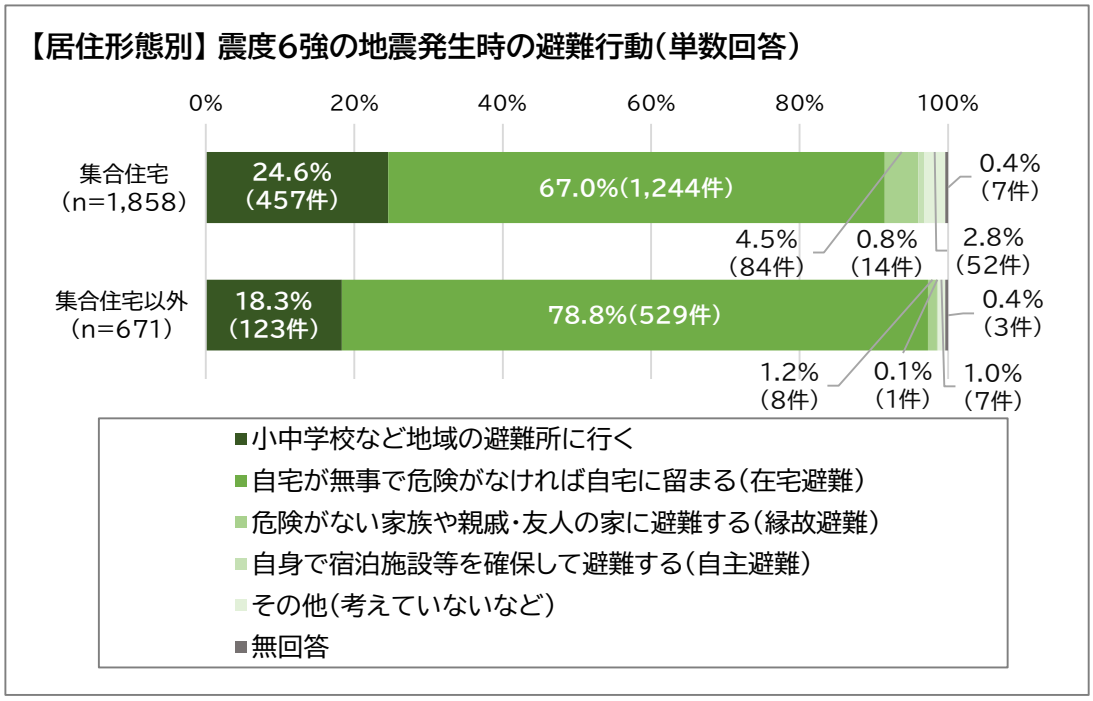
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

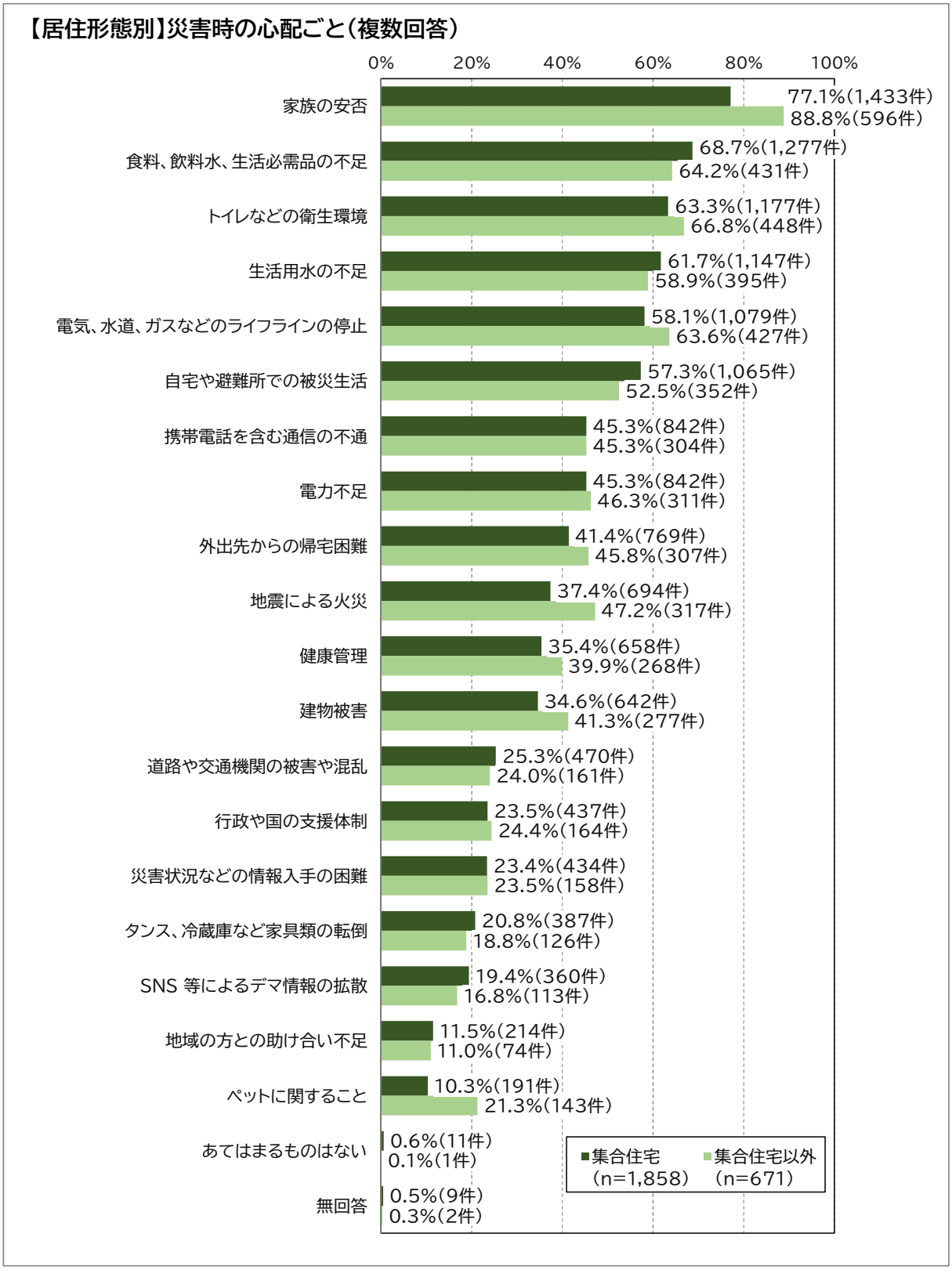


(7)区民アンケート(松原地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

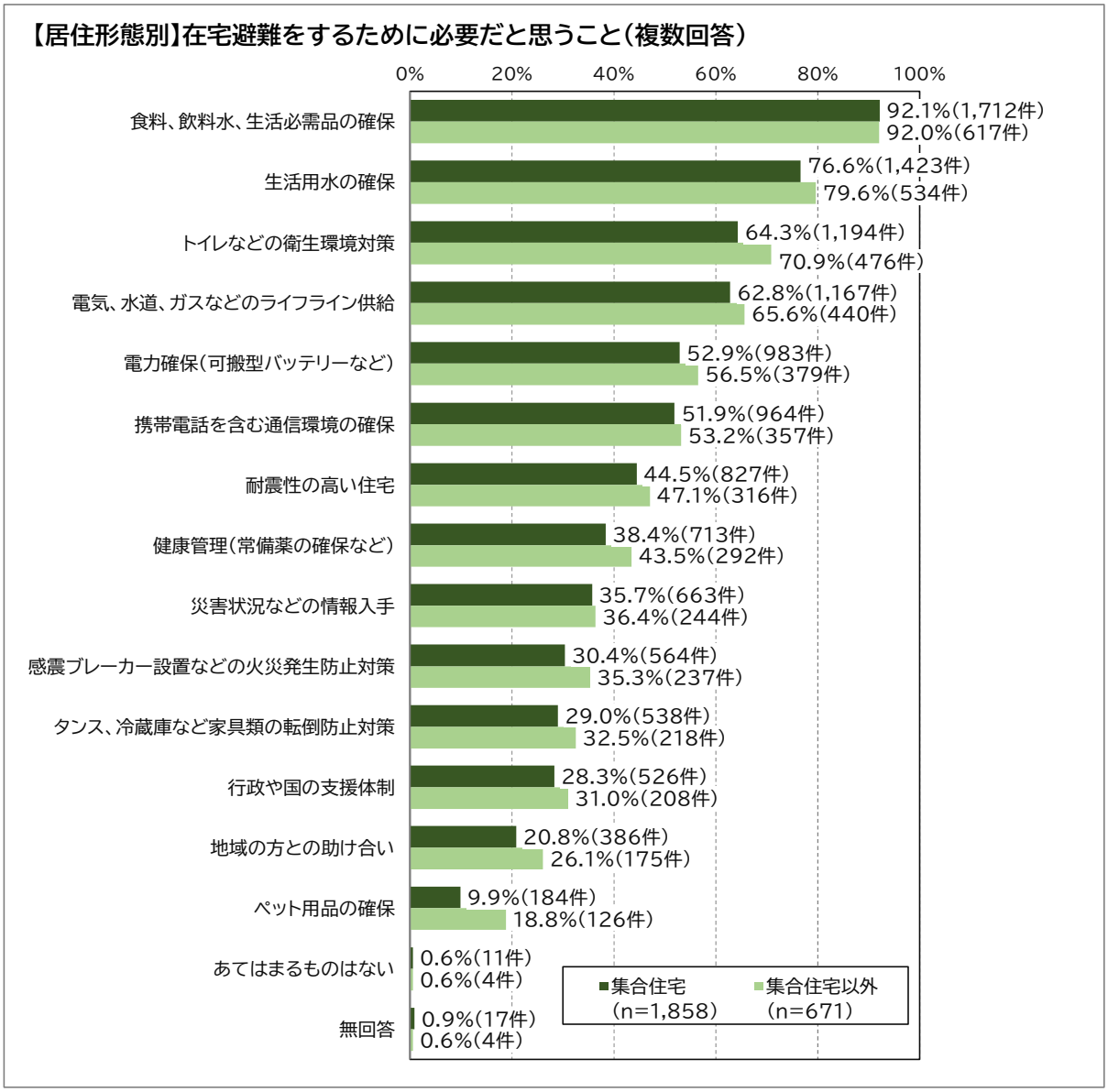


(7)区民アンケート(松原地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

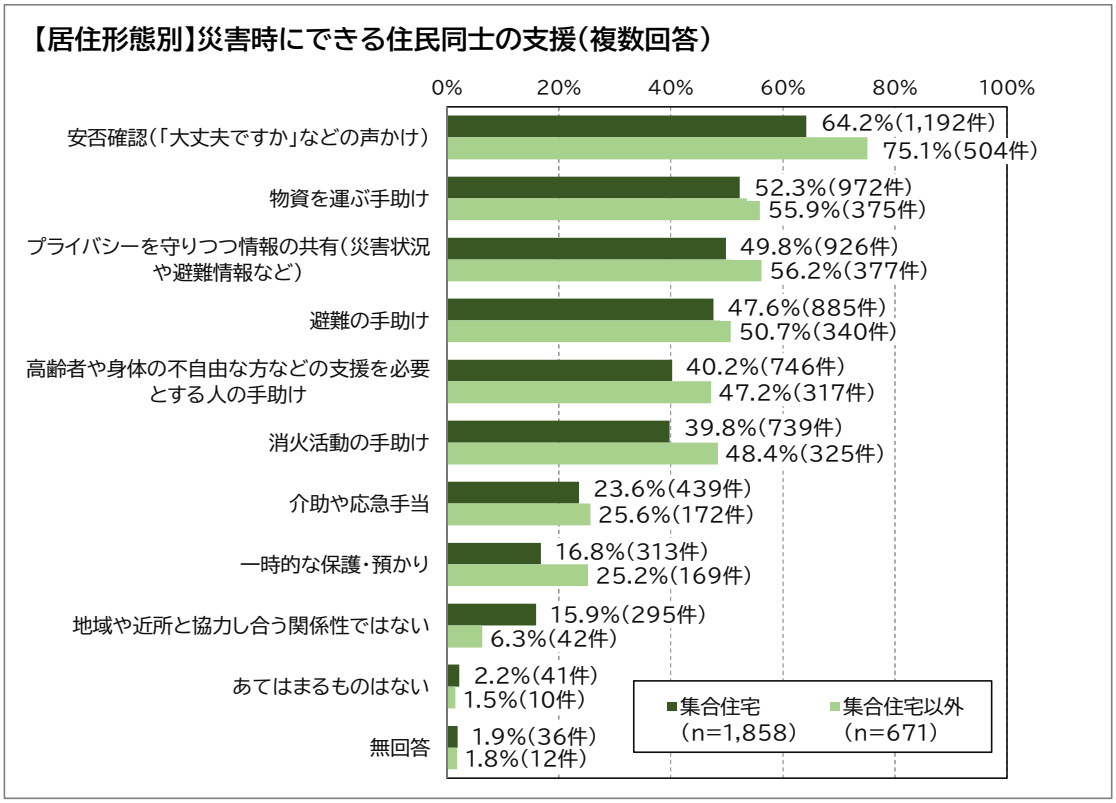


(7)区民アンケート(松原地区)

クロス集計(4/4)

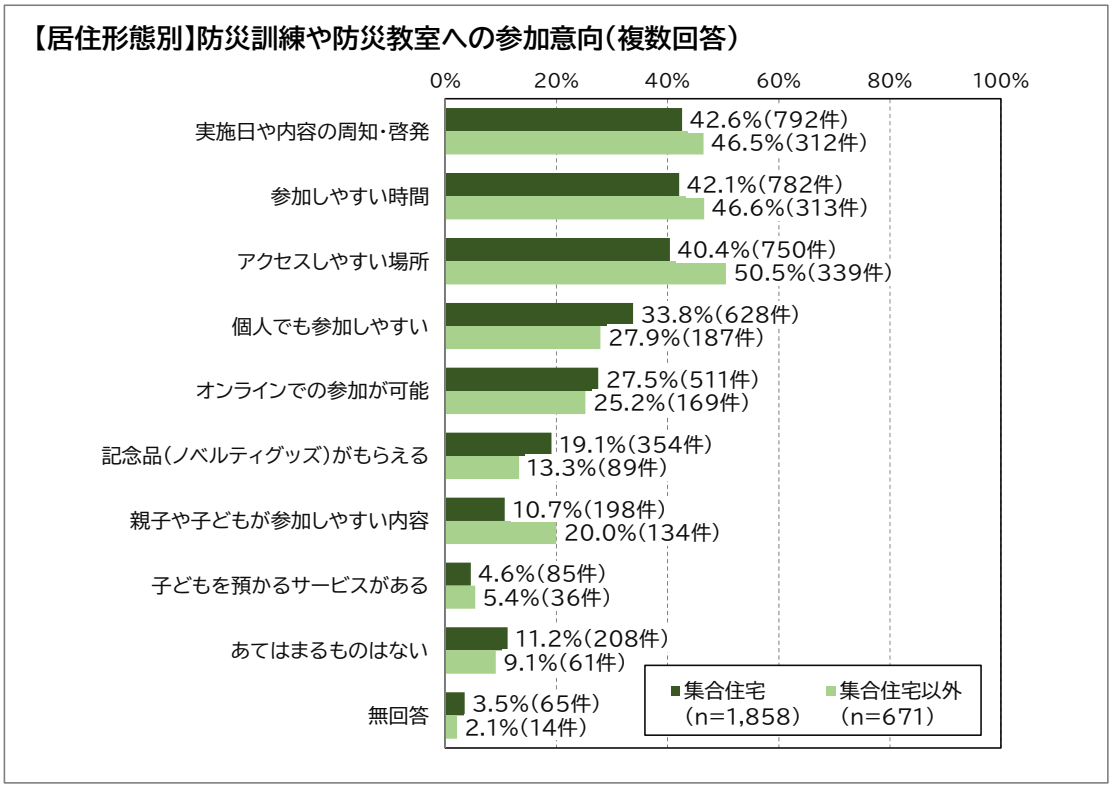
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備									
		実施している	実施していない	会議名	実施回数（年間）	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
松原1丁目町会	2	○		役員会	11	○		○		5	町会事務所、松原1－5、松原1－16、松原1－21、松原1－42	1	松原つみき公園	4	町会事務所		
松原2丁目町会	1	○		役員会（要援護者等について）	5～6	○		○				3	松原まちづくりセンター、松原公園、町会事務所	3	町会事務所		
松原三・四丁目自治会	3	○		松原三・四丁目自治会防災部会	2	○		○		2	自治会館	1	弁天児童遊園	2	自治会館		
松原5・6丁目自治会	4	○		避難所運営訓練・防災講座打合せ	5～6	○		○		4	自治会館（2）、松原6－36私道、赤羽公園防災倉庫、松原5－22－8	1	自治会館	3	自治会館		

団体名	防災訓練等の実施								防災マップ											
			防災訓練		救命救急講習会		その他						掲載情報							
	実施している	実施していない	回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
松原1丁目町会	○		3	松原つみき公園、松原1－5、松原小学校	1	町会事務所						○（松原まちづくりセンターのマップを使用）	○	○	○	○	○	○		給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原2丁目町会	○		2	松原小学校、松原2－2								○（松原まちづくりセンターのマップを使用）	○	○	○	○	○	○		給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原三･四丁目自治会	○		3	松沢小学校、弁天児童遊園	3	北沢タウンホール、松原まちづくりセンター						○（松原まちづくりセンターのマップを使用）	○	○	○	○	○	○		給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ
松原5･6丁目自治会	○		4	梅丘中学校、自治会館、松原小学校			スタンドパイプ放水訓練	松原6－36私道、赤羽根公園、松原5－22－8				○（松原まちづくりセンターのマップを使用）	○	○	○	○	○	○		給水拠点、防災無線塔、防災資機材庫、消防ポンプ倉庫、AED、スタンドパイプ

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他
松原1丁目町会	1		1		○			事業者と町会長所有重機の借用提供		○			○				○	○	
松原2丁目町会	1		1		○			明大前商店街との連携		○			○	○				○	
松原三・四丁目自治会	4		4		○			赤堤4丁目町会、下高井戸商店街振興組合、松沢小学校		○			○	○				○	
松原5・6丁目自治会	2		0		○			東松原商店街振興組合、松下松友会		○			○	○			○	○	

団体名	防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備																	
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所
松原1丁目町会				○			○	1	1		2	1	10		5	3	3	3	1	1		鉄筋カッター1、チェーンソー1、なた1、車椅子3	町会事務所
松原2丁目町会				○			○			5	2	1	20	1	1	1	1	1	1	1		防災服 避難はしご(4m)2 避難はしご(7m)1 三角巾100	町会事務所の防災倉庫
松原三･四丁目自治会		○					○	1	3	2		1	20	1		1		2					自治会館
松原5･6丁目自治会				○			○	1		1	1	2	35	1	1	1	1	1		1		アルミ製車椅子1台、デジタル無線機2台	自治会館防災倉庫、赤羽根公園防災倉庫

団体名	食糧等の備蓄																		その他の防災活動
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先	
松原1丁目町会		○	若干	若干		若干	若干	若干	1		5		3	2		灯油バーナー1	町会事務所		炊き出し訓練(年1回)
松原2丁目町会		○		100	30	60	60	60		60	100		1	2	20		町会事務所の防災倉庫		
松原三･四丁目自治会		○	100	100	100	100	50	100	1		1	100		2	3		自治会館		･防犯カメラの設置 ･パトロールカー(1台)での巡回
松原5･6丁目自治会		○		75	30	72	200	100			ダンボールトイレ100 携帯トイレ750	1	1	3		組立式簡易トイレ(赤羽根公園防災倉庫)、カセットガスボンベ	自治会館内防災倉庫、赤羽根公園防災倉庫、松羽稲荷神社	訓練参加区民など	問4の防災訓練に含めているが、独自の防災講座を開催している。

3 松原地区の課題と今後の取り組み

課題1 住民の安否確認

■課題に対する意見

・安否確認の方法が確立されておらず、安否確認の体制も整っていない。
・住民の約半数が町会に未加入なので、住民の情報が少ない。
・緊急時に使用する町会内の連絡網はあるが、機能していない。
・隣近所で安否確認を行うということを確立できればよいと思う。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・町会・自治会ごとに担当者や役割を決めて、安否確認の体制を作る。
・担当者ごとに収集した情報を、集約できるような用紙の作成や場所の確保についても検討していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・会長、副会長、民生委員、地区理事が安否確認をして情報を集める。(1丁目)
・災害時の役割を分担した組織図を作成する。(1丁目)
・ノート等を使用して、被害情報の報告書を作成しておく。(1丁目)
・避難所での安否確認を円滑に行うために、同じ避難所が指定されている松原1丁目町会と分けて安否確認が出来るようにしておく。また、安否確認が出来た避難者に、ケガや病気の有無を記入したシールを貼ってもらう。(2丁目)
・住んでいる番地ごとにブロックを作り、その中の班長に安否情報を報告するという仕組みを確立していく。(三・四丁目)

課題2 避難行動要支援者支援(旧災害時要援護者支援)

■課題に対する意見

・避難行動要支援者支援制度の認知度が低いため、防災訓練等で周知を行っているが、防災訓練に参加する人が少ない。
・自治会役員と民生委員の組み合わせで要支援者の訪問を行っている。
・要支援者の約3分の2は、同居人がいる。
・名簿記載者以外にも、支援が必要な人を含めた町会独自の名簿を作成している。(1 丁目)
・高齢者1人暮らし、高齢者同居人有り等の区分をして把握している。(1 丁目)
・チラシのポスティング後に、訪問している。(三・四丁目)
・民生委員と自治会役員が2人1組で訪問している。事前に会長の名前で手紙を送り、訪問の際に名刺の提示や5・6丁目のベスト着用などで役職を証明している。年2回行っている。(5・6丁目)

■地区としての今後の取り組みの方向性
・防災訓練等で避難行動要支援者支援制度について周知をしていく。
・災害時に安否確認を行う担当を組織化しておく。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・避難行動要支援者支援制度についての周知をしていく。（2丁目）
・災害時は、担当者を5人×3グループに組織化して安否確認を行う。（5・6丁目）
・要支援者の安全確保については、ヘルパー等の活用も検討する。（5・6丁目）

課題3　負傷者等の救出・救護

■課題に対する意見
・救助するための人員が不足している。
・町会内の医療従事者の情報を把握出来ていない。
・救護体制が確立していない。
・救護用具（当て木や包帯など）は防災倉庫に備蓄している。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・町会・自治会の役員が主体となって、救護活動を行うことを想定しているが、実際はすぐに活動できないことが予想されるので、救護体制について検討していく。
・防災倉庫などに救護用具を備蓄しておく。
・松原地区には医療救護所に指定された避難所がないので、最寄りの医療救護所（代田小学校や松沢中学校）について周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・町内の医療従事者リストを作成する。（1丁目）
・自宅での備蓄物品リストを作成して回覧で周知する。また、自宅に倒壊等の恐れがない場合は、在宅避難をするように呼びかけていく。（1丁目）
・一般の通行人に救護活動の応援を求めるとしているが、どの程度の人数が活動できるのかについて想定が難しいので、今後検討していく。（2丁目）
・医療救護所については「松原三・四丁目の最寄りは松沢中学校」と地域イベント等で周知していく。（三・四丁目）

課題4　初期消火

■課題に対する意見
・消火器やスタンドパイプの使い方がわからない人が多い。
・消火器やスタンドパイプ、消火栓の設置場所が把握できていない。
・防災訓練等で消火器やスタンドパイプの使い方を周知しているが、防災訓練に参加する人が少ない。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・消火器やスタンドパイプの使い方については、防災訓練等で周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・火災の原因となる漏電を防ぐために、電気のブレーカーを落としてから避難するように周知していく。（1丁目）
・消火器等の設置場所については、防災マップを用いて周知していく。（2丁目）

課題5　帰宅困難者対策
■課題に対する意見
・発災の時間帯によっては、帰宅困難者支援ステーション等に収容できない数の帰宅困難者が避難してくることが予想される。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・帰宅困難者は避難所では受け入れられないので、帰宅困難者支援ステーション（都立光明学園や永福学園、中央ろう学校、松原高校）の役割を周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性
・広域避難場所に指定されている羽根木公園には、多くの避難者（帰宅困難者を含む）が避難してくることが想定されるので、備蓄物品を保存しておく倉庫の設置を検討する。（5・6丁目）

課題6　他団体との連携
■課題に対する意見
・私立学校が2校と私立大学が1校あるが、災害時の協力体制は確立していない。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・私立高校・大学が地区の行事に参加しているので、このような接点を活用しながら災害時の協力体制の確立を目指していく。

課題7　避難物資の確保
■課題に対する意見
・避難物資を確保するルートが確立できていない。

■地区としての今後の取り組みの方向性
・各家庭で物資を確保（備蓄）しておくように周知する。
・避難所に入所する際は、飲料水や食料、日用品などを持参するよう住民に周知する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

・甲州街道からの物資提供を可能にするために、甲州街道沿いに備蓄庫を設置できないか検討していく。（三・四丁目）

・商店街等と物資提供の協定締結を検討しているが、協定を締結しても帰宅困難者などが押し寄せると物資の提供が難しいことが想定される。そのため、避難所から商店街にどのような物資が不足しているか情報提供してもらい、その時点で供給できる物資の情報を確認するためのルートを作る。（三・四丁目）

松沢地区防災計画

［令和7年修正］

松沢地区

【松沢地区防災計画作成団体】　（順不同）

赤堤1丁目町会	日本大学文理学部
赤堤2丁目町会	日本大学櫻丘高等学校
赤堤3丁目自治会	都立松原高等学校
赤堤４丁目町会	松沢中学校
赤堤5丁目町会	緑丘中学校
桜上水1丁目町会	松沢小学校
桜上水2丁目町会	赤堤小学校
桜上水3丁目自治会	松沢地区民生委員・児童委員協議会
桜上水4丁目町会	日赤松沢分団
桜上水5丁目自治会	世田谷消防署上北沢出張所
経堂赤堤通り団地自治会	世田谷消防団 第11分団
都営桜上水3丁目アパート自治会	世田谷消防団 第17分団
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人	下高井戸商店街振興組合
松沢あんしんすこやかセンター	桜上水商店会
松沢地区社会福祉協議会	赤堤商店街振興組合

目 次

1 松沢地区の特性 …… 松沢-1(-404-)
(1)自然特性 …… 松沢-1(-404-)
(2)社会特性 …… 松沢-2(-405-)
(3)地域危険度 …… 松沢-4(-407-)
(4)被害想定 …… 松沢-5(-408-)
(5)防災資源一覧 …… 松沢-8(-411-)
(6)防災資源マップ …… 松沢-9(-412-)
(7)区民アンケート …… 松沢-10(-413-)

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ …… 松沢-19(-422-)

3 松沢地区における課題と今後の取り組み …… 松沢-24(-427-)
(1)負傷者対応 …… 松沢-24(-427-)
(2)帰宅困難者支援 …… 松沢-27(-430-)
(3)地域住民の安否確認・避難行動要支援者支援 …… 松沢-30(-433-)
(4)避難行動及び誘導 …… 松沢-32(-435-)
(5)自助 …… 松沢-38(-441-)

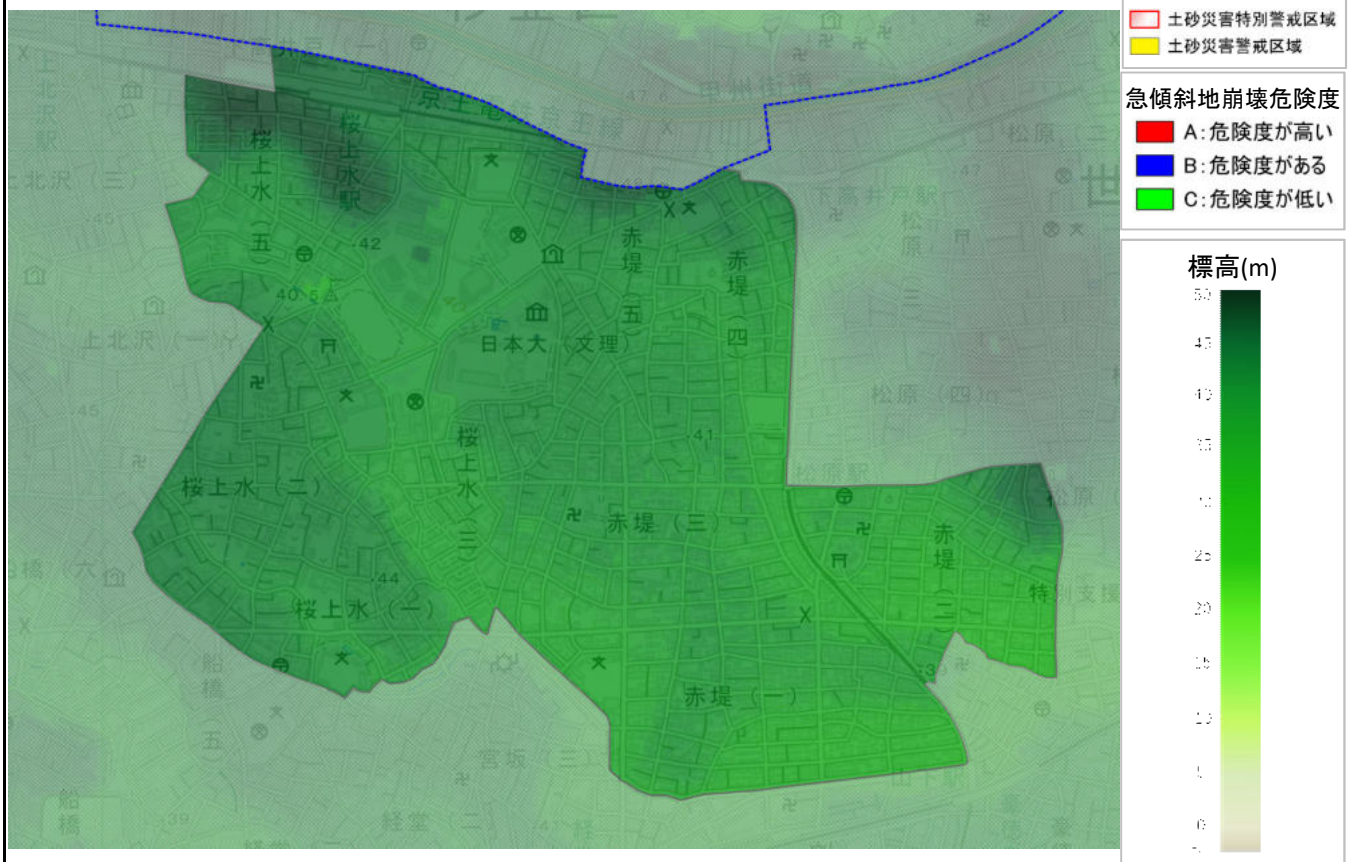
1. 松沢地区の特性

(1)自然特性

面積	2.12 Km²	最高標高	49.2 m	最低標高	33.0 m

位置

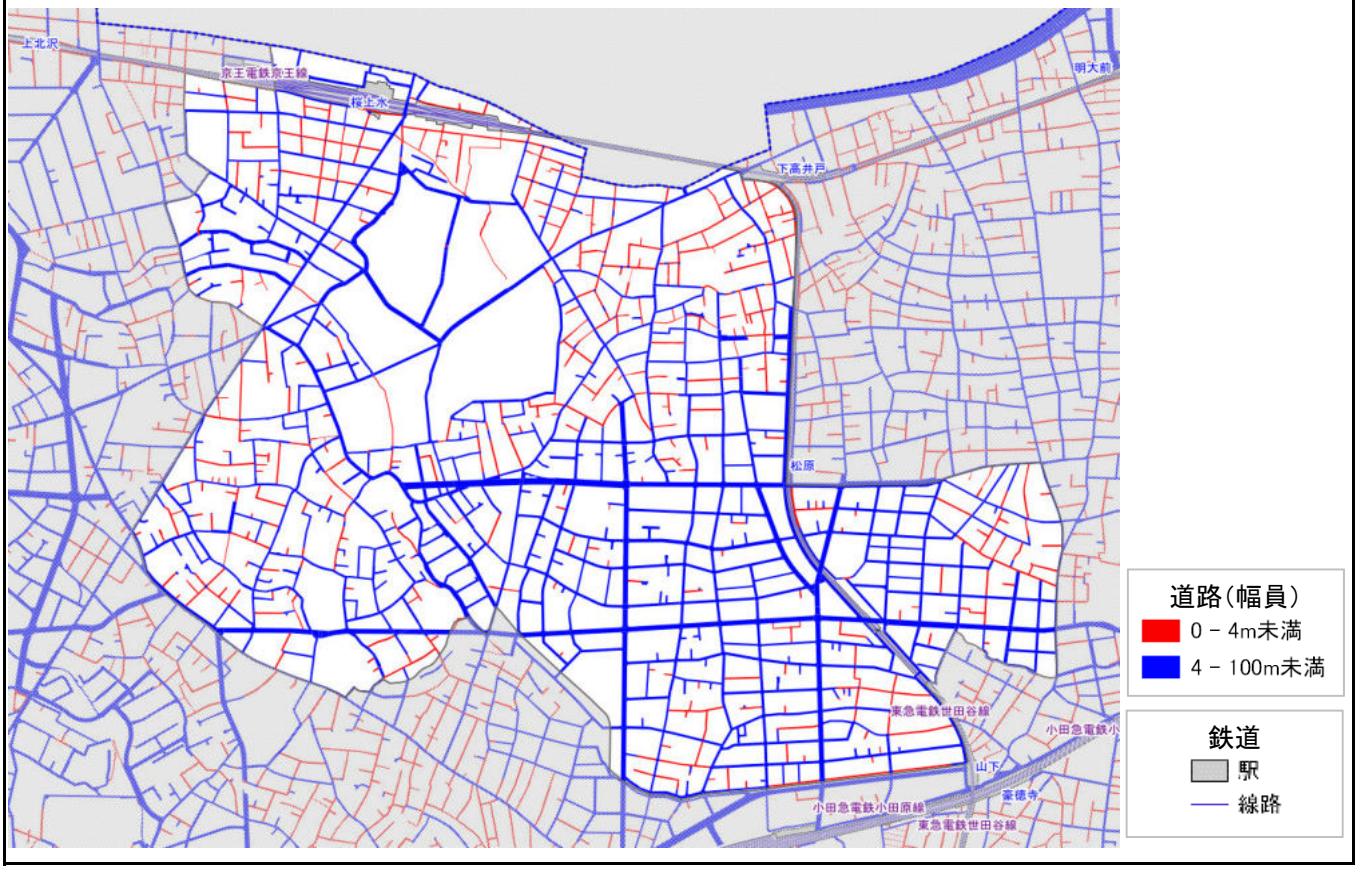
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

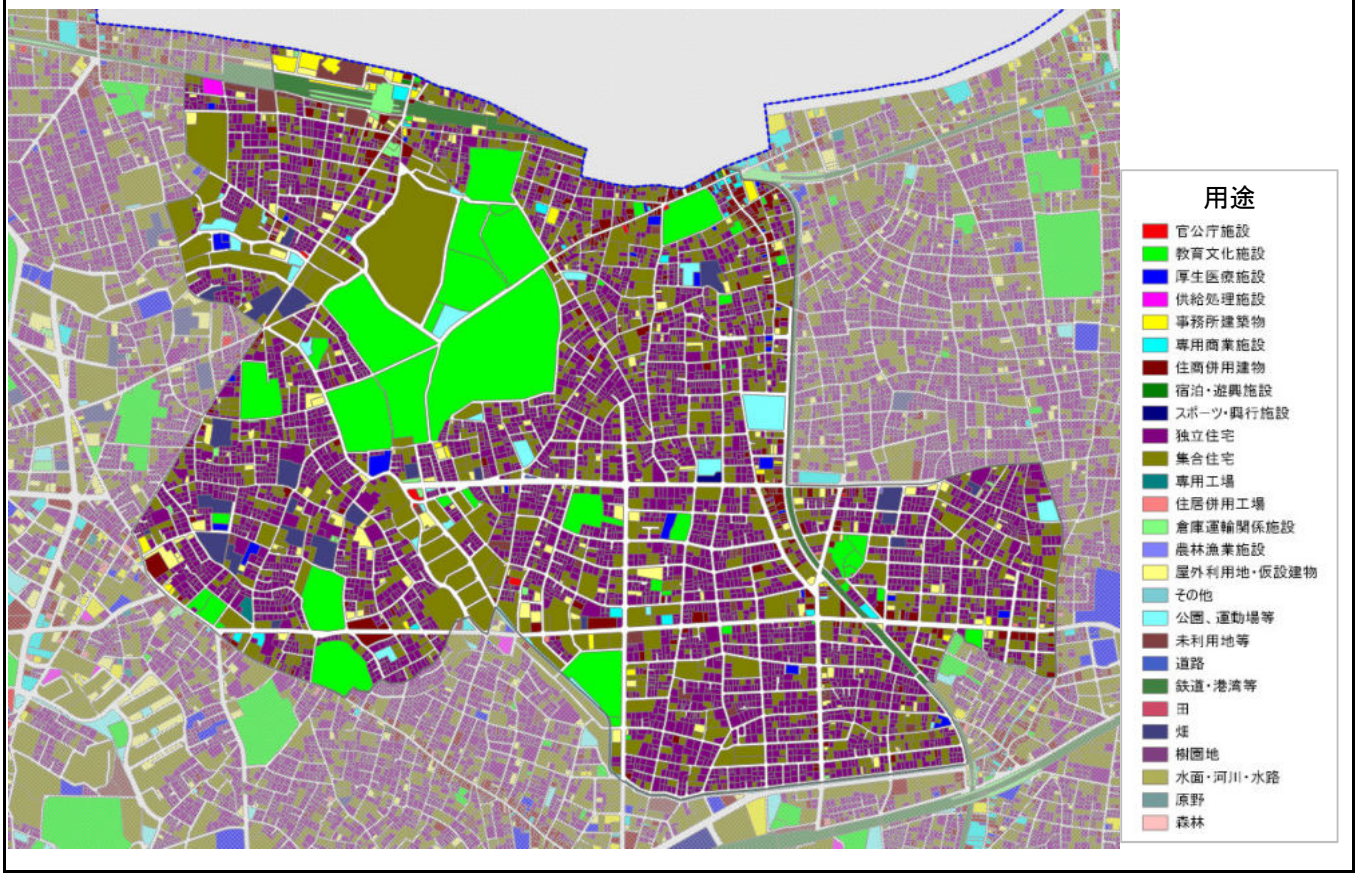
人口	33,994	人	細街路率		28.8 %
世帯数	18,415	世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		63.1 棟/K㎡
1世帯あたり	1.85	人	耐火率(建築面積ベース)		57.4 %
若年層数(15才未満)	3,759	人	土地利用(宅地)		74.7 %
若年層率(15才未満)	11.1	%	土地利用(宅地以外)		25.3 %
高齢者数(65才以上)	7,301	人	鉄道駅	京王線桜上水駅 東急世田谷線松原駅	
高齢者率(65才以上)	21.5	%			
昼間の人口	31,963	人	産業	商業	60.9 %
夜間の人口	35,180	人		工業	9.2 %
昼夜間人口比	0.91	-		農業	29.9 %
町会・自治会数	13	-			

道路・公共交通機関



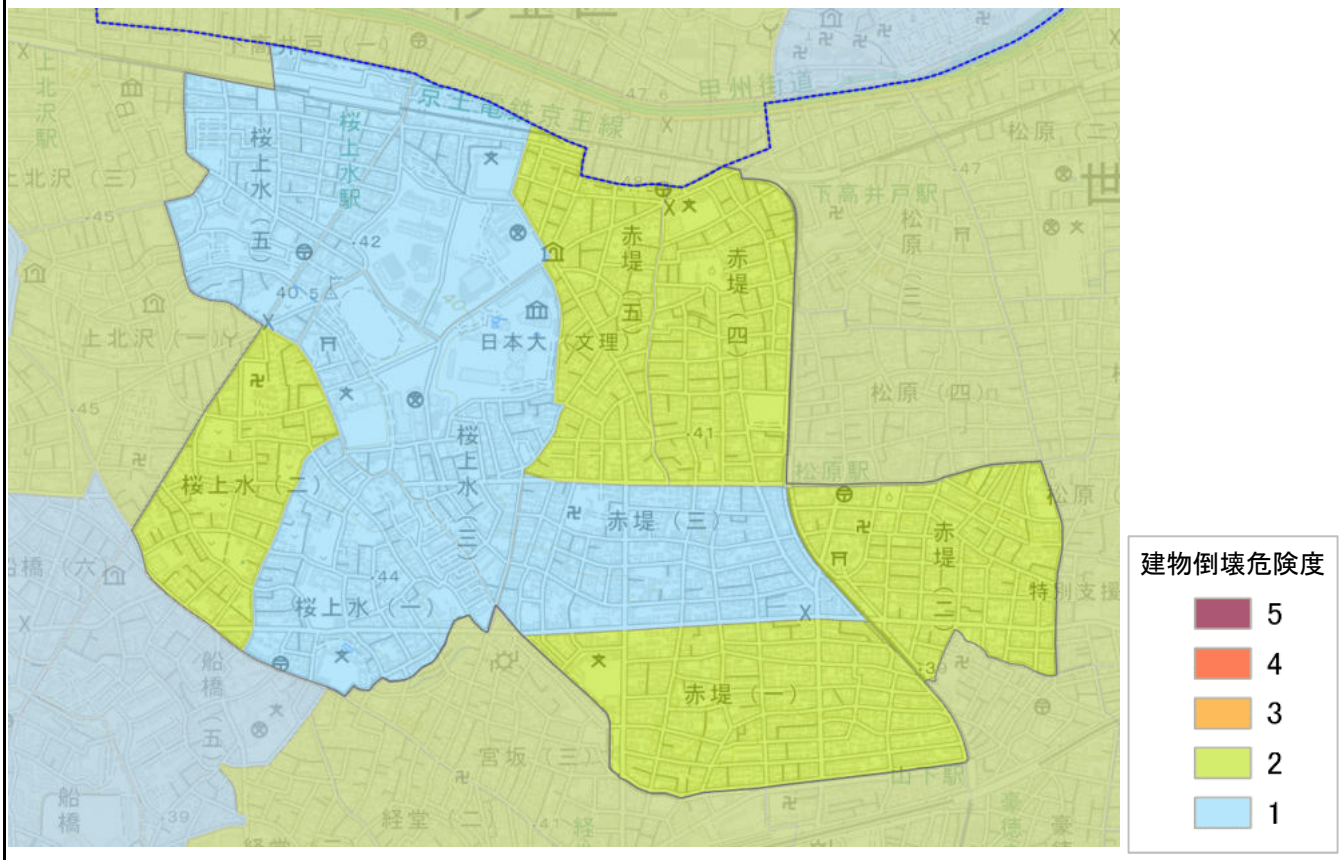
(2)社会特性

産業

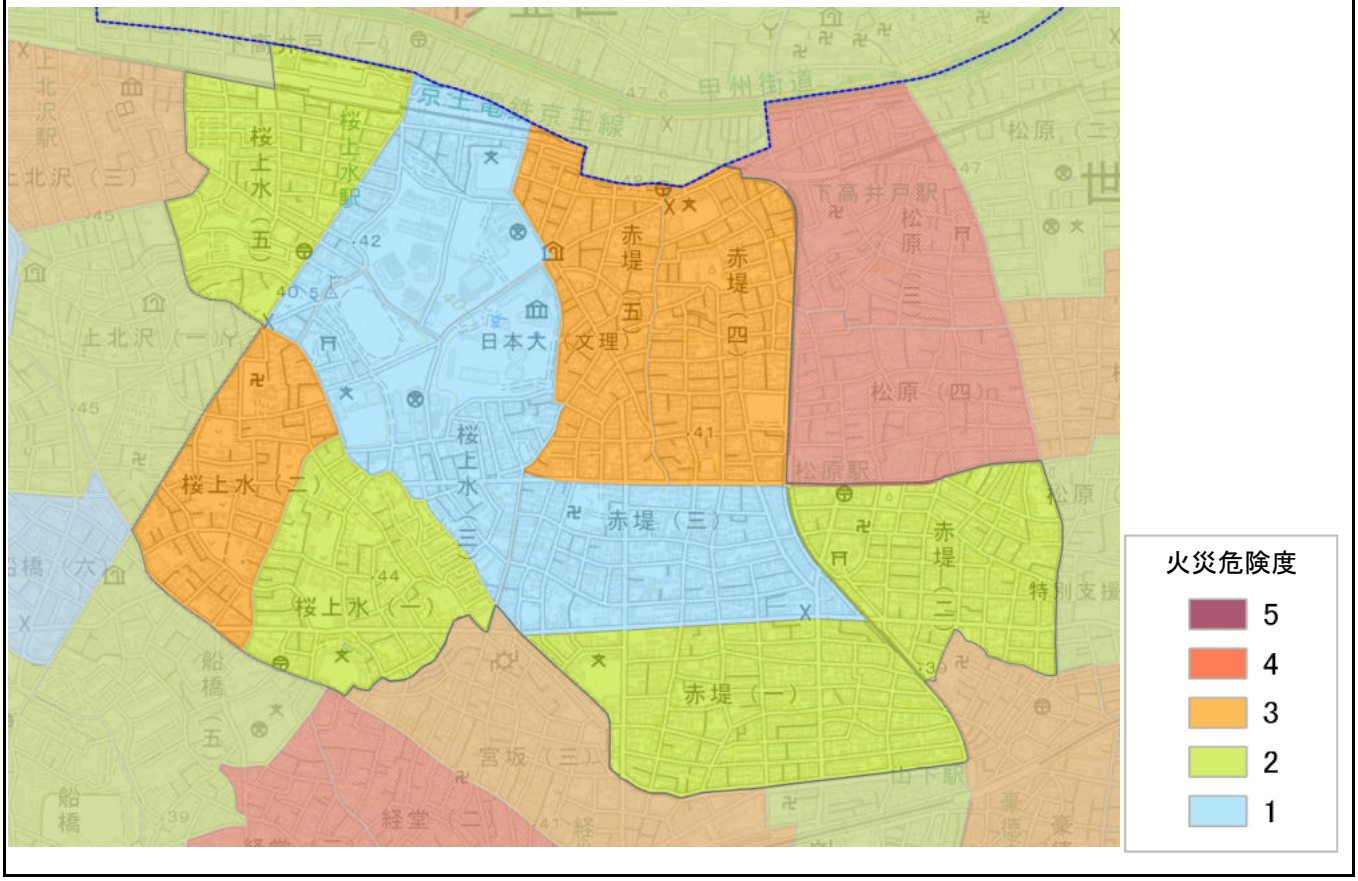

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



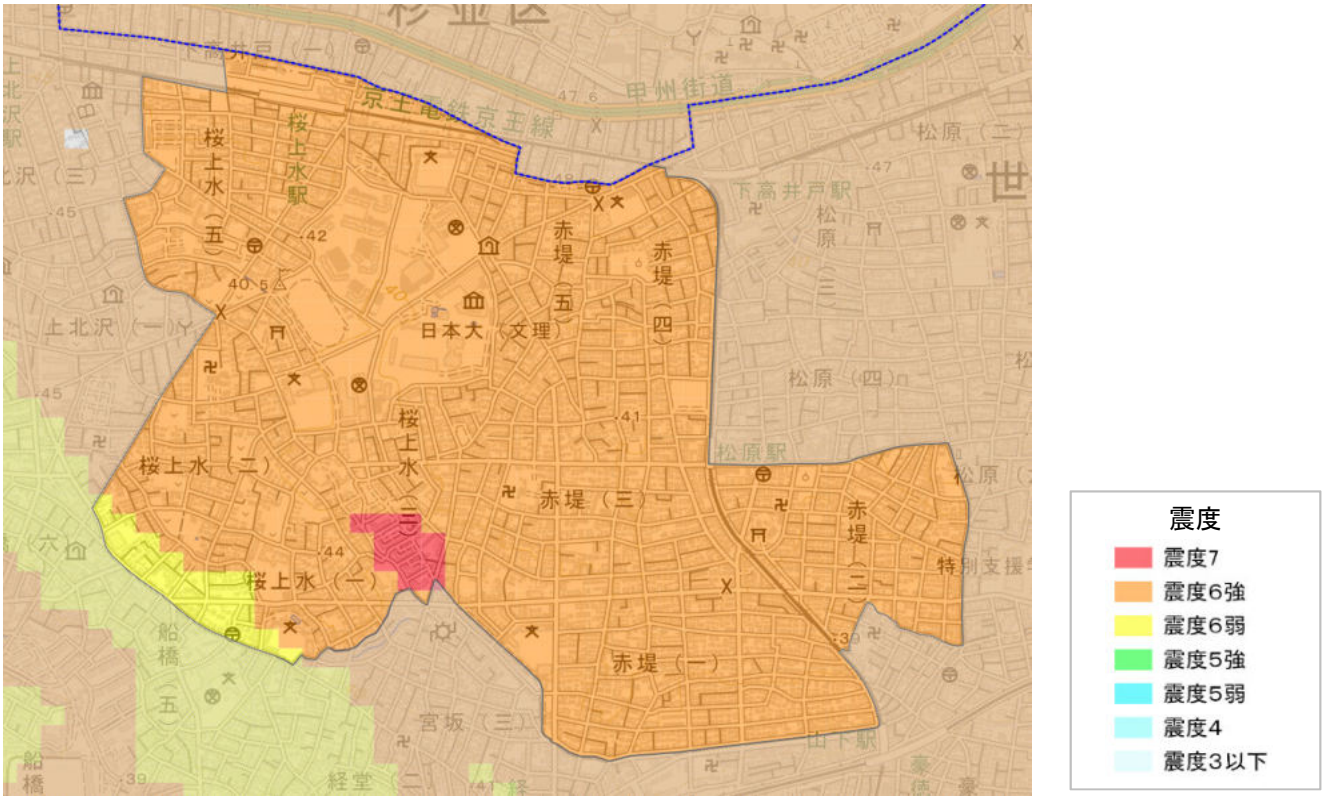
火災危険度



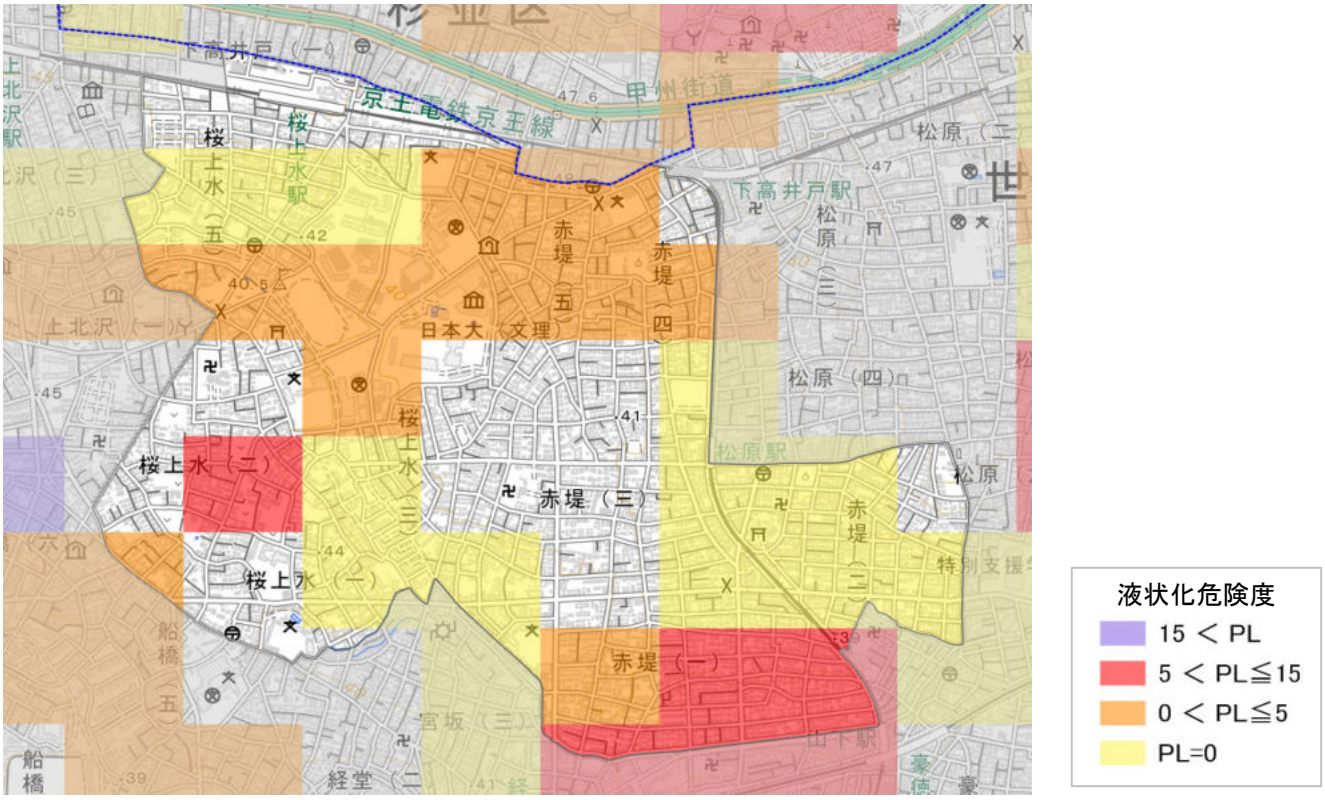
(4)被害想定

全壊棟数	570 棟	死者	41 人
半壊棟数	1,065 棟	負傷者	452 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	1,076 棟	うち重傷者	77 人

震度分布

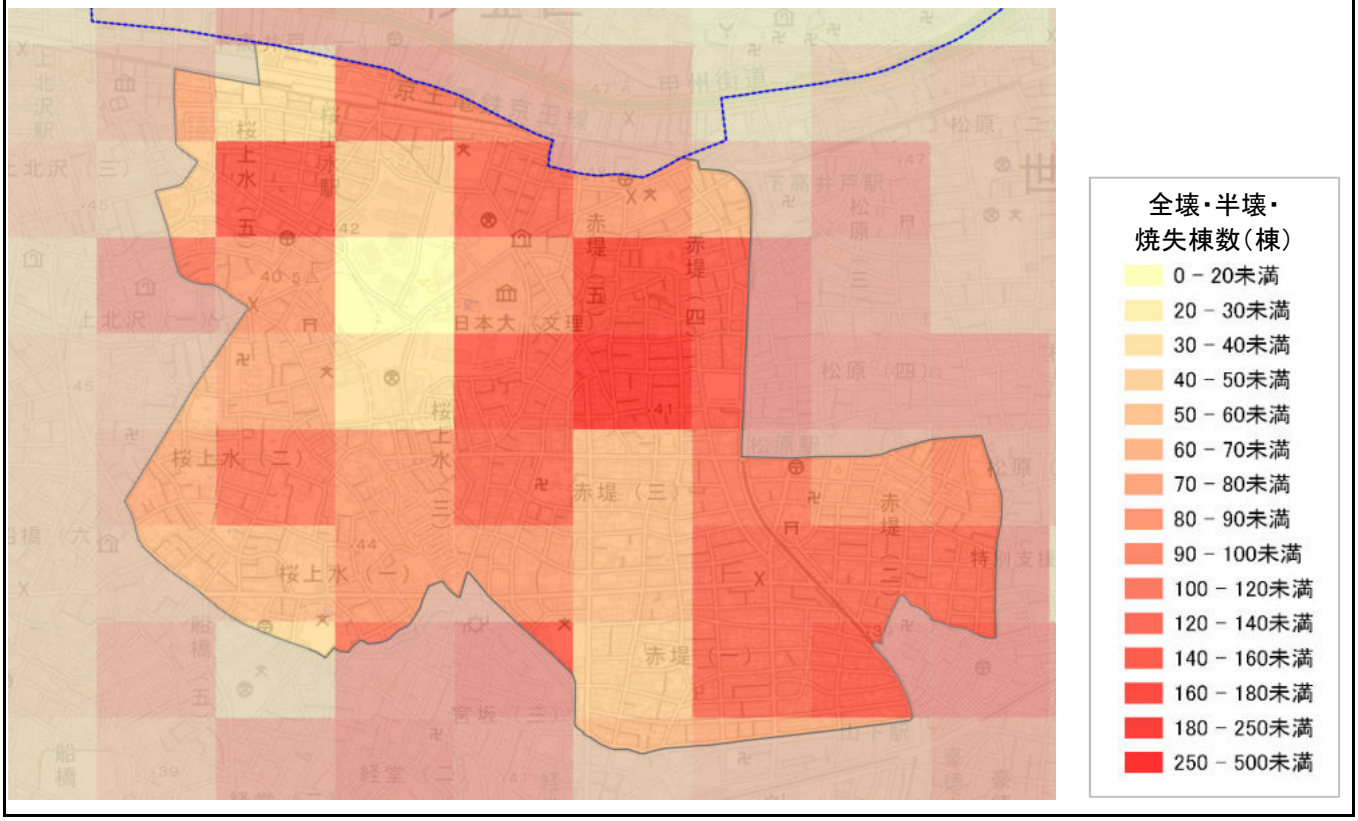


液状化分布



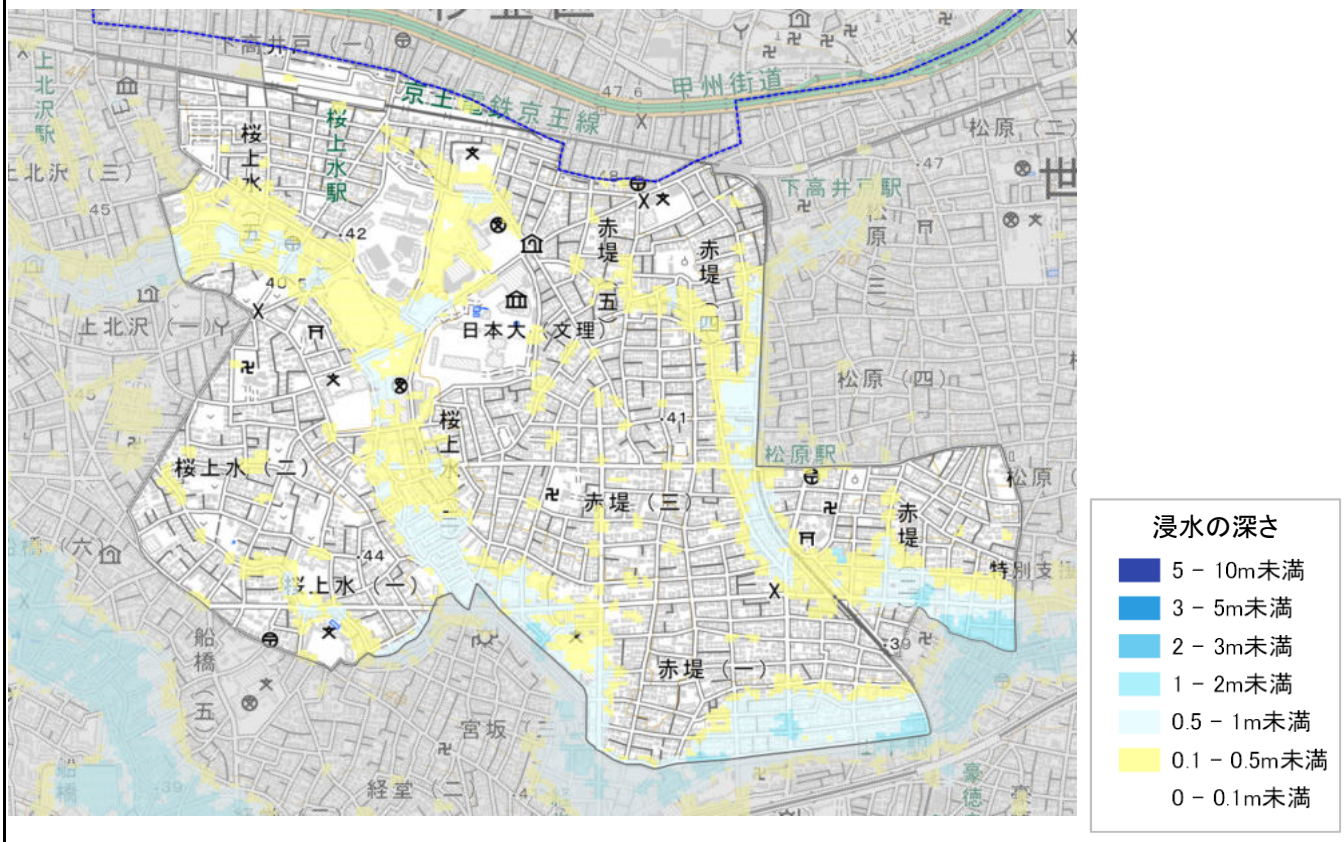
(4)被害想定

被害棟数分布

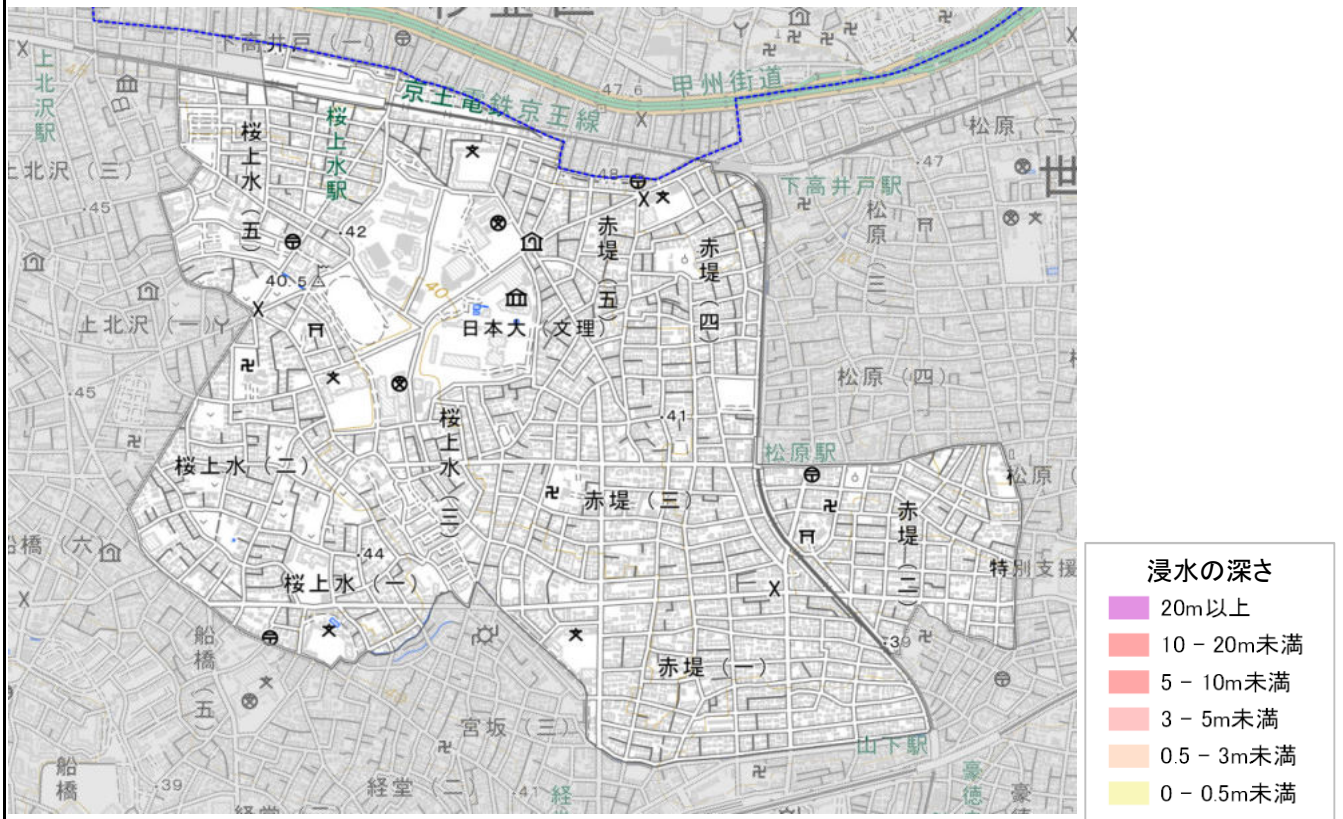


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



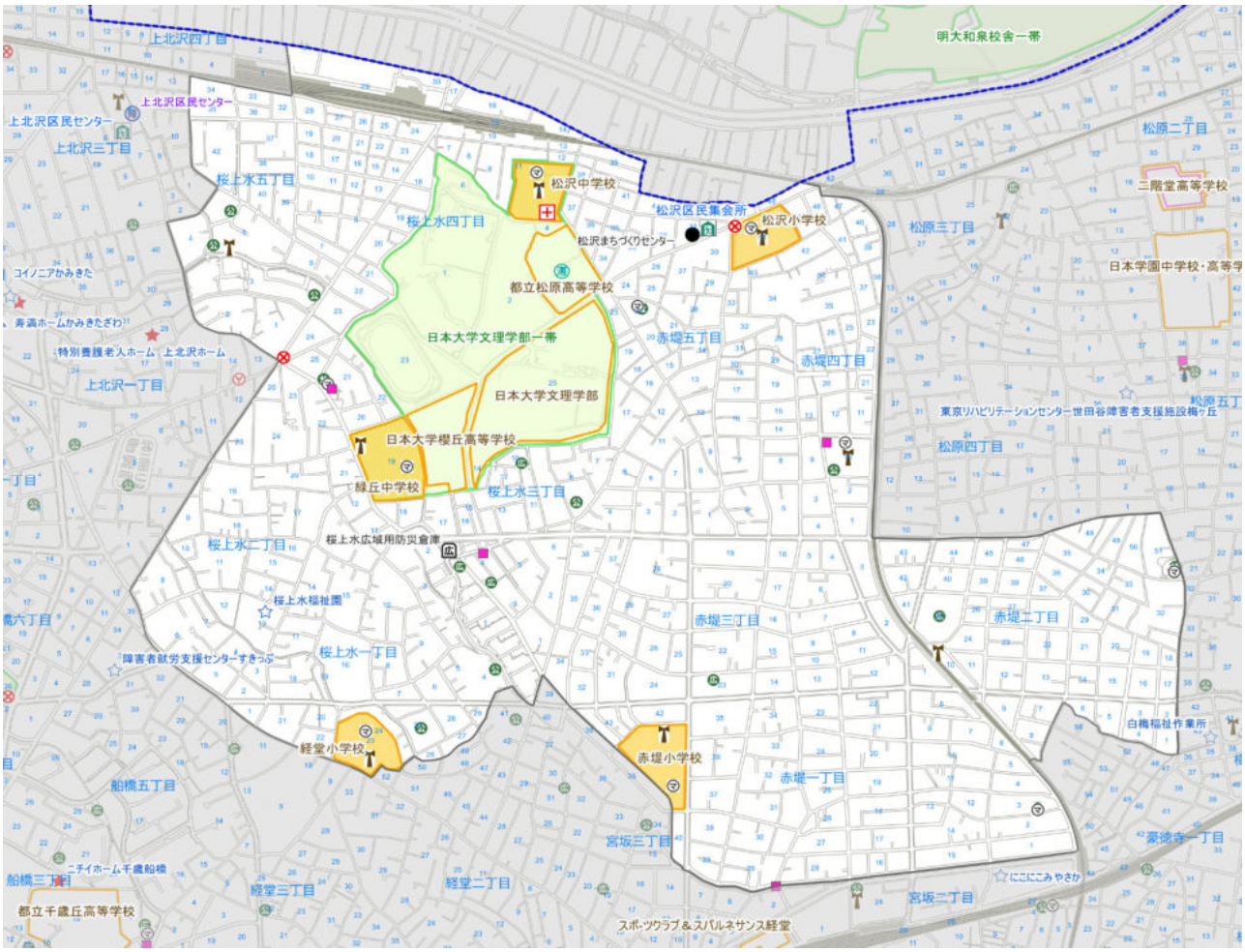
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	日本大学文理学部一帯				
一時集合所	せせらぎ通り　経堂小学校　向山広場　桜上水1丁目公園　桜上水3丁目広場　桜上水のびのび公園　桜上水公園　松沢小学校　松沢中学校　西福寺境内　赤松ぼっくり庭園緑地　赤松公園　赤堤1丁目みんなの公園　赤堤けやき公園　赤堤小学校　団地内広場(都営桜上水3丁目アパート)　団地内広場(経堂赤堤通り団地7号棟の前)　土と農の交流園　日大グランド(陸上競技場)　敷地内広場(桜上水ガーデンズ)　密蔵院　緑丘中学校　六所神社				
指定避難所	松沢小学校 松沢中学校 赤堤小学校 緑丘中学校				
予備避難所	日本大学櫻丘高等学校　日本大学文理学部　都立松原高等学校				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)	桜上水福祉園				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	松沢区民集会所				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	松沢中学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	都立松原高等学校				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	9　ヶ所	防災行政無線塔	8　ヶ所	緑地	1　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫	桜上水広域用防災倉庫				
土のうステーション	桜上水南地区会館　上北沢八幡公園　赤松公園				
警察署・交番	桜上水交番　赤松交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所（母子）
- 福祉避難所（高齢者）
- 福祉避難所（障害者）
- 水害時避難所（第1次）
- 水害時避難所（第2次）
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所（狛江市）
- 水害時避難所（調布市）
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設（車中避難）

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ（多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版）令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口（従業地・通学地による人口）第11表
地域危険度一覧表（地震に関する地域危険度測定調査[第9回]）　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

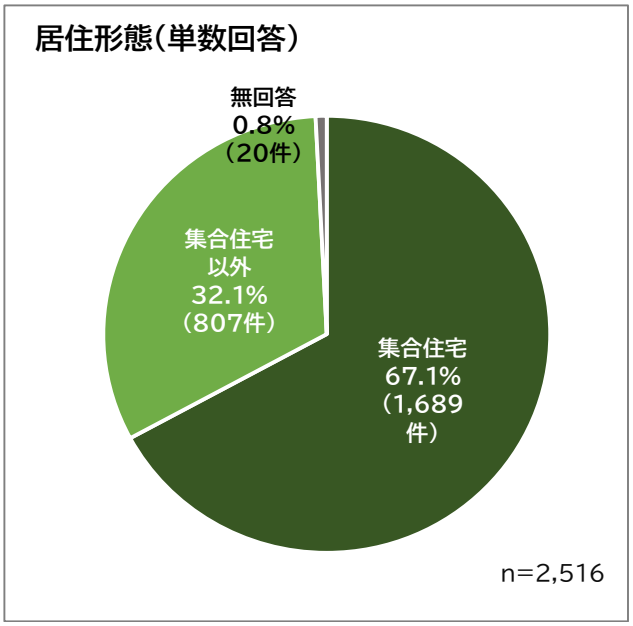
(7)区民アンケート(松沢地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

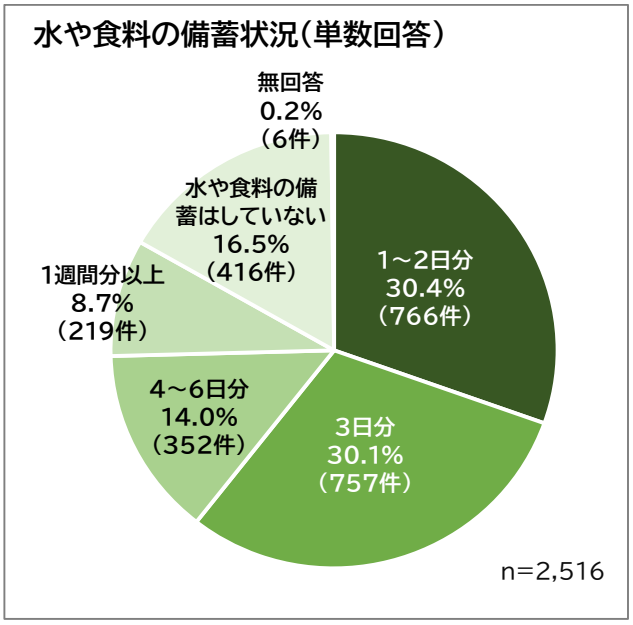
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

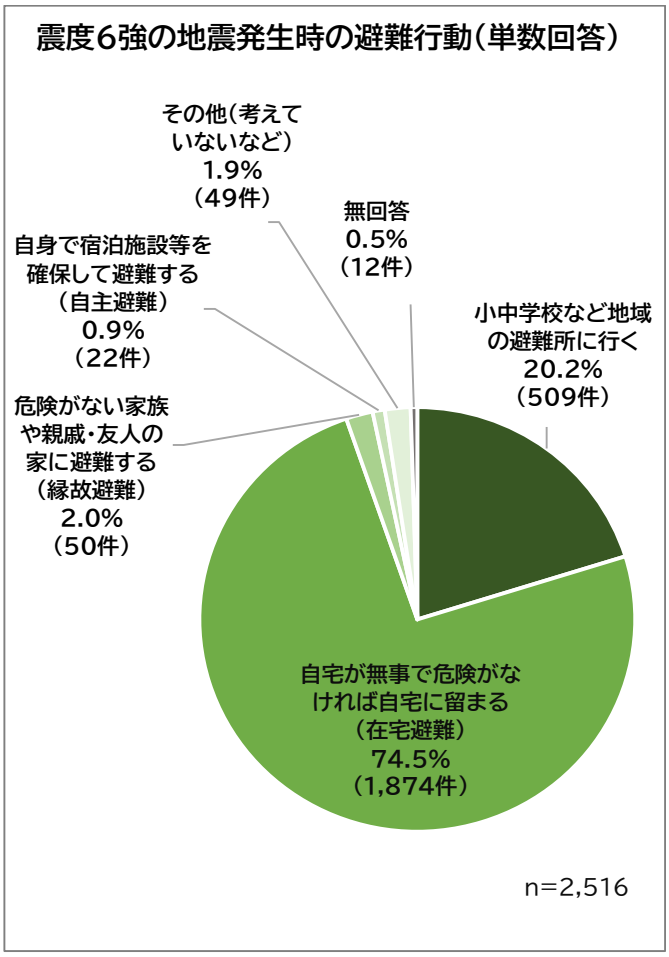


(7)区民アンケート(松沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

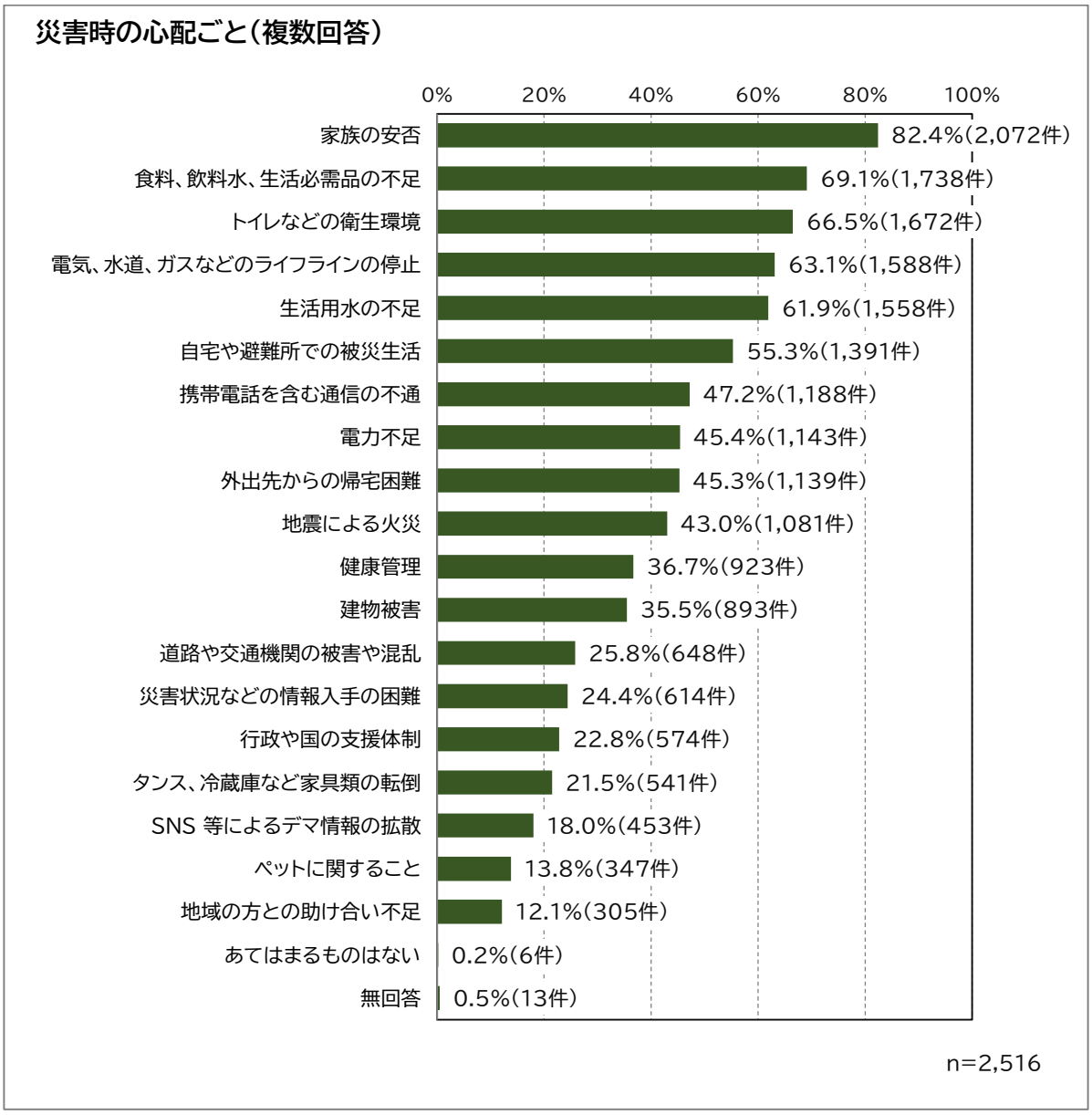


(7)区民アンケート(松沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

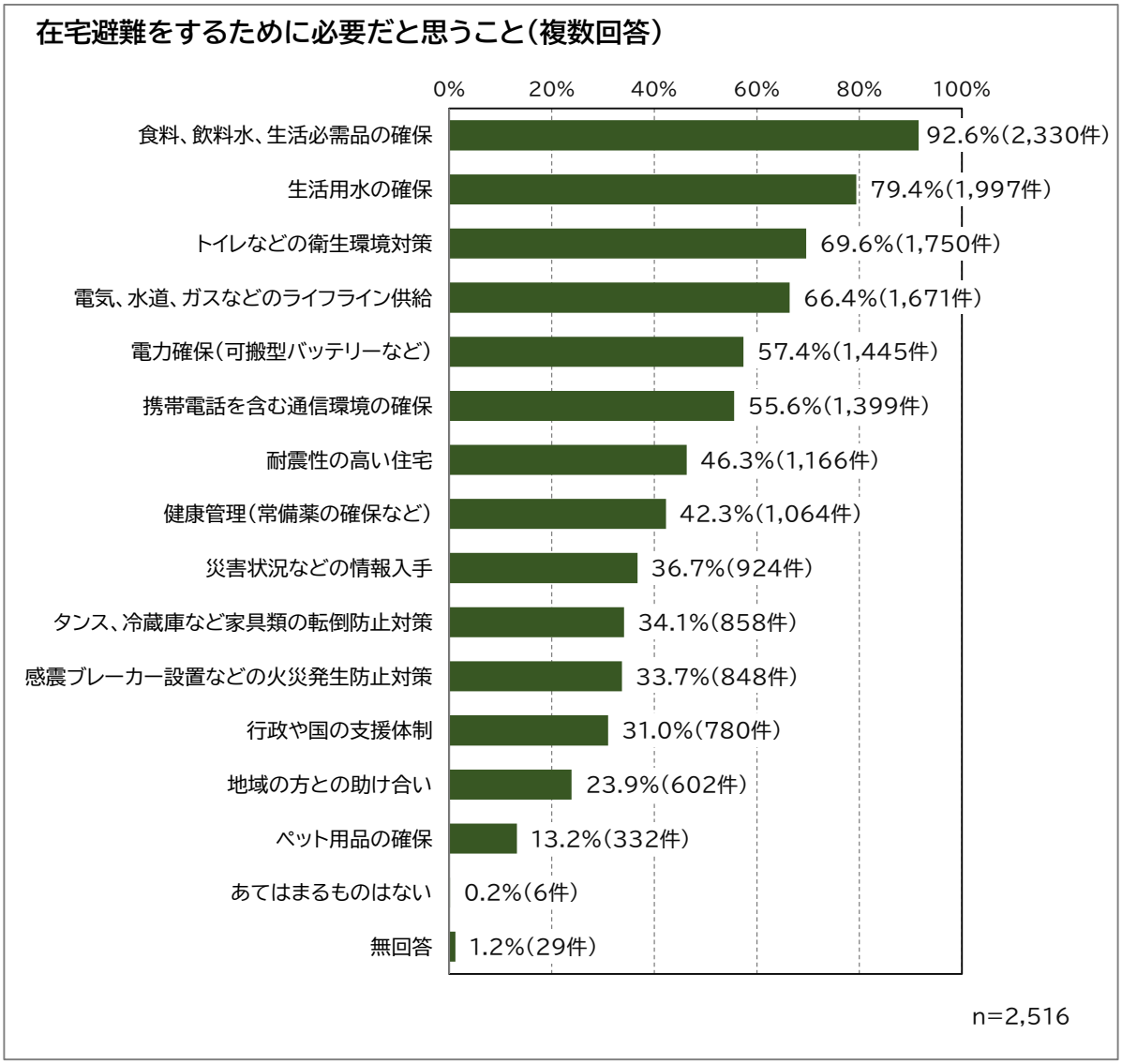


(7)区民アンケート(松沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

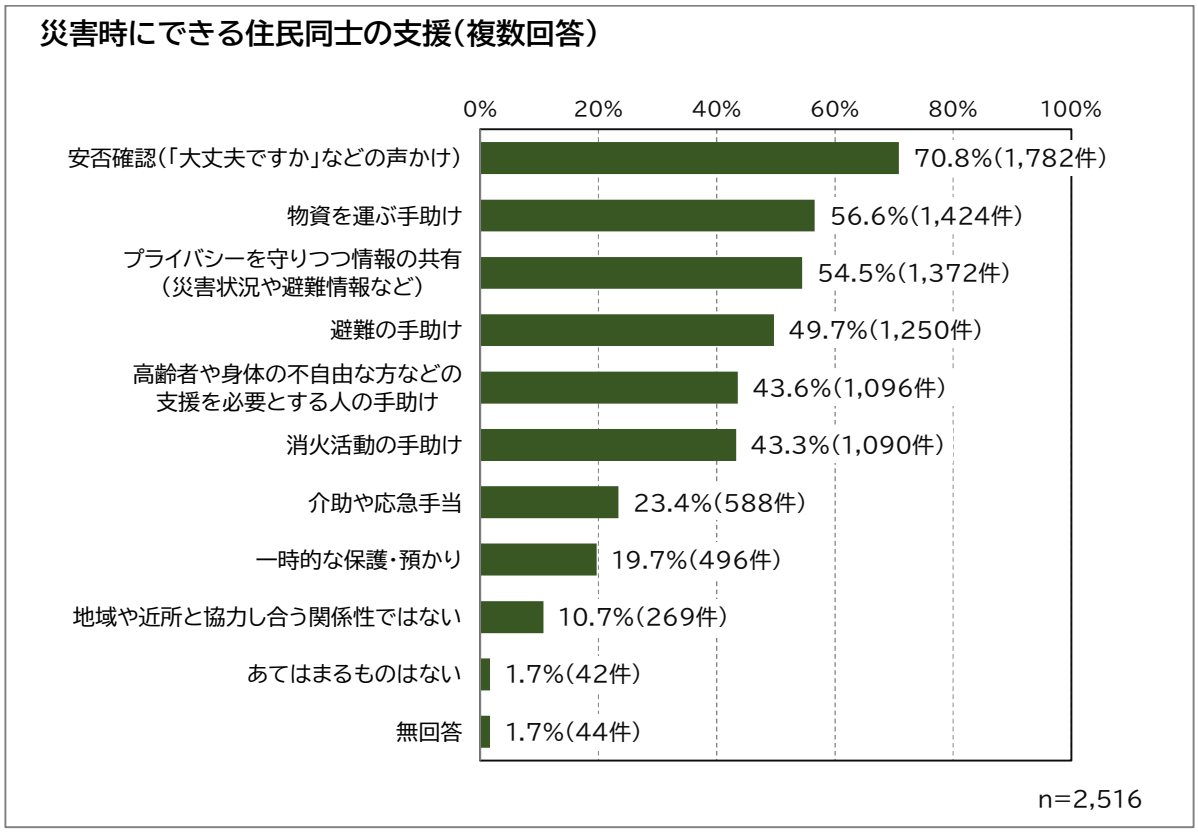


(7)区民アンケート(松沢地区)

単純集計(5/5)

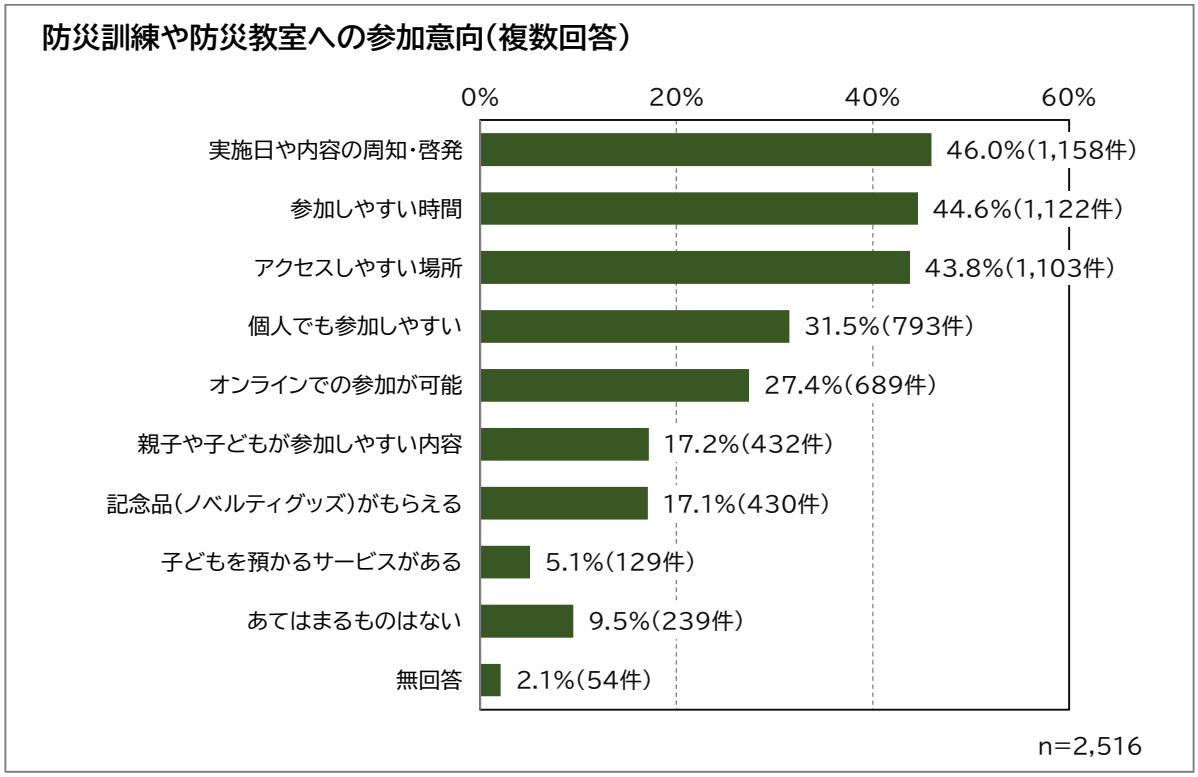
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

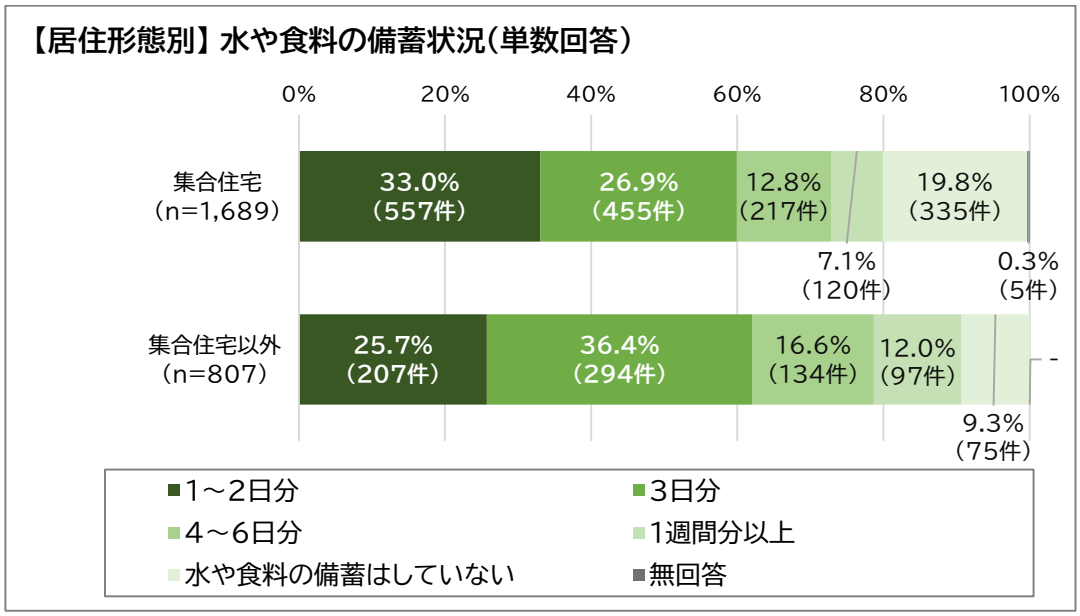


(7)区民アンケート(松沢地区)

クロス集計(1/4)

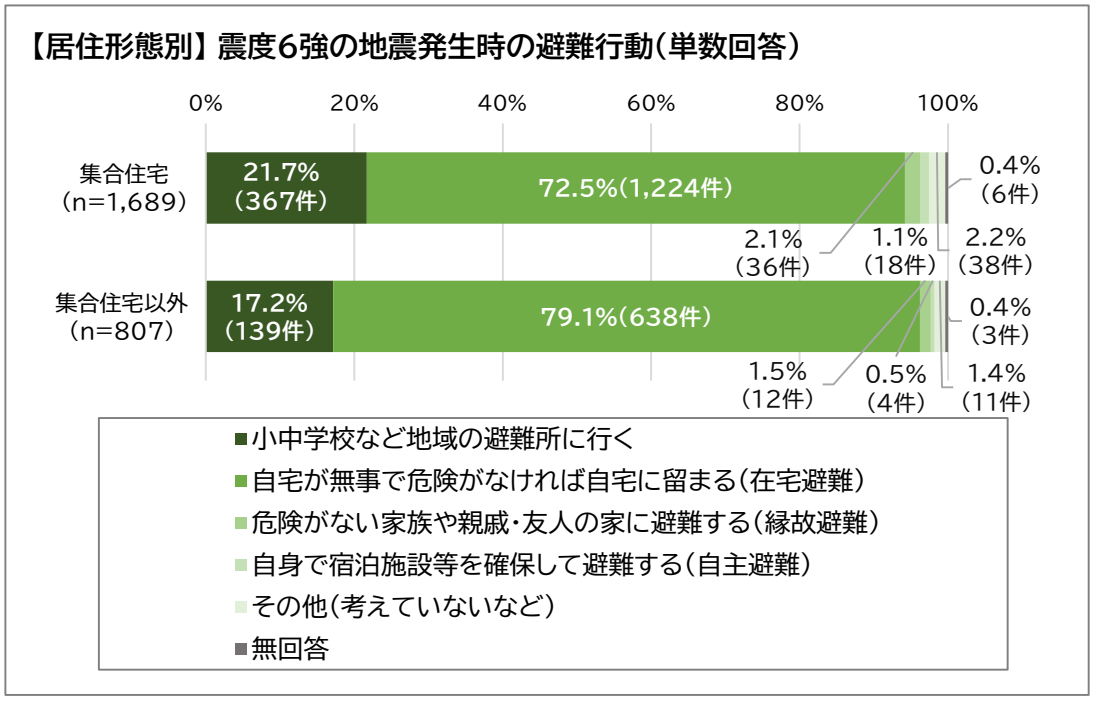
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(松沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

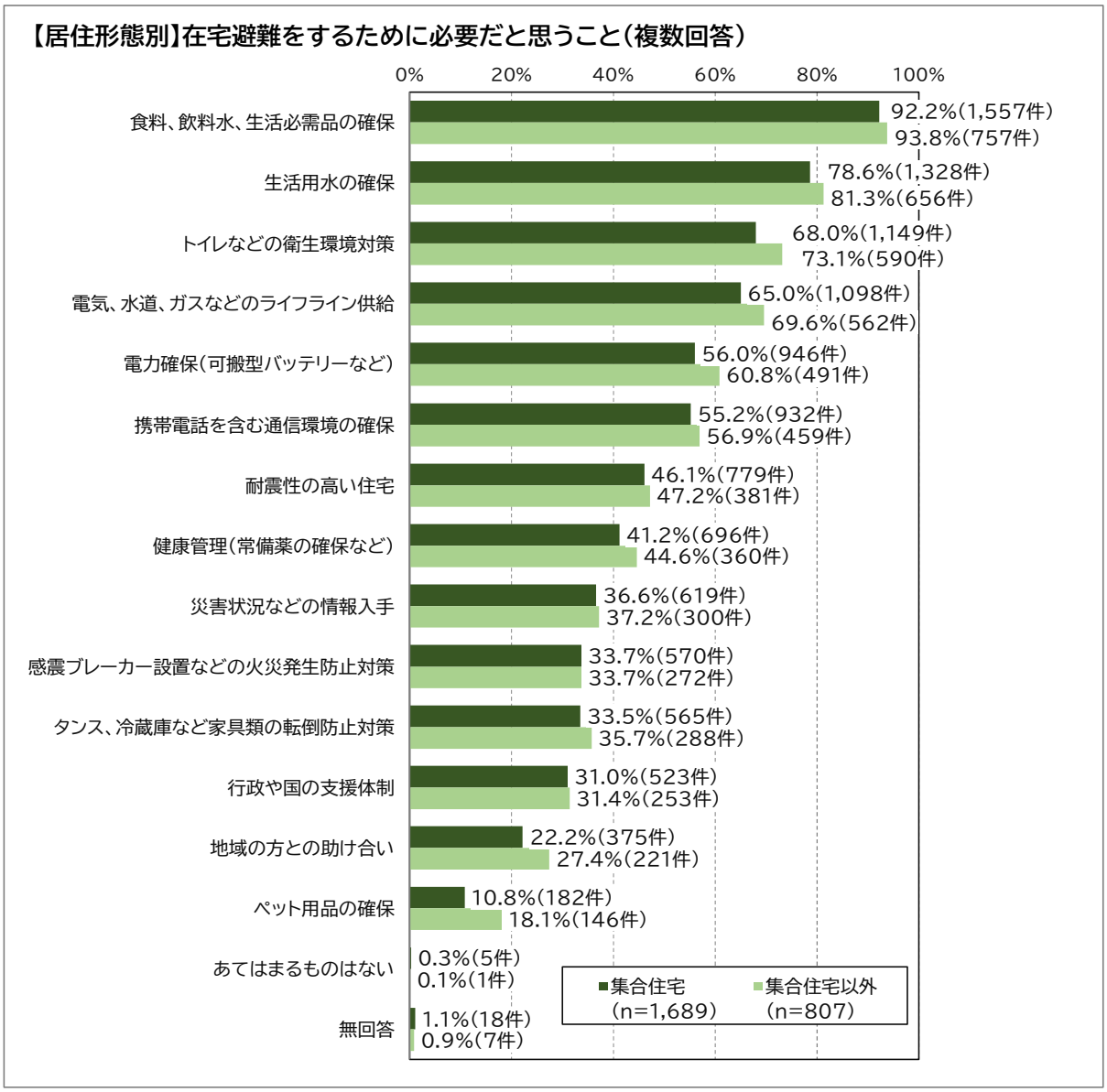
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(松沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

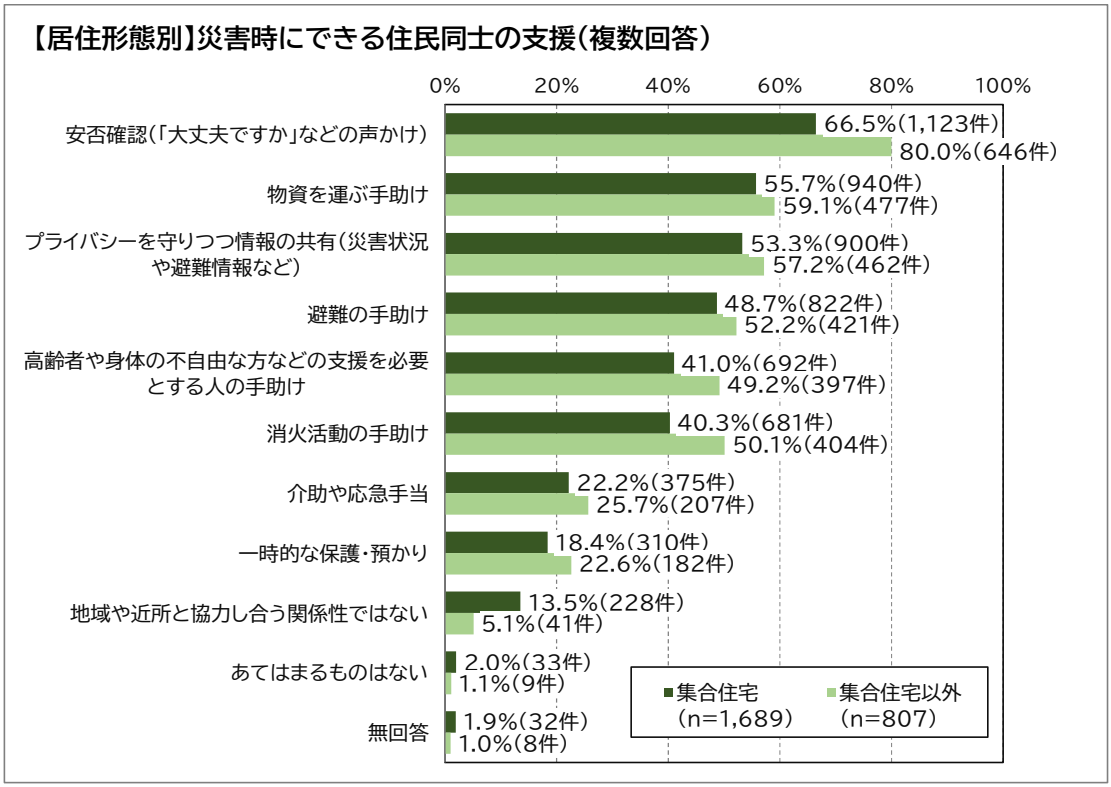


(7)区民アンケート(松沢地区)

クロス集計(4/4)

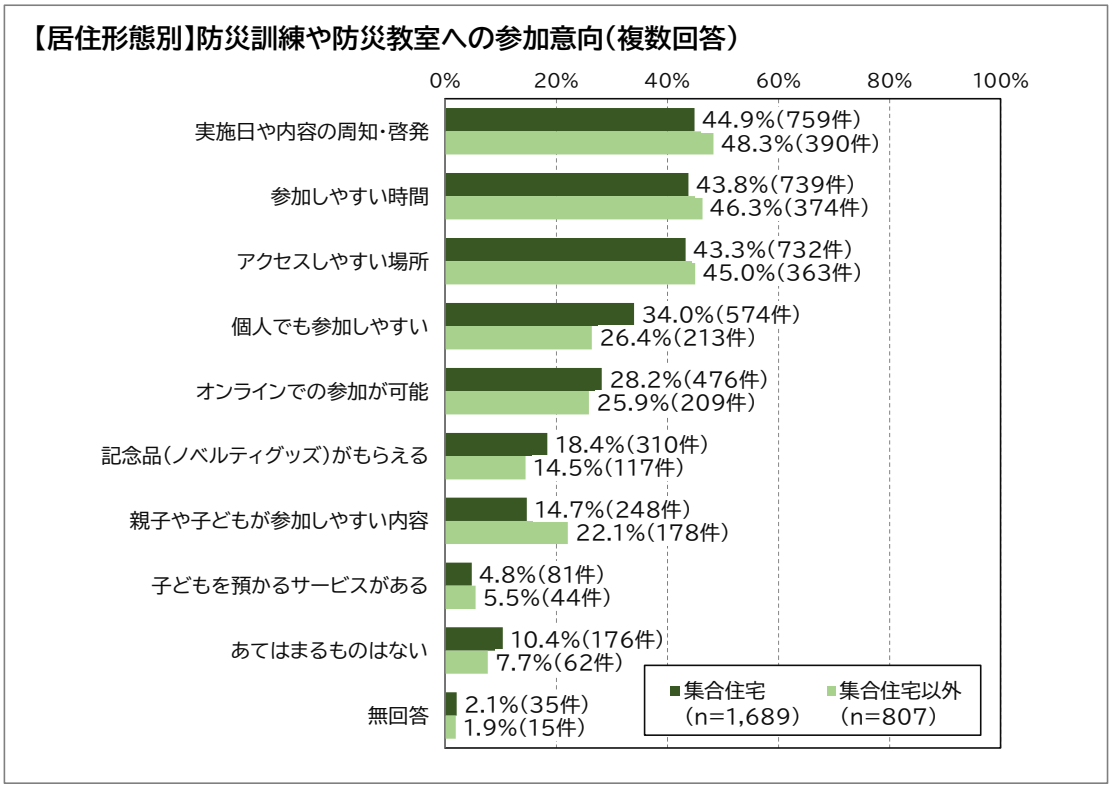
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2. 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備										防災訓練等の実施			
										スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他				防災訓練	
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数）年間	実施している	実施していない	配備している	配備していない	数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所	実施している	実施していない	回数	実施場所
赤堤1丁目町会防災防火部	10	○		赤堤1丁目防災防火部会	12	○		○			赤堤1－3(河田保育園) 赤堤1－11(防災倉庫) 赤堤1－16(I邸) 赤堤1－21(F邸) 赤堤1－33(グランドフェリシア経堂赤堤) 赤堤1－37(デイホーム赤堤) 赤堤1－39(Y邸) 赤堤1－41(赤堤小学校)	1	赤堤1丁目みんなの公園防災倉庫	40	地図参照			○		3～4	町内27箇所にある消火栓を数箇所ずつ回りながら実施
赤堤2丁目町会防災部	10	○		赤堤2丁目町会防災部	2～3	○		○		3	2丁目町内3ヶ所							○		3～4	赤堤小学校、創価学会文化会館、道路、赤松ぼっくり庭園緑地
赤堤3丁目自治会【済】	10	○		赤堤3丁目自治会役員会	6	○		○		1	西福寺駐車場内防災倉庫	1	西福寺駐車場内防災倉庫					○		2	西福寺駐車場 赤堤小学校
赤堤4丁目町会	5	○		町会役員会会議	6	○		○		1	赤堤4丁目町会倉庫	1	赤堤4丁目町会倉庫					○		4	赤松公園、松沢小学校
赤堤5丁目町会	6	○		町会役員会	10	○		○		4	5丁目町内3か所							○		2	5丁目町会2か所
桜上水1丁目町会【済】	8	○		町会役員会及び(ラインにて)打合せ	1～2	○		○		2	桜上水1丁目町会防災倉庫(通称:佐藤倉庫)	1	桜上水1丁目町会防災倉庫(通称:佐藤倉庫)					○		3	緑丘中学校, 町内一般道路 , 町内公園
桜上水2丁目町会【済】	12	○		町会役員会	11	○		○		12	A 地区 2, B地区 2, C地区 2、D地区 2, E地区 2, F地区 2 各消火栓近くの会員宅	1	密蔵院防火水槽脇		町会としてはやっていない			○		2	町内全域
桜上水3丁目自治会【済】	9	○	○	避難所運営委員会	10	○		○		1	会長宅内	1	桜上水3丁目防災倉庫					○		1	都営アパート敷地内および道路
桜上水4丁目町会【済】	7	○		避難所運営委員会 防災部勉強会(3ヶ月毎)	10 4	○		○		3	桜上水4-11-4、桜上水4－8－10	1	第2防災倉庫					○		5	松沢中学校、三角公園、スタンドパイプのある場所他
桜上水5丁目自治会	5	○		防災教室 町会役員会	12	○			○					28	桜上水5丁目内			○		2	むつみ会館及び桜上水公園等
経堂赤堤団地自治会	5		○			○			○										○		
都営桜上水3丁目アパート自治会	7	○		自治会役員会	4	○		○		2	倉庫内	1	倉庫内	3	集会所			○		1	松沢中学校
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人	7	○		防災部会(全体会・防災部会)	14	○		○						428	各棟各階の共用廊下	消火栓	C棟以外の各棟各階共用階段脇	○		1	敷地内広場

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ													防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）				
	救命救急講習会		その他						掲載情報			掲載情報														
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容
赤堤1丁目町会防災防火部	1	東京新教会	安否確認訓練	赤堤1丁目全域	○				○	○	○	○	○	○	○	町会防災倉庫、スタンドパイプ、防災無線塔、AED、防火水槽、井戸、街頭消火器、消火栓	5		2		赤堤3・5丁目、桜上水2～4丁目町会				
赤堤2丁目町会防災部			安否確認訓練	赤堤2丁目全域	○				○	○	○	○	○	○	○	AED、公衆電話	1			○			○		
赤堤3丁目自治会【済】	1	西福寺客殿	無線連絡網訓練/役員会の都度	役員20名の自宅	○				○	○	○	○	○	○	○	無線配置場所、自治会防災倉庫、AED	4		1				○		
赤堤4丁目町会			炊き出し訓練・無線機訓練	赤松公園	○				○	○	○	○	○	○	○	スタンドパイプ、AED、防災無線塔	1	○		○			○		
赤堤5丁目町会			安否確認訓練	町内全域	○				○	○	○	○	○	○	○	町会防災倉庫、スタンドパイプ、防災無線塔、AED	1			○			○		
桜上水1丁目町会【済】	1				○				○	○	○	○	○	○	○	町会防災倉庫、防災無線塔、AED、町会100件以上ライン連絡網あり		○		○			○		
桜上水2丁目町会【済】	0		安否確認訓練 災害食調理訓練	町内全会員宅 福祉園前	○				○	○	○	○	○	○	○	町会防災倉庫、スタンドパイプ、防災無線塔、AED	4		1				○		
桜上水3丁目自治会【済】	1	都営集会所			○				○	○	○	○	○	○	○		1		1		○			都営桜上水3丁目アパート自治会	
桜上水4丁目町会【済】	0		防災機器操作訓練 無線連絡訓練	第2防災倉庫前 自宅等	○				○	○	○	○	○	○	○		4		0				○		
桜上水5丁目自治会	0		発電機操作訓練 炊き出し訓練	桜上水公園、むつみ会館	○				○	○	○	○	○	○	○	災害時防災拠点、自治会倉庫、防災無線塔、AED	1		3		○		○	都営桜上水5丁目アパート自治会	
経堂赤堤団地自治会							○											○		○			○		
都営桜上水3丁目アパート自治会	1		AEDを含む団地内訓練	団地内集会所付近	○				○	○	○	○	○		○	自治会防災倉庫、スタンドパイプ、防災無線塔、AED		○		○			○		
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人	1	共用棟(クラブハウス)内			○				○								2	○		○		○			桜上水4丁目町会

団体名	避難行動要支援者協定					避難行動要支援者対策		連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）					救出救助に係る資機材の配備											
	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ
赤堤1丁目町会防災防火部	○			○	安否確認訓練時に訪問	地区防災計画の中で取り決め/東京防災学習セミナー受講検討中			○	緊急連絡用スマートフォン 9台		○			地区防災計画の中で取り決め		○	2			1	7+役員保管	40	2					
赤堤2丁目町会防災部			○	○						災害時用としてはなし				○			○	1					7		3	3			1
赤堤3丁目自治会【済】			○	○		町会レベルでは不可能	○	○			○				赤堤3丁目自治会防災計画		○					1	40	1	1	1	1	1	1
赤堤4丁目町会	○			○		安全確認旗配布		○	○	無線機導入済				○			○	2			2		30	1					
赤堤5丁目町会	○			○			○	○						○			○	1		1	4	5	23	1	1	6			1
桜上水1丁目町会【済】	○			○				○						○			○	1			1	1	15						
桜上水2丁目町会【済】	○					応諾者との面談		○					○				○	2			3	3	21+9	1	1	1	1	1	1
桜上水3丁目自治会【済】		○								近隣者同士の連携強化（役員会にて徹底）			○				○	1	1			5	15	1	1	1	1	1	1
桜上水4丁目町会【済】		○					○	○	○	役員・防災部メンバーの連絡網			○				○	1			3	2	18		2	2	5	2	3
桜上水5丁目自治会	○			○		応諾者との面談		○					○				○	1		3	1	1	6	1	3	2	1	4	2
経堂赤堤団地自治会			○	○		各階段委員が役員に連絡する								○		○													
都営桜上水3丁目アパート自治会	○			○				○	○					○			○		1	5	2	1	10		2	5		5	1
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人		○				住民アンケートにより要支援者を把握している		○		「いちのいち」導入による一部住民への連絡手段を確保	○				桜上水ガーデンズ防災マニュアル		○	2	2		6	18	55		3	8	3		

団体名	救出救助に係る資機材の配備				食糧等の備蓄														
	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
赤堤1丁目町会防災防火部			救助工具セット 2	ヘルメット、救急セットは各役員保管防災倉庫		各家庭に備蓄を依頼							4		1000	カンテラ2台	間もなく購入予定	1	
赤堤2丁目町会防災部			車椅子1脚、簡易テント	赤堤2丁目防災倉庫	○														
赤堤3丁目自治会【済】	1	1	台車	自治会防災倉庫		(食糧・飲料水の備蓄は無い)									○	○	○		
赤堤4丁目町会				赤堤4丁目倉庫		○	50	300		12					簡易トイレ100回用×3箱		1		
赤堤5丁目町会			簡易テント(1) テント(2) レスキューキャリー(1)	町会防災倉庫		○				72(500ml)					簡易トイレ200個	4	2		
桜上水1丁目町会【済】			レスキュー台車、毛布、ブルーシート、トランシーバー4機	桜上水1丁目町会倉庫		○		○		360									
桜上水2丁目町会【済】	1			密蔵院内防災倉庫		○	260	80		220			3		2	1		5	
桜上水3丁目自治会【済】	2			防災倉庫およびその他		○										3	3	3	100(10ﾘｯﾄﾙ×10)
桜上水4丁目町会【済】	3	3	車椅子2、チェーンソー1、防塵メガネ20、30mロープ2、台車1	第1防災倉庫、第2防災倉庫、第3防災倉庫		○				2ℓ×6本×17箱＝102本		40×5=200			580	2	2	2	20ﾘｯﾄﾙ×2
桜上水5丁目自治会	1		ハンマー③、金づち②、なた②、鉄線切り①	桜上水公園内倉庫、むつみ会館横倉庫		○	0	0	96	60L			2	30(ご飯・カレー)	780	3	3		
経堂赤堤団地自治会						○	500			100									
都営桜上水3丁目アパート自治会	1	1		倉庫等		○		0		70ケース420本		0			簡易トイレ2800枚、男性用トイレ3個		2	3	
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人			台車5台	防災備蓄倉庫		○(食糧・飲料水の備蓄はない)							5		878	18	10	2	300ℓタンク

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
赤堤1丁目町会防災防火部	3か機　3台	防災倉庫		ローリングストックの勧め/避難所へ行けない方の町内での受け入れ検討/地区防災計画策定/
赤堤2丁目町会防災部				災害時の生活必需品、食品等は、各自各家庭で用意するよう話しています。行政は直ぐには動けない事、町会も高齢化で対応困難。但し、出火には初期対応との考えで、スタンドパイプを3基備えました。先ずは自助そして共助を機会毎に伝えています。
赤堤3丁目自治会【済】				・食糧や生活必需品については、各自で備えてもらうよう、年1回くらい非常用トイレのあっせんや消火器等のあっせんをしています。 ・ビスケット、乾パンについては防災訓練に参加された方には配布しています。
赤堤4丁目町会		赤堤4丁目倉庫・会長宅	赤堤4丁目町会員	赤松公園での防災訓練では、公園内にあるマンホールトイレとかまどの紹介を兼ねて、訓練を行っている。
赤堤5丁目町会		防災倉庫	町会管轄住民	R6年度から安否確認訓練を年1回実施していく。
桜上水1丁目町会【済】		桜上水1丁目町会倉庫	主に町会管轄住民	・緑丘中学校にて、避難所運営委員会に毎月約10名参加 ・松沢地区防災塾に参加 ・災害時消火用資機材講習会参加　・子供中心に初期消火訓練毎年実施
桜上水2丁目町会【済】		土と農 内の町会防災倉庫		ソーラーパネル・充電蓄電器。RO浄水器。リヤカー。担架。バーナー。寸胴鍋。高出力拡声器。
桜上水3丁目自治会【済】		桜上水3丁目防災倉庫	自治会管轄住民	地元消防団と夜警の実施
桜上水4丁目町会【済】		第1防災倉庫、第3防災倉庫	町会員	隔月防災倉庫の点検と発電機・D級ポンプの始動テストを行っており、D級ポンプ・スタンドパイプの操法訓練を年1回行っている。 発電機の定期保守(3年に1回)を行っている。
桜上水5丁目自治会	マンホール用トイレ①、段ボールトイレ⑬、テント⑦、コンロ⑨、燃料、救急ケース、マスク　ほか	むつみ会館内・外倉庫	桜上水自治会住民	簡単に食せる保存食の試食及び生活必需品の紹介により在宅避難の推奨とともに有効な情報提供を行っている。 自治会内の主要道路に「愛称」をつけて、日頃から皆で使いあい「防災」・「絆づくり」に役立てています。
経堂赤堤団地自治会				都市再生機構の8階建て集合住宅なので、火災・倒壊の心配が少ないので防災意識が低く、防災組織作りにも無反応の居住者が多く困っています。老人の一人住まいも多く各自が自己防衛する入居者ばかりです。
都営桜上水3丁目アパート自治会	懐中電灯全世帯配布、マグネット(安否確認用)全世帯配布	自治会倉庫　他		ソーラーパネル蓄電池3セット ガスボンベ発電機1セット ガソリンエンジン発電機1セット
桜上水ガーデンズ団地管理組合法人	マンホールトイレ30、パーソナルテント30、飲料水生成装置1台、ポリタンク878、非常用LED投光器5基、ガソリン携行缶(10L)×2缶、ガソリン缶詰1ℓ×36缶	防災備蓄倉庫		ガーデンズは在宅避難を基本とし備蓄品は各世帯人数に応じ各自で備蓄する様、広報活動を行っています。防災倉庫には飲料水、食料品の在庫はありません。

3. 松沢地区における課題と今後の取り組み

課題1　負傷者対応

■意見

a 建物が安全で負傷の程度も重篤でない場合はなるべく自宅にいて、家族等による応急処置を受ける方がよいことを周知したい。

b 応急救護ができる人を訓練などにより増やせるとよい。

c 応急処置のための医薬品・布等や停電時用の照明灯などを備蓄しておく必要がある。

d 負傷者を発見するために町会等の組織で隣近所の一人暮らしや避難行動要支援者以外の家庭も見回る、負傷者の情報が避難所に入ったときは避難所からでも助けに行く、などのルールを決めるとよい。

e 負傷者を搬送する場所や手段、協力機関との連絡方法などが決まっていない。負傷者の受け入れや避難所への往診などについて、開業医や福祉施設等と協定を結んでおく、看護師などの有資格者を把握(登録)しておく、等の必要がある。

f 医療従事者だけでなく、保育や通訳が出来る人などを含めた人材バンクを作り、必要に応じて活動支援の仕組みを組織化する。(乳幼児の保育・家族の介護などの事情がある有資格者への対応)
松沢地区には学校が多く、学生も戦力として期待できる。

g 障害がある人などは、自己申告や手帳の提示がないとわからないケースもある。障害の内容も様々で、個別の対応方法について平常時に町会で決めておく必要がある。個人情報管理の面から避難行動要支援者などのリスト化は難しい。被災後に判明した場合は区に連絡すればよいのか。

h 応急処置の方法や医療機関等を載せた、地区の状況に合わせた外国語版・点字版のリーフレットなどがほしい。
外国籍(言葉が通じない)の人や障害のある人も困らないようにしたい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①応急処置の知識・技術の拡充を図る。

＊■意見のａｂに対応

・緊急を要する負傷かどうかの見極めの方法と判断者。
・応急救護ができる人材の育成。

②救護体制(ルール)を整え住民に周知する。

＊■意見のａｄｅに対応

・負傷の程度や状況ごとの居場所(搬送先)。
・搬送先を明確にする。
・一箇所に搬送し、後に分ける。
・搬送する際の方法、手順、役割分担など。

③次に挙げる協力団体(者)等を把握し、発災時の協力を呼びかけるとともに発災時の連絡方法や協力できる人の集合場所を決めておく。

＊■意見のｅｆに対応

・協力団体(者)や有資格者等。
・開業医、看護師などの医療関係者。
・近隣の学校の教職員や学生(場所・人)。
・通訳・保育・介護などができる人材。
・要配慮者用の福祉避難所(場所・人)。

④必要物品の備蓄を進める。各家庭での備蓄を進めるよう周知する。

＊■意見のｃｈに対応

・応急処置を可能にするための医薬品・布等。
・搬送や見回りに必要な道具。
・地区の状況に合わせた外国語版・点字版のリーフレット。

⑤その他。

＊■意見のｇｈに対応

・負傷者が障害者や高齢者、日本語が通じない(宗教施設等を通じて連絡できることもある)場合の対応を検討する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

ア　救護体制を検討し、協力団体等との連携までルール化したものを全戸配布・回覧等で周知する。また、必要に応じて商店街とも情報共有を図る。

＊■地区の取り組みの②に対応

イ　防災訓練等に定期的に応急救護訓練を組み込み、経験者を増やす。

＊■地区の取り組みの①に対応

ウ　町内の開業医に診療科目や、医師・スタッフの勤務体制等を確認のうえ発災時の受け入れについて働きかける。

＊■地区の取り組みの③に対応

エ　町内にある福祉施設との連携を働きかける。

＊■地区の取り組みの③に対応

オ　町内にある学校との連携を働きかける。

＊■地区の取り組みの③に対応

カ　町内で救護活動に有効な有資格者（準ずる人を含む）を募り、リスト化する。

＊■地区の取り組みの③に対応

キ　応急救護活動に必要な物品の洗い出しと備蓄管理を進める。

＊■地区の取り組みの④に対応

ク　避難行動要支援者等のリストを整備し、発災時の対応方法を互いに確認しておく。

＊■地区の取り組みの⑤に対応

課題2 帰宅困難者支援

■意見

a 松沢地区には都立松原高校が一時滞在施設および帰宅支援ステーションに指定されているが認知度が低いのではないか。

b 東日本大震災時、下高井戸駅に近い松沢小学校には、帰宅支援または一時滞在を求める通勤者等が多く来た。今後も商店街など人が多く集まるエリアでは、地元住民以外の被災者が、帰宅支援を求めて避難所へ来ることが想定される。このため避難所では、運営に支障が出ないよう、帰宅困難者への支援限度(線引き)を決めておく必要がある。

c 避難所で近隣の一時滞在が可能な施設や健康状態に応じた福祉的なケアができる施設への誘導などができるとよい。そのためには福祉的なケアができる施設との連絡方法や施設までの経路の安全確認手段も平時に決めておくと良い。

d 松沢地区には福祉施設や広大な面積を持つ日本大学文理学部があるので、一時滞在受け入れなどの協力についてお願いしておくことはできないだろうか。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①都立松原高校は発災後72時間は一時滞在施設として設置され、帰宅支援ステーションの機能を持たないが、このことについての認知度が低い。
帰宅支援ステーションの協定を結んでいるコンビニエンスストアやガソリンスタンドなどの提供内容などについても知っておく必要がある。
このことを踏まえて一時滞在施設および帰宅支援ステーションについて正確に理解し、正しい誘導や案内をすると共に該当施設等に対し適切な対策を取るよう働きかけていく。

＊■意見のａに対応

・発災後 3 日間、行き場の無い帰宅困難者は無理に帰宅させないという前提のもと、各施設の役割を住民全員が共通認識として持つ。
・駅員や商店街、学校職員等も正しく誘導できるよう図る。

②帰宅困難者から受け入れを求められた場合に小中学校がとるべき対応策を確認しておく。

＊■意見のｂｃに対応

・深夜などで、一時滞在施設もしくは帰宅支援ステーションへの立ち寄りが困難な人への支援内容(水分・防寒など)を決めておく。

③その他。

＊■意見のｂｄに対応

・商店街・大学等と協議し、協力・応援してもらう。

■各団体の今後の取り組みの方向性

ア　町内にある一時滞在施設および帰宅支援ステーションの場所や、業種による支援内容の相違点、災害時の体制等を把握し、地域住民に周知する。

＊■地区の取り組みの①に対応

イ　帰宅困難者を受け入れる都立高校は、鉄道会社等に対し、受け入れる対象者を正確に把握した上で適切に誘導できるように働きかける。
町会はこれを正しく理解し、必要に応じて協力する。

＊■地区の取り組みの①に対応

ウ　主要駅等からの一時滞在施設もしくは帰宅支援ステーションまでの案内図を必要な箇所に掲出する。

＊■地区の取り組みの①に対応

エ　都立松原高校は東京都が指定した一時滞在施設として、想定される被害人数に必要な数の物品の備蓄および場所の確保を行う。
各団体はこれを正しく理解し、必要な誘導をおこなう。

＊■地区の取り組みの①に対応

オ　松原高校は、一時滞在施設および災害時帰宅支援ステーションとしての役割を理解したうえで防災教育を推進し、高校生の防災に対する意識を高めるとともに地域との連携を強化していく。地区内の各団体は、団体において、都立松原高校の取り組み内容を周知する。

＊■地区の取り組みの①③に対応

カ　日本大学文理学部は、状況に応じて帰宅困難者の一時滞在施設として協力する。地区内の団体は、必要に応じて日本大学文理学部に依頼をする。

＊■地区の取り組みの③に対応

キ　情報入手手段を備え、災害状況や交通機関の運行状況など、帰宅可否の判断材料となる情報を求めに応じて提供する。

＊■地区の取り組みの②に対応

ク　本来、避難所の備蓄物品は避難所運営用であり、帰宅困難者には渡せない

が、限界事例も想定される。このため、小中学校は避難所運営委員と協議し、帰宅困難者への物資等の提供の範囲を決めておく。

＊■地区の取り組みの②に対応

ケ　小中学校に訪れる帰宅困難者に対し、状況等に応じた受け入れ施設を決めて協力依頼しておき、誘導する際の連絡手段も確立させておく。

＊■地区の取り組みの②に対応

コ　商店街は、避難所や町会等の求めに応じ、発災後も営業している店舗情報（営業時間や品目、在庫数などを含む）を可能な範囲で提供する。

＊■地区の取り組みの③に対応

課題3　地域住民の安否確認・避難行動要支援者支援

■意見

a　松沢地区は高齢化が進んでおり若年層率も高いため、災害弱者も多いと思われる。町会ごとに要配慮者の名簿や近隣の家族構成をリスト化しておくなど、住人把握のための名簿を用意するのがよいのではないか。

b　避難行動要支援者用の福祉避難所を確保し周知しておく必要がある。

c　安否確認する際は、まず自分や家族、次に自宅の安全を確認した上で近隣住民等を確認するなどのルールを決める必要がある。班長が自班の被害状況を確認した上で町会長へ状況報告するなど、町会の中の班の仕組みを活かした方がいいのではないか。

d　在宅か留守かを確認する方法や、無事であることを周囲に知らせる、または無事を確認済であることを表示する方法が決まっていない。避難所や一時集合所へ避難している人の確認や、外出先で被災した住民との連絡はどのようにしたらいいのか。

e　見回り役が負傷した場合等の代行者も決まっていない。

f　協力者（協力組織）を決めておく必要があるが、明確には決まっていない。
松沢地区は学校が多く昼間は学生が多くいるので、見回りに参加してもらうなど、若い人に協力してもらう体制を作ってはどうか。

g　日頃から近所でのコミュニケーションを持つ必要があると思う。
近所づきあい、井戸端会議などを通じて災害時の安否確認に必要な情報を把握することができる。

h　自治会の地域最小単位内で、被害状況や震災等の情報を得るためのツールが必要である。具体的にはラジオ、テレビ、インターネットか。他にも何が必要か検討しておく必要がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①安否確認を組織的に行うためのルール策定や必要物品を揃える。

＊■意見のｃｄｅｈに対応

・町会自治会で組織的な見回りルートを決める。
・必要な物品（OK 旗・OK ボード、ホイッスルなど）を用意する。
・平時より LINE など携帯電話等のアプリを利用したグループ構築をしておき、発災時の安否確認にも使うことを共通理解しておく。

②地域住民の状況を把握する。

＊■意見のａｂに対応

・近隣の家族構成をリスト化しておくなど住人把握のための名簿を用意するよう努力する。
・各町会は避難行動要支援者協定の締結に向けて努力する。
・締結が難しい町会は平時から可能な範囲で対象者の情報を把握しておく。
・特定の配慮が要る（透析患者、人工呼吸器・特定薬が必要など）方のリストの整備。

③避難行動要支援者・協力者（団体）間の連携を図る。

＊■意見のｂｆｇに対応

・平日の昼間地域にいる学生などから協力を得られないか、大学側に働きかける可能性を探る。
・近所でのコミュニケーションを持つ（近所づきあい、井戸端会議など）。

■各団体の今後の取り組みの方向性

ア　町会会議などで検討し、町の状況に合わせた安否確認のルールを作り、可能な範囲で町会加入者以外にも周知を図る。また、必要に応じて安否確認に使用する品を揃える。

＊■地区の取り組みの①に対応

イ　避難行動要支援者および準ずる住人の情報を把握し、被災時の個別対応を決めて対象者と確認しておく。

＊■地区の取り組みの②に対応

・平成 29 年度に、各町会自治会等の会長とあんしんすこやかセンターが直接会って確認した内容をまとめ、各団体の個別対応一覧表を作成した。今後も随時更新していく。

ウ　各種イベントに町会未加入者の参加を促し、加入世帯増加を図る。

＊■地区の取り組みの① ② ③に対応

エ　大学等に近い団体は、防災関連の行事のほか、各種イベント等にも学生を呼ぶなど協働を心がけ、平時からつながりを築く。

＊■地区の取り組みの③に対応

課題4　避難行動及び誘導

■前書き

被災状況は、地震の規模と家屋・地盤の強度等により大きく異なる。

常に、「最悪の状況」を想定しておくことが必要である。

そして、大地震の後には、必ず余震が来ることを念頭に行動することが肝要である。

幸いにして避難行動をとれる方は、各町会・自治会あるいは各避難所の規定・指針に従って、場合によっては自己判断により、状況を見ながら**次の①から⑥の行動及び誘導を開始する**。

また、避難には緊急を要する避難と緊急を要しない避難があるが、地震直後に出火があり、初期消火の段階を過ぎた時は緊急避難を要する（当地区では日大グランド一帯が火災時の避難場所になる）。

なお、ここで扱う「避難行動」は発災直後の初期段階での全体を対象とした行動であり、「要配慮者」に限定しない。「要配慮者」の安否確認については別途課題として取り上げる「地域住民の安否確認・避難行動要支援者支援」において詳細を定める。また、避難誘導中に遭遇した負傷者への対応は、別課題「負傷者対応」によるものとする。

さらに、区立小中学校の避難所運営委員の行動については、各避難所の規定・指針によるものとする。

注.「避難所（区立小中学校の校庭・体育館・格技室等）の安全確認と避難とのタイミング」をどのように考えるかという問題があるが、取りあえず状況に応じて避難所・広域避難場所・一時集合所へ向かう。

■地区としての今後の取り組みの方向性（行動及び誘導の手順）

避難で重要なことは第一に自分の生命であり、次に各自の生命を維持する諸物品である。備蓄食糧を含め自分の体力に応じた持ち物を用意し、速やかに避難出来るよう自身で判断する。

また、避難行動を誘導してくれる人が来られない規模の被災状況も考慮しておく。

① 多様な避難について周知する

発災直後の指定避難所には、想定収容人数を超えた避難者が集まり、食料やトイレが不足する厳しい環境になることが予想される。さらに、感染症流行下では、感染拡大による複合災害となる可能性もある。

これまでの「指定避難所へ行くことが避難である」という認識を改め、分散避難という選択肢があることを周知する。特に在宅避難をすすめるための支援や仕組みを構築する。

さらに、地域資源を活用した新たな避難先の確保を目指す。

② 避難の要否を的確に判断する

大地震が発生したとき、可能な限り自宅で避難生活をすることが望ましいが、家が倒壊したあるいは倒壊の恐れがあるとき、さらには火災がせまって来るときには、一時集合所や広域避難場所さらには所定の避難所へ行くことになる。

繰り返す余震に自宅が耐えられるかどうかの判断は難しい。自己責任判断をサポートして貰えるためにも、東京都が認定した家屋の応急危険度判定士を団体ごとに把握、または育成しておく。

また、一時集合所に集まって整列して行動する余裕のない状態があることを認識しておく。一時集合所が他の町会の避難所になっている傾向はあるが、一時集合所から避難所までの安全が確認出来るまでは他の町会の避難所にとどまる。

特に火災に際しては、行動の遅れが取り返しのつかない事態を招くので、速やかな判断が不可欠である。

③ 行くべき避難先を決め、家を出る支度を整える

火災が迫っているときと倒壊の危険があるときとでは、避難先が異なる場合がある。状況に応じた避難先を速やかに選択しなければならない。

安全な駐車スペースが確保できて車が使える場合は、車内生活も考えられ、同様にテントを使用する方法もある。

また、避難に際しては、車を使用しない、消火を確認して電気ブレーカーを落とす。防犯の為に可能な限り施錠をするよう心掛ける。

④ 安全な避難ルートを探る

自らの避難所を知ることは当然として、避難路については、普段から複数のルートを確認しておく必要がある。電柱電線・ブロック塀・自動販売機その他高い建物が多い道は避ける。

発災後の避難路は、建造物の倒壊、断裂・陥没の発生さらには燃えている家屋があるなど、平常時と様代わりしていることを想定しておく必要がある。

⑤「共助」を意識しながら避難行動をとる

自身の安全を確保しながら、家族・近隣住民の安否を確認し、近隣住民と協力して可能な範囲で倒壊家屋の住民及び通行中の人の安否確認と救助・救護に努める。

そして、避難途上において他の避難者と合流したときには、初期消火及び救出作業に参加できる方に協力してもらい、可能な範囲内で消火・避難路の安全確認・救助・救護活動を継続する。

初期消火できる状態ではないと判断した場合は迷わず避難する。

常に余震を念頭に置いて行動し、二次災害を避けることが肝要である。

⑥ 他地区の住民にも親身に対応する

適切な避難行動が取れずにいる状況に遭遇した場合、声をかけるなど可能な限り親身に対応する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

上記①～⑥の行動を的確に実践するため、次に挙げるア～カの各項目について、平常時に団体内で周知し情報を共有する。

松沢地区では各小中学校を拠点に活動する避難所運営委員会、各町会自治会で実施の防災教室・訓練、各町会自治会等の定例会等の活動が行われている。こうした場において当該会議体等が定める者による説明や、区や団体が作成した印刷物の町会自治会等での回覧、掲示板への掲出等を周知の手段に考えている。

ア 被害の状況に応じた避難行動の取り方を学ぶ

・火災が迫っているとき、建物に倒壊の危険があるときなど、状況に応じた緊急避難の相違などについて、認識を深める工夫をする。

・非常持ち出し品は、被災規模で各自判断する。持ち出し品が多くて避難行動に支障を来すことで逃げ遅れないよう心掛ける。

自分の生命と生命維持物品等、事前に持ち出物に順位を付けておく。

・避難所毎に運営委員会が存在し、運営規則があるのでその規則を遵守して行動する。当然、避難所は規則・基準に従って開設される。

＊■地区の取り組みの②に対応

イ 地区や災害の特性に合った避難先・避難方法を平常時に検討しておく

・一時集合所の目的や場所、避難所の長所短所などを各住民が理解するよう周知する。

・歩行避難用道路の安全確保及び緊急車両の円滑な運行の確保のために、**車での移動は不可能**であることを住民に徹底する。

実際問題として、遮へい物により車での移動は不可能である。

・安全な駐車スペースが確保できる場合は車中泊を、テント泊が可能であればテント泊を推奨する（ペット同行の場合は特に推奨する）。

その場合、原則的には支援物資は自ら配給場所まで取りに行く。在宅避難者も

同様である。体力的に優位な者や声が大きい人間が常に優先的に支援物資を受け取ることの無いように、弱者へ配慮する。
避難所はその場合の支援物資の配給方法を検討しておく。

・在宅避難のための事前の備えとして自宅の耐震補強、水、食料、簡易トイレ、燃料等の備蓄の必要性について、区の助成制度も含めて周知する。
・在宅避難者への物資・情報提供の仕組みを事前に検討しておく
・世田谷ボランティアセンター等との協力による在宅避難者支援の仕組みを考える。
・避難行動要支援者や独居高齢者に対して、必要に応じて一時的な住まいの確保を検討する。
・火災の怖さなどを理解し、自宅から出火させない対策の必要性※を町内住民に周知する。
・被災直後から起きる空き巣等の被害を防ぐために、自宅を離れる際の必要な防犯対策※についても各人が知識を持つように努める。

＊■地区の取り組みの①②に対応

〔補足〕

※自宅から出火させない対策の必要性：別課題「自助」で詳述

※必要な防犯対策：空き巣対策には鍵を二重にする、伝言メモなどで留守を表示しない、聞こえる程度の音量でラジオをつけておく。こまめに様子を見に戻る等。

ウ　発災時の状況を想定し、安全なルートをマップなどで確認する

・古い建築基準法で建てられた家屋やブロック塀などに沿った狭い道、工事中の箇所、行き止まりなど、避難路として相応しくないルートがあるのでこれらを除いてマップ化※しておく。
・建てられた年代によらず余震等で損壊する家屋もある。特に人が生活していない空き家※は、すでに損傷が進んでいることが多く、避難ルートの選別時には注意を要する。
・マップの上では安全に見えても火災が発生している場合、燃えている家屋の前を通る事は不可能である。それでも強行突破で通り抜ける場合は、その先が通じていることが必須条件であることを念頭に置く。
・イベントなどの機会に“防災まち歩き”などを実施し、被害想定に基づくイメージを持ち、次善の策を考えておく。
・同時複数の火災時は避難路内で閉じ込められるなどの被災を避ける為にも情報の収集※が必要である。これには地区の被災状況を発信※するなど、迅速で正確な情報をさまざまな方法で共有する準備をしておくことが望ましい。

＊■地区の取り組みの④に対応

※マップ化：防災塾WGや同等の組織で「防災まち歩き」などを実践し、必要なデータを地図上に落とし込む作業を想定。

※空き家情報：町会自治会内において防犯パトロール等で把握可能と想定。

※情報収集手段：防災無線塔からの放送のほか、エフエム世田谷（FM83．4MHz）では区内

の情報をインターネットやスマートフォンでも聴くことができる。
世田谷区ホームページ（http://www.city.setagaya.lg.jp/）では三軒茶屋キャロットタワー屋上に設置の高所カメラが把握した被害状況なども見ることができ、X（旧 Twitter ツイッター（@setagaya_kiki））等で、世田谷区に関する防犯・防災情報が収集できる。他にもテレビ・ラジオのインターネット同時配信（サイマル放送）などの手段もある。

※情報発信：防災用トランシーバーを（東京都の助成金などにより）配備している町会自治会も複数あり、高い建物の屋上等から目視で確認できる情報発信等を想定。

エ　避難行動時のルールを決める

・避難に際しては、身近に危険が隣り合わせであることを認識し、単独行動は避け、近隣者※と声を掛け合い複数で避難する。
・避難途上の人が、必要な避難行動を取れずにいる人を見かけた場合には、適切な声かけをする。
・避難誘導者の役割の内容や活動範囲※を決めておく。
・避難誘導中に負傷者等を発見した場合は、別課題「負傷者対応」により対応し、避難誘導行動への影響を最小限にとどめる。
・救助にあたる人は革手袋を使用するなど、自身の負傷防止策を取る。
・倒壊家屋等の下に挟まれている人など、状況により救出を断念する覚悟※が必要である。

＊■地区の取り組みの⑤に対応

〔補足〕

※近隣者の範囲は（指定するかどうかも含め）各団体で決定する。
※避難誘導者の役割や範囲についての指定や具体的な内容は、各団体で決める。
※最悪の事態もありうることを想定している。

オ　松沢地区住民以外の避難行動者への誘導（人道的配慮）

・事前にまちなかの曲がり角、踏切地点、目立つ場所等に看板を立てる、掲示板に丈夫なチラシを貼るなどの方法で、各ポイントから最寄りの帰宅困難者施設等への案内※を表示する（地震と大規模火災で書き分け、矢印などで向かうべき方向も図示する）。
・帰宅困難者施設等は、これらの避難者の受け入れ対策※を講じておく。
避難誘導対象者数を最小限に抑えるため、地区内の事業所や学校などに対し、東京都帰宅困難者対策条例に基づく従業員や生徒用の水・食料・その他必要物資の備蓄を依頼する※。
・避難行動中に屋外を歩いている人を見かけたら、躊躇なく声をかける。
他所の住民で迷っていることが判明した場合や、不安と恐怖の中にいる様子が窺えた場合には、自分の行き先（避難先）を知らせ、合流・同行を呼びかけるなど援助の手を差し延べる。

帰宅困難者施設へ向かうなど同行しない場合にも、ルートや案内板の場所など、最低限の説明をする。

・通行中の車両は被災時は公道左脇に停車するが、その後の行動が的確であるとは限らない。駐車可能なスペースや避難先の教示などを行うことができれば、道路等の機能を確保する可能性が高まる。
桜上水エリアには畑も点在するので、災害時の駐車スペースとして協力してもらえるか把握しておく一方、余力がある地域住民が車両の誘導を担えるよう、意識付けを行う。

・地区に関係する鉄道会社の発災時の体制を確認し、必要に応じて依頼、又は協議しておく※。

・自力で開設前の避難所へ辿りついた避難者に対しての取扱いは、避難所ごとに、避難所運営委員会もしくは学校において対応を定めておく。

＊■地区の取り組みの⑥に対応

〔補足〕

※案内表示の具体化については今後、防災関係の会議体や避難所・帰宅困難者施設等との協議を進めていく。別課題「帰宅困難者支援」とも関連する。
制作費、設置・添付の許認可、デザイン等は今後の問題として残る。
他の地区・他の地域など区内は共通標識が望ましい。

※避難者等の受け入れ対策については、各避難所、帰宅困難者施設等で性質・目的等を整理し、必要とされる物品やスペースなどの数値を把握し、実現に向けた行動を取る。
都立松原高校については別課題「帰宅困難者支援」に記述あり。

※東京都帰宅困難者対策条例に基づく従業員や生徒用の水・食料・その他必要物資の備蓄については防災関係の会議体（防災塾WG等）に参加する学校職員や商店主等へ働きかけることを想定している。

カ　外出時の避難行動

・避難に際しては、地元住民に避難所を確認し、身元がわかるものを提示し避難に同行させてもらう。帰宅困難者支援施設も利用可能であることを知識として持っておく。

・安全な場所に身を落ち着けた後は、災害用伝言ダイヤル（避難所の特設電話機も使用可）、あるいはインターネットなどにより、家族または非常時の連絡先に避難場所・避難状況を伝える。
非常時の連絡先については平常時に各人において把握しておく。

・住所地（自宅）には、安全に戻れることが確認出来てから戻る。

＊■地区の取り組みの⑤に対応

課題5　自助

■意見

地区防災計画の前提は、第一に「自助」である。自ら（家族も含む）の命は自らが守ること、または備えることである。（リスク管理 Navi 用語集より）

地区防災計画において、「自助」を考える上で重要なことは、「自助」は次に続く「共助」を可能にするという視点ではないだろうか。

すなわち、「自助」は自らの身を守ったうえで、その結果「共助」に向かうことができ、被災者からいち早く支援者に回れるということである。

「自助」は自分自身や一家族の単位で進められる部分なので、備えとしての防災計画を比較的たてやすいものである。

つまり、「自助」については町会からの広報・周知が他の課題と比較し、一世帯ごとに届けやすいといえる。

ところが、今回の防災塾を通して、松沢地区においてもかなりの地域差があり、町会単位でもかなり状況が違うことが明確になった。

この点を踏まえ、今後の地区防災計画の「自助」については、それぞれの町会のから進めていくことが求められている。

町会の垣根を越えてお互いに情報交換しながら、町会においても町会自身の「自助」から「共助」へと向かう視点を創りだしていきたい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

「自助」は主として、日常の備えから発災時の身の安全の確保、家族の安否確認といった、時間的には限定的であることから、発災前＝日常の備え、発災時＝身の安全の確保に分けて考える。

（1）日常の備え

ハード面

①住まいの耐震化・家具転倒防止策の周知徹底

阪神淡路大震災時、亡くなられた方の死因の約84％が圧死であったことから、住まいの耐震化、家具転倒防止策は最重要課題である。

ただし、これには一定の工事費も伴うので、世田谷区の助成制度などの周知につとめていく。年1回、まちづくりセンターを会場として実施される、無料の耐震相談会の活用なども考える。

一方、アパート、マンションなどの共同住宅の多い地区もあり、情報が行き届けにくい場合もある。このうち、特に築年数の高い建物についての計画はこれからの検討課題である。

②感震ブレーカーの設置

最近の震災後の火事は、60%以上が電気によるものであり、各家庭において感震ブレーカーの設置を進めていきたい。

松沢地区のほとんどが区の補助対象地域には入っていないので、設置するには自費負担ではあるが、地域で取り組むことが重要なので、設置の重要性を周知していきたい。

ソフト面

③顔の見える関係づくり

日頃から様々な機会をとおして声を掛け合い、顔見知りを増やしていく。

お互いの家庭状況を知っておくことは、発災時の救助活動に欠かせないものとなる。

④発災時に必要となる水・食料、防災用品の備蓄

各世帯の状況によって用意するものは変わるので、それぞれの事情に合った備蓄品のリストのマニュアルの配布やアドバイス等を進める。

⑤発災時の家族の行動マニュアルの準備・家族間での共有

いつ、どこで災害が発生するか特定できないので、さまざまな想定にしたがって予め、建物のなかでの身の守り方や、避難時の家族の動きを決めておくように呼びかけていく。

(2)発災時

世帯ごとでのマニュアルに従い、自らの身の安全と、家族の安全を第一に行動する。

火災の発生時には初期消火に努める。

■各団体の今後の取り組みの方向性

松沢地区には、各小中学校を拠点に活動する避難所運営委員会、町会自治会があり、防災関係の教室・訓練、各町会自治会等の定例会・イベント等が定期的に行われている。

このような機会を捉えて当該会議体等が定める者から住民に以下の各項について周知し、実施者を増やすことをめざす。

併せて区の担当課が作成したチラシなどを町会自治会等内で回覧または掲示板へ掲出することなども実施し、団体内における動機付けを図る。

ア 揺れに対する住まいの環境を整える

・耐震化に関する行政の助成制度を知る。

世田谷区には、無料の耐震診断士派遣や補強設計・改修工事、建て替え費用の一部を助成する制度※がある。

・各家庭の状況に合わせた対策をとる。

耐震補強工事だけでなく、家具の固定、ガラス飛散防止、高い位置に物を置かない等、すぐに実施できることもある。

・高齢者・障害者等向けの、行政の助成制度を知る。

世田谷区には、家具転倒防止器具取付支援や、耐震シェルター、耐震ベッド設置費用の助成制度※があり、利用できる場合もある。

＊■地区の取り組みの(1)① に対応

〔補足〕

※耐震化：世田谷区防災街づくり担当部防災街づくり課が昭和56年5月以前に着工した住宅等への耐震診断・改修工事助成を実施。

※高齢者・障害者等向け：世田谷区防災街づくり担当部防災街づくり課が家具転倒防止器具取付支援や、耐震シェルター、耐震ベッド設置費用を助成。

イ 感震ブレーカー設置を推奨する

・通電による火災の仕組みや、感震ブレーカーの目的・特徴等を知る。

・地域一帯に設置することにより、高い火災予防効果が期待できることを知る。

・世田谷区には、一部の区域に対して感震ブレーカーの設置・購入費を補助する制度※があることを知る。

・簡易タイプの感震ブレーカーは、安価な部品の組み合わせで自作できることなどを必要に応じて情報共有する。

・無理の無い範囲で設置家庭を増やす。

＊■地区の取り組みの(1)② に対応

〔補足〕

※赤堤1丁目の一部と赤堤2丁目の一部は、東京都建築安全条例に基づく「新たな防火規制区域」に該当しており、区が指定するタイプの感震ブレーカーの設置・購入費について世田谷区危機管理室災害対策課の補助を受けられる場合がある。

ウ 災害時に役立つような関係づくりを心がける

・日頃の交流を通して、隣近所に住む人の顔と名前を覚えることが、災害時に役立つことを意識する。

・信頼関係が築けている場合、必要に応じて家庭状況や生活パターンなど、発災時の安否確認に繋げられるような情報を共有する。

＊■地区の取り組みの(1)③ に対応

エ 災害時に必要とされる物品を備蓄する

・各家庭において一人最低3日、できれば一週間分の水・食料・トイレ・

生活用品の備蓄に努める。
・水や米、レトルト、缶詰などの保存がきく食料や生活用品は、無理なく備蓄できるローリングストック法を取り入れる。
・非常用持ち出し袋の準備、枕元への懐中電灯や靴などの用意をする。
＊■地区の取り組みの(1)④ に対応

オ 各家庭で災害時の行動マニュアル(各団体で作成の「防災計画」※に基づくもの)を作り、次の事項を中心に家族で共有する
・発災時の滞在場所・時間・状況等別に、身を守るための方法。
・助かった後にとるべき行動。行くべき避難先、持ち出す物、災害の状況や今後の見通しなどの情報入手など。
・家族間での安否確認方法・合流地点などの取り決め。
・被災地の避難所の実態※を知り、発災後の自助をイメージする。
＊■地区の取り組みの(1)⑤ に対応

〔補足〕
※各団体で作成の防災計画:独自に作成済みの町会自治会もあり、他団体への参考に提供されている物もある。
世田谷区の災害対策課作成の「災害時区民行動マニュアル」も参考にする。
※各町会自治会や避難所運営委員会等で実施する防災関連訓練などの機会に、現地での支援活動経験者や被災者等から話を聴く、区の地域振興課等から借りられるDVDを上映する などを想定。

奥沢地区防災計画

【令和7年修正】

奥沢地区

目次

**1 奥沢地区の特性 ・・・

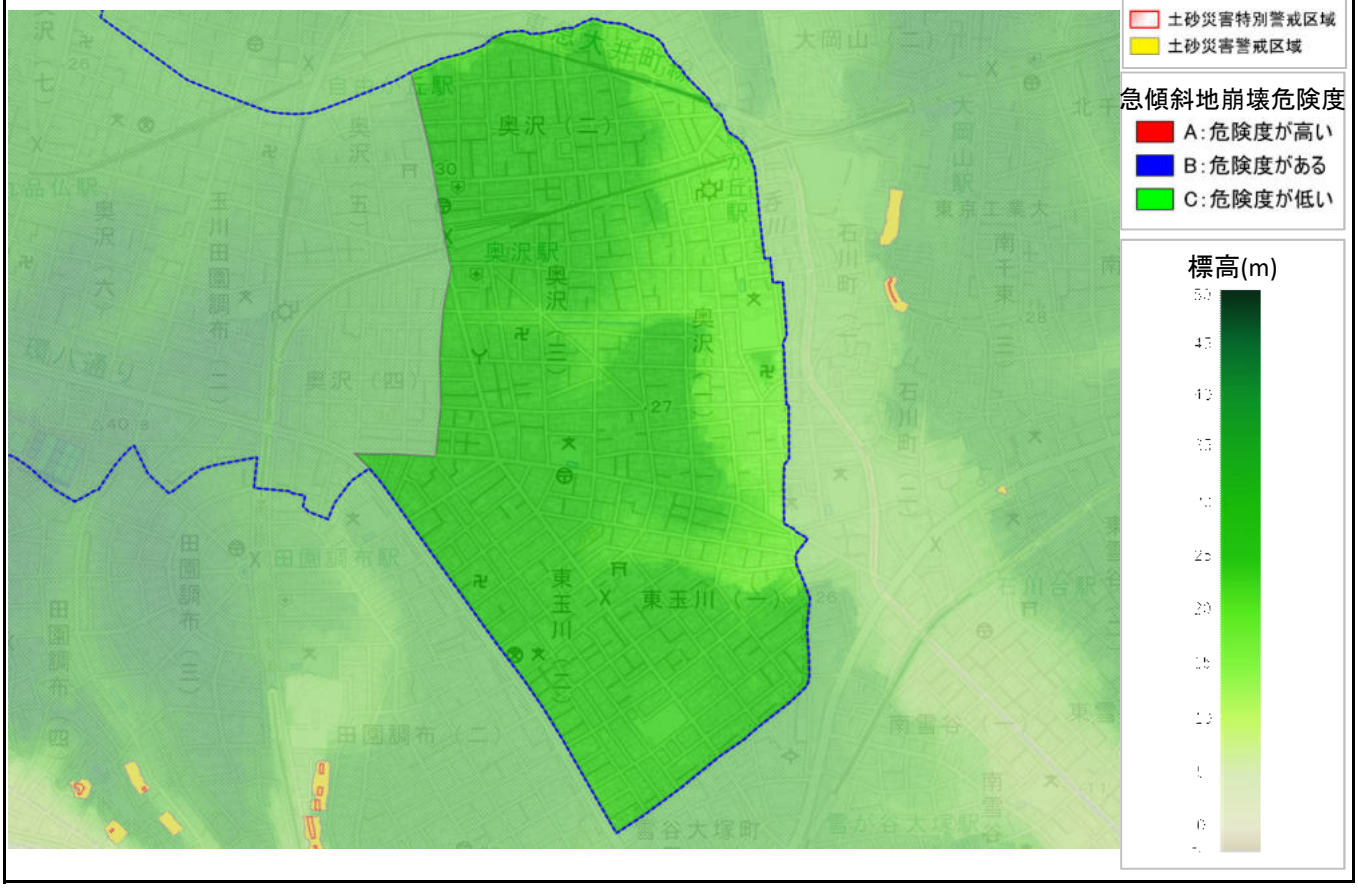
1. 奥沢地区の特性

(1)自然特性

面積	1.21 Km²	最高標高	30.0 m	最低標高	16.1 m

位置

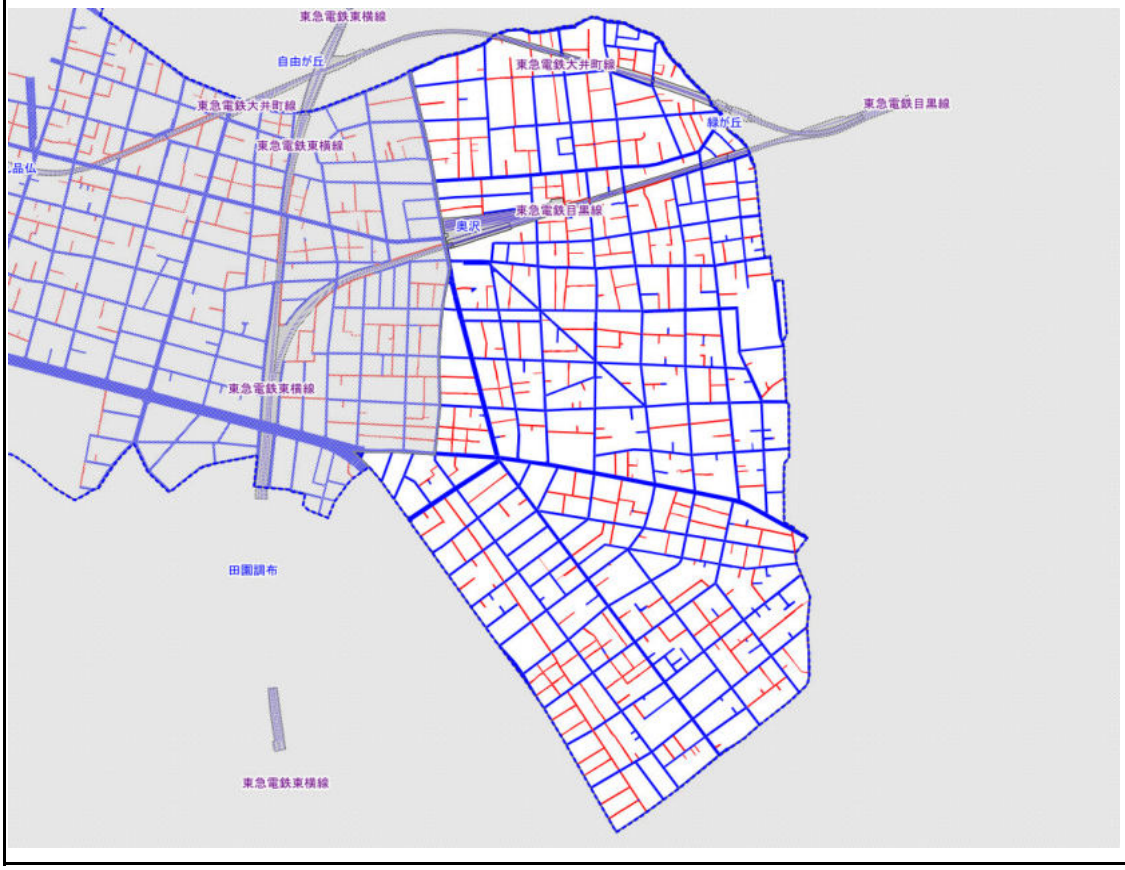
標高･急傾斜地崩壊危険度･土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

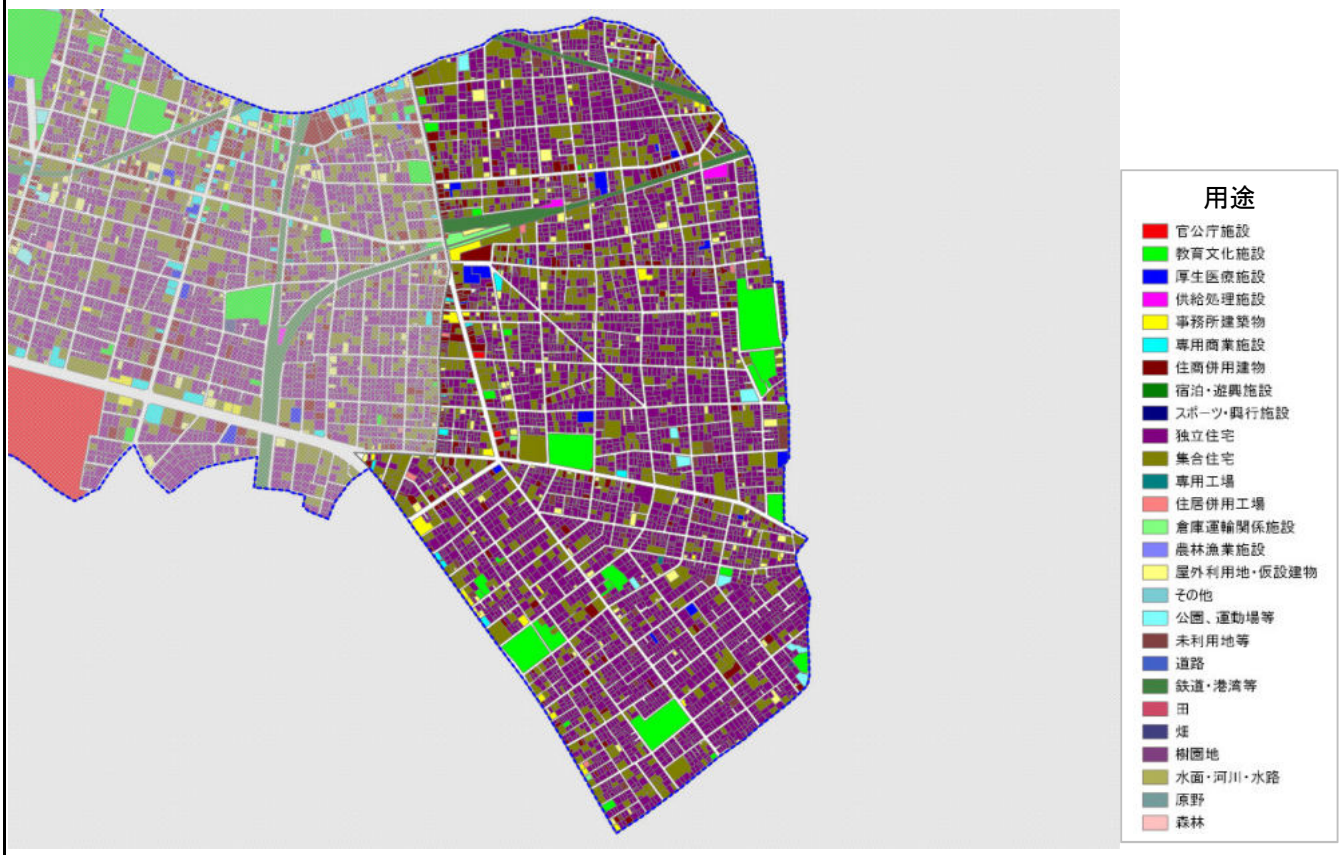
人口	22,009 人	細街路率		34.7 %	
世帯数	11,588 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度		68.0 棟/Km²	
1世帯あたり	1.90 人	耐火率(建築面積ベース)		51.7 %	
若年層数(15才未満)	2,407 人	土地利用(宅地)		77.4 %	
若年層率(15才未満)	10.9 %	土地利用(宅地以外)		22.6 %	
高齢者数(65才以上)	5,078 人	鉄道駅	東急目黒線奥沢駅		
高齢者率(65才以上)	23.1 %				
昼間の人口	16,412 人	産業	商業	90.1 %	
夜間の人口	22,908 人		工業	9.4 %	
昼夜間人口比	0.72 -		農業	0.5 %	
町会・自治会数	2 -				

道路・公共交通機関



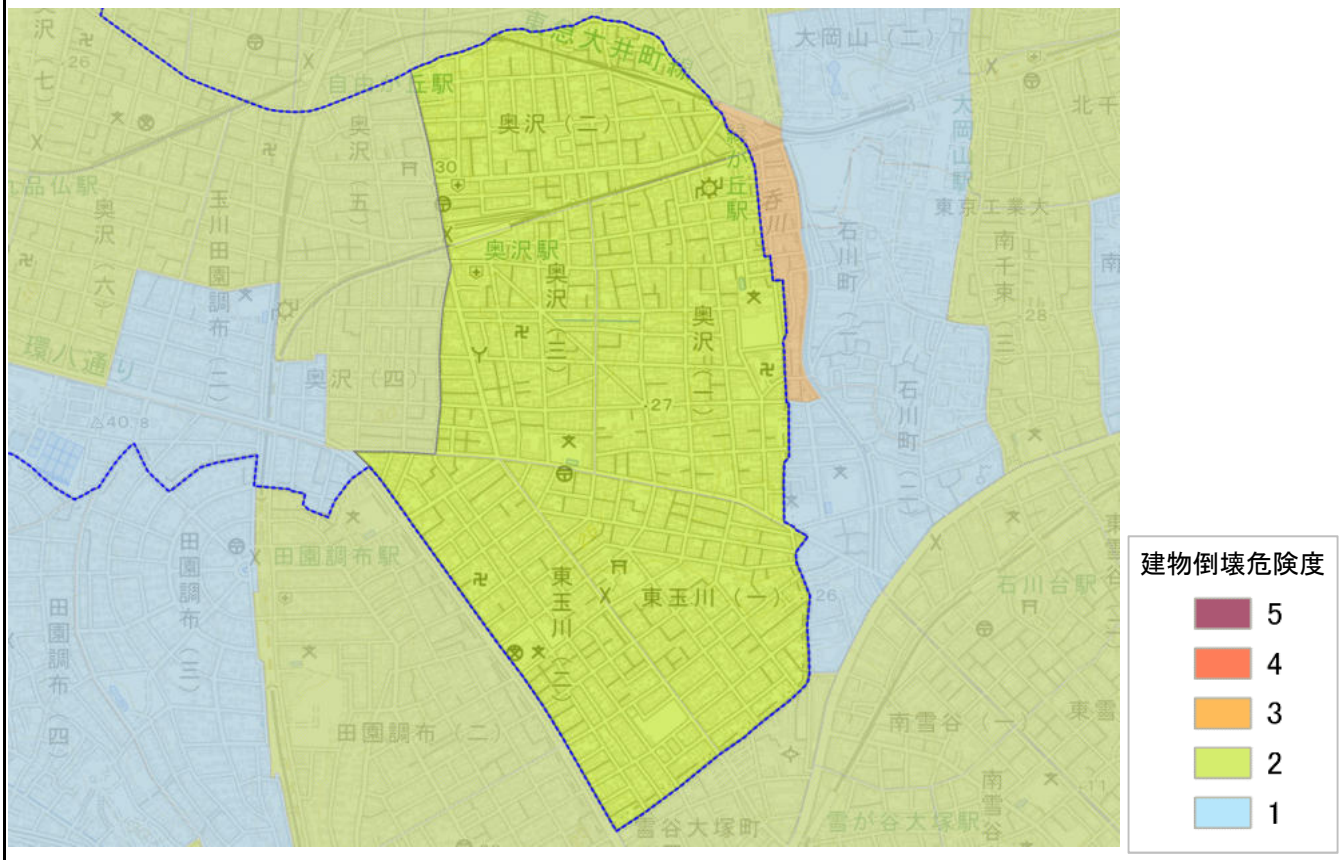
(2)社会特性

産業

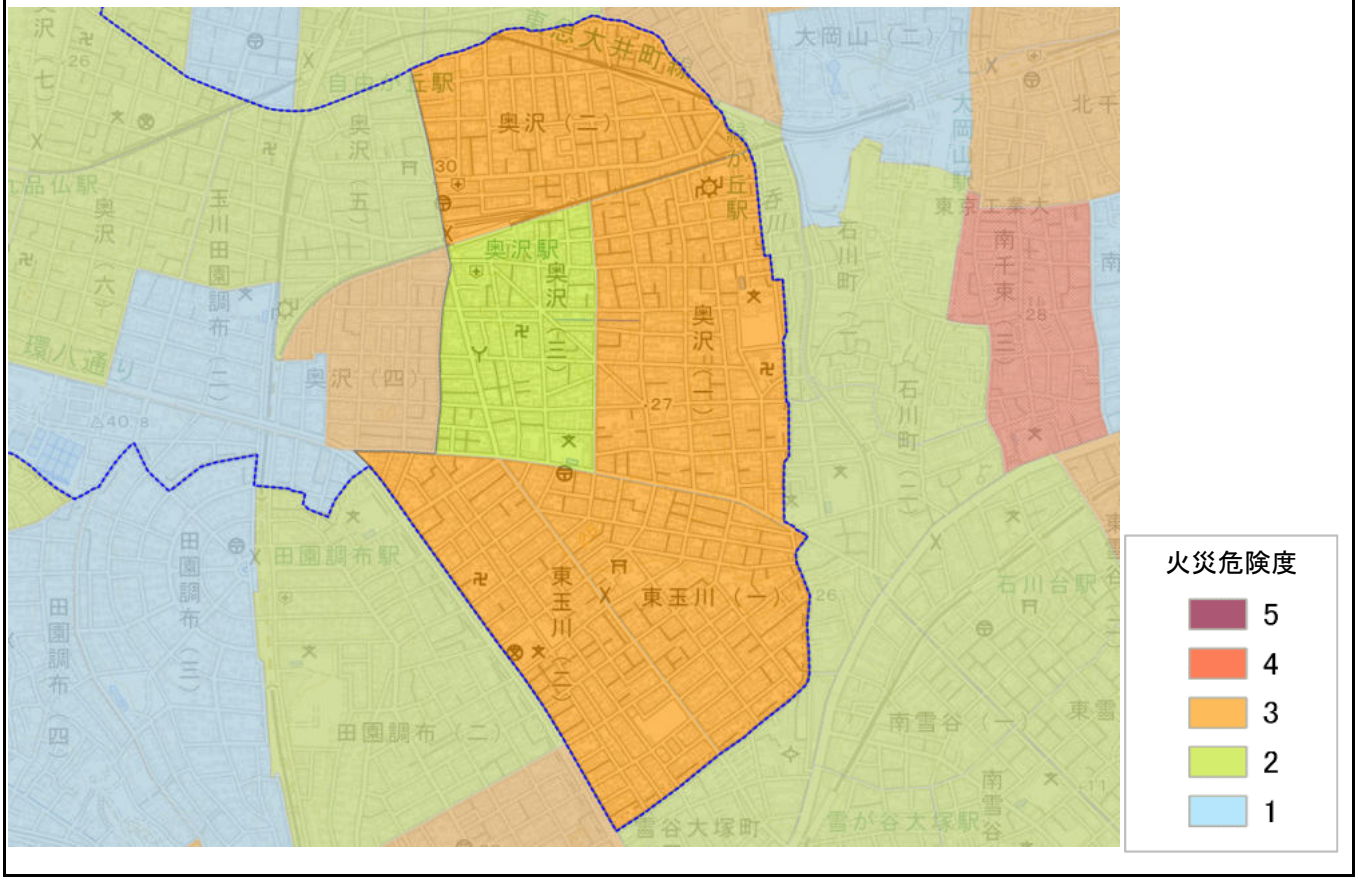

用途
官公庁施設
教育文化施設
厚生医療施設
供給処理施設
事務所建築物
専用商業施設
住商併用建物
宿泊・遊興施設
スポーツ・興行施設
独立住宅
集合住宅
専用工場
住居併用工場
倉庫運輸関係施設
農林漁業施設
屋外利用地・仮設建物
その他
公園、運動場等
未利用地等
道路
鉄道・港湾等
田
畑
樹園地
水面・河川・水路
原野
森林

(3)地域危険度

建物倒壊危険度



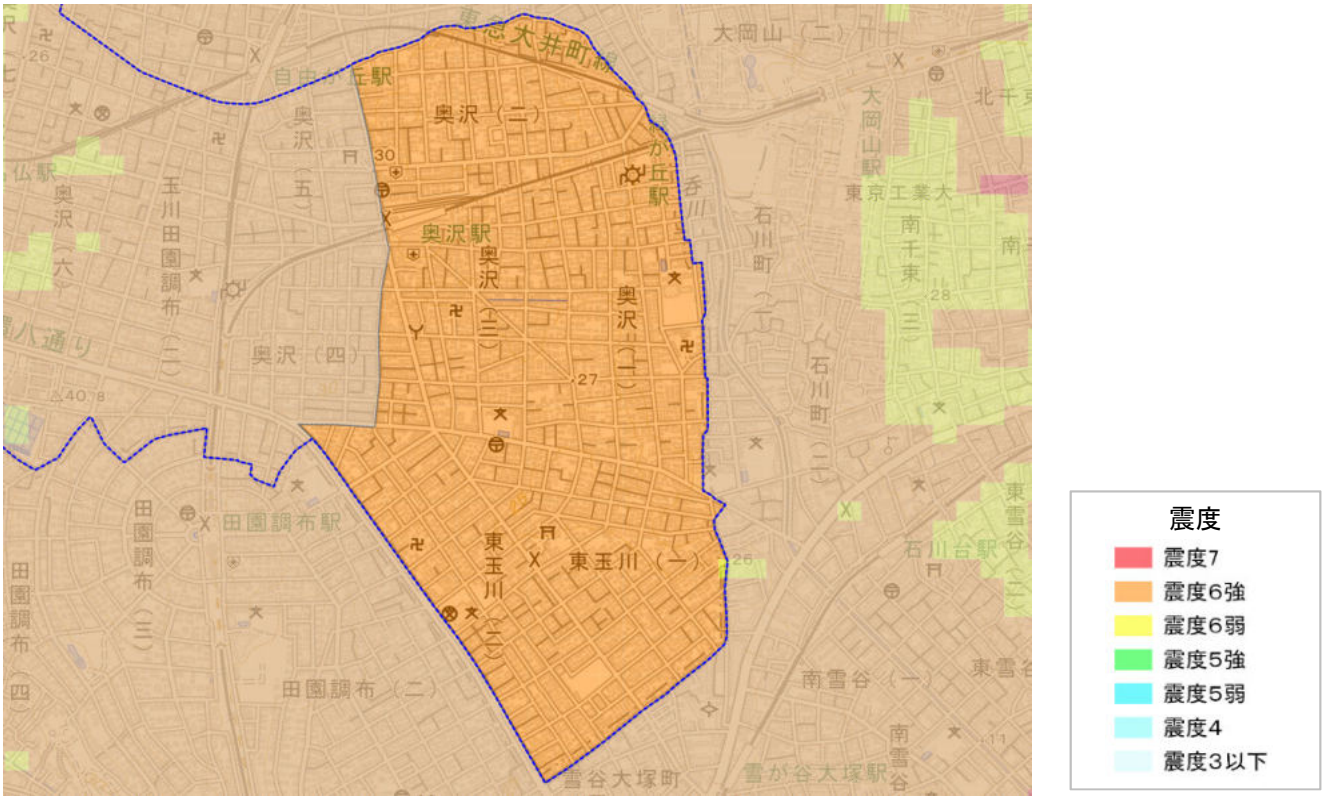
火災危険度



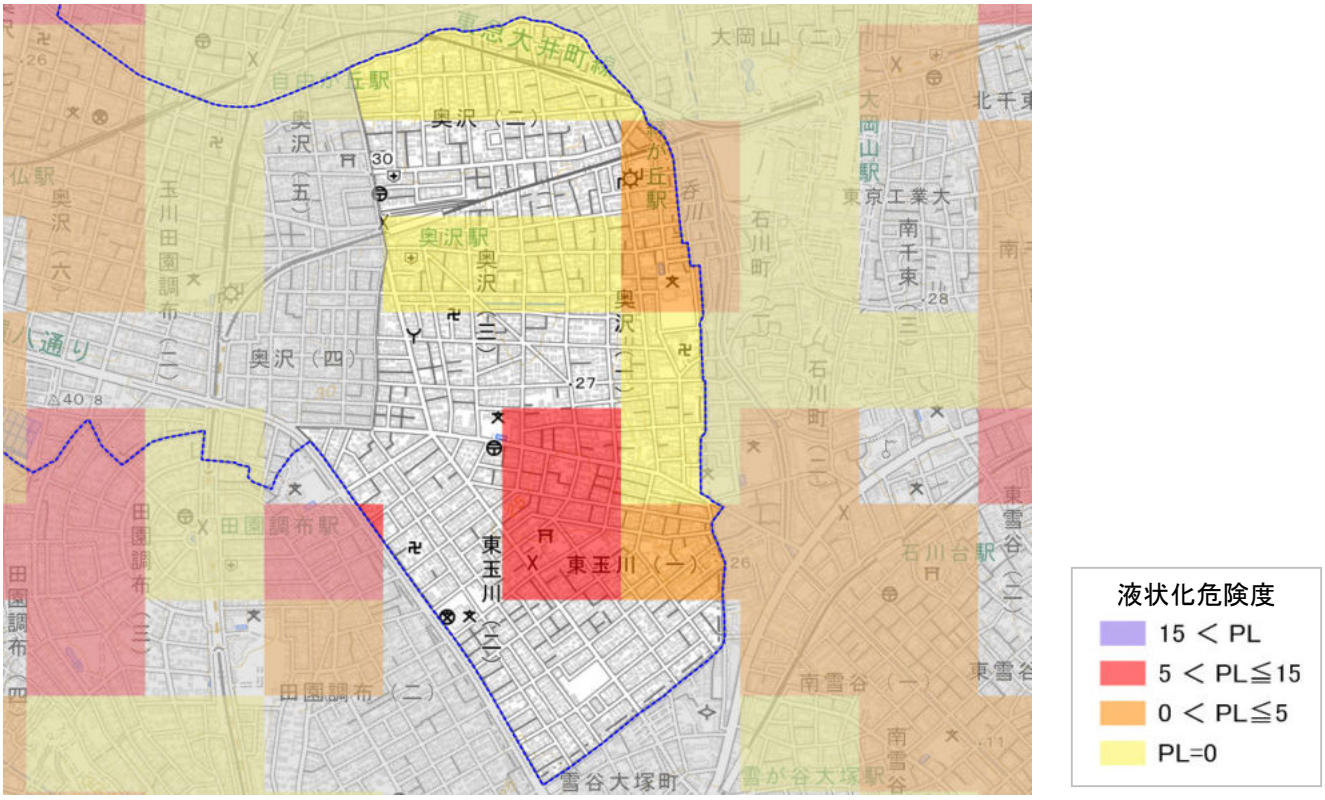
(4)被害想定

全壊棟数	221 棟	死者	21 人
半壊棟数	601 棟	負傷者	234 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	580 棟	うち重傷者	40 人

震度分布

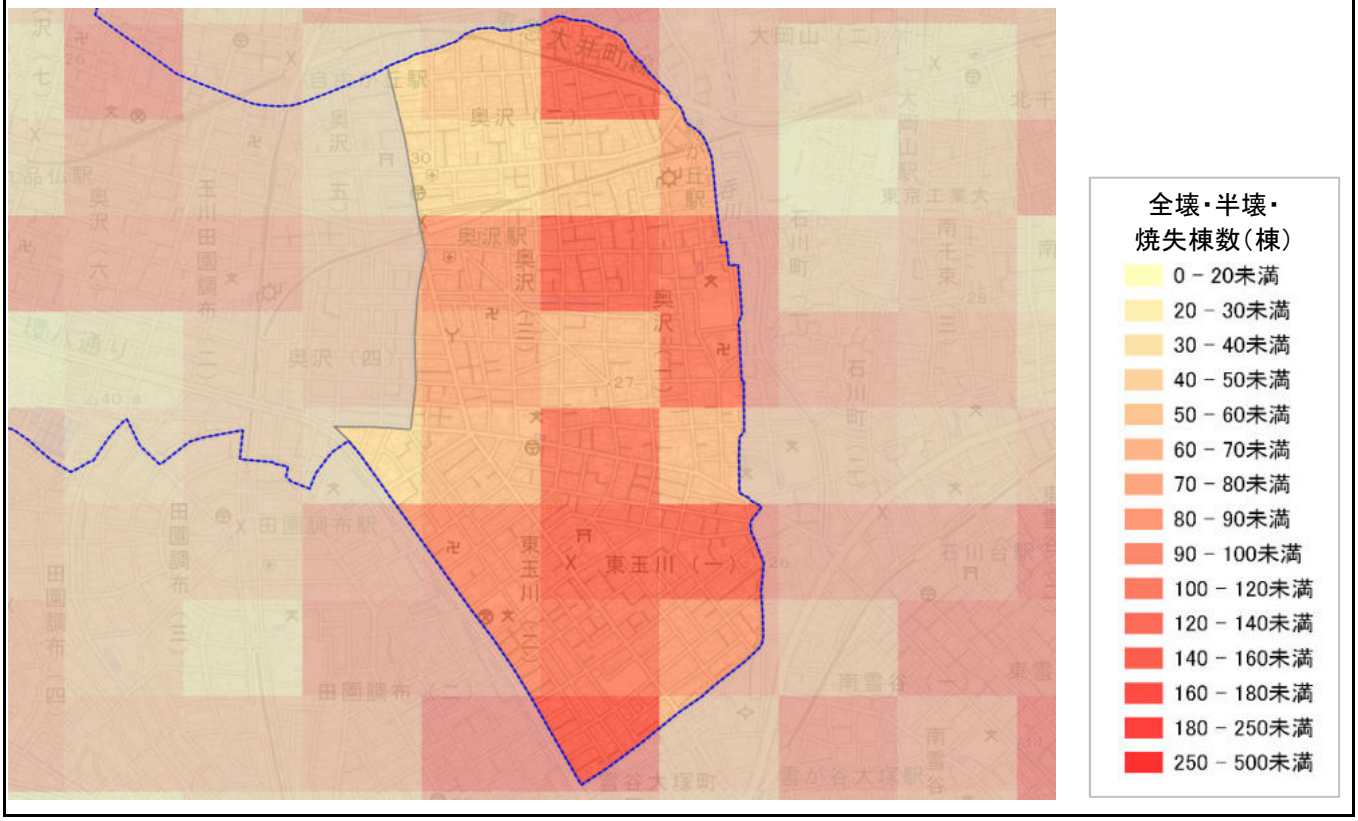


液状化分布



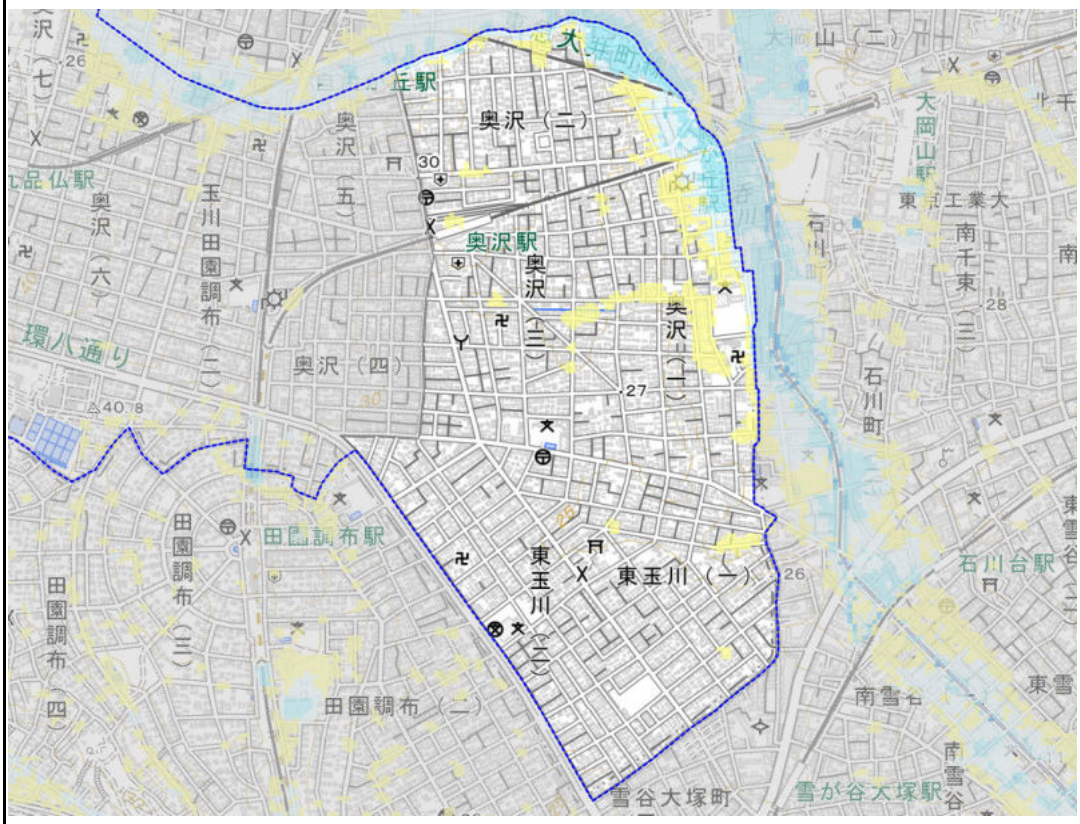
(4)被害想定

被害棟数分布

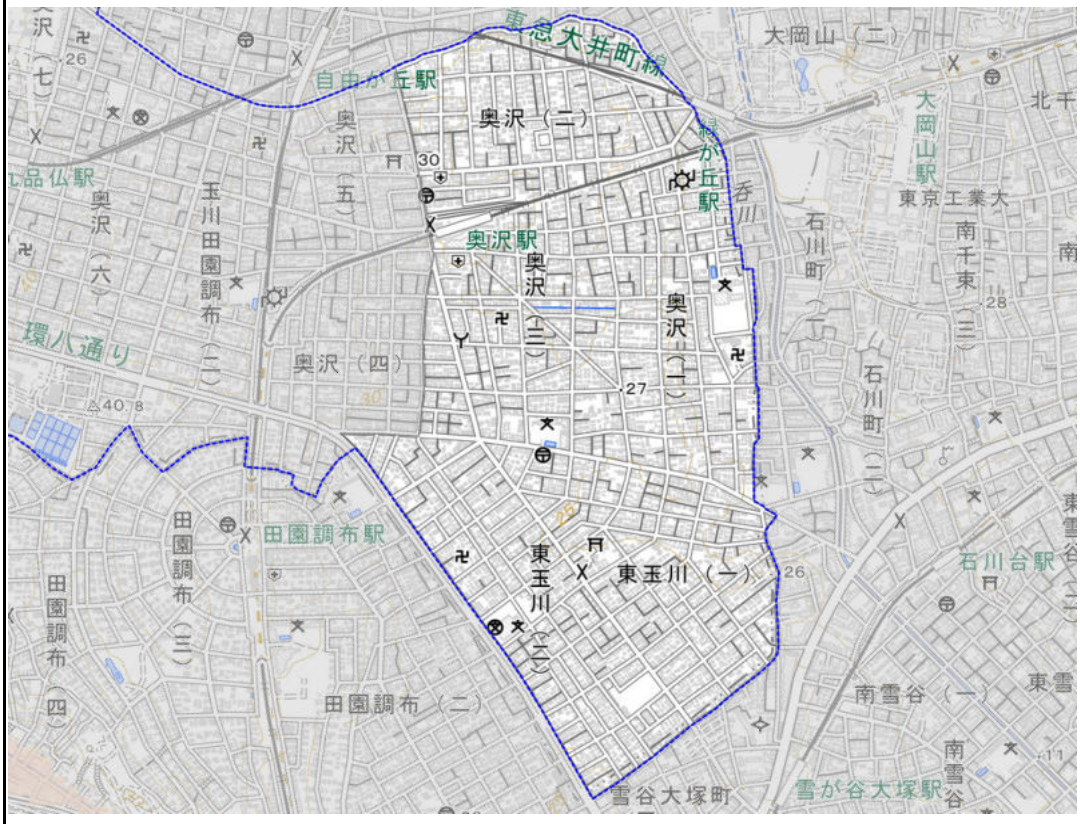


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



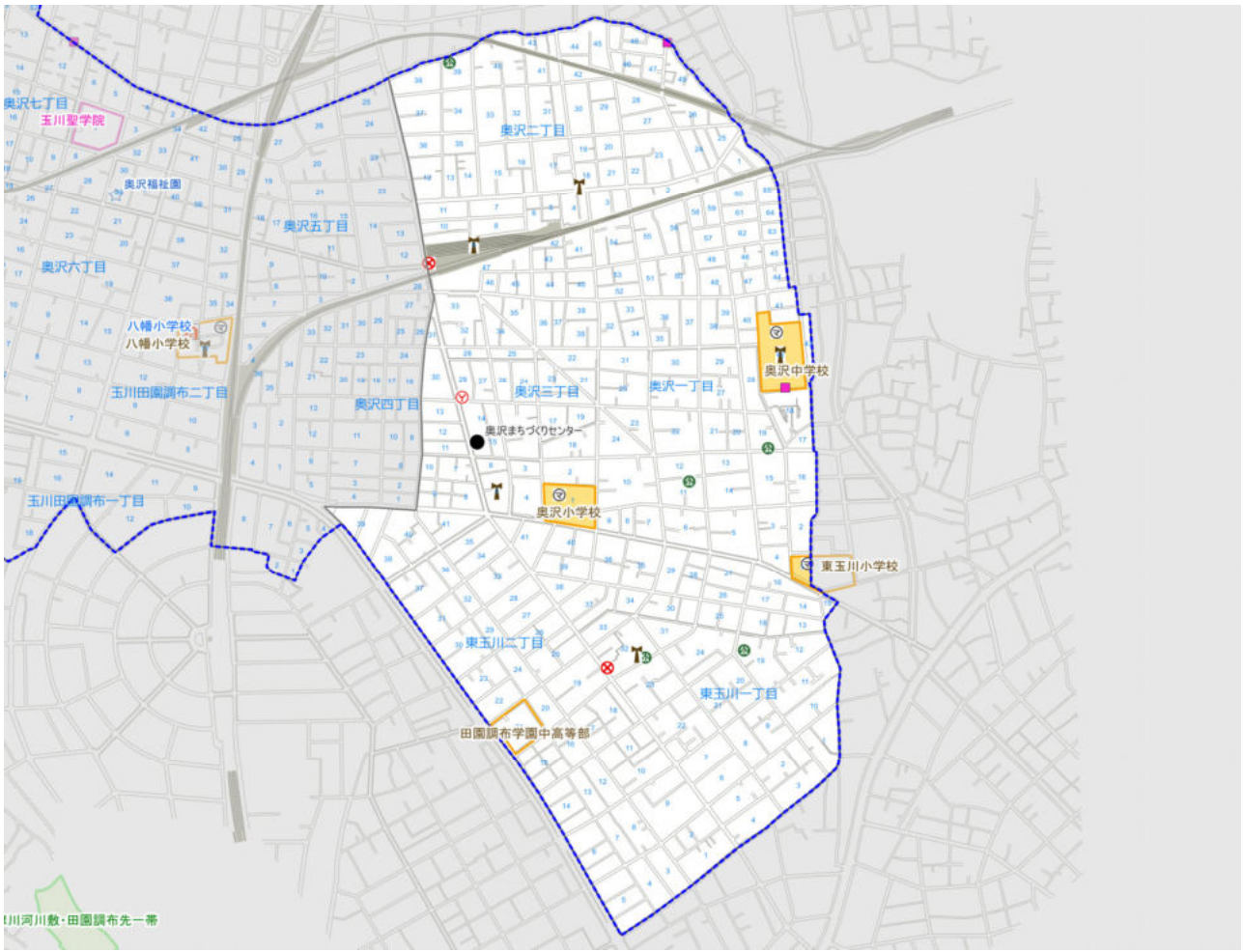
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所					
一時集合所	奥沢2丁目公園　奥沢公園　奥沢小学校　奥沢中学校　田園調布学園(運動場) 東玉川公園　東玉川小学校　東玉川神社　東玉川第2公園				
指定避難所	奥沢小学校 奥沢中学校 東玉川小学校				
予備避難所	田園調布学園中高等部				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)					
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設	0　ヶ所		
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	3　ヶ所	防災行政無線塔	5　ヶ所	緑地	0　ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	奥沢中学校　九品仏川緑道(奥沢2-48付近)				
警察署・交番	奥沢駅前交番　東玉川交番				
消防署・出張所	奥沢出張所				

(6)防災資源マップ



- 総合支所
- まちづくりセンター
- せたがや災害ボランティアセンター
- 広域用防災倉庫
- 給水拠点
- 防災行政無線塔
- マンホールトイレ
- 土のうステーション
- 警察署
- 交番
- 消防署
- 消防出張所
- 身近な広場
- 公園
- 緑地
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 予備避難所
- 福祉避難所(母子)
- 福祉避難所(高齢者)
- 福祉避難所(障害者)
- 水害時避難所(第1次)
- 水害時避難所(第2次)
- 野川・仙川洪水時避難所
- 水害時避難所(狛江市)
- 水害時避難所(調布市)
- 土砂災害時避難所
- 避難所救護所
- 東京都災害拠点病院
- 東京都災害拠点連携病院
- 緊急医療救護所
- 一時滞在施設
- 帰宅困難者支援施設
- ボランティアマッチングセンター
- 輸送拠点等
- 一時避難施設(車中避難)

出典
世田谷区土砂災害ハザードマップ　令和6年7月発行
世田谷区の町丁目別人口と世帯数　令和6年3月1日
世田谷区の年齢別人口　令和6年3月1日
世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
世田谷の土地利用2021　世田谷区土地利用現況調査
世田谷区GISオープンデータ
令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])　令和4年9月
首都直下地震等による東京の被害想定　報告書　令和4年5月25日
世田谷区防災マップデータ　令和6年3月

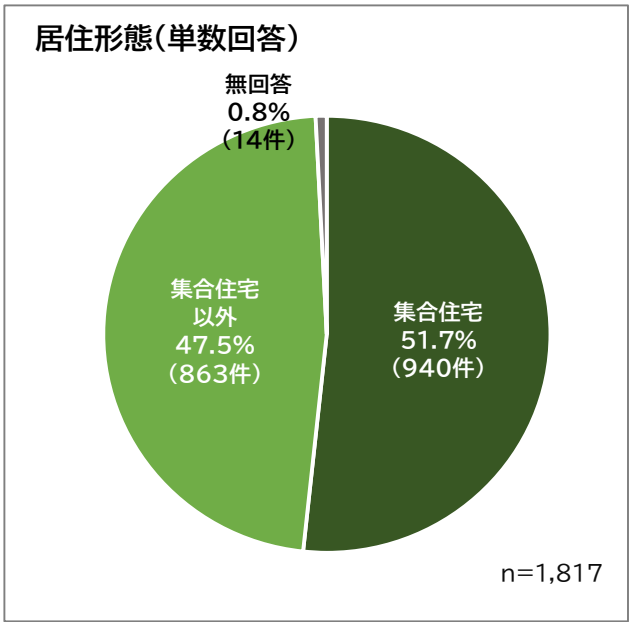
(7)区民アンケート(奥沢地区)

このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。
なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

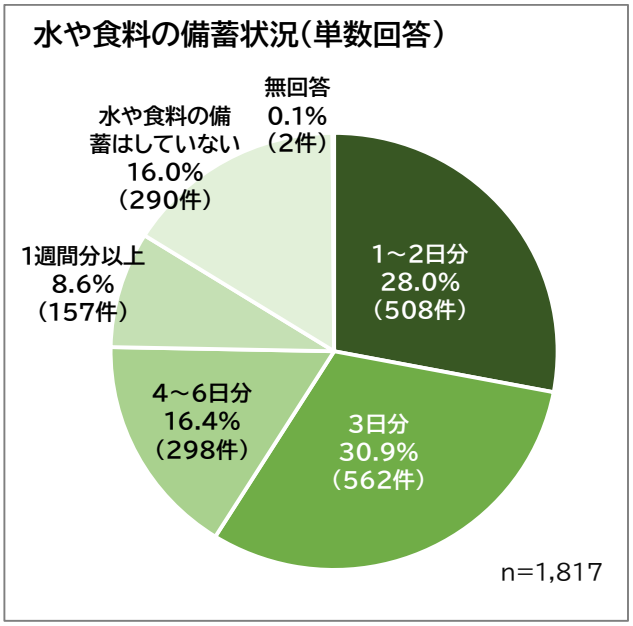
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

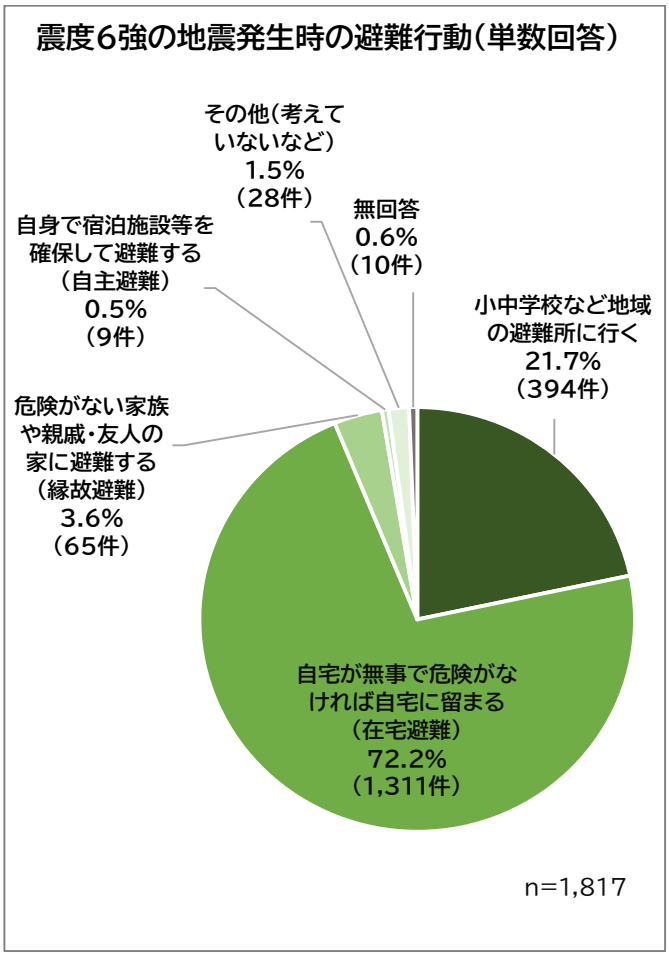


(7)区民アンケート(奥沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(奥沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

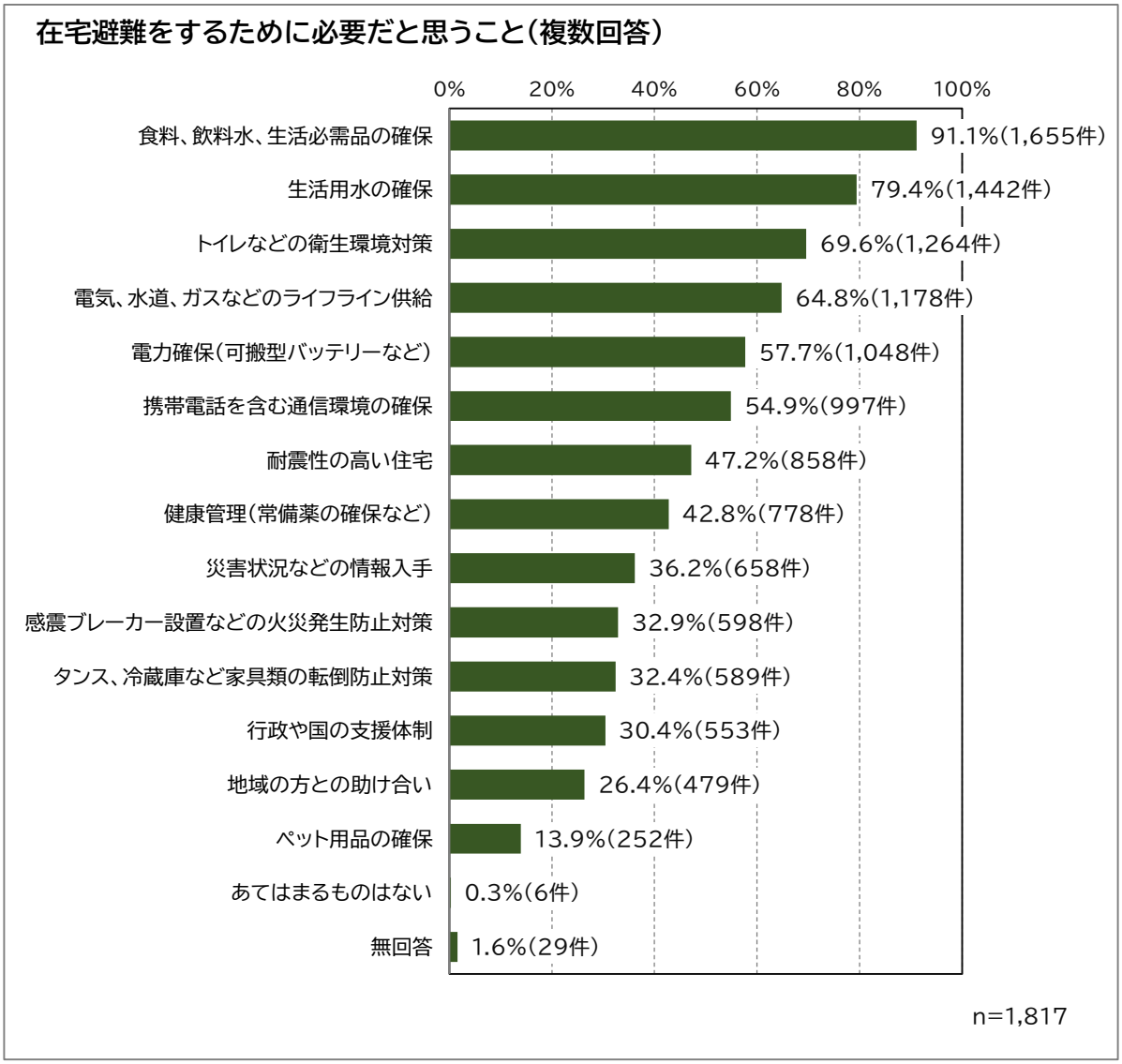
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(奥沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

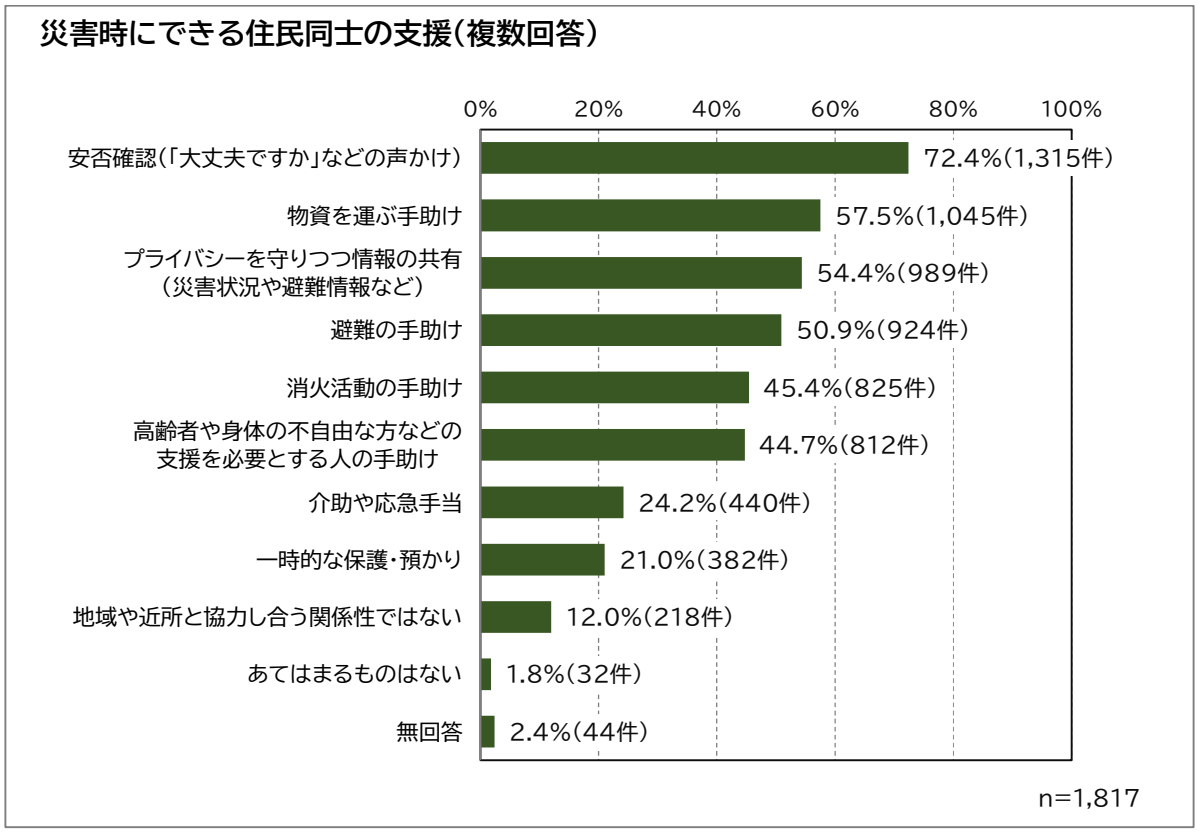


(7)区民アンケート(奥沢地区)

単純集計(5/5)

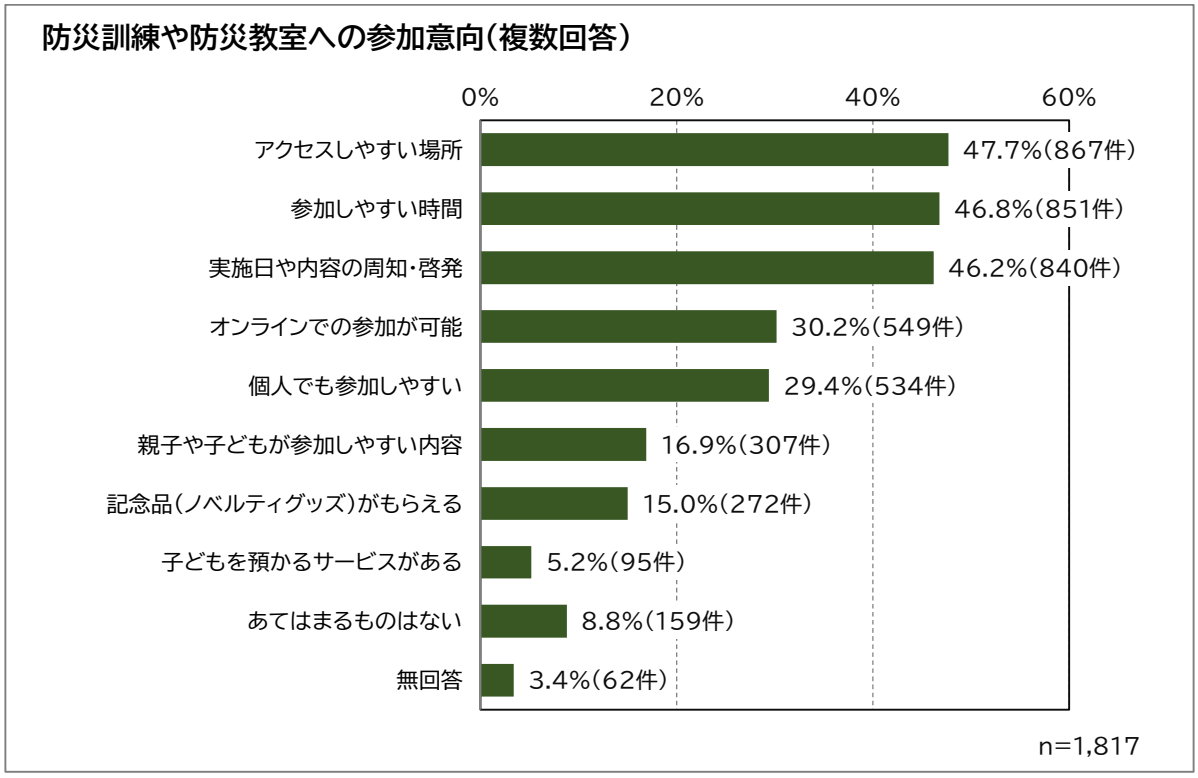
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

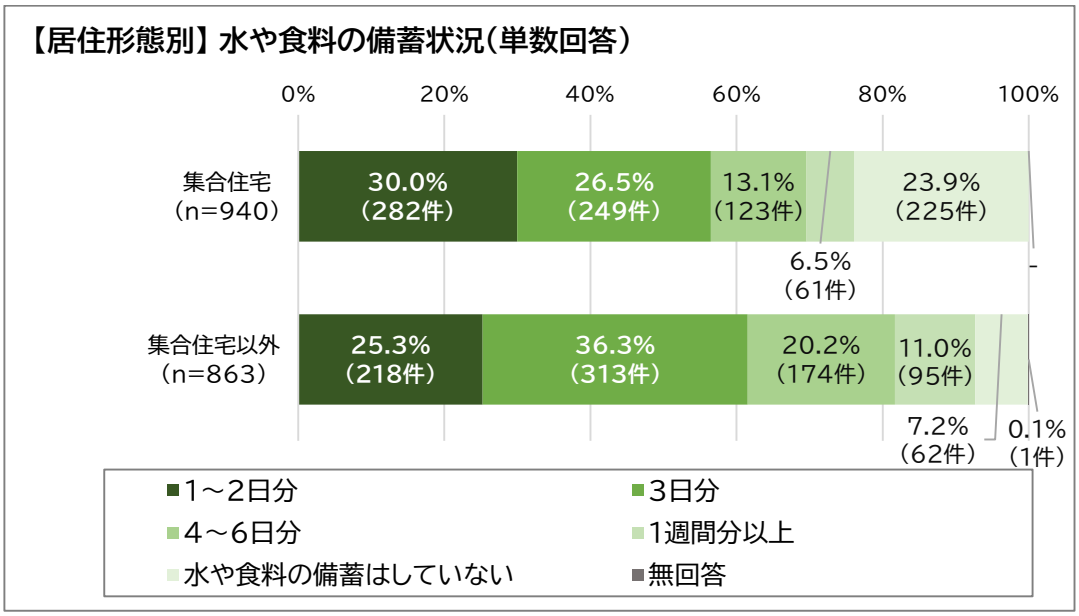


(7)区民アンケート(奥沢地区)

クロス集計(1/4)

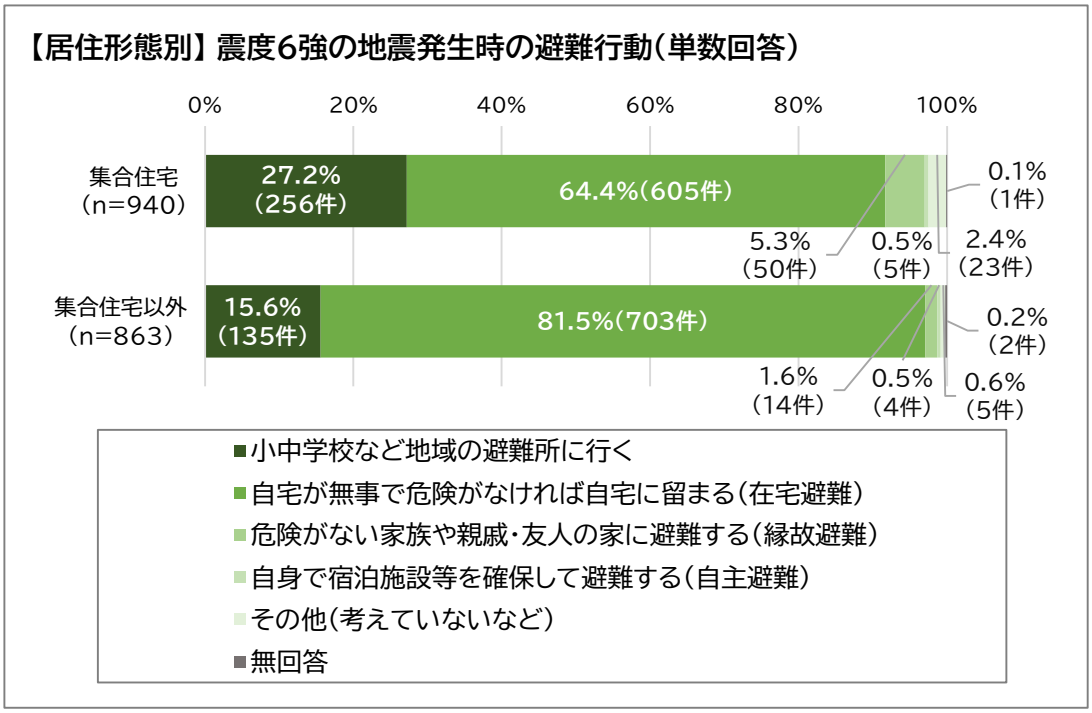
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(奥沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

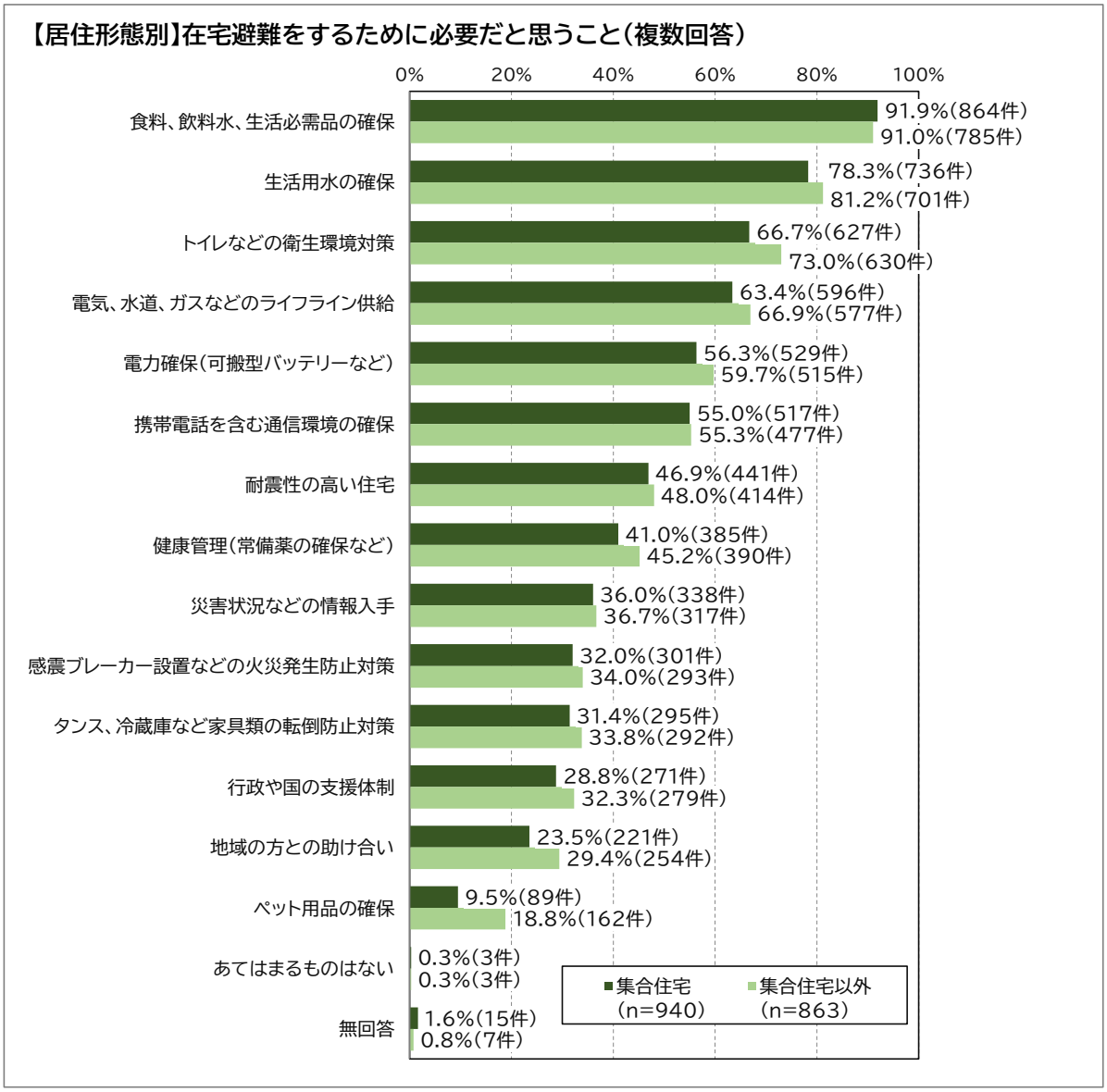
【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

(7)区民アンケート(奥沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

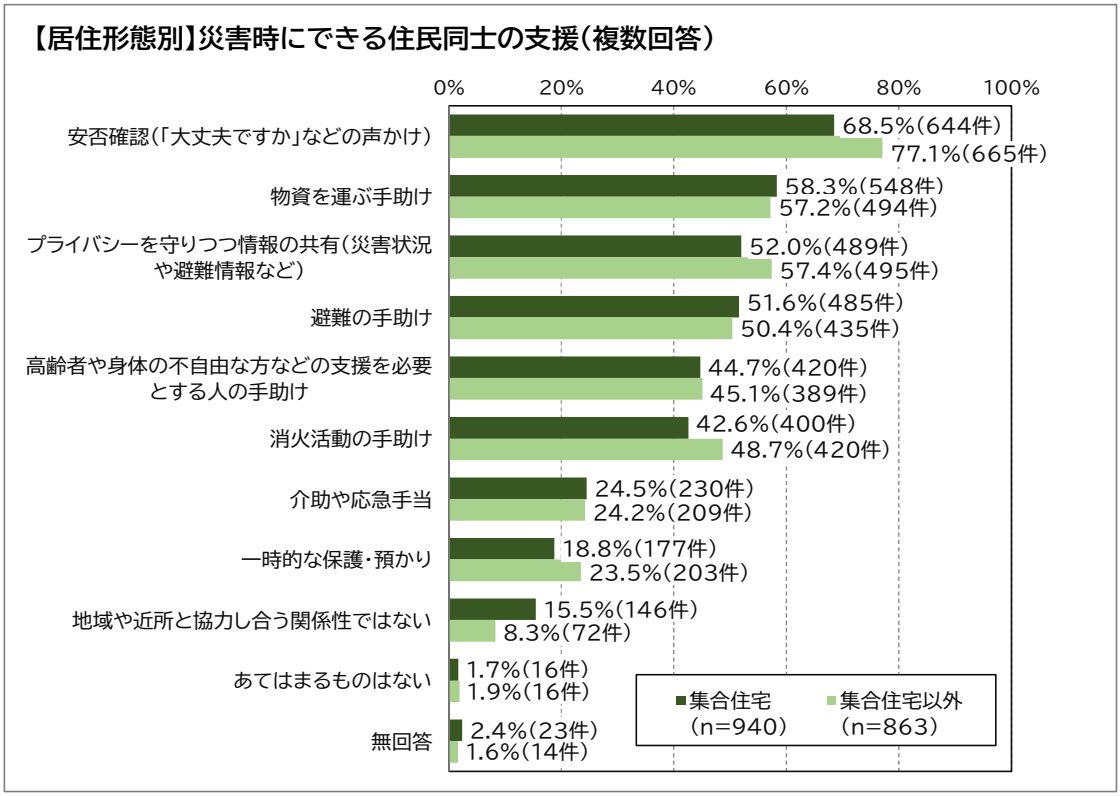


(7)区民アンケート(奥沢地区)

クロス集計(4/4)

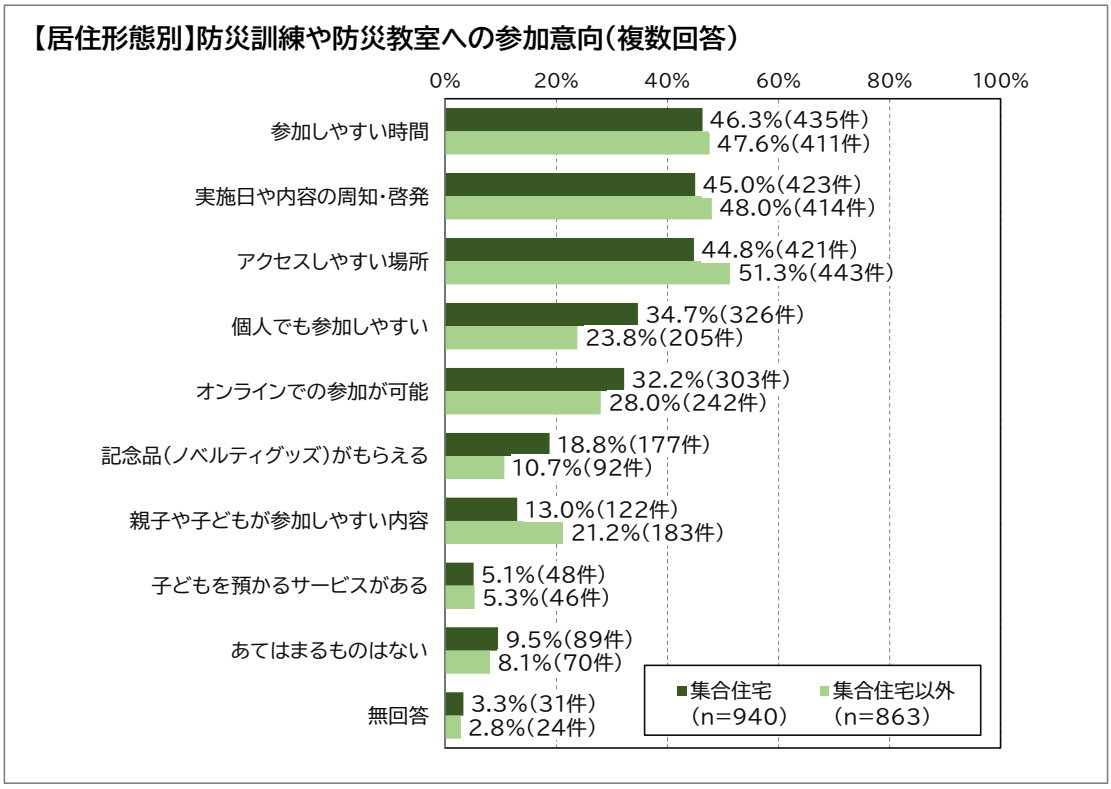
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備									
		実施している	実施していない	会議名	（実施回数（年間））	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
東玉川町会	6	○		奥沢・東玉川地区区民防災会議	2～3	○		○		1	東玉川町会防災倉庫	1	東玉川町会防災倉庫	1	町会会館炊事作業場所		
奥沢交和会	19	○		奥沢・東玉川地区区民防災会議	2～3	○		○				3	1丁目防災倉庫 2丁目防災倉庫 3丁目防災倉庫				

団体名	防災訓練等の実施								防災マップ											
	実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他	その他	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							
			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	その他
東玉川町会	○		3	奥沢小学校、東玉川小学校他			防災講演会、初期消火訓練、D型ポンプ操作訓練、マンホールトイレ設置訓練、宿泊体験　他	奥沢区民センター 奥沢小学校 東玉川小学校他	○				○	○	○	○	○		○	東玉川町会会館に掲示
奥沢交和会	○		3	奥沢小学校、東玉川小学校、奥沢中学校他			防災講演会、初期消火訓練、D型ポンプ操作訓練、マンホールトイレ設置訓練、宿泊体験　他	奥沢区民センター他	○				○		○		○			防災倉庫 D型ポンプ スタンドパイプ AED　他

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定（区を除く）					避難行動要支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル（避難所運営マニュアルを除く）				
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者避難行動体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
東玉川町会	4				○	○		奥沢交和会	私立学校グランド利用に関する協定の締結			○			ブロック単位の地区委員による緩やかな見守り活動					○				奥沢地区防災まちづくり提言
奥沢交和会	2		2		○	○		東玉川町会	災害時の米・燃料供給に関する契約(協定)の締結	○			○		1丁目から3丁目を9ブロックに分けブロック毎に協力員を置き、見守り活動					○				奥沢地区防災まちづくり提言

団体名	救出救助に係る資機材の配備																	食糧等の備蓄												
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
東玉川町会		○	1		1	2		10	2※					1			ポータブル蓄電池	東玉川町会防災倉庫		○	200食						2			5※		
奥沢交和会		○	3			3		8	3	3							プロパンガス ガス炊飯器 電気炊飯器	1丁目防災倉庫 2丁目防災倉庫 3丁目防災倉庫		○	1500食			200本				300食	6箱	10	6		12

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
東玉川町会	釜戸2 釜2 ※ランタン(乾電池用)	東玉川町会防災倉庫	防災講習会時に参加者(町内住民)に配布	
奥沢交和会		1丁目防災倉庫 2丁目防災倉庫 3丁目防災倉庫 奥沢交和会館倉庫		

奥沢地区防災まちづくり
『新・提言』
［令和７年一部修正］

奥沢・東玉川地区区民防災会議

目次

1 対象地区の範囲 …… 奥沢-27(-473-)

2 地区の特性 …… 奥沢-27(-473-)
(1)自然特性 …… 奥沢-27(-473-)
(2)社会特性 …… 奥沢-27(-473-)

3 基本的な考え方 …… 奥沢-28(-474-)
(1)阪神・淡路大震災を契機にまとめた奥沢地区防災まちづくり『提言』 …… 奥沢-28(-474-)
(2)これまでの取り組みと『提言』の検証 …… 奥沢-28(-474-)
(3)奥沢地区防災まちづくり『提言』の継承・見直しとさらなる充実に向けて …… 奥沢-28(-474-)
(4)誰に対する提言なのかを明確に提示 …… 奥沢-28(-474-)

4 基本方針 …… 奥沢-29(-475-)
(1)4つの基本方針 …… 奥沢-29(-475-)
(2)4つの取り組み …… 奥沢-29(-475-)

5 防災活動の内容 …… 奥沢-31(-477-)
A「自分たちのまちは、自分たちで守る」 …… 奥沢-31(-477-)
1 奥沢・東玉川地区区民防災会議を円滑に運営するために …… 奥沢-31(-477-)
2 防災リーダーを育成するためには …… 奥沢-32(-478-)
3 自分でできる防災対策、家族でできる防災対策への取り組み …… 奥沢-32(-478-)
4 地域の事業者の災害対策の働きかけ …… 奥沢-32(-478-)

B「お互いに顔のわかる助け合えるまちづくり」 …… 奥沢-33(-479-)
1 地域行事を通して人と人とのつながりを育んでいきます …… 奥沢-33(-479-)
2 地域活動で育まれた人と人とのつながりを最大限に活かしていきます …… 奥沢-33(-479-)
3 地域・近所づきあいの大切さを見直し、いざというときに助け合えるように …… 奥沢-33(-479-)

C「防災意識を高める」 …… 奥沢-35(-481-)
1 避難所で生活する人をできるだけ少なくするために …… 奥沢-35(-481-)
2 まちぐるみで防災知識を身に付ける …… 奥沢-39(-485-)
3 火災を発生させないために …… 奥沢-39(-485-)
4 安否確認の方法を家族で話合っておく …… 奥沢-39(-485-)

D「訓練はより実践的に」 …… 奥沢-40(-486-)
1 体験型の防災訓練で実践的な防災力の向上をめざす …… 奥沢-40(-486-)
2 実践的な訓練を可能にするための様々な取り組み …… 奥沢-41(-487-)

３　日常的にも非常時にも活用できる設備の新設および改修…… 奥沢-41(-487-)
４　過去の災害事例から学ぶ …… 奥沢-42(-488-)

資料編

これまでの取り組み …… 奥沢-43(-489-)

知っていますか？あなたの避難所 …… 奥沢-46(-492-)

【計画作成者】

奥沢交和会、東玉川町会、奥沢・東玉川地区区民防災会議
奥沢小学校・東玉川小学校・奥沢中学校避難所運営委員会
青少年奥沢地区委員会、奥沢地区身近なまちづくり推進協議会
奥沢地区ごみ減量・リサイクル推進委員会、日赤奉仕団奥沢分団、奥沢地区民生・児童委員協議会

【事務局】

世田谷区　玉川総合支所　地域振興課　奥沢まちづくりセンター

1　対象地区の範囲

奥沢交和会（世田谷区奥沢１～３丁目）
東玉川町会（世田谷区東玉川１・２丁目）

2　地区の特性

（1）自然特性

奥沢地区は、駅前から東西南北に広がる商店街を除くと、ほとんどは閑静な住宅街です。

他地区と比べて大規模な公園が少なく、場所によっては道幅が狭いところもあります。

また、旧建築基準法で建てられた建物の割合が他地区と比べて若干高いため、火災が発生した場合に、延焼の可能性があります。

海水面からの高さとしては、全体的に海抜２５メートル程あり、呑川の付近は若干低く約１９メートルとなっています。

給水所（田園調布）や広域避難場所（多摩川河川敷）まで距離があり、課題のひとつと言えます。

（2）社会特性

奥沢地区の特性の中で特に顕著なものとして、地域力（住民力）の高さがあげられます。

平成２１年度（２００９年度）に、せたがや自治政策研究所が実施した町内信頼度と地域活動量の調査では、区内トップクラスの結果となっています。

一方、人口比率については、令和2年（２０２０年）４月現在で、６５歳以上の割合が、約２２．６％と大幅に区の平均（約２０．０％）を上回り、まちづくりセンター単位では区内上位に位置しています。さらに、１８歳未満人口の割合は、約１３．０％で区の平均（約１４．０％）よりも下回り、少子・高齢化が進んだ地域です。

3　基本的な考え方

（1）阪神・淡路大震災を契機にまとめた奥沢地区防災まちづくり『提言』

平成7年（１９９５年）1月１７日に起きた阪神・淡路大震災は、都市部で起きた災害という点では、東京都と状況が同じで、もし首都圏で震災が発生した場合は、甚大な被害が出ることを思い知らされました。この大震災をきっかけに、奥沢地区では防災意識が高まり、平成９年度（１９９７年度）にはそれが形となって「避難所体験訓練」を行いました。また、「防災シンポジウム」などで、熱心に議論を交わし、奥沢地区防災まちづくり『提言』をまとめました。これは、先を見据えた形で、地域防災活動のあり方や取り組むべき課題について、具体的に提案しているもので、その後の防災訓練やシンポジウムなどに大いに活用されました。

（2）これまでの取り組みと『提言』の検証

平成２６年度（２０１４年度）に今までの取り組みについて検証を行うため「奥沢防災塾～これでいいのか奥沢・東玉川の防災対策～」をテーマに、パネルディスカッションと講師による講評を行いました。これによって、今まで進めてきた「準備なし訓練」などの取り組みは、大変有効であることが確認されました。

（3）奥沢地区防災まちづくり『提言』の継承・見直しとさらなる充実に向けて

この奥沢・東玉川地区で培ってきたノウハウは、この地区の貴重な財産であり、これらを継承していくために、明文化しておくことは大変重要です。また新たな課題にも積極的に取り組み、常にその時代にあったものを絶え間なく反映させていくことも求められています。

これらを踏まえて、奥沢地区の防災まちづくりをさらに発展させるため、奥沢地区防災まちづくり『提言』を、次代にあった内容に改善し、『新・提言』として策定することとしました。従来の「提言」では、避難所運営のあり方を中心に、日ごろの地域防災活動をまとめたものでしたが、『新・提言』では「できるだけ避難所に行かなくても済むような対策」を考えるということを主眼において地域の皆様に提言を発信していきます。

（4）誰に対する提言なのかを明確に提示

現在実施している取り組みや新しい提案をそれぞれ

- 各家庭や個人で取り組むもの【自助】
- 町会など地域住民活動として取り組むもの【共助】
- 区や学校など行政が取り組むもの【公助】

など、誰に対するものかを明確に示すことにしました。

提案事項は、すぐに実現できそうなことや、簡単に実現できないこともありますが、前回と同様に私たちのまちづくりの目標として「奥沢・東玉川地区区民防災会議」から、行政や町会など各種活動団体、地域に住む皆様への呼びかけ・提案という形をとりました。

4　基本方針

奥沢地区ならではの地域性を活かした実効性のあるものとなるように、４つの基本方針を次のとおり定め、取り組みます。

（１）４つの基本方針

A　「自分たちのまちは、自分たちで守る」
B　「お互いに顔のわかる助け合えるまちづくり」
C　「防災意識を高める」
D　「訓練はより実践的に」

（２）４つの取り組み

A　「自分たちのまちは、自分たちで守る」

「自分たちのまちは、自分たちで守る」を目標に、防災活動の企画から避難所などの運営まで住民主導で取り組みます。

１．町会、民生委員、商店会、学校、消防団などが連携して防災活動を進めるため、引き続き「奥沢・東玉川地区区民防災会議」で企画、運営を行います。
２．災害時に地域をまとめていく防災リーダーを育成します。
３．日ごろから一人ひとりが防災への関心をもち、自分でできること、家族でできることを考え、準備をしていくように促します。
４．地域の事業者へ防災対策を働きかけていきます。

B　「お互いに顔のわかる助け合えるまちづくり」

災害時に最も必要とされる「人と人とのつながり」を、より深めていくため、地域活動の活性化を引き続き最重要課題と位置づけて、子どもから大人まで幅広い世代が関わるよう取り組んでいきます。

１．地域の行事を通して人と人とのつながりを育んでいきます。
２．地域の活動で育まれた人と人とのつながりを最大限に活かしていきます。
３．地域・近所づきあいの大切さを見直し、いざというときに助け合えるようなまちをめざします。特に要援護者の見守りは、地域全体で取り組まなければ解決できない課題です。

C　「防災意識を高める」

正しい情報・知識を地域に発信し、防災意識を高めます。

1．避難所の環境には様々な問題があり、身体的にも精神的にもストレスの多いところです。よって、避難所で生活する人をできるだけ少なくするために、自助や共助の重要性を啓発し、自宅内の安全性を高めることや食料の備蓄を推奨すると同時に、避難所が物資等の配給拠点となることも併せてＰＲしていきます。
2．年に１回、防災訓練や避難所運営訓練を実施して地域の防災意識を高めるとともに、防災講演会で様々なテーマを取り上げて、一人ひとりの自助の大切さを訴えていきます。
3．火災にならないために一人ひとりの行動について、周知ＰＲしていきます。
4．家族の安否確認について、ＰＲしていきます。

D　「訓練はより実践的に」

防災訓練は、より実践に近い形で行うため、これまでも行ってきたとおり、なるべく事前準備をせず、電気・ガス・水道などのライフラインも使わない状況を設定して行います。

1．訓練を実施する際には、より実践を意識した訓練とするため、過度な準備はせず、状況に応じて柔軟に対応ができるように、訓練を行います（「準備なし」訓練）。
2．実践的な訓練を実現できるために必要な防災物品を用意します。また、食料や燃料などについても、販売店との協定を進めていきます。
3．日常的にも非常時にも活用できる設備の新設（太陽光発電）および改修（屋外コンセントの増設）を区に対して要求します。
4．これまでの災害で課題としてあがっていることについて、奥沢地区の実情にあわせてピックアップし、その課題を解決していく作業を行うことで、より実践的な訓練に磨きをかけていきます。

5　防災活動の内容

A　「自分たちのまちは、自分たちで守る」

1　奥沢・東玉川地区区民防災会議を円滑に運営するために

（1）住民主体の防災まちづくりを進めるための体制づくり

奥沢地区では、平成１０年（１９９８年）３月４日に「奥沢・東玉川地区区民防災会議」を設置し、住民主体で地区の防災活動に取り組んでいます。防災会議については、規約に基づいて運営しています。

（2）区民防災会議と避難所運営委員会が連携して取り組む

災害時に、地区内の３つの避難所が協力し合って運営していくことが大切です。地区内の連携を図るため、奥沢地区では、区民防災会議内に３つの避難所運営委員会を含めることで、各避難所がごく自然につながっていく組織をつくっています。

（避難所運営委員は、区民防災会議の委員を兼務）

奥沢・東玉川地区区民防災会議

1．委　員・・・町会代表、町会防災担当、消防団分団長、商店会代表、小・中学校長、小・中学校ＰＴＡ会長、民生・児童委員代表、日赤奥沢分団長、婦人会代表、高齢者クラブ代表、身近なまちづくり推進協議会代表、避難所運営委員

2．専門員・・・学識経験者

3．協力員・・・小・中学校副校長、地区内の防災活動に関心の深い区民

★災害時に備え、学校長と避難所運営委員会本部長で協議して対応を調整する。

奥沢小学校
避難所運営委員会
・本部長
・副本部長
・各班担当委員

東玉川小学校
避難所運営委員会
・本部長
・副本部長
・各班担当委員

なご
和みの学び舎

奥沢中学校
避難所運営委員会
・本部長
・副本部長
・各班担当委員

玉川消防署
奥沢出張所

玉川総合支所
地域振興課
奥沢まちづくりセンター

2　防災リーダーを育成するためには

防災会議の組織は、いわば器であり、大切なのは、その中身つまり人材です。災害時は、建物の倒壊、火災の発生、けが人の救助、避難行動など、大変な混乱の渦中にあります。このようなときには、地域住民に信頼されたリーダーの的確な指示が求められます。このようなリーダーの育成は、一朝一夕ではできませんが、防災リーダーは地域の要です。

（1）地域行事を通じて防災リーダーを育成していく【地域】

奥沢地区では、様々な地域行事（新春奥沢地区まつり、区民センター文化祭、盆踊り、駅前音楽祭、古布回収、防災訓練など）を活発に行っています。これらの行事を企画し、円滑に準備・運営できている背景には、多くのリーダーの存在があります。地域行事がリーダーを育成しているといっても過言ではありません。このようなリーダーは、災害時のような緊急事態に、地域をまとめていくノウハウを持っています。引き続き、様々な地域行事を活発に行うことで、防災リーダーの育成に取り組んでいきます。

（2）次世代のリーダーを育成していく方策をまちぐるみで検討します【地域】

（3）リーダーの判断力の向上をめざします【地域】

混乱した現場においては、リーダーは説得力のある説明が求められます。円滑に運営ができるように、専門的な研修などを受講することで、リーダーの能力を高めることを検討していきます。

3　自分でできる防災対策、家族でできる防災対策への取り組み

災害時に、まず行う行動として、家族などの安否確認があげられます。時間帯によっては、家族が離れ離れになっているため、連絡方法や集合する場所の確認を日ごろから行うことが求められます。

（1）安否確認の方法を家族で話し合っておく【家庭】

いざというときにあわてないように話し合っておきましょう。

4　地域の事業者の災害対策の働きかけ

地域の事業者も地域の一員であり、しっかりと災害対策を講じて、地域と協力して防災に取り組むことが求められています。

（1）帰宅困難者の対策

避難所のスペースや備蓄に限界があるため、地域の事業者、商店（小規模な店舗を含む）には従業員の帰宅困難者対策に取り組んでいただきたいと考えています。

- 地域の事業者、商店（小規模な店舗を含む）も帰宅困難などに備えて、必要な備蓄を求めます【地域の事業者】

  災害の程度によりますが、避難所の収容人数は充分とはいえません。そのため、地域の事業者には、建物の耐震化はもちろんのこと、従業員の帰宅困難に備えて、食料などの備蓄を望みます。

B　「お互いに顔のわかる助け合えるまちづくり」

1　地域行事を通して人と人とのつながりを育んでいきます

地域行事では、町会、学校、ＰＴＡ、商店会、消防団など様々な団体が協力して開催される場合が多く、人と人とのつながりが自然に作られていく絶好の機会でもあり、その機会を捉えて地区の絆を深めていきます。

《新春奥沢地区まつり》

町会、学校、ＰＴＡ、商店会、青少年地区委員会、身近なまちづくり推進協議会、ごみ減量・リサイクル推進委員会、地区民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、消防団、区民センター運営協議会、保護司会、地区社会福祉協議会、婦人会、少年野球チームなどの代表者で構成される運営委員と模擬店など５０を超える地域活動団体の代表者で構成される実行委員会は、地域の関係者が一堂に会する貴重な場で、お互いに顔のわかる関係づくりに貢献しています。

《その他の地域行事》

- 盆踊り
- 奥沢区民センター文化祭
- 中古衣料・古布の回収
- 駅前音楽祭
- 青少年奥沢地区委員会事業（飯ごう炊はん、親子バスハイク、音楽フェスティバル）
- 身近なまちづくり推進協議会事業（子育て支援事業、さぎ草展、歩こう会など）
- ごみ減量・リサイクル推進委員会事業（環境学習、リサイクル施設見学会、ごみ減量リサイクルステーションの運営など）

2　地域活動で育まれた人と人とのつながりを最大限に活かしていきます。

日ごろから町会をはじめ、様々な地域活動団体が地域の絆を深めるために、また高齢者の介護予防のために、バラエティに富んだ活動を行っています。その活動の中で生まれる人と人とのつながりは、災害時にとても役に立つ手がかりとなります。

- 町会の地域活動（グラウンドゴルフ、うたの会など）
- ふれあいルーム（健康体操、健康麻雀、料理の会、歌の会など）
- 高齢者クラブ
- 婦人会

3　地域・近所づきあいの大切さを見直し、いざというときに助け合えるように

災害が起きてしばらくの間は、行政も機能しないということが、阪神・淡路大震災のときに証明されています。その間、近所で、地域で助け合って乗り切らなければなりません。

もう一度、近所づきあいや地域のつながりの大切さを見直していくことが求められています。

（１）普段から近隣や地域で助け合える関係をつくる

現代は、近所づきあいが煩わしい、干渉されたくないといった考え方もあり、隣近所に

誰が住んでいるのかもわからないといった声が聞かれます。何事もなければ特に問題を感じないと思いますが、いざ震災が発生した、近所で凶悪犯罪が起きたなど、思いがけない災害や事件が起きたときには、やはり近所や地域で情報交換をしたり、助け合えたりする知り合いがいるだけで心強いと思います。

特に震災などの場合は、食料や生活用品をお互いに融通し合ったり、可能な範囲で助け合うことで、避難所に行かないですむかもしれません。

- 地域とのつながりをもう一度見直そう【家庭・個人】
  少しだけ地域に目を向けて地域のサークル活動に参加したり、ＰＴＡ活動に協力したり、町会の活動に参加するなど、地域とのつながりをもつことが災害を乗り越える最良の方法だと考えます。

（２）避難行動要支援者の支援

奥沢地区の両町会では、それぞれ方法が異なりますが、要支援者の見守りを行っています。

しかし、見守りのためには人員が必要です。支援をすることが可能な方々の協力が求められています。町会だけではなく、地域の様々なつながりが災害時の見守りにも発展・進化していくことも望まれます。

- **奥沢交和会の見守り【地域】**
  奥沢交和会では、区との協定に基づき、要支援者の名簿（希望者のみ）を保管し、１人の要支援者に対して原則２名の協力員（担当者）が配置され、見守りを行っています。

- **東玉川町会の見守り【地域】**
  東玉川町会では、ブロック単位で地区委員が決められており、担当制ではないが、ゆるやかな見守りを行っています。

C　「防災意識を高める」

1　避難所で生活する人をできるだけ少なくするために

（1）避難所の現状と課題

平成７年１月の阪神・淡路大震災を契機に、これまでに数々の避難所体験訓練を重ねてきました。その実践的な訓練を通して得られたものは、避難所開設のノウハウもありますが、一番の収穫は「避難所生活は極めて過酷である」ということに気づいたことです。狭いスペース、冷暖房がききづらいという問題、プライバシーの問題、トイレ、感染症、ペットの問題など挙げればきりがありません。避難所は地震があったときに、とりあえず行くところではなく、最終手段として行くということをより多くの方々に知っていただくことが必要です。住み慣れた自宅で、住み続けながら救援物資を待ち、復旧に向けた行動をしていくことが最善の方法です。

では、なぜ避難所で生活しなければならなくなってしまうのでしょうか。まず一番大きな原因は、家が倒壊した、半壊した、もしくは倒壊しそう、焼失したなどの家屋の問題です。次に家屋は大丈夫でも、家具の転倒、ガラスの飛散などで住める状態ではないといった内部の問題です。電気、ガス、水道などのライフラインが止まってしまったということも原因としてあるかもしれませんが、その場合には、学校の避難所も同じ状況です。また、余震がある中、不安で避難所に行きたいといった考えもあるでしょう。

（2）家屋をより安全に

阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震では、昭和５６年以前の旧耐震基準で作られた家屋の多くが全壊・半壊などの大きな被害を受けました。全壊・半壊の場合、命に関わる大問題となります。

- **耐震診断と耐震補強を行う【家庭・個人】**
  旧耐震基準で作られている家屋の場合は、各家庭（個人）の取り組みとして、耐震診断や耐震補強を真剣に検討すべきです。費用はかかりますが、命に関わる問題を解決するためにその取り組みが求められています。

- **耐震化の大切さをＰＲする【地域】**
  区民防災会議では、耐震の大切さを、防災訓練などで地域住民にＰＲし、まず関心をもってもらい、世田谷区の耐震支援なども紹介しながら、少しずつでも震災に強い家屋を増やし、震災に強いまちづくりにつなげていきます。

- **耐震化の助成制度のＰＲの強化【行政】**
  世田谷区では、耐震診断および耐震補強に支援を行っていますが、このことを知らない区民も多く見受けられるため、ＰＲの強化を要望します。

- **違法建築への対応【行政】**
  世田谷区の耐震支援には、旧耐震基準で建てられたものなどいくつかの条件があります

が、違法建築の場合、当然対象とはなりません。しかし、そのために耐震補強が進まず危険な建物が放置されてしまうという問題があります。区は違法建築への指導・是正に取り組むとともに、当面の安全性を確保するための方策を講じるよう要望します。

（３）家の中をより安全に

阪神・淡路大震災では、８８％の方が、建物倒壊や家具転倒による圧死が原因で亡くなっています。特に家具転倒については、すぐに取りかかれる解決策として有効です。

- **家の中の安全性を高める【家庭・個人】**
  各家庭（個人）での取り組みとして、寝室には、背の高い家具など転倒の可能性が高いものは置かず、転倒防止の器具を取り付けて、家の中の安全性を高めることが求められています。

- **家具転倒防止など家の中の安全性を高めることの大切さを周知する【地域】**
  区民防災会議としては、家具転倒防止の大切さについて、耐震補強と同様に、イベントなどでＰＲし、その重要性を地域に広めていきます。

- **区の家具転倒防止の支援制度のＰＲの強化【行政】**
  世田谷区に対しては、耐震支援と同様に、支援の充実とＰＲに力を入れるように要望します。

（４）食品や生活用品の備蓄をできるだけ多く、そして備蓄方法には工夫を

避難所に行けば、食料があり、しばらくは安心と考えている方がいらっしゃいます。しかし、学校の防災倉庫にある世田谷区の備蓄は、ビスケットとアルファ米がほぼ１日分しか備蓄されていません。飲料水に至っては、主にアルファ米用と粉ミルク用となっています。避難所に行っても、救援物資が届くまでの間は、あるもので対応せざるを得ないのが現実です。

また東京のような大都市で災害が起きた場合、多くの住民が被災者となり、またエリアも大変広く、前例のない事態に陥ります。救援物資が４日後に届く保障もありません。できるだけ多く、いろいろなものを工夫して各自で備蓄することが望まれます。

- **当面の生活ができるように、できるだけの備蓄をする【家庭・個人】**
  各家庭（個人）での取り組みとして、当面の生活ができるように、次の非常時持出品や非常備蓄品を参考にしながら、各家庭の状況に応じて備品リストを作成するなど必要なものを検討し、備蓄していくことが求められています。

- **食物アレルギーなど各人の置かれている状況に応じて備蓄する【家庭・個人】**
  救援物資に、食物アレルギー対応の食料はほとんど期待できないといえます。自分のために、しっかりと対応食を用意する必要があります。

- **ペットフードやペット用品を備蓄する【家庭・個人】**
  災害時には、ペットフードやペット用品は、なかなか入手できない状況になると思われます。飼い主として、できるだけの準備をしておく必要があります。

- **備蓄の大切さをＰＲします【地域】**
  区民防災会議としては、各家庭、個人による食料や生活用品の備蓄の大切さや避難所の備蓄の現実について、防災訓練や講演会など機会を捉えて地域住民に周知ＰＲしていきます。

非常時持出品（例示 ※各自の状況に応じて必要なものを準備してください）

災害が起こったときに持ち出すものを予め用意し、適切な場所に保管しましょう。

貴重品	現金、通帳、キャッシュカード、印鑑、権利証、保険証、免許証
非常食等	保存食、缶詰、飲料水、缶切り、割り箸
応急医療品	絆創膏、消毒薬、傷薬、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、風邪薬、常備薬
生活用品	衣類、靴、マッチ、ライター、ロウソク、ヘルメット、作業手袋、タオル、ティッシュ、ポリ袋、携帯トイレ、歯ブラシ、マスク
その他	ラジオ、携帯電話、充電器、懐中電灯、予備電池、ビニールシート
赤ちゃん	粉ミルク、哺乳瓶、ミルク用飲料水、おむつ、だっこひも、子どもの医療証、肌着、離乳食
お年寄りや障害のある方	常備薬、看護介護用品、入れ歯、眼鏡、杖
食物アレルギーのある方	対応食
ペットのいる家庭	ケージ、ペットフード、水、新聞紙、ペットシーツ、リード
あったら便利なもの	使い捨てカイロ、水のいらないシャンプー
枕元に	救助要請用の笛、スリッパ、靴

非常備蓄品（例示 ※各家庭の状況に応じて必要なものを準備してください）

災害復旧までの生活を自足するために、家族構成に合わせて準備します。

生活用水	風呂の汲み置き（トイレの排水用など）
非常用飲料	１人１日３リットル
非常用食料	レトルト食品、缶詰
生活用品	はし、スプーン、紙皿、ラップ、缶切り、カセットコンロ、ガスボンベ、毛布、洗面道具、救急箱、生理用品

（５）避難所についての知識を付ける（避難所・一時集合所・広域避難場所とは？）

家屋の倒壊などにより、避難所に行かざるを得ない場合もあります。また、救援物資が届く場所として一番可能性が高いのは、避難所といえます。日ごろから避難所がどこにあるのか確認しておくことはもちろん、一時（いっとき）集合所、広域避難場所も把握し、状況に応じた行動ができるようにしたいところです。

- **避難所等の地域住民への周知ＰＲ【地域】**
  災害時に避難を余儀なくされた場合に備えて、どこに避難したら良いのか、どこに行ったら救援物資が届くのかといったことを、普段から広く地域住民が知っていることが必要です。奥沢・東玉川地区区民防災会議では、住所地ごとの場所をわかりやすく確認できるマップを作成し、様々な場面で配布し、周知しています。[資料編 参照]

避難所（学校）

自宅での居住が困難な時、二次災害を受ける可能性がある時、一時的に生活をするための施設で、救援物資の配布場所としての機能もあります。

避難所（学校）	区域	町会組織
東玉川小学校	東玉川１丁目１～２７番	東玉川町会
	東玉川２丁目１～１８番	
	奥沢１丁目１～５番 奥沢１丁目１３～１６番	奥沢交和会
奥沢小学校	東玉川１丁目２８～４１番	東玉川町会
	東玉川２丁目１９～４１番	
	奥沢１丁目６～１２番 奥沢１丁目２２～２６番 奥沢１丁目３０～３７番 奥沢１丁目５０～５６番	奥沢交和会
	奥沢３丁目全域	
奥沢中学校	奥沢１丁目１７～２１番 奥沢１丁目２７～２９番 奥沢１丁目３８～４９番 奥沢１丁目５７～６５番	奥沢交和会
	奥沢２丁目全域	

一時（いっとき）集合所

危険回避のために一時的に集合して様子を見る場所。

一時集合所	所在地	備考
奥沢小学校	奥沢３－１－１	
東玉川小学校	奥沢１－１－１	
奥沢中学校	奥沢１－４２－１	
奥沢公園	奥沢１－１９－２	通称「タイヤ公園」
奥沢２丁目公園	奥沢２－３９－９	
東玉川神社	東玉川１－３２	
東玉川公園	東玉川１－３２－２	
東玉川第２公園	東玉川１－１９－１１	東玉川地区会館横
田園調布学園グラウンド	東玉川２－９－１	

広域避難場所

自宅や一時集合所が危険な状態になった時に避難する場所。

多摩川河川敷　　田園調布先一帯

- **ペットの飼い主はペットと一緒に避難するためには、日ごろからの備えと心構えが必要です【ペットの飼い主】**
  避難所はペットにとっても過酷な環境にあり、飼い主に求められている最も重要なことは、避難しなくても済むように備えることです。それでも避難せざるを得ない状況になってしまった場合は、一緒に避難することとなりますが、避難所では動物アレルギーの方や動物が苦手な方との共同生活となるため、人とペットはエリアを分けて生活せざるを得ないことを理解しなければなりません。
  また、飼い主は、日ごろから基本的なしつけをしておくことが求められます。「人や他の動物を怖がらない」「ケージに嫌がらずに入る」「トイレは決められたところでする」「むだ吠えしない」といった日ごろの備えが、災害時に大切なペットを救うことになります。

- **避難所の中で、ペット滞在スペースをどのように配置するのか検討します【地域】**
  ペット滞在スペースは、動物アレルギーの観点からは、人の滞在スペースからある程度の距離が必要です。その一方で、あまり遠くでは飼い主の管理に支障をきたすこともあり、よく検討して配置する必要があります。

- **ペット飼育は、飼い主が共同で行います【ペットの飼い主】**
  食料の調達、ペット滞在スペースの清掃など、ペットに関わる全てのことを、ペットの飼い主が責任をもって共同で行わなければなりません。また、避難所運営本部としっかりと連携していくために代表者を決めて会合に参加し、避難所における共同生活の視点から、意見・要望に真摯に対応していくことが求められています。

2　まちぐるみで防災知識を身に付ける【地域】

年に１回、防災訓練や避難所運営訓練を実施して地区の防災意識を高めるとともに、防災講演会で様々なテーマを取り上げて、一人ひとりの自助の大切さを訴えていきます。

3　火災を発生させないために【地域】

火災が発生した場合、平常時と異なり、行政による消火活動は期待できません。火を出さないように、一人ひとりの取り組みが大切であることをＰＲしていきます。具体的には、通電火災の現象の周知や感震ブレーカーの紹介など、電気による出火を事前に防ぐためのＰＲ活動なども進めます。

4　安否確認の方法を家族で話し合っておく【家庭】

災害時にまず行う行動として、家族などの安否確認があげられます。時間帯によっては、家族が離ればなれになっているため、連絡方法や集合する場所の確認を日ごろから行い、いざというときに慌てないように話し合っておきましょう。

D　「訓練はより実践的に」

1　体験型の防災訓練で実践的な防災力の向上をめざす

（1）定期的に体験型の防災訓練を実施

- **実際に避難所となる学校で、体験型の訓練を実施【地域】**

  年に１回、防災訓練を実施、地区の防災力の向上に努めています。防災訓練は、より多くの方々が参加できる体験型の訓練とし、初期消火訓練、D型ポンプ放水訓練、マンホールトイレの設置、避難所の開設、防災倉庫見学など、様々なメニューを実施しています。また、町会で用意したプロパンガスやガス炊飯器をはじめ、区の防災倉庫の物品などを地区内行事などにも積極的に活用して、炊き出しや避難所設営のスキルを高めます。

（2）避難所開設訓練の実施

- **避難所を開設する訓練の実施【地域】**

  年に１回、避難所開設訓練を実施し、手順等を確認しています。各学校の鍵保管者は、災害時にできるだけ速やかに参集し、学校施設を開錠し、避難所の開設に向けた準備を行います。なお、開錠の際には２名以上で行います。

  また、避難場所の調整や建物の安全確認、受付の設置が完了するまでは、避難所に避難者は入場させないようにします。

（3）避難所運営訓練

- **実際に災害が発生したと想定して行われる避難所運営訓練の実施【地域】**

  各避難所は「総務・情報担当」「避難所担当」「給食・物資担当」「救護・衛生担当」の４つの班で組織します。ただし、現場の実情にあわせて、臨機応変に体制を変更します。また、担当間の連携が必要な役割もあり、相互に協力しあって運営します。

  避難所運営は、当面はあらかじめ決められたメンバーが主導して、住民による運営体制をつくります。そのためにも日ごろから住民主導での訓練を積み重ねることで運営のノウハウあるいは住民との信頼関係を築き上げていきます。

  避難所運営委員は、人員が限られているため、時間の経過とともに、避難所内で民主的に新たなメンバーが選ばれたり、適任と思われる方々が加わったりと、人員の充実が必要になります。また、避難所という一時的に避難生活を共にする自治組織として運営するには、意見を伝えたり、まとめたりする仕組みをつくっていくことが必要です。

- **防災訓練の方法は、常に見直し改善していきます【地域】**

  時が経つとともに、社会情勢は変化し、今まで効果的だった訓練方法が形骸化することが考えられます。常に今置かれている状況を把握し、環境の変化に対応していくことが求められており、毎年見直しをして改善をしていきます。

2　実践的な訓練を可能にするための様々な取り組み

（1）地域独自の防災物品でより効率的な避難所運営をめざす

- **奥沢地区独自の防災物品【地域】**

  防災倉庫には、区が備蓄している様々な防災用品がありますが、それらに加えて、より効率的・効果的に防災活動ができうように、奥沢地区独自の防災物品を備蓄します。

プロパンガス ガス炊飯器	炊き出しを行う際、灯油バーナーでお湯を沸かしてアルファ米をつくるより、手軽にご飯を炊くことが可能となります。
六角バール	学校の校舎の鍵保管者が参集できなかった場合、学校に入るためには、サッシのガラス部分などを割って入ることも検討しなければなりません。極力割らないようにするために、バールでサッシをはずす目的で用意しました。

（2）炊き出しに必要な食料の確保

- **災害時の米・燃料供給に関する契約（協定）の締結【地域】**

  奥沢・東玉川地区区民防災会議（奥沢交和会・東玉川町会）は、災害時の地区住民の生活の安定と住民の安心を確保することを目的として、地区商店のご理解、ご協力を得て、避難所等での炊き出し用に、米・燃料を優先的に供給していただくため、各商店と供給契約（協定）を締結しました（平成２１年）。

業種	商店等名称	住所
米殻	奥沢原精米店	奥沢２丁目
米小売	渡辺米店	東玉川２丁目
コンビニ	Ｙショップ	奥沢１丁目

- **地区外も視野に入れた協定先の発掘【地域】**

  地区商店の状況が変化し、地区内だけでは食料等の確保が難しくなっています。これからは、隣接地区も視野に入れて協定先を検討し、地区の生活の安定に取り組みます。

3　日常的にも非常時にも活用できる設備の新設および改修

（1）日常的に利用でき、さらに非常時にも活用できる設備の新設【行政】

災害時の電源の確保は重要です。現状では、ガソリンエンジンの発電機とカセットコンロ用のボンベを燃料とする発電機（エネポ）を配備していますが、ガソリンは一定の量を超えて貯蔵することが難しく、カセットボンベも短時間しか使用できないという短所があります。また、非常時にしか使用しないため、エンジンオイル交換やメンテナンスの面でも問題を抱えています。

日常的に利用でき、さらに非常時にも活用できる設備として「太陽光発電」の導入を区に対して求めます。学校に設置することで、初期費用と保守点検費用は必要となりますが、日常的に発電した電気を利用することができます。また災害時や停電などの非常時にも、蓄電池と組み合わせることによって、安定した電源として利用できます。

（2）日常的に利用でき、さらに非常時にも活用できる設備改修【行政】

学校の校庭などで電気を使用する場合、現状では屋外コンセントが少なく、電源コードリールなどで延長しなければ利用できません。屋外コンセントの増設は、日常的に利用でき、さらに非常時にも活用できる設備として必要です。区に対して、屋外コンセントの増設を求めます。

4　過去の災害事例から学ぶ

これまでの災害で課題としてあがっていることについて、奥沢地区の事情にあわせてピックアップし、その課題を解決していく作業を行うことで、より実践的な訓練に磨きをかけていきます。

奥沢地区防災まちづくり『新・提言』資料編

これまでの取り組み

年月日		取組内容	備考
平成7年	1月	阪神・淡路大震災（1月17日）	
平成8年	3月	区「防災環境マップ」作成	
	5月	ミニコミ紙「わがまち」防災特集連載	～平成9年7月（計8回）
平成9年	3月	区「地域防災計画」改定（第31次）	
	8月	赤堤小学校避難所体験訓練見学	
	9月	避難所体験訓練①（区民実行委員会主催）	奥沢中学校
	9月	地区防災訓練	奥沢中学校
	11月	奥沢・九品仏合同防災研修会（身近まち主催）	県立厚木防災センター
	12月	防災シンポジウム	奥沢区民センター
平成10年	3月	「奥沢地区防災まちづくり提言」を区長に提出	
	3月	「奥沢・東玉川地区区民防災会議」設立	
	8月	区「防災街づくり基本方針」策定	
	8月	避難所体験訓練②	東玉川小学校
	11月	地区防災訓練	奥沢中学校
	12月	奥沢・九品仏合同防災研修会（身近まち主催）	立川防災館
平成11年	2月	まちづくりシンポジウム	奥沢区民センター
	3月	区「地域防災計画」改定（第32次）	
	3月	区「災害時区民行動マニュアル」策定	
	3月	区「災害時防災区民組織マニュアル」策定	
	8月	避難所のお知らせ全戸配布	
	10月	避難所体験訓練③	奥沢小学校
平成12年	2月	防災シンポジウム	奥沢区民センター
	2月	奥沢・九品仏合同防災研修会	東京消防庁向島消防署
	11月	地区防災訓練「防災のつどい」	奥沢中学校
平成13年	3月	奥沢・九品仏合同防災研修会	東京消防庁本署防災館
平成14年	3月	奥沢・九品仏合同防災研修会	墨田区一寺言問地区
	11月	避難所別基礎訓練	奥沢小・東玉川小・奥沢中
	11月	地区防災訓練「防災のつどい」	奥沢小学校
平成15年		玉川地域内小中学校に防災無線設置	
平成16年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	9月	防災カレッジ	奥沢区民センター
	9月	避難所別備蓄物品点検	奥沢小・東玉川小・奥沢中
	11月	地区防災訓練「防災のつどい」	東玉川小学校
平成17年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	東玉川小学校
	3月	地区内小中学校と防災無線定期交信訓練開始	
平成18年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢小学校
	2月	奥沢・東玉川地区合同講演会	奥沢区民センター
	11月	地区防災訓練「防災のつどい」	奥沢小学校
平成19年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	9月	避難所運営訓練	奥沢小・東玉川小・奥沢中
	10月	地区区民防災会議ニュースの発行	
平成20年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	東玉川小学校

年月日		取組内容	備考
	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	2・8月	地区区民防災会議ニュースの発行	
	12月	避難所運営訓練・防災訓練	奥沢小学校
平成21年	2月	講演会「高齢化社会における災害対策」	奥沢区民センター
	9月	奥沢小学校避難所体験	奥沢小学校
	10月	東玉川小学校避難所体験	東玉川小学校
	12月	災害時の米・燃料供給に関する契約（協定）の締結	
平成22年	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	9月	奥沢小学校避難所体験	奥沢小学校
	10月	東玉川小学校地域防災訓練	東玉川小学校
平成23年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	東玉川小学校
	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	3月	東日本大震災（3月11日）	
	11月	奥沢・東玉川地区防災訓練	奥沢小学校
平成24年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢小学校
	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	11月	奥沢・東玉川地区防災訓練	東玉川小学校
平成25年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	10月	奥沢・東玉川地区防災訓練	奥沢小学校
平成26年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	東玉川小学校
	2月	講演会「わが町の防災を考える」	奥沢区民センター
	12月	奥沢・東玉川地区防災訓練（避難所運営訓練）	東玉川小学校
平成27年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢小学校
	2月	奥沢防災塾「これでいいのか奥沢の防災」	奥沢区民センター
	7月～	奥沢地区防災まちづくり『提言』の見直し着手	月1回準備会実施（全9回）
	12月	奥沢・東玉川地区防災訓練（避難所運営訓練）	奥沢小学校
平成28年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	2月	奥沢防災塾（新提言の中間発表）	奥沢区民センター
	5月	奥沢地区防災まちづくり『新・提言』策定	HP掲載・窓口配布
	5月	奥沢地区防災まちづくり『新・提言（概要版）』策定	全戸配布
	12月	奥沢・東玉川地区防災訓練（避難所運営訓練）	東玉川小学校
平成29年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	東玉川小学校
	2月	奥沢防災塾「これからの奥沢地区の防災を考える」	奥沢区民センター
	12月	ぼうさいフェスタ2017	奥沢小学校
平成30年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢小学校
	2月	奥沢防災塾「できることからこつこつと」	奥沢区民センター
	12月	ぼうさいフェスタ2018	東玉川小学校
平成31年（令和元年）	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	2月	講演会「災害時の避難に備える」（防災塾）	奥沢区民センター
	9月・11月	避難所運営訓練・防災訓練	奥沢小・東玉川小・奥沢中
	11月	講演会「避難所運営の実情と課題」	奥沢区民センター
令和2年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
	11月	講演会「コロナ禍の避難所運営の実情と課題」（防災塾）	奥沢まちづくりセンター
令和4年	2月	講演会「在宅避難生活の備え～災害時、自宅で乗り切るために～」（防災塾）	奥沢まちづくりセンター

年月日		取組内容	備考
	12月	講演会「在宅避難生活の備え～災害時、自宅で乗り切るために～2022」(防災塾)	奥沢区民センター
令和5年	1月	新春奥沢地区まつりでの防災啓発活動	奥沢中学校
令和6年	2月	講演会「在宅避難はなぜ必要なのか！？」	奥沢まちづくりセンター

知っていますか？あなたの避難所

2006

奥沢1丁目17～21、27～29
38～49、57～65番
奥沢2丁目全域
にお住まいの方

東玉川1丁目
28～41番
東玉川2丁目
19～41番
奥沢1丁目6～12、
22～26、
30～37、
50～56番
奥沢3丁目全域
にお住まいの方

東玉川1丁目1～27番
東玉川2丁目1～18番
奥沢1丁目1～5、13～16番
にお住まいの方